

新 蔵 遺 跡

—地域・国際交流プラザ地点—

第Ⅱ分冊 —本文2・図版—

2 0 1 5

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

目 次

(第I分冊—本文1—)

第1章 調査の概要	中原 計	1
第1節 調査に至る経緯と目的		1
1. 調査経緯		1
2. 調査の目的と方法		1
第2節 調査の経過		2
第3節 調査体制		4
第2章 遺跡の立地と環境		5
第1節 地理的・歴史的環境		5
第2節 調査区の屋敷地変遷		5
第3章 調査成果		17
第1節 基本層序	端野晋平	17
第2節 遺 構	中原 計・端野晋平	17
1. 第3遺構面		17
2. 第2遺構面		29
3. 第1遺構面		82
第3節 遺 物		106
1. 陶磁器・土器・土製品	中原 計・安山かおり	106

(第II分冊—本文2・図版—)【本書】

2. 金属製品	中原 計	343
3. ガラス製品		362
4. 瓦		363
5. 石製品		400
6. 木製品		420
7. 漆製品		512
8. 銭 貨	端野晋平	535
第4節 動物遺存体・骨角製品	丸山真史・中原 計	538
1. 概 要		538
2. 脊椎動物・骨角製品		538
3. 軟体動物—貝類—		551
4. 刺胞動物—サンゴ—		554

第4章 総括	中原 計	555
第1節 調査区における屋敷境の変遷		555
1. 第3遺構面		555
2. 第2遺構面		555
3. 第1遺構面		555
第2節 他の調査区における屋敷境		556
1. 徳島地区		556
2. 常三島地区		556
第3節 新蔵遺跡における屋敷境とその意義		556
第4節 近世以前の遺物の出土		557

挿図目次

第359図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土金属製品(1)……………	344	第396図	石組み溝8(遺物溜り10)出土金属製品 ……	357
第360図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土金属製品(2)……………	345	第397図	石組み溝8(遺物溜り15)出土金属製品 ……	358
第361図	SD101出土金属製品……………	345	第398図	遺物溜り12出土金属製品 ……	358
第362図	屋敷境 SD48・SD136・SD161・SD166北・ 遺物溜り25出土金属製品 ……	346	第399図	蜂須賀家屋敷地内 SK15出土金属製品 ……	359
第363図	屋敷境 SD159出土金属製品……………	346	第400図	蜂須賀家屋敷地内 SK16出土金属製品 ……	359
第364図	片山家屋敷地内 SD24出土金属製品 ……	347	第401図	片山家屋敷地内 SK29出土金属製品 ……	360
第365図	片山家屋敷地内 SK26出土金属製品 ……	347	第402図	片山家屋敷地内 SK73出土金属製品 ……	360
第366図	片山家屋敷地内 SK39出土金属製品 ……	348	第403図	片山家屋敷地内 SK135出土金属製品…………	360
第367図	片山家屋敷地内 SD91出土金属製品 ……	348	第404図	SK03出土金属製品 ……	361
第368図	片山家屋敷地内 SD106出土金属製品…………	348	第405図	SK04出土金属製品 ……	361
第369図	片山家屋敷地内 SK156出土金属製品…………	349	第406図	SD06出土金属製品 ……	361
第370図	片山家屋敷地内 SD157出土金属製品…………	349	第407図	包含層出土金属製品 ……	361
第371図	片山家屋敷地内 SK164出土金属製品…………	349	第408図	太田家屋敷地内 SK78出土ガラス製品 ……	362
第372図	片山家屋敷地内 SD166出土金属製品…………	349	第409図	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層 出土ガラス製品 ……	362
第373図	片山家屋敷地内 SK186出土金属製品…………	349	第410図	池状遺構(第1遺構面)出土ガラス製品 ……	362
第374図	安富家屋敷地内 SK98出土金属製品 ……	350	第411図	石組み溝3出土ガラス製品……………	362
第375図	安富家屋敷地内 SD182出土金属製品…………	350	第412図	石組み溝9(遺物溜り9)出土ガラス製品 ……	362
第376図	太田家屋敷地内 SK45出土金属製品 ……	350	第413図	蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17 出土ガラス製品 ……	362
第377図	太田家屋敷地内 SP52出土金属製品 ……	350	第414図	片山家屋敷地内 SK73出土ガラス製品 ……	363
第378図	太田家屋敷地内 SK71出土金属製品 ……	350	第415図	包含層出土ガラス製品 ……	363
第379図	太田家屋敷地内 SK78出土金属製品 ……	351	第416図	攪乱出土ガラス製品 ……	363
第380図	太田家屋敷地内 SK79出土金属製品 ……	351	第417図	屋敷境 SD48・SD136・SD166北出土瓦 ……	364
第381図	太田家屋敷地内 SK103出土金属製品…………	351	第418図	片山家屋敷地内 SD24出土瓦 ……	364
第382図	太田家屋敷地内 SK112出土金属製品…………	351	第419図	片山家屋敷地内 SK26出土瓦 ……	364
第383図	太田家屋敷地内 SK121出土金属製品…………	351	第420図	片山家屋敷地内 SD91出土瓦 ……	364
第384図	太田家屋敷地内 SK147出土金属製品…………	351	第421図	片山家屋敷地内 SK148出土瓦……………	364
第385図	太田家屋敷地内 SK176出土金属製品…………	351	第422図	片山家屋敷地内 SK156出土瓦……………	365
第386図	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層 出土金属製品 ……	352	第423図	片山家屋敷地内 SD157出土瓦……………	366
第387図	池状遺構(第1遺構面)出土金属製品(1) ……	353	第424図	片山家屋敷地内 SK164出土瓦(1) ……	367
第388図	池状遺構(第1遺構面)出土金属製品(2) ……	354	第425図	片山家屋敷地内 SK164出土瓦(2) ……	368
第389図	池状遺構 造り出し出土金属製品 ……	354	第426図	片山家屋敷地内 SK164出土瓦(3) ……	369
第390図	石組み溝1出土金属製品……………	355	第427図	片山家屋敷地内 SK186出土瓦……………	370
第391図	石組み溝2出土金属製品……………	355	第428図	安富家屋敷地内 SD182出土瓦……………	370
第392図	石組み溝3出土金属製品……………	356	第429図	太田家屋敷地内 SK45出土瓦 ……	370
第393図	石組み溝5出土金属製品……………	357	第430図	太田家屋敷地内 SK47出土瓦 ……	370
第394図	石組み溝8(SD23)出土金属製品 ……	357	第431図	太田家屋敷地内 SK71出土瓦 ……	370
第395図	石組み溝8(遺物溜り4)出土金属製品 ……	357	第432図	太田家屋敷地内 SK79出土瓦 ……	371
			第433図	太田家屋敷地内 SK112出土瓦……………	371
			第434図	太田家屋敷地内 SK172出土瓦……………	371

第435図	太田家屋敷地内 SK176出土瓦……………	372	第477図	屋敷境 SD48・SD161・遺物溜り25 出土石製品……………	402
第436図	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層 出土瓦……………	372	第478図	屋敷境 SD159出土石製品……………	402
第437図	池状遺構(第1遺構面)出土瓦(1)……………	373	第479図	片山家屋敷地内 SD24出土石製品……………	403
第438図	池状遺構(第1遺構面)出土瓦(2)……………	374	第480図	片山家屋敷地内 SK26出土石製品……………	404
第439図	池状遺構(第1遺構面)出土瓦(3)……………	375	第481図	片山家屋敷地内 SK39出土石製品……………	404
第440図	池状遺構(第1遺構面)出土瓦(4)……………	376	第482図	片山家屋敷地内 SD106出土石製品……………	404
第441図	池状遺構(第1遺構面)出土瓦(5)……………	377	第483図	片山家屋敷地内 SK156出土石製品……………	405
第442図	石組み溝2出土瓦……………	378	第484図	片山家屋敷地内 SD157出土石製品……………	405
第443図	石組み溝3出土瓦……………	378	第485図	片山家屋敷地内 SK164出土石製品……………	405
第444図	石組み溝5出土瓦……………	379	第486図	片山家屋敷地内 SK186出土石製品……………	406
第445図	石組み溝8(SD23)出土瓦……………	380	第487図	安富家屋敷地内 SD182出土石製品……………	406
第446図	石組み溝8(遺物溜り4)出土瓦……………	380	第488図	太田家屋敷地内 SK71出土石製品……………	406
第447図	石組み溝8(遺物溜り10)出土瓦……………	380	第489図	太田家屋敷地内 SK81出土石製品……………	406
第448図	石組み溝8(遺物溜り15)出土瓦……………	380	第490図	太田家屋敷地内 SK113出土石製品……………	406
第449図	石組み溝9(遺物溜り9)出土瓦……………	380	第491図	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層 出土石製品……………	406
第450図	蜂須賀家屋敷地内 SK15出土瓦……………	380	第492図	池状遺構(第1遺構面)出土石製品(1)……………	408
第451図	蜂須賀家屋敷地内 SK16出土瓦……………	380	第493図	池状遺構(第1遺構面)出土石製品(2)……………	409
第452図	蜂須賀家屋敷地内 SK17出土瓦……………	381	第494図	池状遺構(第1遺構面)出土石製品(3)……………	410
第453図	蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17出土瓦……………	381	第495図	池状遺構(第1遺構面)出土石製品(4)……………	411
第454図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(1)……………	382	第496図	石組み溝1出土石製品……………	412
第455図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(2)……………	383	第497図	石組み溝3出土石製品……………	412
第456図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(3)……………	384	第498図	石組み溝5出土石製品……………	413
第457図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(4)……………	385	第499図	石組み溝8(SD23・遺物溜り4・遺物溜り10) 出土石製品……………	413
第458図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(5)……………	386	第500図	石組み溝9(遺物溜り3)出土石製品……………	414
第459図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(6)……………	387	第501図	蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17 出土石製品……………	415
第460図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(7)……………	388	第502図	片山家屋敷地内 SK134出土石製品……………	416
第461図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(8)……………	389	第503図	片山家屋敷地内 SK135出土石製品……………	416
第462図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(9)……………	390	第504図	片山家屋敷地内 SK137出土石製品……………	416
第463図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(10)……………	391	第505図	包含層出土石製品(1)……………	417
第464図	片山家屋敷地内 SD22出土瓦(11)……………	392	第506図	包含層出土石製品(2)……………	418
第465図	片山家屋敷地内 SK29出土瓦……………	393	第507図	包含層出土石製品(3)……………	419
第466図	片山家屋敷地内 SK60出土瓦……………	393	第508図	攪乱出土石製品……………	420
第467図	片山家屋敷地内 SK73出土瓦(1)……………	394	第509図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(1)……………	423
第468図	片山家屋敷地内 SK73出土瓦(2)……………	395	第510図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(2)……………	424
第469図	片山家屋敷地内 SK135出土瓦……………	396	第511図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(3)……………	425
第470図	SD06出土瓦……………	396	第512図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(4)……………	426
第471図	包含層出土瓦(1)……………	396			
第472図	包含層出土瓦(2)……………	397			
第473図	包含層出土瓦(3)……………	398			
第474図	攪乱出土瓦……………	399			
第475図	池状遺構(第2・第3遺構面)出土石製品……………	401			
第476図	SD101出土石製品……………	402			

第513図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(5)……………	427	第535図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(27)……………	449
第514図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(6)……………	428	第536図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(28)……………	450
第515図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(7)……………	429	第537図	屋敷境 SD48出土木製品(1)……………	452
第516図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(8)……………	430	第538図	屋敷境 SD48出土木製品(2)……………	453
第517図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(9)……………	431	第539図	屋敷境 SD48出土木製品(3)……………	454
第518図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(10)……………	432	第540図	屋敷境 SD136出土木製品……………	454
第519図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(11)……………	433	第541図	片山家屋敷地内 SK156出土木製品(1) ……	455
第520図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(12)……………	434	第542図	片山家屋敷地内 SK156出土木製品(2) ……	456
第521図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(13)……………	435	第543図	片山家屋敷地内 SK156出土木製品(3) ……	457
第522図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(14)……………	436	第544図	片山家屋敷地内 SK156出土木製品(4) ……	458
第523図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(15)……………	437	第545図	片山家屋敷地内 SK186出土木製品……………	459
第524図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(16)……………	438	第546図	片山家屋敷地内 SK187出土木製品……………	460
第525図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(17)……………	439	第547図	太田家屋敷地内 SK45出土木製品……………	461
第526図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(18)……………	440	第548図	太田家屋敷地内 SP115出土木製品……………	462
第527図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(19)……………	441	第549図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(1) ……	464
第528図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(20)……………	442	第550図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(2) ……	465
第529図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(21)……………	443	第551図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(3) ……	466
第530図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(22)……………	444	第552図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(4) ……	467
第531図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(23)……………	445	第553図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(5) ……	468
第532図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(24)……………	446	第554図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(6) ……	469
第533図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(25)……………	447	第555図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(7) ……	470
第534図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土木製品(26)……………	448	第556図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(8) ……	471
			第557図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(9) ……	472
			第558図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(10) ……	473
			第559図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(11) ……	474
			第560図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(12) ……	475
			第561図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(13) ……	476
			第562図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(14) ……	477
			第563図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(15) ……	478
			第564図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(16) ……	479
			第565図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(17) ……	480
			第566図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(18) ……	481
			第567図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(19) ……	482
			第568図	池状遺構(第1遺構面)出土木製品(20) ……	483
			第569図	石組み溝3出土木製品……………	485
			第570図	石組み溝5出土木製品(1)……………	486
			第571図	石組み溝5出土木製品(2)……………	487
			第572図	蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17 出土木製品……………	488
			第573図	片山家屋敷地内 SE25出土木製品……………	488
			第574図	片山家屋敷地内 SK73出土木製品(1)……………	489
			第575図	片山家屋敷地内 SK73出土木製品(2)……………	490

第576図	包含層出土木製品(1)……………	492	第600図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(6)……………	518
第577図	包含層出土木製品(2)……………	493	第601図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(7)……………	519
第578図	包含層出土木製品(3)……………	494	第602図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(8)……………	520
第579図	包含層出土木製品(4)……………	495	第603図	片山家屋敷地内 SK156出土漆製品……………	522
第580図	包含層出土木製品(5)……………	496	第604図	片山家屋敷地内 SK186出土漆製品……………	522
第581図	包含層出土木製品(6)……………	497	第605図	片山家屋敷地内 SK187出土漆製品……………	522
第582図	包含層出土木製品(7)……………	498	第606図	太田家屋敷地内 SK45出土漆製品……………	522
第583図	包含層出土木製品(8)……………	499	第607図	池状遺構(第1遺構面)出土漆製品(1)……………	523
第584図	包含層出土木製品(9)……………	500	第608図	池状遺構(第1遺構面)出土漆製品(2)……………	524
第585図	包含層出土木製品(10)……………	501	第609図	石組み溝3出土漆製品……………	524
第586図	包含層出土木製品(11)……………	502	第610図	石組み溝5出土漆製品……………	525
第587図	包含層出土木製品(12)……………	503	第611図	蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17 出土漆製品……………	526
第588図	包含層出土木製品(13)……………	504	第612図	包含層出土漆製品(1)……………	527
第589図	包含層出土木製品(14)……………	505	第613図	包含層出土漆製品(2)……………	528
第590図	攪乱出土木製品(1)……………	507	第614図	包含層出土漆製品(3)……………	529
第591図	攪乱出土木製品(2)……………	508	第615図	包含層出土漆製品(4)……………	530
第592図	攪乱出土木製品(3)……………	509	第616図	包含層出土漆製品(5)……………	531
第593図	攪乱出土木製品(4)……………	510	第617図	包含層出土漆製品(6)……………	532
第594図	攪乱出土木製品(5)……………	511	第618図	包含層出土漆製品(7)……………	533
第595図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(1)……………	513	第619図	攪乱出土漆製品……………	534
第596図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(2)……………	514	第620図	銭貨の計測項目……………	535
第597図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(3)……………	515	第621図	骨角製品……………	545
第598図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(4)……………	516	第622図	魚類組成……………	547
第599図	池状遺構(第2・第3遺構面) 出土漆製品(5)……………	517	第623図	鳥類組成……………	547
			第624図	哺乳類組成……………	547

表目次

第1表	銭貨のデータ一覧表(1)……………	536	第12表	軟体動物の種名表……………	552
第2表	銭貨のデータ一覧表(2)……………	537	第13表	サザエの殻長(17世紀)……………	552
第3表	動物遺存体出土地点の時期……………	538	第14表	サザエの殻長(18世紀)……………	552
第4表	脊椎動物遺存体の種名表……………	539	第15表	アカニシの殻長(17世紀)……………	552
第5表	イヌ下顎骨計測値……………	544	第16表	ハマグリの殻長(17世紀)……………	552
第6表	ネコ下顎骨計測値……………	544	第17表	ハマグリの殻長(18世紀)……………	552
第7表	イヌ四肢骨計測値……………	544	第18表	マシジミの殻長(19世紀)……………	552
第8表	ウシの臼歯一覧と計測値……………	545	第19表	出土貝類集計表(1)……………	553
第9表	脊椎動物遺存体集計表(1)……………	549	第20表	出土貝類集計表(2)……………	553
第10表	脊椎動物遺存体集計表(2)……………	550	第21表	出土貝類集計表(3)……………	553
第11表	脊椎動物遺存体集計表(3)……………	551			

図版目次

- 図版 1 1～8.4ラインベルト土層断面①～⑧
- 図版 2 1～8.4ラインベルト土層断面⑨～⑯
- 図版 3 1～10.5ラインベルト土層断面①～⑩
- 図版 4 1～7.10ラインベルト土層断面①～⑦
- 図版 5 1～3. 池状遺構(第2・第3遺構面)北壁断面
- 図版 6 1. SD185検出状況及び竹列
2. SD185完掘状況
3. SD185竹列
4. SD101断面
- 図版 7 1・2. 第2遺構面完掘状況(全景)①、②
- 図版 8 1～5. SD48断面①～⑤
6. SD136断面東
7. SD136断面西
8. SD136完掘状況
- 図版 9 1. SD120断面
2. SD120完掘状況
3. SD158(右)・SD159(左)断面
4. SD158(左)・SD159(右)完掘状況
5. SD161断面 a
6. SD161断面 b-1
7. SD161断面 b-2
8. SD161断面 c
- 図版10 1. SD161完掘状況
2. SD166北 南北断面
3. SD166北 東西断面①
4. SD166北 東西断面②
5. SD166北掘り下げ状況
6. SK26断面
7. SK26完掘状況
- 図版11 1. SD24完掘状況
2. SK26遺物出土状況 肥前系磁器染付芙蓉
手花鳥文大皿
3. SE43遺物出土状況
4. SK39断面
5. SK39完掘状況
6. SK41断面
7. SK41完掘状況
- 図版12 1. SK42断面
2. SK42完掘状況
3. SK55断面
4. SK55完掘状況
5. SD91断面
6. SD91完掘状況
7. SD106断面
- 図版13 1. SK132石列出土状況
2. SK132断面
3. SK107礫検出状況
4. SK148完掘状況
5. SK156掘り下げ状況
6. SK156東西断面
7. SK156南北断面
8. SK156完掘状況
- 図版14 1. SK164断面①
2. SK164断面②
3. SK164完掘状況
4. SD166南断面
5. SD166南完掘状況
6. SK186断面①
7. SK186断面②
- 図版15 1. SK98断面
2. SK98(右) SK110(中) SK111(左)断面
3. SK109完掘状況
4. SK110完掘状況
5. SK111完掘状況
6. SD182東ベルト断面
7. SD182西ベルト断面
8. SD182完掘状況
- 図版16 1. SK44断面
2. SK44完掘状況
3. SK45断面
4. SK45完掘状況
5. SK47断面
6. SK47完掘状況
7. SK51断面
8. SK51完掘状況
- 図版17 1. SK71断面
2. SK71完掘状況
3. SK78断面①
4. SK78断面③
5. SK78断面②
6. SK78断面④
7. SK78完掘状況

8. SK79断面
- 図版18 1. SK79掘り下げ
2. SK79遺物出土状況
3. SK79完掘状況
4. SK89断面
5. SK80断面
6. SK80完掘状況
7. SK81断面①
8. SK81断面②
- 図版19 1. SK81断面④
2. SK81断面③
3. SK83断面
4. SK83礫出土状況①
5. SK83礫出土状況②
6. SK104断面
7. SD100断面
8. SD100完掘状況
- 図版20 1. SK112断面
2. SK112完掘状況
3. SK121断面
4. SK121完掘状況
5. SK167断面
6. SK167完掘状況
7. SK184断面
- 図版21 1. 池状遺構(第1遺構面)埋土最上層検出状況
2. 池状遺構(第1遺構面)検出状況
- 図版22 1. 池状遺構(第1遺構面)掘り下げ状況
- 図版23 1. 池状遺構(第1遺構面)石組み検出状況
2. 池状遺構(第1遺構面)北側①
3. 池状遺構(第1遺構面)北側②
4. 池状遺構(第1遺構面)北側③
5. 池状遺構(第1遺構面)北側④
- 図版24 1. 池状遺構(第1遺構面)石組み検出状況
北西
2. 池状遺構(第1遺構面)石組み検出状況
西側①
3. 池状遺構(第1遺構面)石組み検出状況
西側②
4. 池状遺構(第1遺構面)石組み検出状況
西側③
5. 池状遺構(第1遺構面)杭列3 南側①
6. 池状遺構(第1遺構面)杭列3 南側②
7. 池状遺構(第1遺構面)土留め杭列1 南側①
8. 池状遺構(第1遺構面)土留め杭列1 南側②
- 図版25 1. 池状遺構(第1遺構面)内中島検出状況
2. 池状遺構(第1遺構面)内中島検出状況
北側
3. 池状遺構(第1遺構面)内中島検出状況
東側
4. 池状遺構(第1遺構面)内中島検出状況
西側
5. 池状遺構(第1遺構面)内中島検出状況
南側
- 図版26 1. 池状遺構(第1遺構面)東側と石組み溝1
2. 池状遺構(第1遺構面)杭列 東側
3. 池状遺構(第1遺構面)内中島・造り出しと
石組み溝1
4. 造り出し 北側
5. 造り出し 西側
- 図版27 1. 造り出し 南側
2. 造り出し 南側下部
3. 造り出し北半分上部石組み撤去後 北側
4. 造り出し北半分上部石組み撤去後 西側
5. 造り出し内部掘り下げ粘土貼り状況
6. 造り出し内部掘り下げ粘土貼り状況 断面
7. 造り出し断ち割り南北断面
8. 造り出し断ち割り東西断面
- 図版28 1. 造り出し 北側下部
2. 造り出し最下部杭群検出状況
3. 造り出し北側最下部杭群検出状況①
4. 造り出し北側最下部杭群検出状況②
5. 池状遺構(第1遺構面)及び石組み溝群
検出状況
- 図版29 1. 石組み溝1・2検出状況
2. 石組み溝1北側石組み検出状況①
3. 石組み溝1北側石組み検出状況②
4. 石組み溝1北側石組み検出状況③
5. 石組み溝1北側石組み検出状況④
6. 石組み溝1北側石組み検出状況⑤
7. 石組み溝1北側石組み検出状況⑥
- 図版30 1. 石組み溝1北側石組み検出状況⑦
2. 石組み溝1北側石組み検出状況⑧
3. 石組み溝1北側石組み検出状況⑨
4. 石組み溝1北側石組み検出状況⑩
5. 石組み溝1北側石組み検出状況⑪
6. 石組み溝1北側石組み検出状況⑫
7. 石組み溝1北側石組み検出状況⑬
8. 石組み溝1北側石組み検出状況⑭

9. 石組み溝1南側石組み検出状況①
 10. 石組み溝1南側石組み検出状況②
- 図版31 1. 石組み溝1南側石組み検出状況③
 2. 石組み溝1南側石組み検出状況④
 3. 石組み溝1南側石組み検出状況⑤
 4. 石組み溝1南側石組み検出状況⑥
 5. 石組み溝1南側石組み検出状況⑦
 6. 石組み溝1南側石組み検出状況⑧
 7. 石組み溝1南側石組み検出状況⑨
 8. 石組み溝1南側石組み検出状況⑩
 9. 石組み溝1南側石組み検出状況⑪
 10. 石組み溝1南側石組み検出状況⑫
- 図版32 1. 石組み溝1断ち割り断面1
 2. 石組み溝1断ち割り断面2
 3. 石組み溝1断ち割り断面3
 4. 石組み溝2北側石組み検出状況①
 5. 石組み溝2北側石組み検出状況②
 6. 石組み溝2北側石組み検出状況③
 7. 石組み溝2北側石組み検出状況④
 8. 石組み溝2北側石組み検出状況⑤
 9. 石組み溝2北側石組み検出状況⑥
 10. 石組み溝2北側石組み検出状況⑦
- 図版33 1. 石組み溝2北側石組み検出状況⑧
 2. 石組み溝2北側石組み検出状況⑨
 3. 石組み溝2南側石組み検出状況①
 4. 石組み溝2南側石組み検出状況②
 5. 石組み溝2南側石組み検出状況③
 6. 石組み溝2南側石組み検出状況④
 7. 石組み溝2南側石組み検出状況⑤
 8. 石組み溝2南側石組み検出状況⑥
 9. 石組み溝2南側石組み検出状況⑦
 10. 石組み溝2南側石組み検出状況⑧
- 図版34 1. 石組み溝2南側石組み検出状況⑨
 2. 石組み溝2南側石組み検出状況⑩
 3. 石組み溝2分岐部分北側石組み検出状況
 4. 石組み溝2分岐部分南側石組み検出状況
 5. 石組み溝2断ち割り断面1
 6. 石組み溝2断ち割り断面2
 7. 石組み溝9(遺物溜り3) 遺物出土状況
 8. 石組み溝8(遺物溜り4) 遺物出土状況
- 図版35 1. 石組み溝9(遺物溜り7・8) 遺物出土状況
 2. 石組み溝8(遺物溜り10)
 石組み溝9(遺物溜り7～9) 遺物出土状況
 3. 石組み溝9(遺物溜り9) 遺物出土状況

4. 石組み溝8(遺物溜り10) 遺物出土状況
 5. 石組み溝3～9検出状況
- 図版36 1. 石組み溝3～9検出状況
 2. 石組み溝5～8検出状況
 3. 石組み溝5・7検出状況
 4. 石組み溝3・7・8検出状況①
 5. 石組み溝3・7・8検出状況②
 6. 石組み溝3検出状況 西から
 7. 石組み溝3検出状況 南から
- 図版37 1. 石組み溝3検出状況①
 2. 石組み溝3検出状況②
 3. 石組み溝3検出状況③
 4. 石組み溝3掘り下げ石組み検出状況①
 (崩落部)
 5. 石組み溝3掘り下げ石組み検出状況②
 (崩落部)
 6. 石組み溝3掘り下げ石組み検出状況③
 (崩落部)
 7. 石組み溝3掘り下げ石組み検出状況④
 8. 石組み溝3掘り下げ石組み検出状況⑤
- 図版38 1. 石組み溝4石組み検出状況①
 2. 石組み溝4石組み検出状況②
 3. 石組み溝4石組み検出状況(東側)
 4. 石組み溝4石組み検出状況(西側)
 5. 石組み溝5石組み溝内掘り下げ検出状況①
 6. 石組み溝5石組み溝内掘り下げ検出状況②
 7. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ①
 8. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ②
- 図版39 1. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ③
 2. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ④
 3. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ⑤
 4. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ⑥
 及び播鉢出土状況
 5. 石組み溝5石組み検出状況(北側) ⑦
 6. 石組み溝5石組み検出状況(南側)
 7. 石組み溝6石組み検出状況
 8. 石組み溝6石組み検出状況(東側)
- 図版40 1. 石組み溝6石組み検出状況(西側) ①
 2. 石組み溝6石組み検出状況(西側) ②
 3. 石組み溝3・5・7・8検出状況
 4. 石組み溝3・7・8検出状況
 5. 石組み溝5・7・8検出状況
- 図版41 1. 石組み溝7石組み検出状況①
 2. 石組み溝7石組み検出状況②

- 3. 石組み溝7石組み検出状況③
- 4. 石組み溝7石組み検出状況④
- 5. 石組み溝7石組み検出状況⑤
- 6. 石組み溝8検出状況
- 7. 石組み溝3・7・8検出状況
- 図版42 1. 石組み溝8検出状況(南側)①
- 2. 石組み溝8検出状況(南側)②
- 3. 石組み溝9石組み検出状況①
- 4. 石組み溝9石組み検出状況②
- 5. 石組み溝9石組み検出状況③
- 6. 石組み溝9石組み検出状況④
- 7. SX02検出状況
- 8. SK10検出状況
- 図版43 1. SK13～16・19完掘状況
- 2. 遺物溜り17漆製品出土状況
- 3. 遺物溜り17木製品出土状況①
- 4. 遺物溜り17木製品出土状況②
- 5. SE25断面
- 6. SE25掘り下げ状況
- 7. SK28断面
- 8. SK29断面
- 図版44 1. SK60断面
- 2. SK60完掘状況
- 3. SK73断面
- 4. SK73完掘状況
- 5. SK116断面①
- 6. SK116断面②
- 7. SK116完掘状況
- 8. SK134断面
- 図版45 1. SK135断面
- 2. SK135完掘状況
- 3. SK135土師皿出土状況
- 4. SK135漆製品出土状況
- 5. SK137断面
- 6. SK137完掘状況
- 7. SD22遺物出土状況
- 図版46 1. 遺物溜り16遺物出土状況
- 2. 遺物溜り1遺物出土状況
- 3. SP30～38 柱穴列 完掘状況
- 図版47 瓦 刻印部分(1)
- 図版48 瓦 刻印部分(2)
- 図版49 瓦 刻印部分(3)
- 図版50 錢貨(1)
- 図版51 錢貨(2)
- 図版52 錢貨(3)
- 図版53 錢貨(4)
- 図版54 貝類
- 図版55 種子類
- 図版56 植物繊維製品
不明製品
- 図版57 魚類
- 図版58 鳥類
- 図版59 小型哺乳類
- 図版60 ニホンジカ
- 図版61 ウシ・ウマ
- 図版62 骨角製品

2. 金属製品

第3 遺構面

池状遺構（第359・360図）

1～5はキセルの雁首である。6はキセルの吸い口である。7は筒状の銅製品である。刃物の柄金具と考えられる。8は銅製の十能である。9は銅製の小皿である。10は襖の引手である。彫金による文様が施されている。11は小柄である。刃部は鉄製で、柄は銅製である。柄には彫金による文様（波文の地に桜花文と三ツ巴文）が施されている。刃部は先端が欠損している。12は銅製の釘隠しである。梅の花を模した形状をしている。13は細長い板状の銅製品である。突起部が作り出されている部分もあり、何かの飾り金具と考えられる。14は銅製の小柄の柄である。15は簪である。16は細長い板状の鉄製品である。端部に釘がみとめられる。17・18は棒状の鉄製品である。断面形状は方形である。19・20は鋸である。21は鉄製の釘である。22は蓋と思われる鉄製品である。23は細長い棒状の鉄製品である。端部の形状から、鉄瓶などの把手と考えられる。

SD101（第361図）

24はキセルの吸い口である。

第2 遺構面

屋敷境

SD48（第362図）

25・26はキセルの雁首である。27はキセルの吸い口である。断面形状が円形ではなく、六角形である。28～30は鉄製の釘である。

SD136（第362図）

31はキセルの雁首である。

SD161（第362図）

32は銅製の釘である。33・34は鉄製の釘である。

SD166 北（第362図）

35はキセルの雁首である。36は銅製の釘である。

遺物溜り 25（第362図）

37は銅製の釘である。38は釘と思われる棒状の鉄製品である。39は鉄製の釘である。40・41は玉状の鉄製品である。徳島城下町の他の地点では、同様のものが備前系陶器の極小甕に入れられて埋められていた例があり、地鎮のためのものと考えられている。出土位置が屋敷境であることから、これらも同様の機能を有していたと考えられる。

SD159（第363図）

42は銅製の十能である。柄に装着するソケット部分のみ残存している。

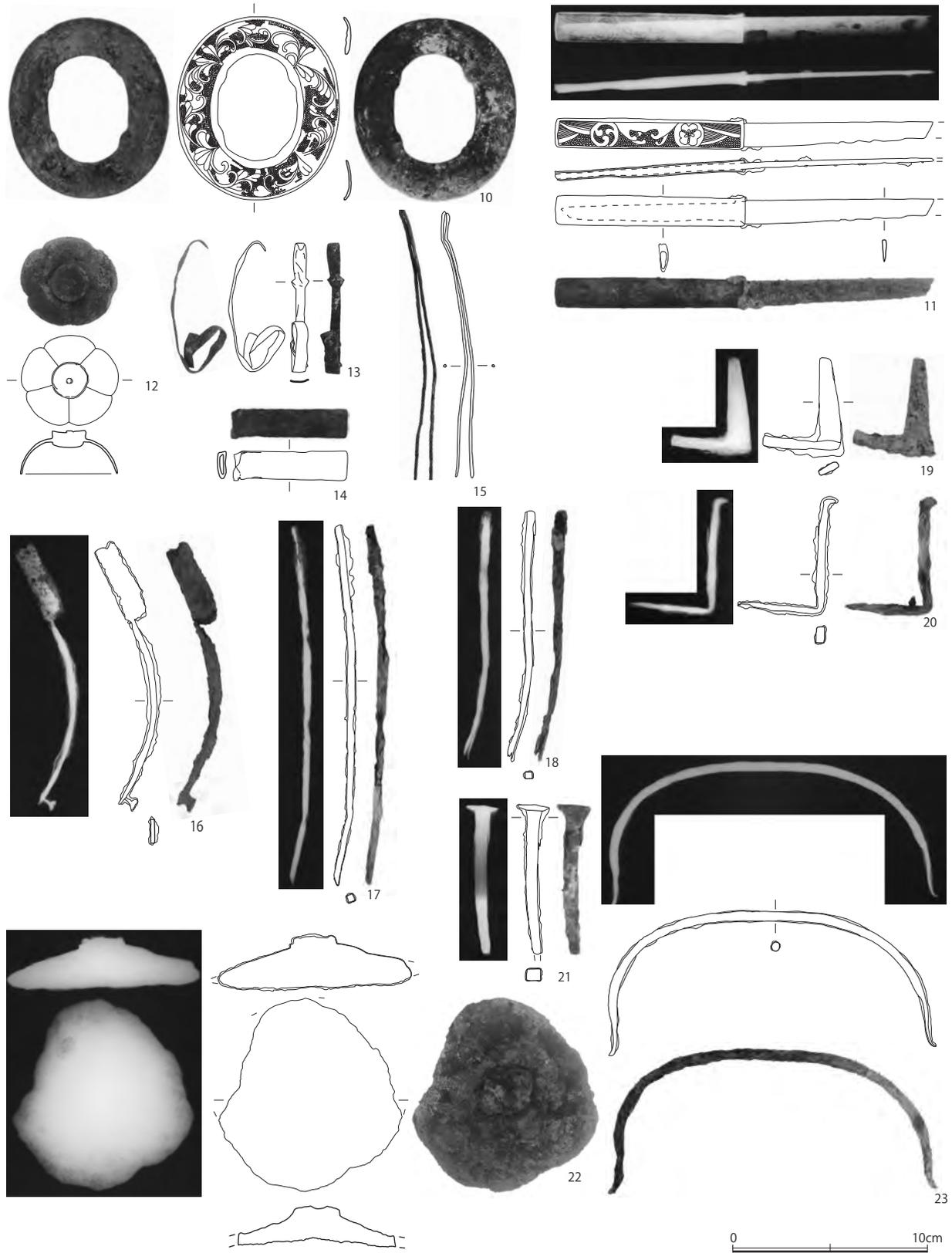
片山家屋敷地内

SD24（第364図）

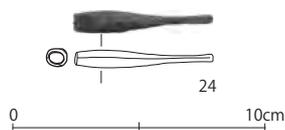
43は銅製の円板である。44～46は鉄製の釘である。47は鉄製の鋸である。



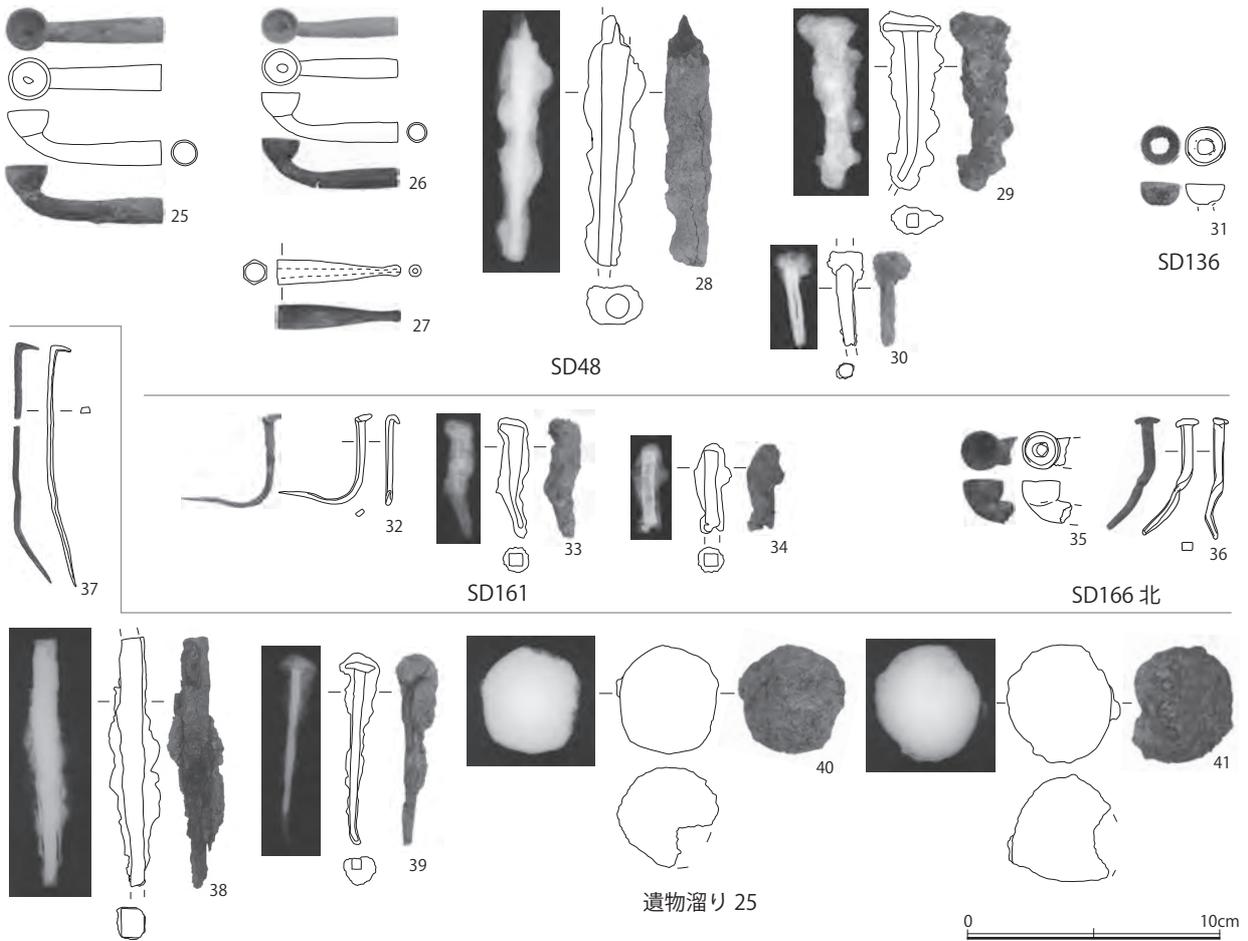
第359圖 池状遺構(第2・第3遺構面)出土金属製品(1)(縮尺:1/3)



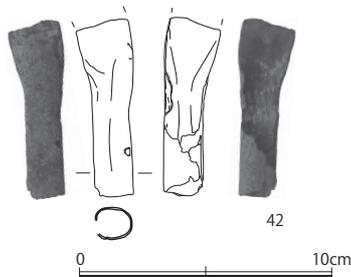
第360図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土金属製品（2）（縮尺：1/3）



第361図 SD101出土金属製品
（縮尺：1/3）



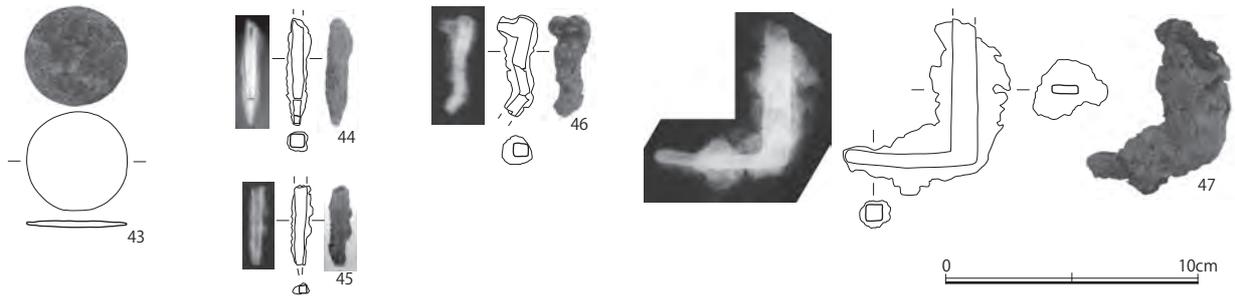
第 362 図 屋敷境 SD48・SD136・SD161・SD166 北・遺物溜り 25 出土金属製品 (縮尺：1/3)



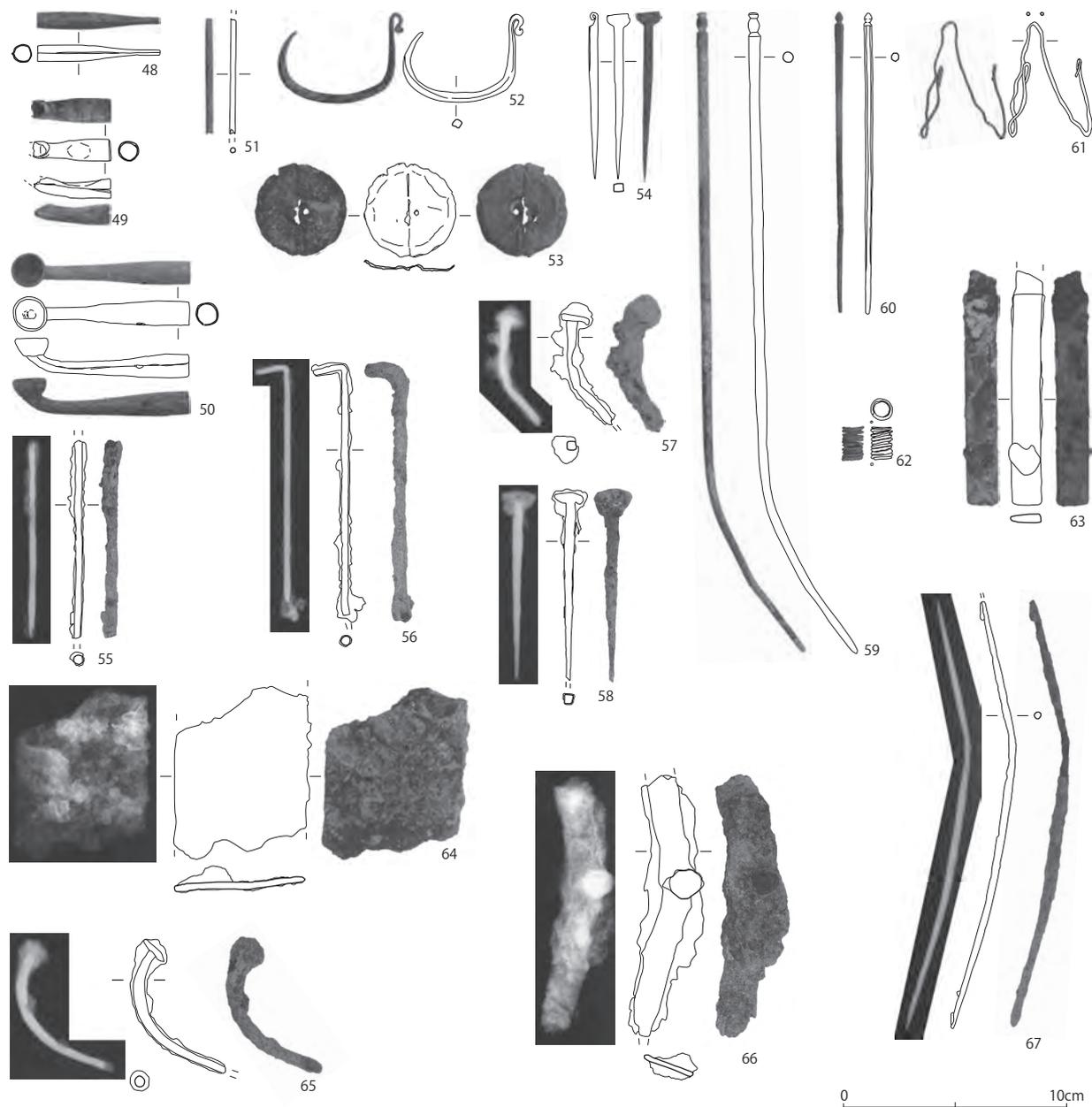
第 363 図 屋敷境 SD159 出土金属製品 (縮尺：1/3)

SK26 (第 365 図)

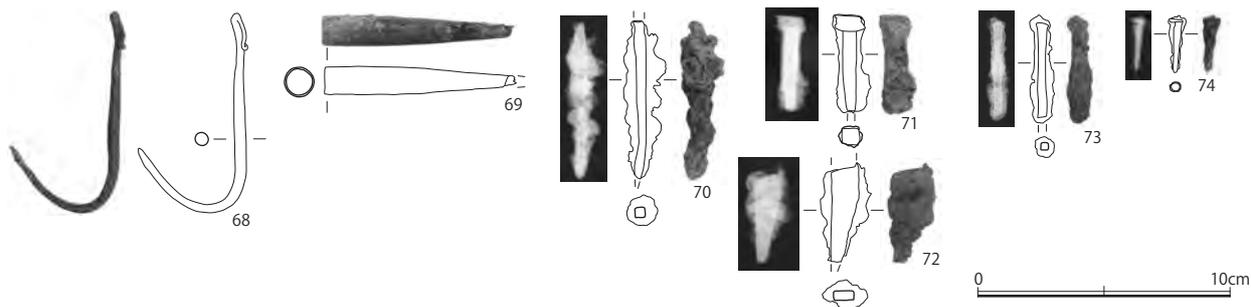
48 はキセルの吸い口である。49・50 はキセルの雁首である。51 は棒状の銅製品である。簪の可能性が考えられる。52 は銅製の鉤である。53 は銅製の円板である。54 は銅製の釘である。55～58 は鉄製の釘である。59・60 は銅製の火箸である。61 は銅製の針金である。両端部が折り曲げられており、元々は何かの把手として使われていたと考えられる。62 は銅製の針金である。螺旋状に巻きあげられており、バネのような形状を呈している。63 は銅製の柄である。小柄の柄であり、刃部も一部残存している。彫金による文様が施されている。64 は板状の鉄製品である。65 は鉄製の釘である。66 は細長い板状の鉄製品である。67 は棒状の鉄製品である。



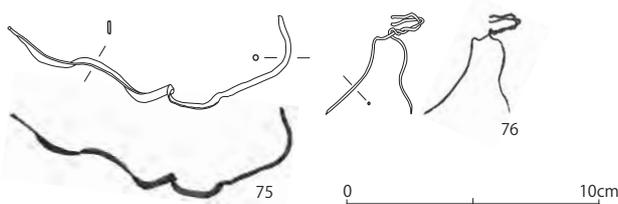
第 364 図 片山家屋敷地内 SD24 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



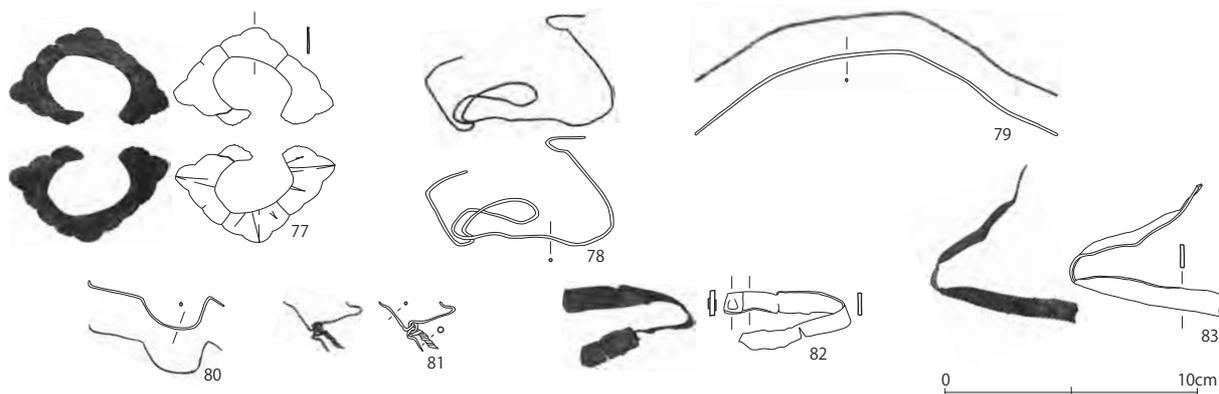
第 365 図 片山家屋敷地内 SK26 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第 366 図 片山家屋敷地内 SK39 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)



第 367 図 片山家屋敷地内 SD91 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)



第 368 図 片山家屋敷地内 SD106 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)

SK39 (第 366 図)

68 は銅製の鉤である。69 はキセルの吸い口である。70 ～ 74 は鉄製の釘である。

SD91 (第 367 図)

75 は細長い板状の銅製品である。76 は銅製の針金である。

SD106 (第 368 図)

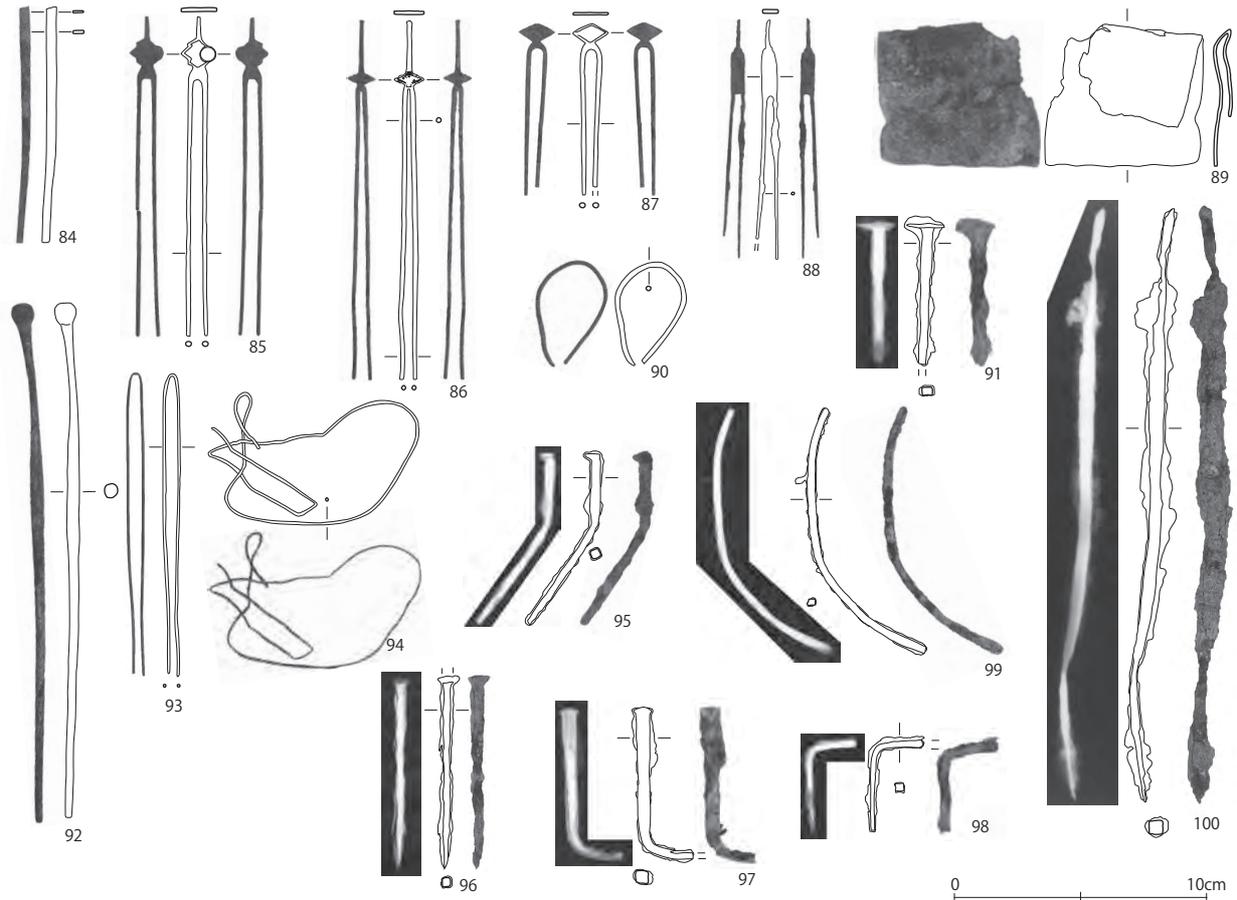
77 は銅製の飾り金具である。78 ～ 81 は銅製の針金である。82 ・ 83 は細長い板状の銅製品である。

SK156 (第 369 図)

84 は細長い板状の銅製品である。筭と思われる。85 ～ 88 は簪である。89 は板状の銅製品である。90 は輪状を呈する針金状の銅製品である。91 は鉄製の釘である。92 は銅製の火箸である。93 は銅製の針金である。94 は銅製の針金である。端部が折り曲げられており、元々は何かの把手として使われていたと考えられる。95 ～ 98 は鉄製の釘である。99・100 は棒状の鉄製品である。断面形状は方形である。

SD157 (第 370 図)

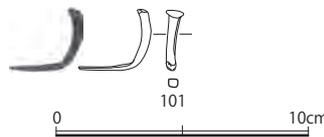
101 は銅製の釘である。



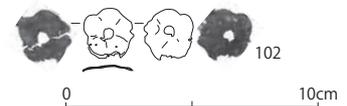
第369図 片山家屋敷地内 SK156 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SK164 (第371図)

102は銅製の飾り金具である。平面形は梅の花を模した形状をしている。



第370図 片山家屋敷地内 SD157 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



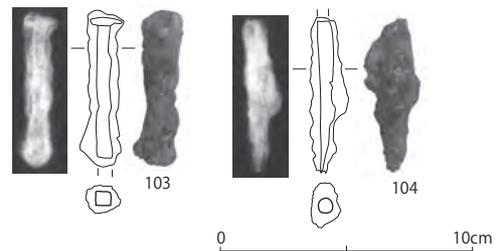
第371図 片山家屋敷地内 SK164 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SD166 (第372図)

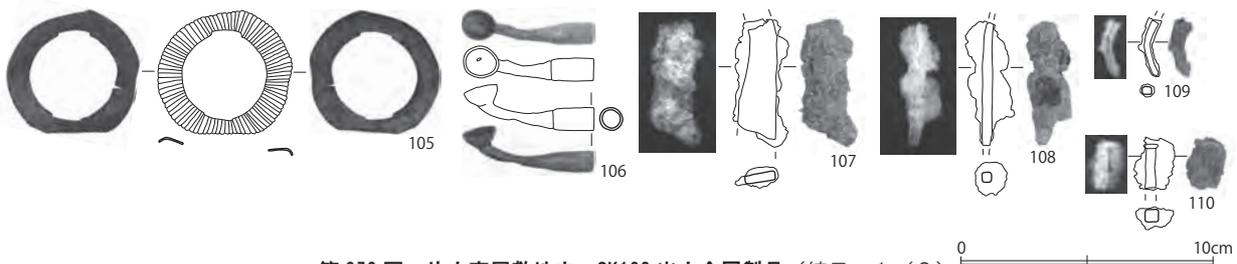
103・104は鉄製の釘である。

SK186 (第373図)

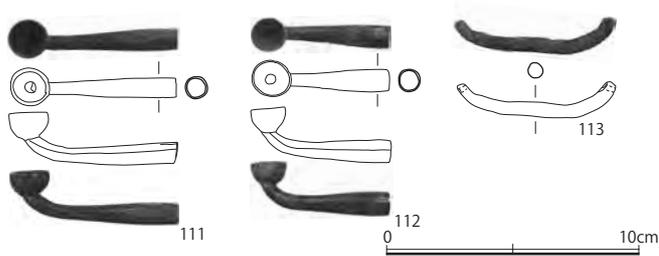
105は銅製の飾り金具である。断面形は薄い板状で、平面形は輪状である。表面に放射状の文様が施されている。106はキセルの雁首である。107は板状の鉄製品である。108～110は鉄製の釘である。



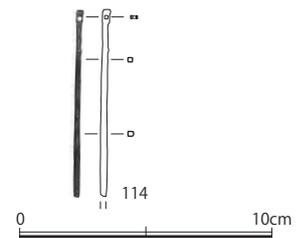
第372図 片山家屋敷地内 SD166 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



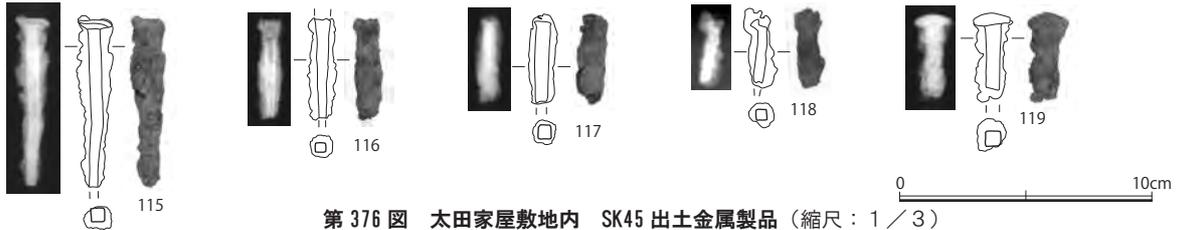
第373図 片山家屋敷地内 SK186 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



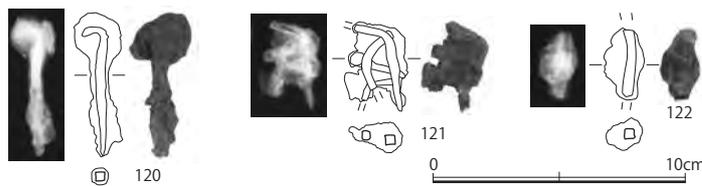
第374図 安富家屋敷地内 SK98 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



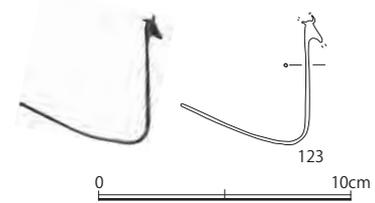
第375図 安富家屋敷地内 SD182 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第376図 太田家屋敷地内 SK45 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第377図 太田家屋敷地内 SP52 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第378図 太田家屋敷地内 SK71 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

安富家屋敷地内

SK98 (第374図)

111・112はキセルの雁首である。113は鉛製の魚網錘である。両端部に孔があげられている。石製の鑄型も出土しており、屋敷内で製造されていたと考えられる。

SD182 (第375図)

114は棒状の銅製品である。端部に孔があげられている。断面形状は方形である。

太田家屋敷地内

SK45 (第376図)

115～119は鉄製の釘である。

SP52 (第377図)

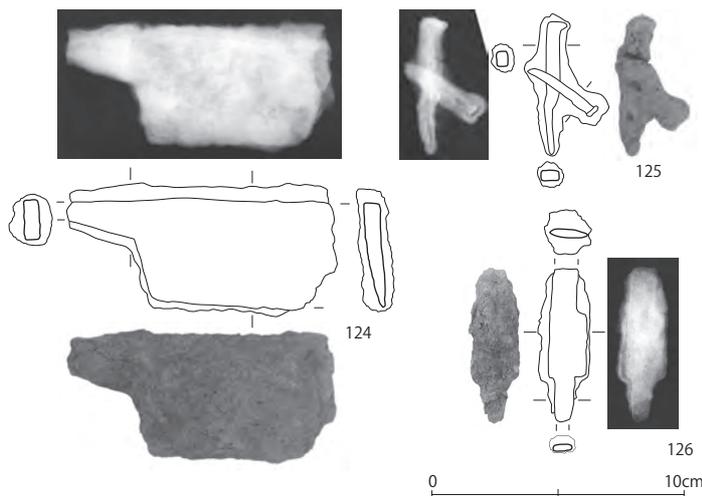
120～122は鉄製の釘である。121は4本の釘が錆で固着している。

SK71 (第378図)

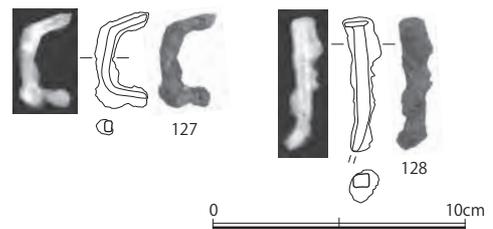
123は銅製の簪である。

SK78 (第379図)

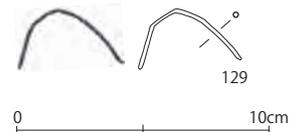
124は庖丁と考えられる鉄製品である。茎部分から刃部にかけて残存している。125は鉄製の釘である。2本が錆で固着している。126は小柄などの小型の刃物と思われる鉄製品である。



第 379 図 太田家屋敷地内 SK78 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第 380 図 太田家屋敷地内 SK79 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



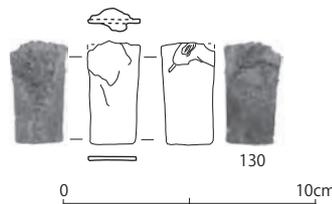
第 381 図 太田家屋敷地内 SK103 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SK79 (第 380 図)

127・128 は鉄製の釘である。

SK103 (第 381 図)

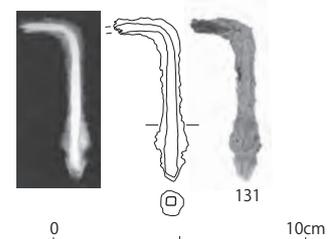
129 は銅製の針金である。



第 382 図 太田家屋敷地内 SK112 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SK112 (第 382 図)

130 は板状の銅製品である。



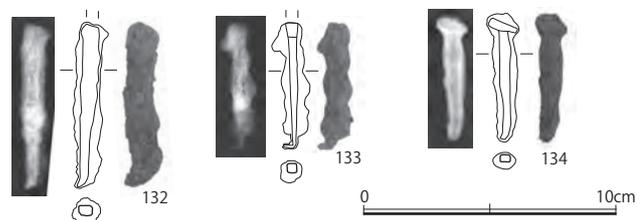
第 383 図 太田家屋敷地内 SK121 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SK121 (第 383 図)

131 は鉄製の釘である。

SK147 (第 384 図)

132～134 は鉄製の釘である。



第 384 図 太田家屋敷地内 SK147 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

SK176 (第 385 図)

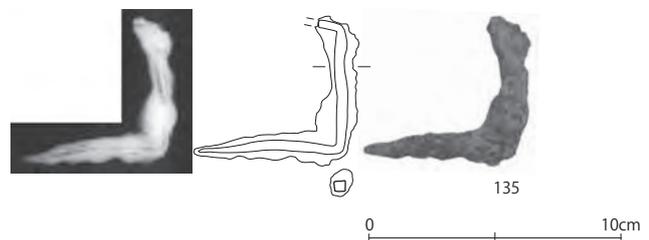
135 は鉄製の釘である。

第 1 遺構面

A 下層

池状遺構埋土最上層 (第 386 図)

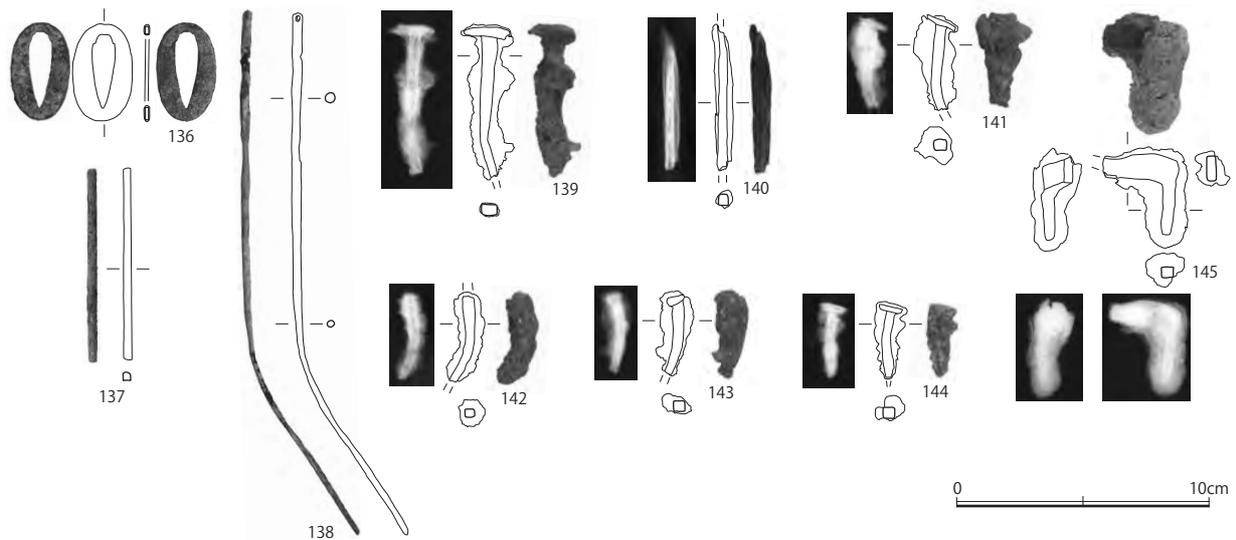
136 は銅製の切羽である。137 は棒状の銅製品である。断面形状は方形であるが、一面のみ曲面に仕上げられている。両端を欠くため、用途は不明である。138 は銅製の火箸である。139～145 は鉄製の釘である。



第 385 図 太田家屋敷地内 SK176 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

池状遺構 (第 387・388 図)

146 は銅製の釘である。147 は柄金具と考えられる銅製品である。148 は棒状の銅製品である。一方の端部に穿孔が 2 つ施されている。149 は銅製の簪である。150 は銅製の十能である。151 はキセルの吸い口である。羅字がはまる部分と口元に近い部分に沈線が施されている。152 はキセルの吸い口であ



第386図 池状遺構（第1遺構面）埋土最上層出土金属製品（縮尺：1/3）

る。羅字がはまる部分に彫金による文様が施されている。153はキセルの吸い口である。154～156はキセルの雁首である。157は襖などの引手である。158は簪である。扇状の飾りが造形されている。159は梅の花の形をした飾り金具である。160は円形の銅製品である。蓋の可能性が考えられる。161は鍾と考えられる製品である。雲のような形を呈し、両端に穿孔がされている。162は板状の銅製品である。小片であるため、元の形は不明である。163・164は細長い板状の銅製品である。165は戸棚などの引手である。166は棒状の銅製品である。167は戸棚などの引手と考えられる銅製品である。168は輪状の銅製品である。用途は不明である。169は玉状の鉛製品である。鉄砲の弾の可能性が考えられる。170・171は細長い管状の銅製品である。172～174は銅製の釘である。173は端部に木質が残存している。175は楕円形に丸められた板状の銅製品である。刃物の柄金具と考えられる。176は柄金具である。柄と思われる木質に2箇所釘留めされている。177は鉤付の鎖である。鎖は太さ1mmの針金を長径7mm程度の楕円形に丸めて作られている。178は薄い板状の銅製品である。片面に黒色の漆が塗られていた痕跡がみられる。179は鎖である。太さ0.5mm程度の輪状の針金を団子結びにしたものを繋げて鎖にしている。180～185は鉄製の釘である。186は茎の破片と考えられる鉄製品である。187は棒状の鉄製品である。2個体以上が組み合っている状態である。188は輪状の鉄製品である。断面形状は長方形である。189は板状の鉄製品である。190は小柄の破片である。刃部から茎にかけての部分である。191・192は鉄製の釘である。193は鉄製の鎌である。刃部が部分的に欠けているがほぼ形が残存している。

造り出し（第389図）

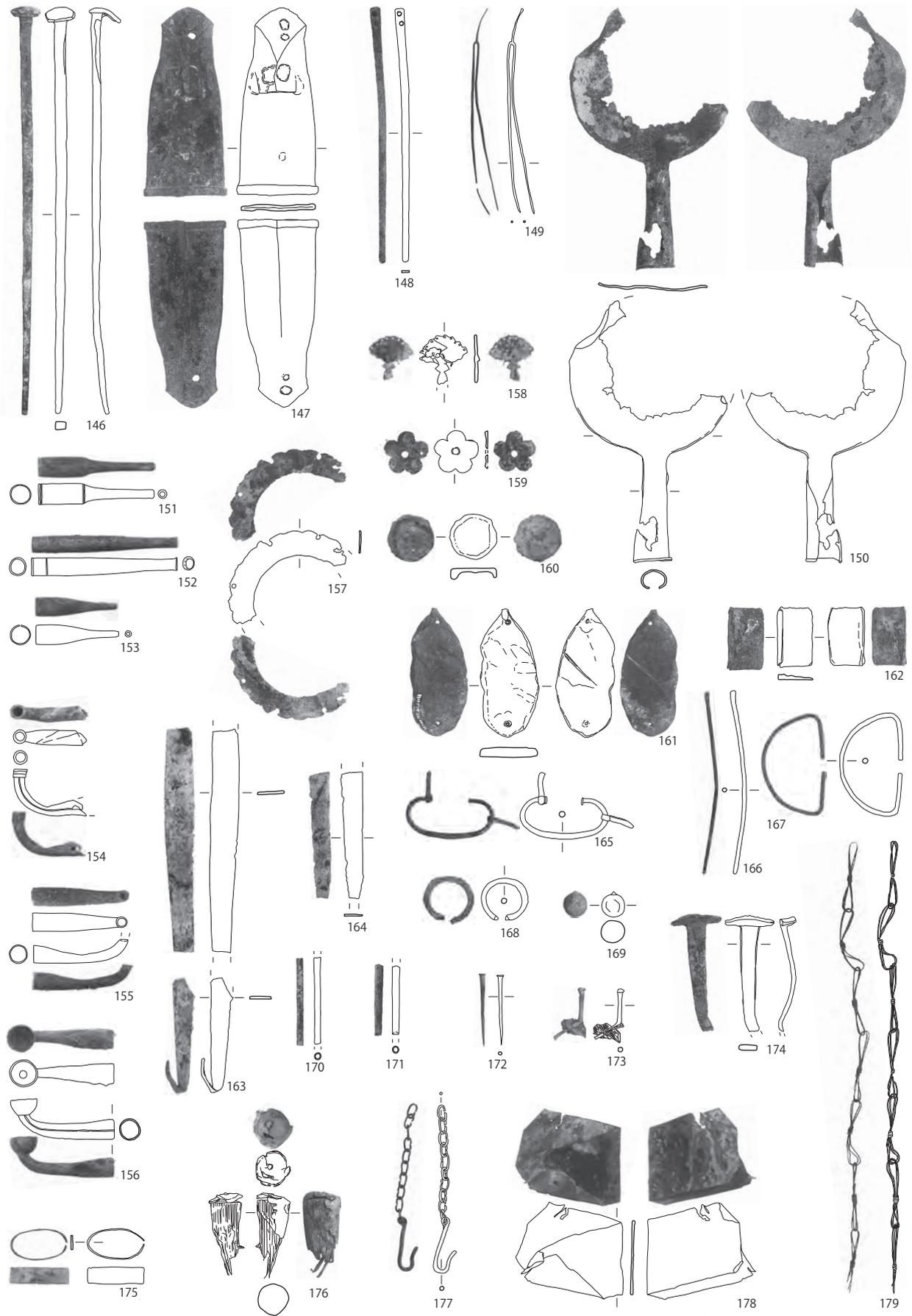
194は板状の銅製品である。195は簪である。

石組み溝1（第390図）

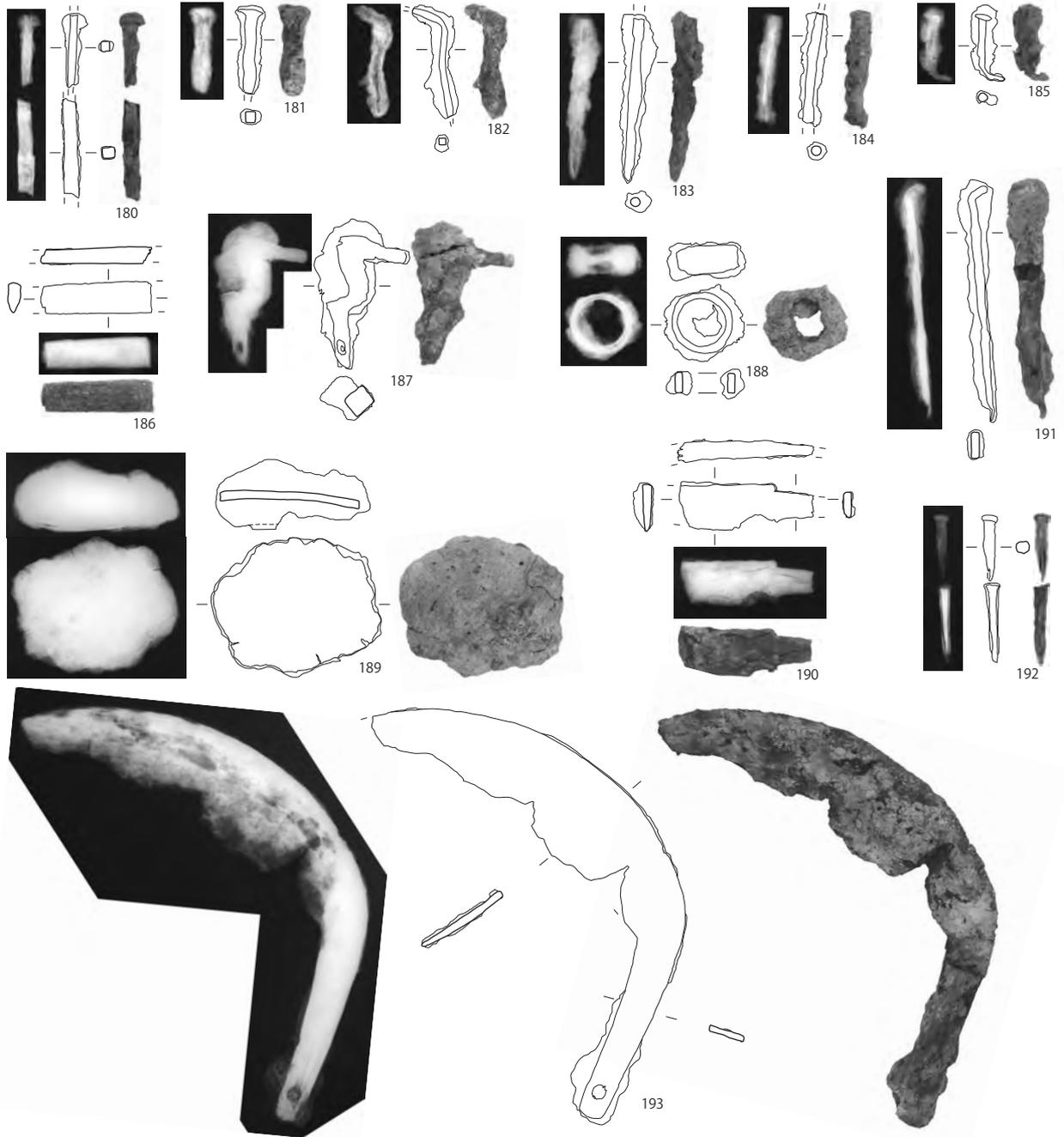
196～198は鉄製の釘である。199は断面形が半円形を呈する棒状の鉄製品である。

石組み溝2（第391図）

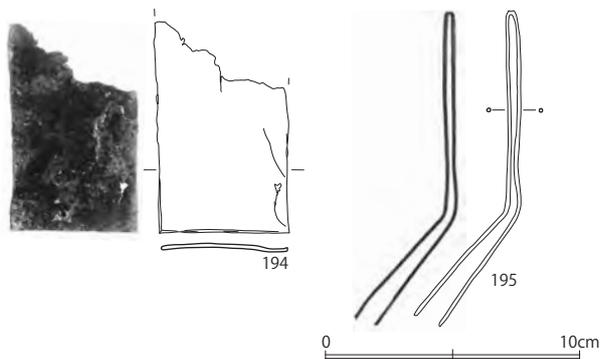
200は輪状の部品と棒状の部品とが組み合わされた鉄製品である。201～203は鉄製の釘である。204は板状の鉄製品である。



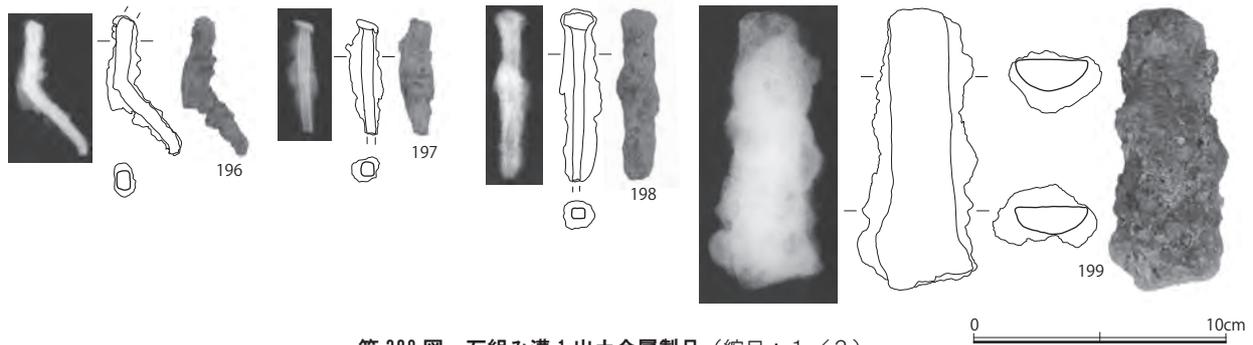
第387図 池状遺構(第1遺構面)出土金属製品(1)(縮尺:1/3) 0 10cm



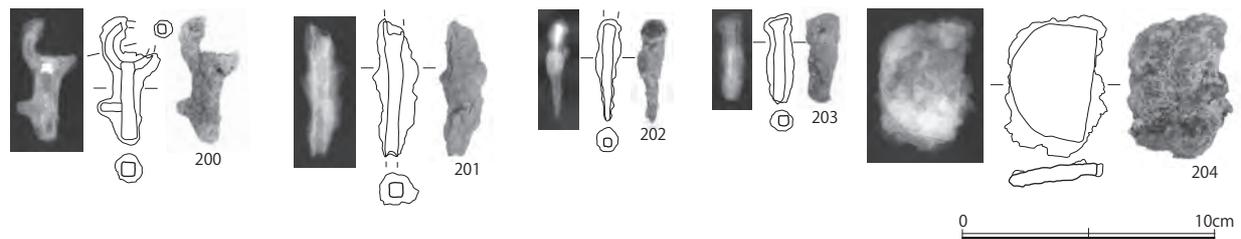
第388図 池状遺構（第1遺構面）出土金属製品（2）（縮尺：1/3）



第389図 池状遺構 造り出し出土金属製品（縮尺：1/3）



第390図 石組み溝1出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第391図 石組み溝2出土金属製品 (縮尺: 1/3)

石組み溝3 (第392図)

205は金属製の合子である。206は銅製の小柄の柄である。207は棒状の金属製品である。断面形状は方形である。208は細長い板状の金属製品である。筭か簪の破片の可能性はある。209は金属製の灯芯押えである。210は金属製の飾り金具である。家具類の角に取り付けられていたものと考えられる。211・212は銅製の針金である。両端部が折り曲げられており、元々は何かの把手として使われていたと考えられる。213は銅製の鉤である。形状がゆがめられ、端部が欠損している。214は銅製の鉤である。215は戸棚などの引手である。216は銅製の釘である。217～222はキセルの雁首である。223～227はキセルの吸い口である。228は熊手状の鉄製品である。229～233は鉄製の釘である。

石組み溝5 (第393図)

234は銅製の火箸である。235は鉄製の釘である。木材に刺さったままの状態出土している。236は銅製の簪である。237は銅製の釘である。238は管状の銅製品である。キセルの吸い口の破片と考えられる。239・240はキセルの雁首である。241は棒状の銅製品である。242は番線状の銅製品である。残存している端部の形状から、何かに差し込まれて使用されていたと考えられる。

石組み溝8 (SD23) (第394図)

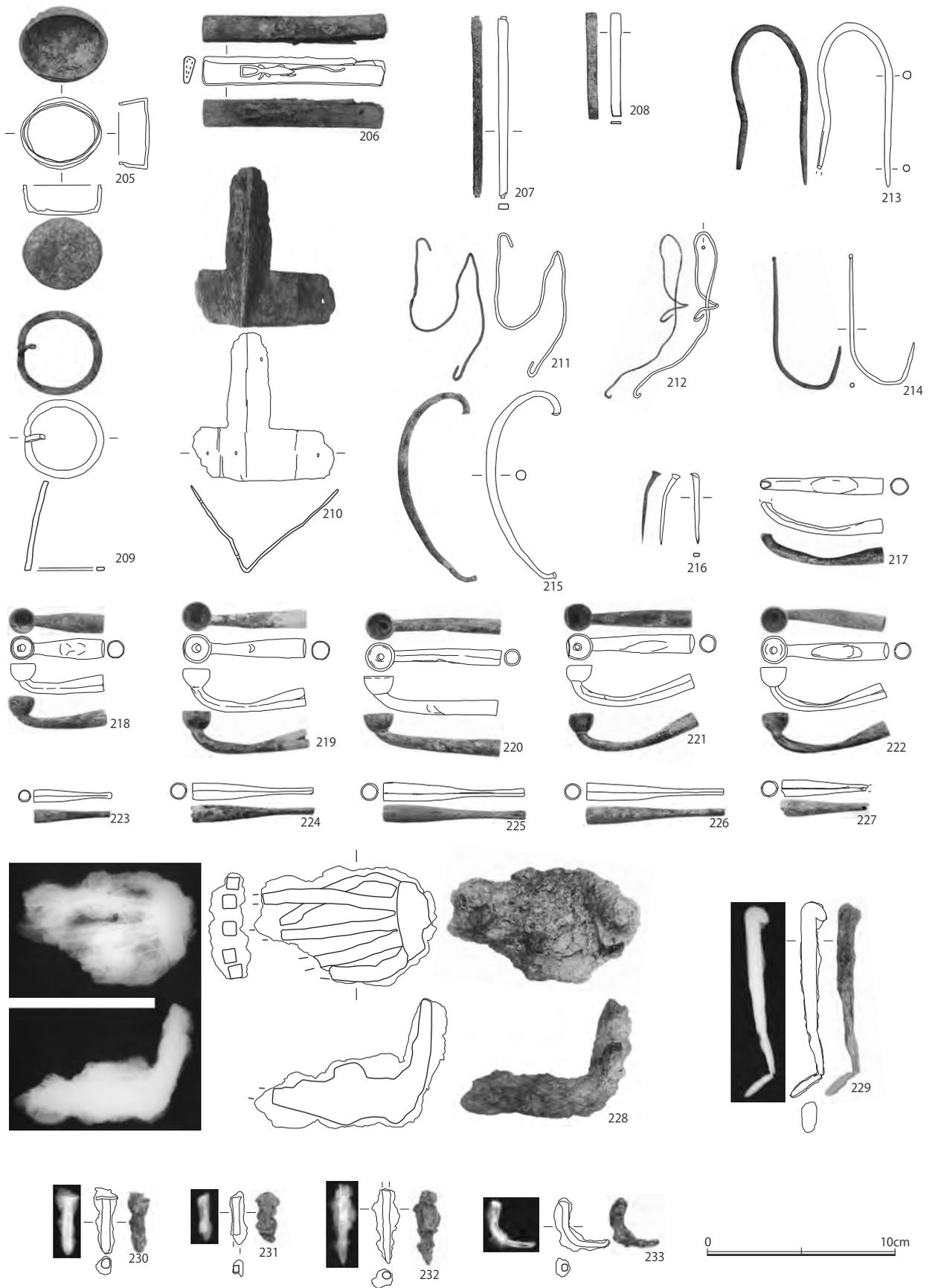
243は鉛製の玉である。鉄砲の弾と考えられる。244はキセルの雁首である。雁首銭と考えられる。245は鉄製の釘である。

石組み溝8 (遺物溜り4) (第395図)

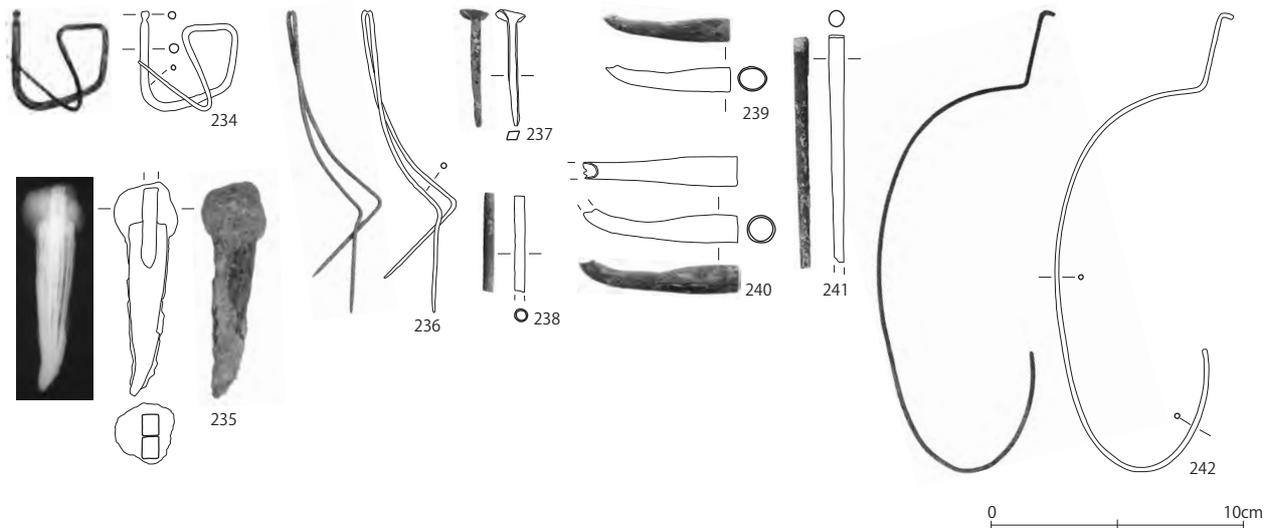
246・247は鉄製の釘である。

石組み溝8 (遺物溜り10) (第396図)

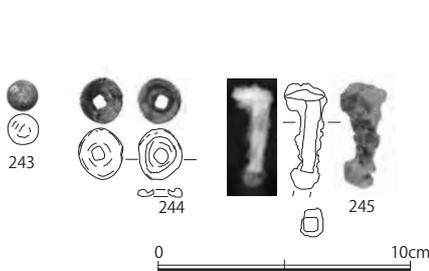
248は弧状を呈する棒状の鉛製品である。断面形状は円形であり、家具などの引手の一部と考えられる。249は輪状を呈する針金状の銅製品である。250は銅製の十能の袋部である。袋部には柄と考えられる木片が残存している。251・252は鉄製の釘である。



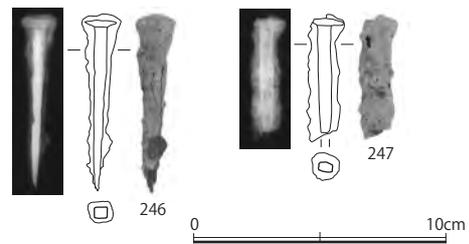
第 392 図 石組み溝 3 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)



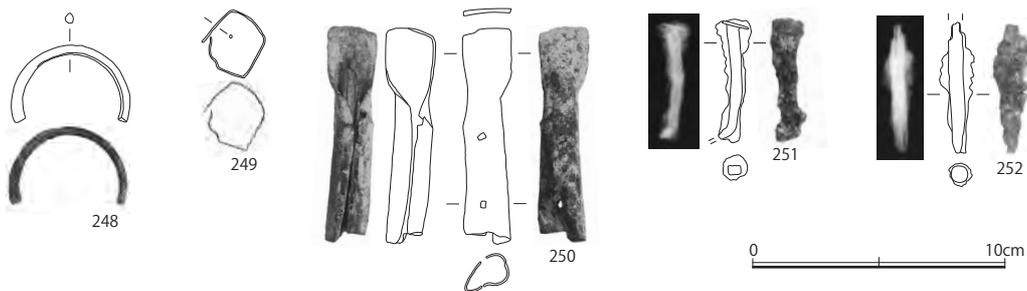
第 393 図 石組み溝 5 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



第 394 図 石組み溝 8 (SD23) 出土金属製品
(縮尺: 1/3)



第 395 図 石組み溝 8 (遺物溜り 4) 出土金属製品
(縮尺: 1/3)



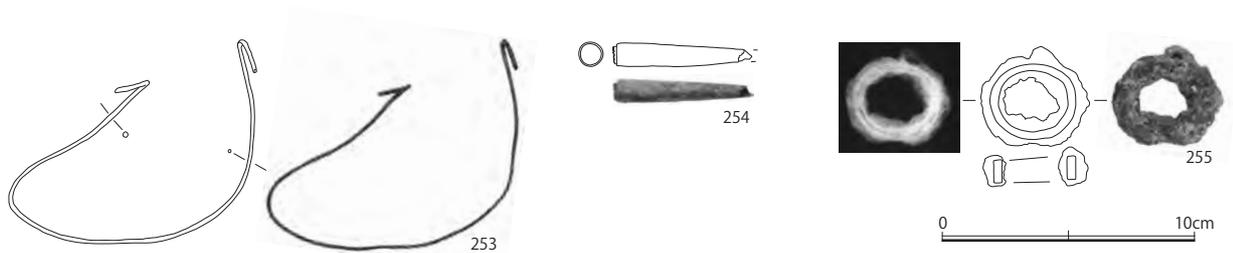
第 396 図 石組み溝 8 (遺物溜り 10) 出土金属製品 (縮尺: 1/3)

石組み溝 8 (遺物溜り 15) (第 397 図)

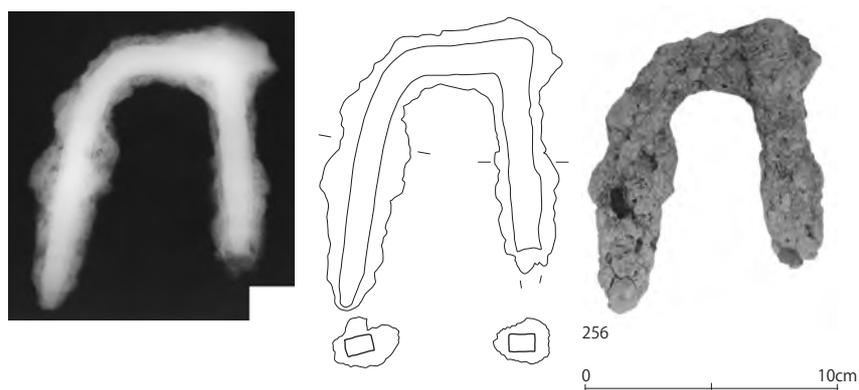
253 は針金状の銅製品である。両端が折り曲げられており、別の製品に付けられていたものである。254 はキセルの吸い口である。255 は輪状の鉄製品である。断面形状は方形である。

遺物溜り 12 (第 398 図)

256 は鋤の可能性のある棒状の不明鉄製品である。断面形状は方形であり、コの字状を呈しているが元々はL字状であったと考えられる。



第 397 図 石組み溝 8 (遺物溜り 15) 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)



第 398 図 遺物溜り 12 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)

蜂須賀家屋敷地内

SK15 (第 399 図)

257 は庖丁または短刀と思われる鉄製品である。258 は板状の鉄製品である。259・260 は鉄製の釘である。

SK16 (第 400 図)

261 ~ 266 は鉄製の釘である。267 は板状の鉄製品である。268・269 は庖丁と思われる刃物である。268 は茎、269 は切先の部分である。270 は輪状の鉄製品である。断面形状は円形である。

片山家屋敷地内

SK29 (第 401 図)

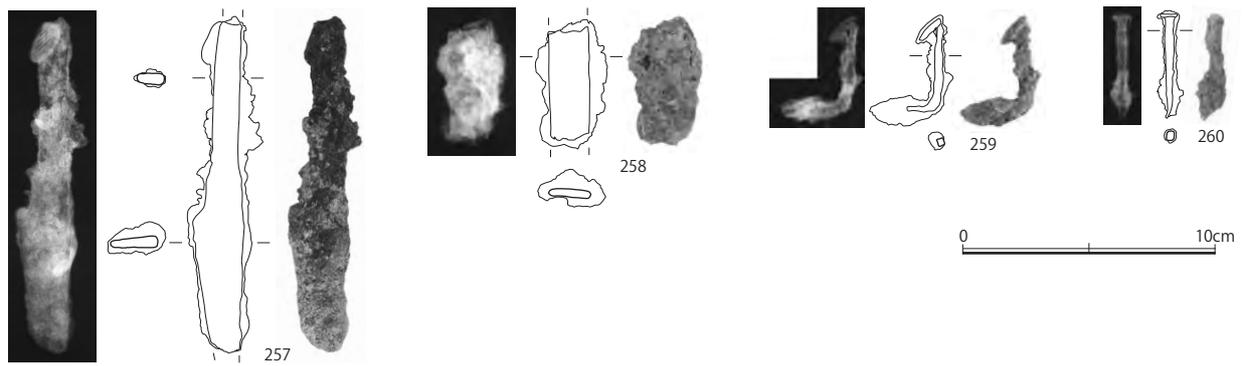
271 は板状の鉄製品である。272 は鉄製の釘である。

SK73 (第 402 図)

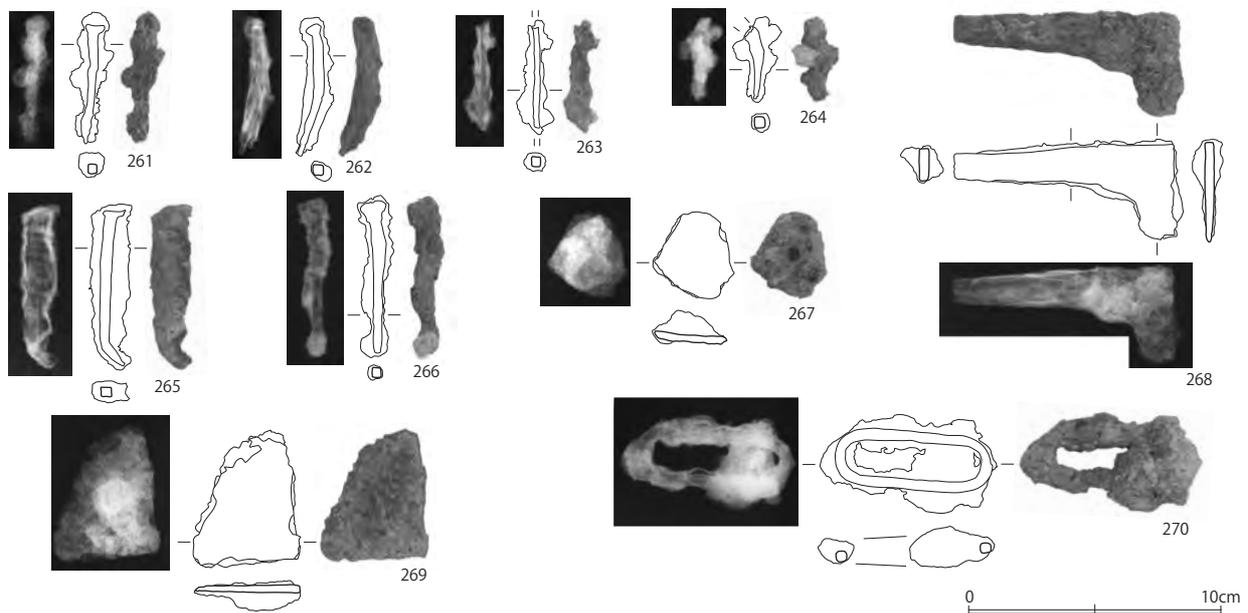
273 は針金状のものを 3 本束ねた銅製品である。274 は鉄製の鍔である。275 は鉄鎌である。刃部先端と茎部分を欠損している。276 は形状不明の鉄製品である。277 ~ 282 は鉄製の釘である。

SK135 (第 403 図)

283 は不定形の鉛製品である。鉛製品の素材、または鋳造時に廃棄されたものの可能性が考えられる。284 は銅製の把手である。285 はキセルの吸い口である。286 は庖丁の刃部である。



第 399 図 蜂須賀家屋敷地内 SK15 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)



第 400 図 蜂須賀家屋敷地内 SK16 出土金属製品 (縮尺：1 / 3)

B 上層

SK03 (第 404 図)

287 は刃物の可能性が考えられる、細長い板状の鉄製品である。288 ～ 290 は鉄製の釘である。

SK04 (第 405 図)

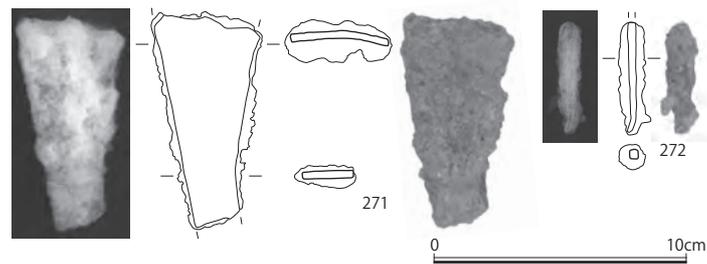
291 は鉄製の釘である。292 は細長い板状の鉄製品である。293 は板状の鉄製品である。294 は鉄製の針金である。束ねた状態である。

SD06 (第 406 図)

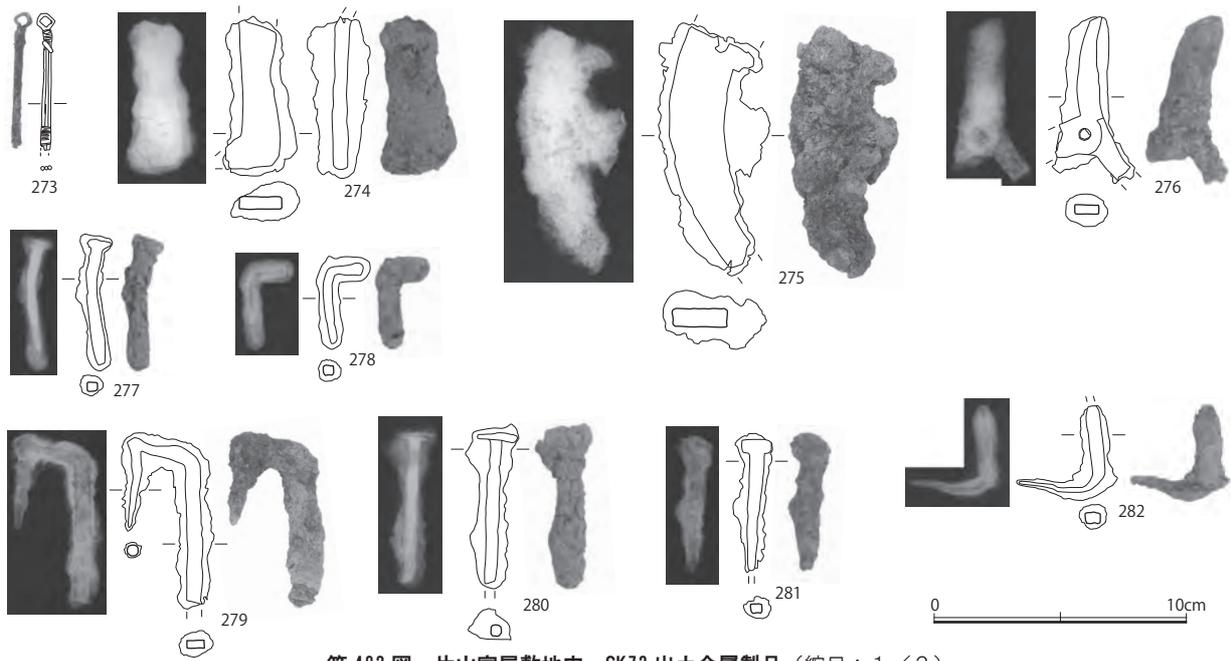
295 は銅製の鉤である。

包含層 (第 407 図)

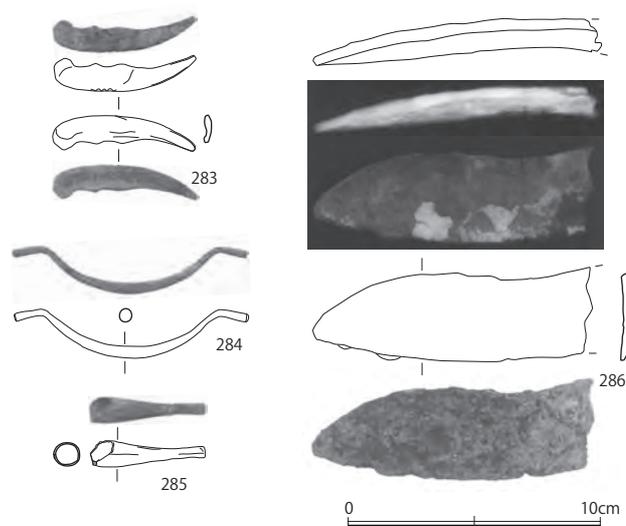
296 は板状の銅製品である。破片であるため、元の製品については不明である。297 は銅製の飾り金具である。家具などに取り付けられていたと考えられる。298 ～ 301 は鉄製の釘である。301 は別の鉄製品と錆により固着している。



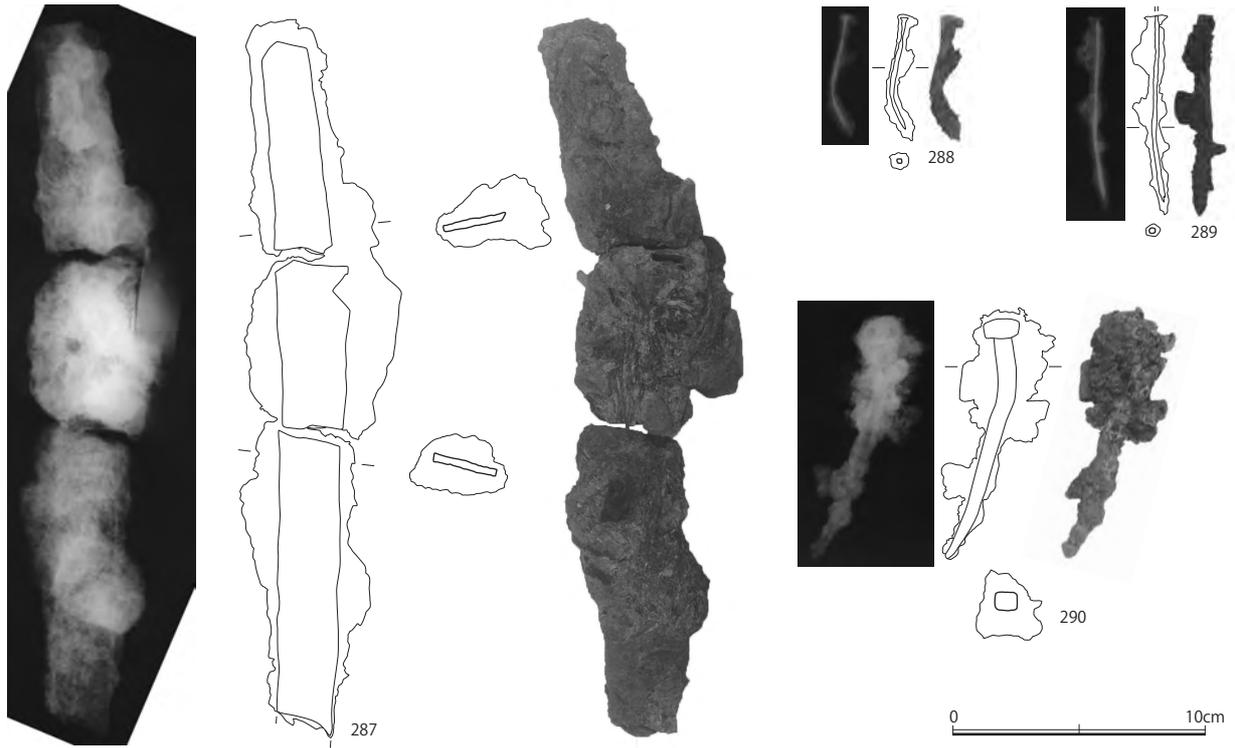
第 401 図 片山家屋敷地内 SK29 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



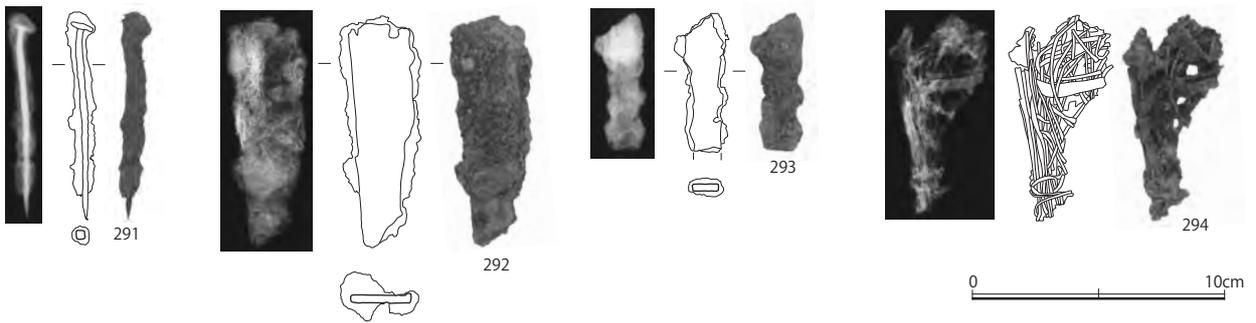
第 402 図 片山家屋敷地内 SK73 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



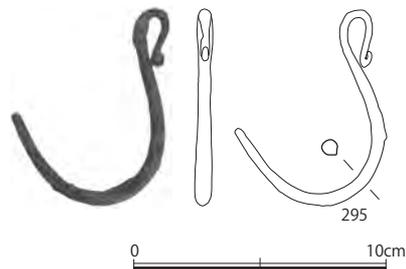
第 403 図 片山家屋敷地内 SK135 出土金属製品 (縮尺: 1/3)



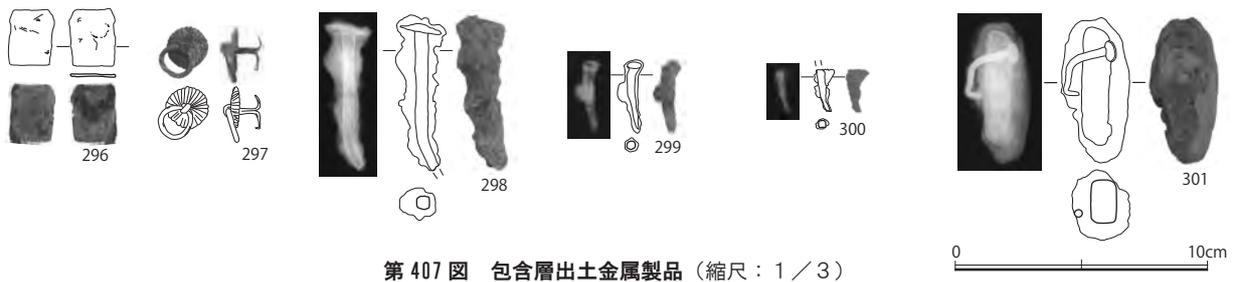
第404図 SK03 出土金属製品 (縮尺：1/3)



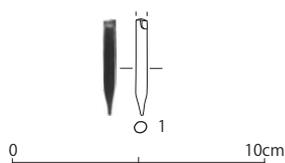
第405図 SK04 出土金属製品 (縮尺：1/3)



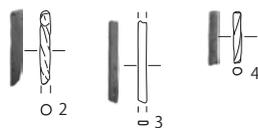
第406図 SD06 出土金属製品 (縮尺：1/3)



第407図 包含層出土金属製品 (縮尺：1/3)



第408図 太田家屋敷地内 SK78
出土ガラス製品 (縮尺: 1/3)



第409図 池状遺構(第1遺構面)埋土最上層
出土ガラス製品 (縮尺: 1/3)



第410図 池状遺構(第1遺構面)出土
ガラス製品 (縮尺: 1/3)



第411図 石組み溝3出土ガラス製品
(縮尺: 1/3)



第412図 石組み溝9(遺物溜り9)
出土ガラス製品 (縮尺: 1/3)

3. ガラス製品

第2遺構面

太田家屋敷地内

SK78 (第408図)

1は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は円形である。

第1遺構面

A 下層

池状遺構埋土最上層 (第409図)

2～4は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。2・4は2本のガラスをねじって作られている。3の断面形状は長方形である。

池状遺構 (第410図)

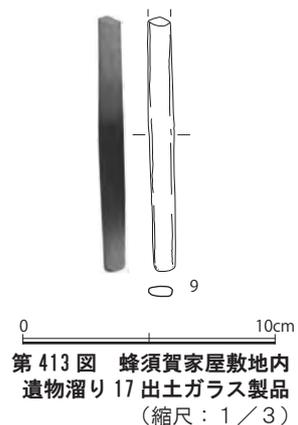
5・6は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。5の断面形状は方形、6の断面形状は長方形である。

石組み溝3 (第411図)

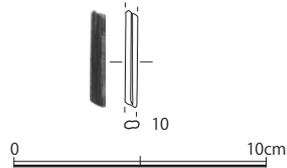
7は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は楕円形である。

石組み溝9(遺物溜り9) (第412図)

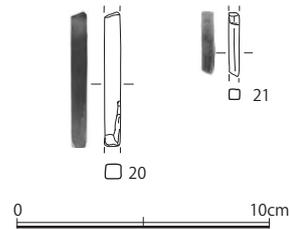
8は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は楕円形である。



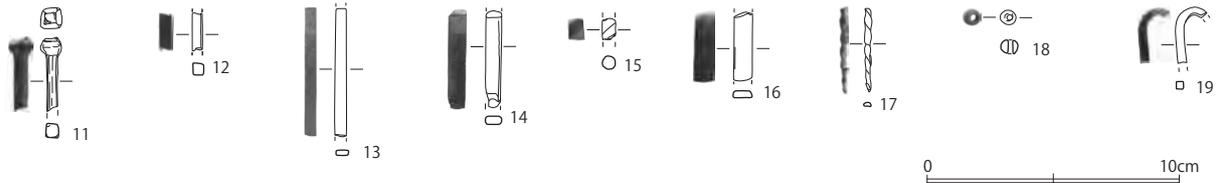
第413図 蜂須賀家屋敷地内
遺物溜り17出土ガラス製品
(縮尺: 1/3)



第414図 片山家屋敷地内 SK73
出土ガラス製品 (縮尺: 1/3)



第416図 攪乱出土ガラス製品
(縮尺: 1/3)



第415図 包含層出土ガラス製品 (縮尺: 1/3)

蜂須賀家屋敷地内

遺物溜り 17 (第413図)

9は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は楕円形である。

片山家屋敷地内

SK73 (第414図)

10は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。2本のガラスを平行に接着して作られている。

包含層 (第415図)

11～17は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は11・12が方形、13が長方形、14・16が隅丸方形、15が円形である。17は2本のガラスをねじって作られている。18はガラス小玉である。19は棒状のガラス製品である。断面形状は方形である。

攪乱 (第416図)

20・21は棒状のガラス製品である。筭と考えられる。断面形状は方形である。

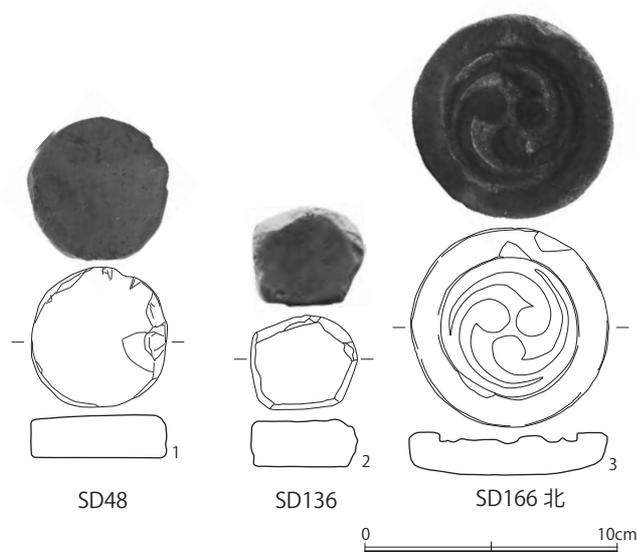
4. 瓦

第2遺構面

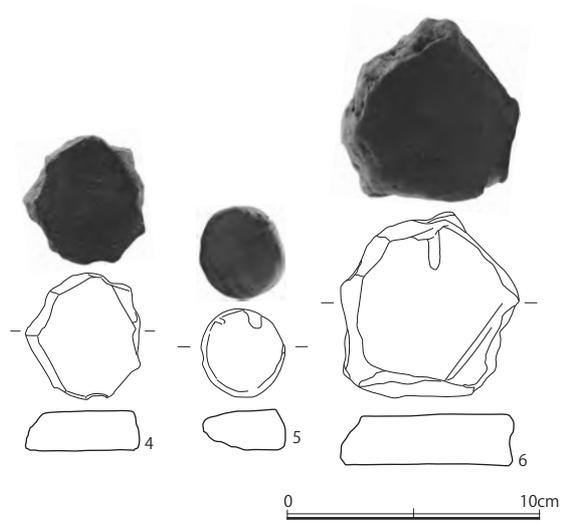
屋敷境

SD48・SD136・SD166北 (第417図)

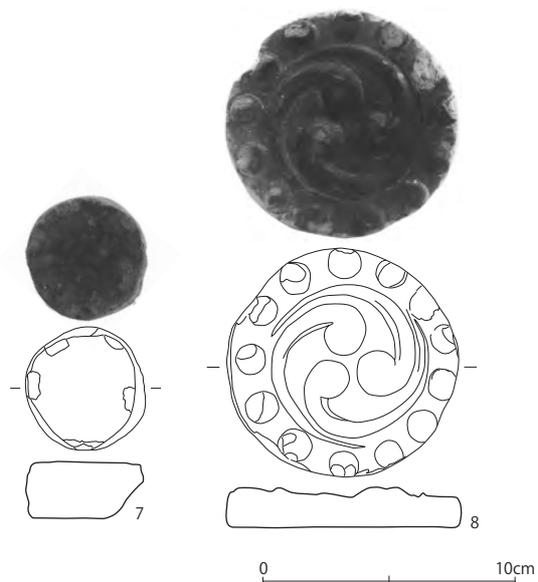
1・2は平瓦の二次加工品である。1はSD48、2はSD136出土。3は軒棧瓦の瓦当部分である。二次加工品と考えられる。SD166北出土。



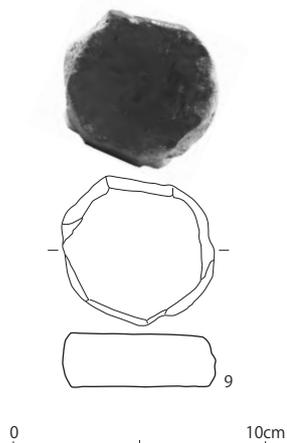
第 417 図 屋敷境 SD48・SD136・SD166 北出土瓦 (縮尺：1/3)



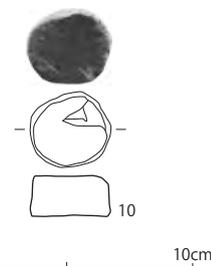
第 418 図 片山家屋敷地内 SD24 出土瓦 (縮尺：1/3)



第 419 図 片山家屋敷地内 SK26 出土瓦 (縮尺：1/3)



第 420 図 片山家屋敷地内 SD91 出土瓦 (縮尺：1/3)



第 421 図 片山家屋敷地内 SK148 出土瓦 (縮尺：1/3)

片山家屋敷地内

SD24 (第 418 図)

4～6 は平瓦の二次加工品である。4・6 は製作途中と考えられる。

SK26 (第 419 図)

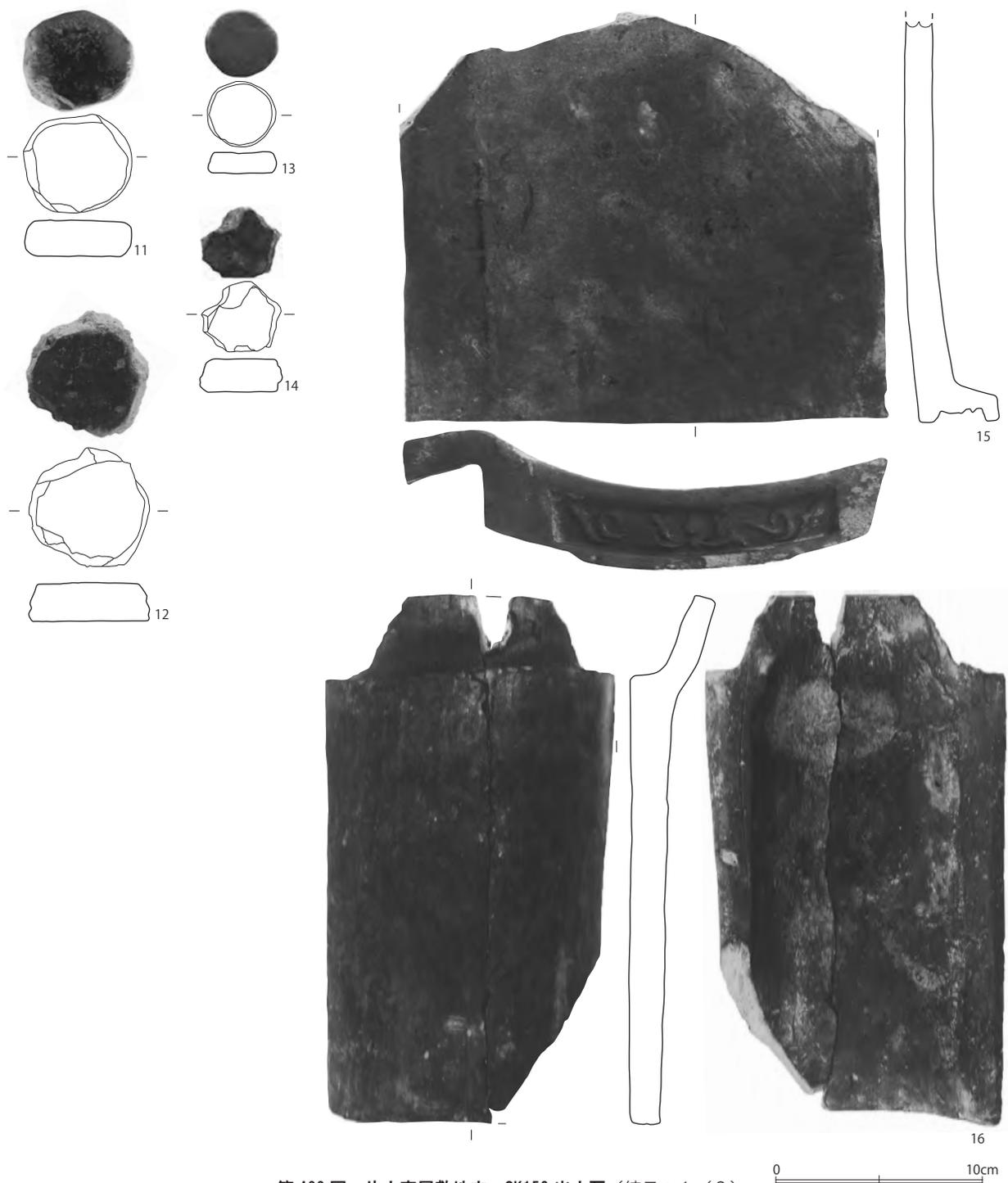
7 は平瓦の二次加工品である。8 は軒丸瓦の瓦当部分である。二次加工品と考えられる。

SD91 (第 420 図)

9 は平瓦の二次加工品である。

SK148 (第 421 図)

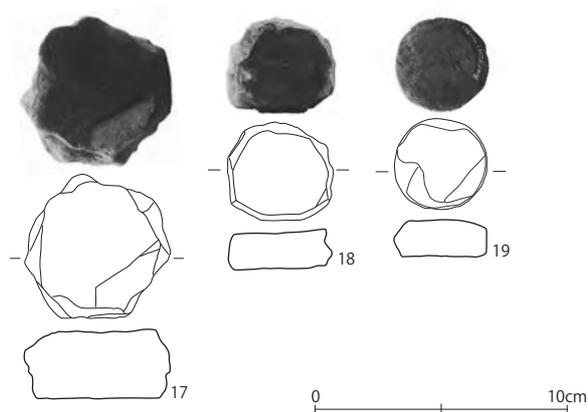
10 は平瓦の二次加工品である。



第422図 片山家屋敷地内 SK156 出土瓦 (縮尺: 1/3)

SK156 (第422図)

11～14は平瓦の二次加工品である。12・14は製作途中と考えられる。15は軒棧瓦である。16は丸瓦である。



第423図 片山家屋敷地内 SD157出土瓦（縮尺：1／3）

SD157（第423図）

17～19は平瓦の二次加工品である。17・18は製作途中と考えられる。

SK164（第424～426図）

20～22は平瓦である。23は丸瓦である。24は軒丸瓦の瓦当部分である。二次加工品と考えられる。25は軒丸瓦である。

SK186（第427図）

26は宝珠文の鬼瓦である。

安富家屋敷地内

SD182（第428図）

27は平瓦の二次加工品である。

太田家屋敷地内

SK45（第429図）

28は平瓦の二次加工品である。

SK47（第430図）

29は平瓦の二次加工品である。

SK71（第431図）

30は軒棧瓦の瓦当部分である。二次加工品と考えられる。31は平瓦の二次加工品である。

SK79（第432図）

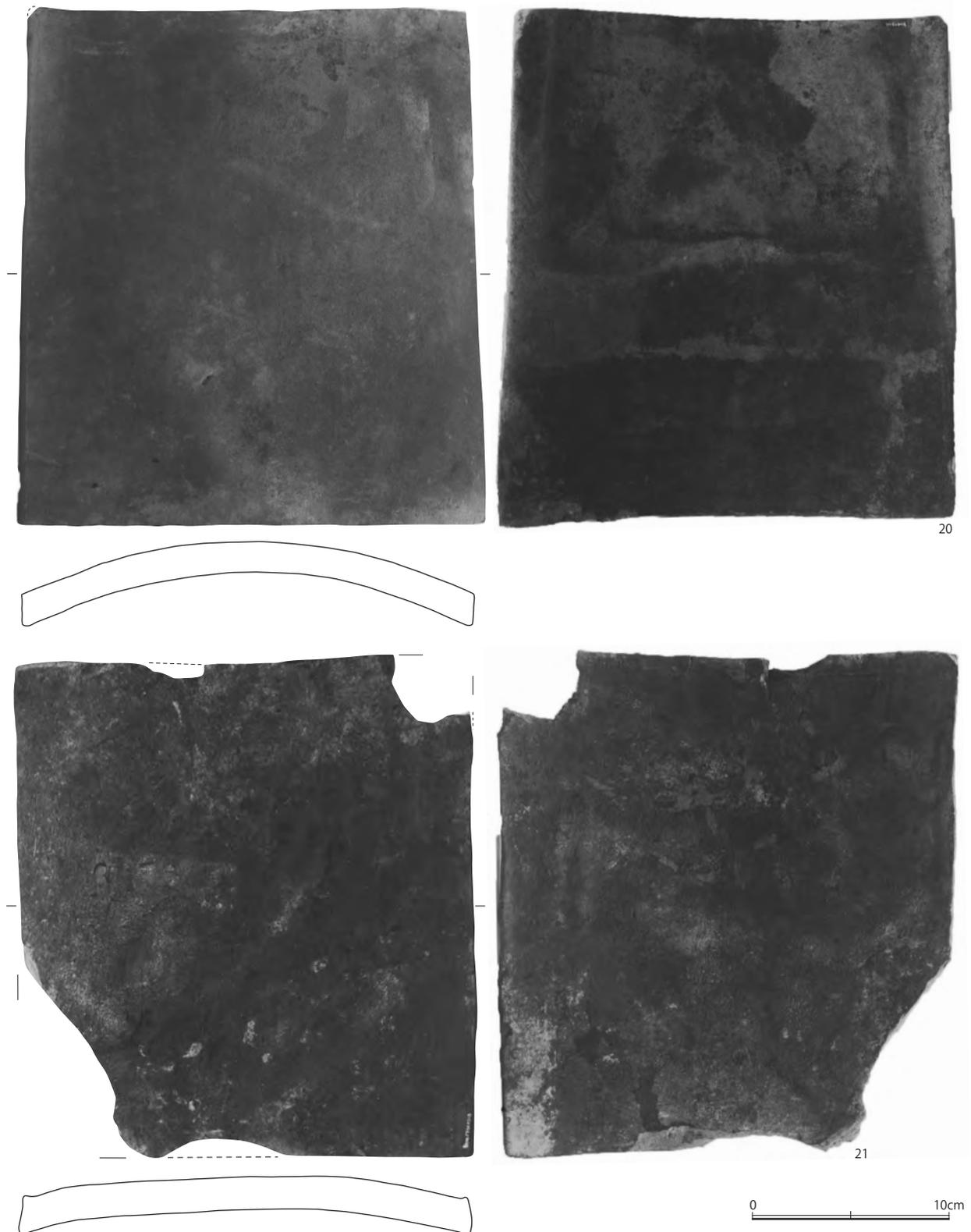
32・33は平瓦の二次加工品である。34は丸瓦である。

SK112（第433図）

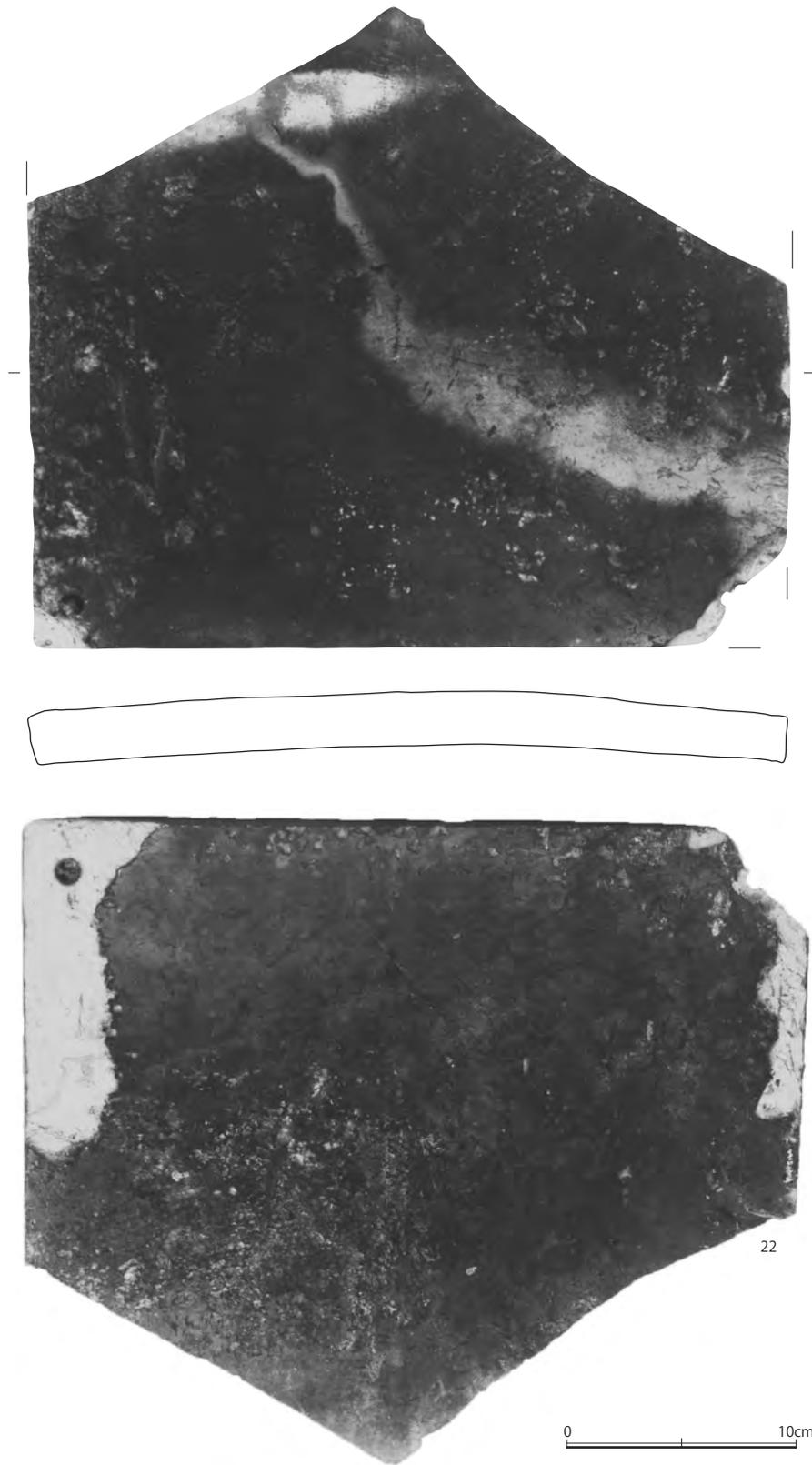
35は平瓦の二次加工品である。

SK172（第434図）

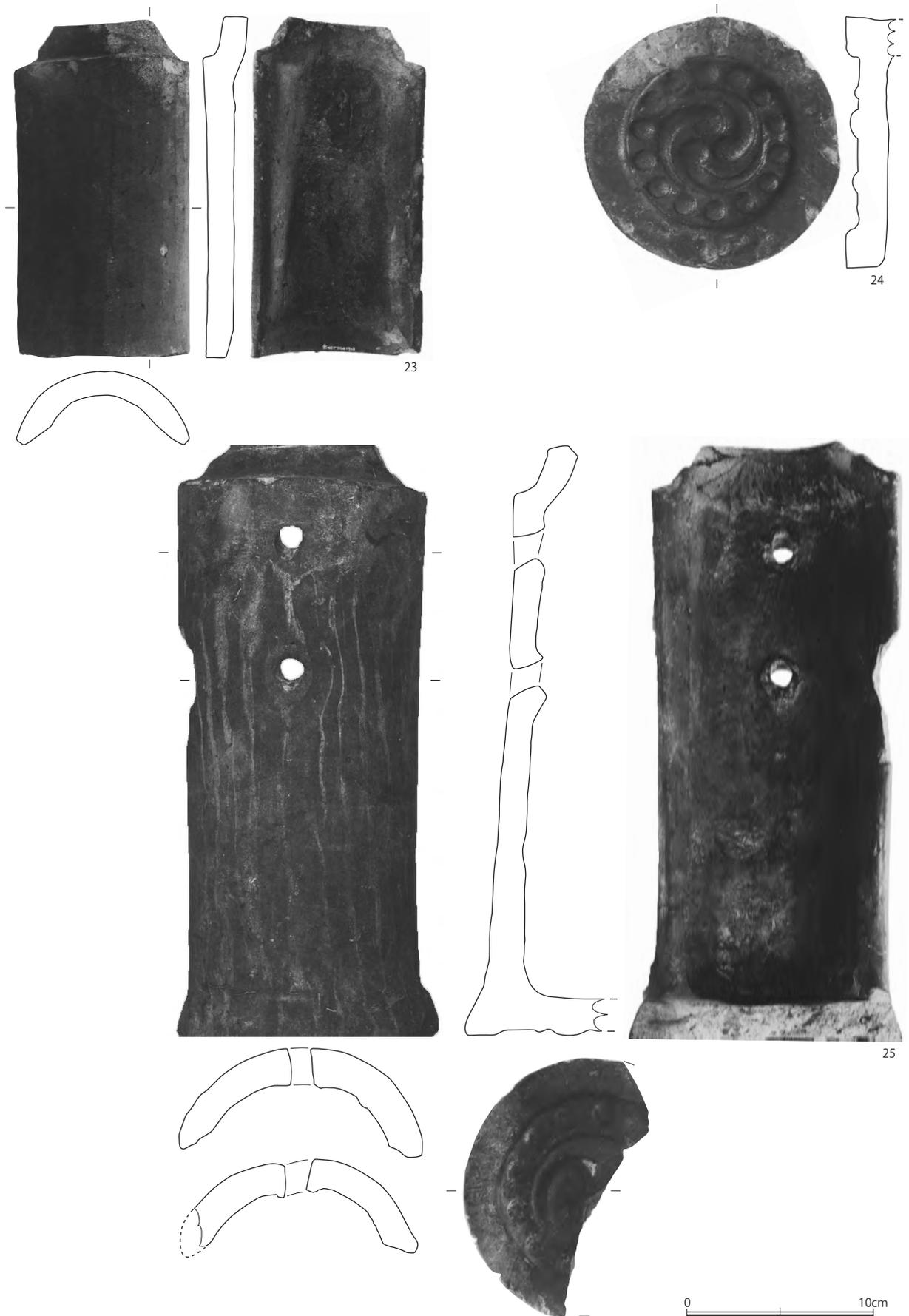
36は平瓦の二次加工品である。



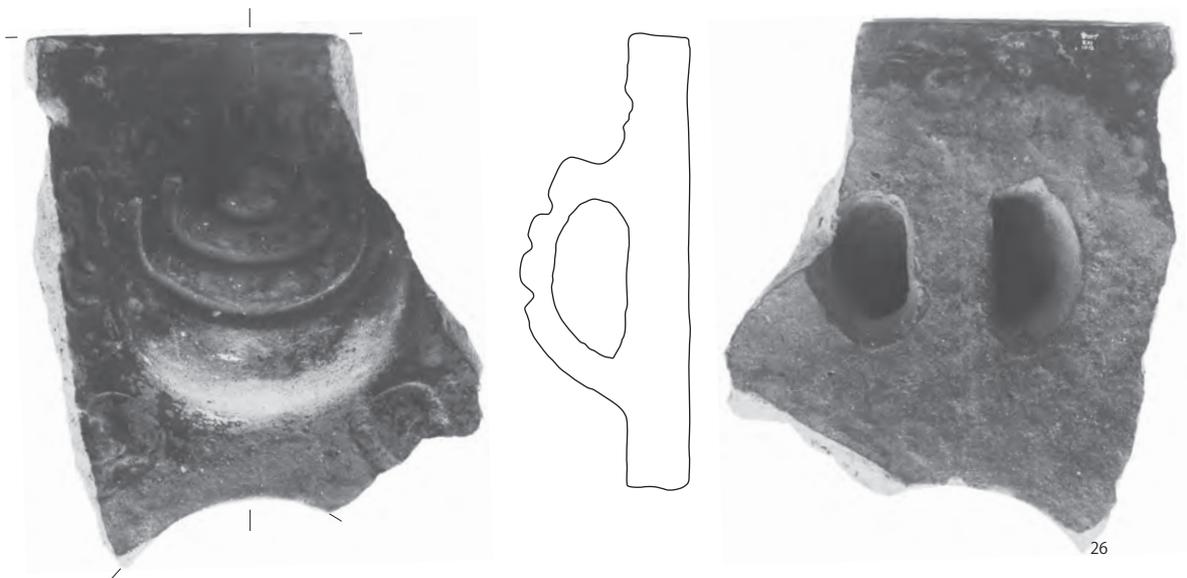
第 424 図 片山家屋敷地内 SK164 出土瓦 (1) (縮尺：1 / 3)



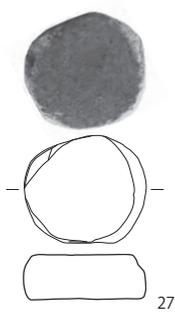
第425圖 片山家屋敷地内 SK164 出土瓦(2) (縮尺: 1/3)



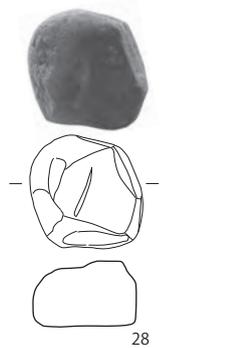
第426図 片山家屋敷地内 SK164出土瓦(3) (縮尺: 1/3)



第 427 図 片山家屋敷地内 SK186 出土瓦 (縮尺: 1/3)



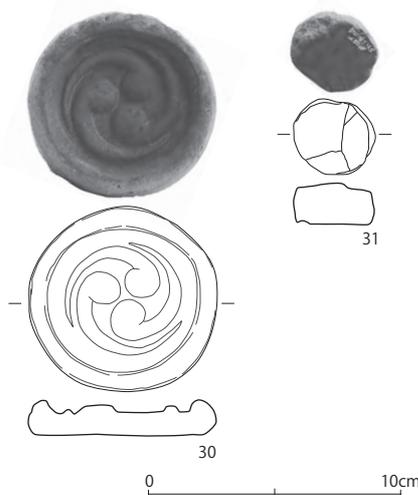
第 428 図 安富家屋敷地内 SD182 出土瓦 (縮尺: 1/3)



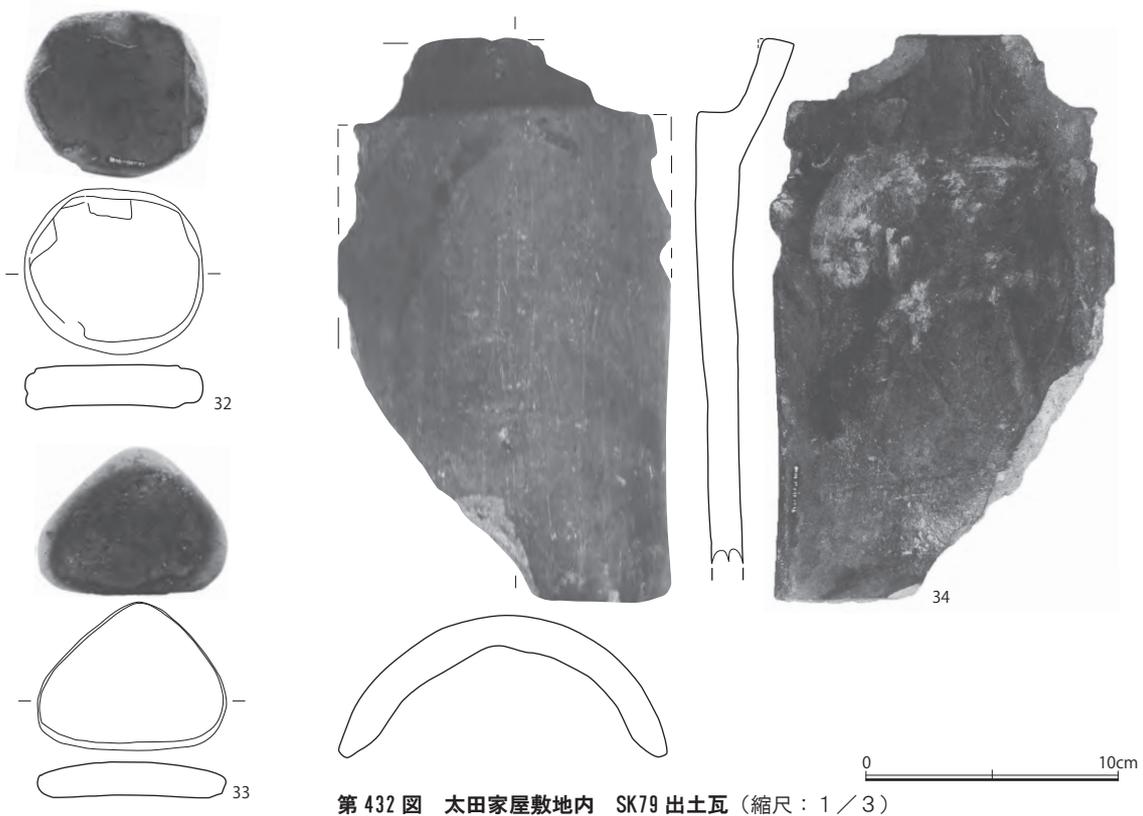
第 429 図 太田家屋敷地内 SK45 出土瓦 (縮尺: 1/3)



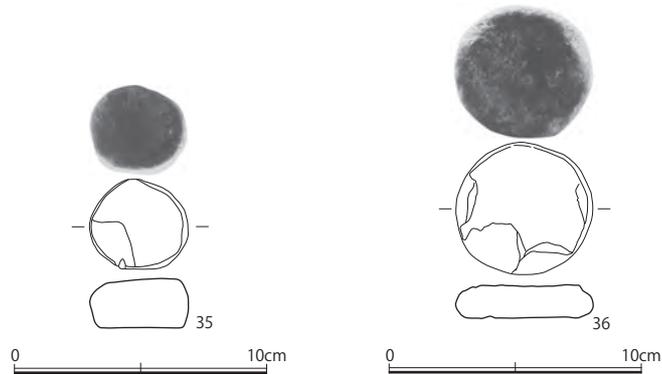
第 430 図 太田家屋敷地内 SK47 出土瓦 (縮尺: 1/3)



第 431 図 太田家屋敷地内 SK71 出土瓦 (縮尺: 1/3)



第 432 図 太田家屋敷地内 SK79 出土瓦 (縮尺: 1/3)



第 433 図 太田家屋敷地内 SK112 出土瓦 (縮尺: 1/3)

第 434 図 太田家屋敷地内 SK172 出土瓦 (縮尺: 1/3)

SK176 (第 435 図)

37 は雁振瓦である。「直右衛門改」の刻印がある。

第 1 遺構面

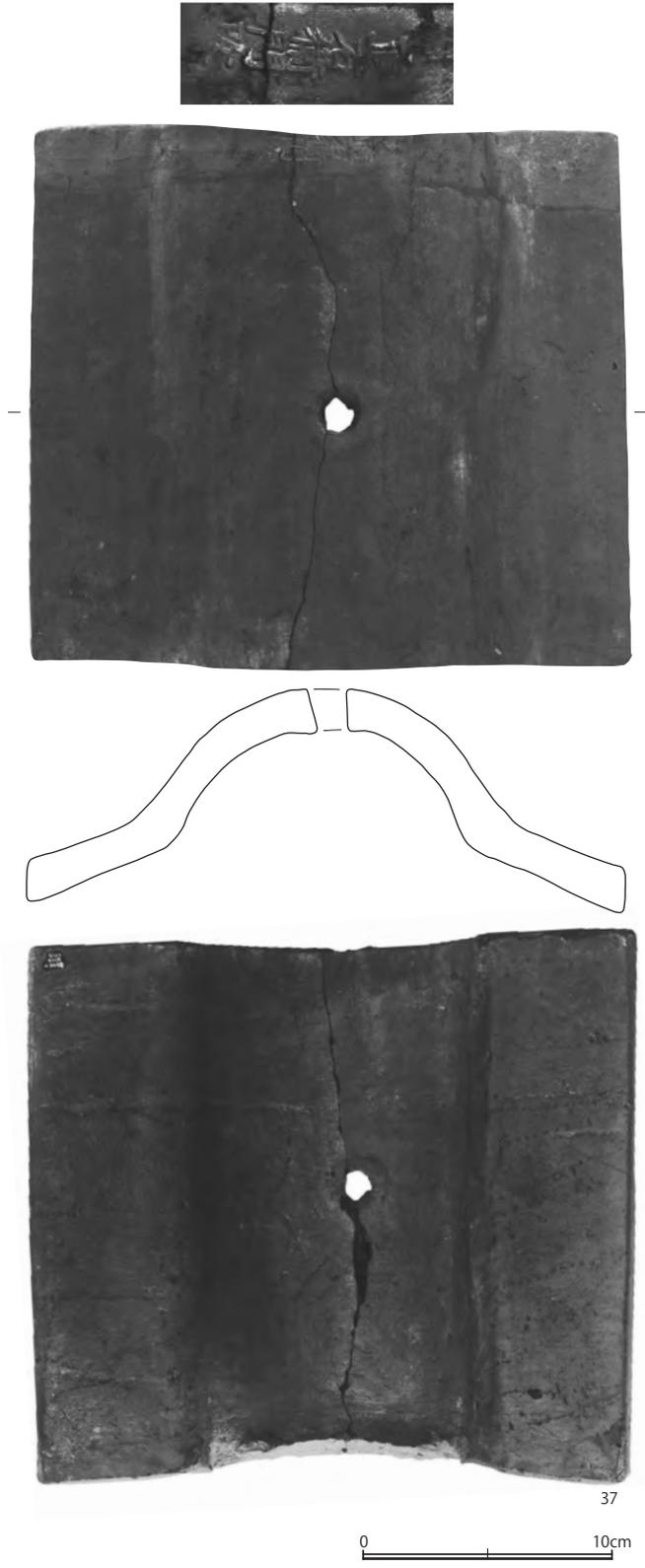
A 下層

池状遺構埋土最上層 (第 436 図)

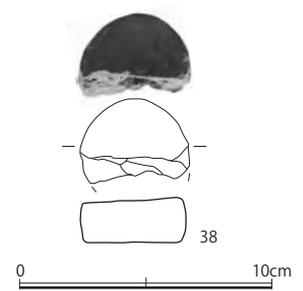
38 は平瓦の二次加工品である。

池状遺構 (第 437 ~ 441 図)

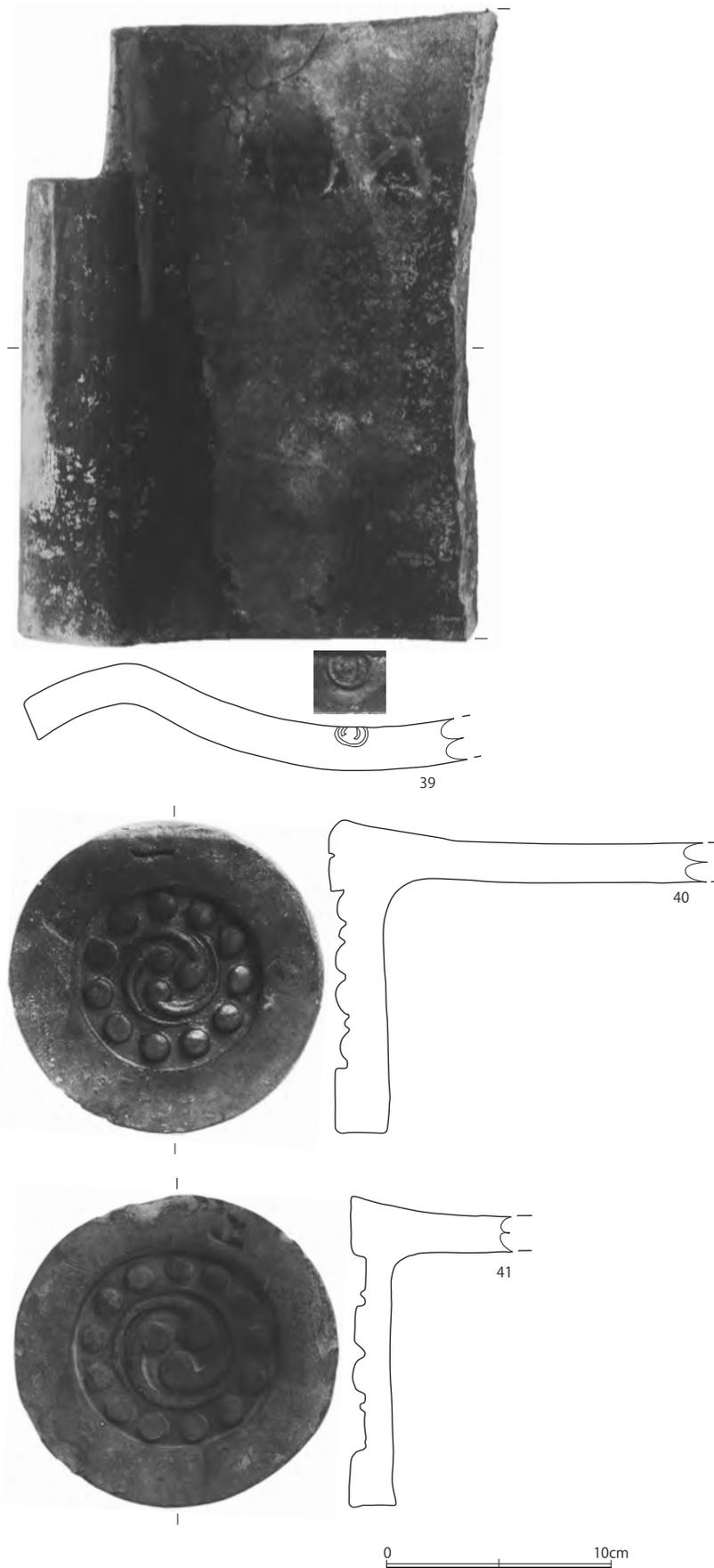
39 は棧瓦である。「㊦」の刻印がある。40 は軒丸瓦である。「一」の刻印がある。41 は軒丸瓦である。



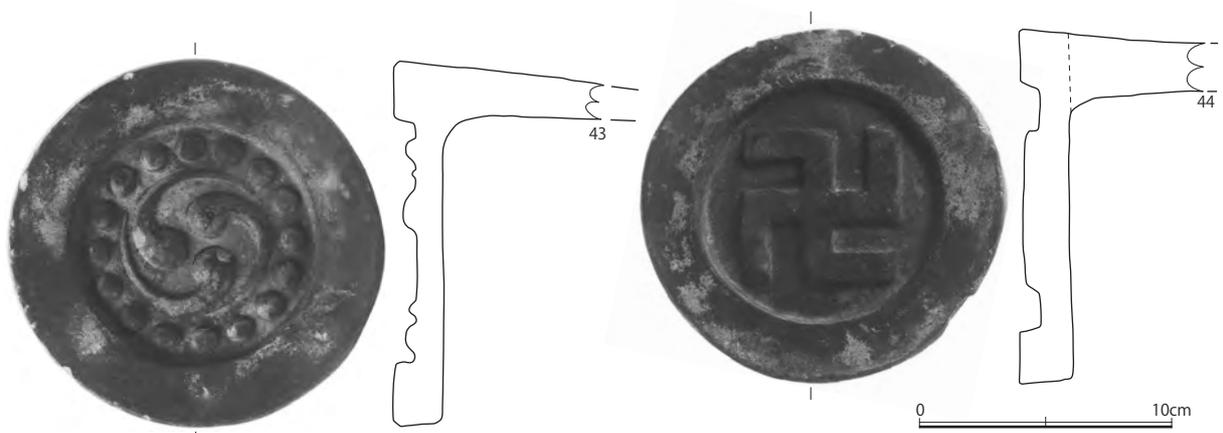
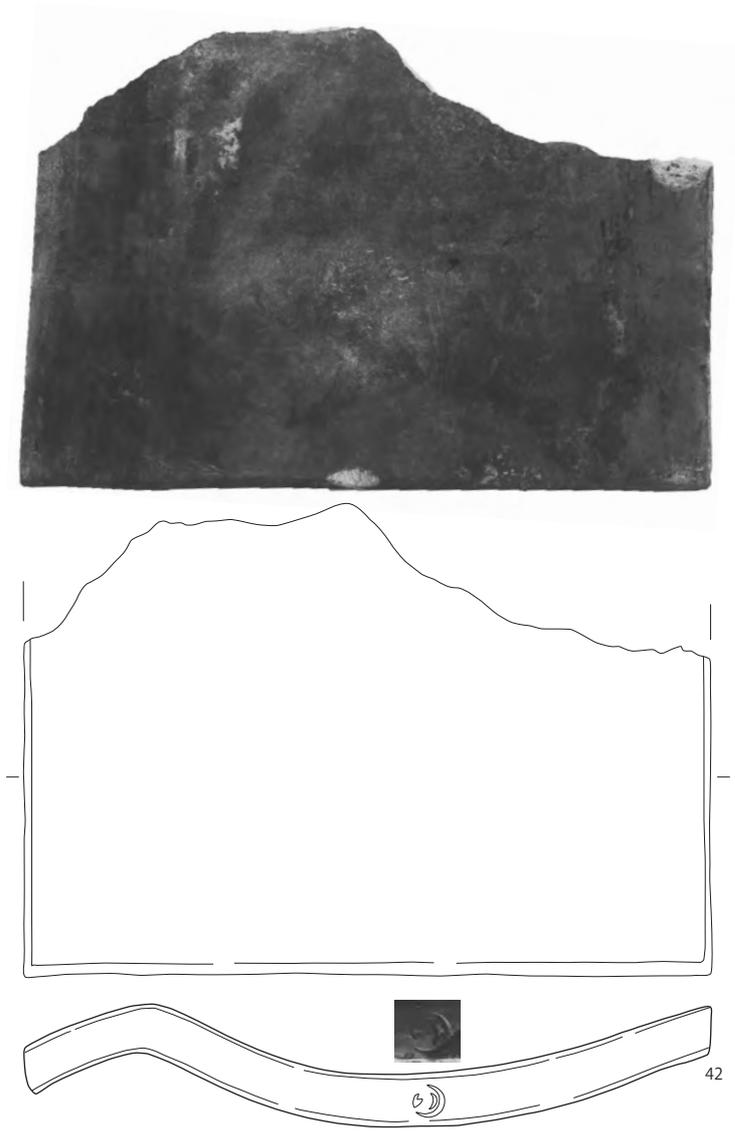
第 435 図 太田家屋敷地内 SK176 出土瓦 (縮尺: 1/3)



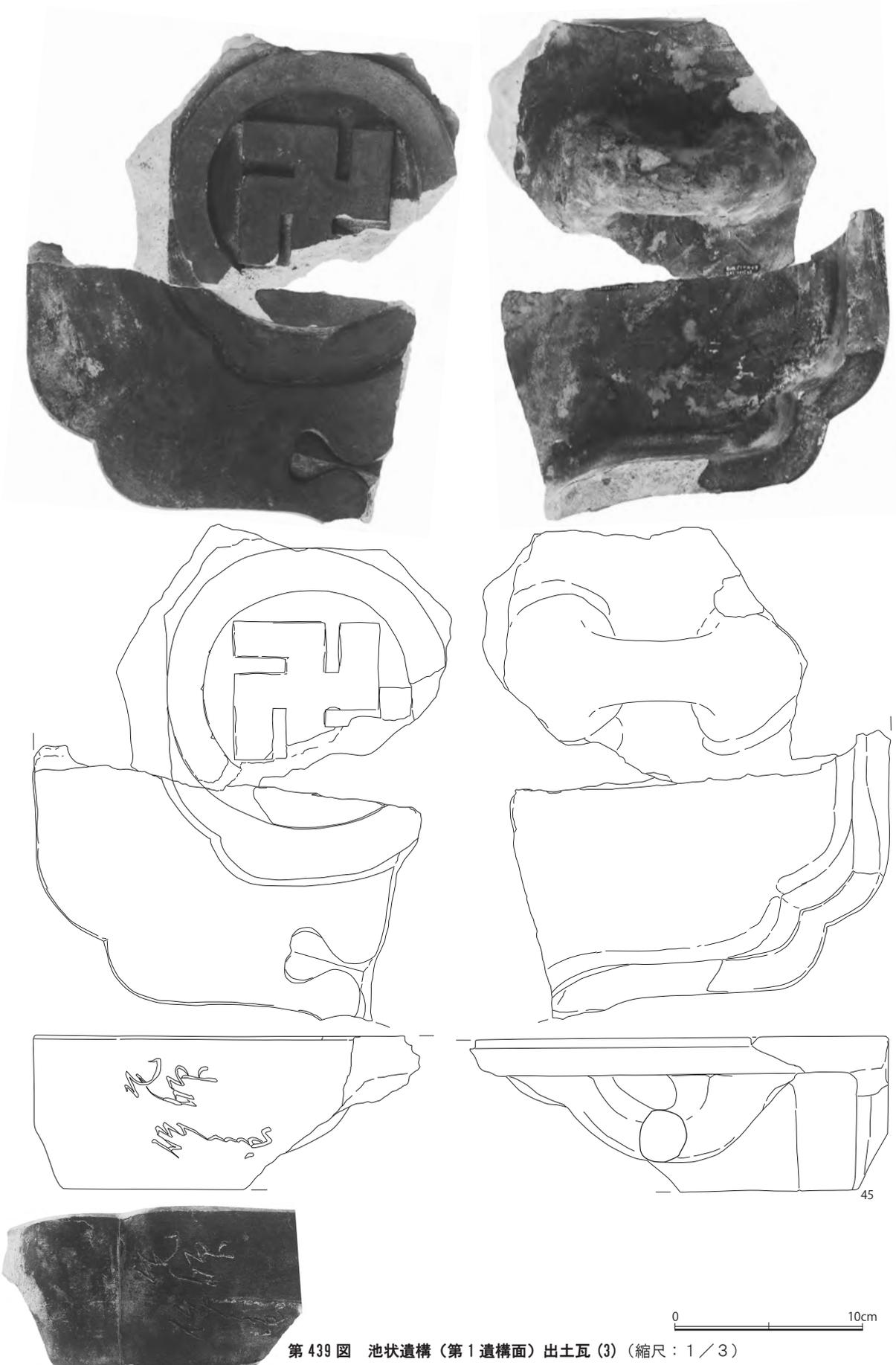
第 436 図 池状遺構 (第 1 遺構面)
埋土最上層出土瓦 (縮尺: 1/3)



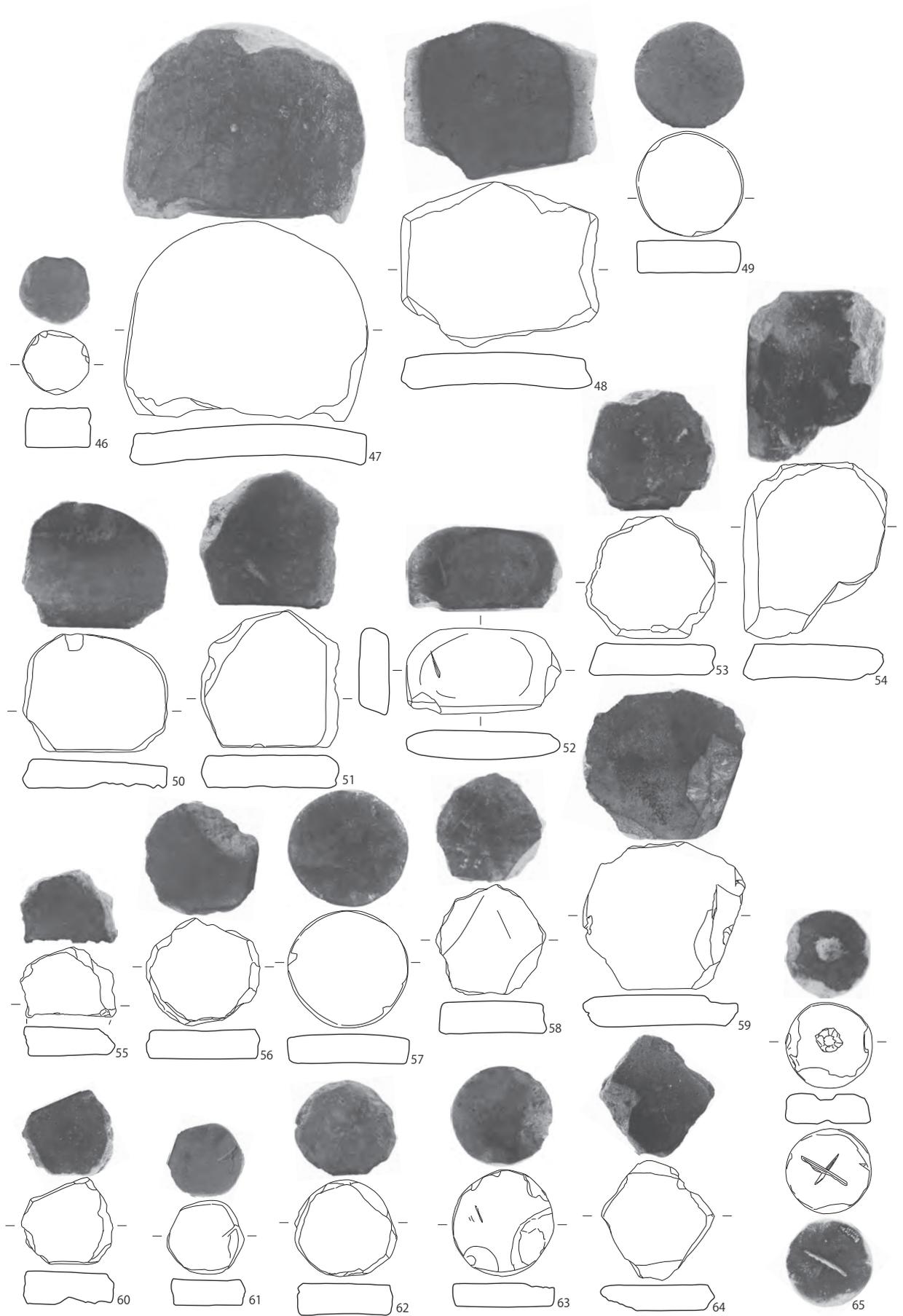
第437図 池状遺構（第1遺構面）出土瓦(1)（縮尺：1/3）



第438圖 池状遺構（第1遺構面）出土瓦（2）（縮尺：1/3）



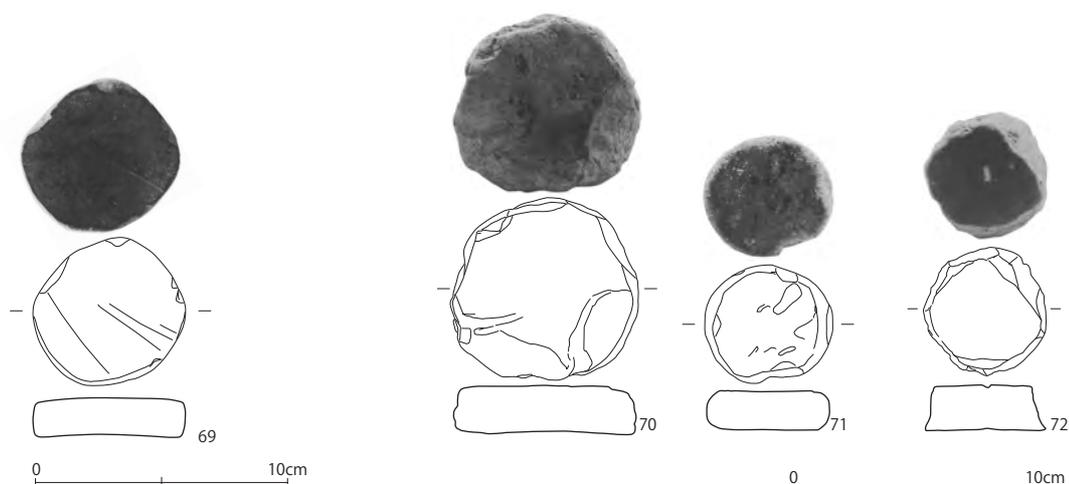
第439図 池状遺構（第1遺構面）出土瓦（3）（縮尺：1／3）



第440圖 池状遺構(第1遺構面)出土瓦(4) (縮尺: 1/3) 0 10cm



第441図 池状遺構（第1遺構面）出土瓦（5）（縮尺：1/3）



第442図 石組み溝2出土瓦 (縮尺: 1/3)

第443図 石組み溝3出土瓦 (縮尺: 1/3)

「上」の刻印がある。42は棧瓦である。「㊦」の刻印がある。43は軒丸瓦である。「㊦」の刻印がある。44は卍文の軒丸瓦である。45は卍文の鬼瓦である。「瓦師 伊兵衛」の線刻がある。46～65は平瓦の二次加工品である。48・51・53は製作途中と考えられる。65は表面に十字の線刻がある。66は鬼瓦の破片である。67は花形の鬼瓦である。68は鬼面の鬼瓦の破片である。

石組み溝2 (第442図)

69は平瓦の二次加工品である。

石組み溝3 (第443図)

70～72は平瓦の二次加工品である。

石組み溝5 (第444図)

73・74は軒丸瓦である。75は平瓦である。76～80は平瓦の二次加工品である。

石組み溝8 (SD23) (第445図)

81は平瓦の二次加工品である。

石組み溝8 (遺物溜り4) (第446図)

82・83は平瓦の二次加工品である。製作途中と考えられる。

石組み溝8 (遺物溜り10) (第447図)

84・85は平瓦の二次加工品である。製作途中と考えられる。

石組み溝8 (遺物溜り15) (第448図)

86は平瓦の二次加工品である。

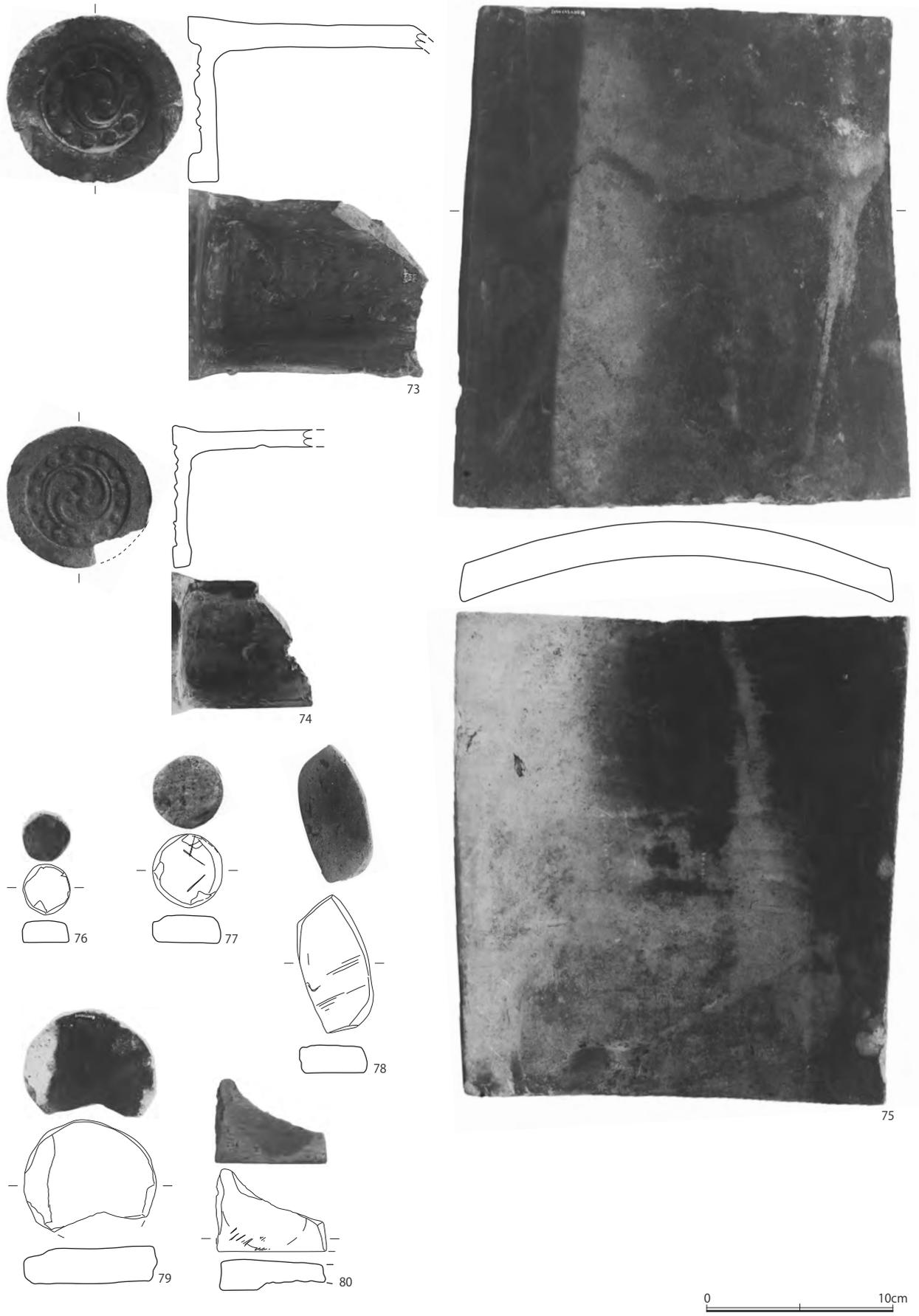
石組み溝9 (遺物溜り9) (第449図)

87・88は平瓦の二次加工品である。88は製作途中と考えられる。

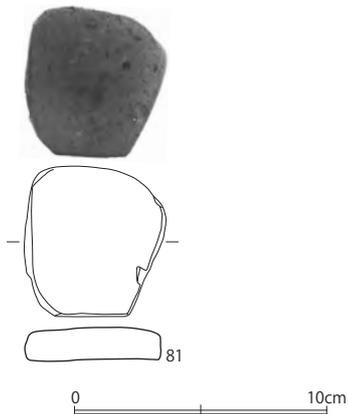
蜂須賀家屋敷地内

SK15 (第450図)

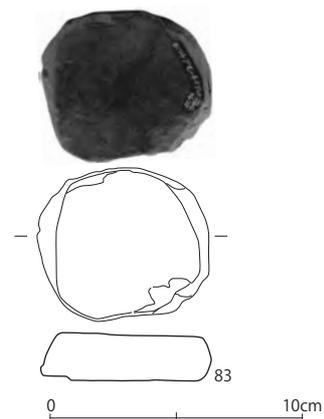
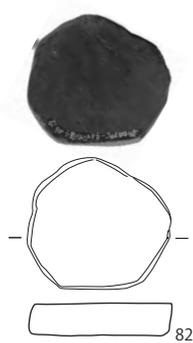
89は軒平瓦の瓦当部分の二次加工品である。



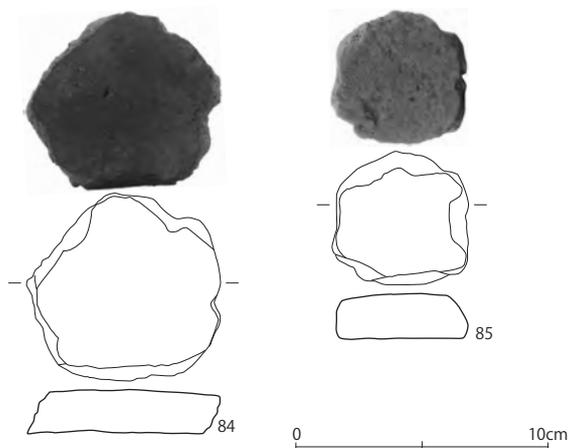
第444図 石組み溝5出土瓦(縮尺:1/3)



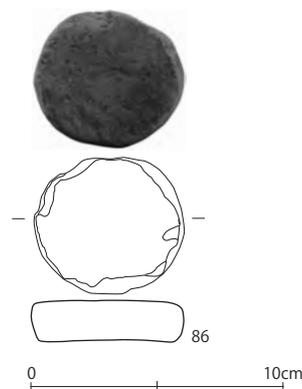
第445図 石組み溝8 (SD23) 出土瓦
(縮尺：1/3)



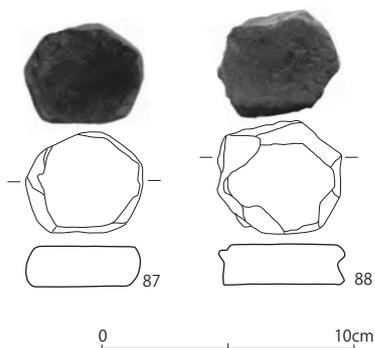
第446図 石組み溝8 (遺物溜り4) 出土瓦 (縮尺：1/3)



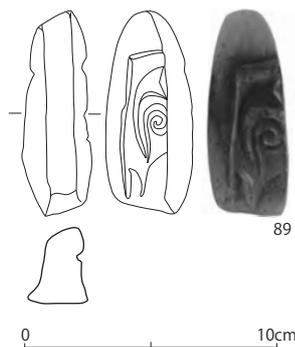
第447図 石組み溝8 (遺物溜り10) 出土瓦 (縮尺：1/3)



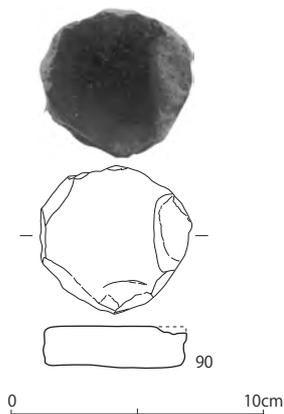
第448図 石組み溝8 (遺物溜り15) 出土瓦
(縮尺：1/3)



第449図 石組み溝9 (遺物溜り9) 出土瓦
(縮尺：1/3)



第450図 蜂須賀家屋敷地内
SK15 出土瓦 (縮尺：1/3)



第451図 蜂須賀家屋敷地内
SK16 出土瓦 (縮尺：1/3)

SK16 (第451図)

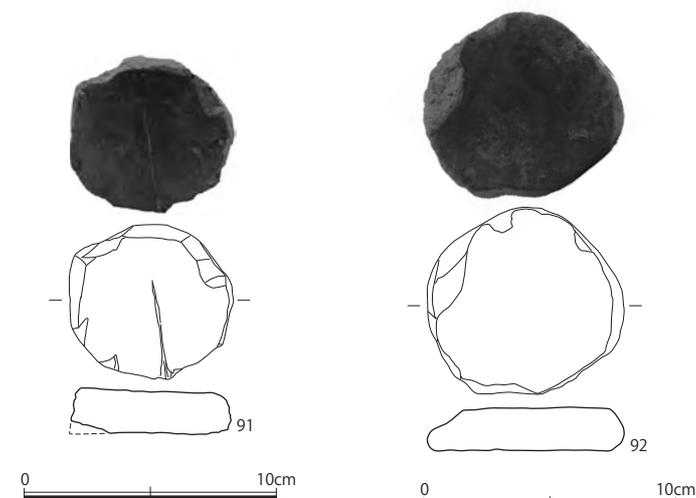
90は平瓦の二次加工品である。

SK17 (第452図)

91は平瓦の二次加工品である。

遺物溜り17 (第453図)

92は平瓦の二次加工品である。



第452図 蜂須賀家屋敷地内
SK17出土瓦 (縮尺: 1/3)

第453図 蜂須賀家屋敷地内
遺物溜り17出土瓦 (縮尺: 1/3)

片山家屋敷地内

SD22 (第454～464図)

93～121は丸瓦である。122は平瓦である。

SK29 (第465図)

123は軒棧瓦の瓦当部分である。124・125は平瓦の二次加工品である。125は製作途中と考えられる。

SK60 (第466図)

126は平瓦の二次加工品である。

SK73 (第467・468図)

127～129は棧瓦である。130は軒丸瓦の瓦当部分の二次加工品である。

SK135 (第469図)

131は平瓦の二次加工品である。

B 上層

SD06 (第470図)

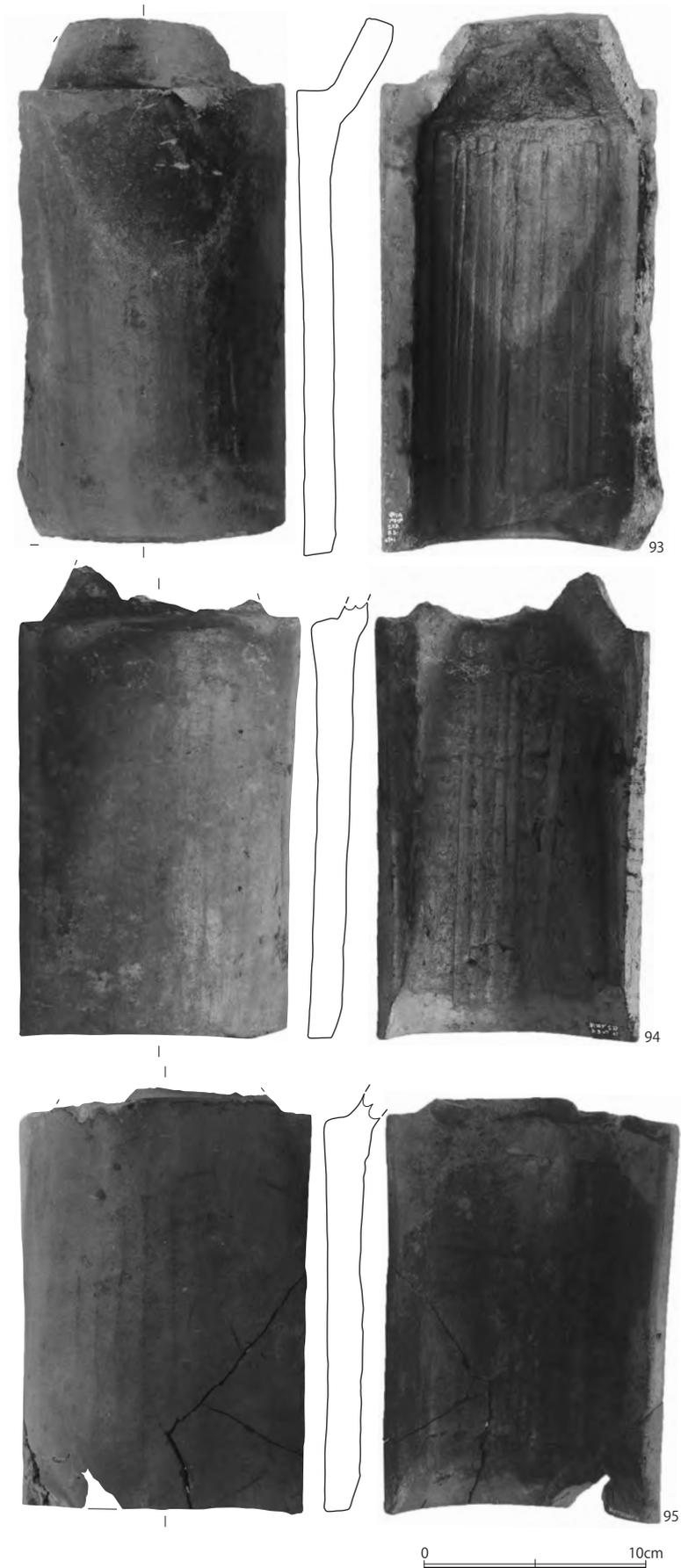
132は平瓦の二次加工品である。

包含層 (第471～473図)

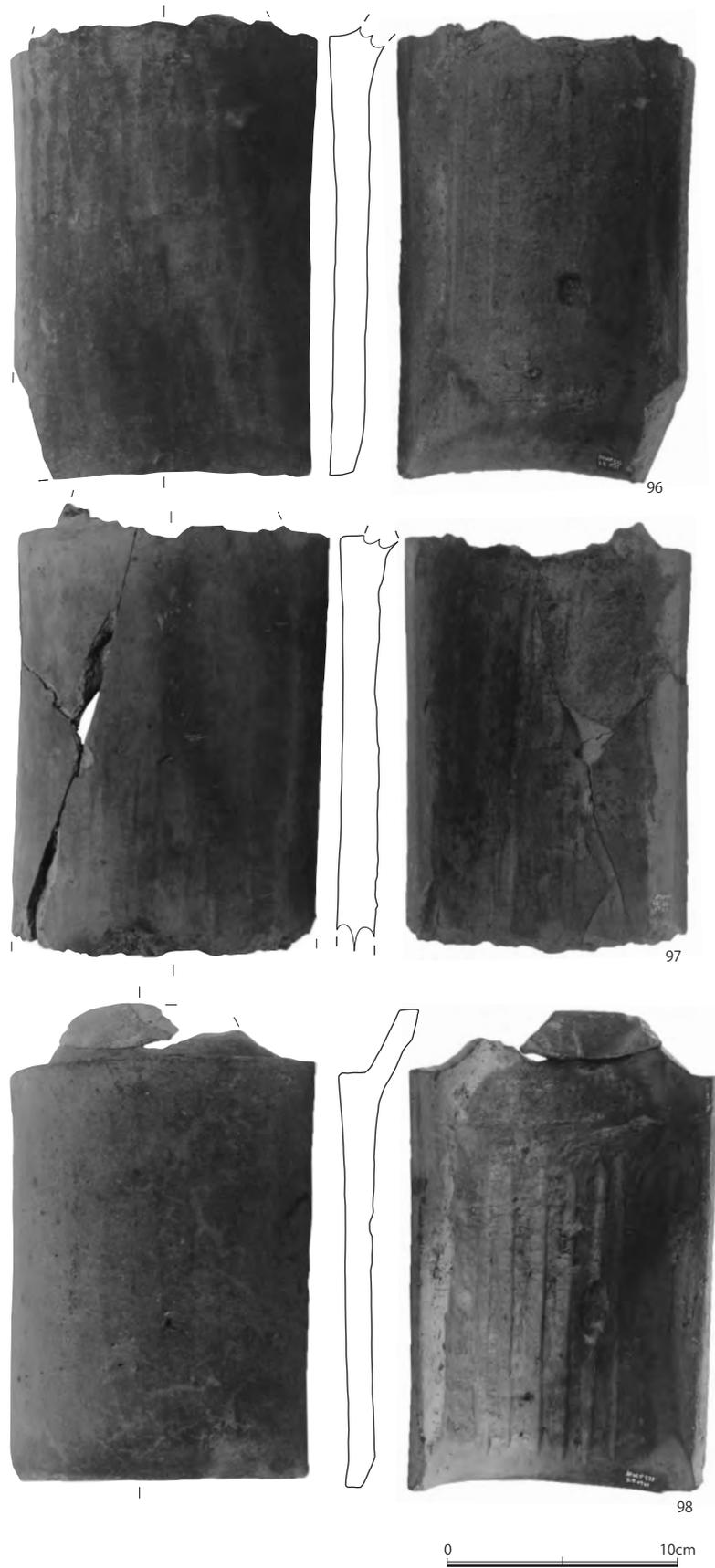
133・134は軒丸瓦である。135・136は平瓦の二次加工品である。136は表面に十字の線刻が施されている。137は軒丸瓦である。138～140は丸瓦である。

攪乱 (第474図)

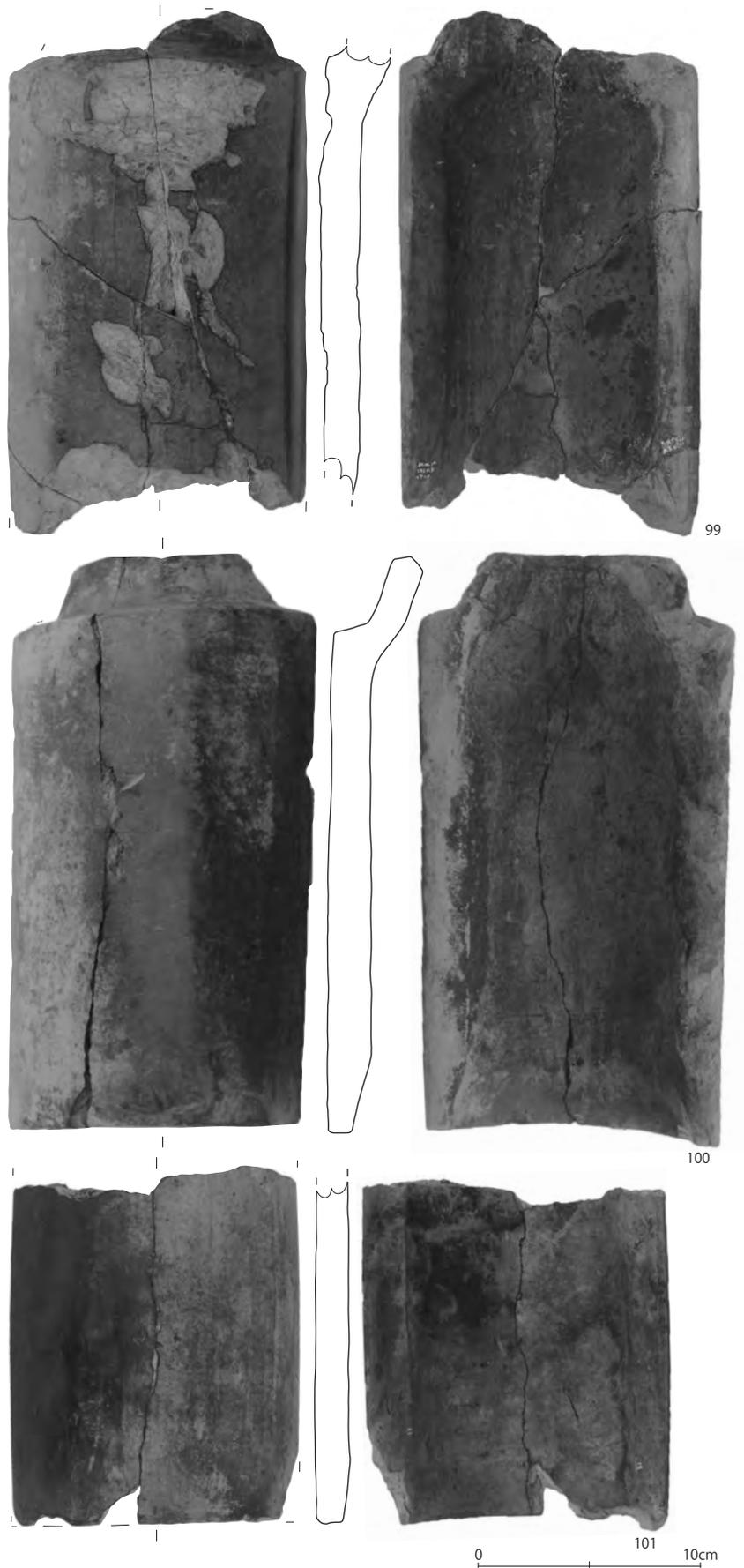
141は鳥衾の破片である。142は軒平瓦である。「犬伏 増原」の刻印がある。



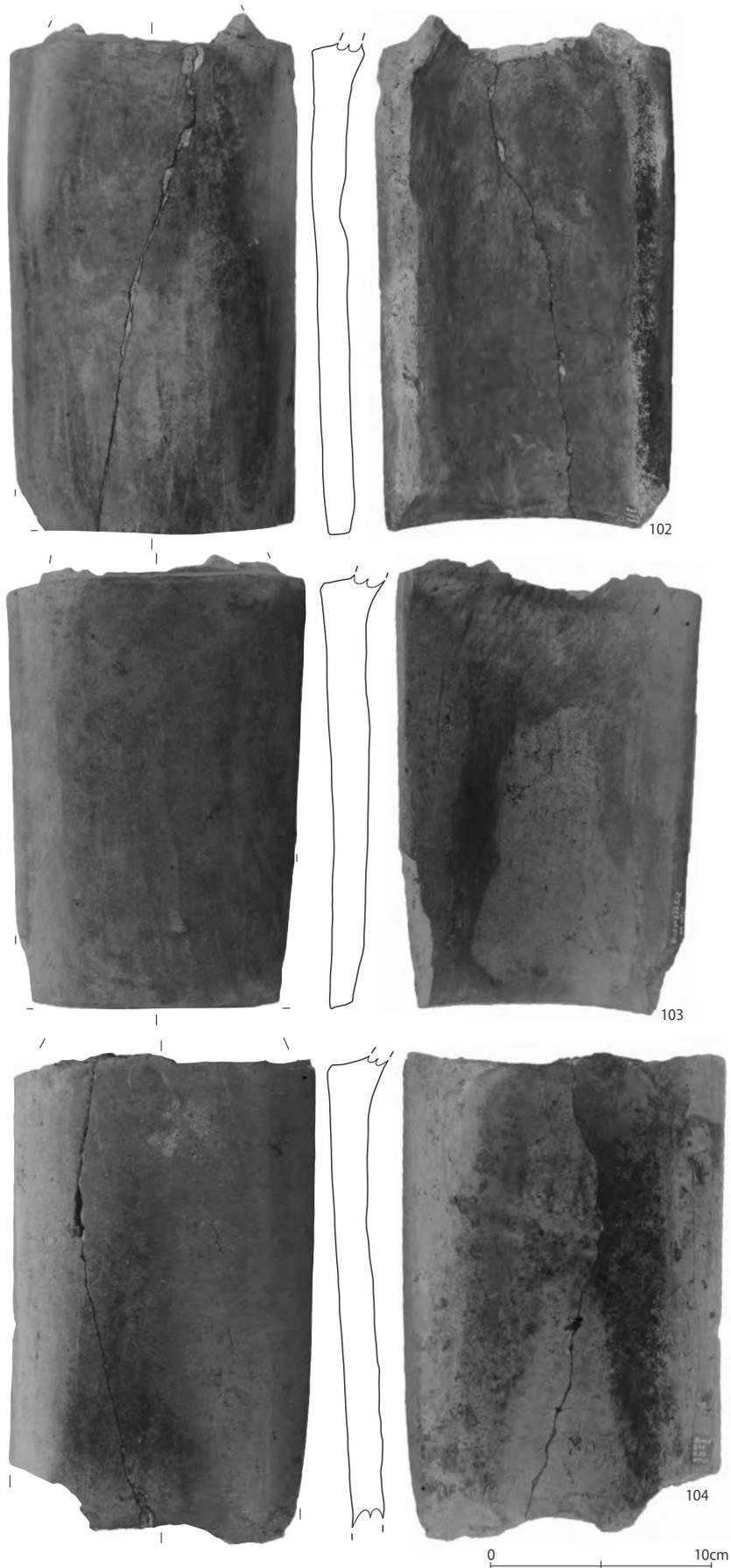
第 454 図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦 (1) (縮尺 : 1 / 3)



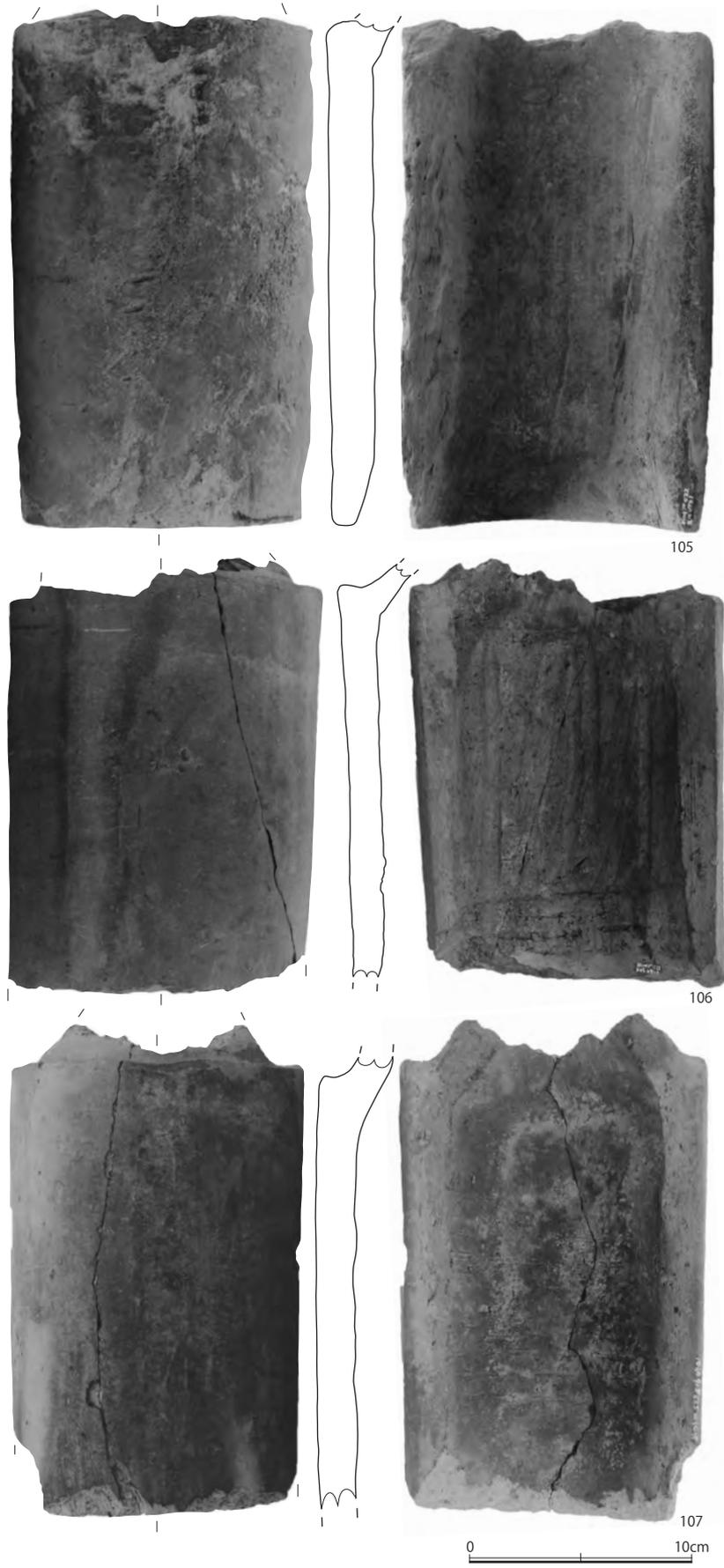
第455図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦(2) (縮尺: 1/3)



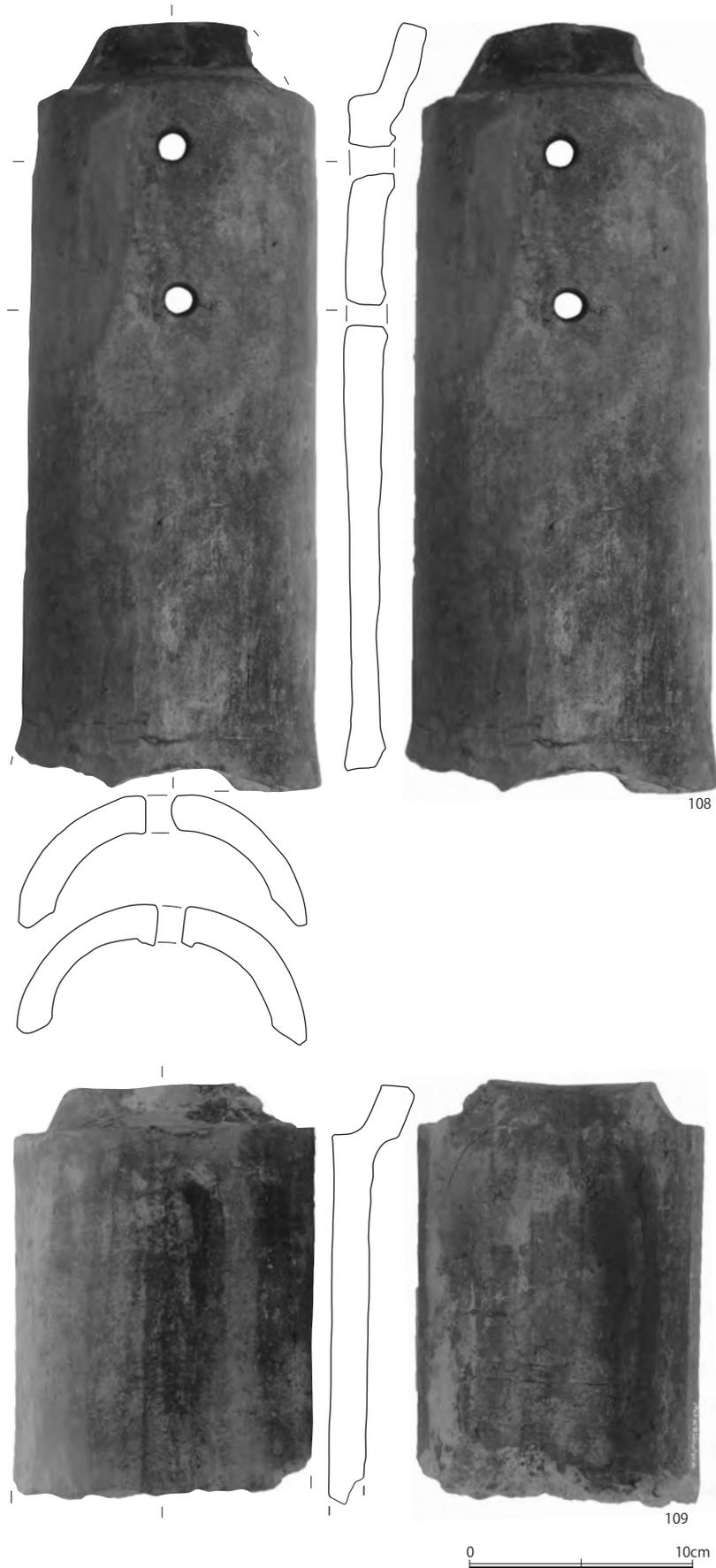
第456図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦 (3) (縮尺：1/3)



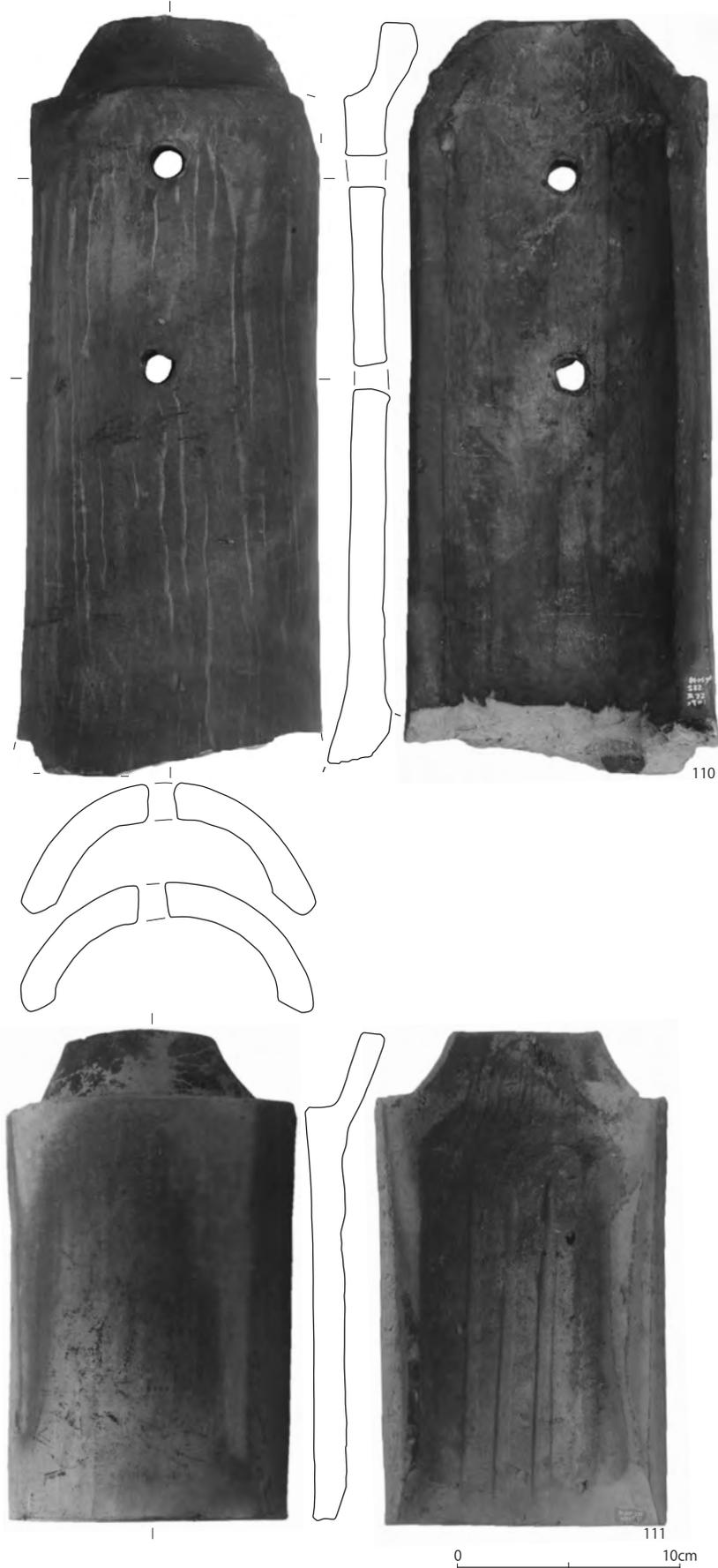
第457図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦(4) (縮尺: 1/3)



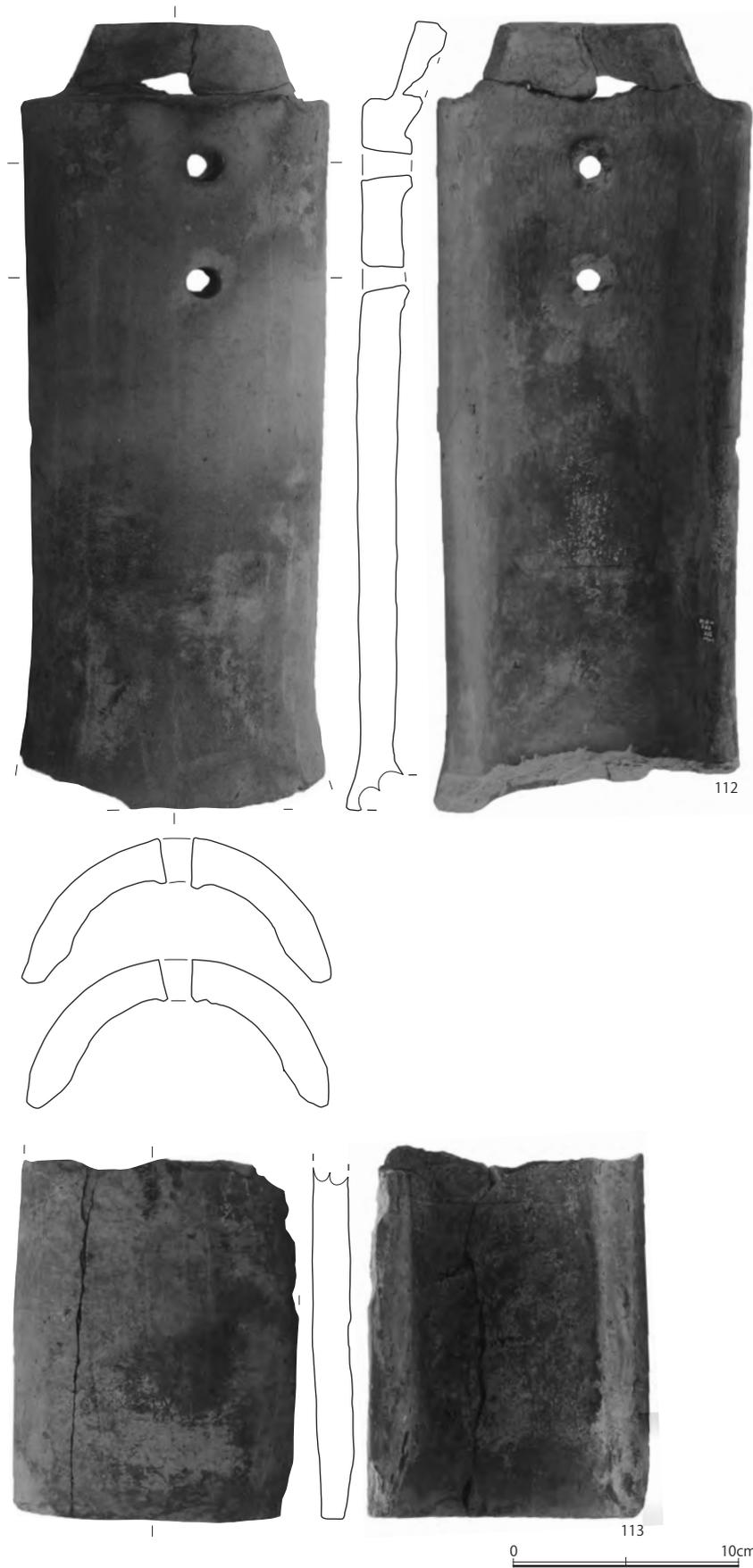
第458圖 片山家屋敷地内 SD22出土瓦(5) (縮尺: 1/3)



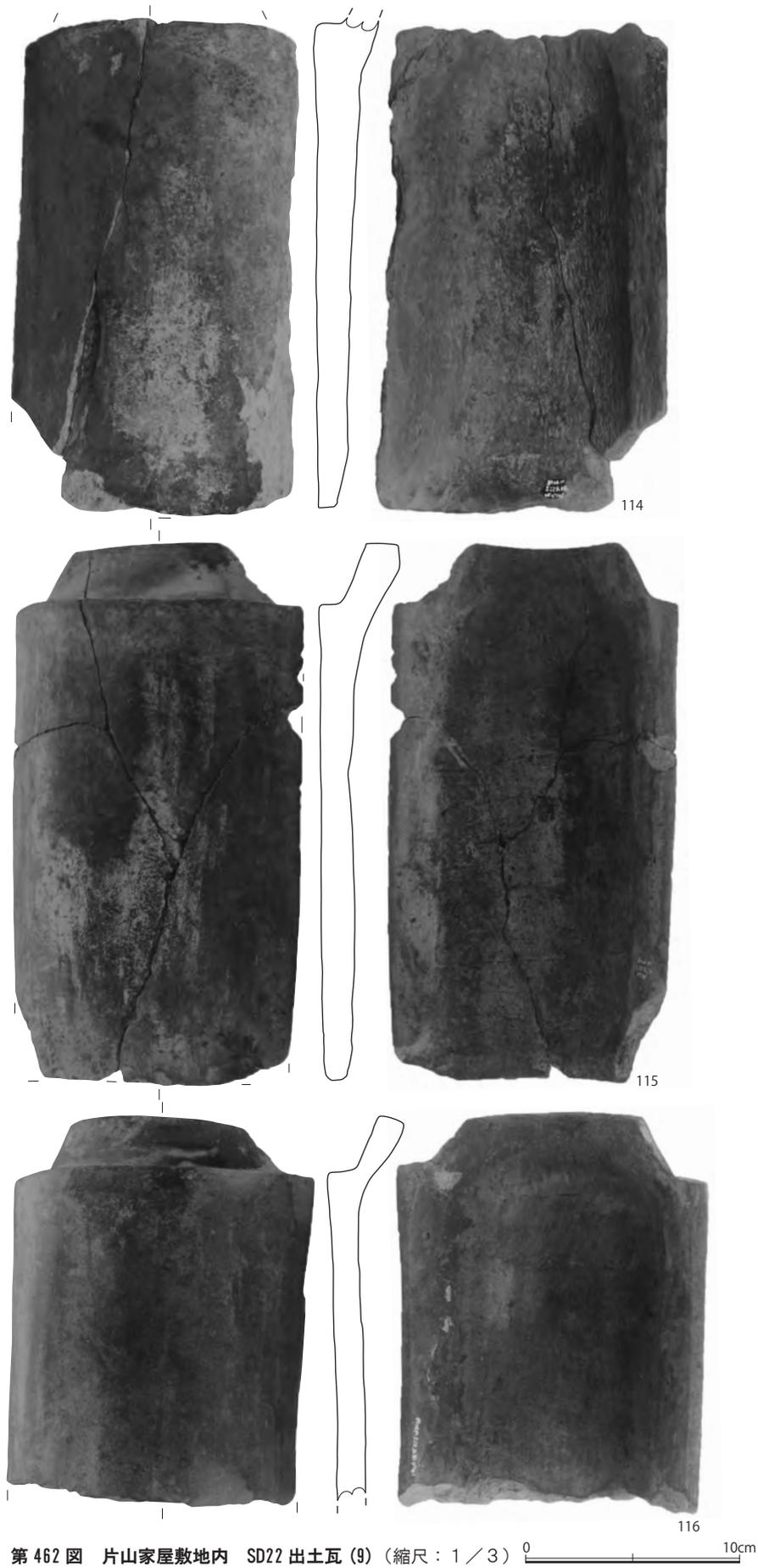
第459図 片山家屋敷敷地内 SD22 出土瓦(6) (縮尺: 1/3)



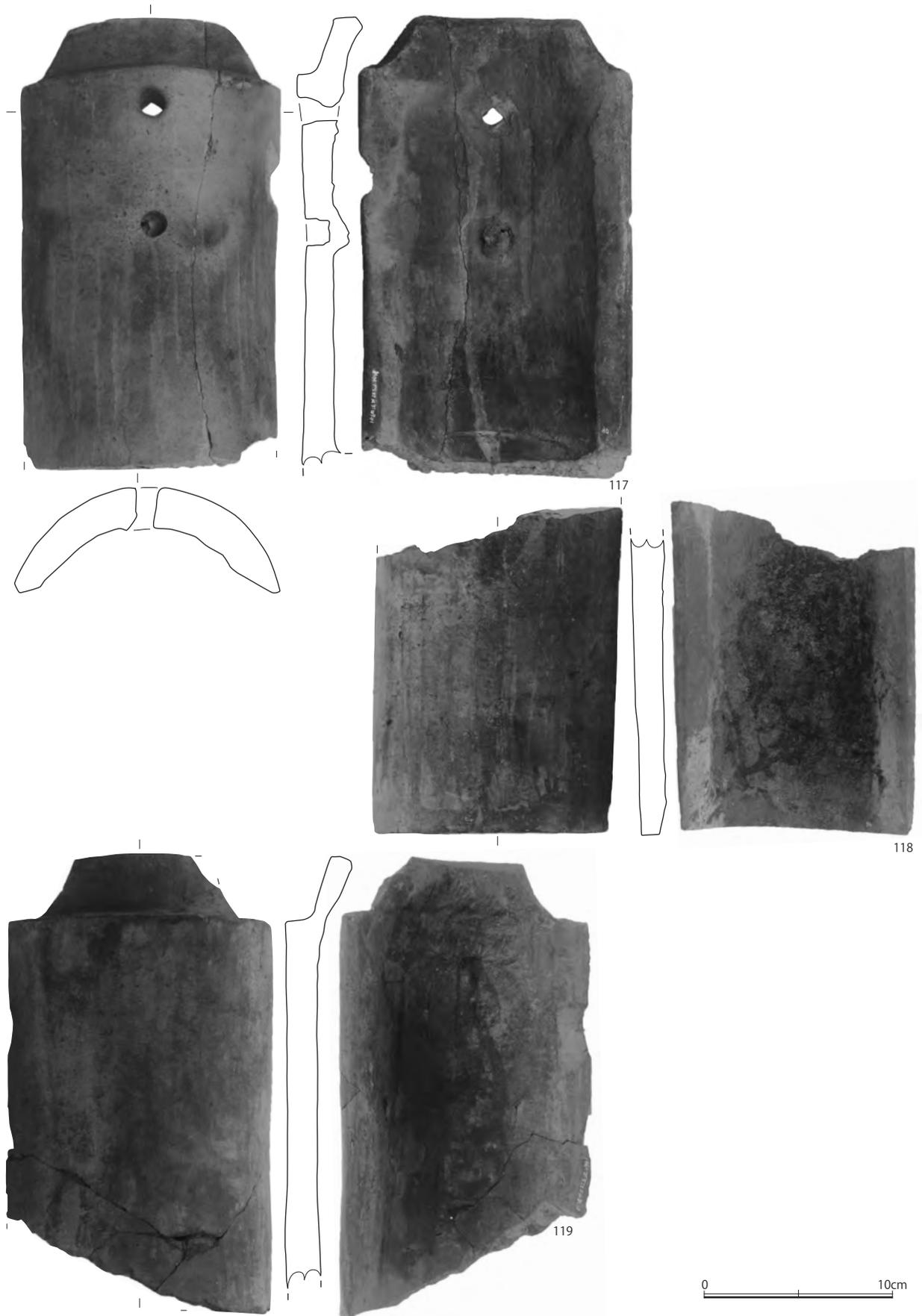
第460図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦 (7) (縮尺：1/3)



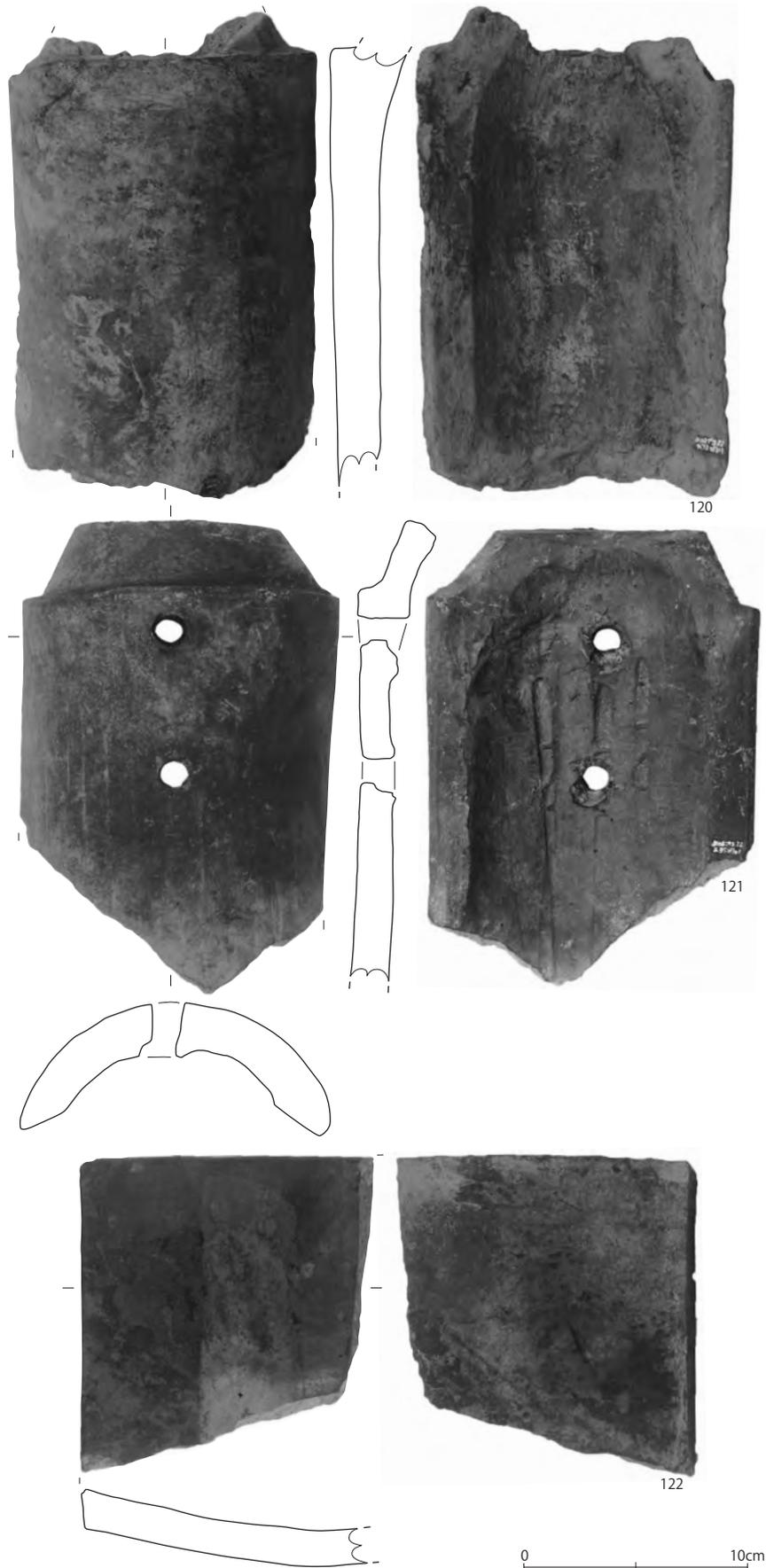
第461図 片山家屋敷地内 SD22出土瓦(8) (縮尺: 1/3)



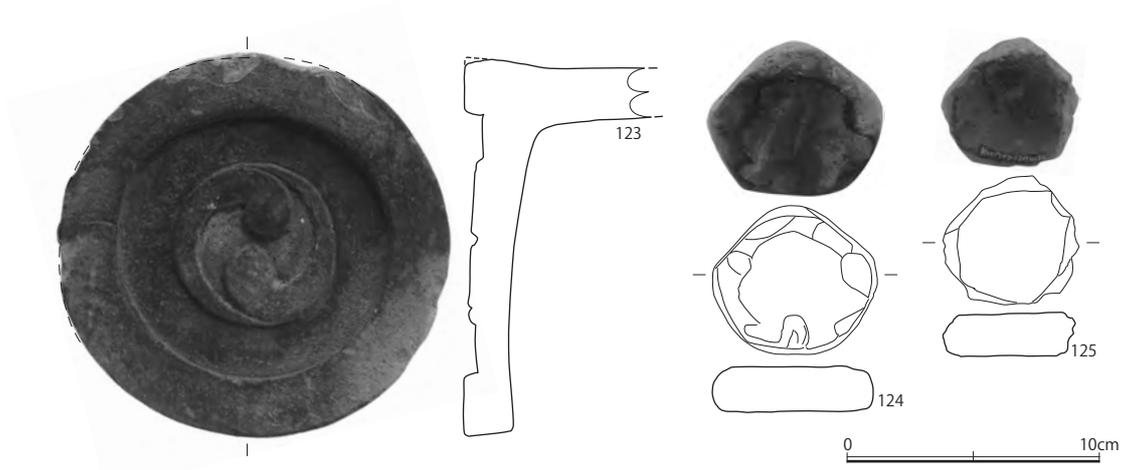
第 462 図 片山家屋敷敷地内 SD22 出土瓦 (9) (縮尺: 1 / 3) 0 10cm



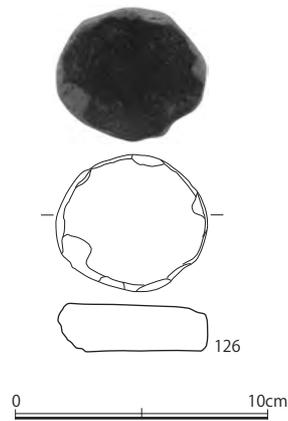
第463図 片山家屋敷地内 SD22出土瓦(10) (縮尺: 1/3)



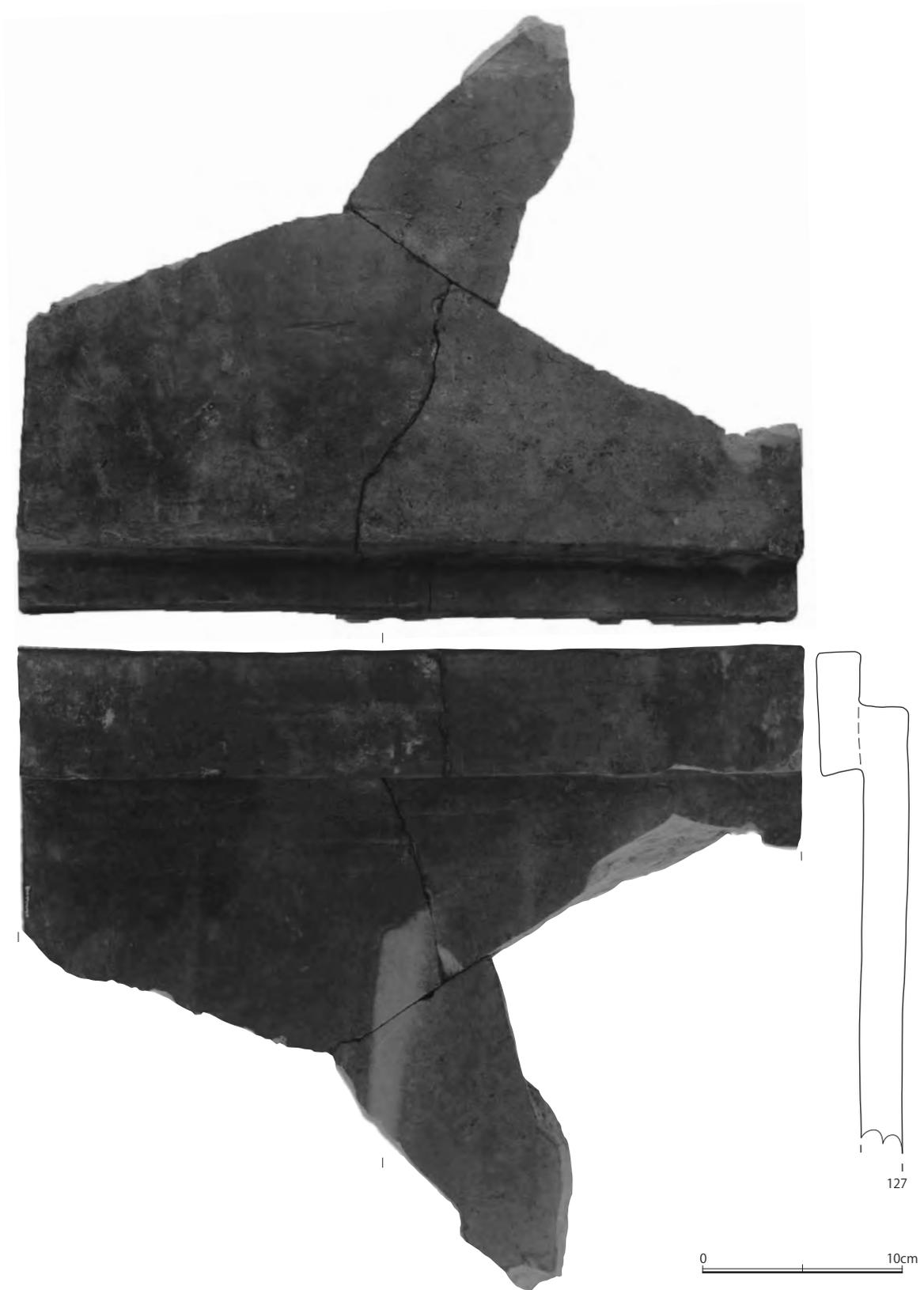
第464図 片山家屋敷地内 SD22 出土瓦(11) (縮尺: 1/3)



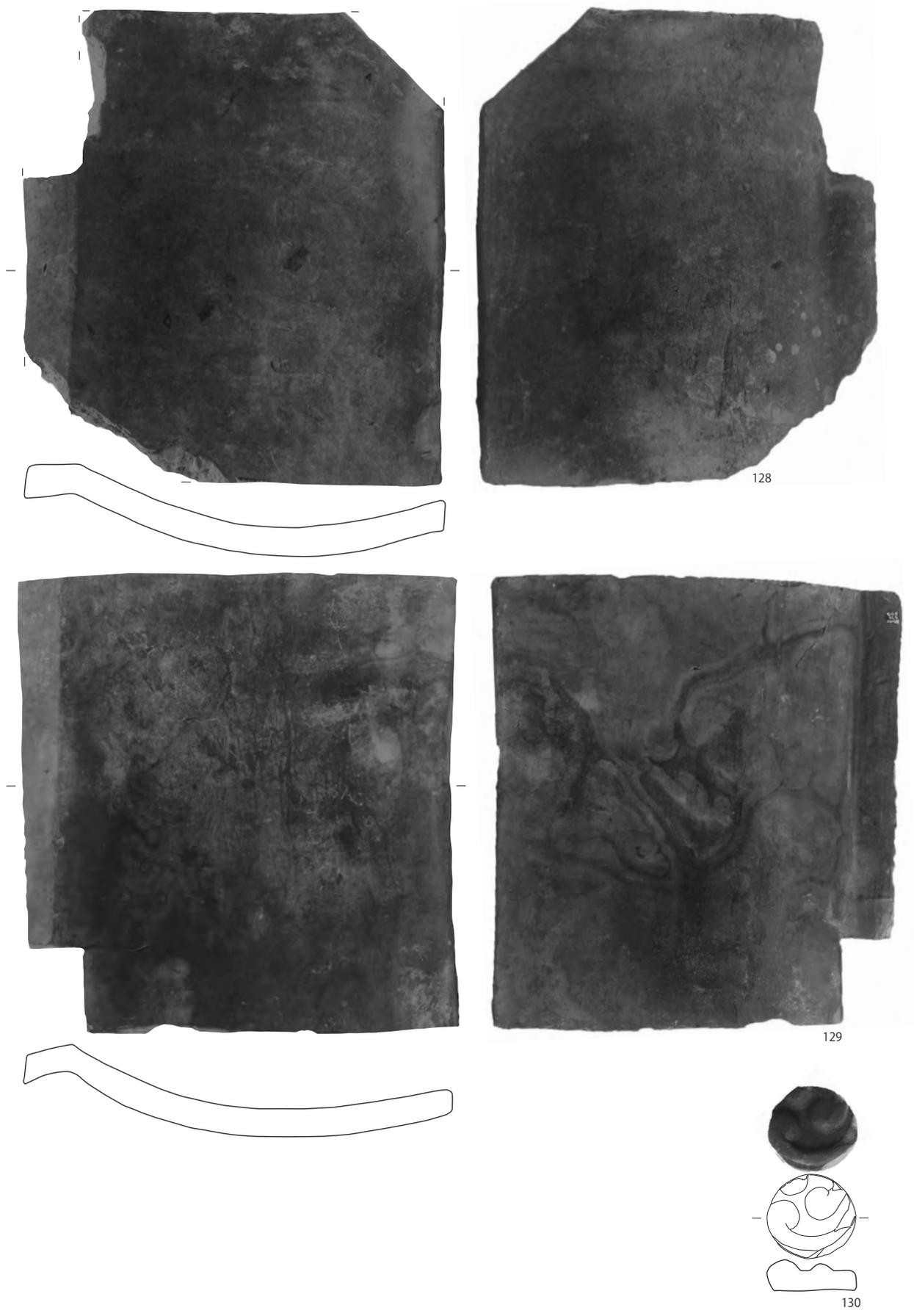
第465図 片山家屋敷地内 SK29 出土瓦（縮尺：1／3）



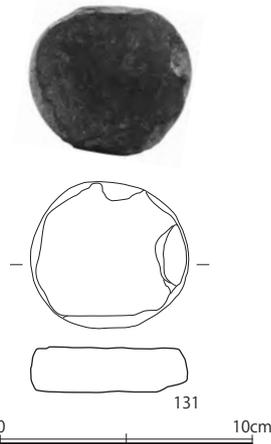
第466図 片山家屋敷地内 SK60
出土瓦（縮尺：1／3）



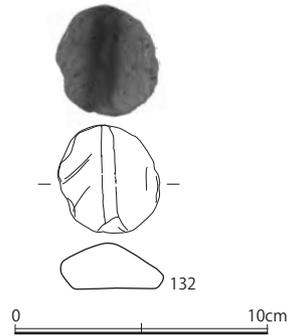
第 467 図 片山家屋敷地内 SK73 出土瓦 (1) (縮尺 : 1 / 3)



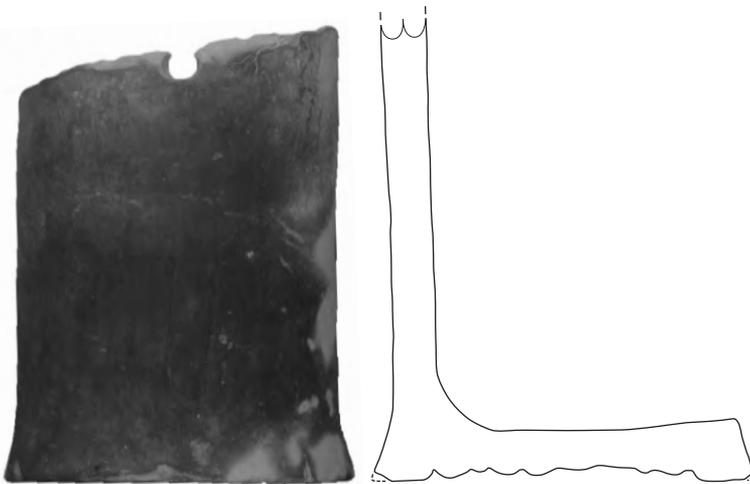
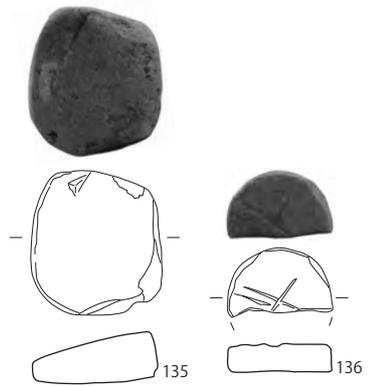
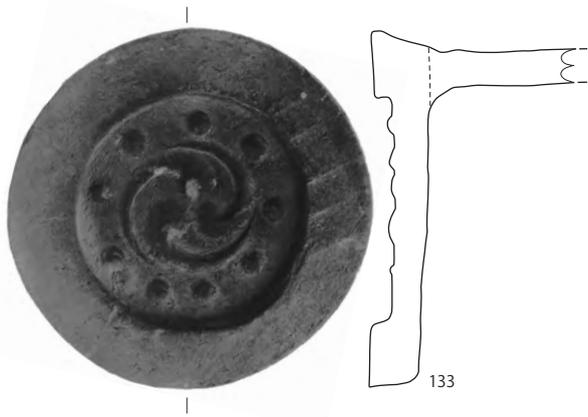
第 468 図 片山家屋敷地内 SK73 出土瓦 (2) (縮尺 : 1 / 3)



第469図 片山家屋敷地内 SK135
出土瓦 (縮尺: 1/3)

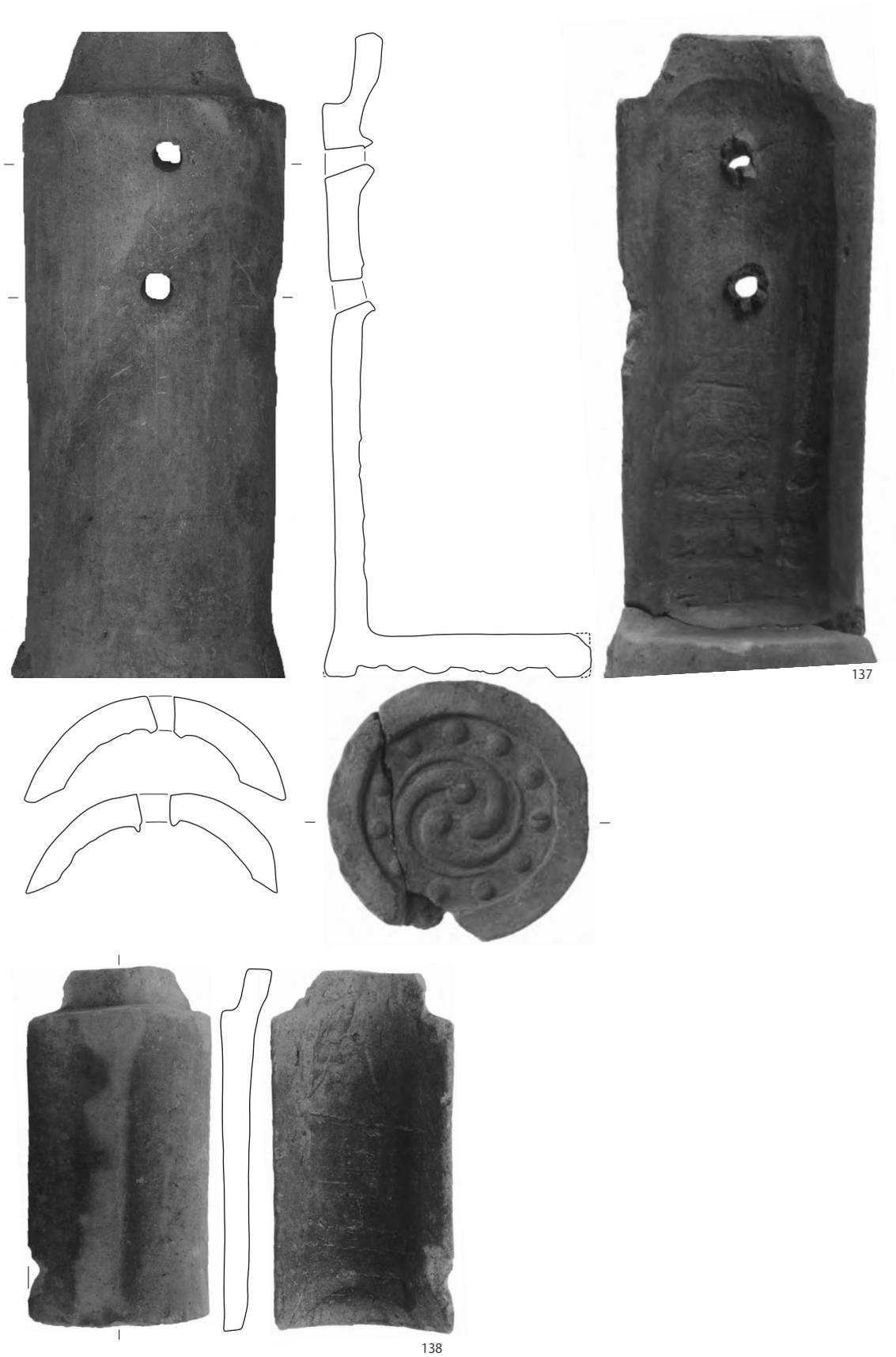


第470図 SD06 出土瓦
(縮尺: 1/3)



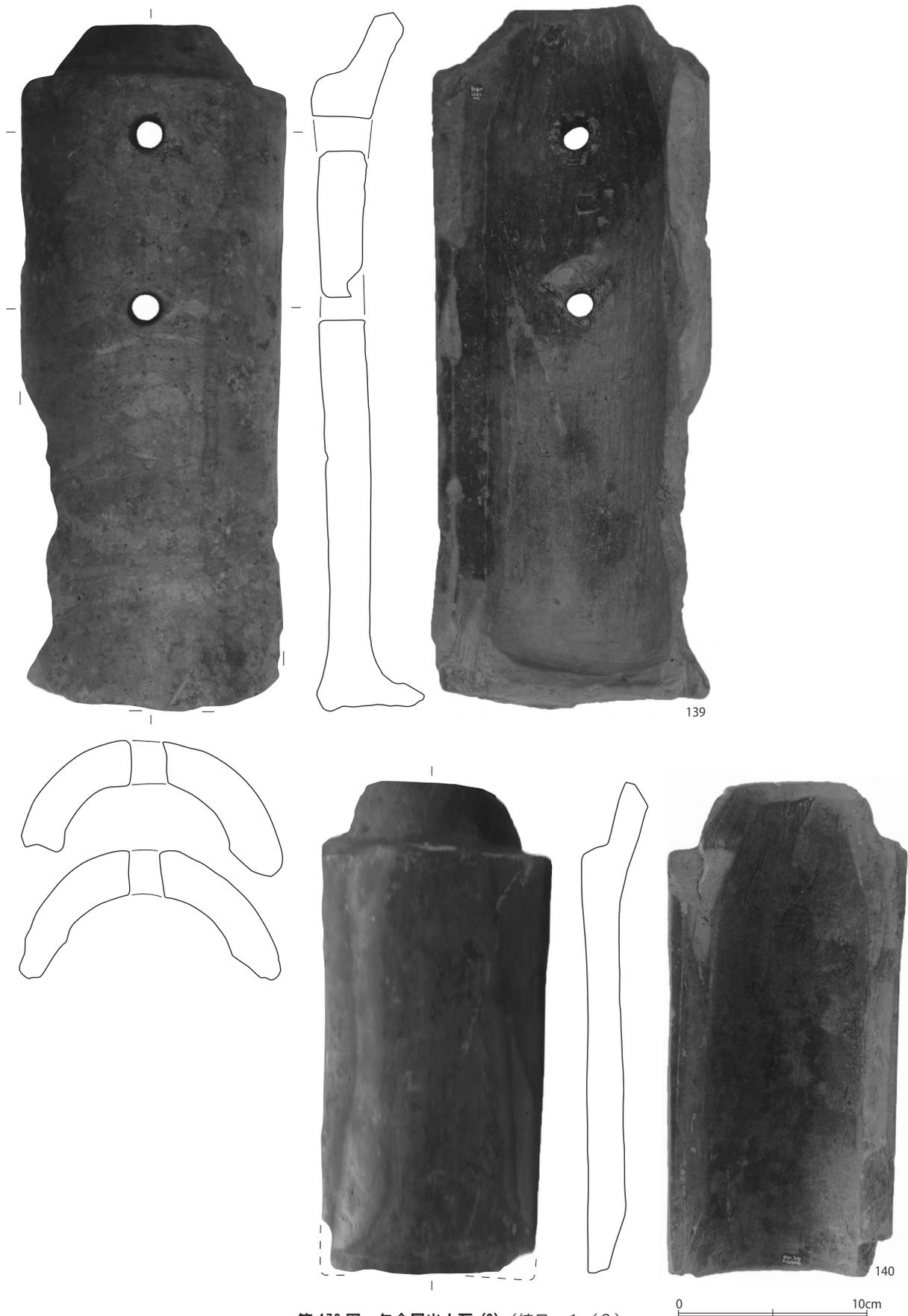
第471図 包含層出土瓦 (1) (縮尺: 1/3)





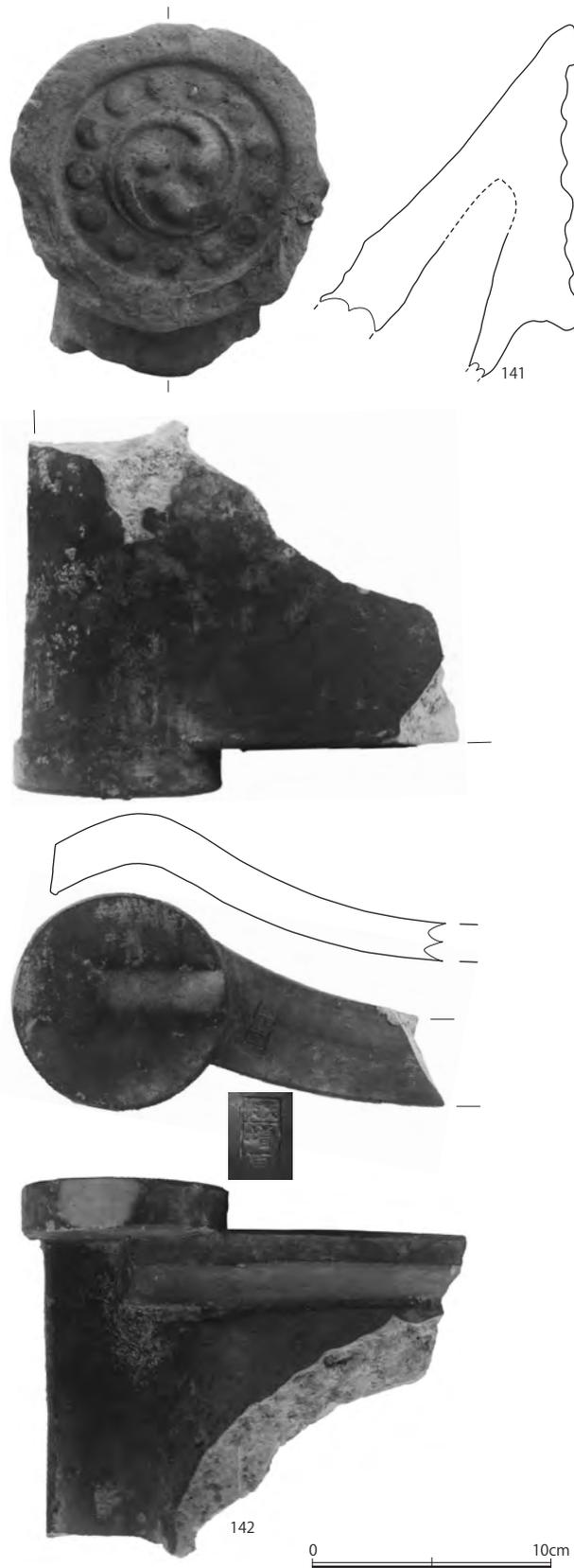
第472図 包含層出土瓦(2) (縮尺: 1/3)

0 10cm



第473図 包含層出土瓦(3) (縮尺: 1/3)

0 10cm



第474図 攪乱出土瓦（縮尺：1／3）

5. 石製品

第3 遺構面

池状遺構（第475図）

1～3は硯である。1は海側の端部を欠損している。4～7は砥石である。8は粘板岩の黒碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。9は粘板岩の黒碁石である。10は粘板岩の黒碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。11は碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。12は碁石である。灰色がかった石材で作られており、白碁石と思われるが、おはじきの可能性もある。13は石英の火打石である。14はチャートの火打石である。

SD101（第476図）

15は碁石である。灰色がかった石材で作られており、白碁石と思われるが、おはじきの可能性もある。

第2 遺構面

屋敷境

SD48（第477図）

16は硯である。海側の端部を欠損している。17は用途不明の石製品である。18は石英の火打石である。19はチャートの火打石である。

SD161（第477図）

20は黒碁石である。

遺物溜り25（第477図）

21は黒碁石である。22は砥石である。23は軽石である。

SD159（第478図）

24は黒碁石である。他の碁石と比べて形がやや歪である。

片山家屋敷地内

SD24（第479図）

25は石臼（碾き臼）と考えられる石製品である。花崗岩で作られている。26は砥石である。27は硯である。

SK26（第480図）

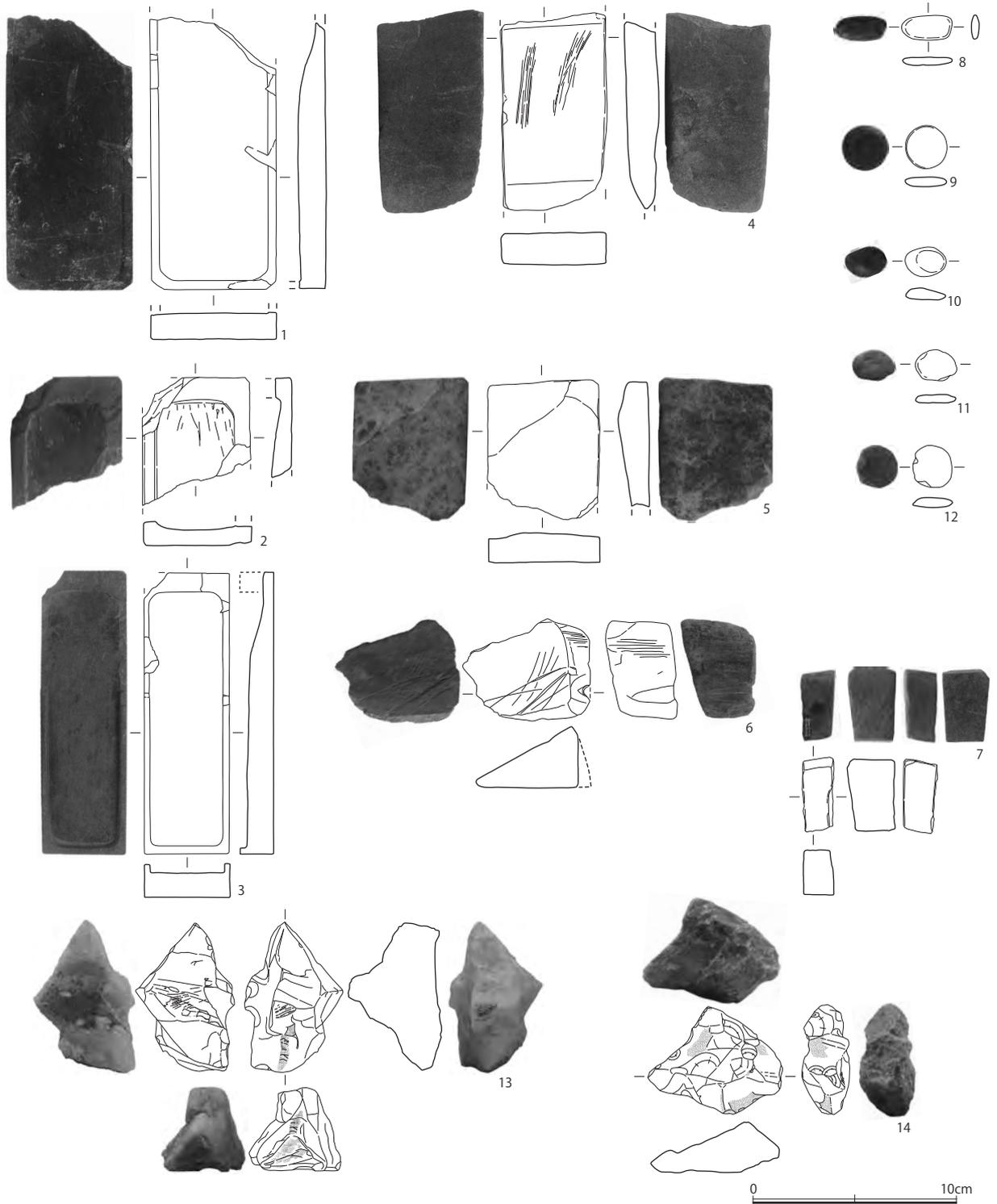
28は軽石である。29は粘板岩の黒碁石である。30は碁石である。灰色がかった石材で作られており、白碁石と思われるが、おはじきの可能性もある。31はチャートの火打石である。32は砥石である。

SK39（第481図）

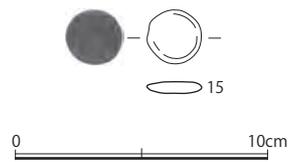
33は砥石である。中央部に切れ込みがあり、2つに分割しようとした痕跡と考えられる。

SD106（第482図）

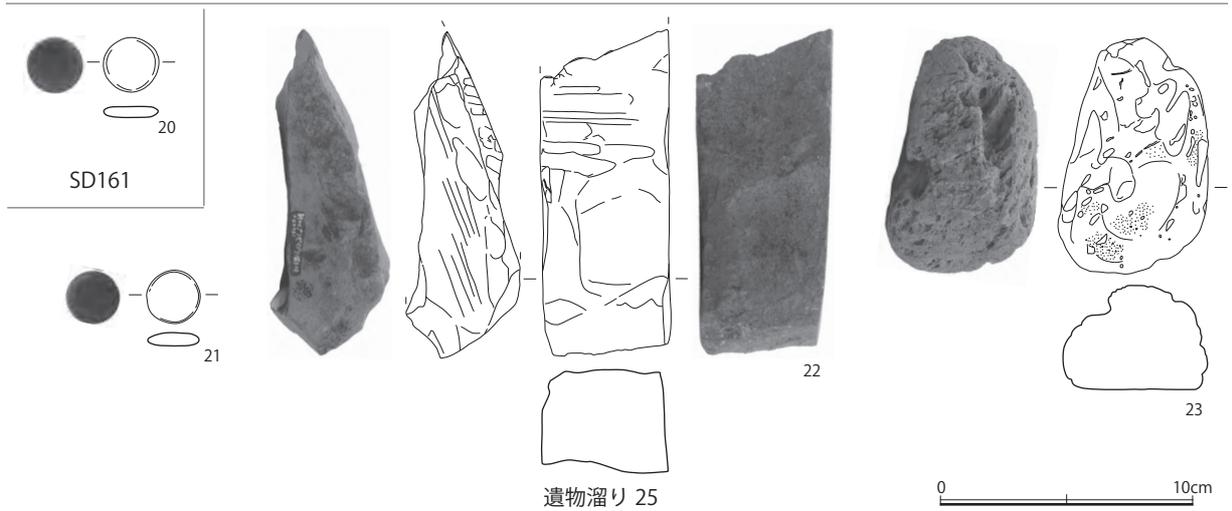
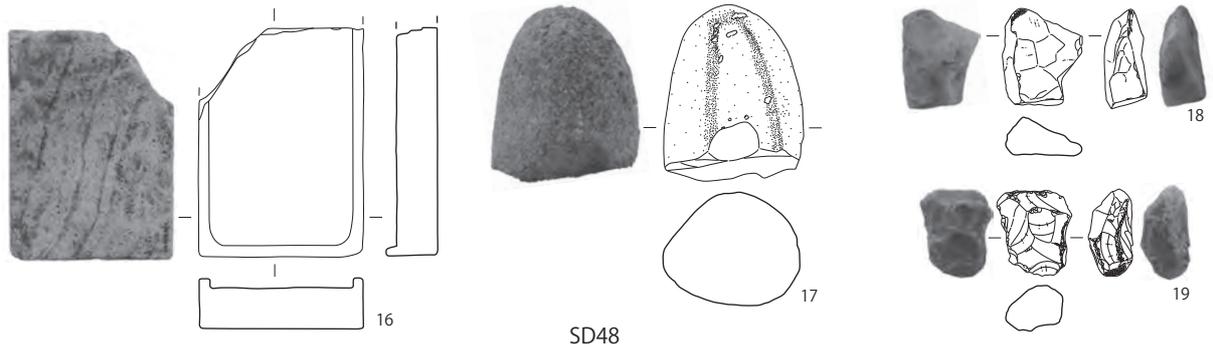
34は黒碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。



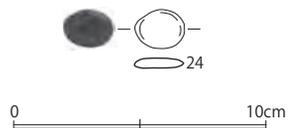
第475図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土石製品（縮尺：1/3）



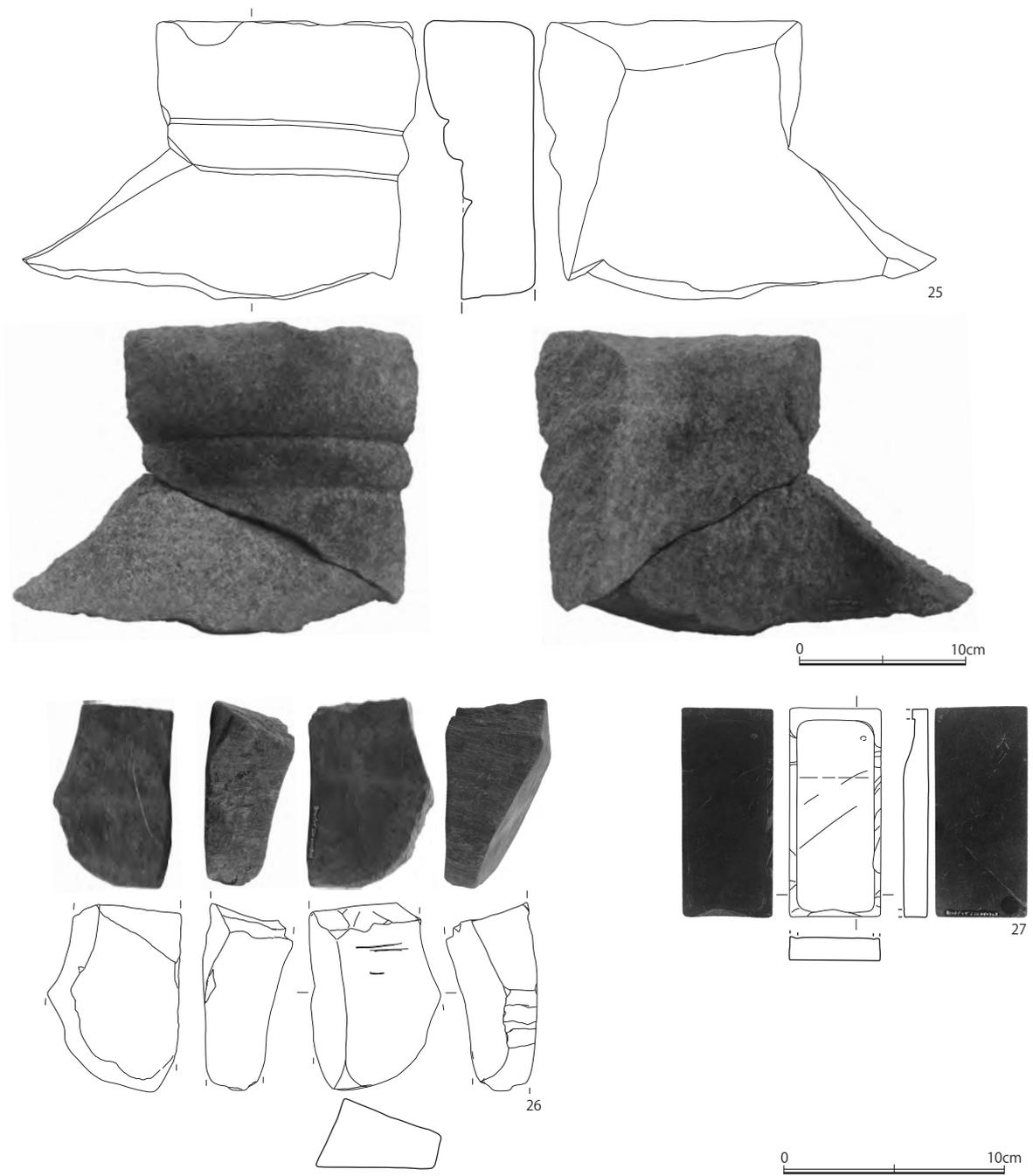
第 476 図 SD101 出土石製品
(縮尺：1/3)



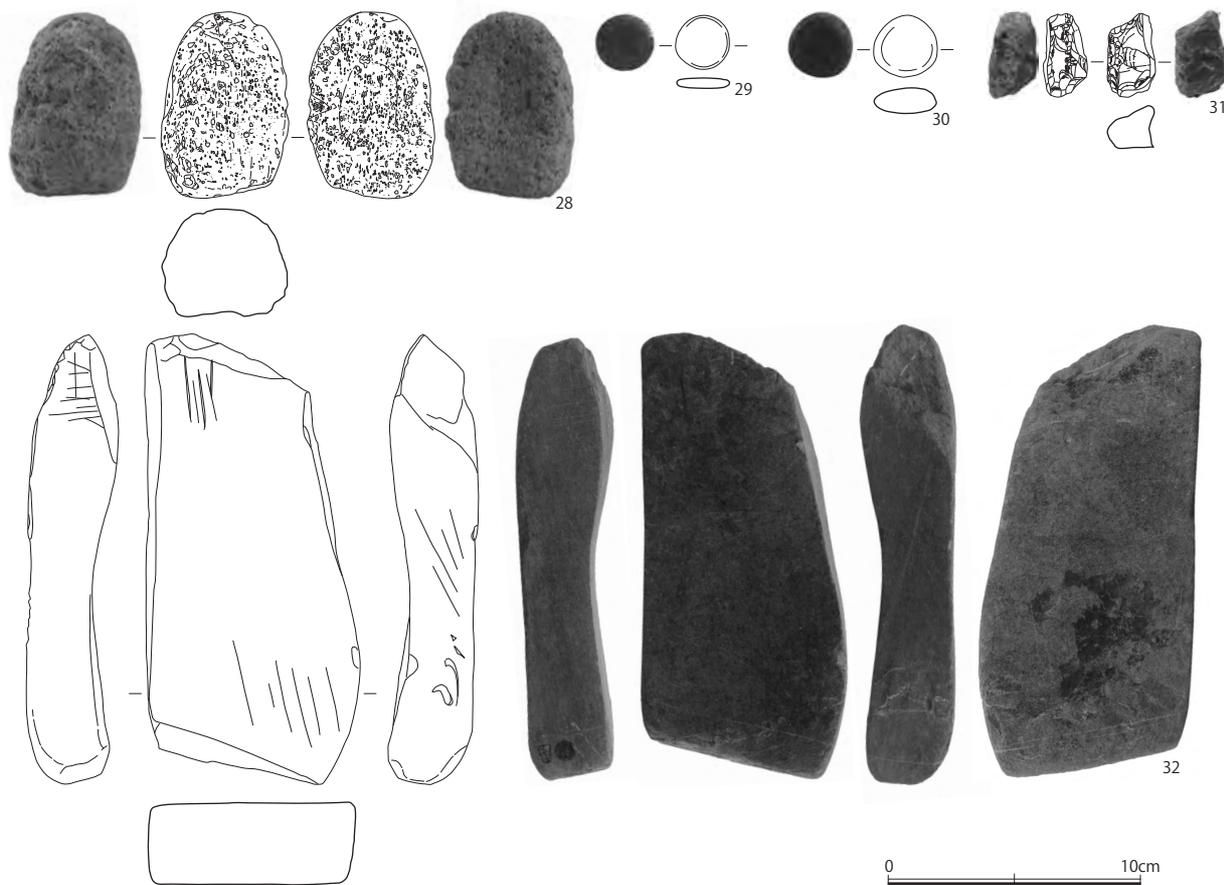
第 477 図 屋敷境 SD48・SD161・遺物溜り 25 出土石製品 (縮尺：1/3)



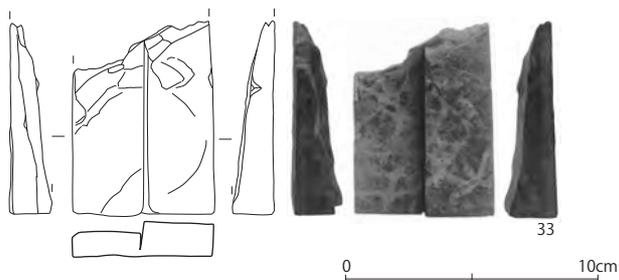
第 478 図 屋敷境 SD159
出土石製品 (縮尺：1/3)



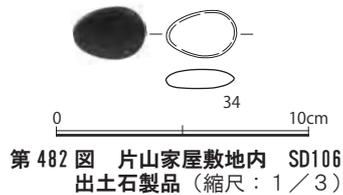
第479図 片山家屋敷地内 SD24 出土石製品 (縮尺: 1/3 25 縮尺: 1/4)



第480図 片山家屋敷地内 SK26 出土石製品 (縮尺: 1/3)



第481図 片山家屋敷地内 SK39 出土石製品 (縮尺: 1/3)



第482図 片山家屋敷地内 SD106 出土石製品 (縮尺: 1/3)

SK156 (第483図)

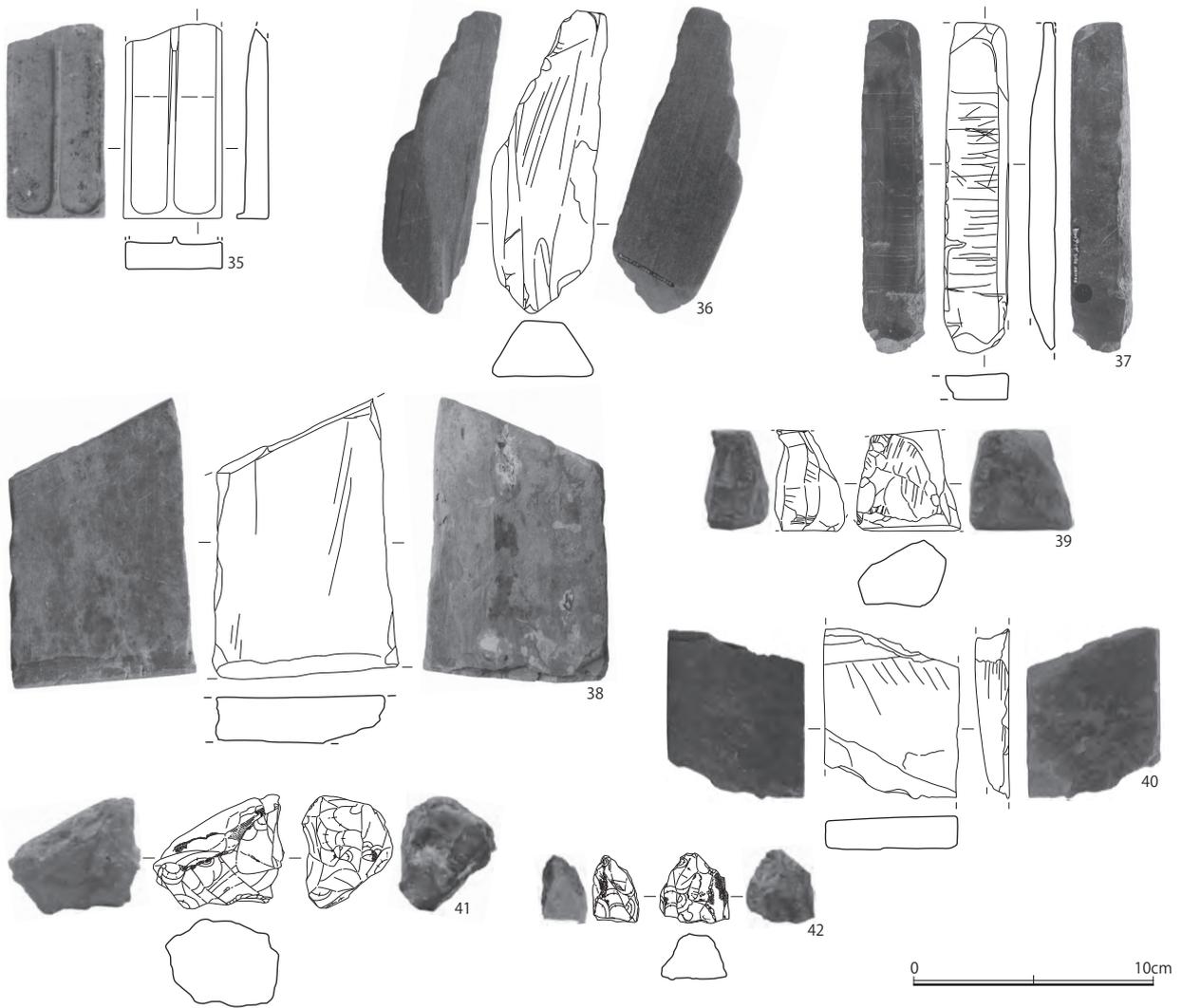
35は硯である。底面に線刻がある。36は砥石である。37は砥石に転用された硯である。38～40は砥石である。41・42はチャートの火打石である。

SD157 (第484図)

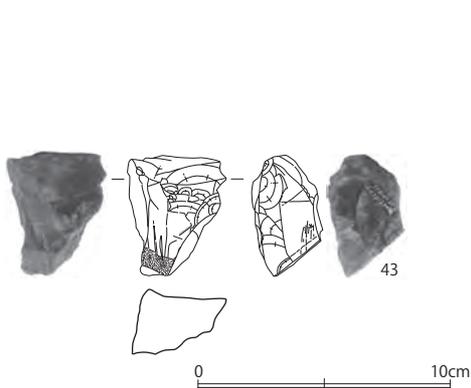
43はチャートの火打石である。

SK164 (第485図)

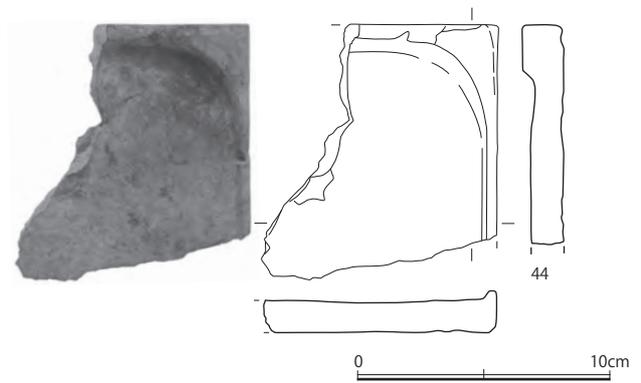
44は硯である。底面に線刻がある。



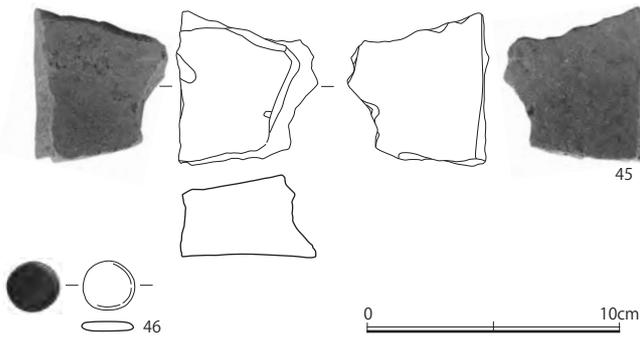
第483図 片山家屋敷地内 SK156 出土石製品 (縮尺: 1/3)



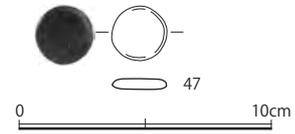
第484図 片山家屋敷地内 SD157 出土石製品 (縮尺: 1/3)



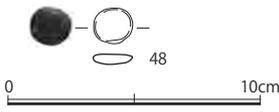
第485図 片山家屋敷地内 SK164 出土石製品 (縮尺: 1/3)



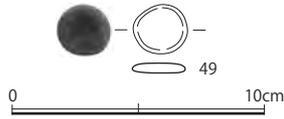
第486図 片山家屋敷地内 SK186 出土石製品 (縮尺: 1/3)



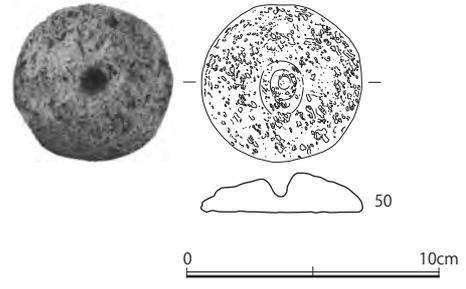
第487図 安富家屋敷地内 SD182 出土石製品 (縮尺: 1/3)



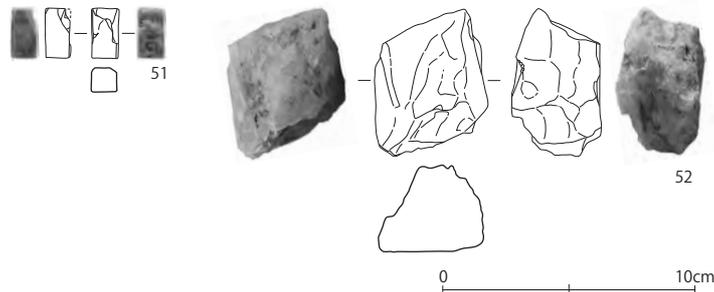
第488図 太田家屋敷地内 SK71 出土石製品 (縮尺: 1/3)



第489図 太田家屋敷地内 SK81 出土石製品 (縮尺: 1/3)



第490図 太田家屋敷地内 SK113 出土石製品 (縮尺: 1/3)



第491図 池状遺構(第1遺構面)埋土最上層出土石製品 (縮尺: 1/3)

SK186 (第486図)

45は砥石である。46は粘板岩の黒基石である。

安富家屋敷地内

SD182 (第487図)

47は黒基石である。

太田家屋敷地内

SK71 (第488図)

48は基石のような形状した石製品である。赤褐色の石材で作られている。おはじきの可能性が考えられる。

SK81 (第489図)

49は基石である。灰色がかった石材で作られており、白基石と思われるが、おはじきの可能性もある。

SK113 (第490図)

50は軽石でできた加工円盤である。中央に穿孔途中の穴がみとめられる。

第1遺構面**A 下層****池状遺構埋土最上層 (第491図)**

51は方柱状の石製品である。52は石英の火打石である。

池状遺構 (第492～495図)

53は硯である。梅花文が線刻されている。54は硯である。海側の端部を欠損している。55は硯である。56は砥石である。57は硯である。両端部を欠損している。58は硯である。底部に判読不明な刻印がある。両端部を欠損している。59は硯である。底部に「本高嶋声非石」の線刻がある。両端部を欠損している。60は硯である。底部に「日新 崇徳」が反転文字で刻字されている。印判として用いられたと考えられる。61・62は硯である。63は砥石である。64は半円形の石製品である。152 (第507図 包含層出土) のような石製加工円盤の製作途中品と考えられる。65は硯である。66は硯を転用した砥石である。67～70は砥石である。71は不明石製品である。砥石の可能性はあるが、全面が磨滅しているため不明である。72・73は砥石である。74は不明石製品である。形状から自然石とは考えがたいものの、用途は不明である。75は軽石である。76～79は砥石である。80は石英の火打石である。81は用途不明の石製品である。形状から面模や鋳型の可能性もあるが、不明である。82は容器状の形態をした石製品である。石鍋の可能性が考えられるが、破片であるため不明である。83はチャートの火打石である。84・85は石筆である。86は砥石である。87は石臼 (碾き臼) の下臼である。88は用途不明の石製品である。砥石状の形態をしているが、あまり砥石としては適さない結晶片岩である。89は砥石である。90は基石である。

石組み溝1 (第496図)

91は砂岩で作られた五輪塔の基壇である。石組み溝の石材として転用されていた。

石組み溝3 (第497図)

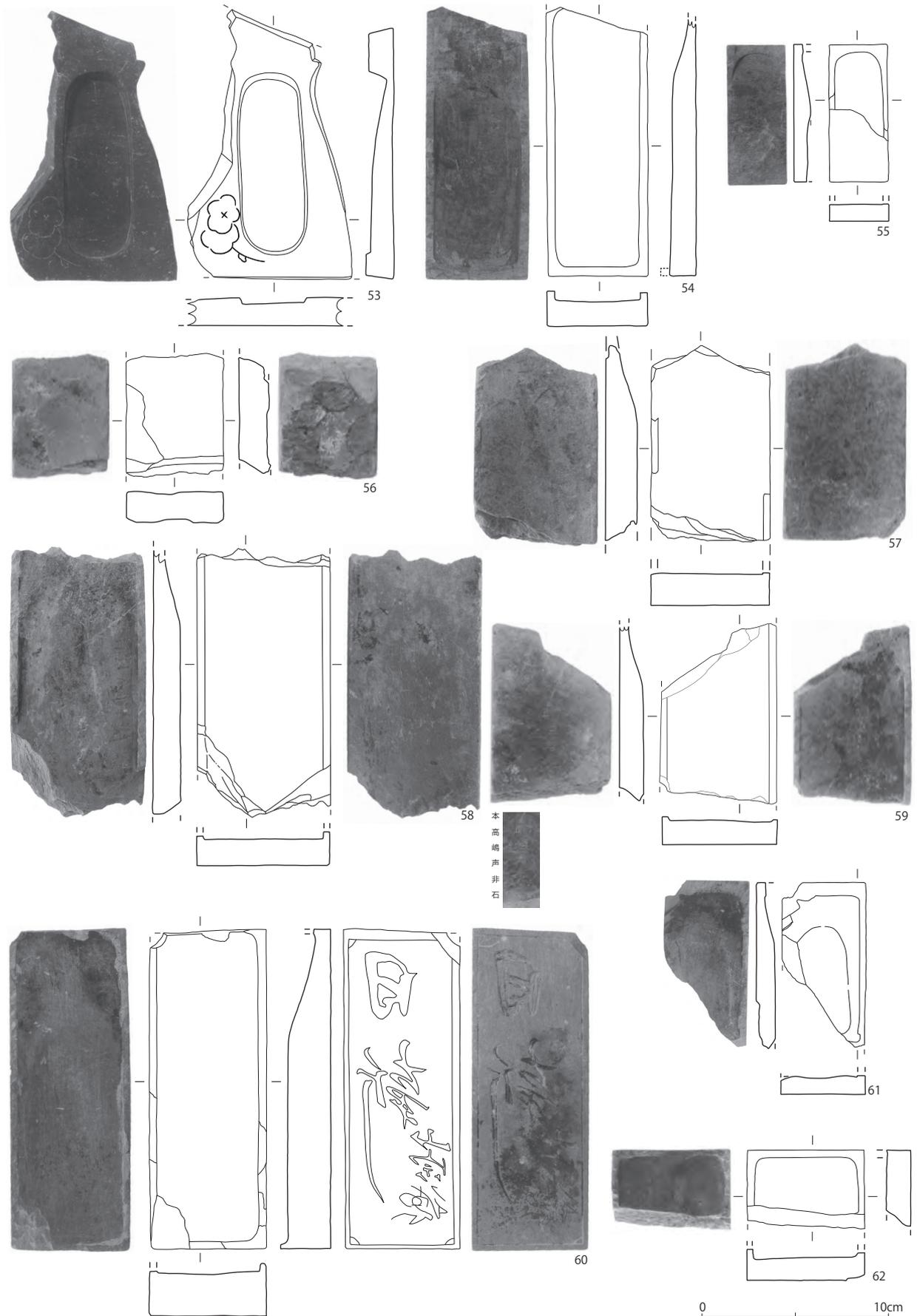
92は硯である。93・94は砥石である。95は硯である。側面に黒色の漆が塗られている。96はチャートの火打石である。

石組み溝5 (第498図)

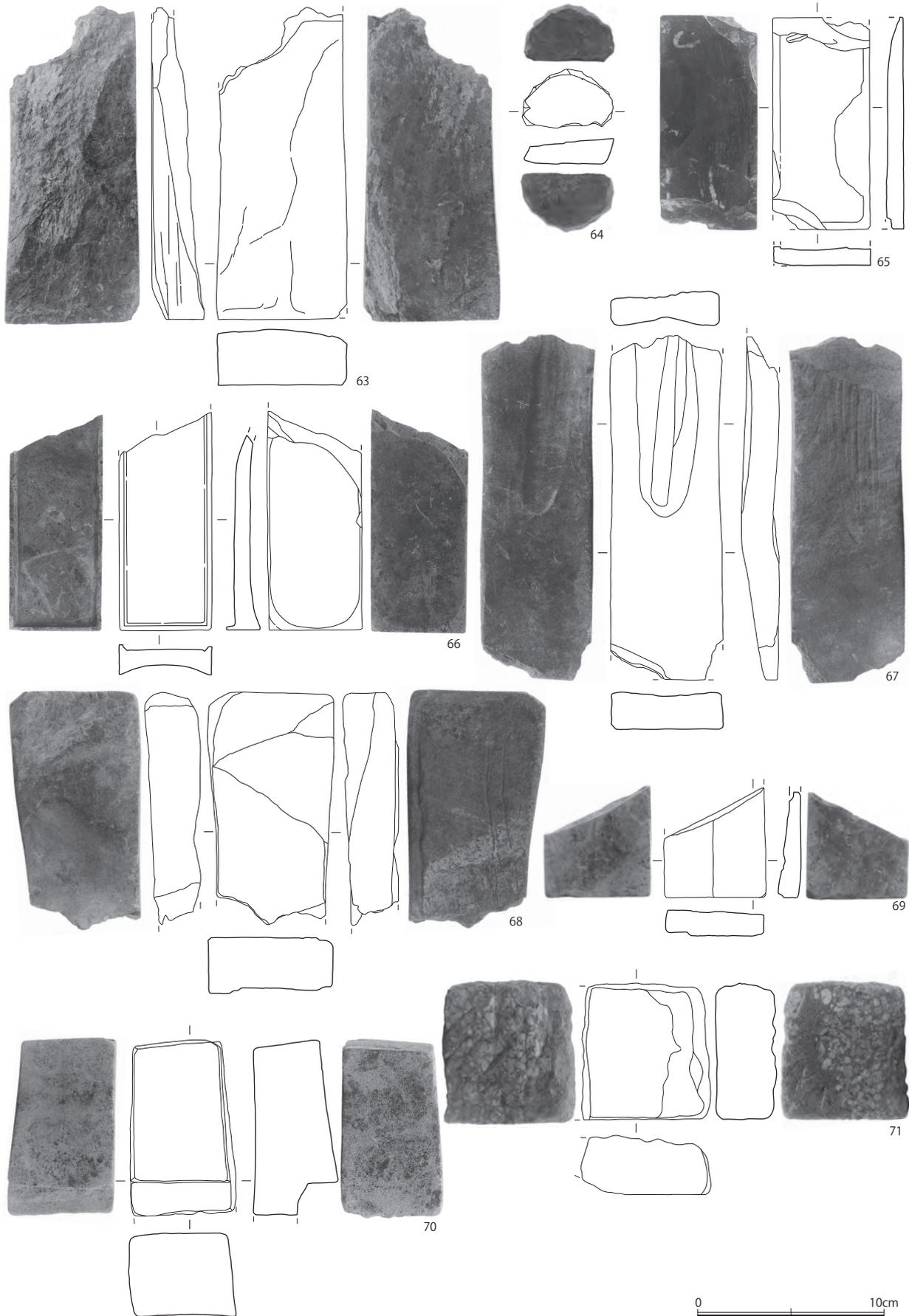
97は硯である。底面に線刻がみとめられる。陸から海にかけて中央部が極端に磨り減っており、砥石に転用されていた可能性がある。98は硯である。底面に線刻がみとめられる。99は砥石である。100は石英の火打石である。101はチャートの火打石である。

石組み溝8 (SD23) (第499図)

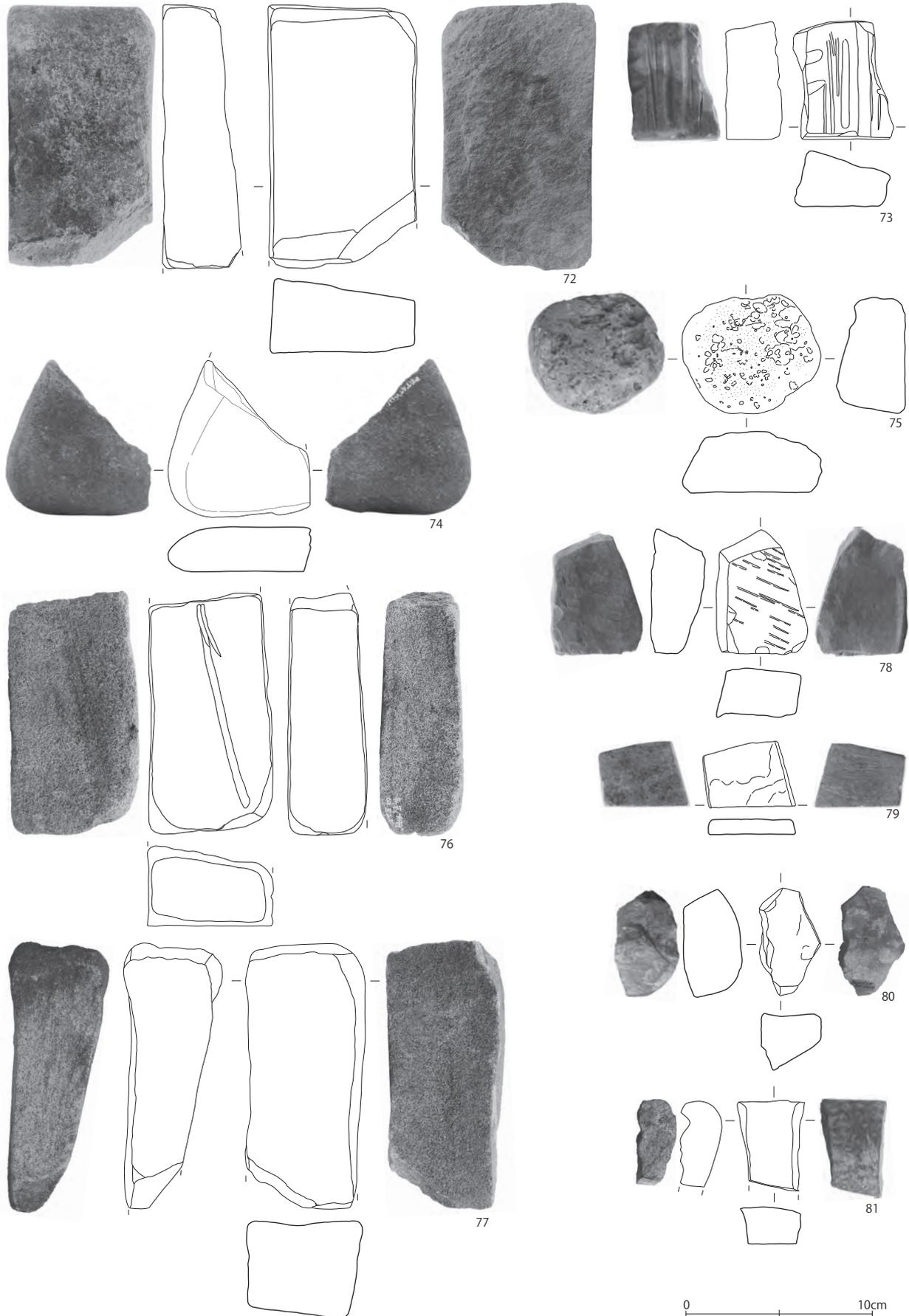
102は軽石である。



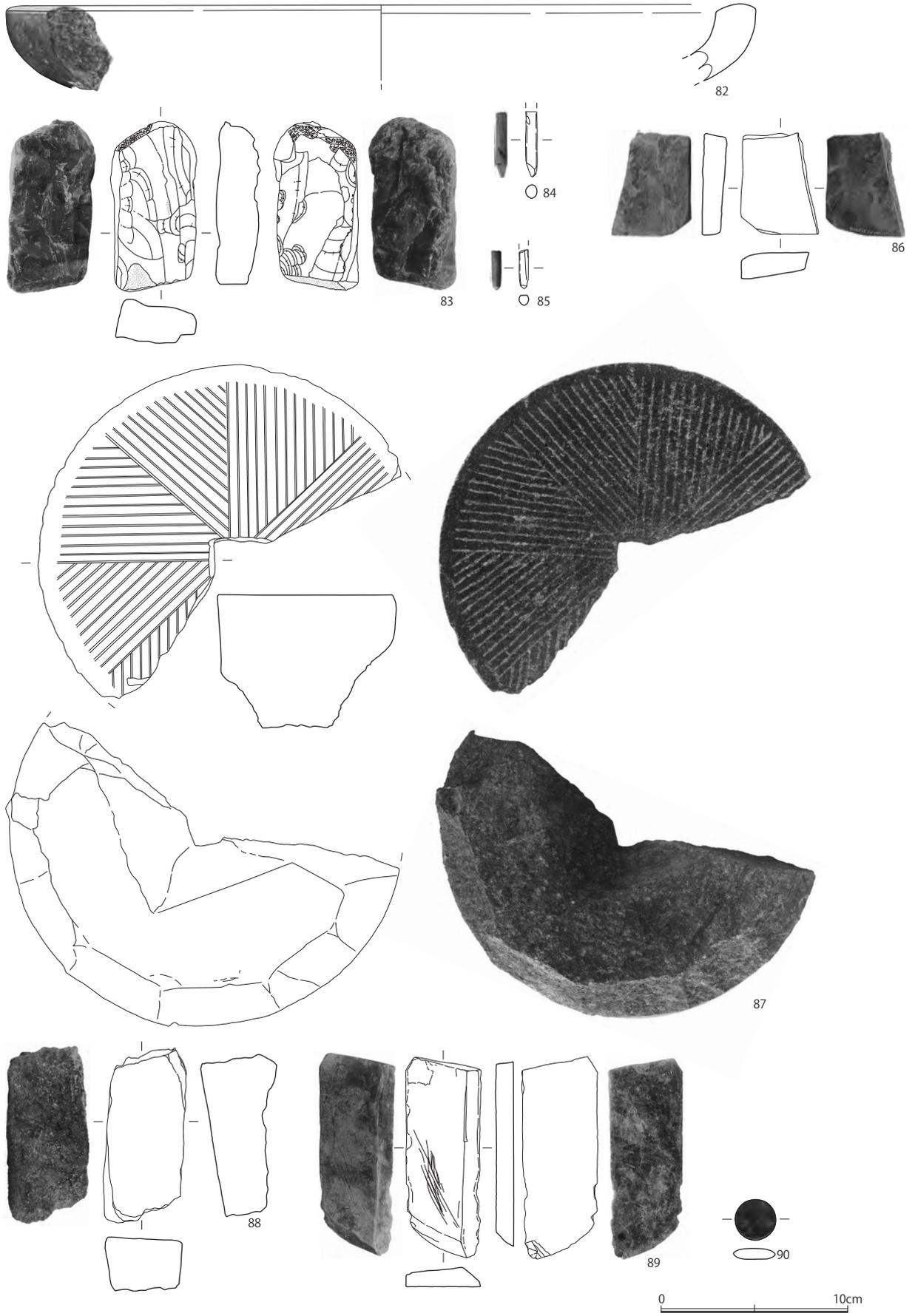
第492図 池状遺構（第1遺構面）出土石製品(1) (縮尺：1/3)



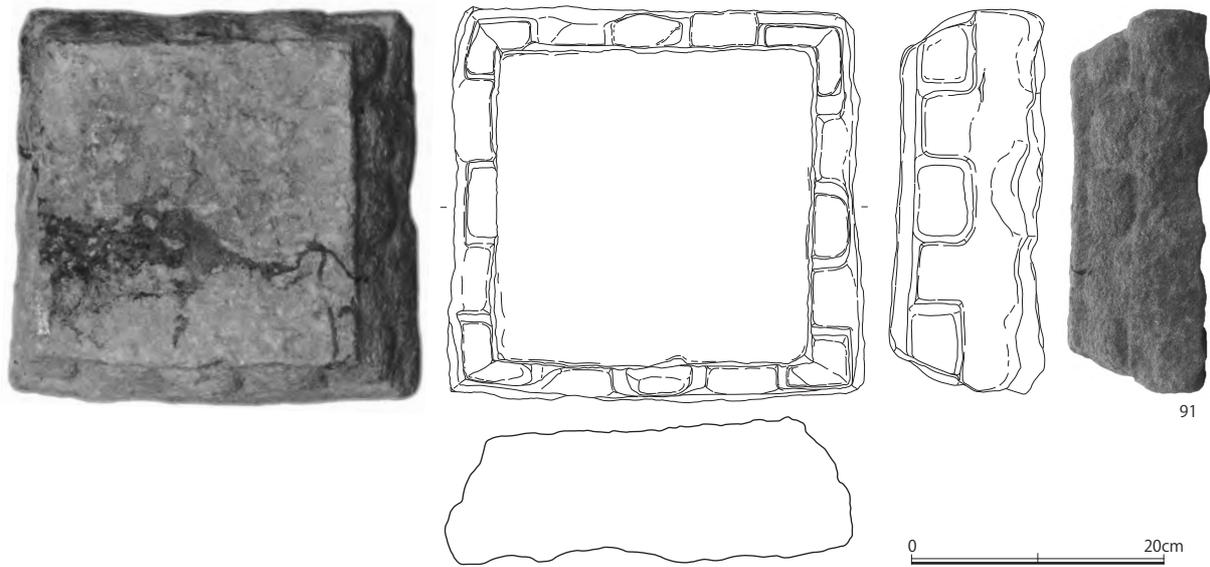
第493図 池状遺構（第1遺構面）出土石製品（2）（縮尺：1/3）



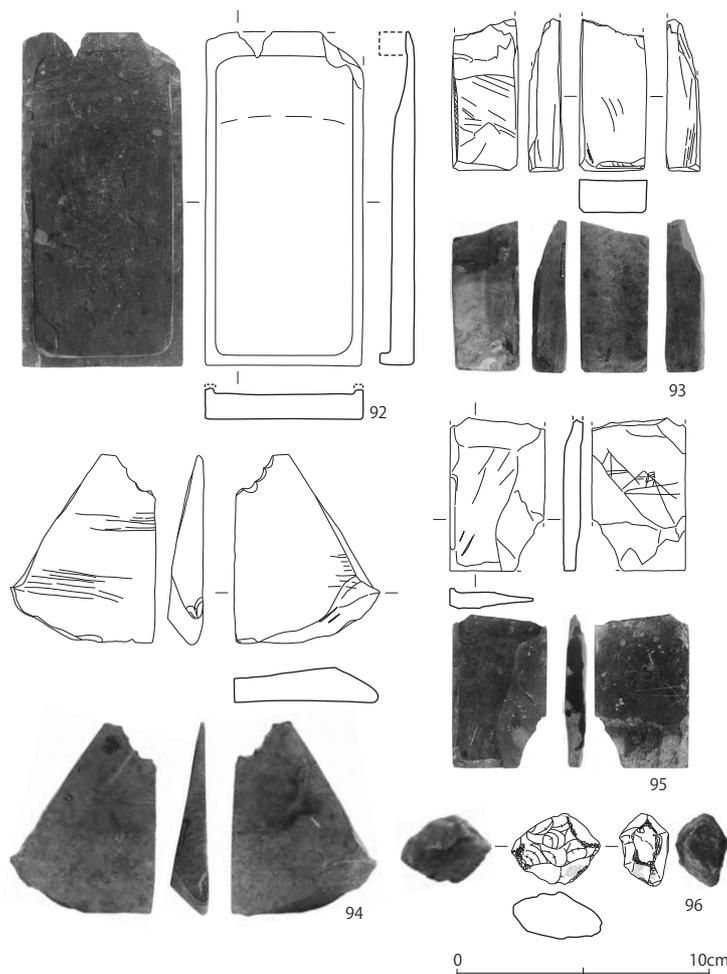
第494図 池状遺構(第1遺構面)出土石製品(3)(縮尺:1/3)



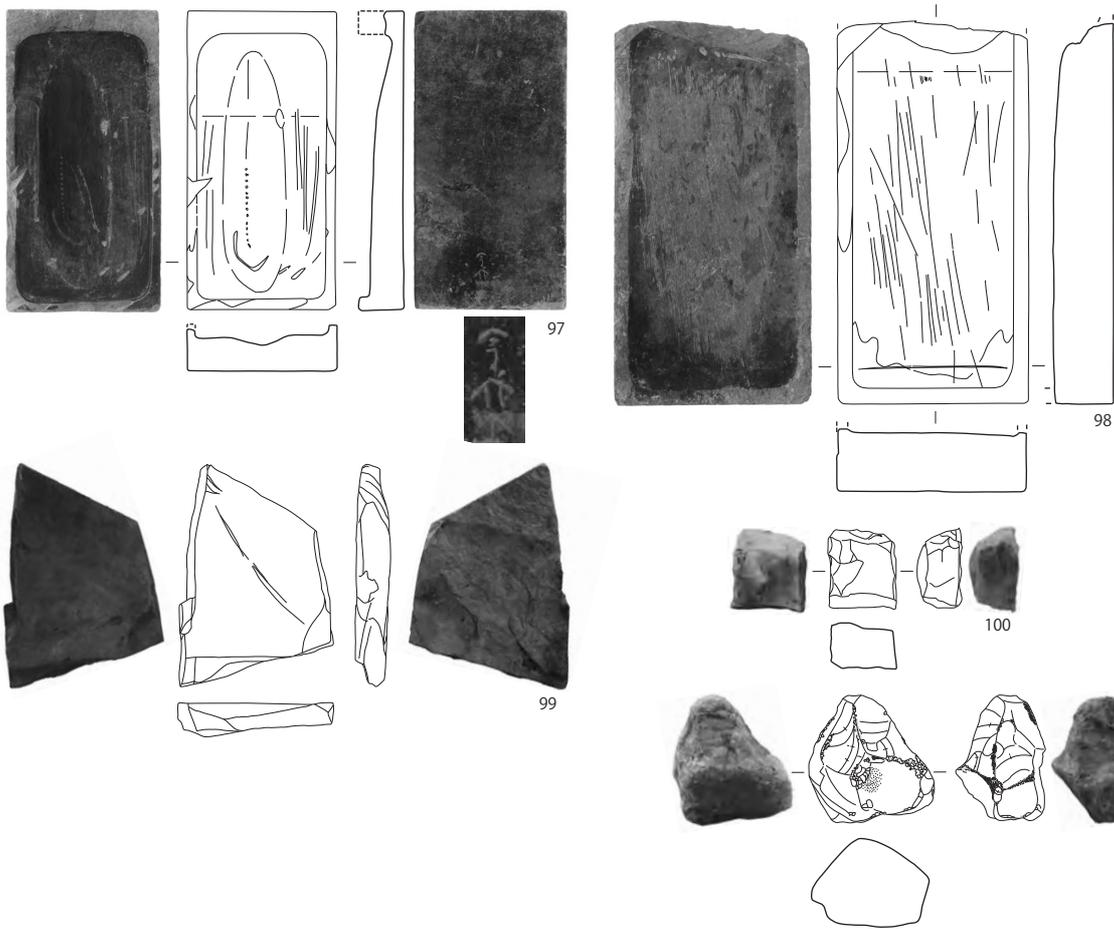
第495図 池状遺構（第1遺構面）出土石製品（4）（縮尺：1/3）



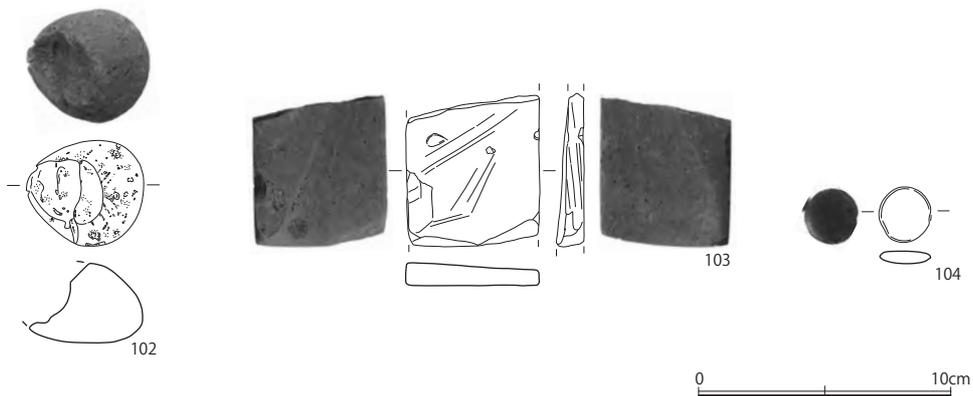
第496図 石組み溝1出土石製品 (縮尺: 1/6)



第497図 石組み溝3出土石製品 (縮尺: 1/3)



第498図 石組み溝5出土石製品（縮尺：1/3）



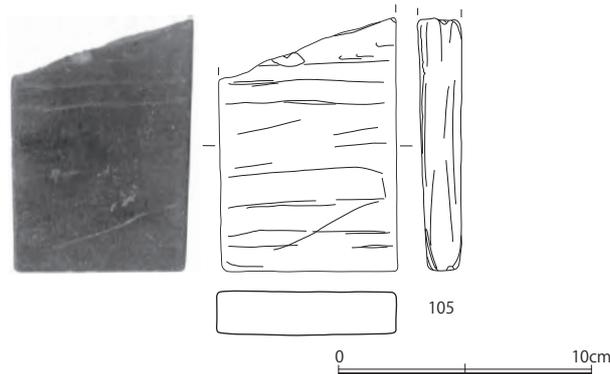
第499図 石組み溝8（SD23・遺物溜り4・遺物溜り10）出土石製品（縮尺：1/3）

石組み溝8（遺物溜り10）（第499図）

103は砥石である。

石組み溝8（遺物溜り4）（第499図）

104は黒基石である。



第500図 石組み溝9（遺物溜り3）出土石製品（縮尺：1／3）

石組み溝9（遺物溜り3）（第500図）

105は砥石である。残存しているすべての面に砥ぎの痕跡がみられる。

蜂須賀家屋敷地内

遺物溜り17（第501図）

106は硯である。海側の端部を欠損している。底部に「安次」の線刻がある。107は温石である。角がきちんと面取りされ、中央部に穿孔が施されている。108は石臼（碾き臼）である。円孔の一部がみとめられることから、上臼である。

片山家屋敷地内

SK134（第502図）

109は黒碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。

SK135（第503図）

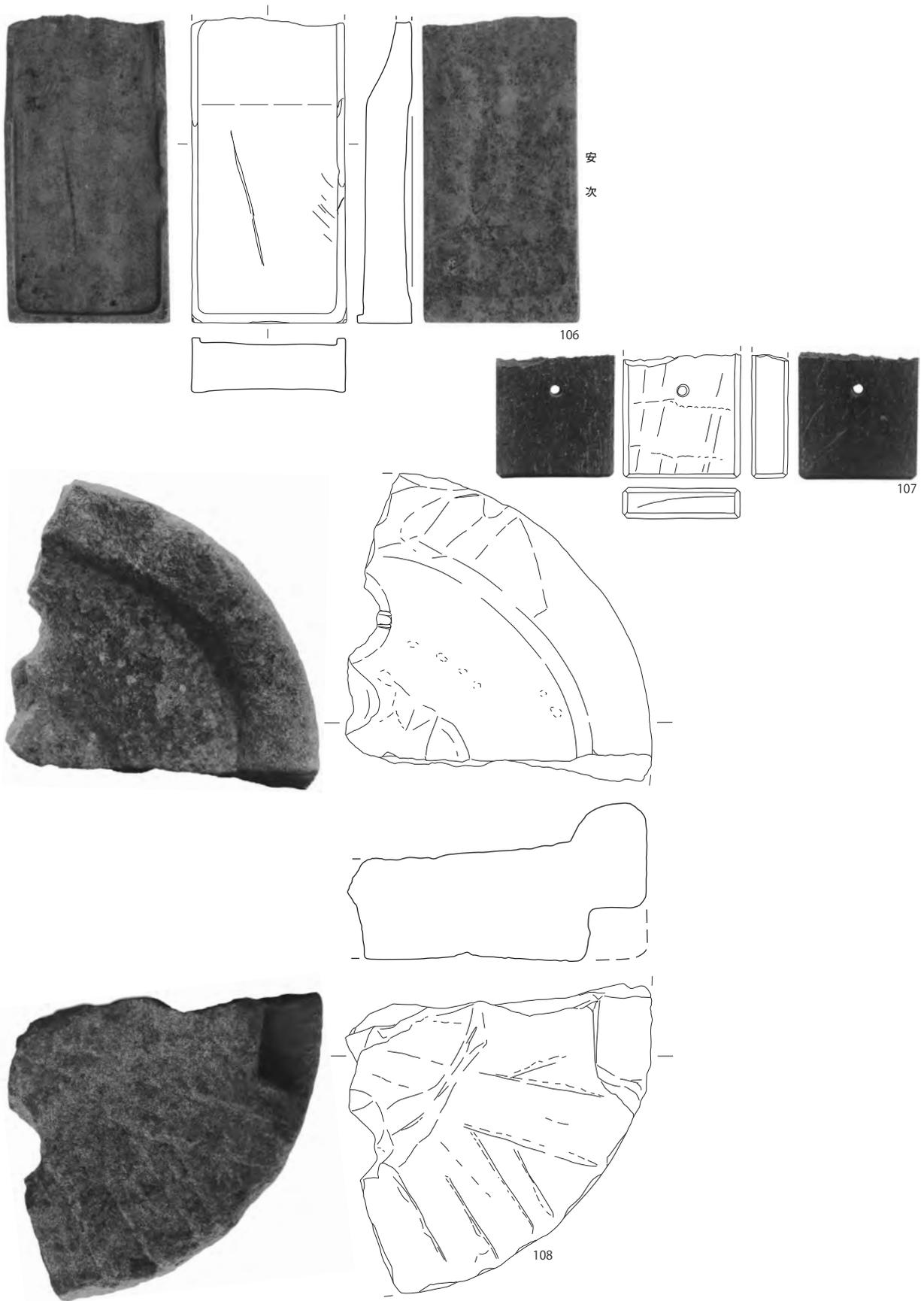
110は黒碁石である。

SK137（第504図）

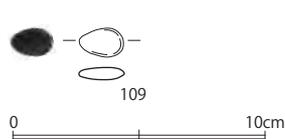
111・112は火打石である。111は石英、112はチャートである。

包含層（第505～507図）

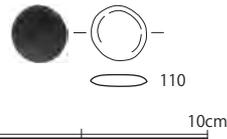
113～131は砥石である。127は数箇所刃物による切痕がみられるほか、鋸による切断痕もみとめられる。130は墨書の痕跡がみられる。132～137は硯である。133・134・137は海側の端部のみ残存している。137は刃物傷が多くみとめられることから、砥石に転用されたものと考えられる。136は海側の端部を欠損している。138は鉛製魚網錘の鋳型である。製造された錘も調査区から出土している。139は結晶片岩の不明石製品である。蓋または印章の製作途中品などの可能性が考えられる。140は近代または現代のタイルと思われる石製品である。141は印章である。「川口未知蔵口」と刻字されている。142は粘板岩の黒碁石と思われる石製品である。他の碁石と比べて形が歪である。143は粘板岩の黒碁石である。144は碁石である。145は白碁石である。146は粘板岩の黒碁石である。



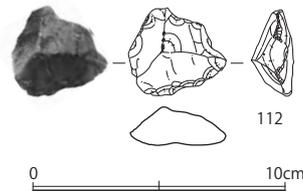
第501図 蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17出土石製品 (縮尺: 1/3)



第502図 片山家屋敷地内 SK134
出土石製品 (縮尺：1/3)



第503図 片山家屋敷地内 SK135
出土石製品 (縮尺：1/3)

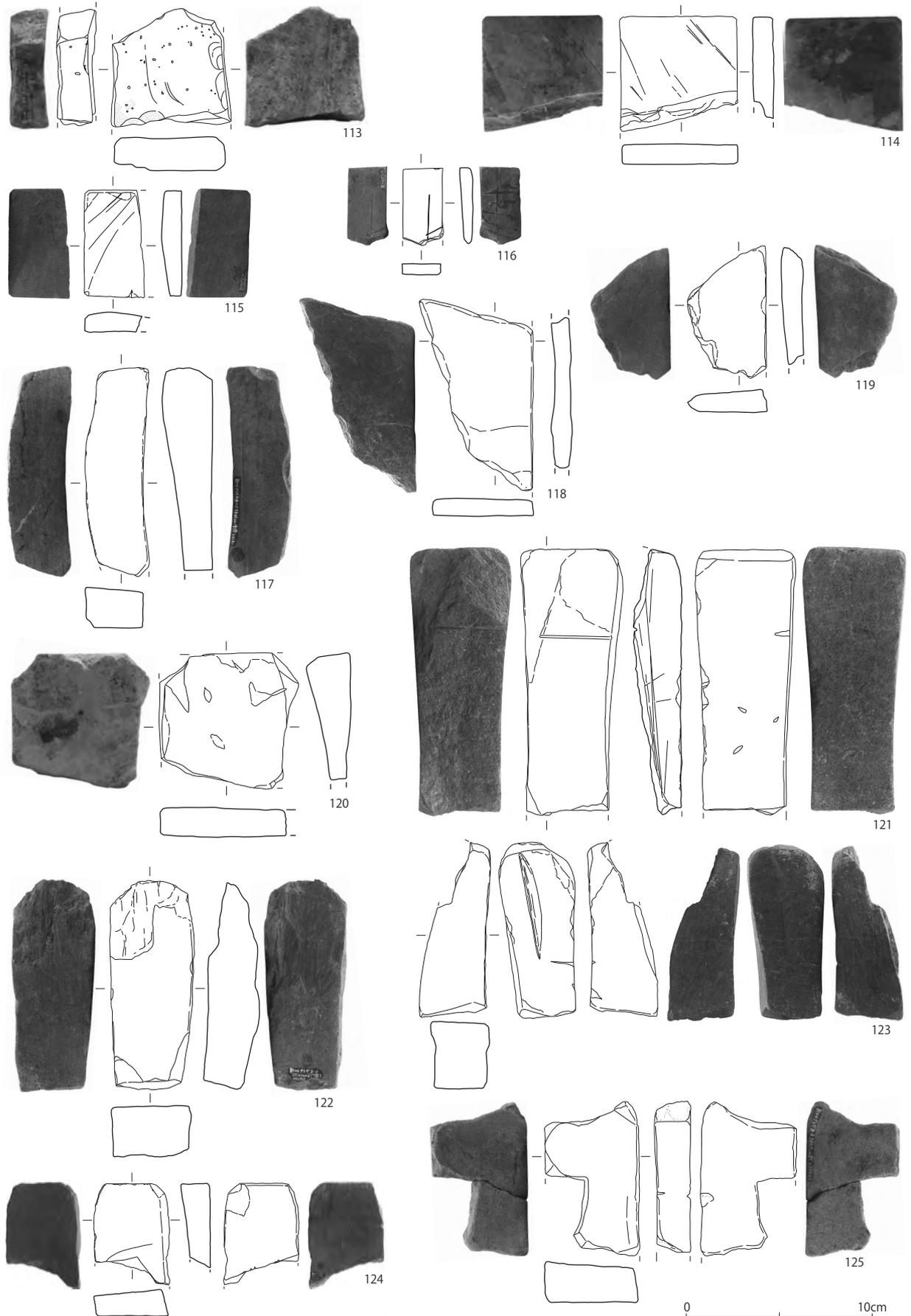


第504図 片山家屋敷地内 SK137 出土石製品 (縮尺：1/3)

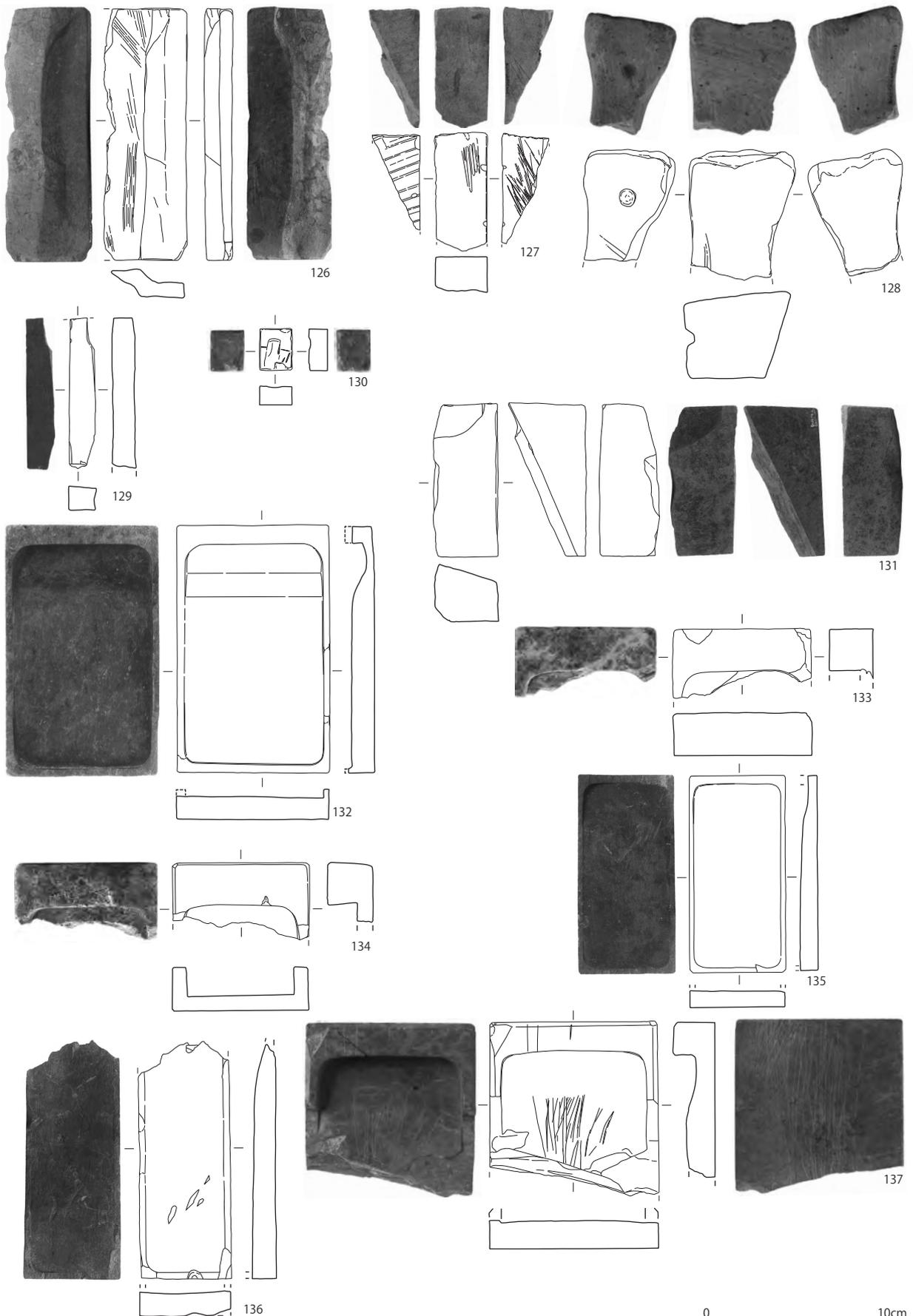
147は基石と思われる石製品である。148は粘板岩の黒基石である。149は基石である。150は黒基石である。151～154は結晶片岩の加工円盤である。用途は不明である。155～158は火打石である。155・157はチャート、156・158は石英である。159～163は軽石である。

攪乱 (第508図)

164は砥石である。165・166は硯である。166は海側の端部のみ残存している。167～169は石筆である。170は砥石である。171はサイコロである。172は軽石である。173は粘板岩の黒基石である。174は黒基石である。175・176は粘板岩の黒基石である。177は基石と思われる石製品である。178は粘板岩の黒基石である。

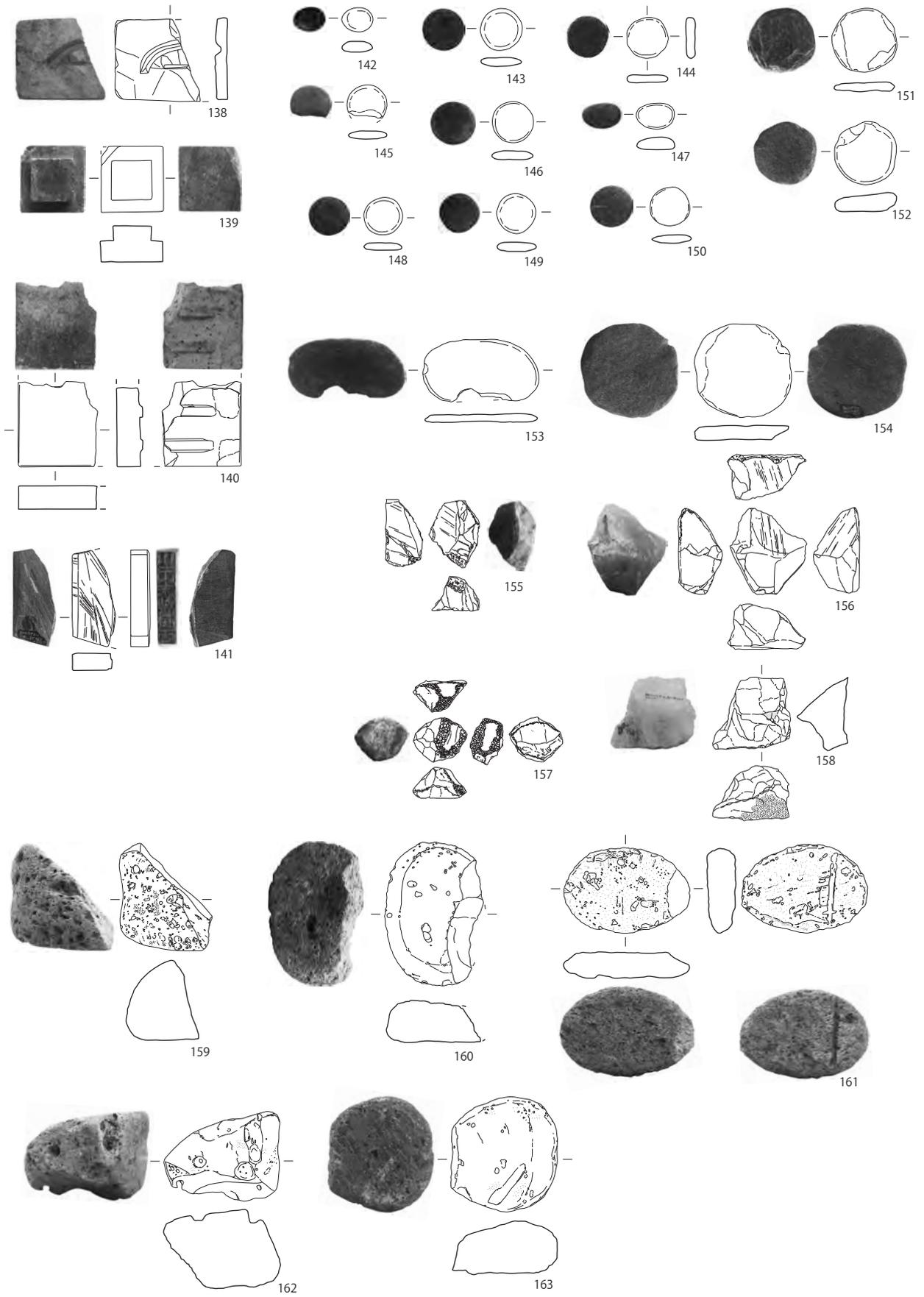


第 505 図 包含層出土石製品 (1) (縮尺：1/3)

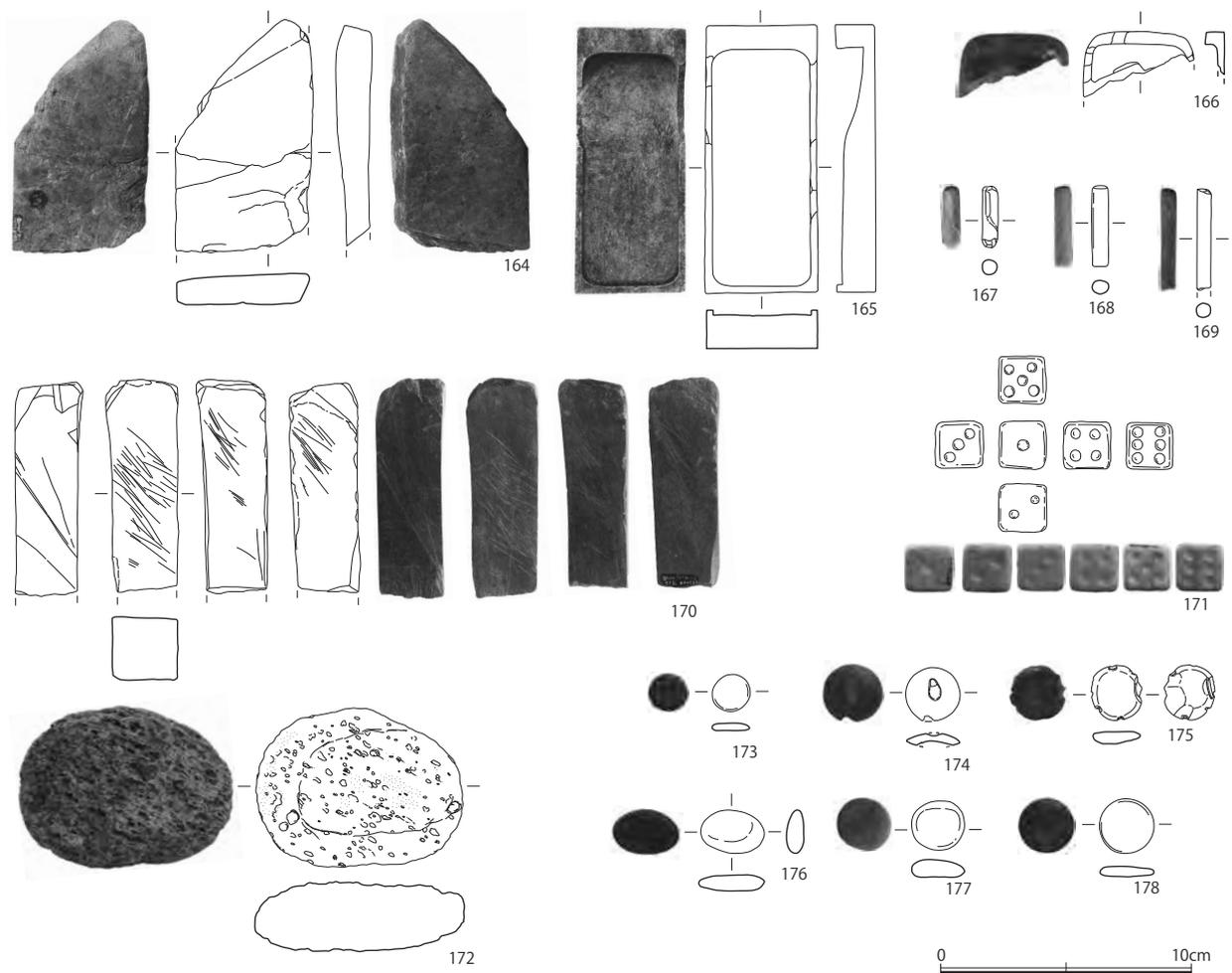


第 506 圖 包含層出土石製品 (2) (縮尺: 1 / 3)

0 10cm



第507図 包含層出土石製品(3) (縮尺: 1/3)



第 508 図 攪乱出土石製品 (縮尺：1/3)

6. 木製品

第3遺構面

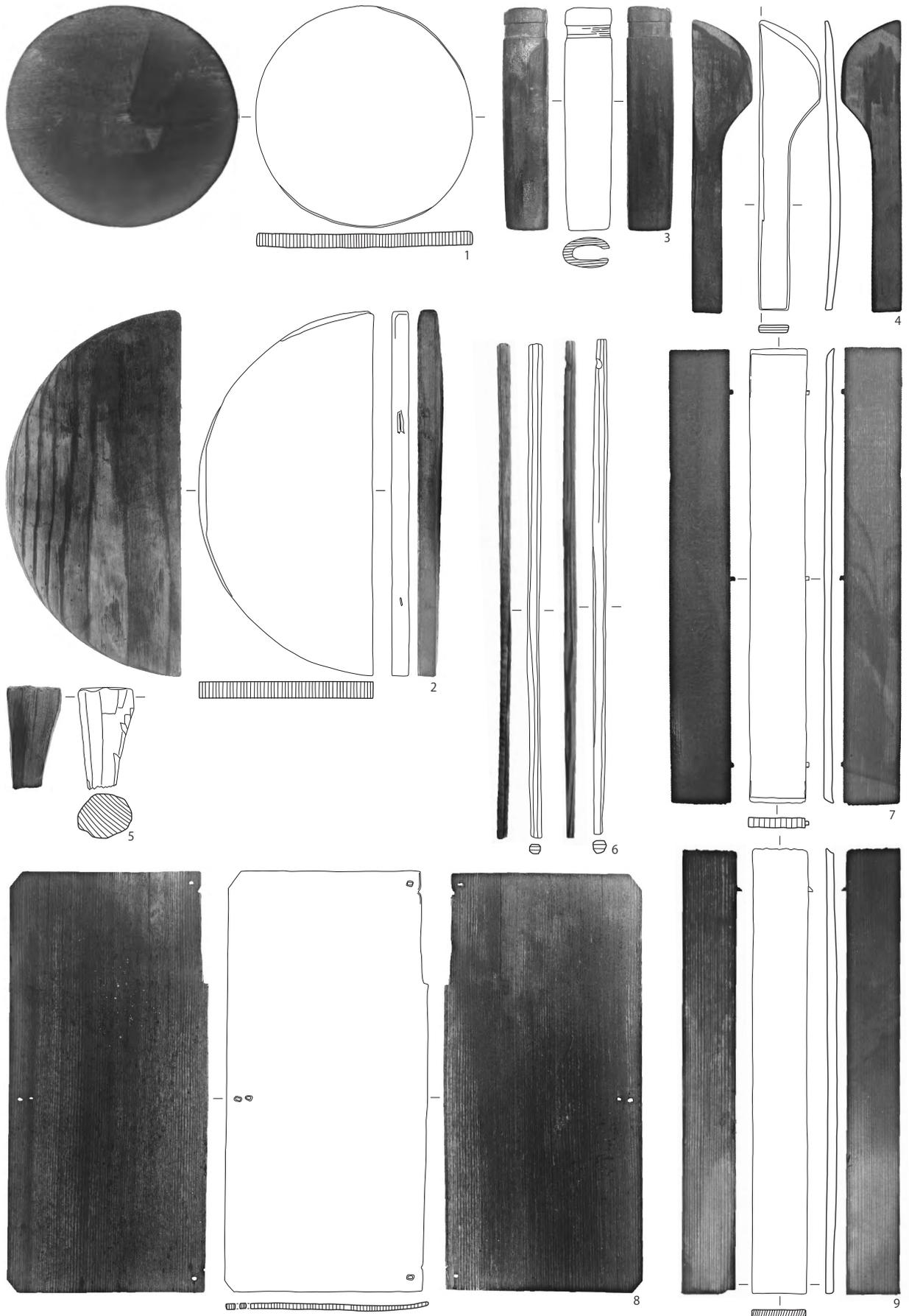
池状遺構 (第 509 ~ 536 図)

1・2は曲物・結物の蓋板または底板である。2は別材とつなぐための釘孔が2箇所みとめられる。3は柄である。4は篋または杓子である。5は栓である。6は箸である。7は折敷の側板である。両端部が斜めにカットされ、底板に固定するための木釘がみとめられる。8は折敷の底板である。側板を留めるための釘孔が4箇所確認できる。9～11は容器類の部材と考えられる板状の木製品である。10は釘孔が3箇所みとめられる。11は中央部に1箇所穿孔が施されている。12は栓である。13～15は箸である。16・17は板状の木製品である。16は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。18は角型削り下駄である。表面に使用痕がみとめられる。19は責め木用の楔である。20は板状の木製品である。釘孔が3箇所みとめられる。両側面にも別材とつなぐための釘孔がある。端部に溝が切られており、別材に組み合わせるためのものと考えられる。21は蓋板である。栓をはめ込むための孔が穿たれている。22は箸である。23は結物桶の樽板である。24～26は板状の木製品である。24

は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。26は中央部に穿孔が施されている。27は箸である。28～30は板状の木製品である。30は円形の穿孔部分で破損している。31は棒状の木製品である。端部に切欠きの一部が残存している。32は結物桶の樽板である。33～35は曲物・結物の蓋板または底板である。36・37は板状の木製品である。36は折敷の底板と考えられる。37は連続して切れ込みが入れられており、その部分で破損している。38は棒状の木製品である。39は板状の木製品である。40は棒状の木製品である。縦方向と横方向に交差する小さな穿孔が等間隔に施されている。端部に切欠きがありその部分で破損している。41は板状の木製品である。曲物・結物の蓋板または底板の一部と考えられる。42～46は箸である。47は角型割り下駄である。48は棒状の木製品である。49～52は箸である。53は板状の木製品である。中央部に穿孔が施されている。54は籠または杓子である。55は折敷の側板である。56は丸型連歯下駄である。57は角型連歯下駄である。磨滅した歯に別材を釘で継ぎ足している。58は折敷の底板である。側板を留めるための釘孔が8箇所みとめられる。59は板状の木製品である。片側の端部がV字状に加工されている。中央部に釘孔が穿たれている。60は結物桶の樽板である。61・62は板状の木製品である。62は渦巻き状を呈しており、装飾用に使われたと考えられる。63～66は蓋板である。63は中央部に穿孔が2箇所施されている。64～66は中央部に樹皮かがりがみとめられる。67は板状の木製品である。装飾用に使われたと考えられる。68は板状の木製品である。コの字状に成形されている。中央部に釘孔が穿たれている。69は籠または杓子である。

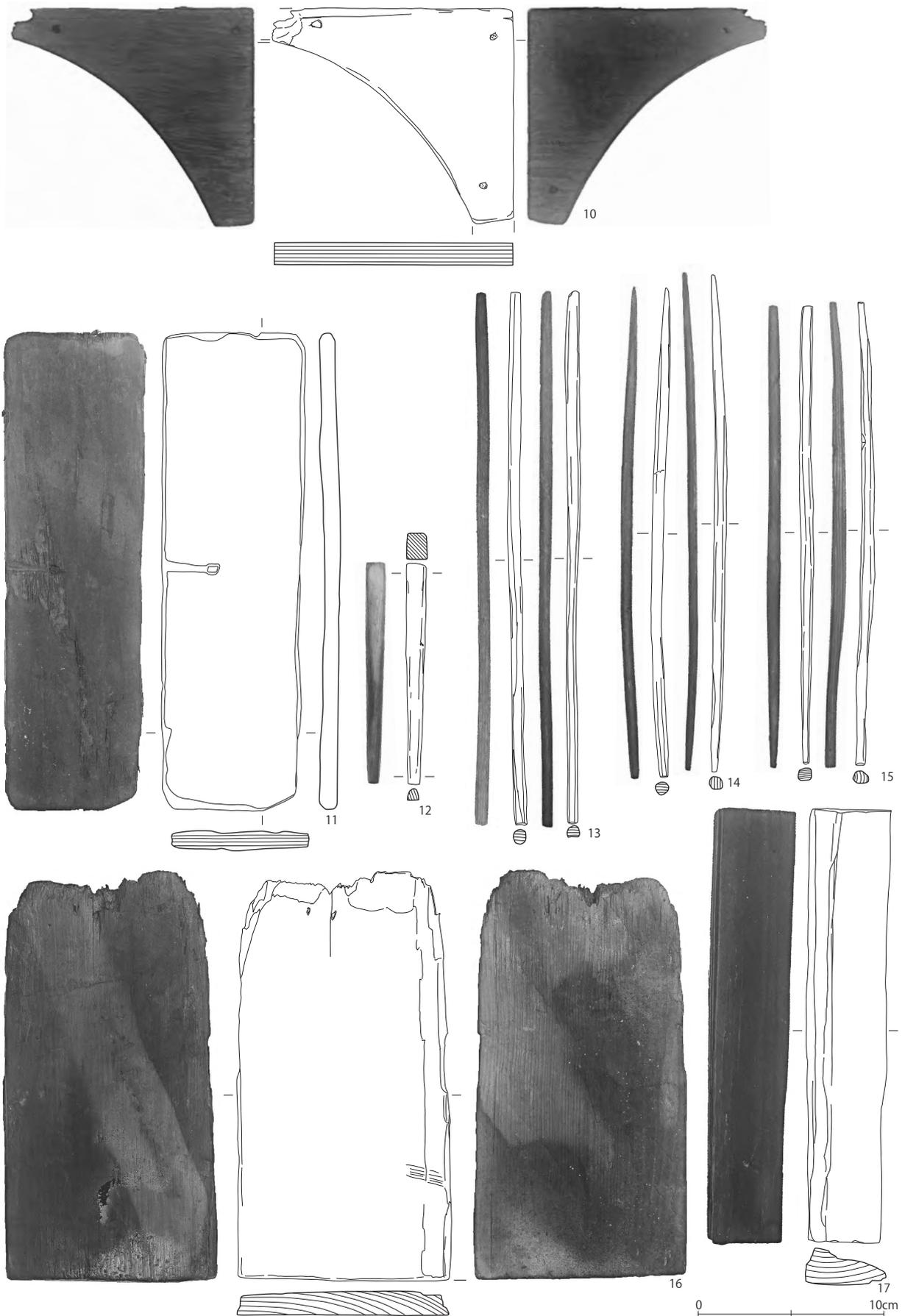
70・71は箸である。72～75は結物桶の樽板である。76は曲物・結物の蓋板または底板である。77は角型連歯下駄である。78は板状の木製品である。一部に樹皮かがりがみとめられる。容器類の側板の一部と思われる。79・80は結物桶の樽板である。81は板状の木製品である。一辺に連続して切れ込みを入れて波状に成形、それ以外は切れ込みが入れられている。82は蓋などの把手である。2箇所に固定用の木釘が残存している。83は木筒である。84・85は籠または杓子である。86は板状の木製品である。中央部に穿孔が施されている。87・88は結物桶の樽板である。89は曲物・結物の蓋板または底板である。90は折敷の側板である。側面に釘孔が5箇所みとめられる。91は箸である。92は栓である。93は板状の木製品である。端部中央に穿孔が施されている。94は板状の木製品である。中央部が細くなるように成形されている。両端部と中央部に溝が切られている。95は板状の木製品である。中央部に穿孔が施されている。96・97は角型連歯下駄である。98は丸型連歯下駄である。99は角型割り下駄である。100は栓である。101は板状の木製品である。102は棒状の木製品である。103～105は結物桶の樽板である。106は丸型連歯下駄である。107は箸である。108は曲物・結物の蓋板または底板である。側面に別材とつなぐための釘孔がみとめられる。109は角型割り下駄である。110・111は角型連歯下駄である。112・113は曲物・結物の蓋板または底板である。112は別材とつなぐための釘孔が2箇所みとめられる。114は曲物・結物の蓋板である。栓をはめ込むための孔の一部が残存している。115は曲物・結物の蓋板または底板である。側面に別材とつなぐための釘孔がみとめられる。116は結物桶の樽板である。117は角型連歯下駄である。118は角型割り下駄である。119は板状の木製品である。120は箸である。121は折敷の底板である。側板を留めるための釘孔がみとめられる。122は板状の木製品である。釘孔が2箇所みとめられる。123は板状の木製品である。

端部をV字状に加工している。124は板状の木製品である。125は板状の木製品である。端部に木釘が残存している。126は角型連歯下駄である。127は板状の木製品である。端部に切れ込みが入れている。128は板状の木製品である。2枚の板が木釘でつながった状態である。129は蓋板である。把手を留めるための木釘が残存している。130は折敷の脚と考えられる板状の木製品である。コの字状に成形されている。側面に木釘が残存している。131は曲物・結物の蓋板または底板である。132は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。釘孔が1箇所みとめられる。133は栓である。端部に穿孔が施されている。134～137は結物桶の樽板である。138は丸型連歯下駄である。139は折敷の底板である。140・141は手提げ箱の持ち手の部材と側板である。141には140を固定するための釘孔がみとめられる。142は蓋板である。中央部に樹皮かがりがみとめられる。143は折敷の底板である。144～147は曲物・結物の蓋板または底板である。148は棒状の木製品である。中央に1cm幅の溝が切られており、別材がはめ込まれていたと考えられる。149・150は結物桶の樽板である。151は栓である。152は板状の木製品である。153は角型連歯下駄である。154は結物桶の樽板である。155は曲物の側板である。内面に格子刻みが付けられている。156は棒状の木製品である。中央部分から細く作られており、栓と思われる。157は曲物・結物の蓋板または底板である。158は折敷の側板である。側面に底板に固定するための木釘が残存している。159は曲物・結物の蓋板または底板である。側面に釘孔が2箇所みとめられる。160は棒状の木製品である。両端部が凹型に加工され、釘孔が穿たれている。障子の棧と考えられる。161は結物桶の樽板である。162は板状の木製品である。163は結物桶の樽板である。164・165は箸である。166は板状の木製品である。中央部に穿孔がみとめられる。167は把手状の木製品である。両端部に穿孔が施されている。168は板状の木製品である。片側端部を丸く成形している。169は結物桶の樽板である。170は板状の木製品である。釘孔がみとめられる。171は蓋板である。側面に別材と接合するための孔が2箇所みとめられる。172・173は栓である。174は曲物の側板である。樹皮かがりで留められている。175は丸型露卯下駄である。176・177は丸型連歯下駄である。178～180は篋または杓子である。181は板状の木製品である。端部に穿孔が1箇所みとめられる。182は篋または杓子である。183～186は箸である。187は鍬の身である。鉄刃を装着する段差と柄を挿入する孔がみとめられる。188～190は篋または杓子である。191は曲物・結物の蓋板または底板である。192は曲物の底板である。193・194は紡織具の糸枠の部材である。中央部を凹型に加工し、中心に穿孔が施されている。両端部のほうに徐々に細くなるように成形している。195・196は篋または杓子である。197～199は紡織具の糸枠の部材である。2箇所別材を組み合わせる柄穴が穿孔されている。200は栓である。201は折敷の底板である。側面に別材とつなぐための木釘が残存している。202は曲物である。側板は樹皮かがりで留められている。203・204は篋である。205・206は横櫛である。207は曲物・結物の蓋板または底板である。208・209は曲物の側板である。樹皮かがりがみとめられる。210は丸型連歯下駄である。211～213は篋または杓子である。214・215は曲物の側板と底板である。底板と側板の固定には木釘が使われている。216・217は曲物・結物の蓋板または底板である。218は篋または杓子である。219は杓文字である。220は折敷などの脚部である。中央部に切れ込みが入れており、同型の別材を十字に組み合わせて使用するものと考えられる。221は刀子型木製品である。222は丸型削り下駄であ

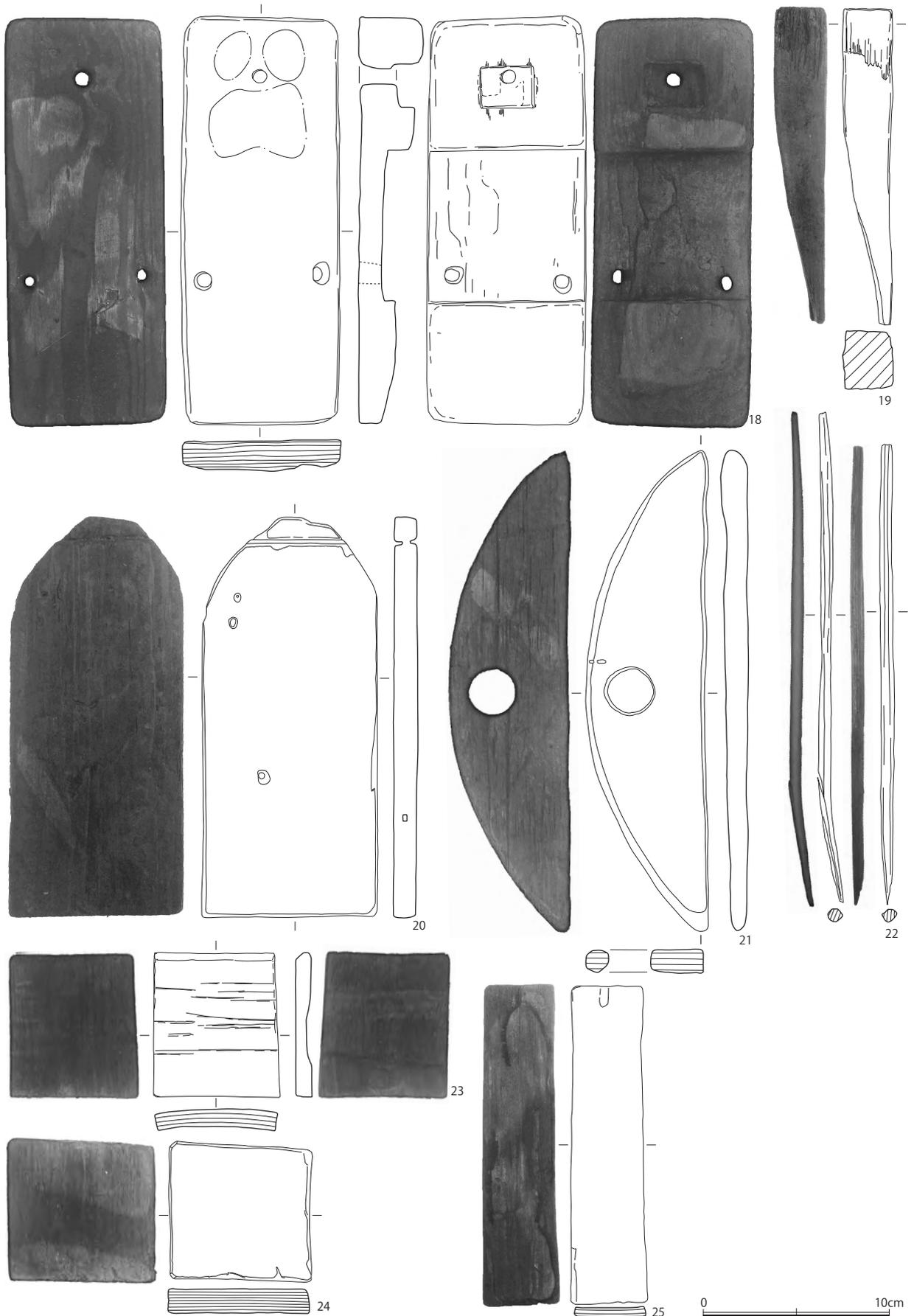


第509図 池状遺構(第2・第3遺構面)出土木製品(1)(縮尺:1/3)

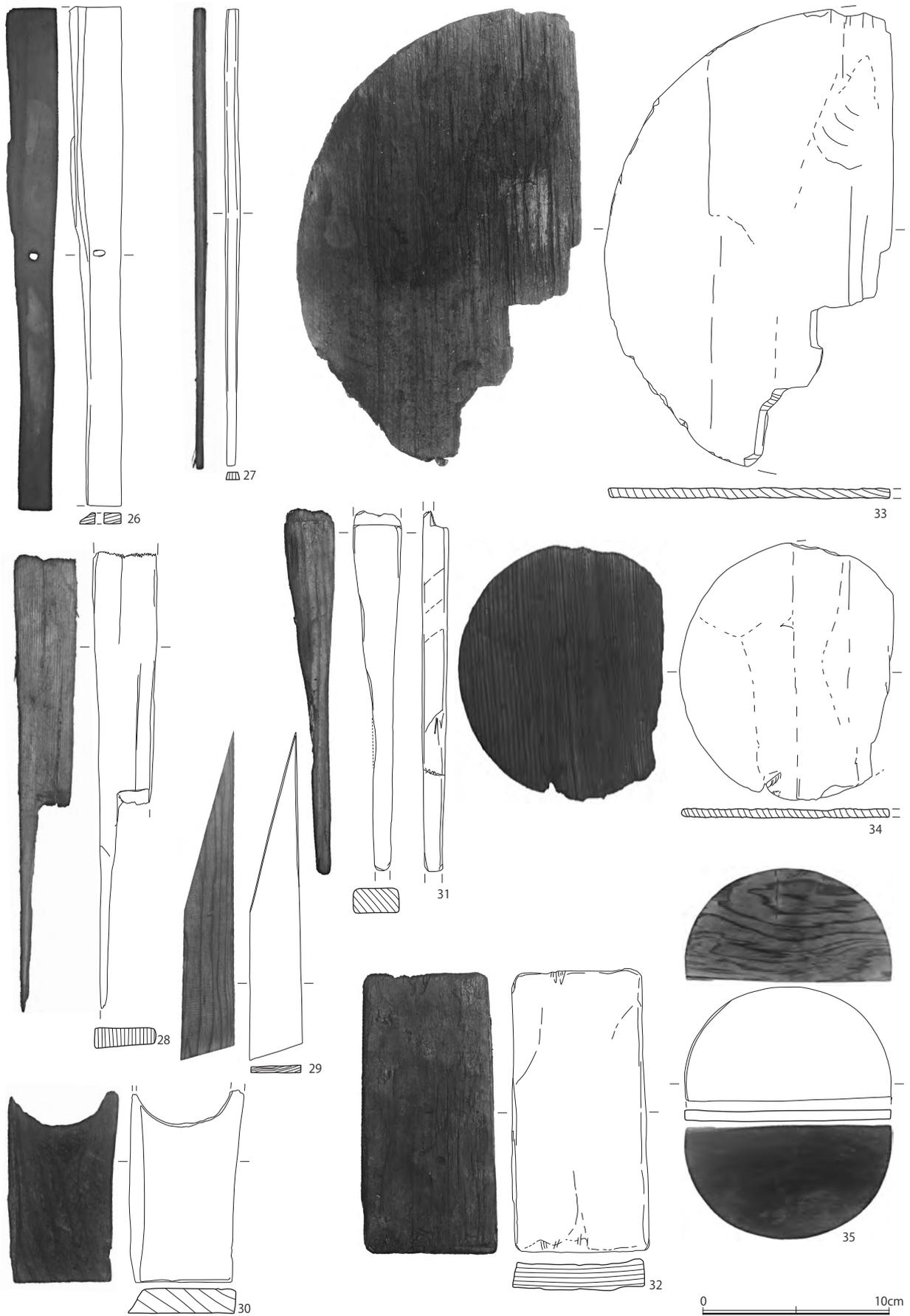
0 10cm



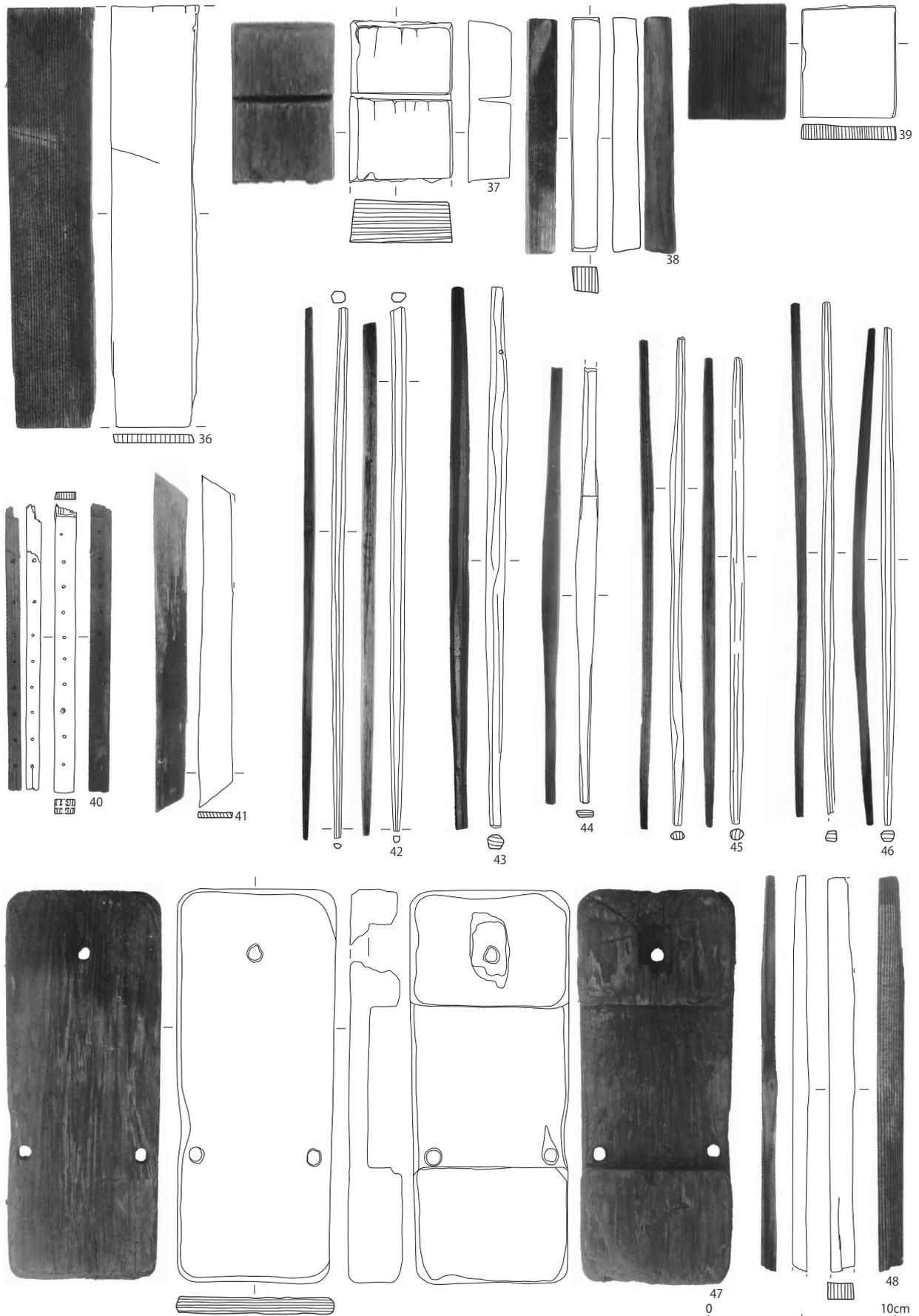
第510図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（2）（縮尺：1/3）



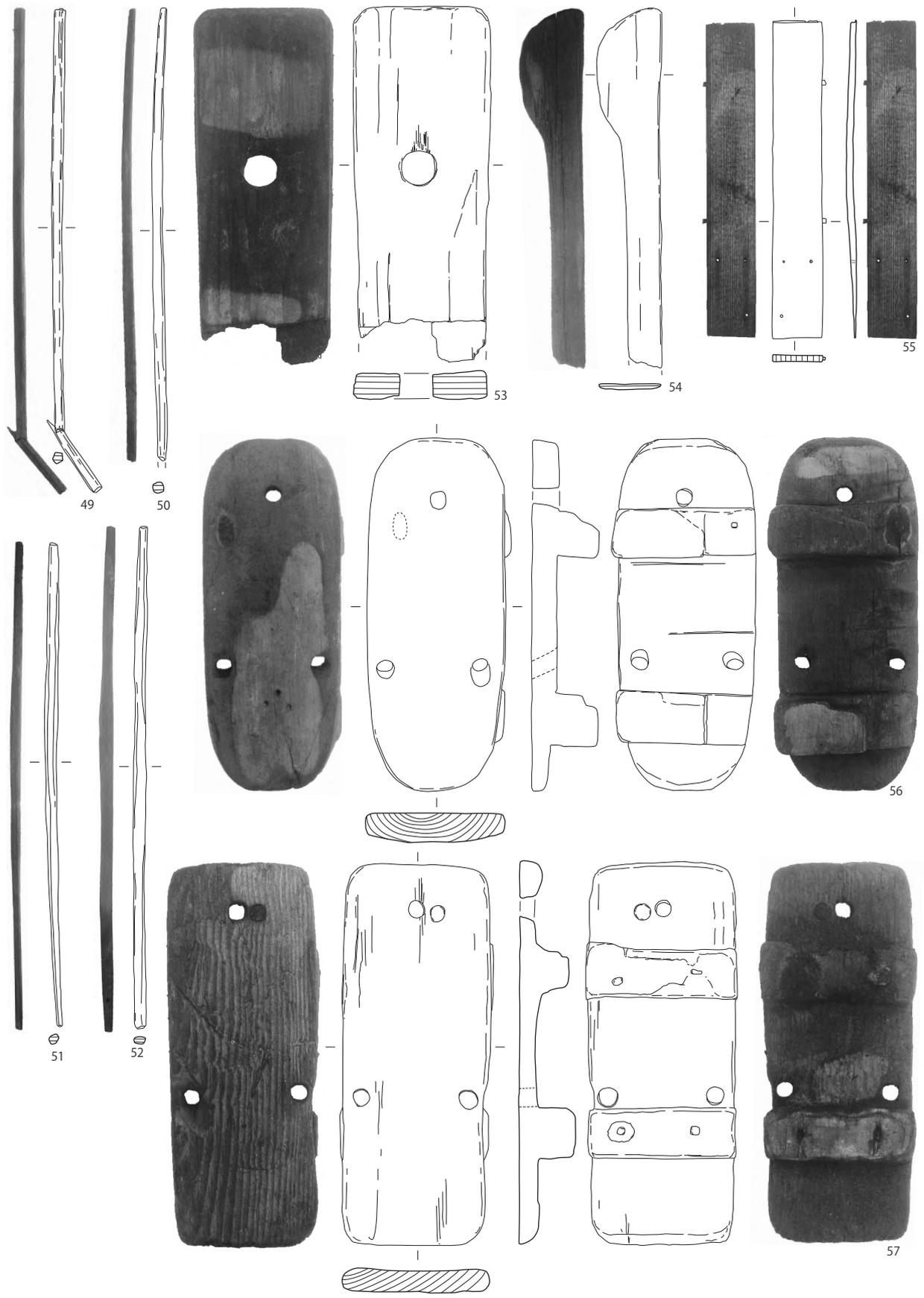
第511図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（3）（縮尺：1/3）



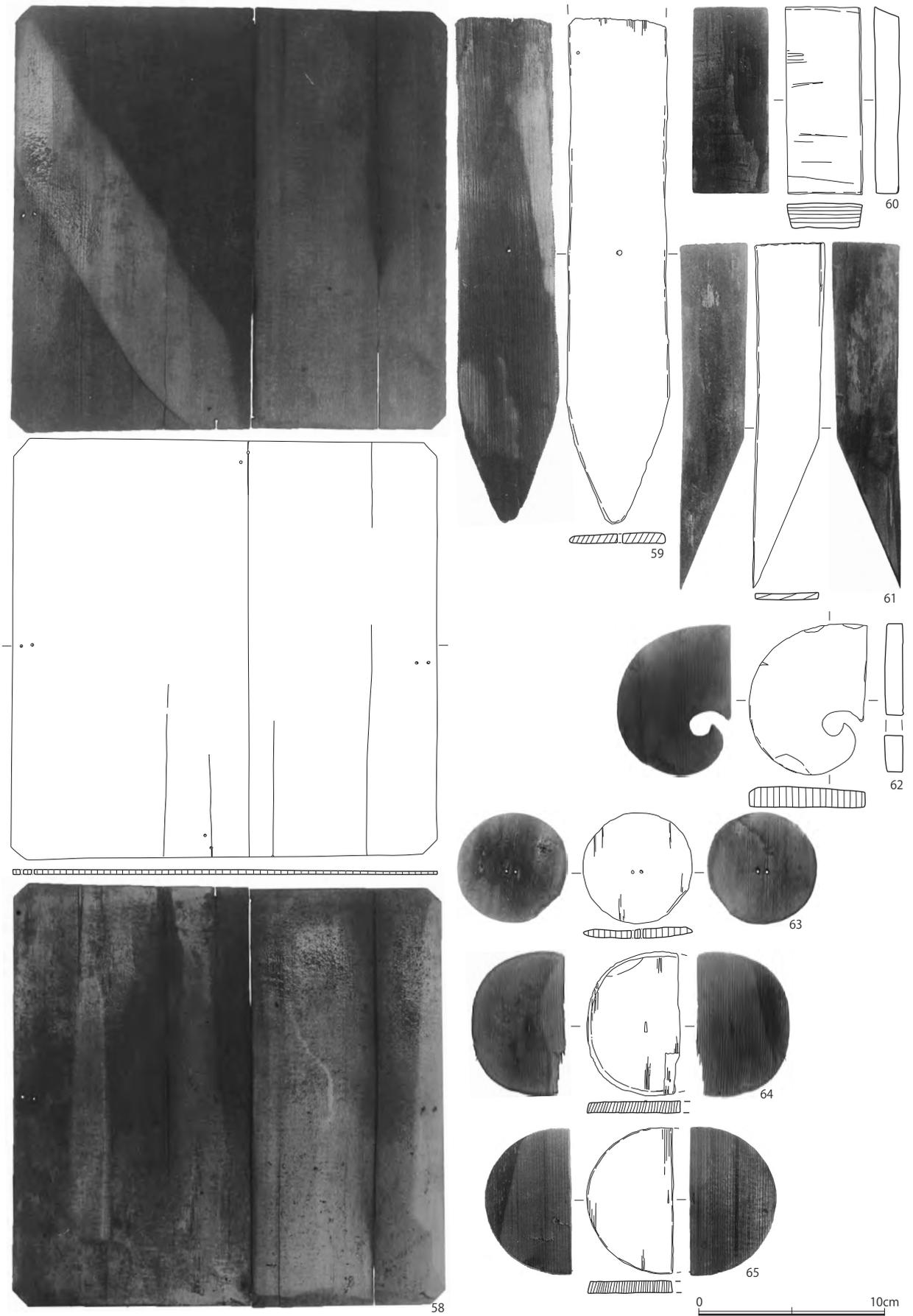
第512圖 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（4）（縮尺：1/3）



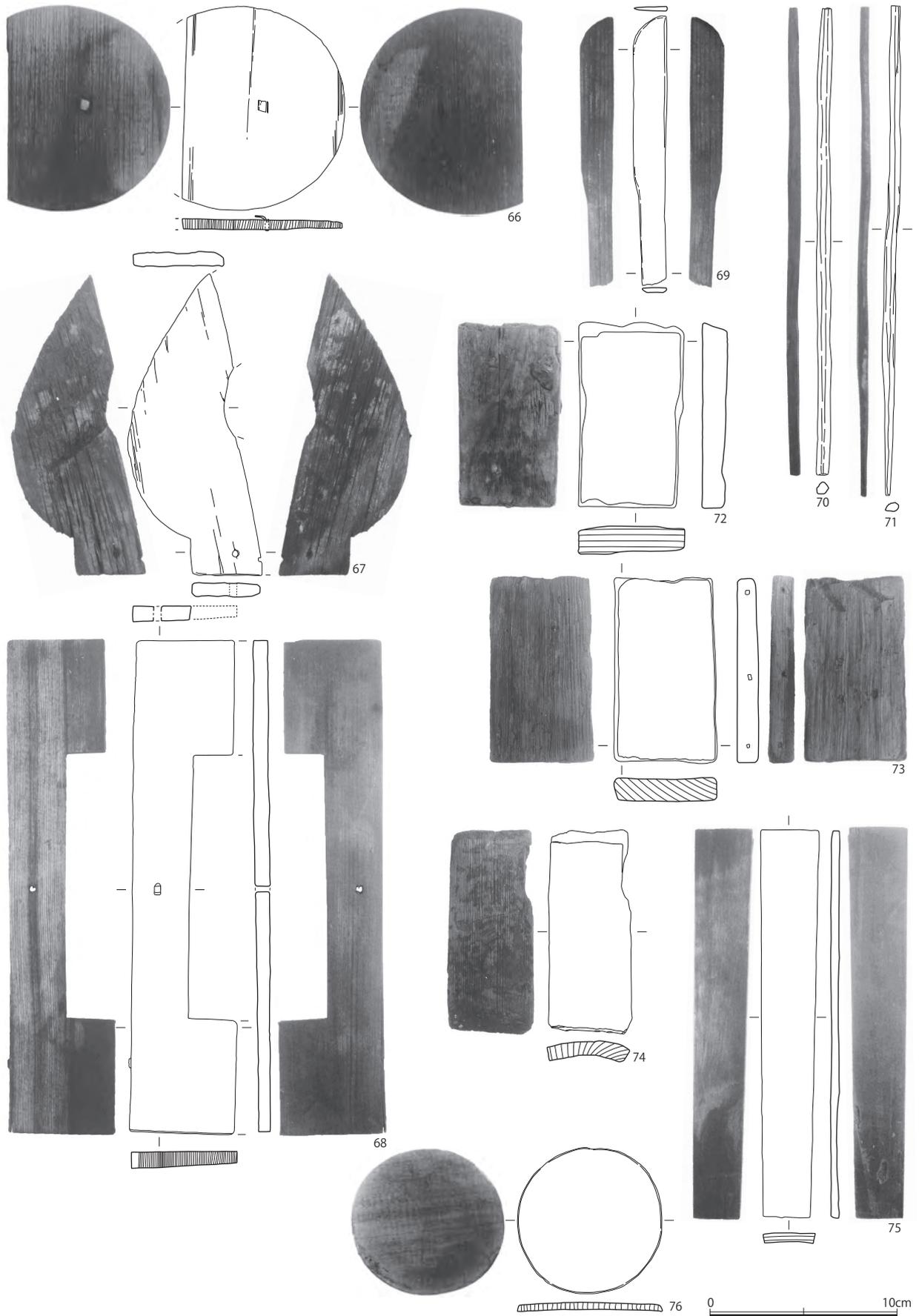
第513図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品(5)（縮尺：1/3）



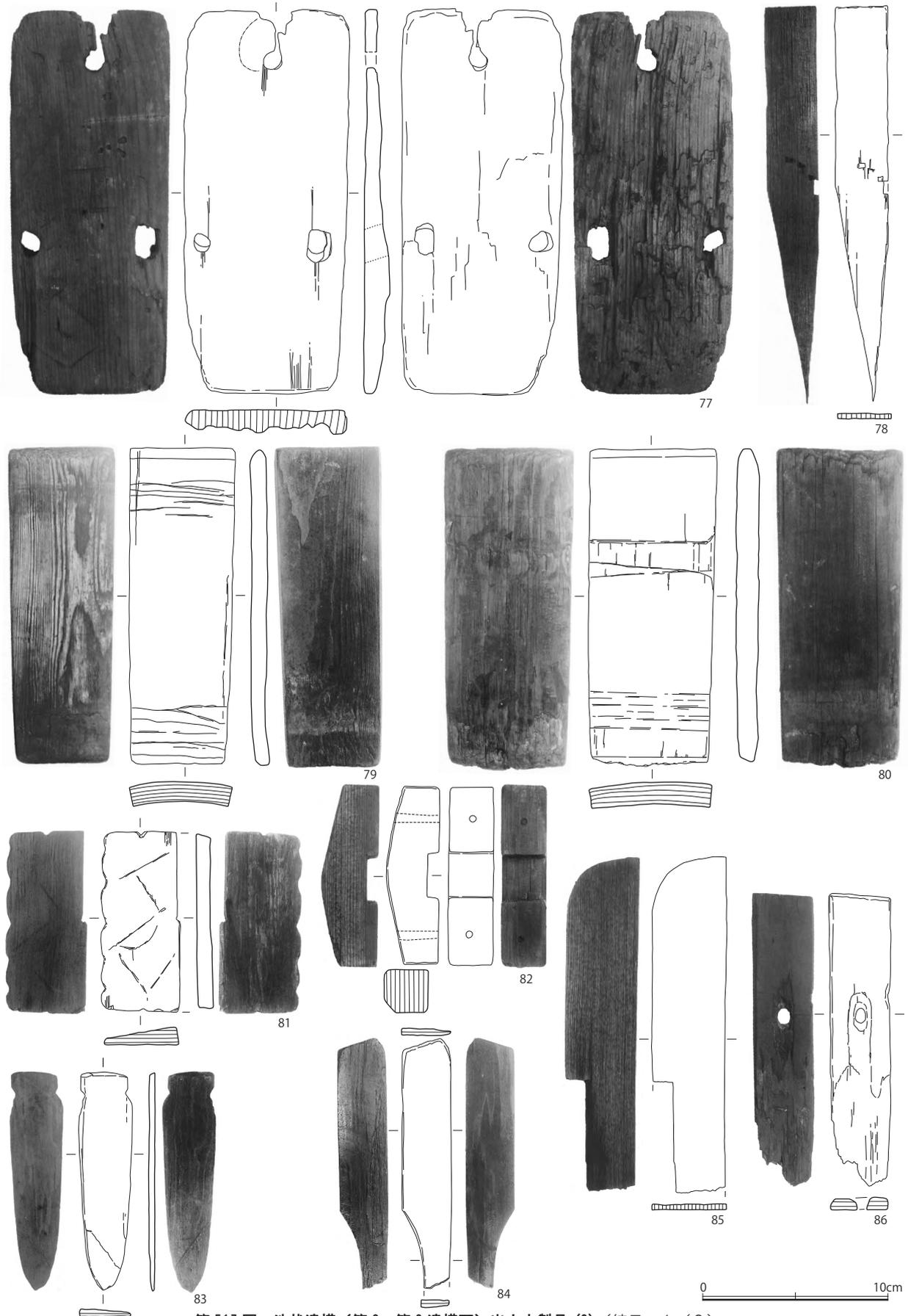
第514図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（6）（縮尺：1/3）



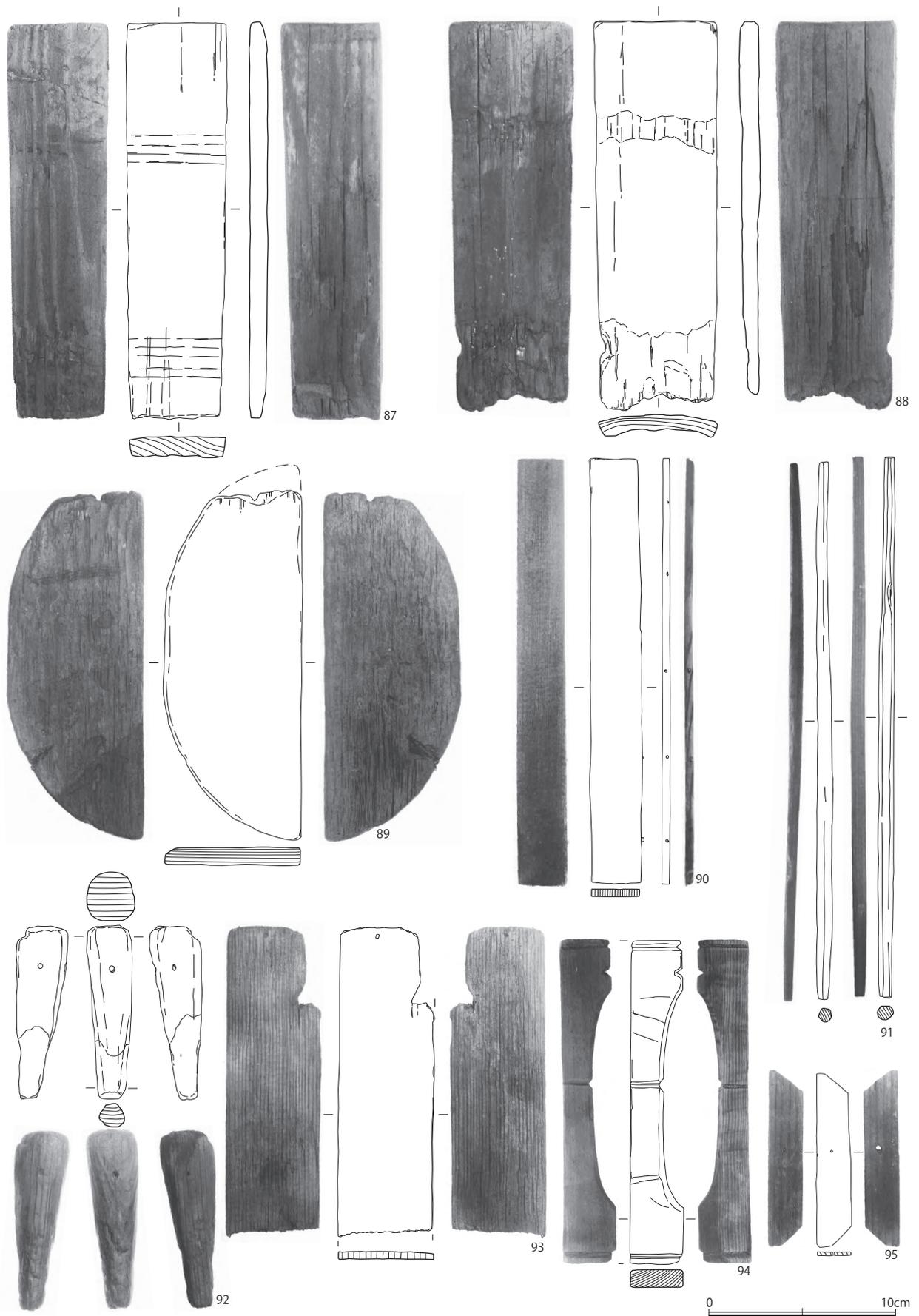
第515図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（7）（縮尺：1/3）



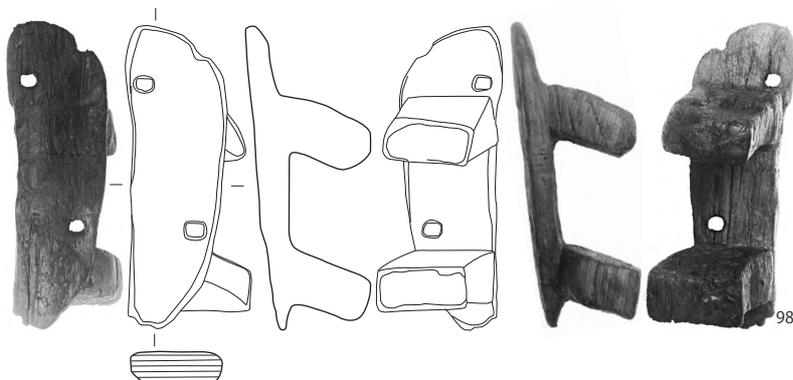
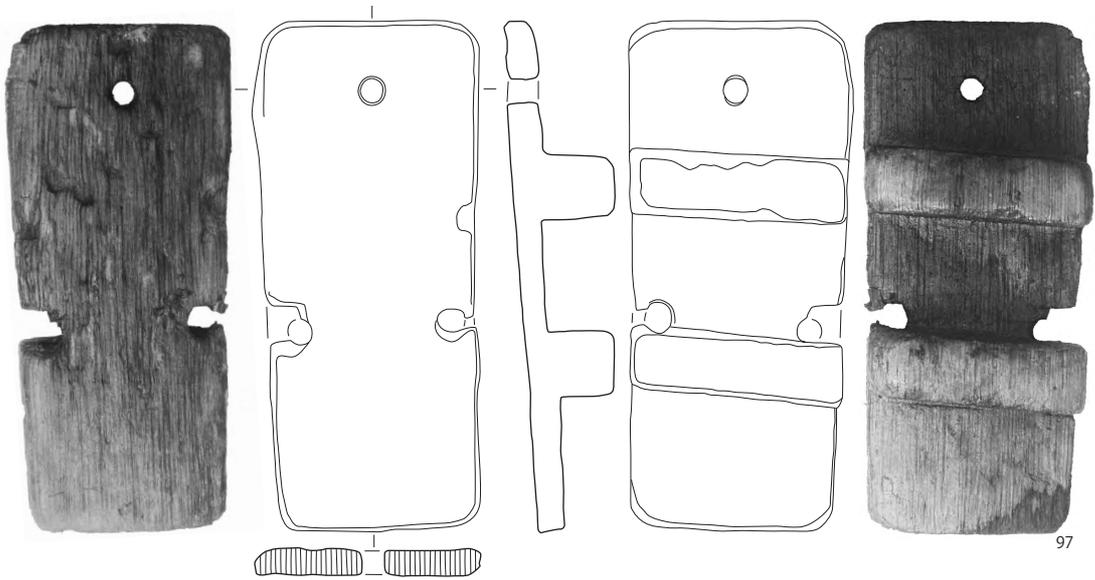
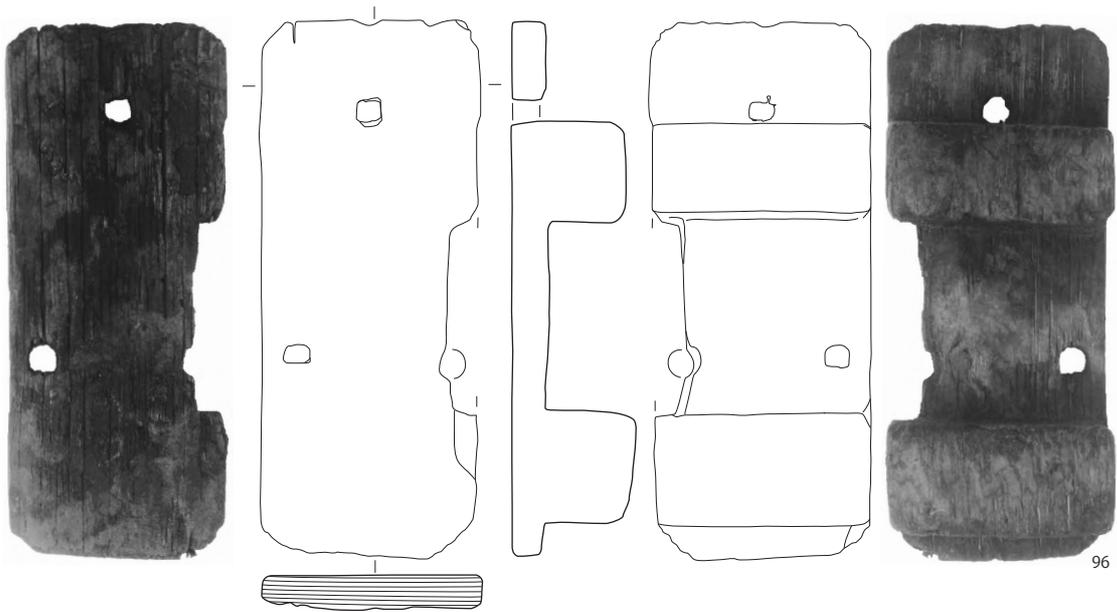
第516図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（8）（縮尺：1/3）



第517図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（9）（縮尺：1/3）

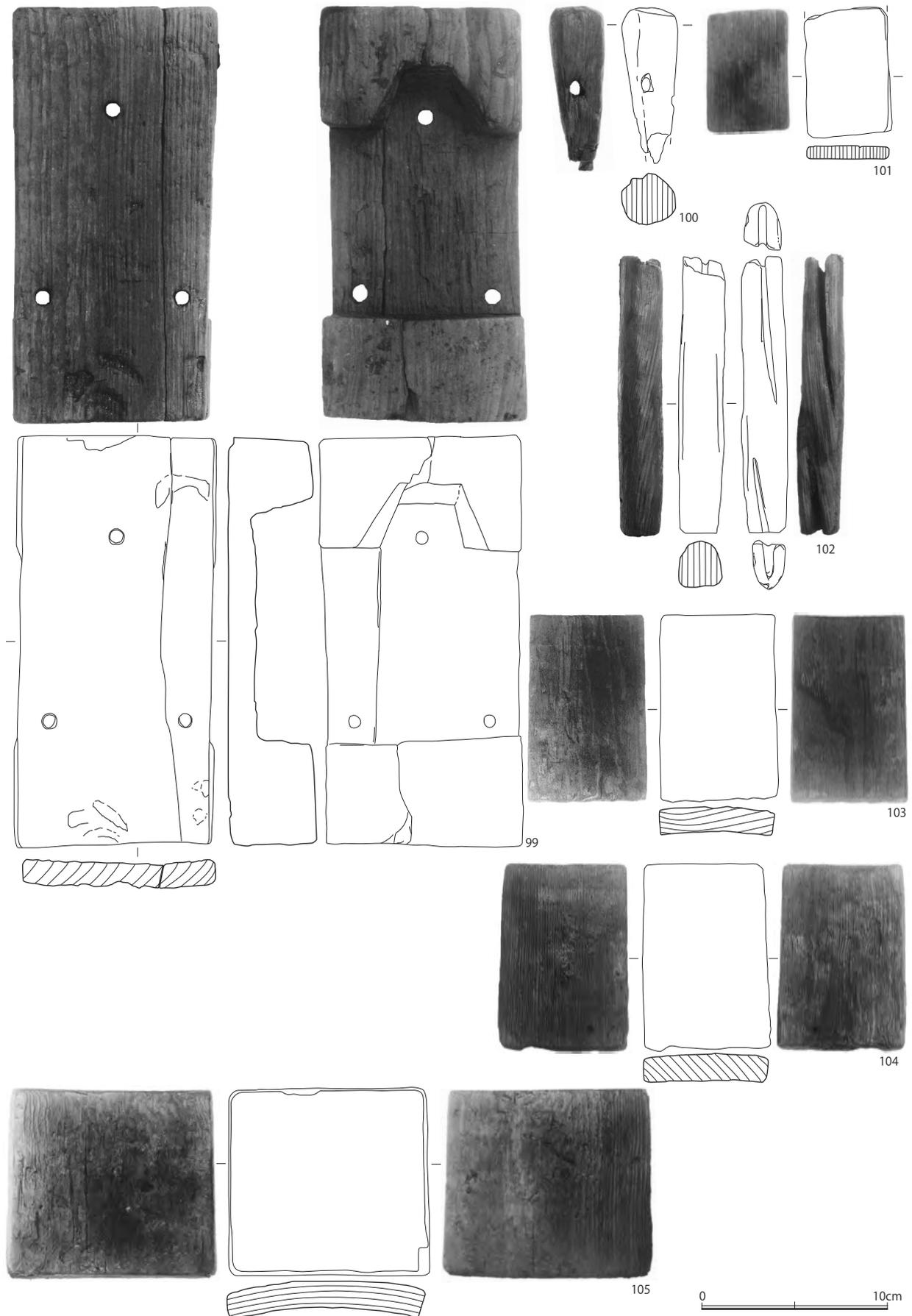


第518圖 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（10）（縮尺：1/3）

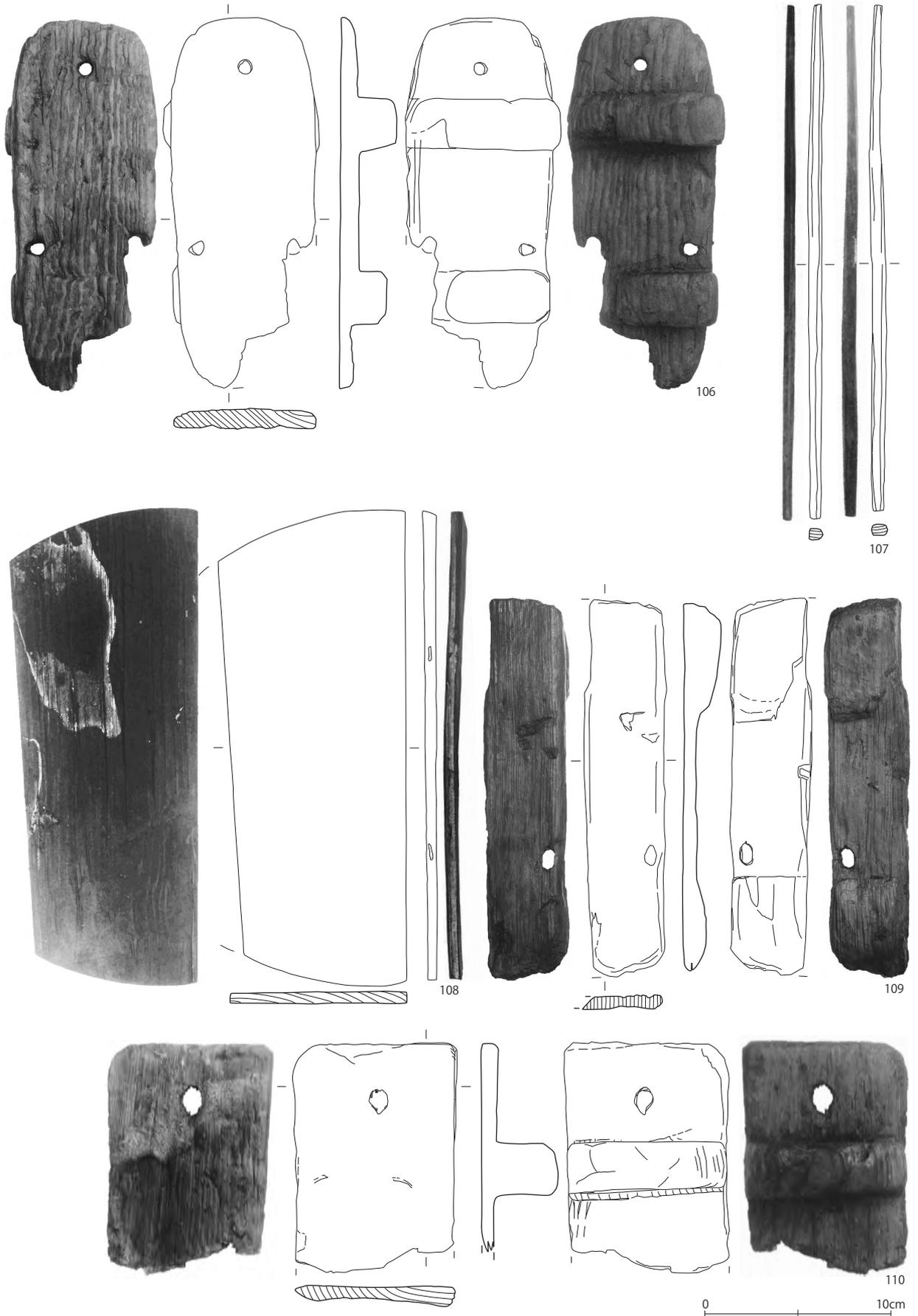


0 10cm

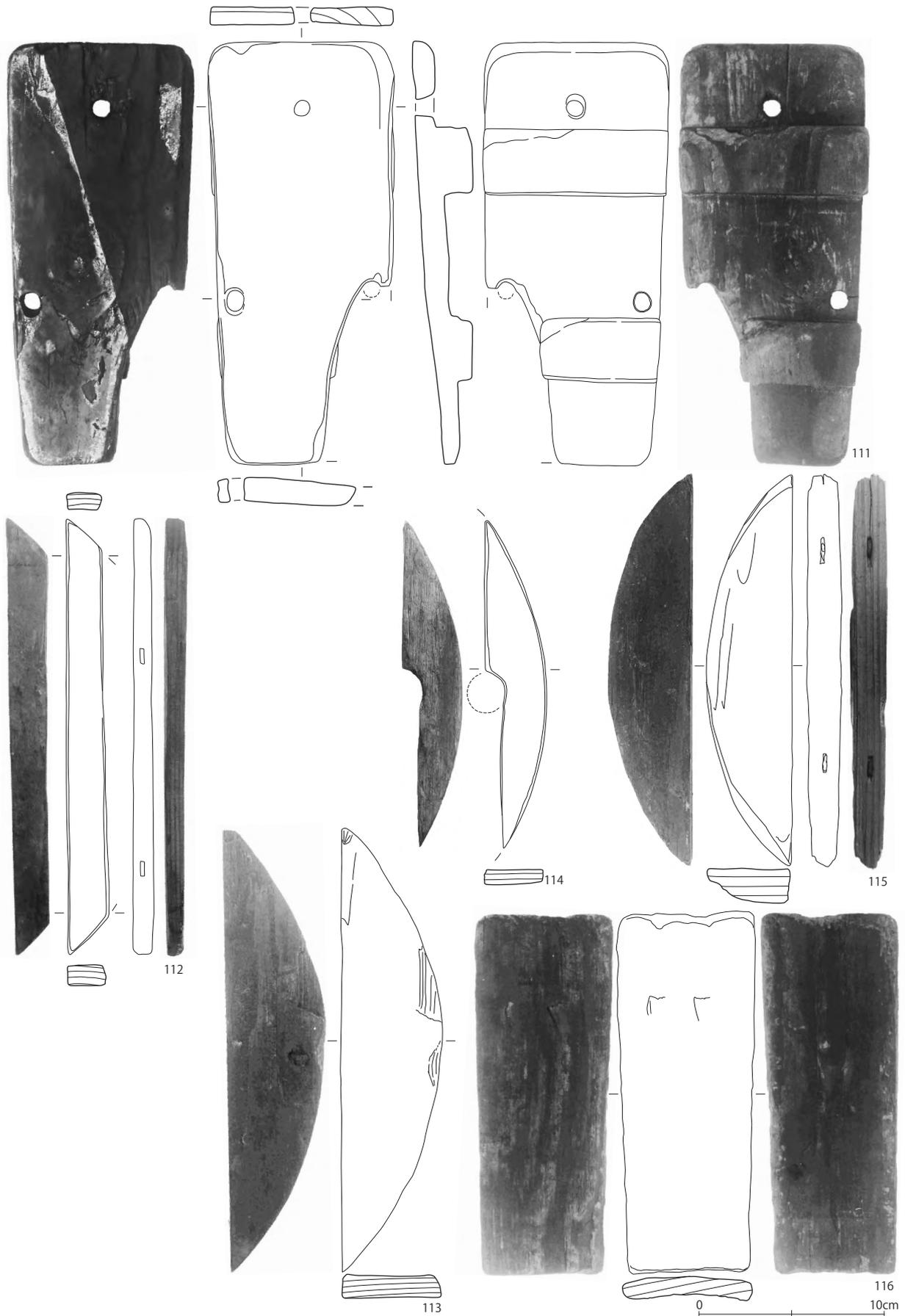
第519図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（11）（縮尺：1/3）



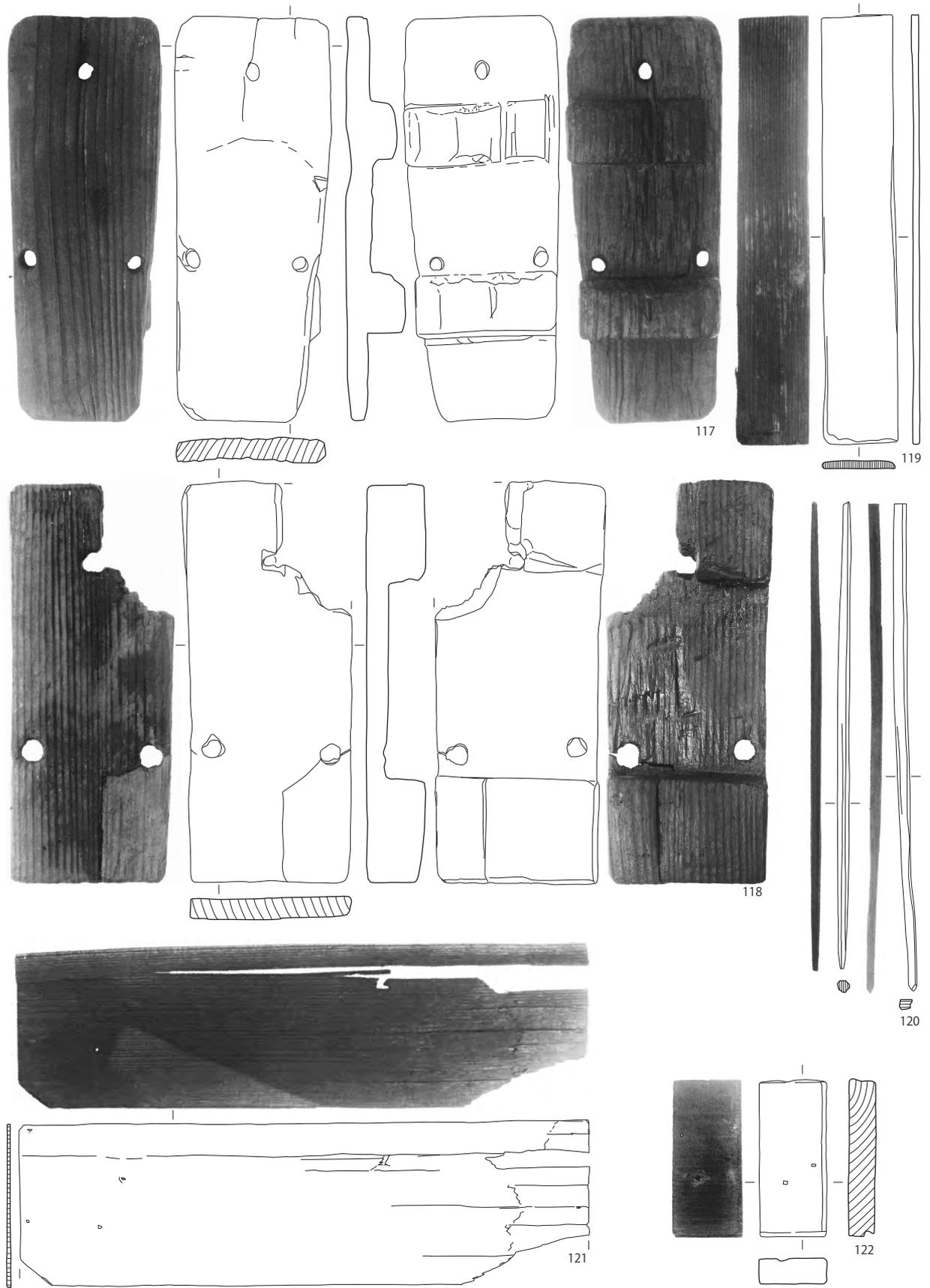
第520図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（12）（縮尺：1/3）



第521図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（13）（縮尺：1/3）

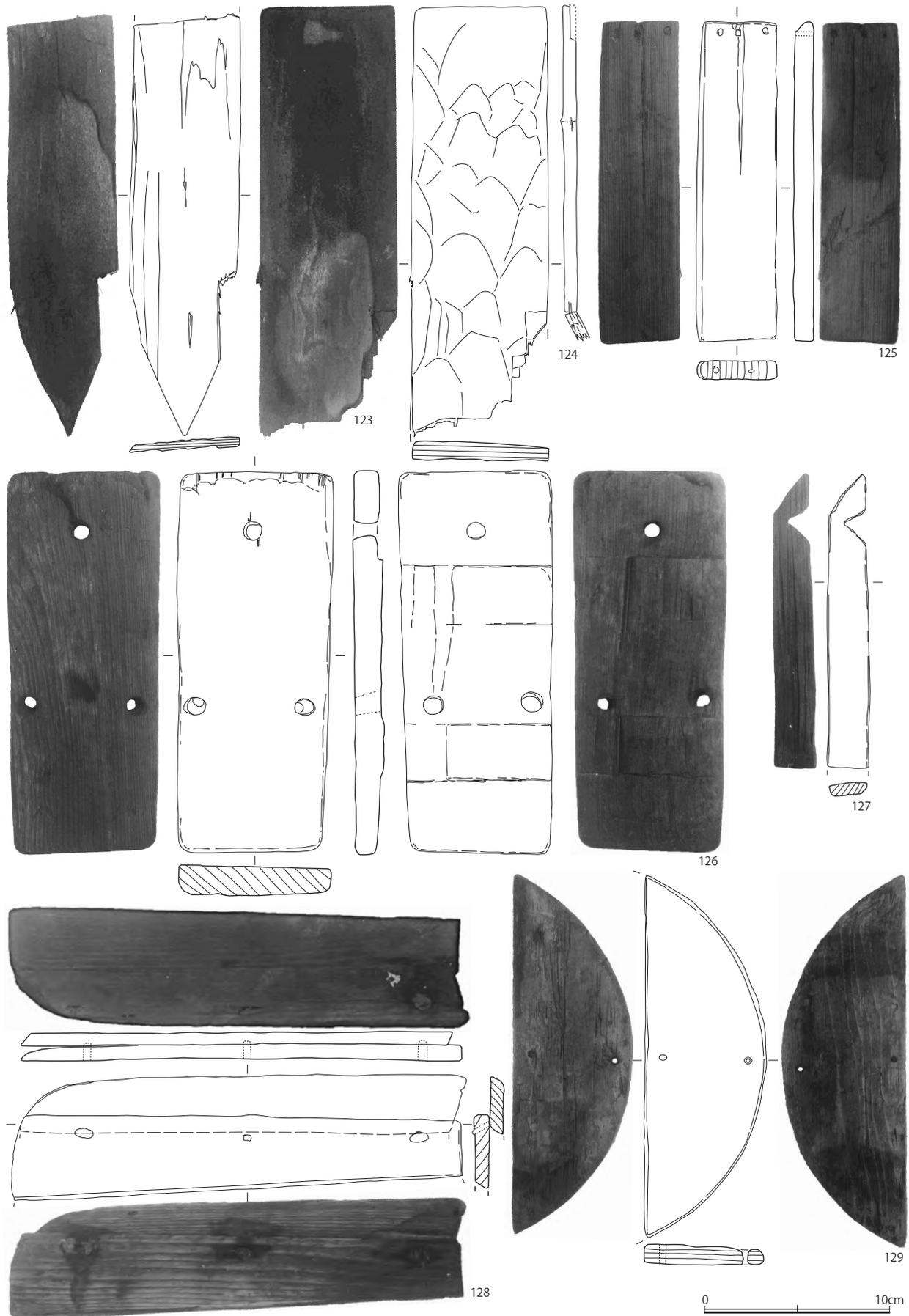


第 522 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土木製品（14）（縮尺：1/3）

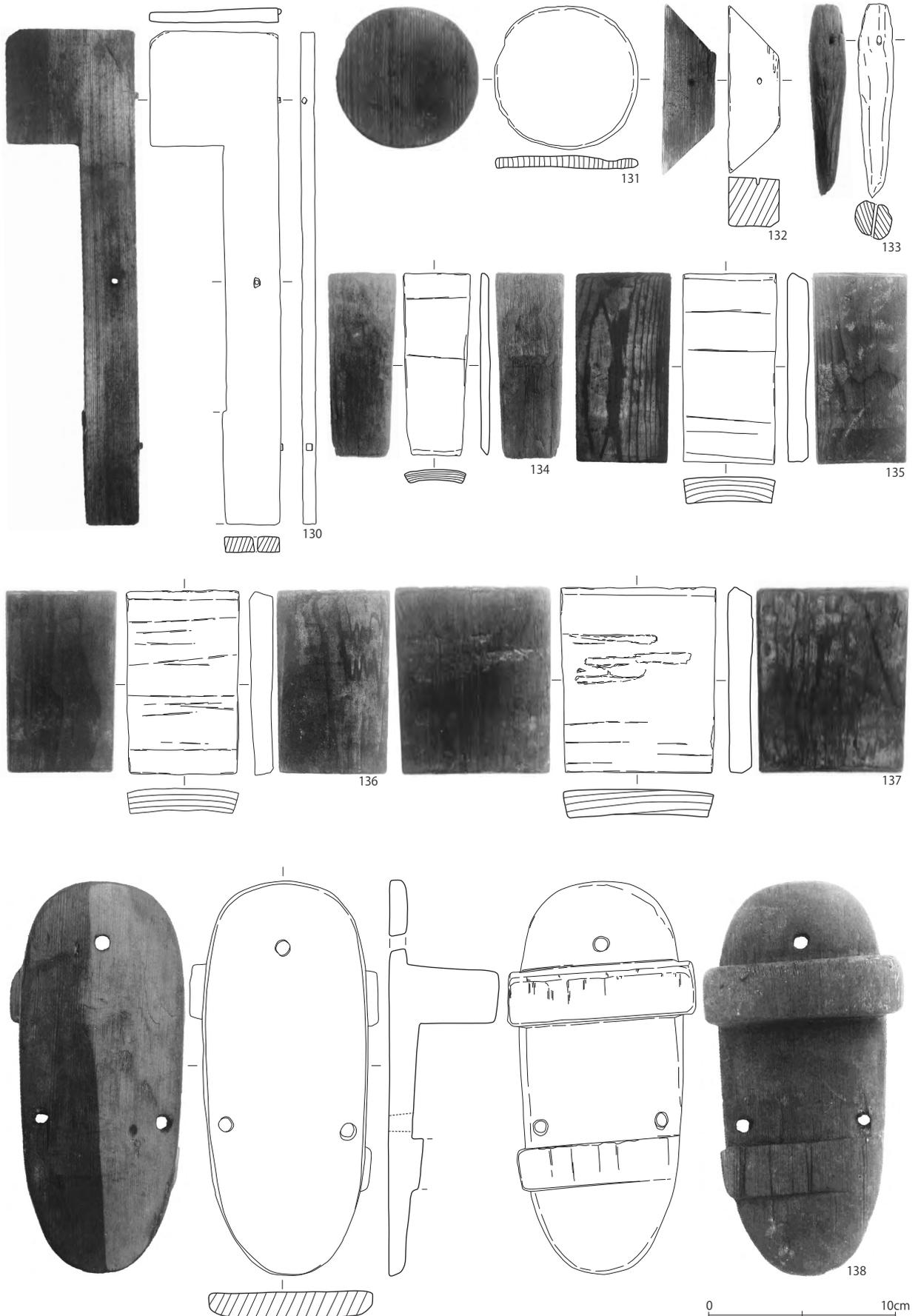


0 10cm

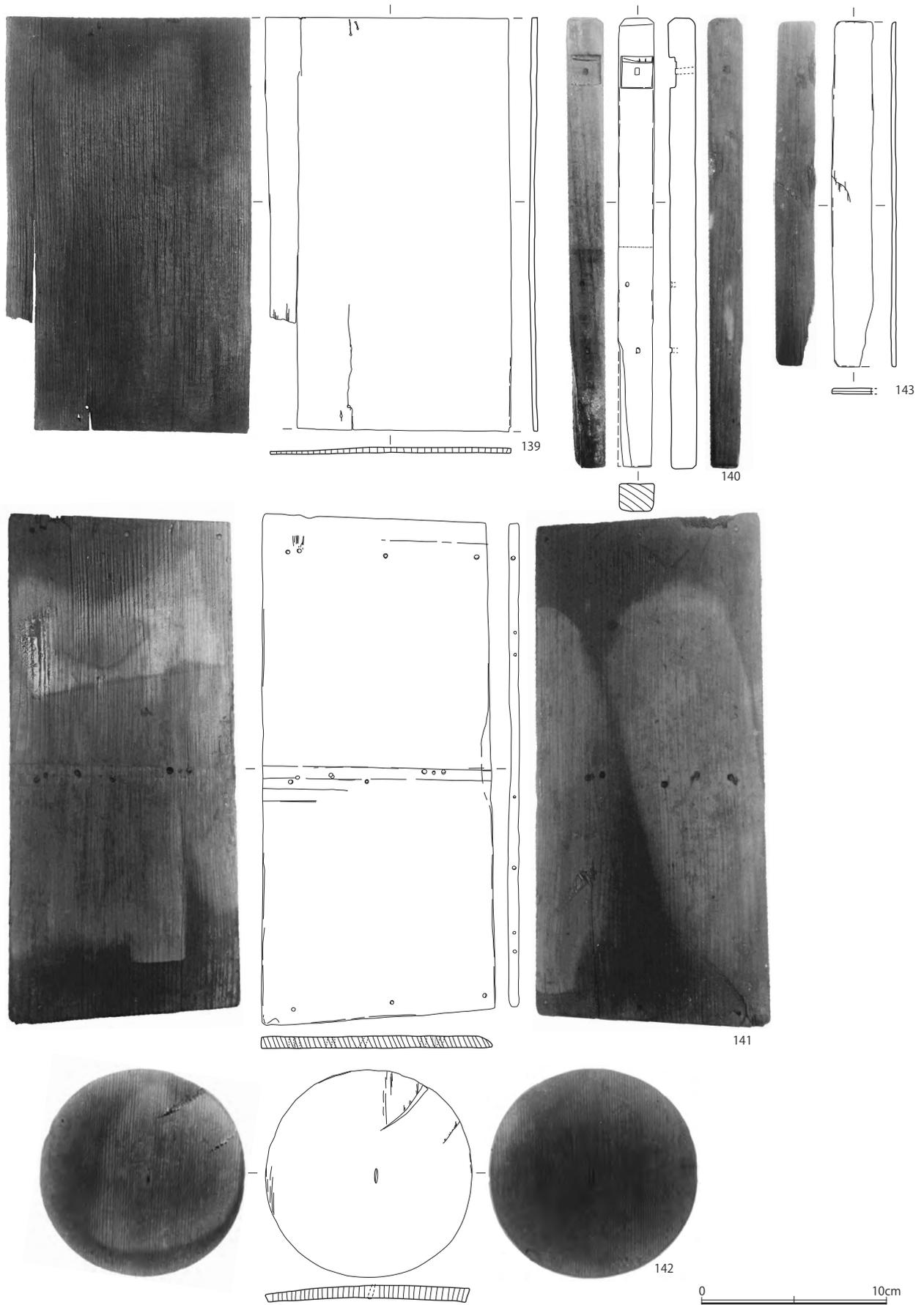
第523図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（15）（縮尺：1/3）



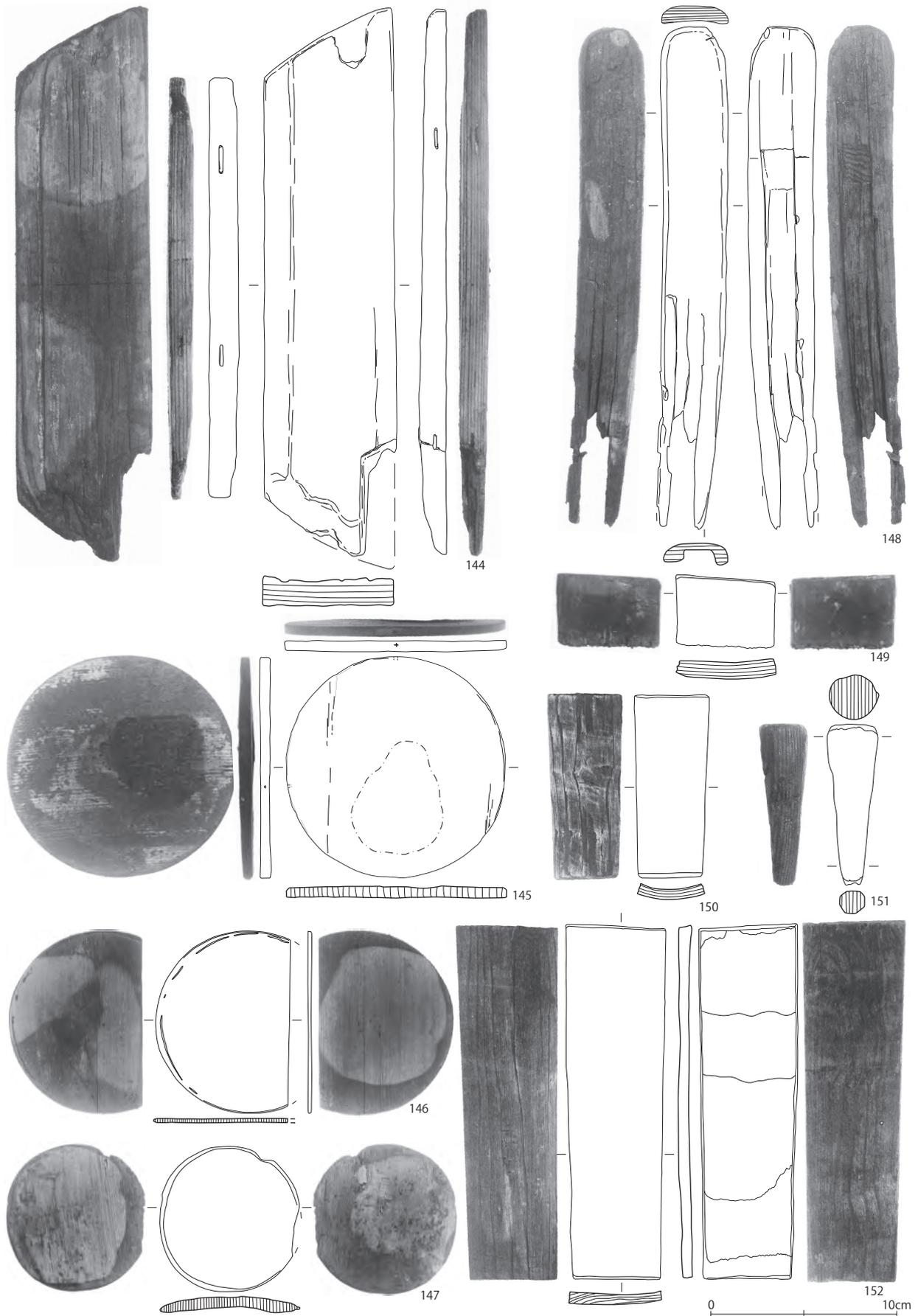
第524図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（16）（縮尺：1/3）



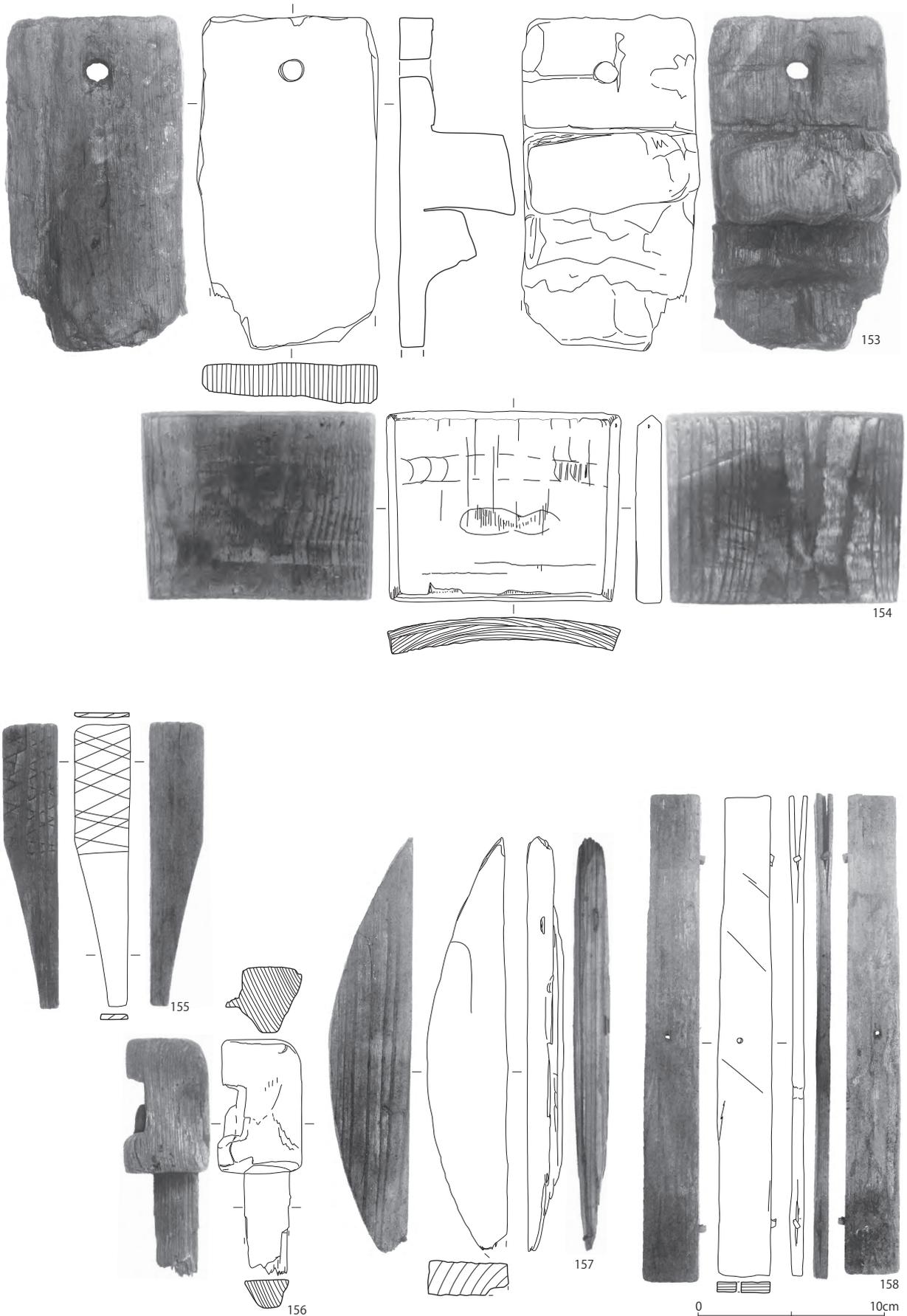
第 525 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土木製品 (17) (縮尺：1/3)



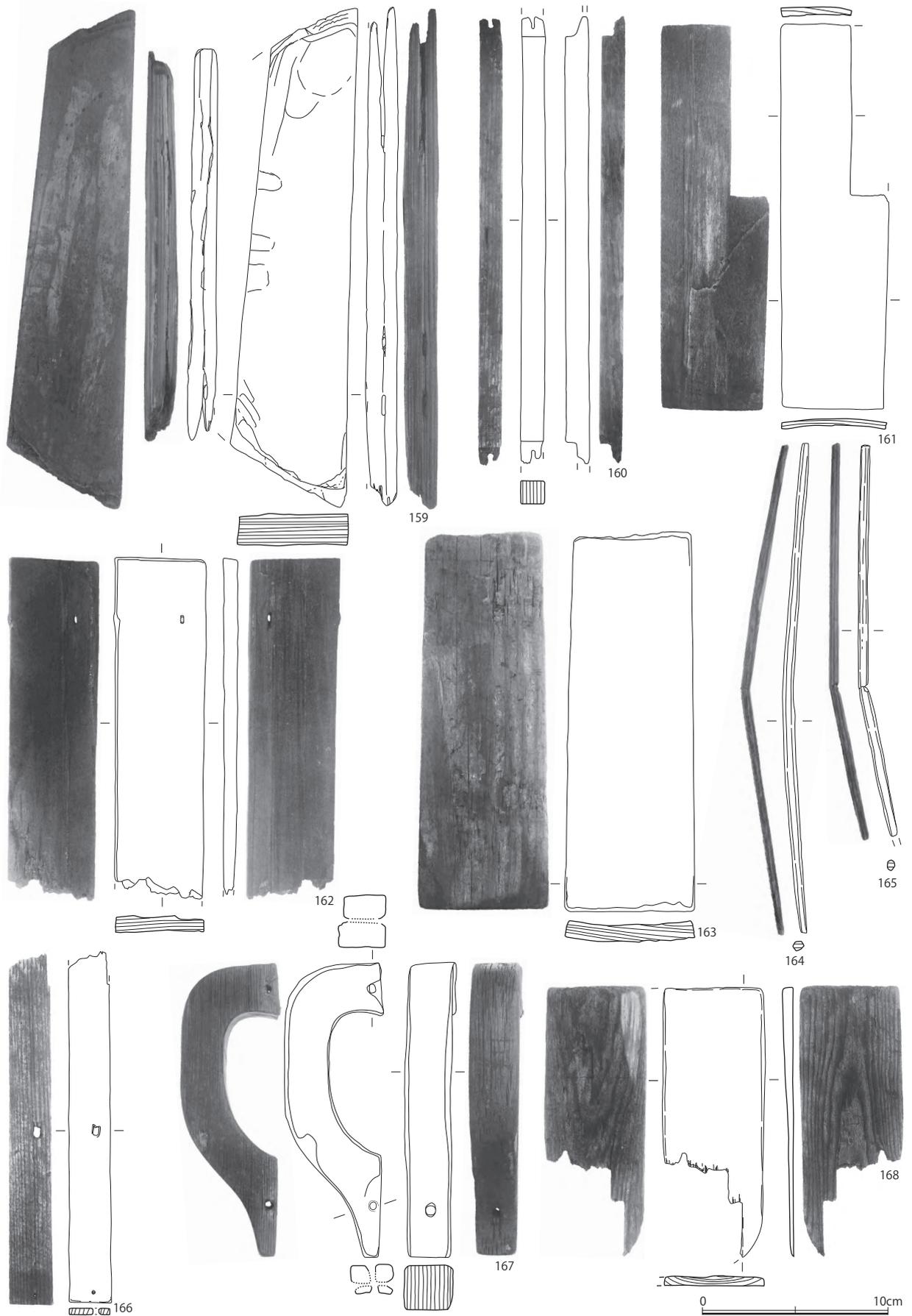
第 526 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土木製品 (18) (縮尺：1/3)



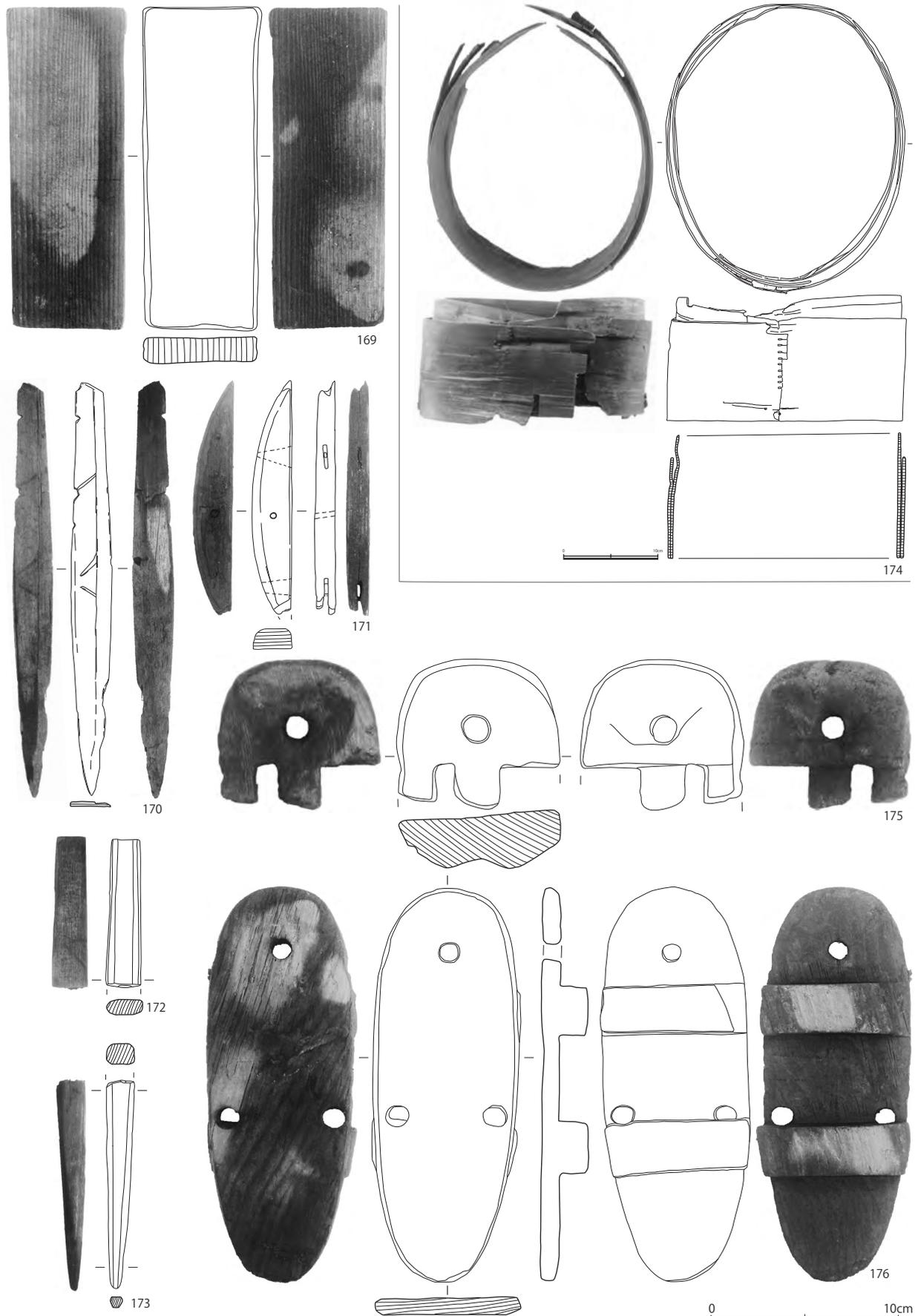
第527図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（19）（縮尺：1/3）



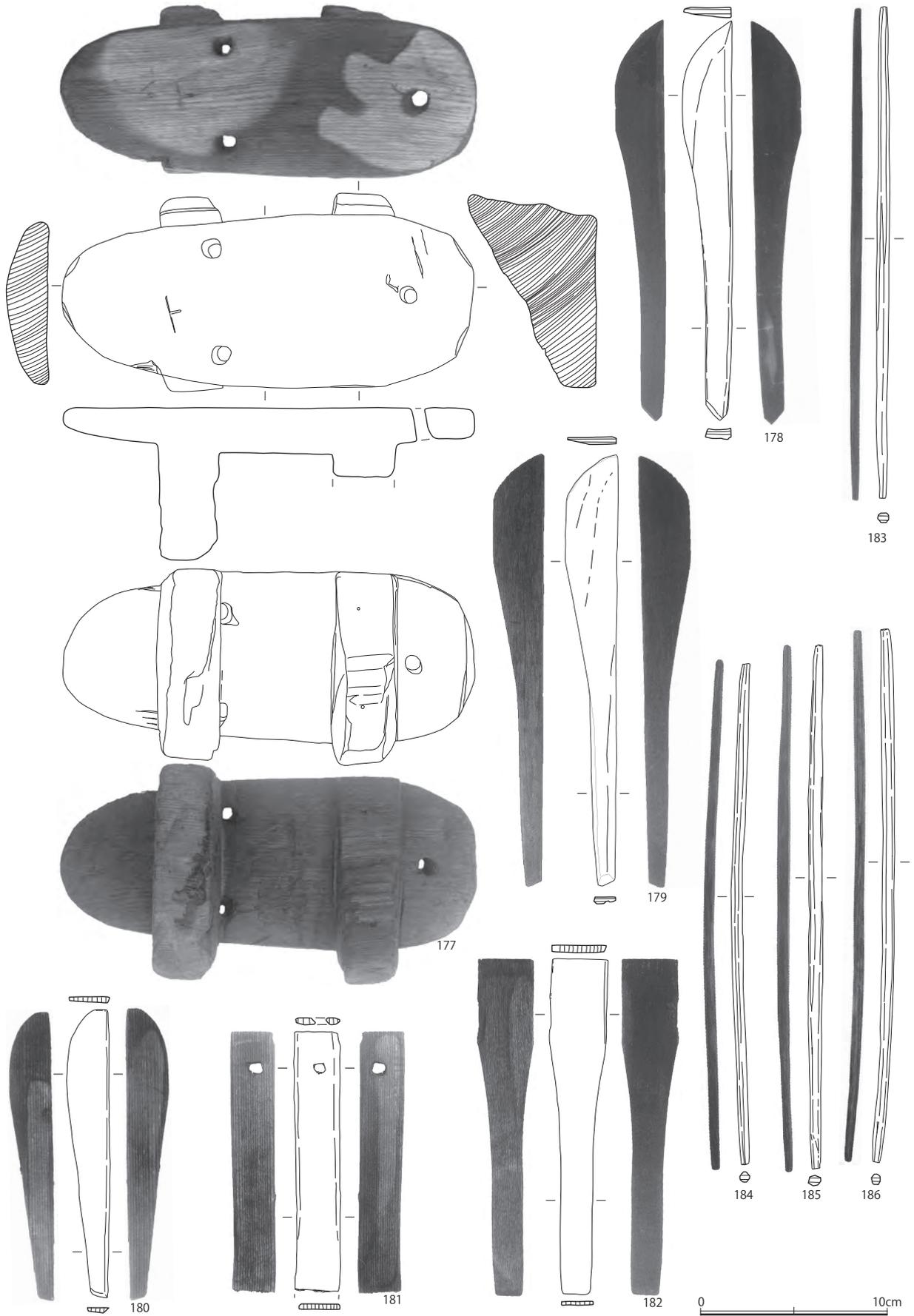
第 528 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土木製品（20）（縮尺：1 / 3）



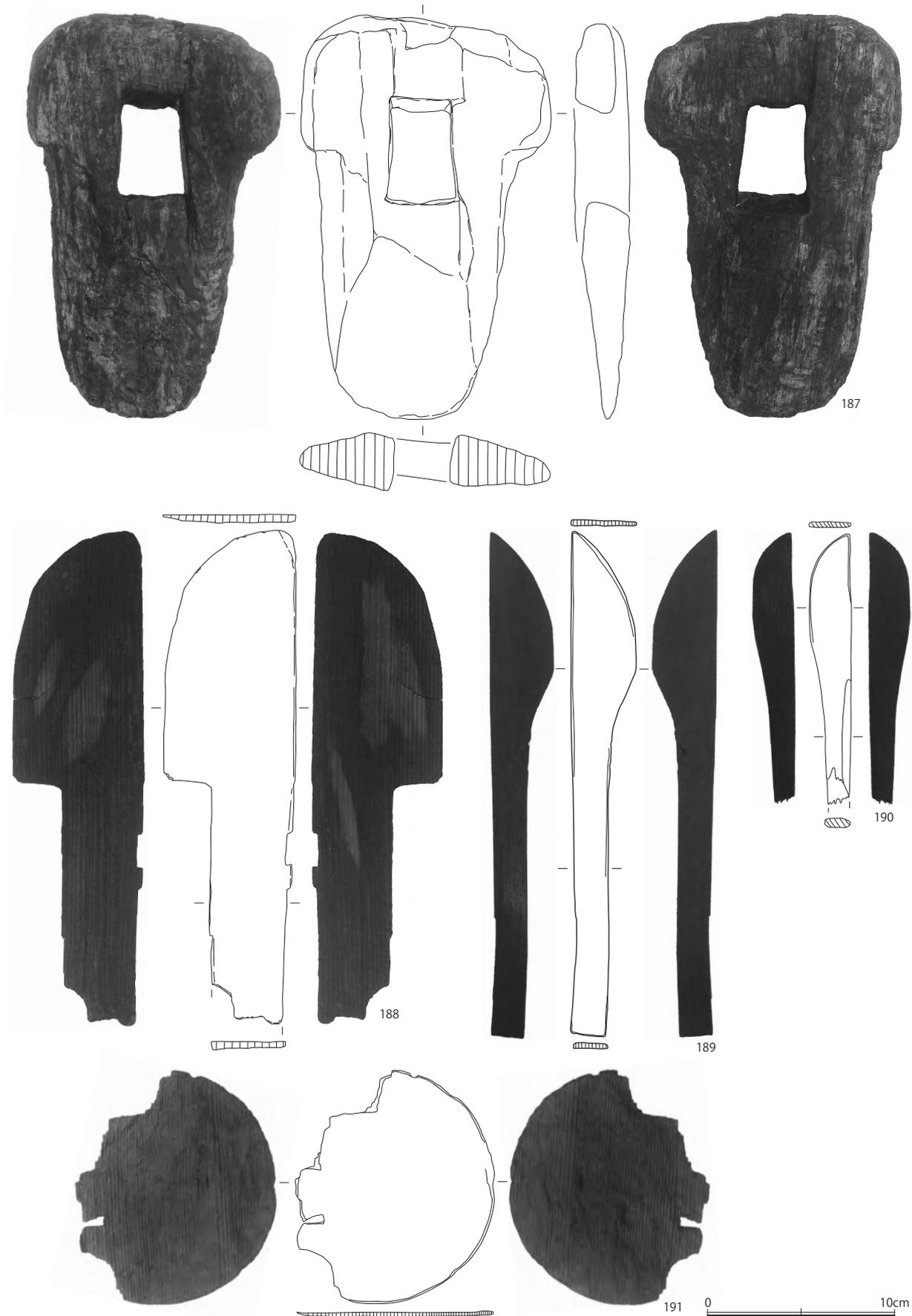
第529図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品(21)（縮尺：1/3）



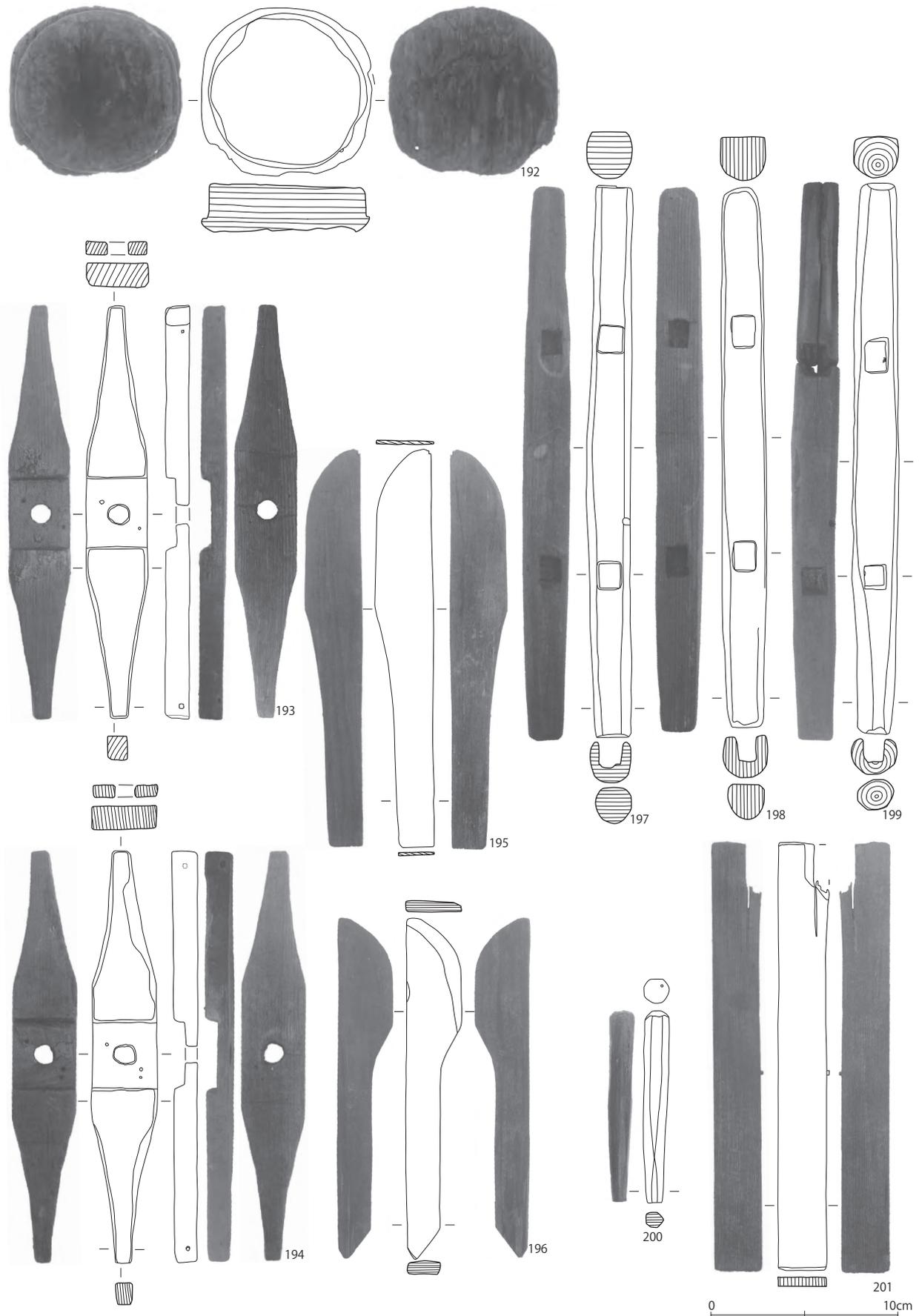
第530図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（22）（縮尺：1/3 174 縮尺：1/6）



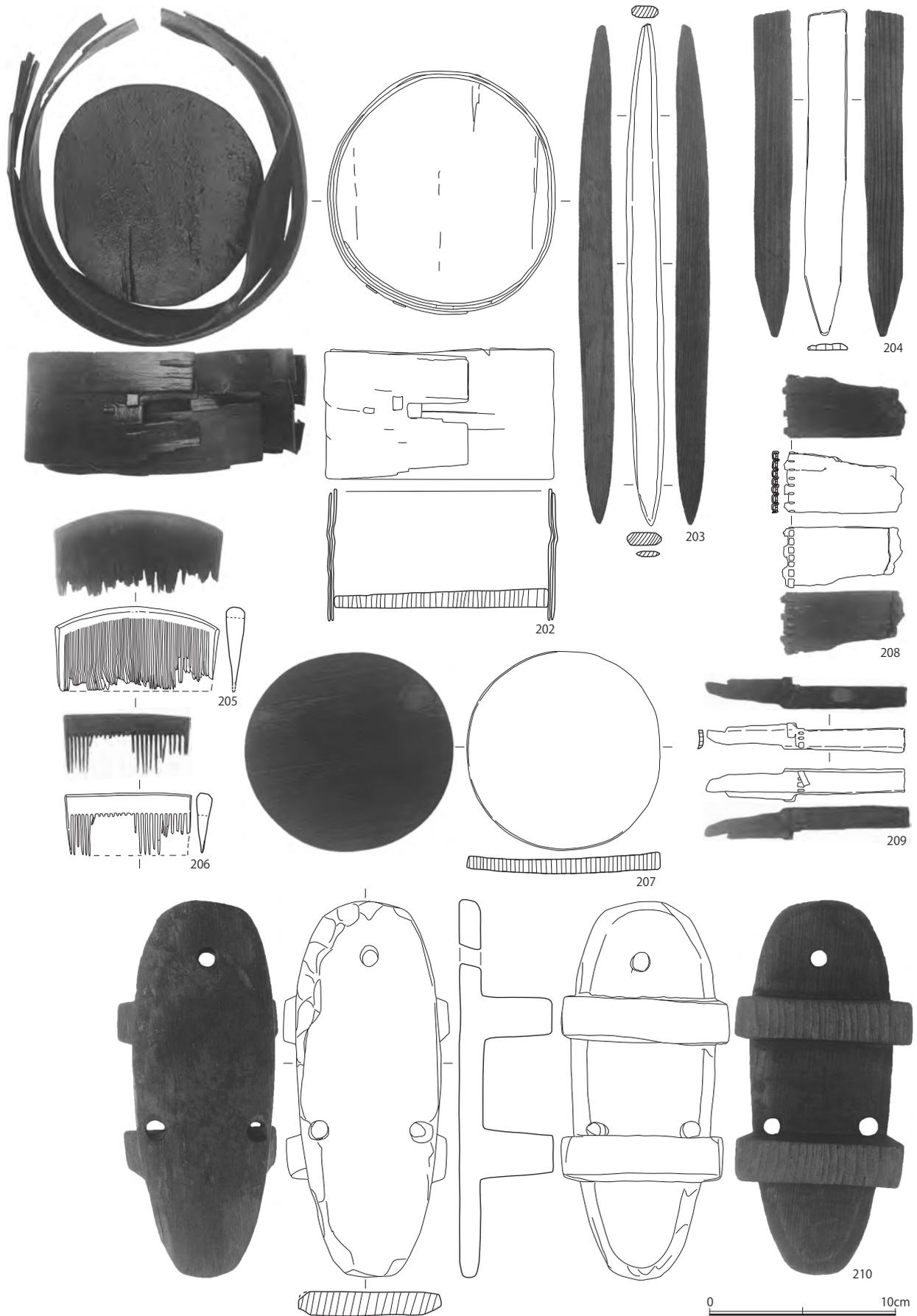
第531図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（23）（縮尺：1/3）



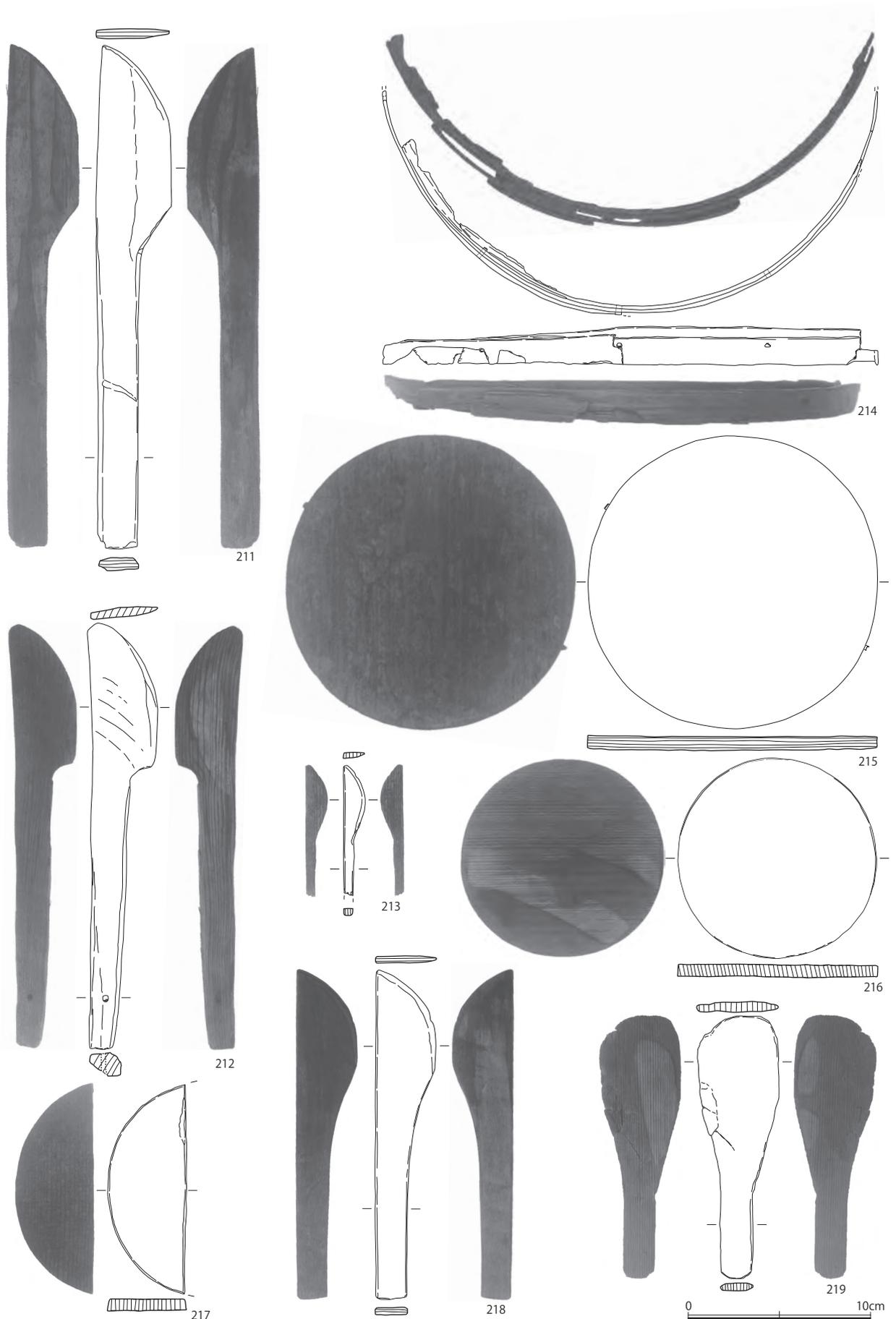
第532図 池状遺構(第2・第3遺構面)出土木製品(24)(縮尺:1/3)



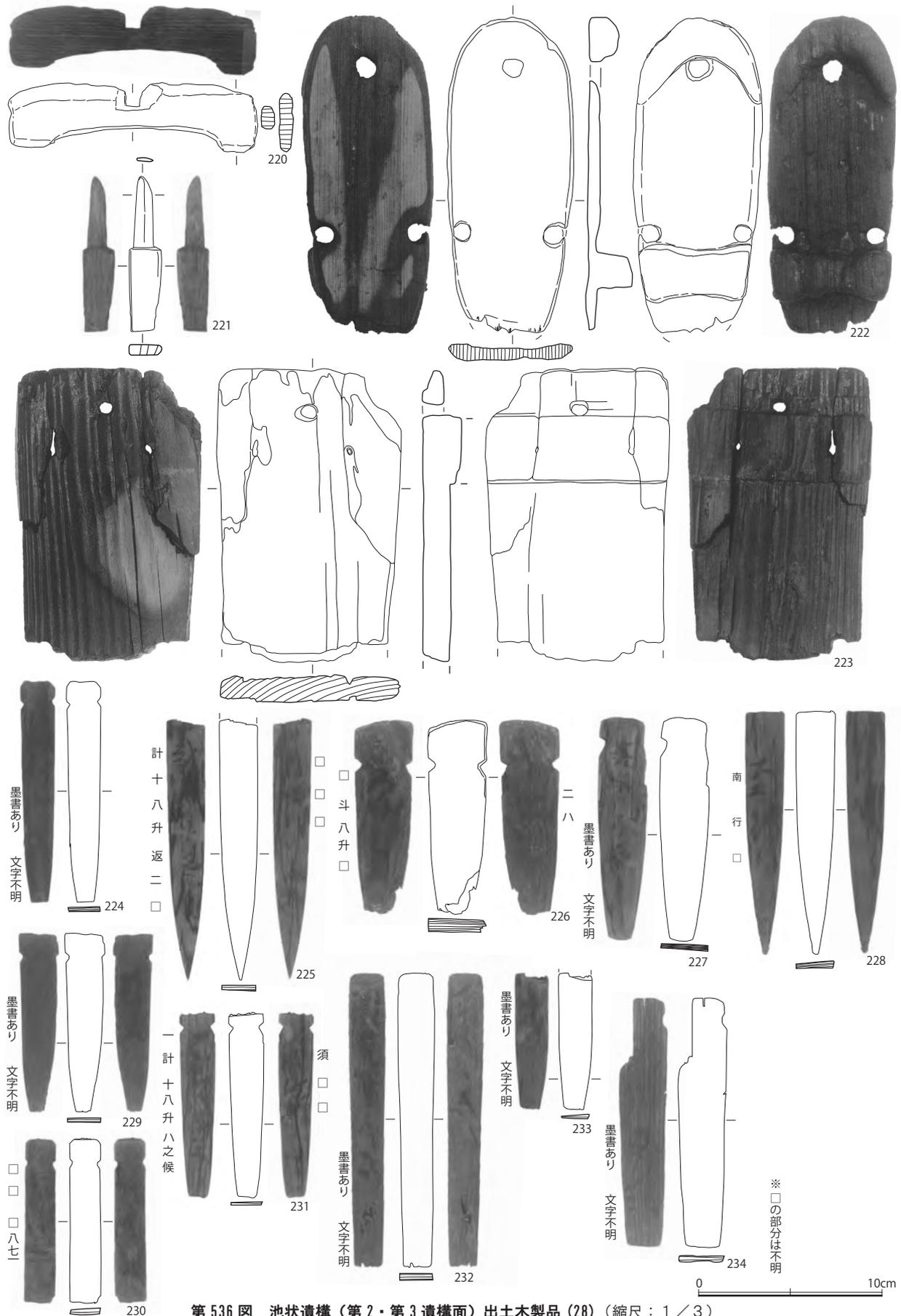
第533図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品（25）（縮尺：1/3）



第534図 池状遺構(第2・第3遺構面)出土木製品(26)(縮尺:1/3)



第535図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土木製品(27)（縮尺：1/3）



第 536 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土木製品 (28) (縮尺：1/3)

る。223は角型連歯下駄である。224～234は木簡である。224は長方形の材の一端の左右に切れ込みを入れ、他端を尖らせたものである。墨書があるが、判読不明である。225は長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損によって原形が失われている。墨書があり、表面は「計十八升返二□」、裏面は「□□□」である。226は長方形の材の一端の左右に切れ込みを入れ、他端を尖らせたものである。墨書があり、表面は「□斗八升□」、裏面は「二ハ」である。227は長方形の材の一端の左右に切れ込みを入れ、他端を尖らせたものである。墨書があるが、判読不明である。228は長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損によって原形が失われている。墨書があり、「南行□」である。229は長方形の材の一端の左右に切れ込みをいれ、他端を尖らせたもの。墨書があるが、判読不明である。230は長方形の材の一端の左右に切れ込みがあるが、他端は折損によって原形が失われている。墨書があり、「□□□八七一」である。231は長方形の材の一端の左右に切れ込みを入れ、他端を尖らせたものである。墨書があり、表面は「一計十八升ハ之候」、裏面は「須□□」である。232は一端が方頭で、他端は折損によって原形が失われている。墨書があるが、判読不明である。233は長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損によって原形が失われている。墨書があるが、判読不明である。234は長方形の材の一端の左右に切れ込みがあるが、他端は折損によって原形が失われている。墨書があるが、判読不明である。

第2遺構面

屋敷境

SD48（第537～539図）

235は木槌の頭部である。236・237は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。238は棒状の木製品である。239は角柱状の木製品である。中央部に釘孔が穿たれている。240～242は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。243は丸型削り下駄である。244は板状の木製品である。先端部に穿孔がみとめられる。245は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。246は杭である。247は棒状の木製品である。別材をはめ込むための孔が穿たれている。248は棒状の木製品である。2箇所切欠きがあるほか、別材と接合する釘孔がみとめられる。障子の棧と考えられる。249は板状の木製品である。端部の一方に削り込みが入れられ、中央部に方形の窪みが穿たれている。

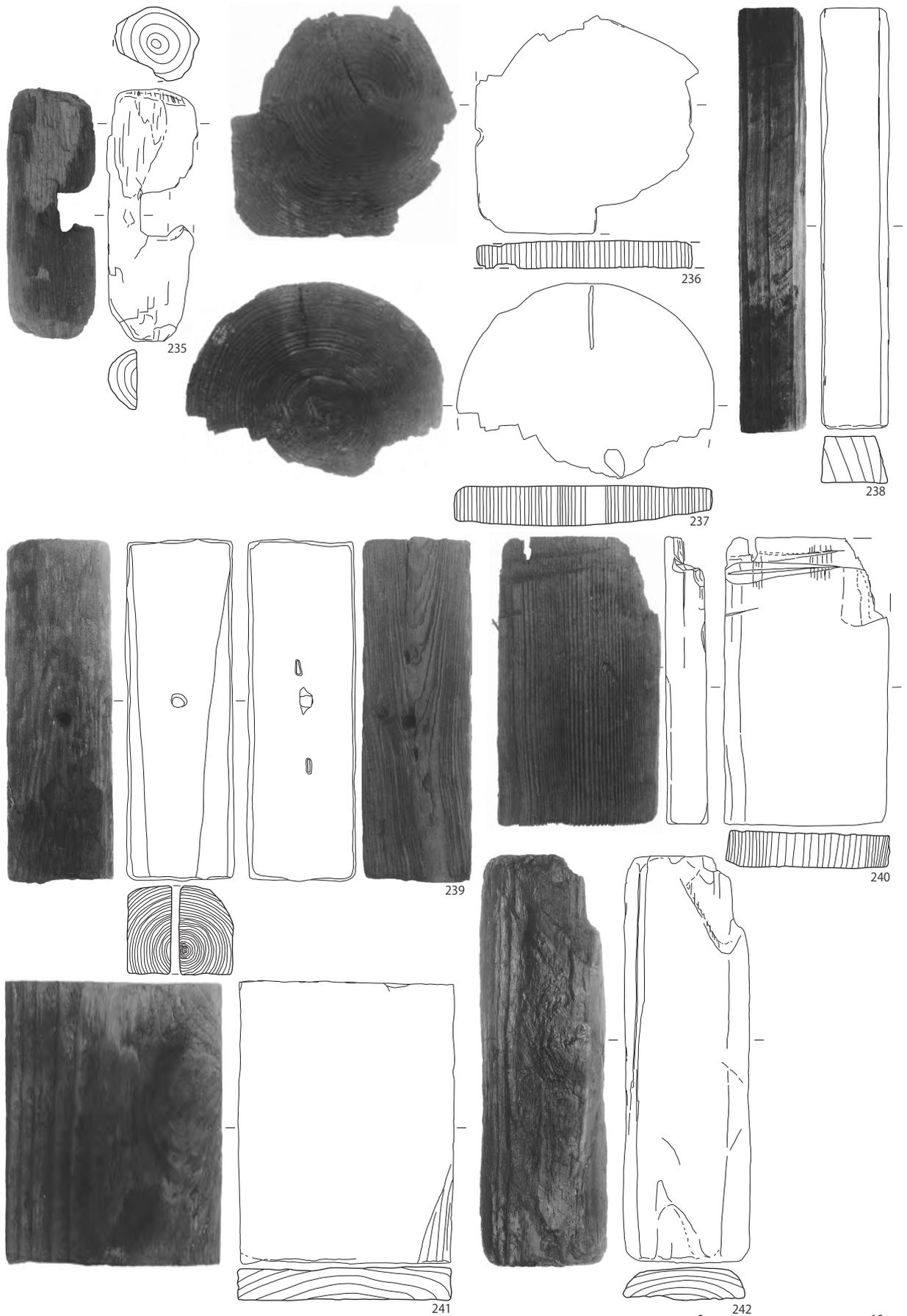
SD136（第540図）

250は曲物・結物の蓋板または底板である。

片山家屋敷地内

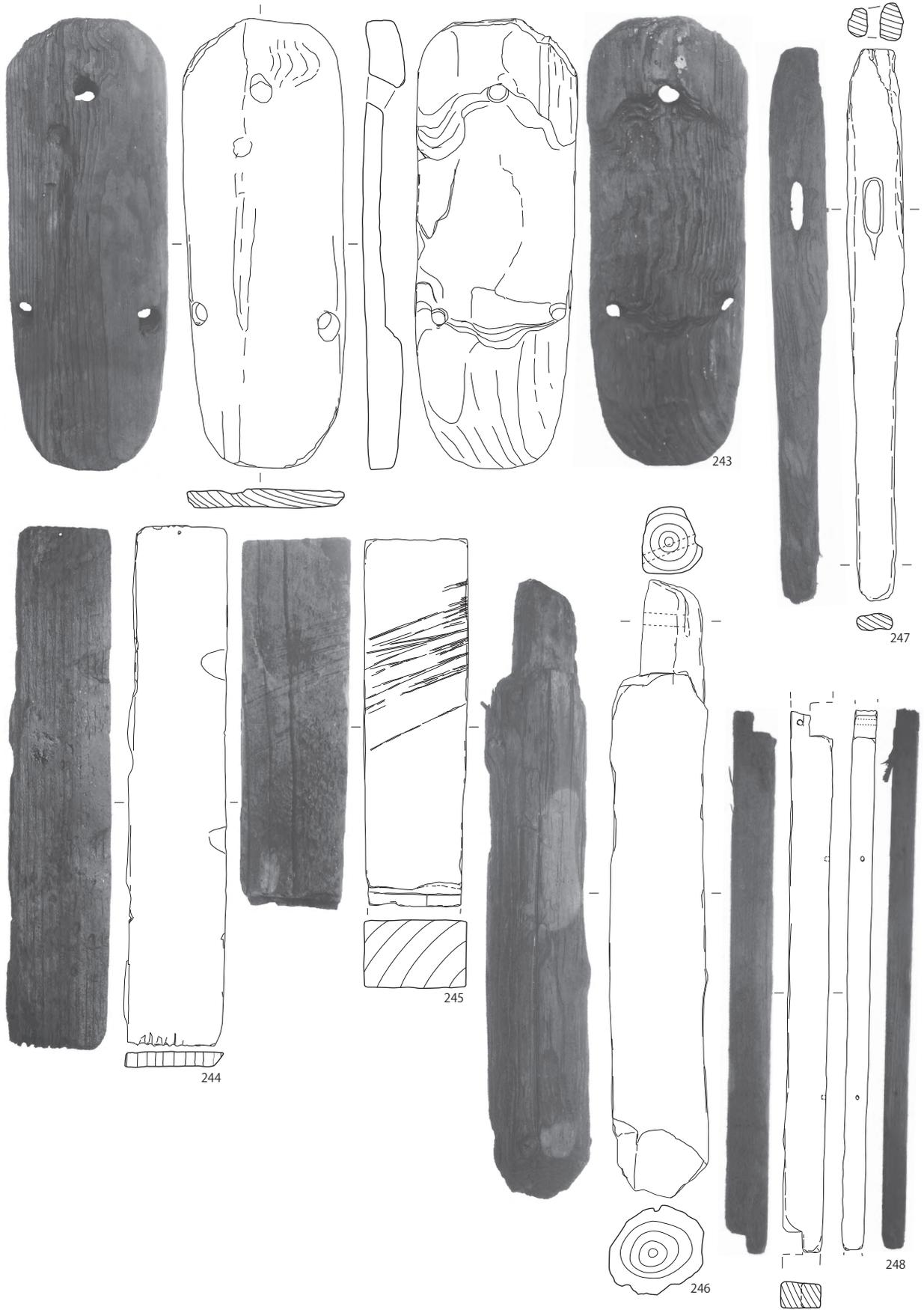
SK156（第541～544図）

251は結物の樽板である。下半部に底板の圧痕がみとめられる。252～254は板状の木製品である。252は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。253は1箇所に穿孔が施されている。255は杭である。256は丸型連歯下駄である。257は角柱状の木製品である。建築部材（柱）廃棄時に切断された一部と考えられる。258は蓋板である。259は曲物・結物の蓋板または底板である。260は筒



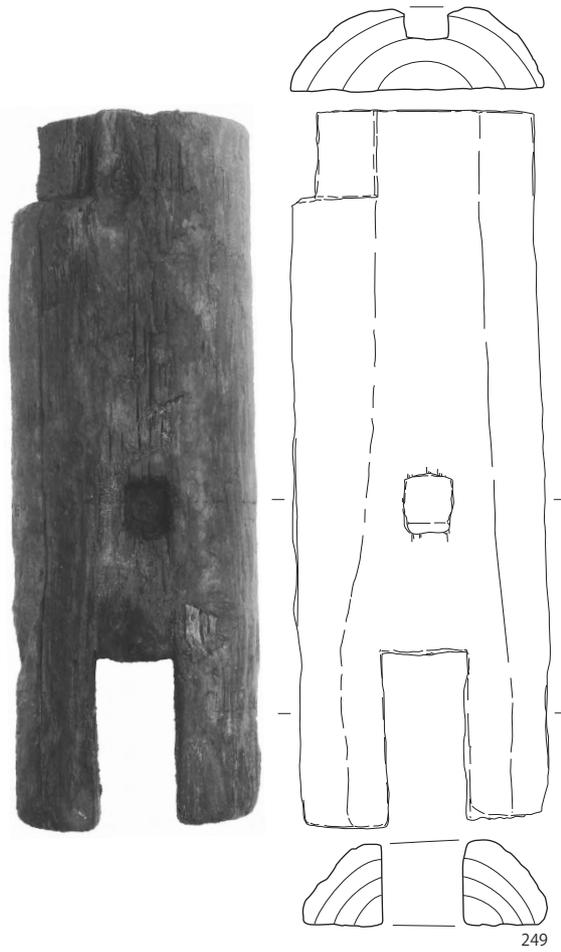
第537図 屋敷境 SD48 出土木製品 (1) (縮尺: 1/3)

0 242 10cm

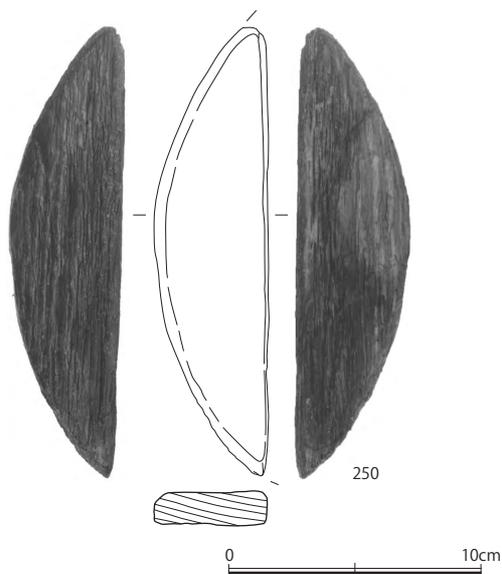


第 538 図 屋敷境 SD48 出土木製品 (2) (縮尺: 1 / 3)

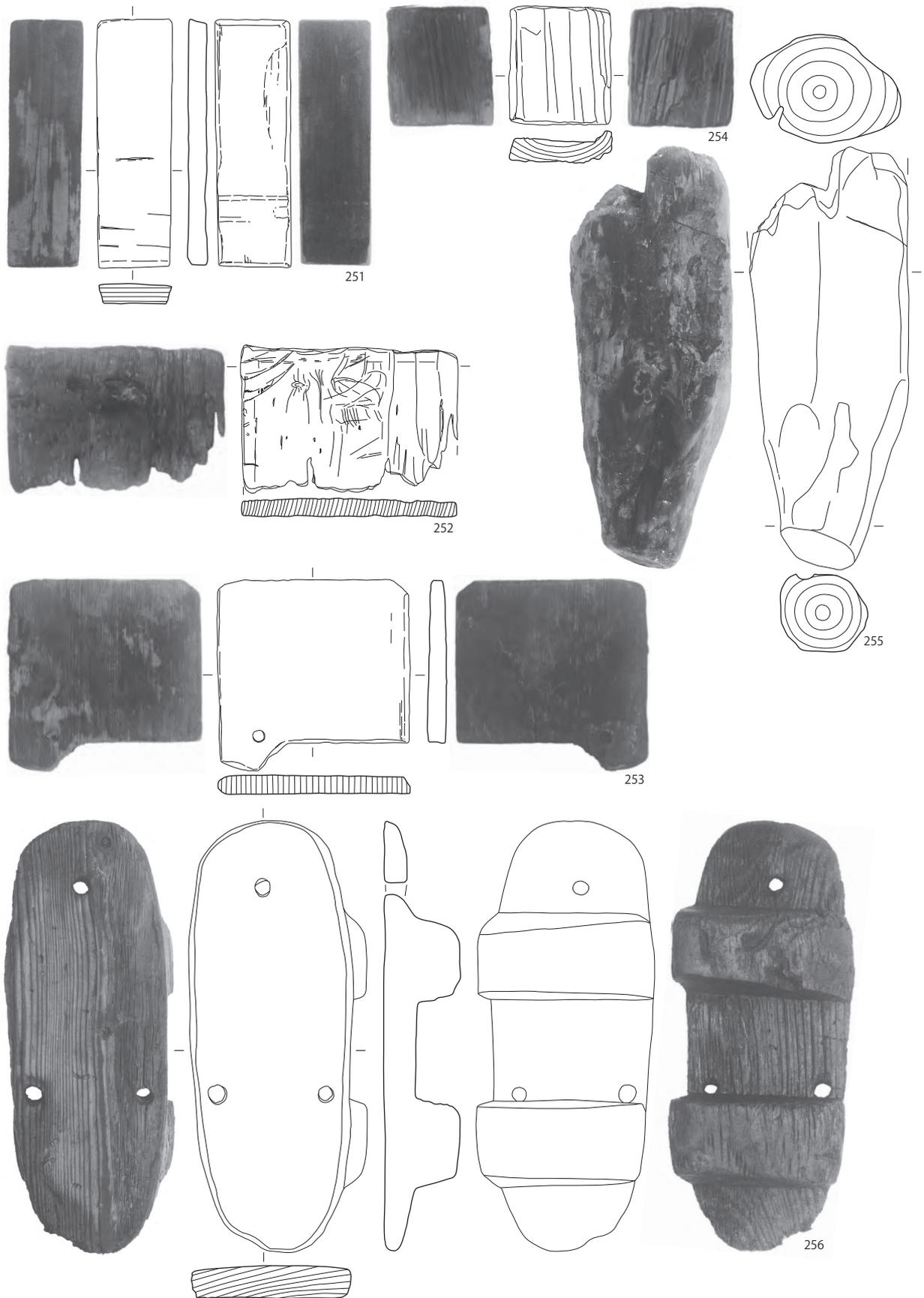
0 10cm



第 539 図 屋敷境 SD48 出土木製品 (3) (縮尺: 1/3)

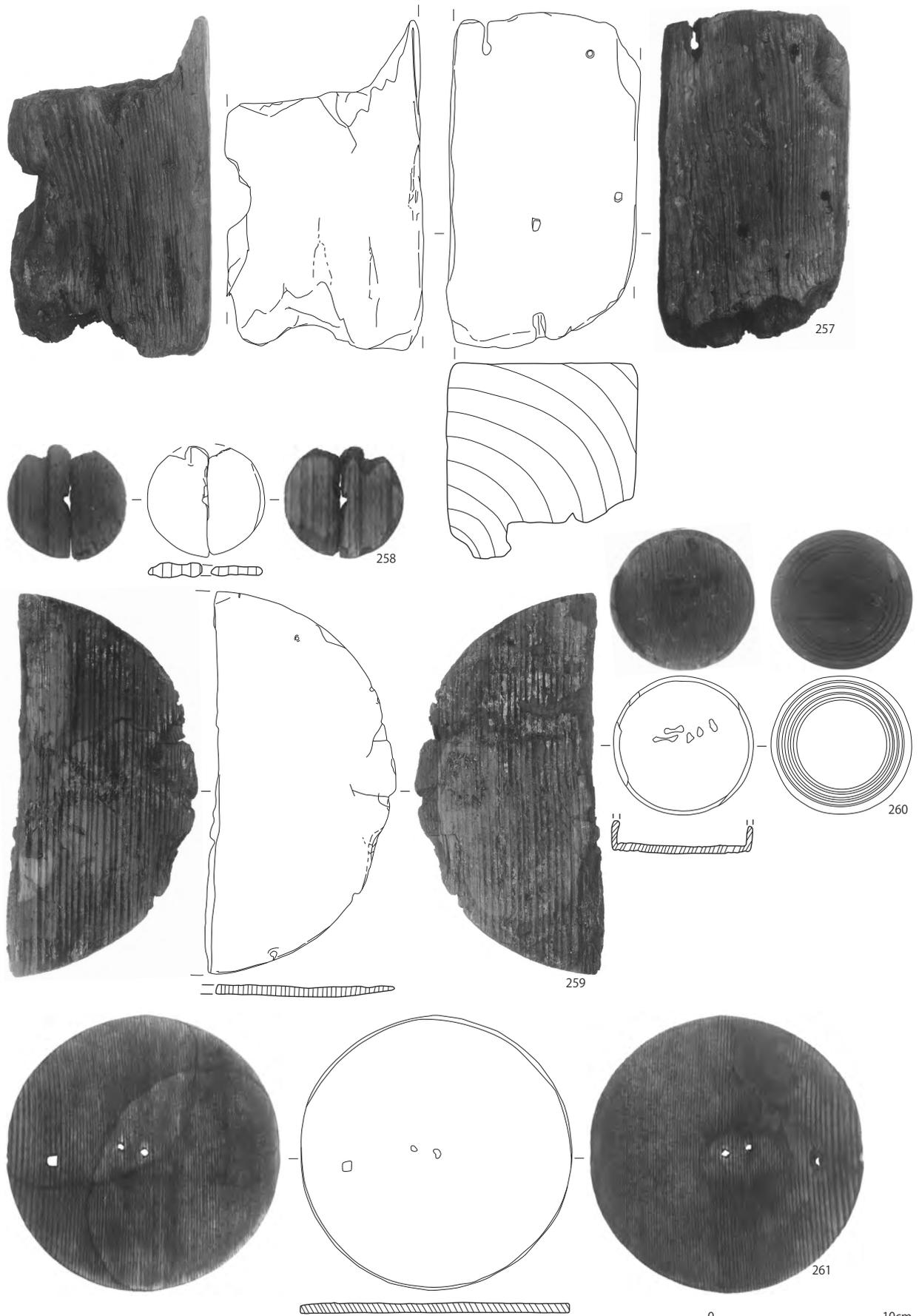


第 540 図 屋敷境 SD136 出土木製品 (縮尺: 1/3)



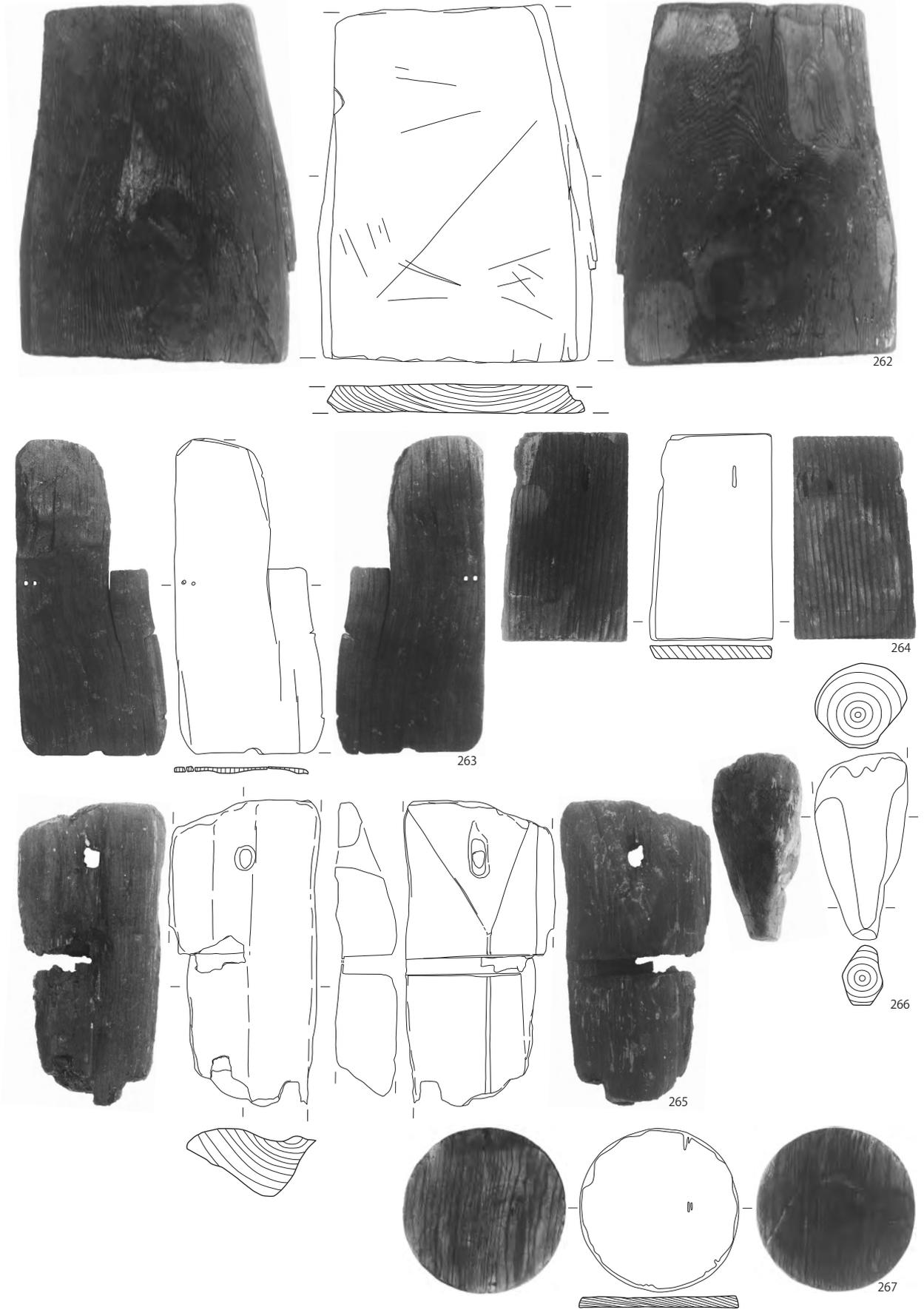
0 10cm

第541図 片山家屋敷地内 SK156 出土木製品(1) (縮尺: 1/3)

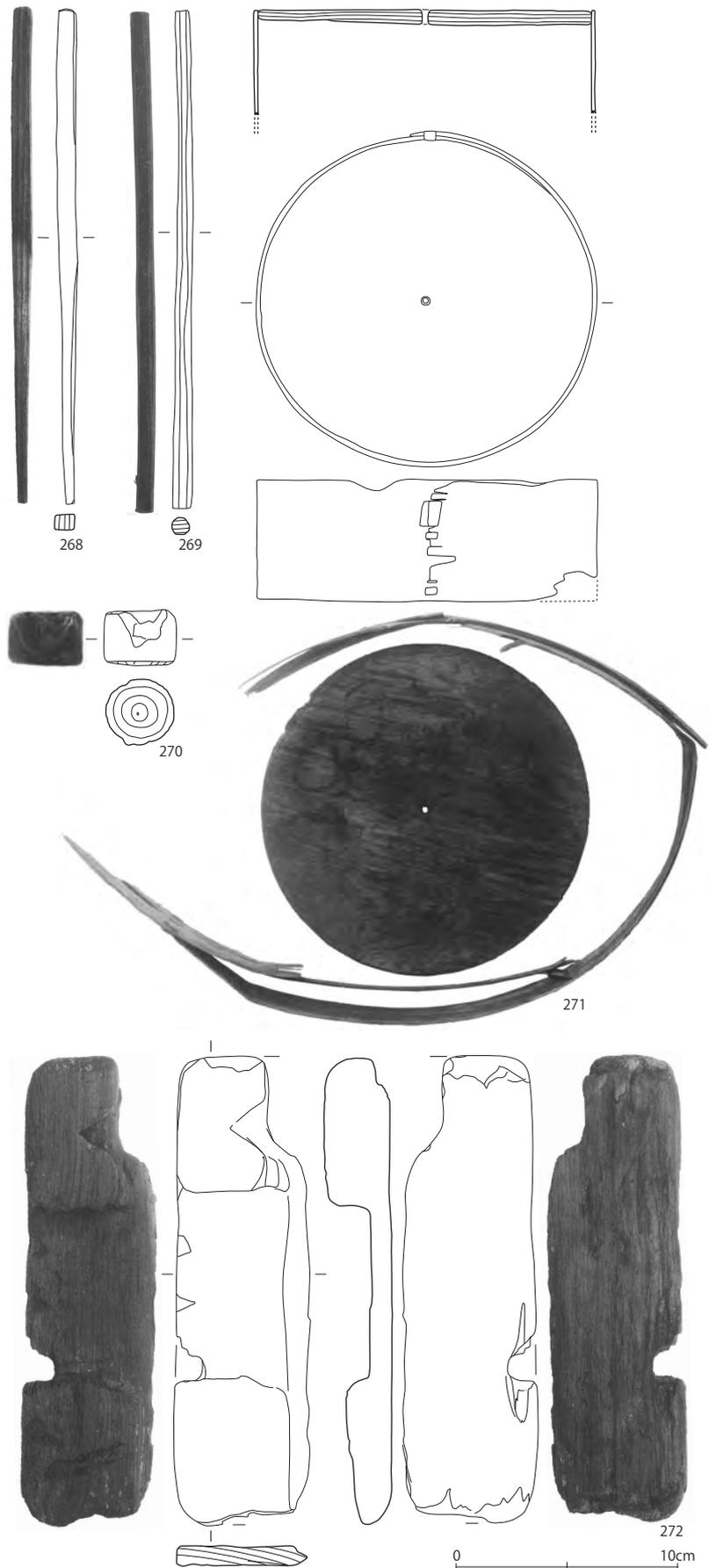


第542图 片山家屋敷地内 SK156 出土木製品(2) (縮尺: 1/3)

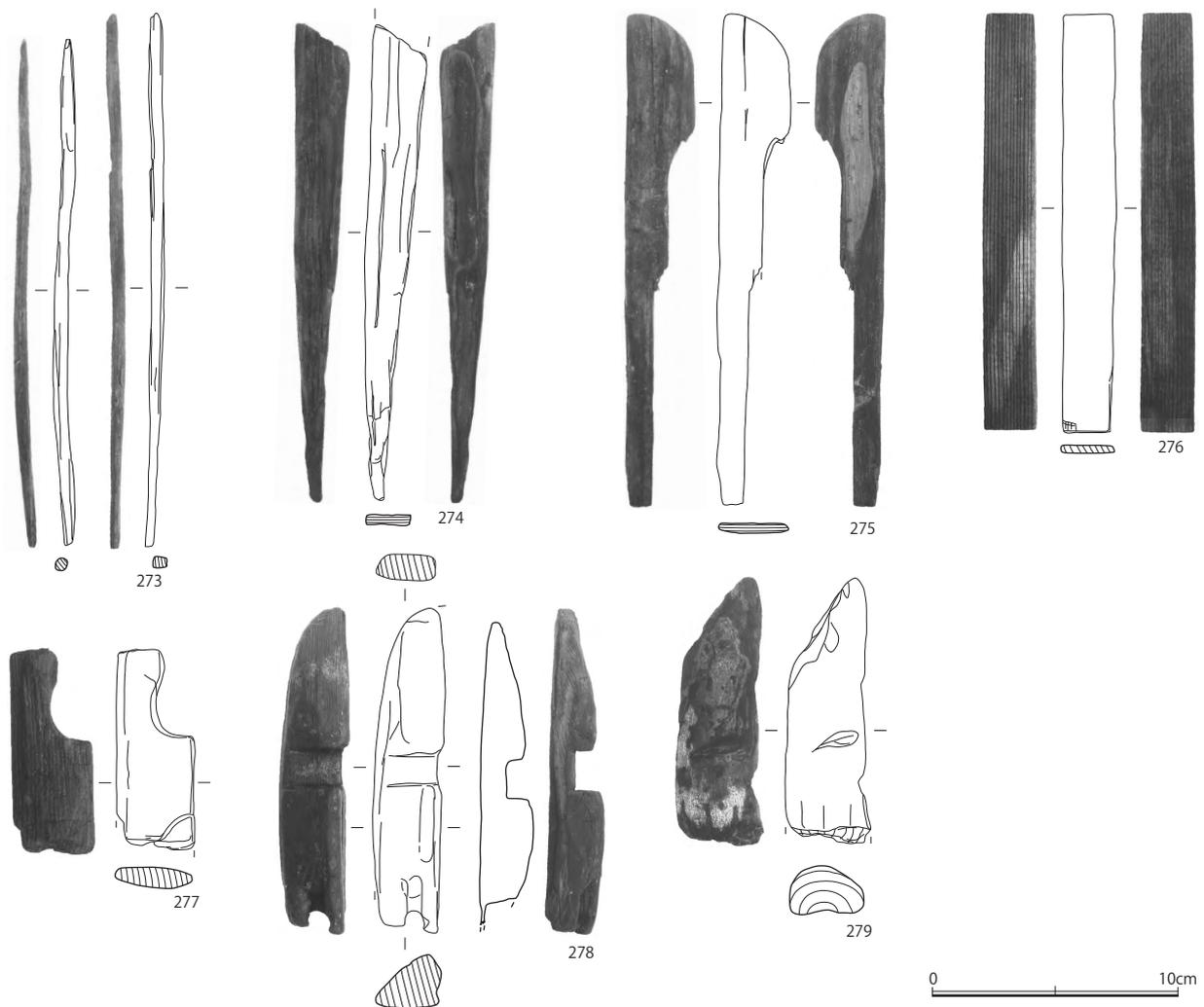
0 10cm



第543図 片山家屋敷地内 SK156 出土木製品(3) (縮尺: 1/3) 0 10cm



第 544 図 片山家屋敷地内 SK156 出土木製品 (4) (縮尺 : 1 / 3)



第545図 片山家屋敷地内 SK186 出土木製品 (縮尺: 1/3)

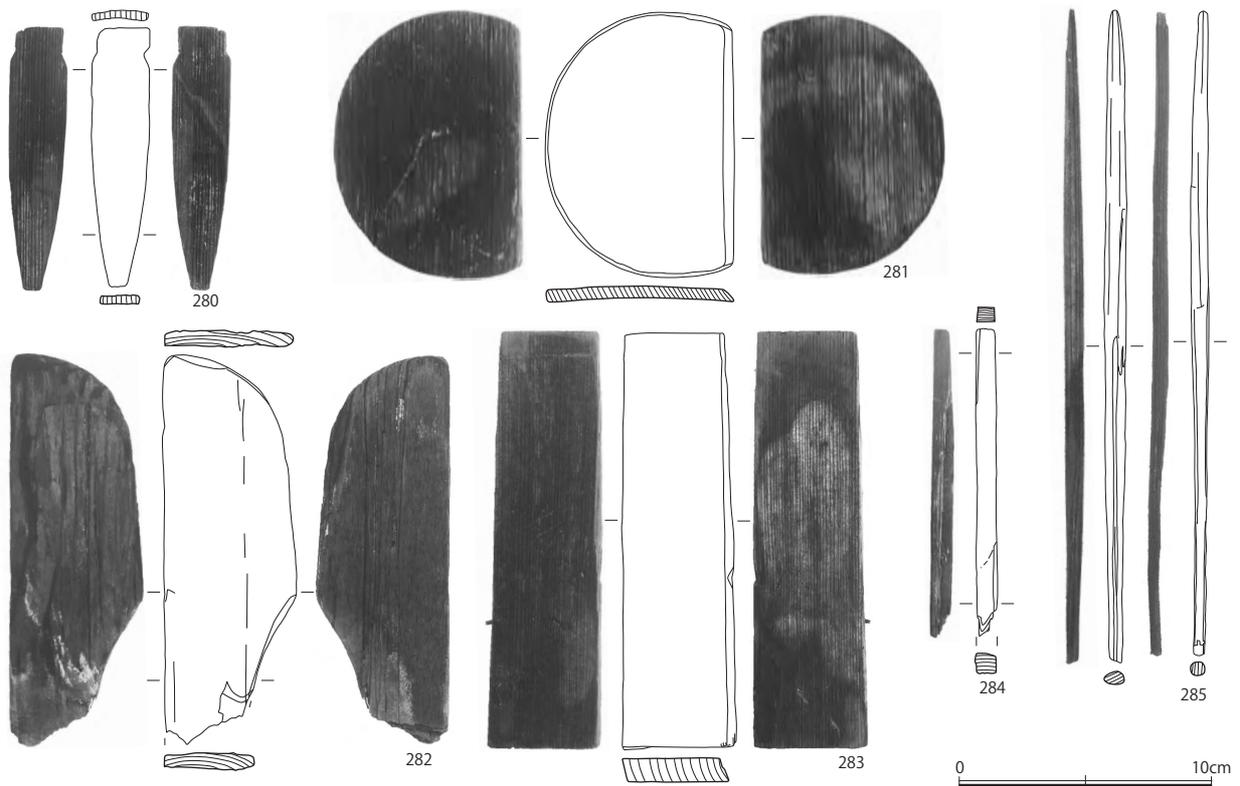
型容器の蓋である。261は曲物・結物などの蓋板である。262～264は板状の木製品である。262は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。263は折敷の底板と考えられる。265は角型陰卯下駄である。266は杭である。267は曲物・結物の蓋板または底板である。268・269は箸である。270は栓と思われる木製品である。271は曲物の蓋である。中心部分に摘みを付けるための穿孔が施されている。272は角型割り下駄である。

SK186 (第545図)

273は箸である。274は篋である。275は篋または杓子である。276・277は板状の木製品である。278は丸型露卯または陰卯下駄である。279は杭である。

SK187 (第546図)

280は木筒である。墨書があるが、判読不明である。281は曲物・結物の蓋板または底板である。282は篋または杓子である。283は板状の木製品である。284は棒状の木製品である。285は箸である。



第 546 図 片山家屋敷地内 SK187 出土木製品 (縮尺：1/3)

太田家屋敷地内

SK45 (第 547 図)

286 は棒状の木製品である。両端部に異なる方向に相欠きのための加工が施されている。287 は責め木用の楔である。288 は棒状の木製品である。端部に相欠きのための加工が施されている。中央部に穿孔がみとめられる。289 は栓である。290～293 は責め木用の楔である。294 は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。

SP115 (第 548 図)

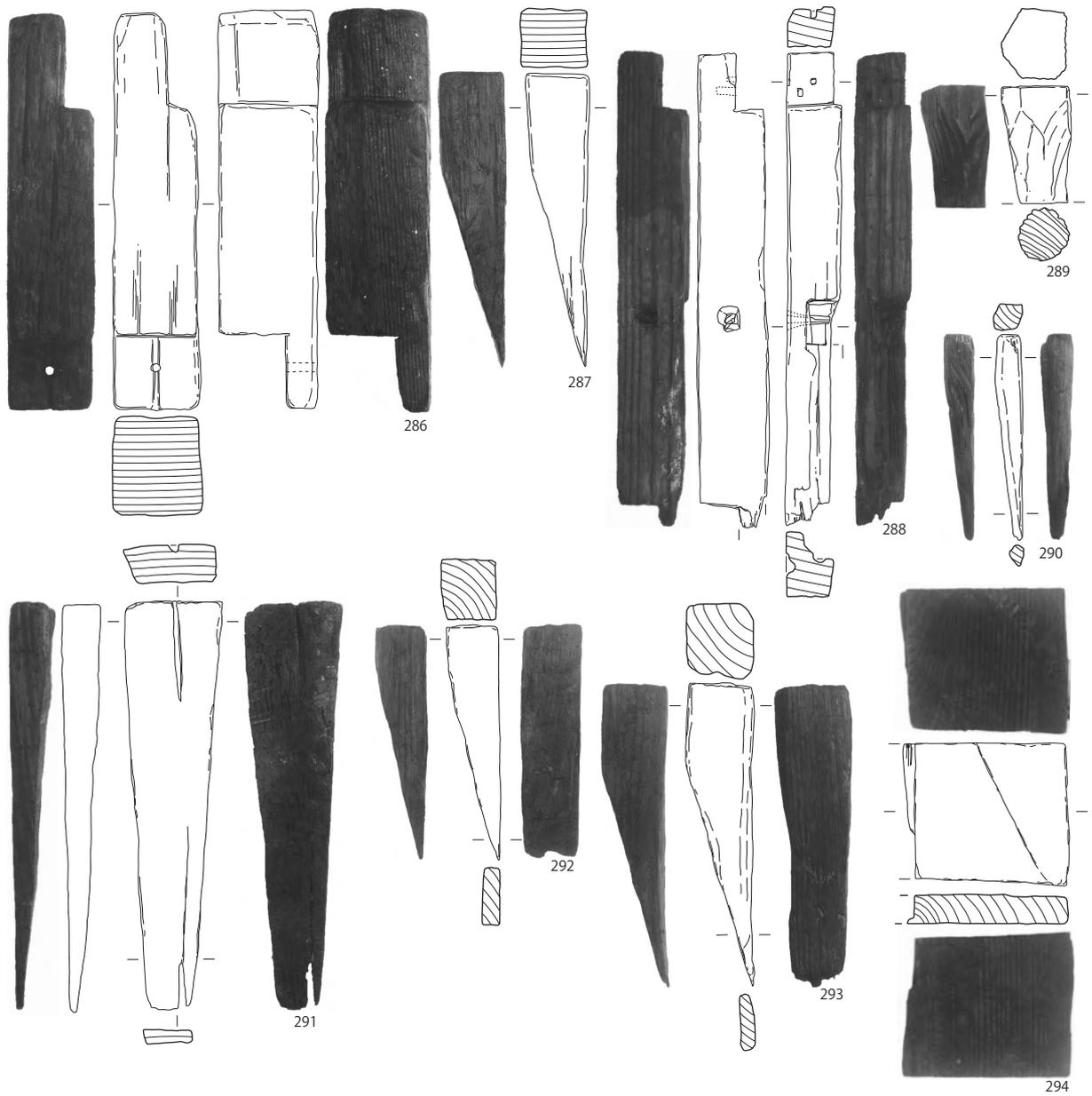
295 は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。

第1遺構面

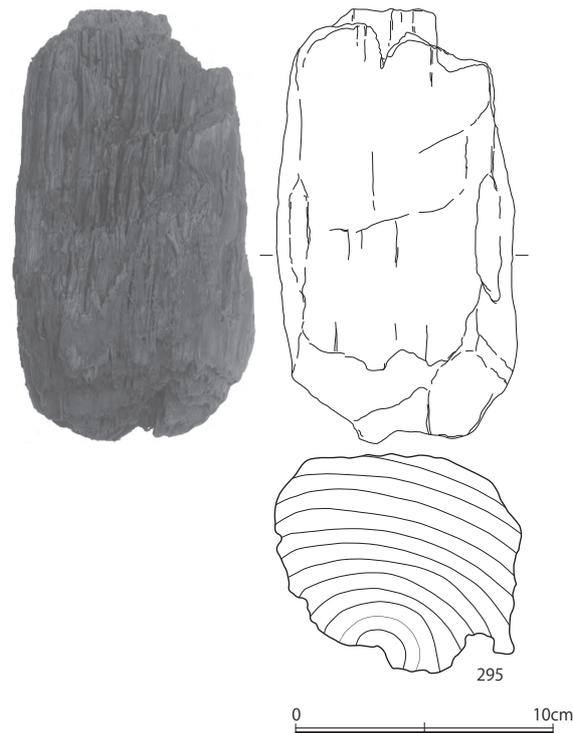
A 下層

池状遺構 (第 549～568 図)

296 は責め木用の楔である。297 は栓である。298 は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。端部に2箇所穿孔がみとめられる。299 は板状の木製品である。厚さが1mm程度であり、非常に薄く作られている。300 は棒状の木製品である。側面に3箇所穿孔がみとめられる。301 は棒状の木製品である。両端と中央に3箇所穿孔がみとめられる。折敷の側板、蓋の把手または返しなどの可能性が考えられる。302 は蓋板である。2mm程度の穿孔が一对、1cm程度の穿孔が1箇所みとめら



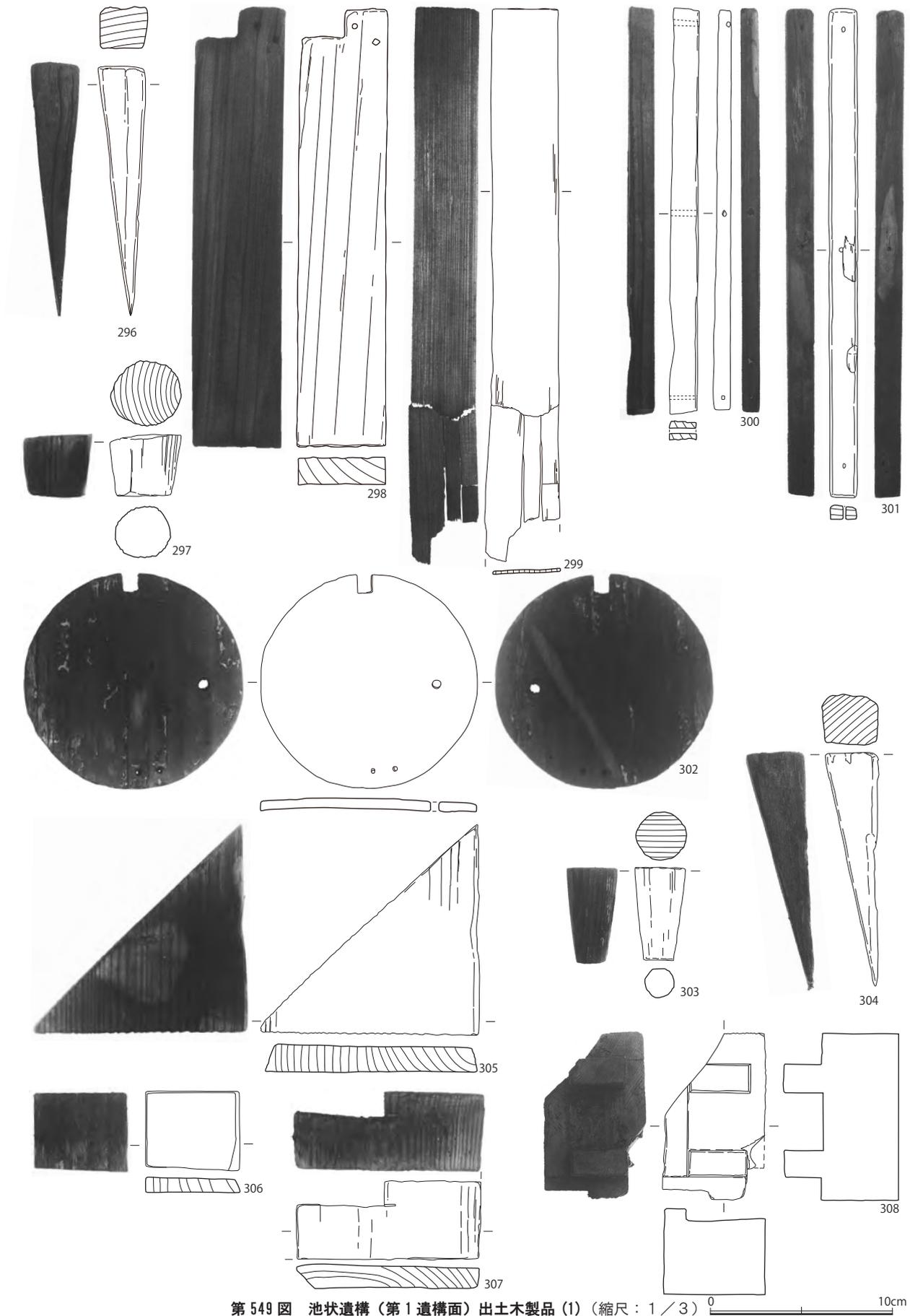
第547図 太田家屋敷地内 SK45 出土木製品 (縮尺：1/3) 0 10cm



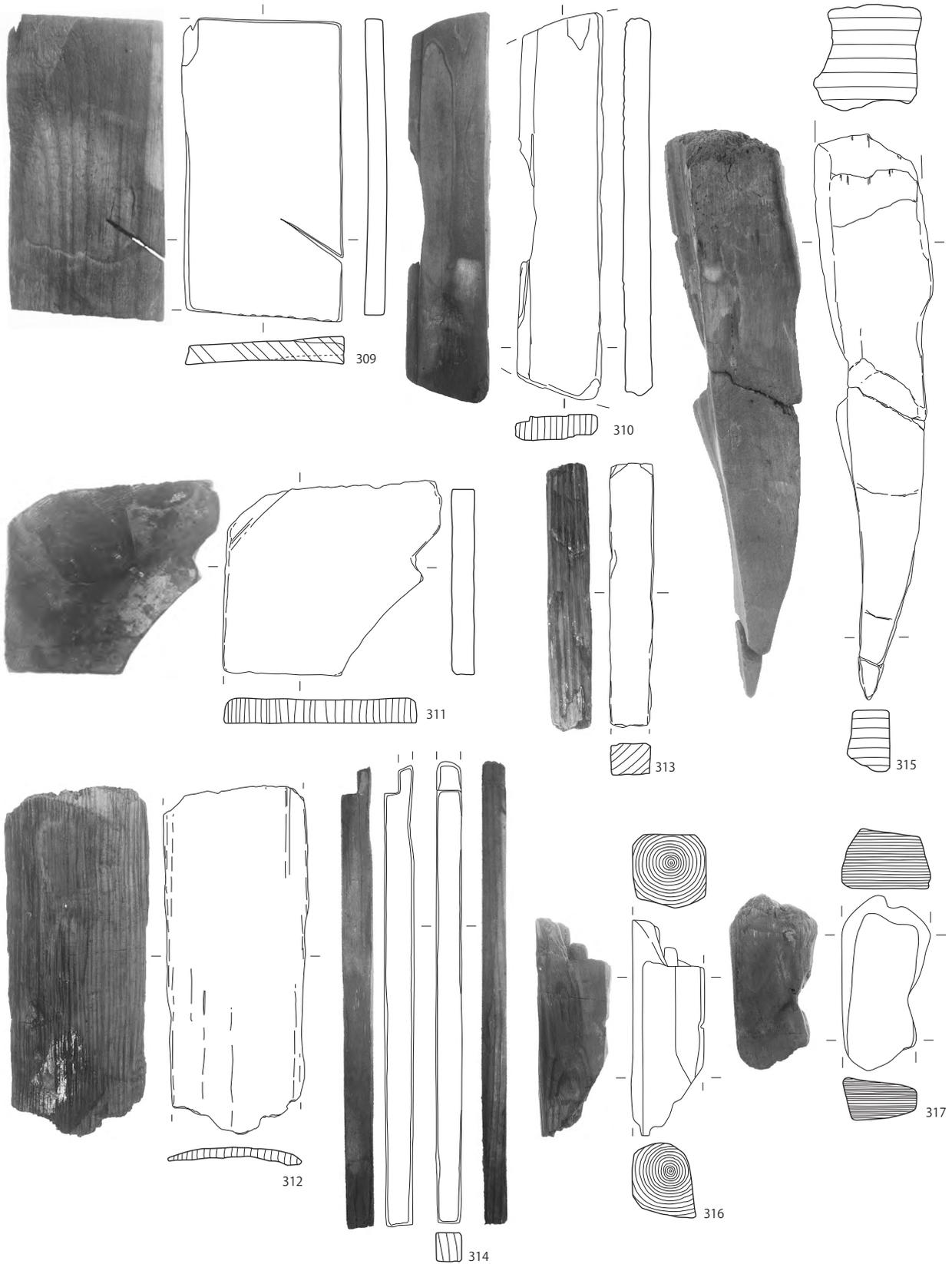
第548図 太田家屋敷地内 SP115 出土木製品 (縮尺: 1/3)

れる。303は栓である。304は責め木用の楔である。305～307は板状の木製品である。305は平面形が三角形である。307は鋸による切断途中の痕跡がみとめられる。308は建築部材の一部と考えられる木製品である。H型の柄が作り出されている。309～312は板状の木製品である。310は曲物・結物の盖板または底板の破片である。312は断面形がわずかに湾曲する弧状を呈することから、結物の樽板と考えられる。313・314は棒状の木製品である。314は切欠きが1箇所施されている。障子の棧と考えられる。315～317は杭である。318～320は棒状の木製品である。切欠きが1箇所施されている。障子の棧と考えられる。321は板状の木製品である。折敷などの底板と思われる。322～325は杭である。326・327は用途不明の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。328は栓である。329は棒状の木製品である。2箇所に切欠きがある。障子の棧と考えられる。330は角柱状の木製品である。建築部材と考えられる。331は曲物・結物の盖板または底板の破片である。332は棒状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。333は棒状の木製品である。端部に1箇所穿孔がみとめられる。334は棒状の木製品である。農具の柄と考えられる。335は丸型陰卯下駄である。336は丸型連歯下駄である。337は責め木用の楔である。338は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。339は棒状の木製品である。杭を切断したのと考えられる。340は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。341は棒状の木製品である。杭を切断したのと考えられる。342は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。343は用途不明の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。344・345は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。346は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。347は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えら

れ、鋸による切断途中の痕跡がみられる。348は棒状の木製品である。障子の棧と考えられる。349・350は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。釘孔が2箇所みとめられる。350は一部が炭化している。351は棒状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。一部が炭化している。352は柄が作り出された建築部材である。廃棄時に切断された一部と考えられる。353は責め木用の楔である。354は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。釘孔が1箇所みとめられる。355は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。356・357は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。357は釘孔が4箇所みとめられる。358は板状の木製品である。樹皮かがりの一部が残存している。釘孔が1箇所みとめられる。359は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。360～362は棒状の木製品である。360は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。切欠きが1箇所みとめられる。362は一部が炭化している。363・364は責め木用の楔である。365は板状の木製品である。建築部材（柱）廃棄時に切断された一部と考えられる。366・367は厚さ2～3mmの板状の木製品である。368・369は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。370・371は棒状の木製品である。370の断面形状は円形、371は方形である。372は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。373・374は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。375は棒状の木製品である。376は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。377は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。378・379は杭である。380は角型割り下駄である。381は棒状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。382は責め木用の楔である。383は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。384～387は棒状の木製品である。384～386の断面形状は方形で、384・385は端部に2箇所、386は1箇所穿孔がみとめられる。388は棒状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。389・390は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。389は柄穴の部分と考えられる。391は杓文字または篋と考えられる板状の木製品である。392は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。393は杭である。394は柱材である。395は板状の木製品である。396～398は杭である。399・400は板状の木製品である。399は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。400は端部に1箇所穿孔がみとめられる。401は棒状の木製品である。402は板状の木製品である。403～406は折敷の側板である。固定用の釘孔がそれぞれに穿たれている。407は板状の木製品である。2箇所に穿孔がみとめられる。408は曲物・結物の蓋板または底板である。409は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。410は折敷の底板である。側板を留める釘孔が4箇所みとめられる。411は責め木用の楔である。412は曲物・結物の蓋板である。焼印の痕跡がみとめられるが、判読不明である。413は横櫛である。414は丸型陰卯下駄である。415は湾曲した棒状の木製品である。断面形状は方形である。416は棒状の木製品である。端部に挟りがみられるが、穿孔が破損したものである。417～419は曲物・結物の蓋板または底板である。420は角型割り下駄である。421～424は板状の木製品である。424は2箇所の穿孔と樹皮かがりの痕がみられる。425は棒状の木製品である。農具の柄の可能性が考えられる。426は折敷の底板である。側

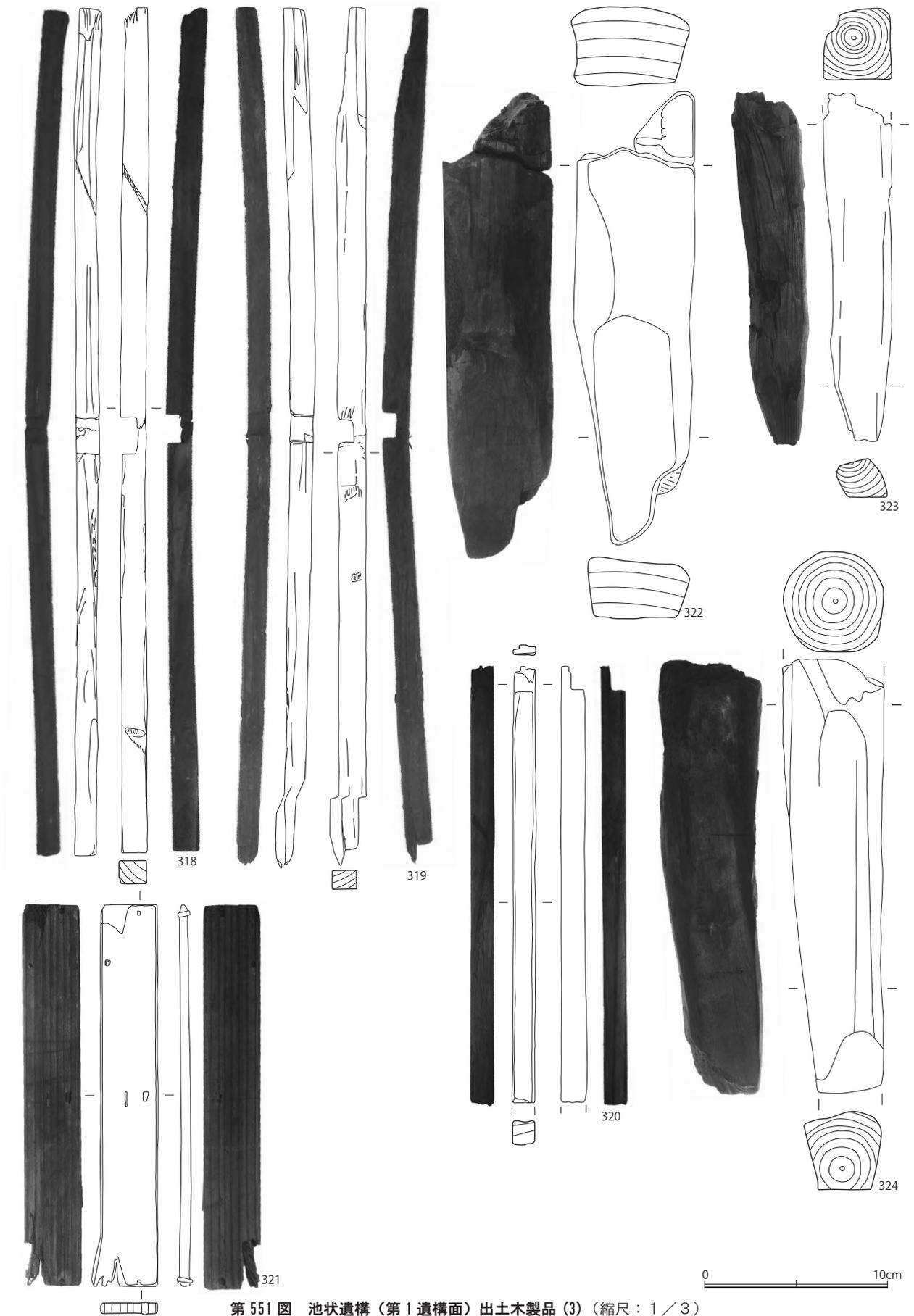


第 549 図 池状遺構（第 1 遺構面）出土木製品 (1) (縮尺：1/3)

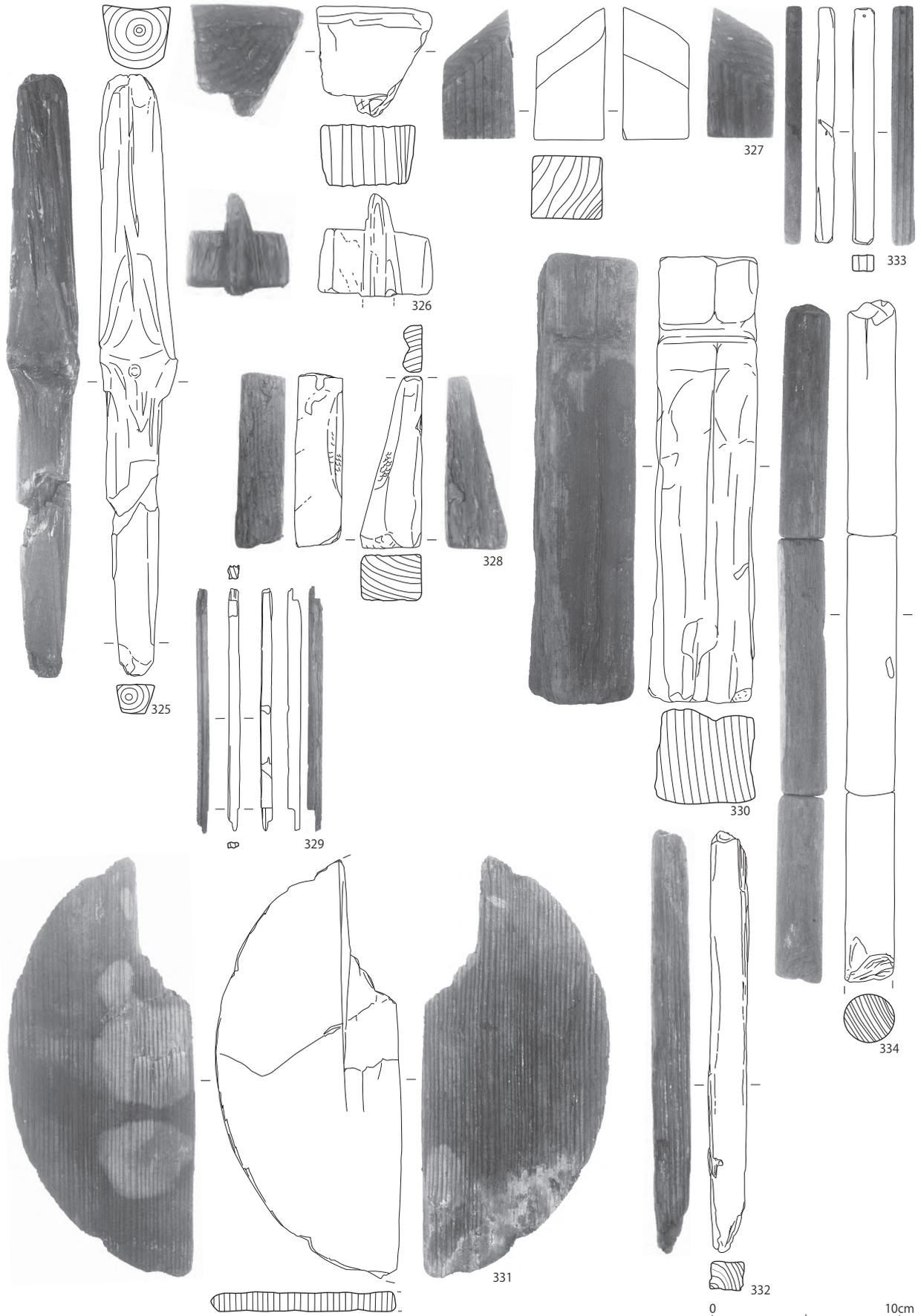


0 10cm

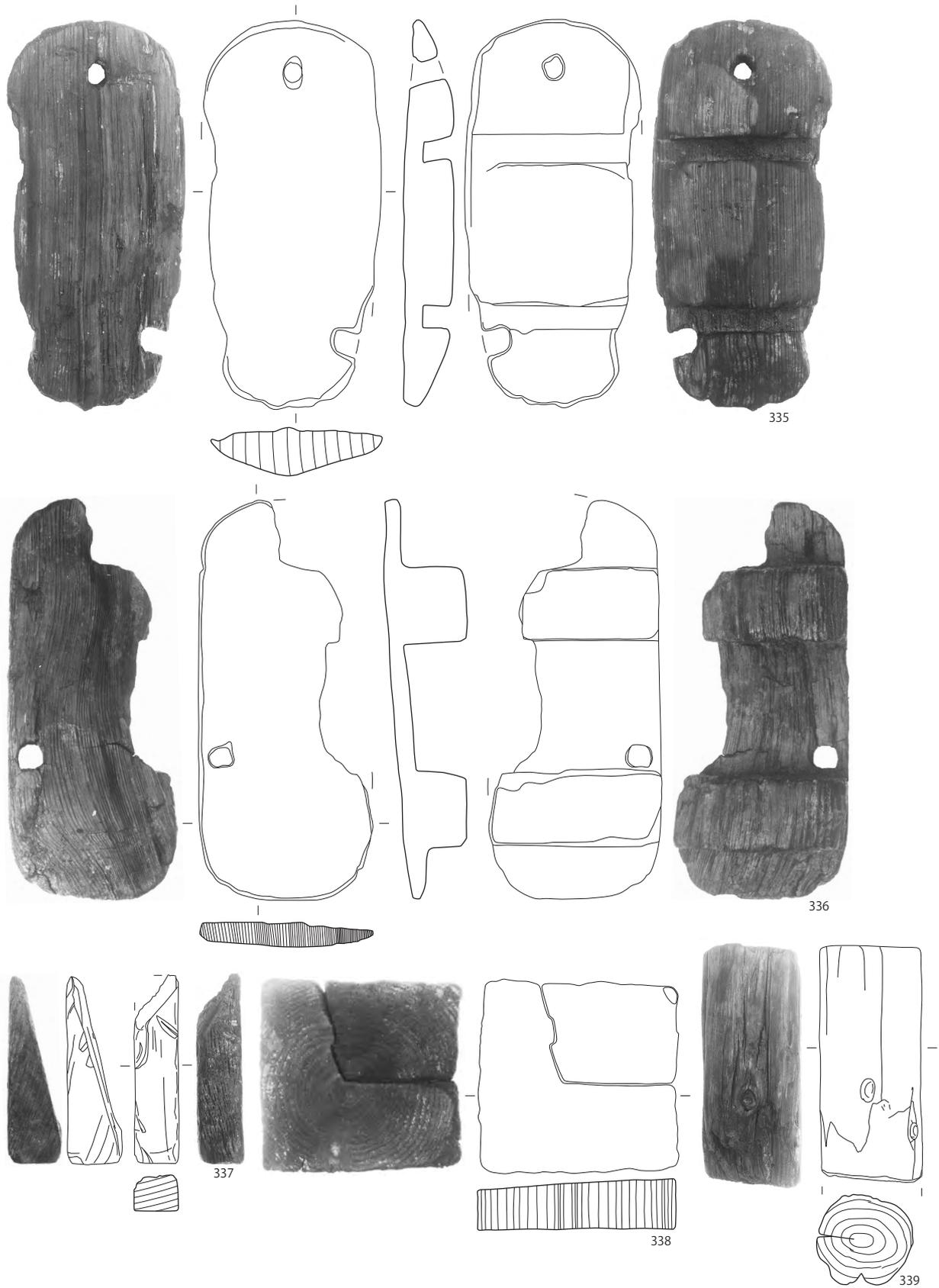
第550図 池状遺構(第1遺構面)出土木製品(2)(縮尺:1/3)



第551圖 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（3）（縮尺：1／3）



第552図 池状遺構(第1遺構面)出土木製品(4)(縮尺:1/3)

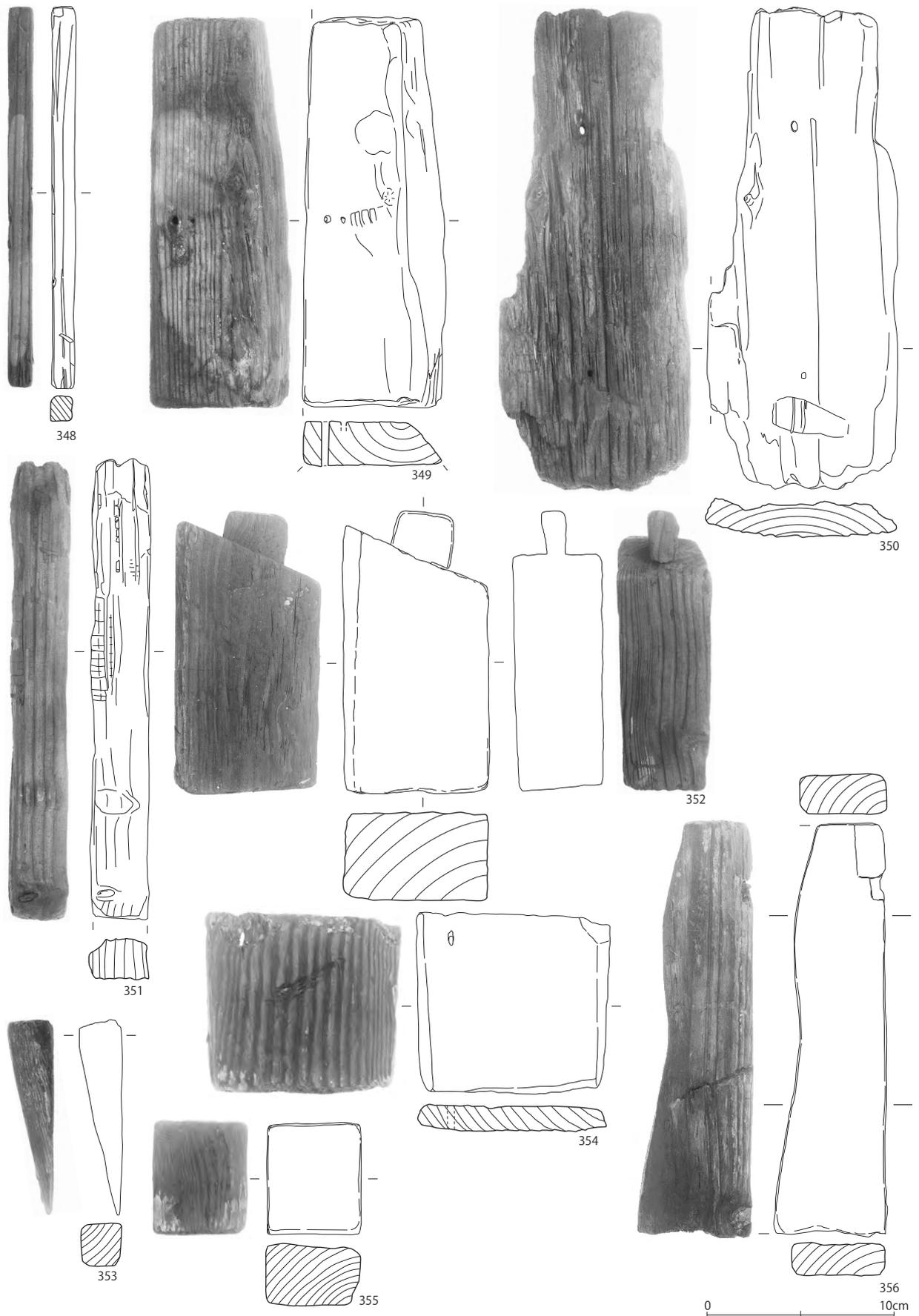


0 10cm

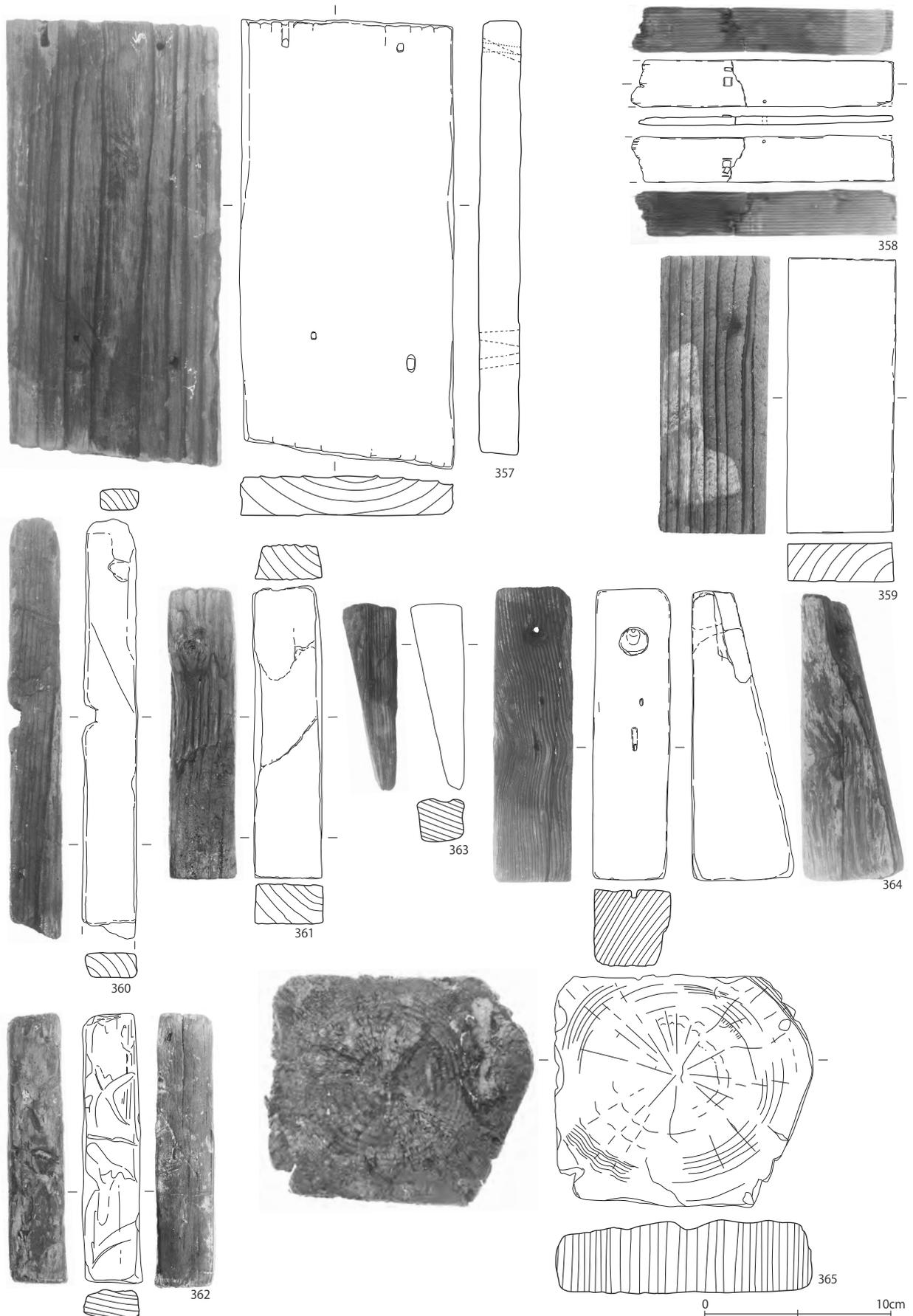
第553圖 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（5）（縮尺：1／3）



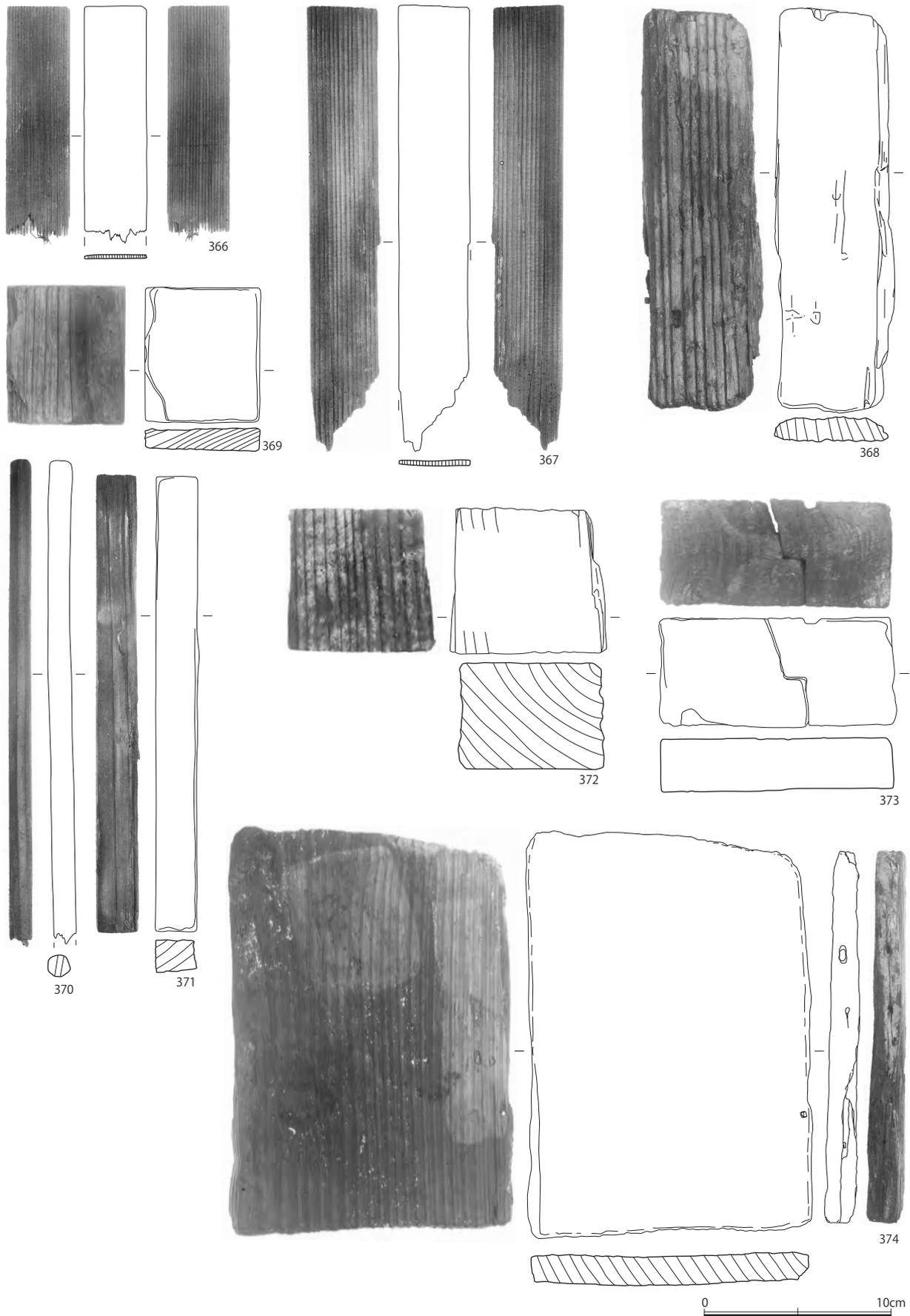
第554図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品(6)（縮尺：1/3）



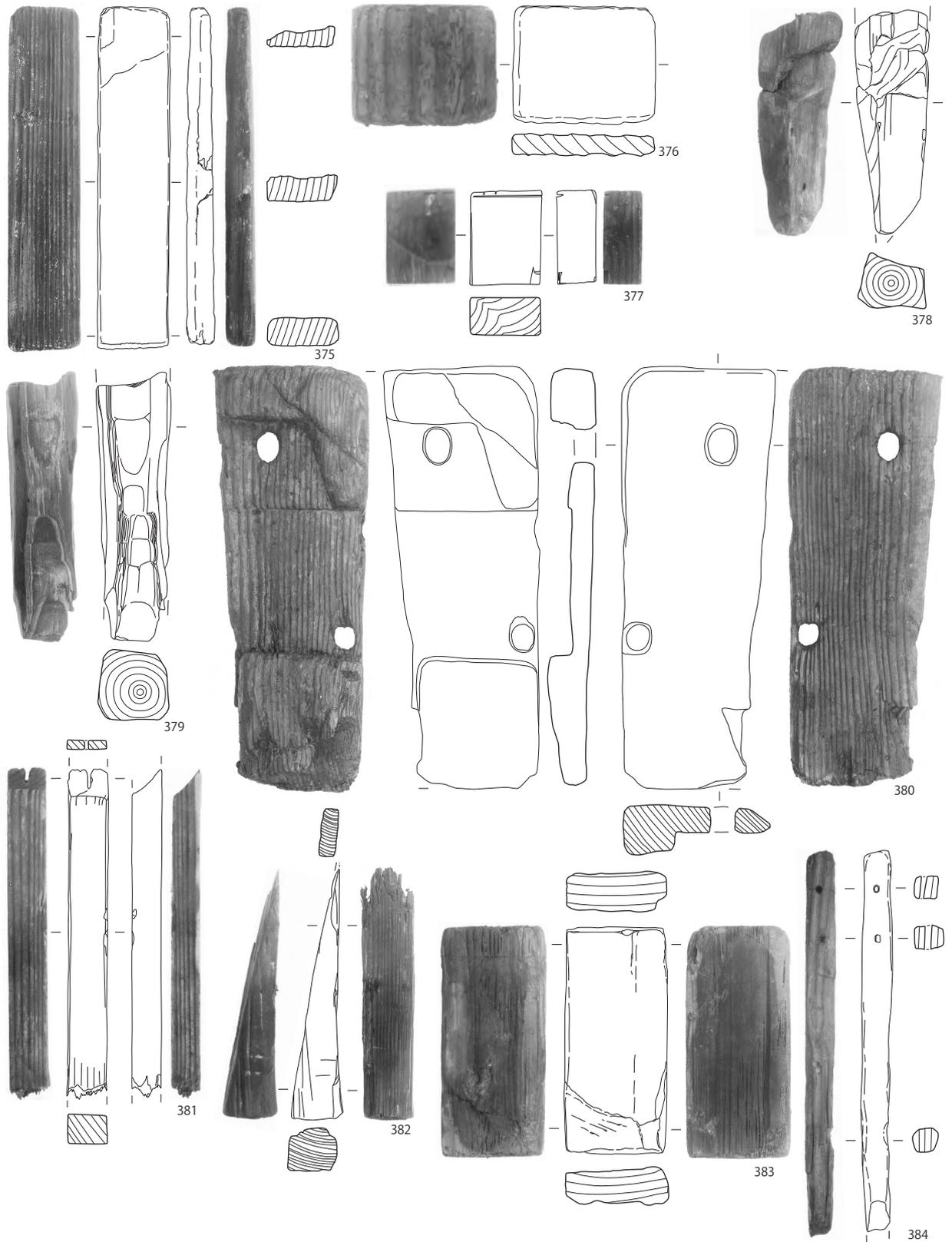
第 555 図 池状遺構（第 1 遺構面）出土木製品 (7) (縮尺：1/3)



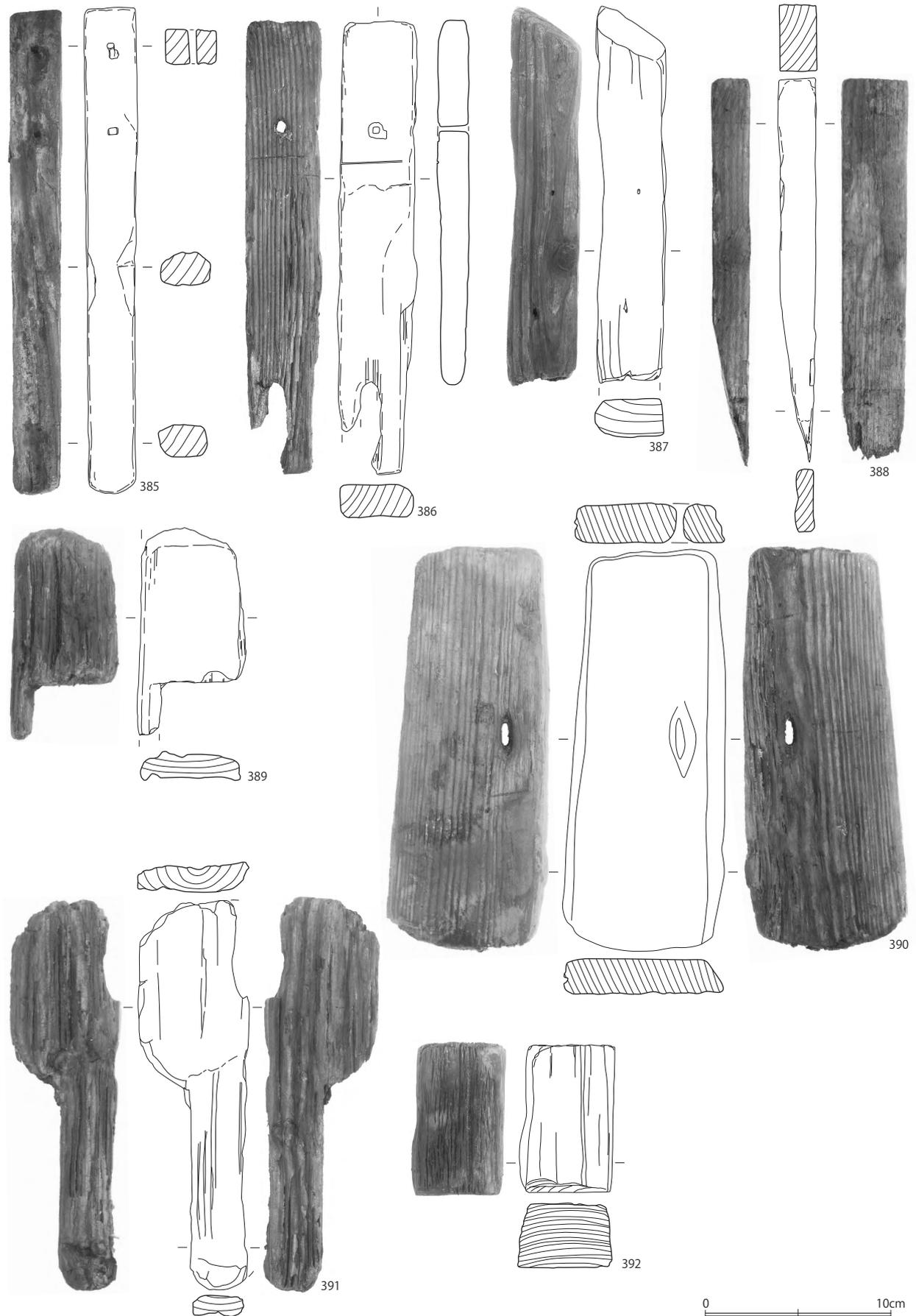
第556図 池状遺構(第1遺構面)出土木製品(8)(縮尺:1/3)



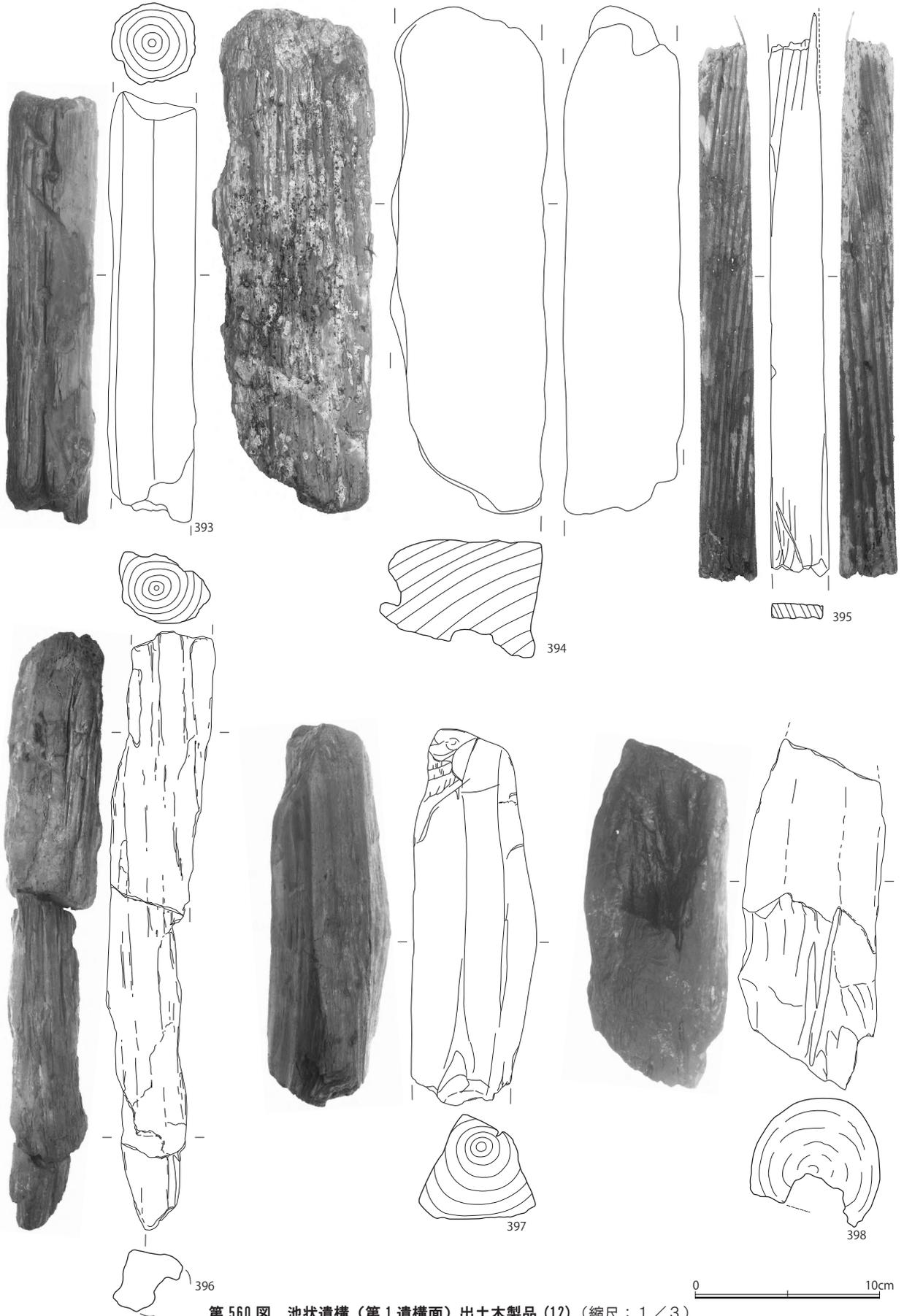
第557圖 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（9）（縮尺：1／3）



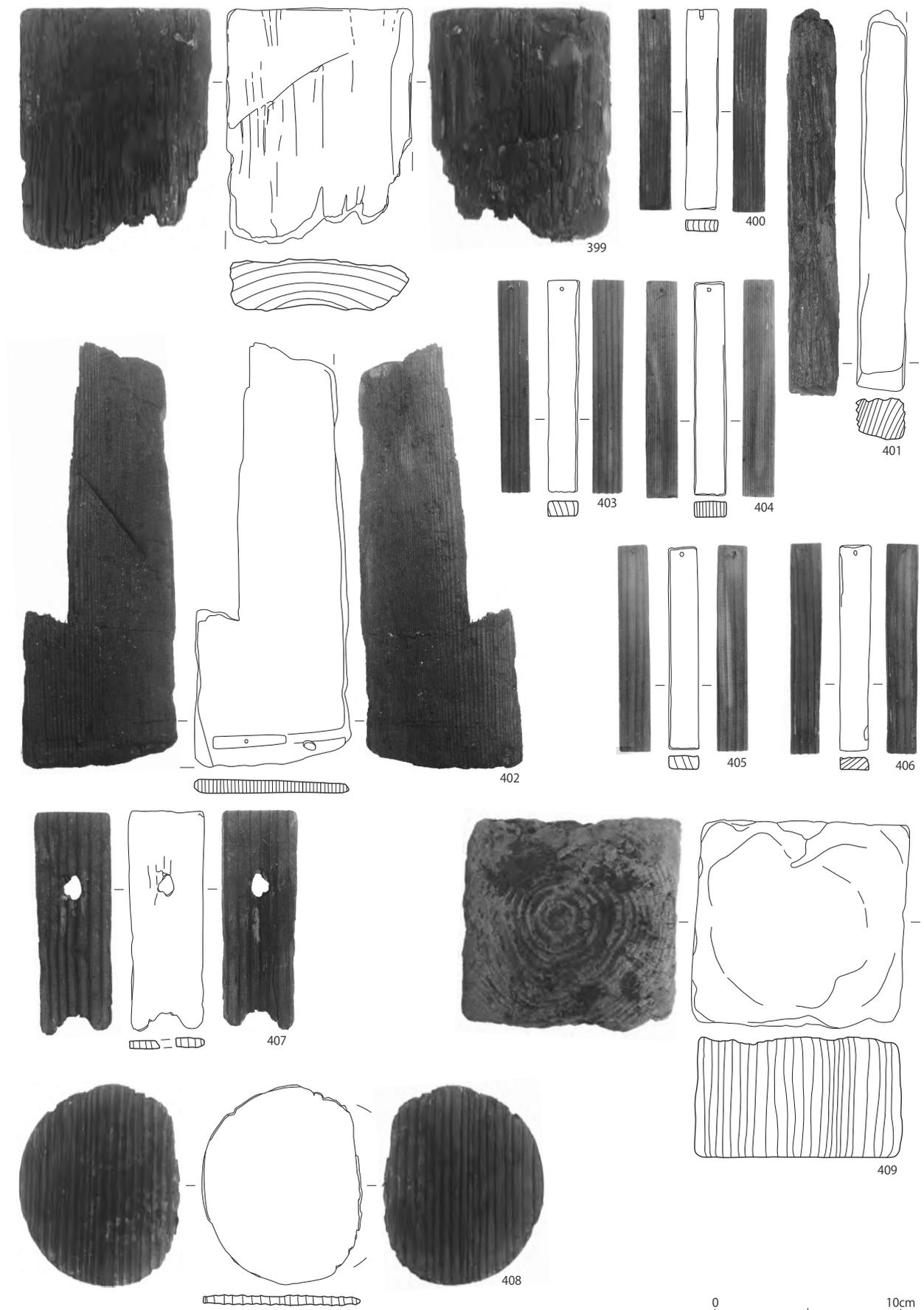
第558図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（10）（縮尺：1/3）



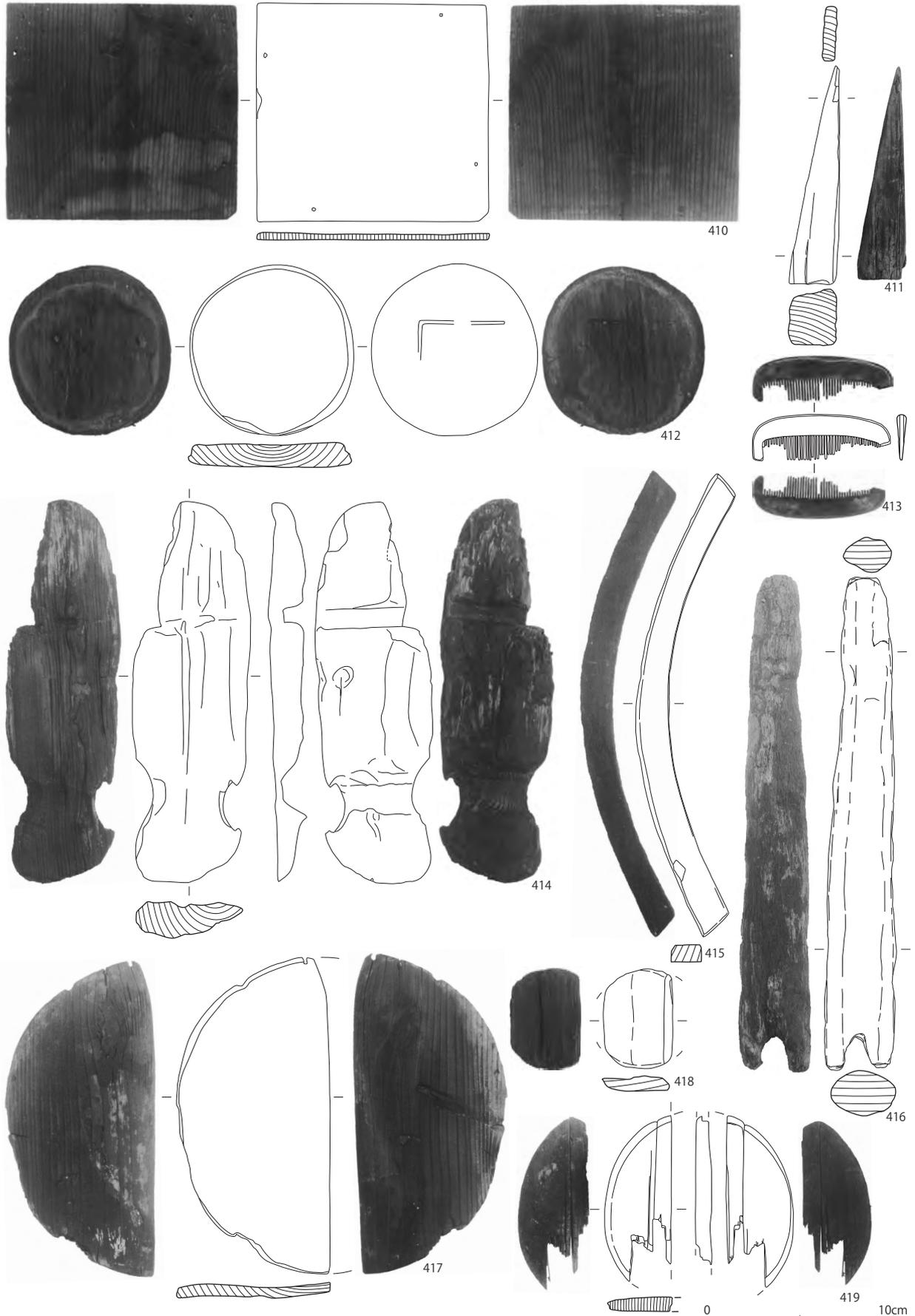
第 559 圖 池状遺構（第 1 遺構面）出土木製品 (11) (縮尺：1 / 3)



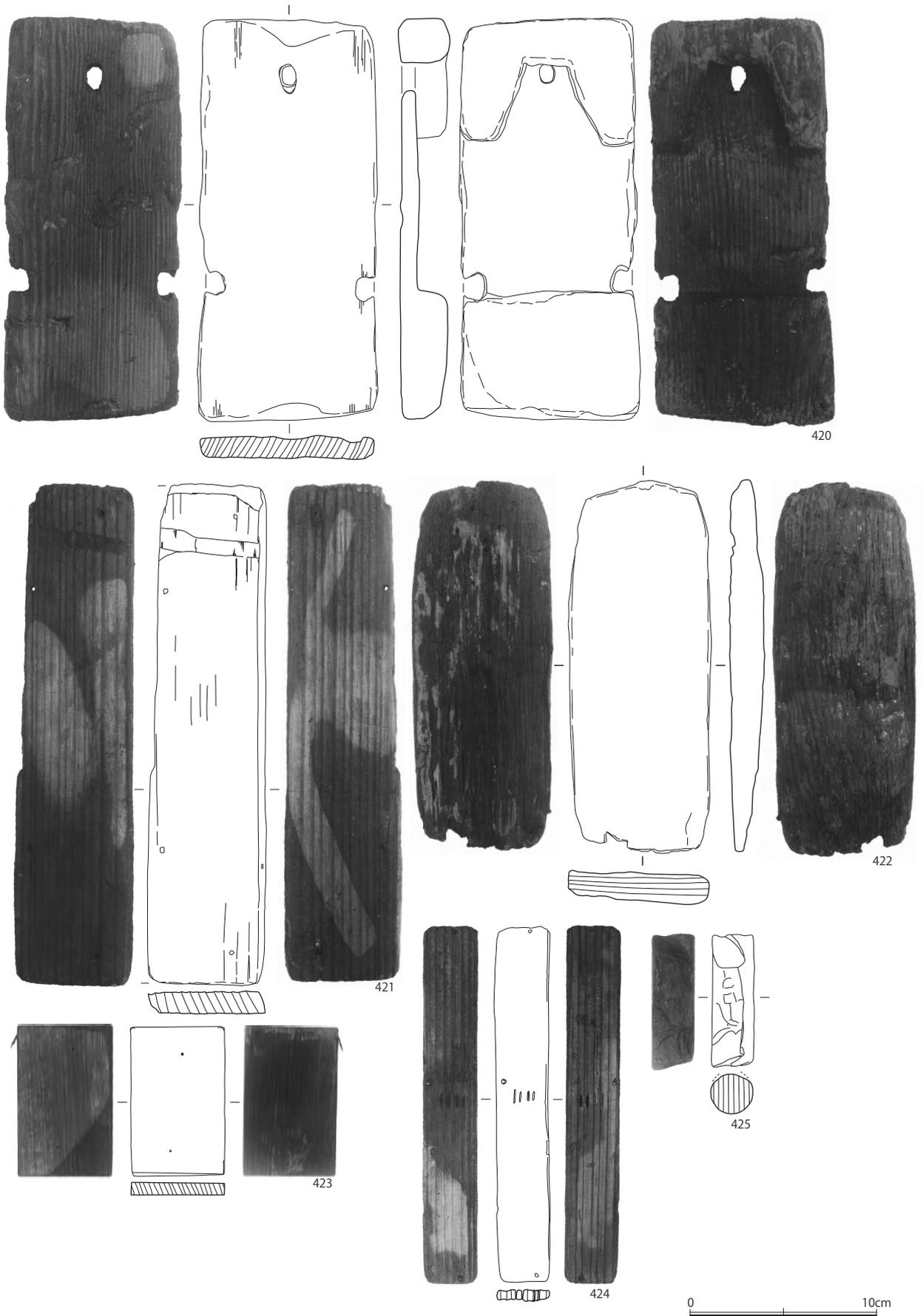
第560図 池状遺構(第1遺構面)出土木製品(12)(縮尺:1/3)



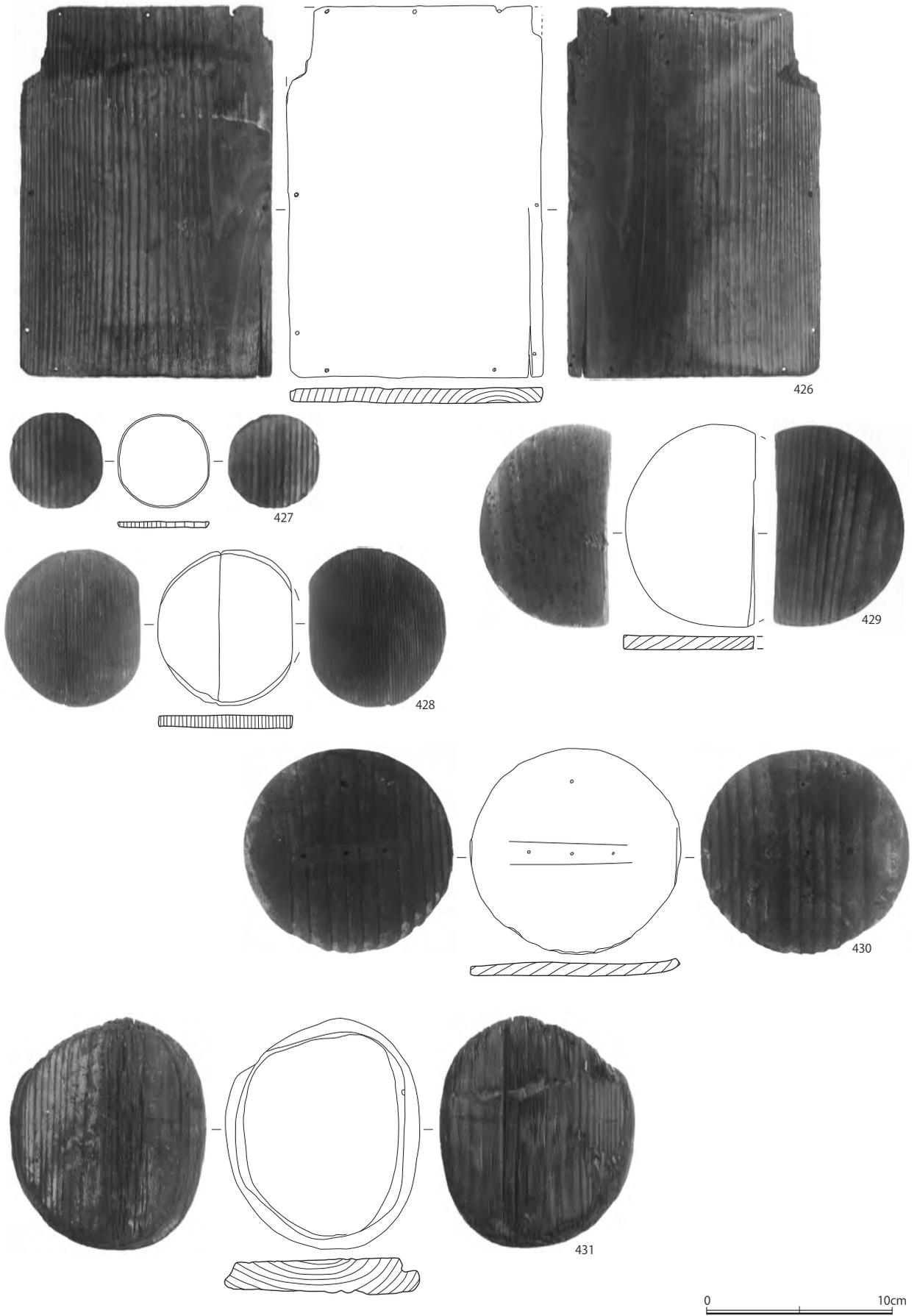
第561圖 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（13）（縮尺：1／3）



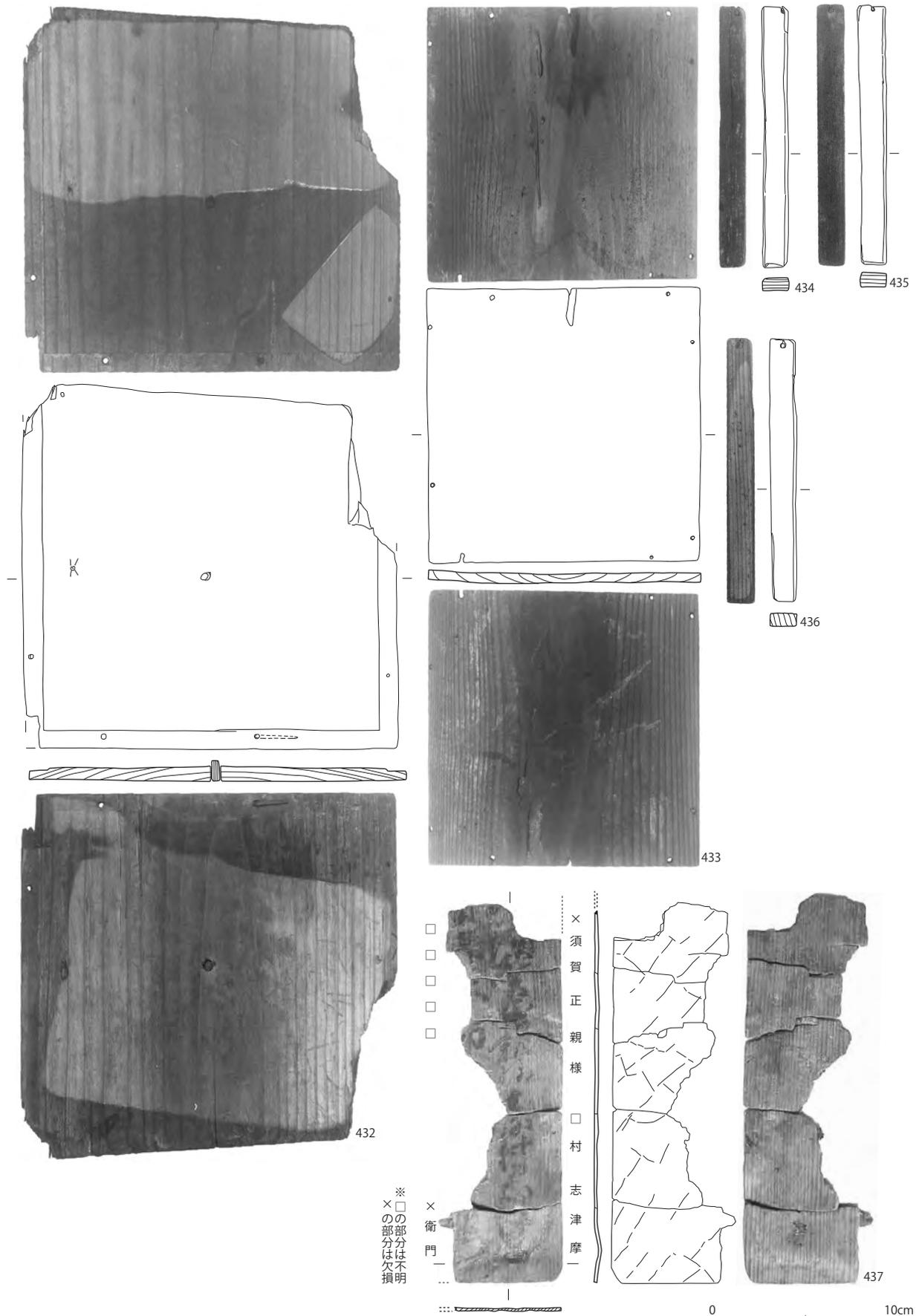
第562図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（14）（縮尺：1/3）



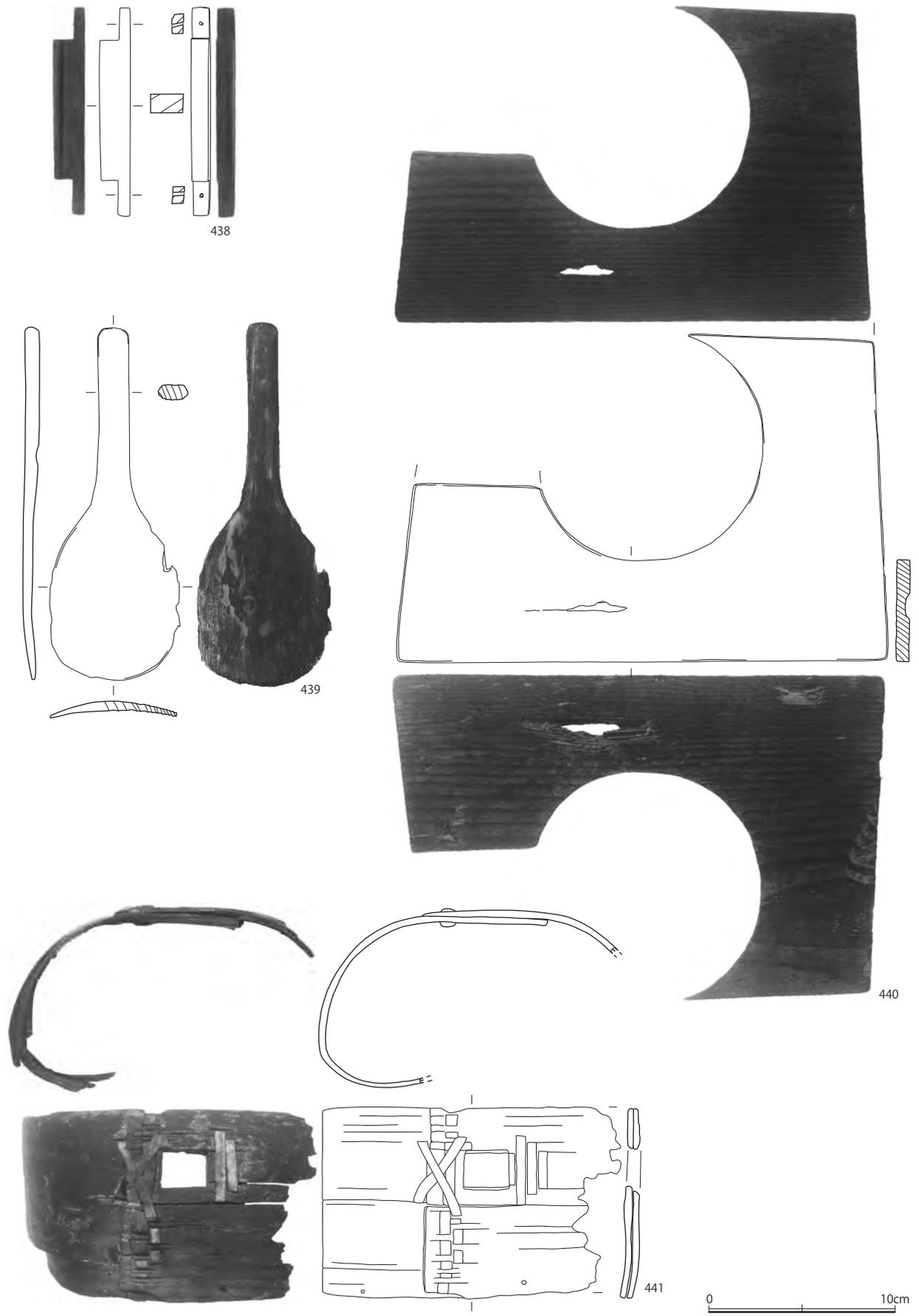
第563圖 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（15）（縮尺：1/3）



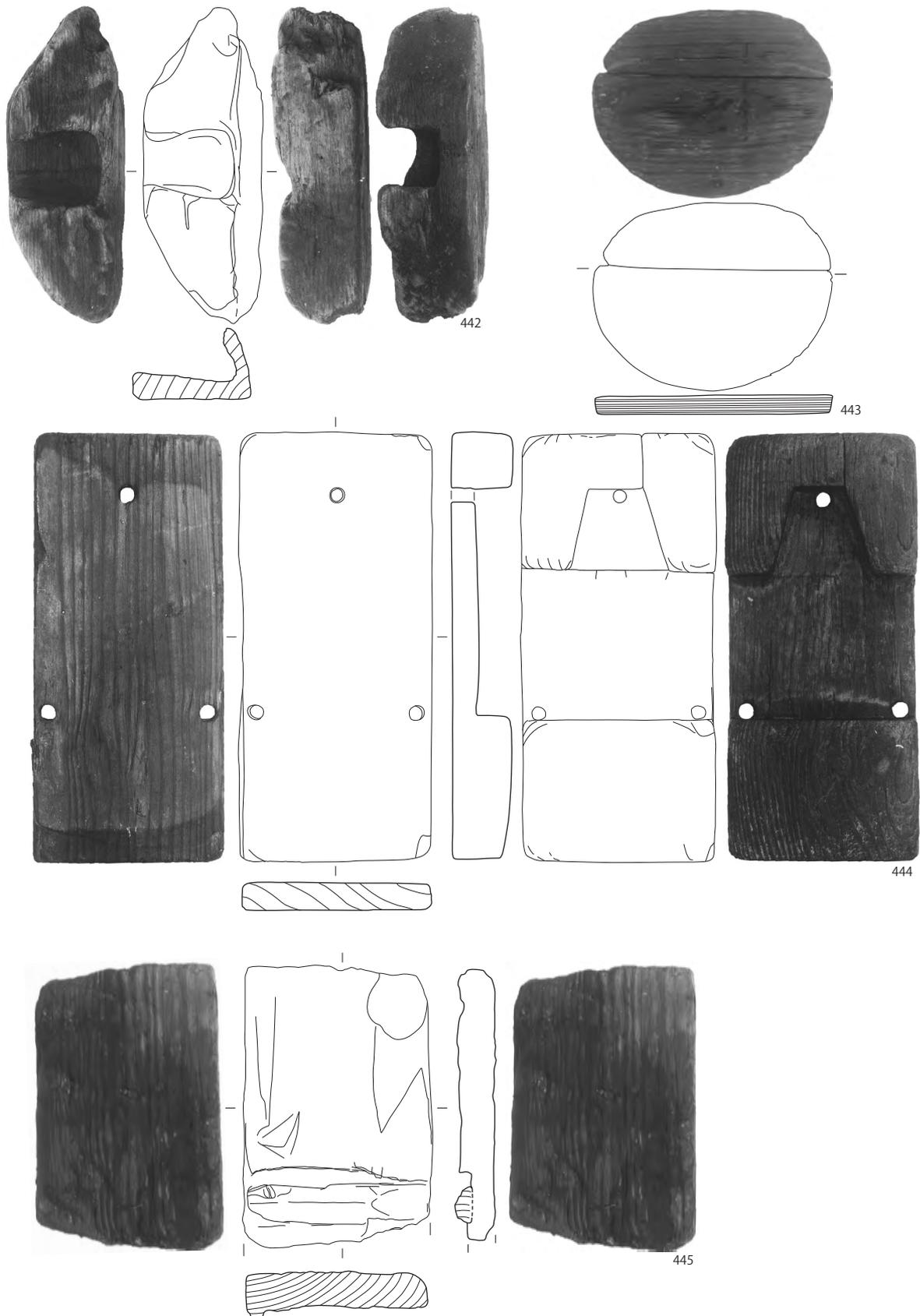
第564図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品(16)（縮尺：1/3）



第565図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（17）（縮尺：1/3）

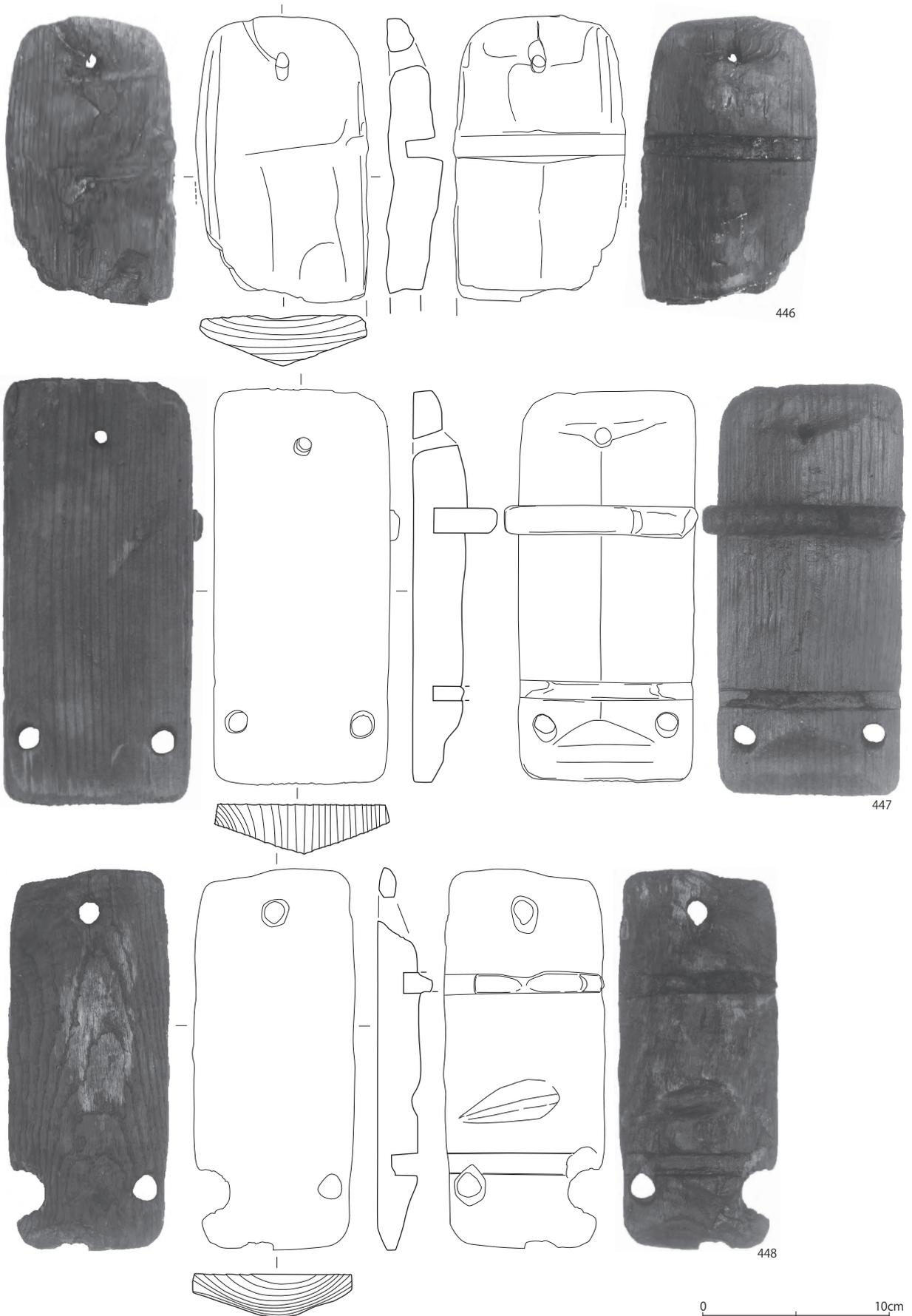


第566図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（18）（縮尺：1/3）



第567図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（19）（縮尺：1/3）

0 10cm



第568図 池状遺構（第1遺構面）出土木製品（20）（縮尺：1/3）

板固定用の釘孔が8箇所みられる。427～430は曲物・結物の蓋板または底板である。431は曲物の底板である。432・433は折敷の底板である。432は側板固定用の釘孔が6箇所みられる。433は側板固定用の釘孔が8箇所みられ、1箇所に木釘が残存している。434～436は折敷の側板である。底板に留めるための釘孔2箇所と側板どうしを留めるための釘孔が2箇所みとめられる。437は墨書のある板材である。「×須賀正親様 □村志津摩 □□□□□ ×衛門」。宛名は「蜂須賀正親」と考えられ、明治期の人物である。438は細長い棒材である。両端部に切欠きがあり、釘孔が穿たれている。折敷の脚、あるいは障子の棧などの可能性が考えられる。439は杓文字である。440は板状の木製品である。円形に孔があげられている。441は曲物の側板である。442は紡錘形の木製品である。中央部に挟りが入れている。443は曲物の蓋板である。焼印が施されているが、判読不明である。444は角型削り下駄である。445は板状の木製品である。角型露卯下駄と考えられる。446～448は角型陰卯下駄である。

石組み溝3 (第569図)

449は栓である。450は曲物・結物の蓋板または底板である。451・452は板状の木製品である。451は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。453は杭である。454は曲物・結物の蓋板である。把手をつけるための釘孔が8箇所みとめられる。455は竹筒である。456は棒状の木製品である。

石組み溝5 (第570・571図)

457・458は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。458は端部に柄が作り出されている。459は曲物・結物の蓋板または底板である。460は杭である。461は曲物・結物の蓋板または底板である。462は板状の木製品である。端部が面取りされている。折敷の底板と考えられる。463は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。464は結物桶の側板である。465は曲物・結物の蓋板である。466は杭である。467は責め木用の楔である。468は板状の木製品である。4箇所に穿孔が施されている。469は木槌の頭部である。470は棒状の木製品である。471は曲物・結物の蓋板または底板である。472・473は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。472は1箇所、473は2箇所に穿孔が施されている。

蜂須賀家屋敷地内

遺物溜り17 (第572図)

474は丸型連歯下駄である。475は用途不明の板状の木製品である。

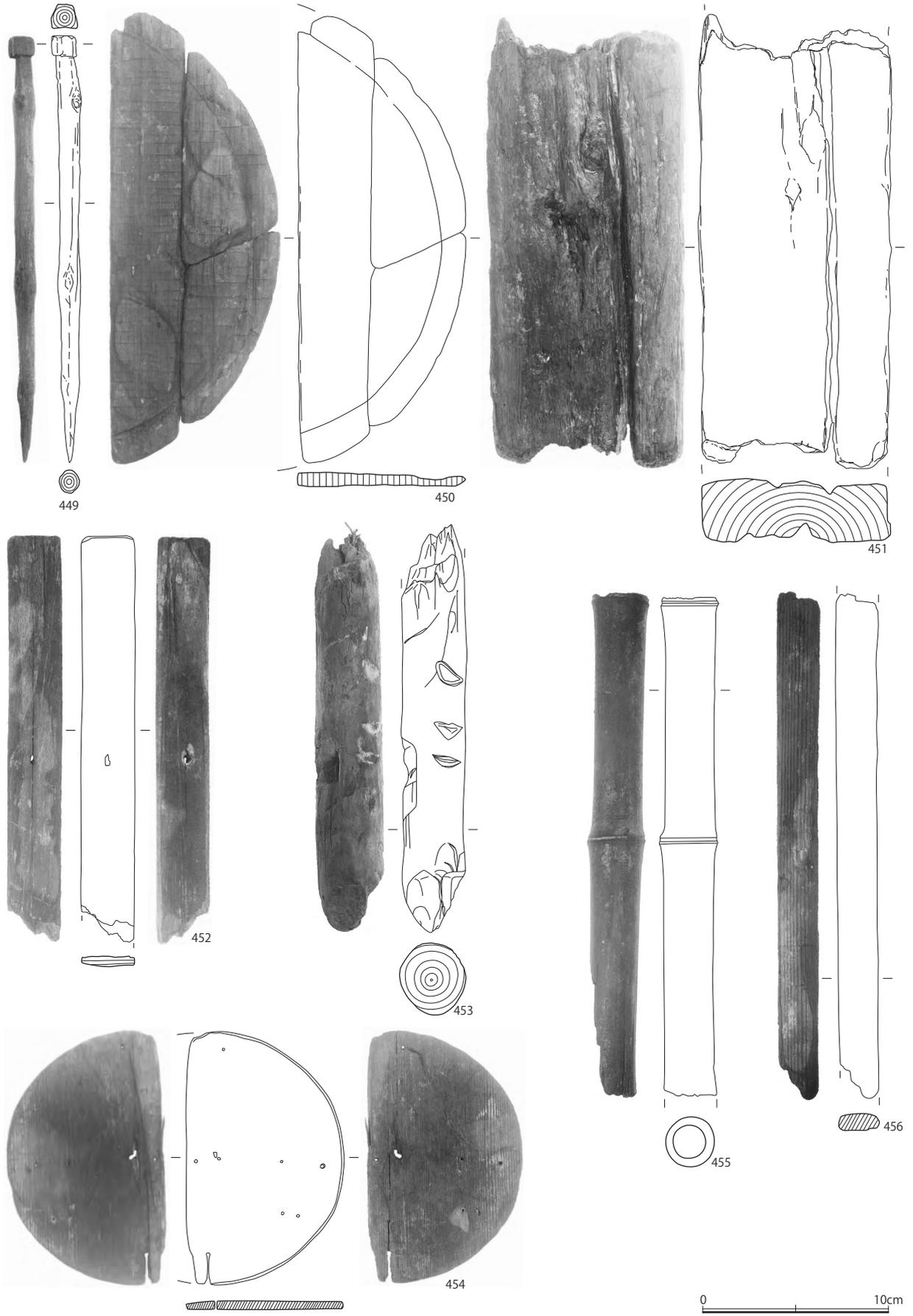
片山家屋敷地内

SE25 (第573図)

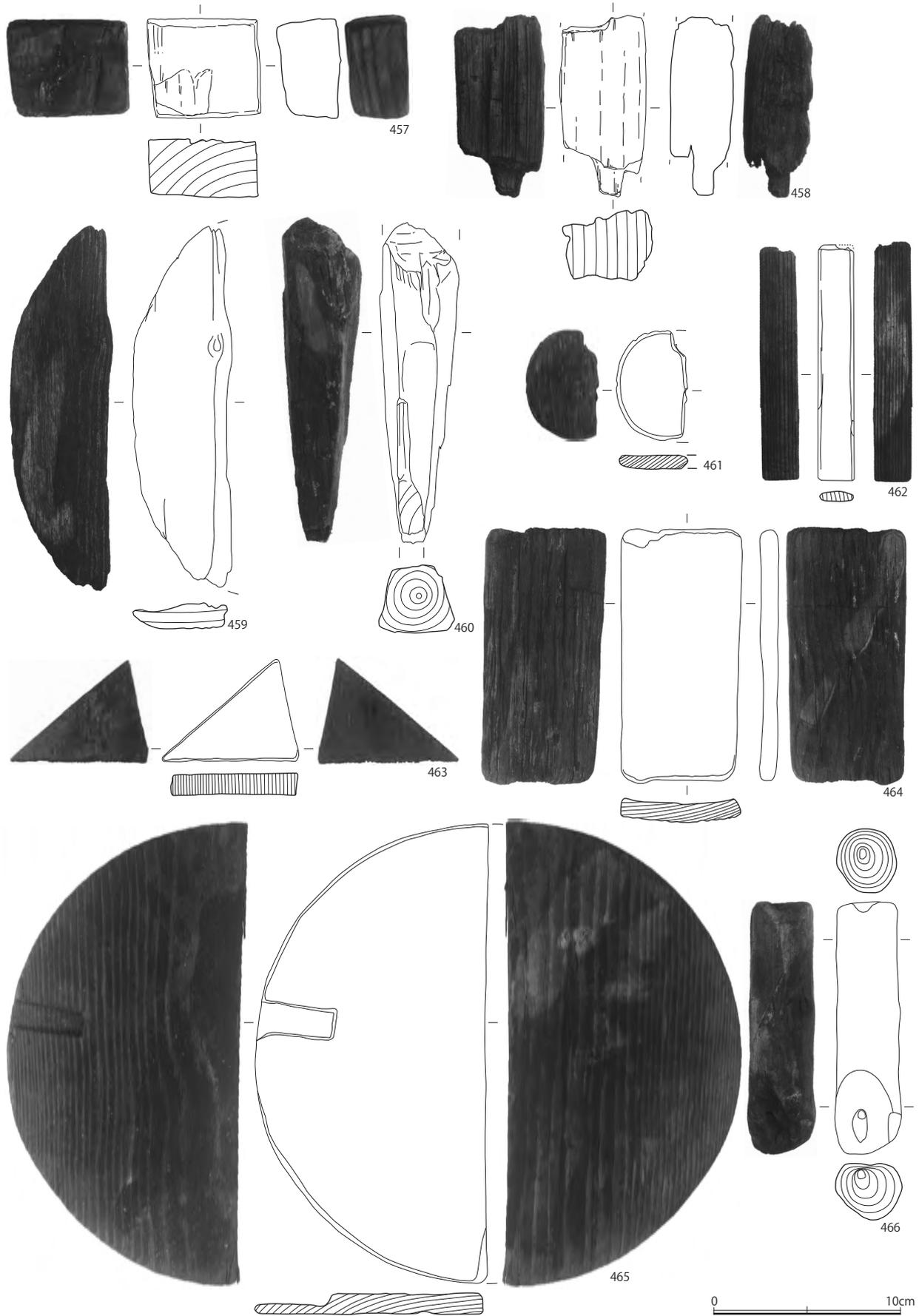
476は板状の木製品である。477は棒状の木製品である。断面形状は方形である。端部に柄が作り出されている。

SK73 (第574・575図)

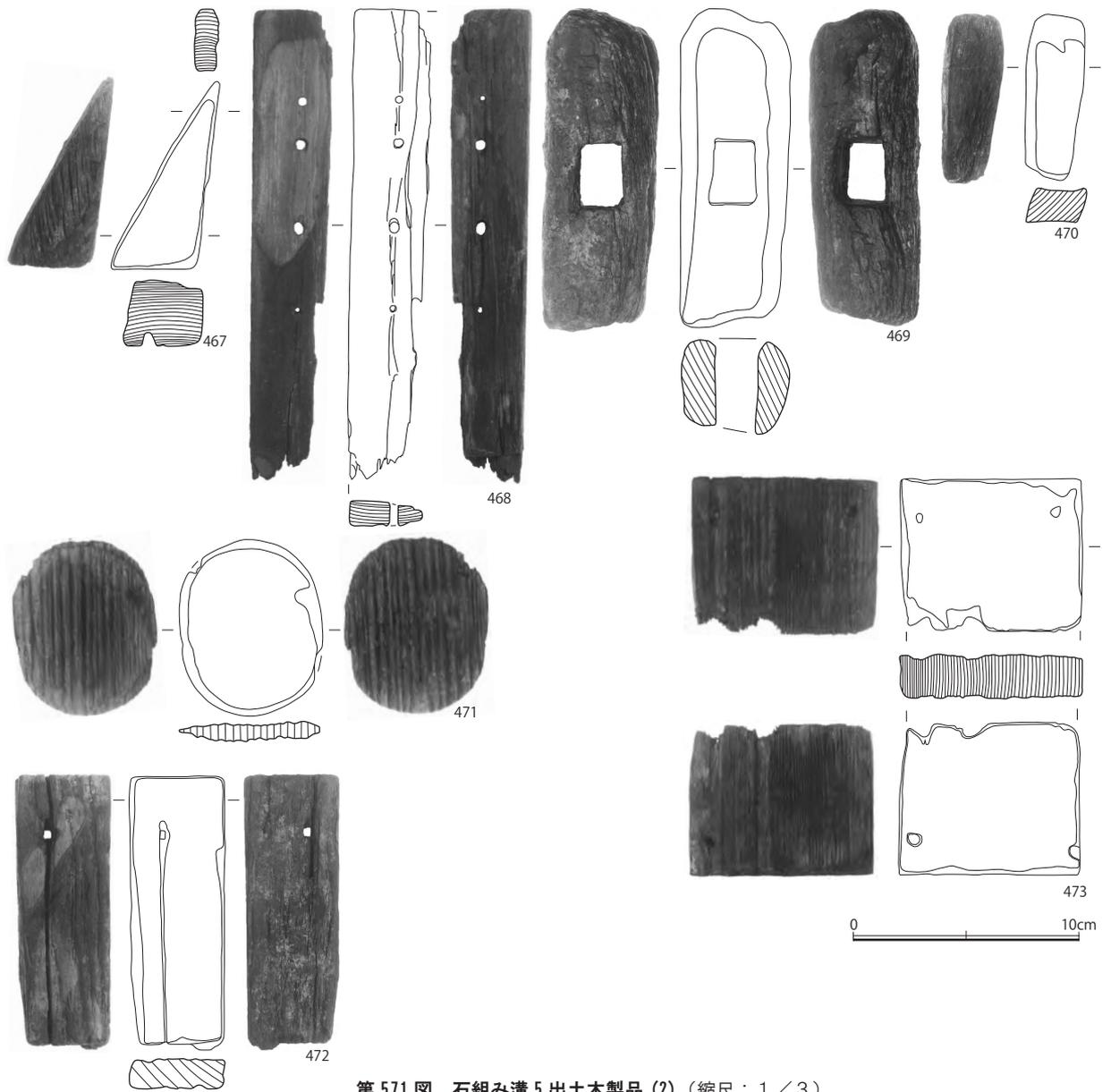
478は板状の木製品である。479は棒状の木製品である。480は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。481は棒状の木製品である。一部に切欠きが施されている。



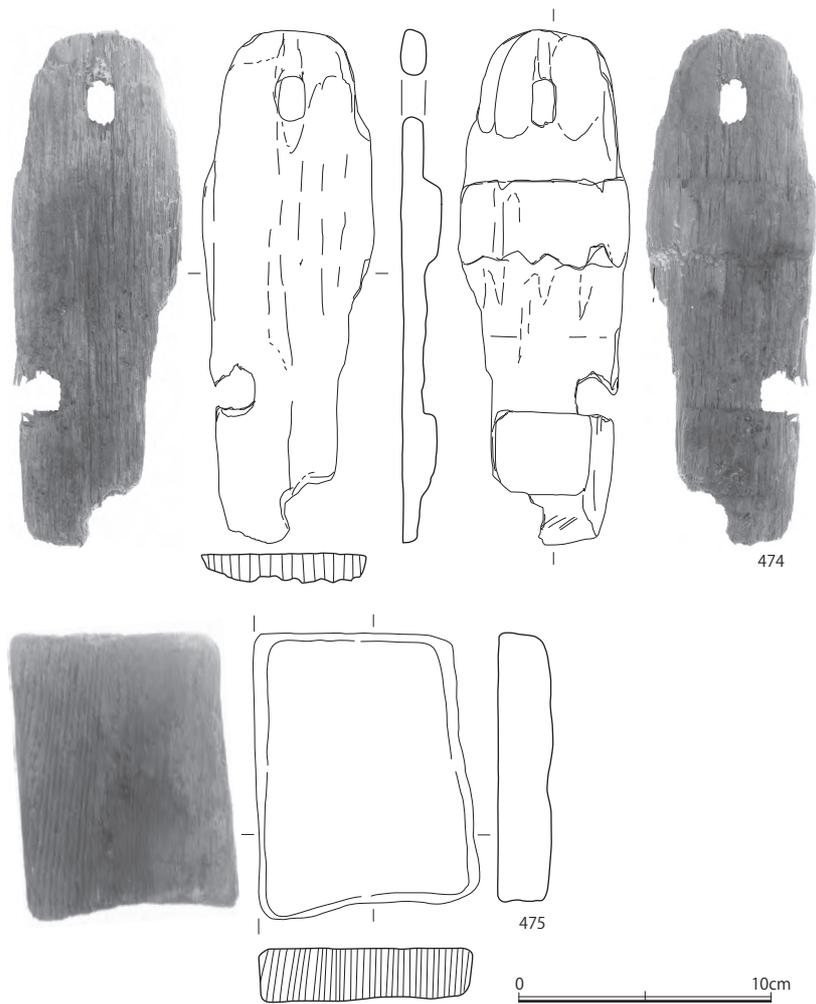
第 569 図 石組み溝 3 出土木製品 (縮尺 : 1 / 3)



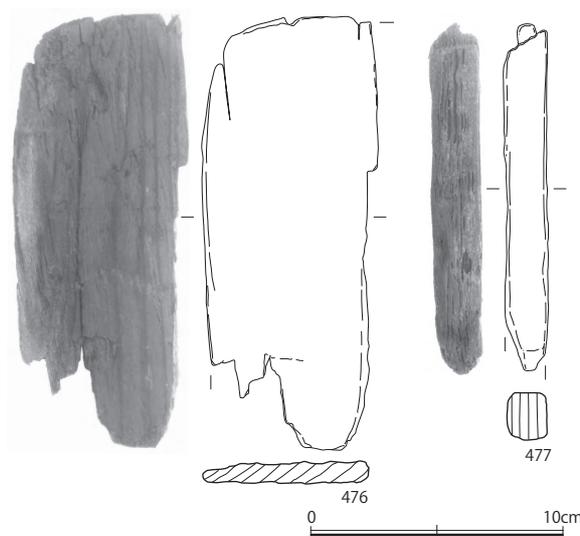
第570図 石組み溝5出土木製品(1) (縮尺: 1/3)



第571図 石組み溝5出土木製品(2) (縮尺: 1/3)



第 572 図 蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り 17 出土木製品 (縮尺: 1/3)

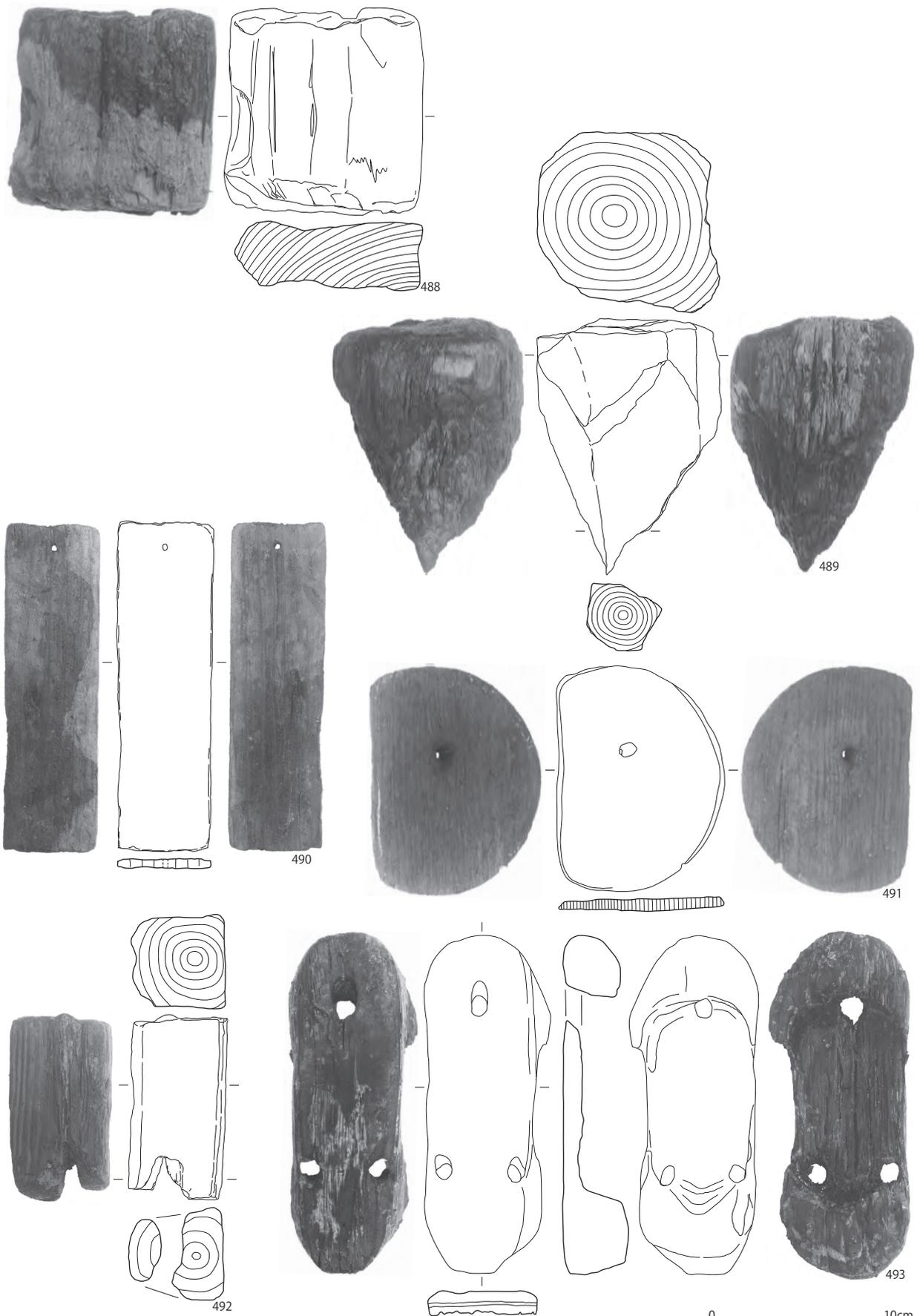


第 573 図 片山家屋敷地内 SE25 出土木製品 (縮尺: 1/3)



第574図 片山家屋敷地内 SK73 出土木製品(1) (縮尺: 1/3)

0 10cm

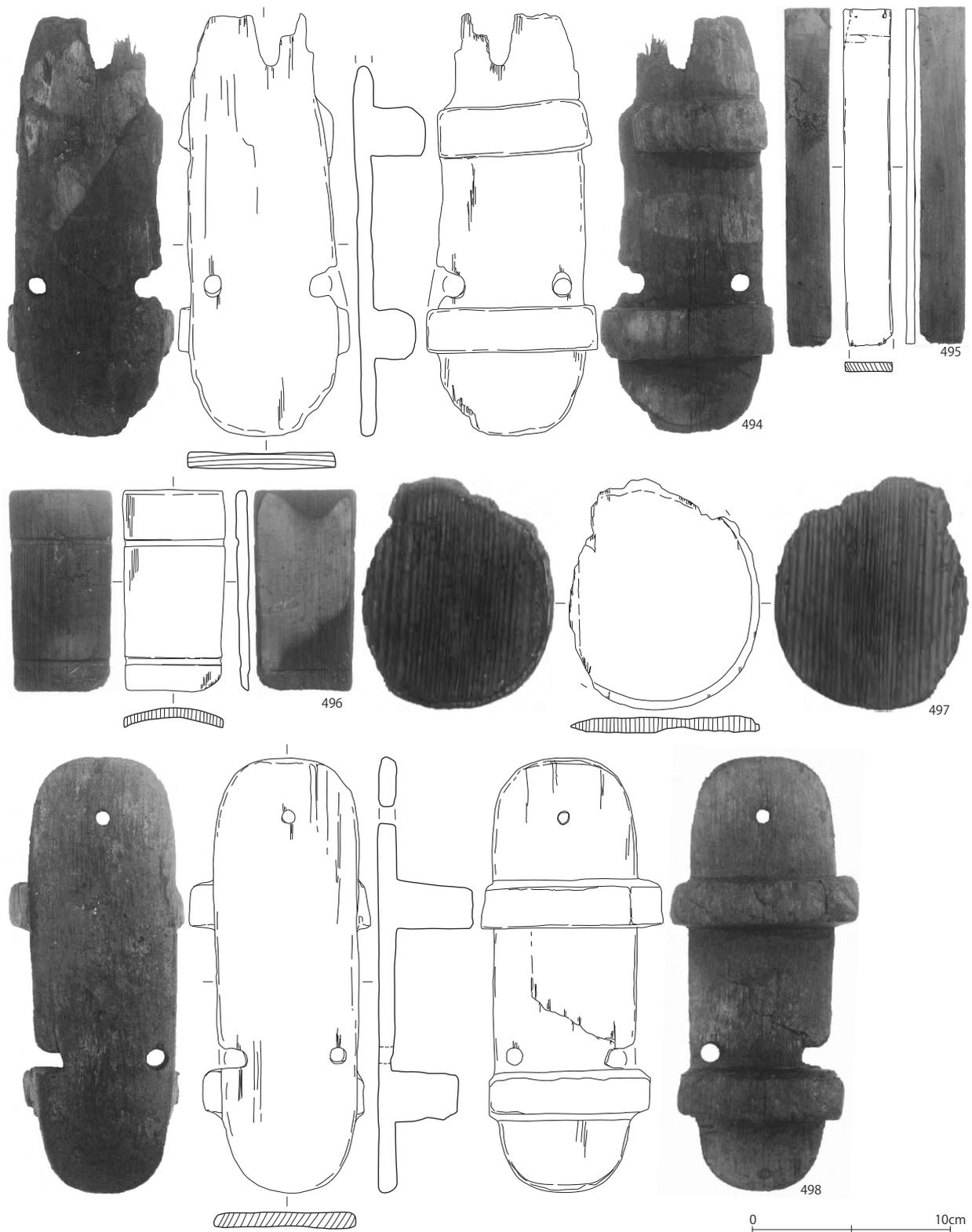


第 575 図 片山家屋敷地内 SK73 出土木製品 (2) (縮尺: 1/3)

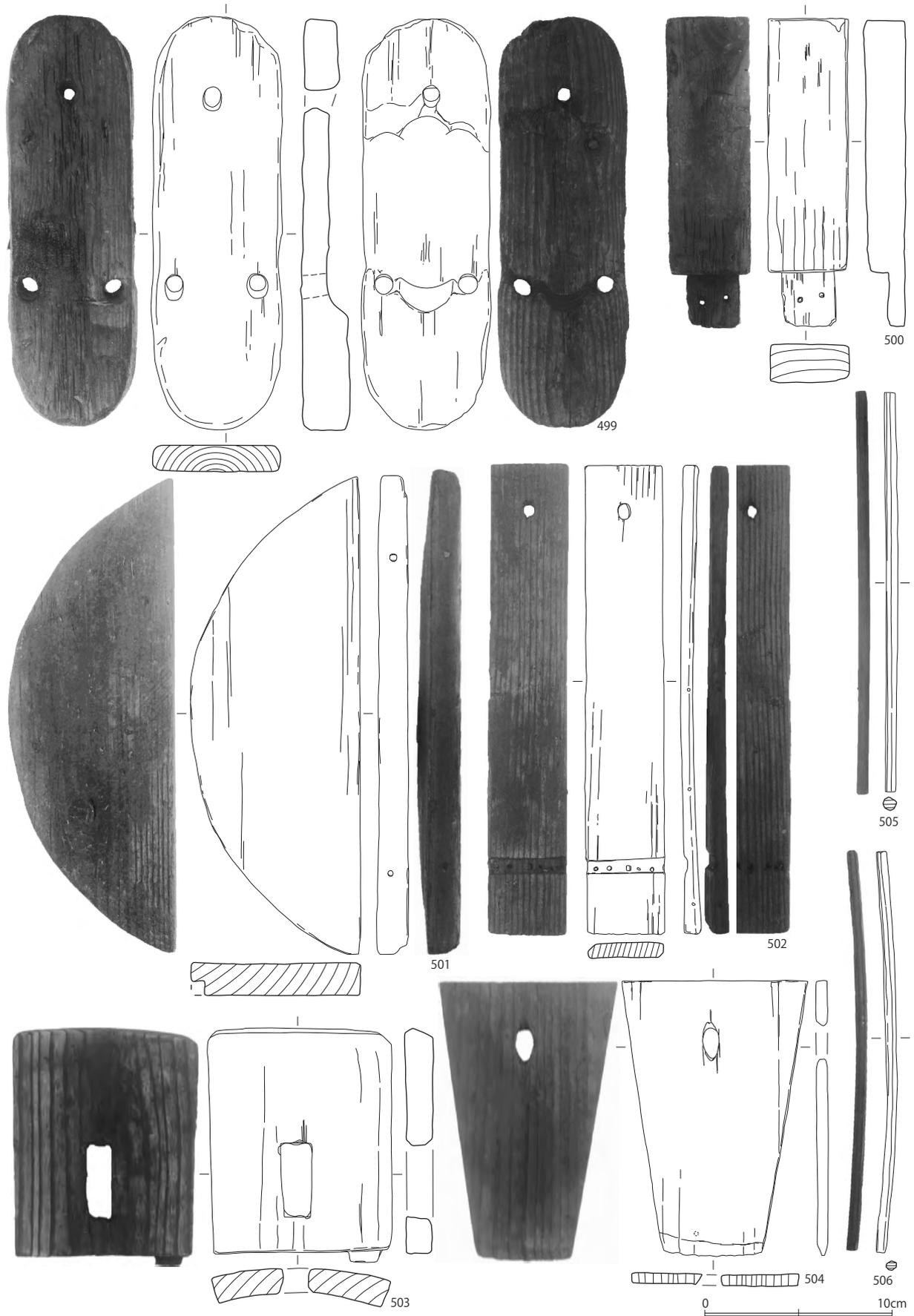
482 は棒状の木製品である。1 箇所穿孔が施されている。483 は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。484 は棒状の木製品である。485 は板状の木製品である。486 は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。中央部に1箇所穿孔がみとめられる。487 は杭である。488 は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。489 は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。490 は板状の木製品である。端部に1箇所穿孔がみとめられる。491 は曲物・結物の蓋板または底板である。492 は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。493 は丸型割り下駄である。

包含層（第 576 ～ 589 図）

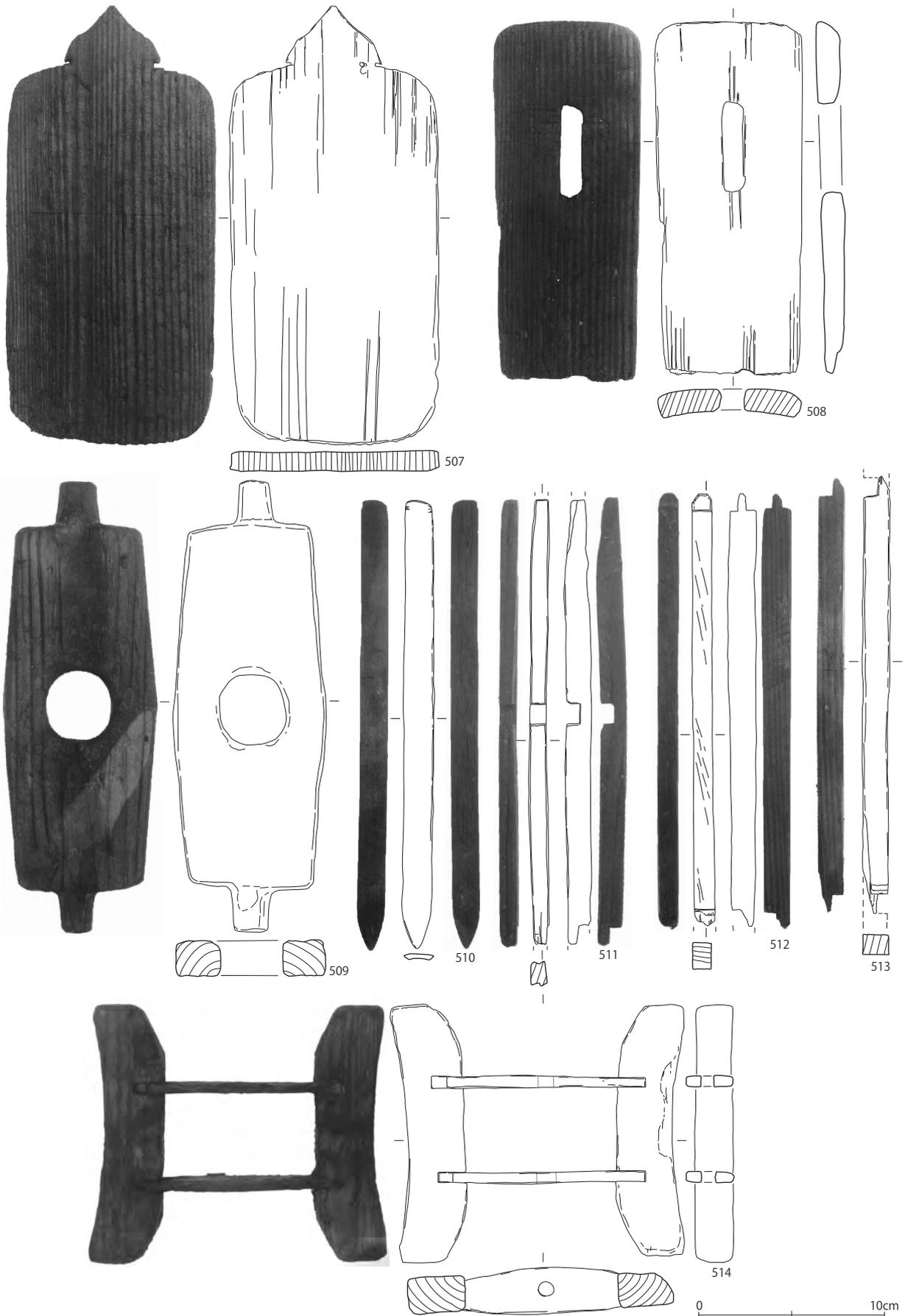
494 は丸型連歯下駄である。495 は折敷の底板である。496 は結物桶の樽板である。497 は曲物の底板である。498 は丸型連歯下駄である。499 は丸型割り下駄である。500 は角柱状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。端部に柄が作り出されており、そこに釘孔が2箇所みとめられる。501 は曲物・結物の底板である。側面に別材とつなぐための釘孔がみとめられる。502 は結物桶の樽板である。側面に別材とつなぐための釘孔がみとめられる。上端部中央に穿孔が施されている。下端部に底板をはめ込む溝があり、釘孔がみられる。503・504 は結物桶の手付である。持ち手の横木を差し込む孔が穿たれている。505・506 は箸である。507 は板状の木製品である。端部がへた状に加工されている。508 は結物桶の手付である。持ち手の横木を差し込む孔が穿たれている。509 は板状の木製品である。中央部に直径4cmほどの孔があげられている。両端部は細い棒状に成形されており、別材にはめ込むつくりになっている。510 は竹製の篋である。511～513 は障子の棧と考えられる棒状の木製品である。514 は紡織具の糸枠である。515 は板状の木製品である。残存している端部は、コの字状に成形されている。516 は棒状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。517 は栓である。518～521 は丸型割り下駄である。520・521 は棕櫚の鼻緒が残存している。522 は丸型連歯下駄である。523 は角型陰卯下駄である。棕櫚の鼻緒の一部が残存している。524 は板状の木製品である。樹皮かがりが2箇所に施されている。525 は角型割り下駄である。526 は曲物・結物の蓋板または底板である。527 は下駄の歯である。528 は露卯下駄の歯である。529 は栓である。530 は箸である。531 は丸型露卯下駄である。532・533 は折敷の底板である。533 は側面に別材とつなぐための釘孔がみとめられる。534・535 は板状の木製品である。536～538 は棒状の木製品である。断面形状は方形である。536 は1箇所に釘孔がみとめられる。539・540 は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。541・542 は板状の木製品である。542 は建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。543 は棒状の木製品である。断面形状は方形である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。544 は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。545 は用途不明の木製品である。建築部材の栓に似た形状をしている。546 は曲物の底板である。547 は蓋板である。把手として樹皮が使われている。548 は棒状の木製品である。549 は角型陰卯下駄である。550 は板状の木製品である。建築部材などの破片の可能性があり。551 は蓋板である。栓をするための穿孔がある。552 は栓である。553 は板状の木製品である。



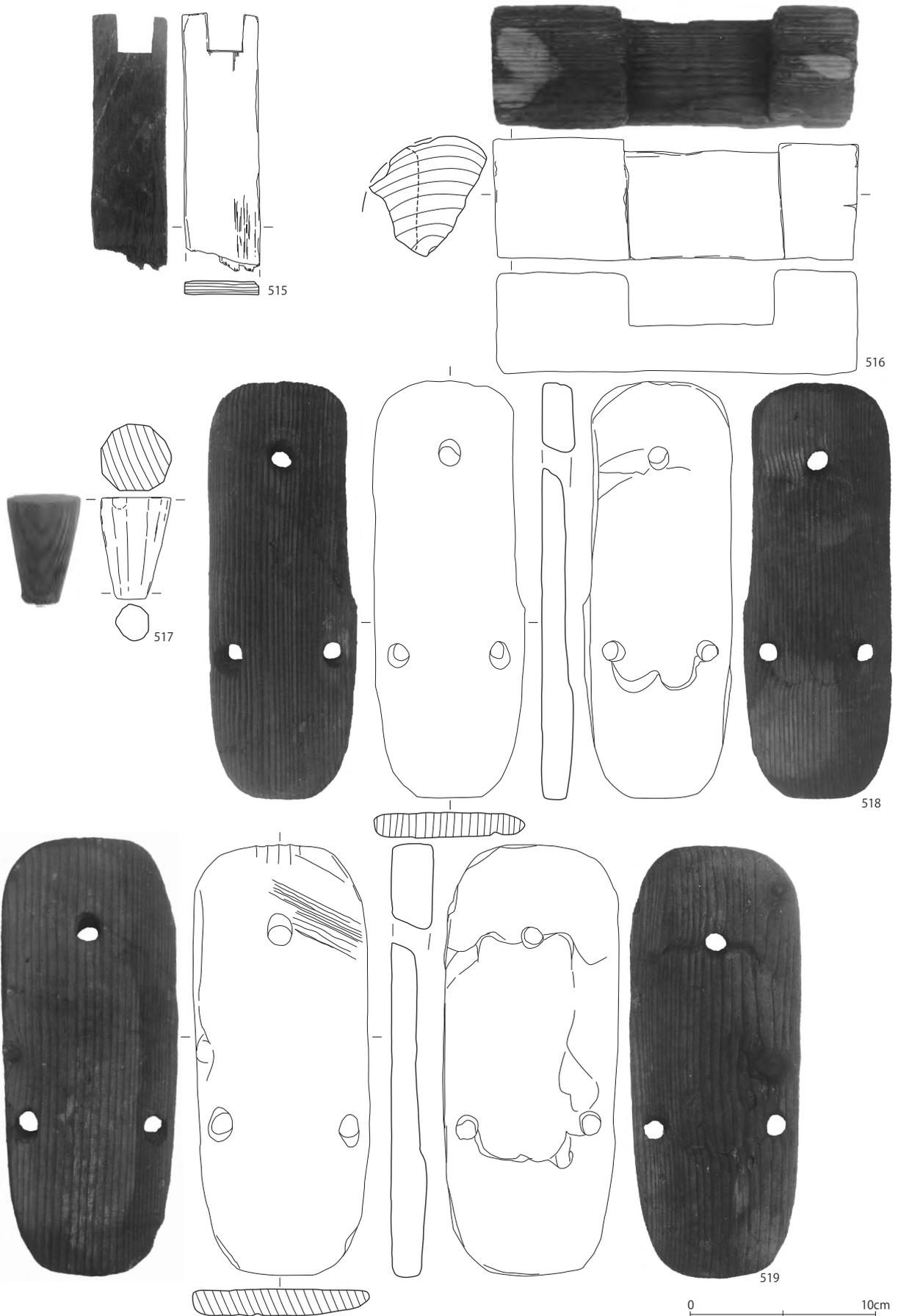
第 576 図 包含層出土木製品 (1) (縮尺: 1 / 3)



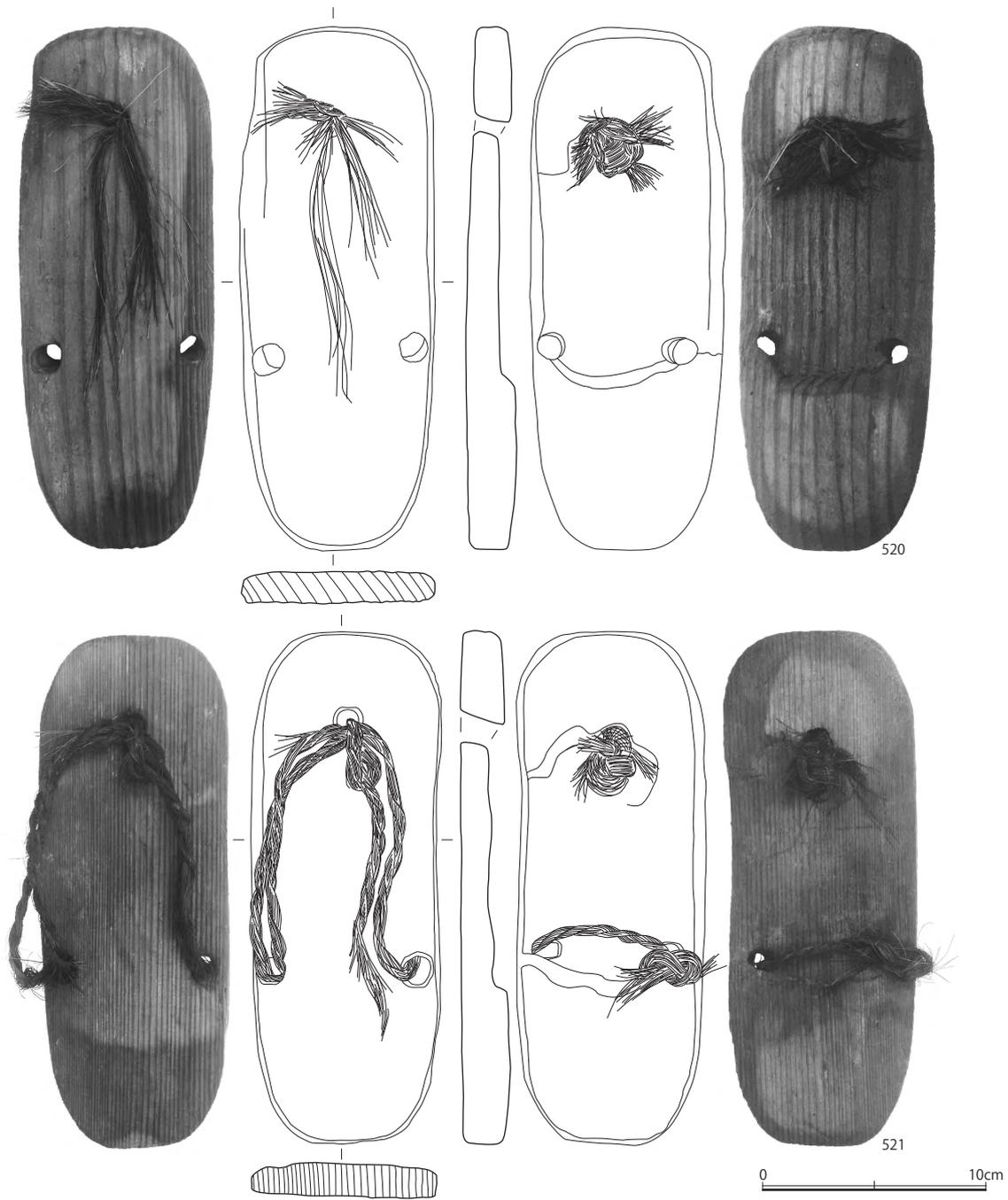
第577図 包含層出土木製品(2) (縮尺: 1/3)



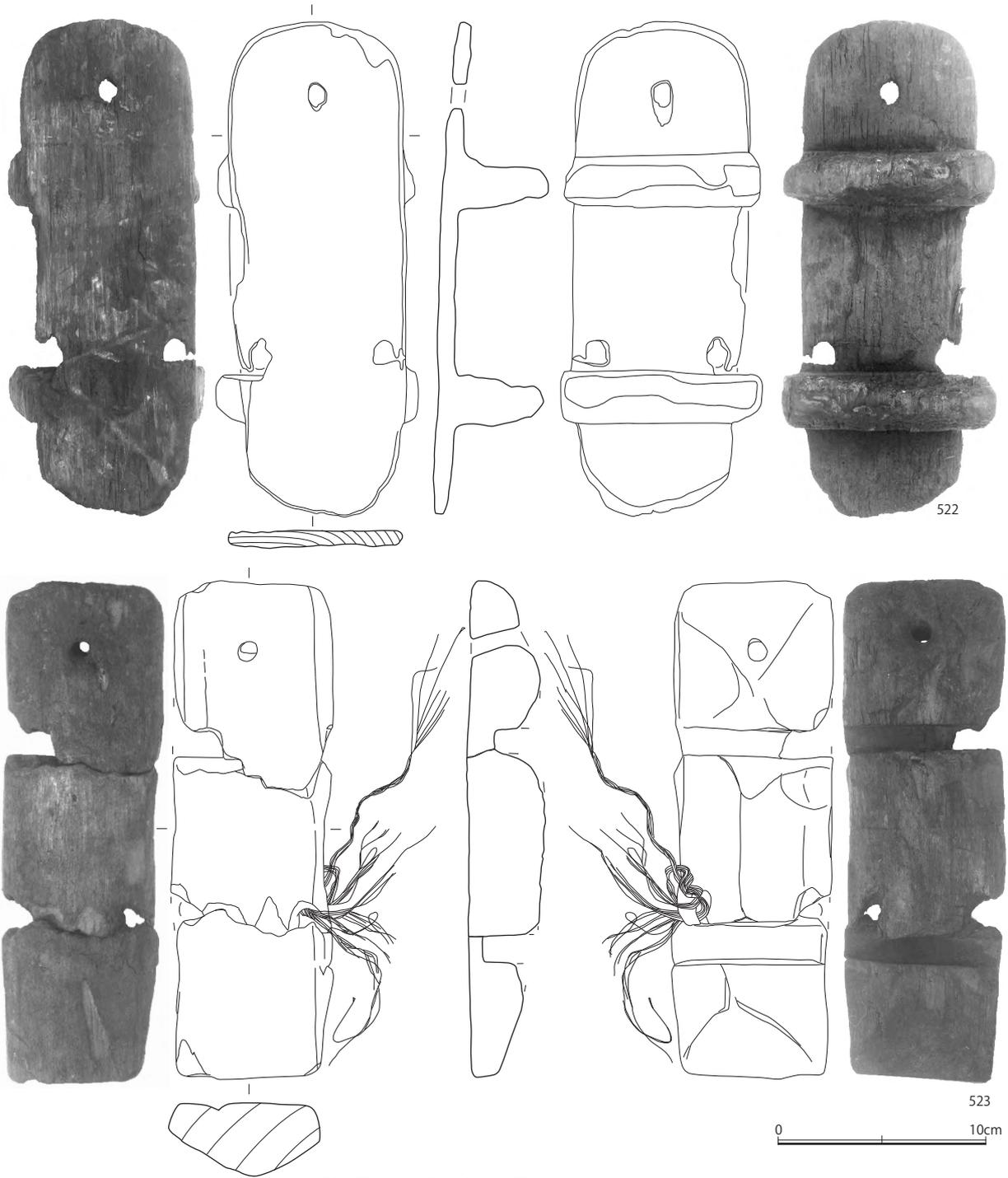
第 578 図 包含層出土木製品 (3) (縮尺：1 / 3)



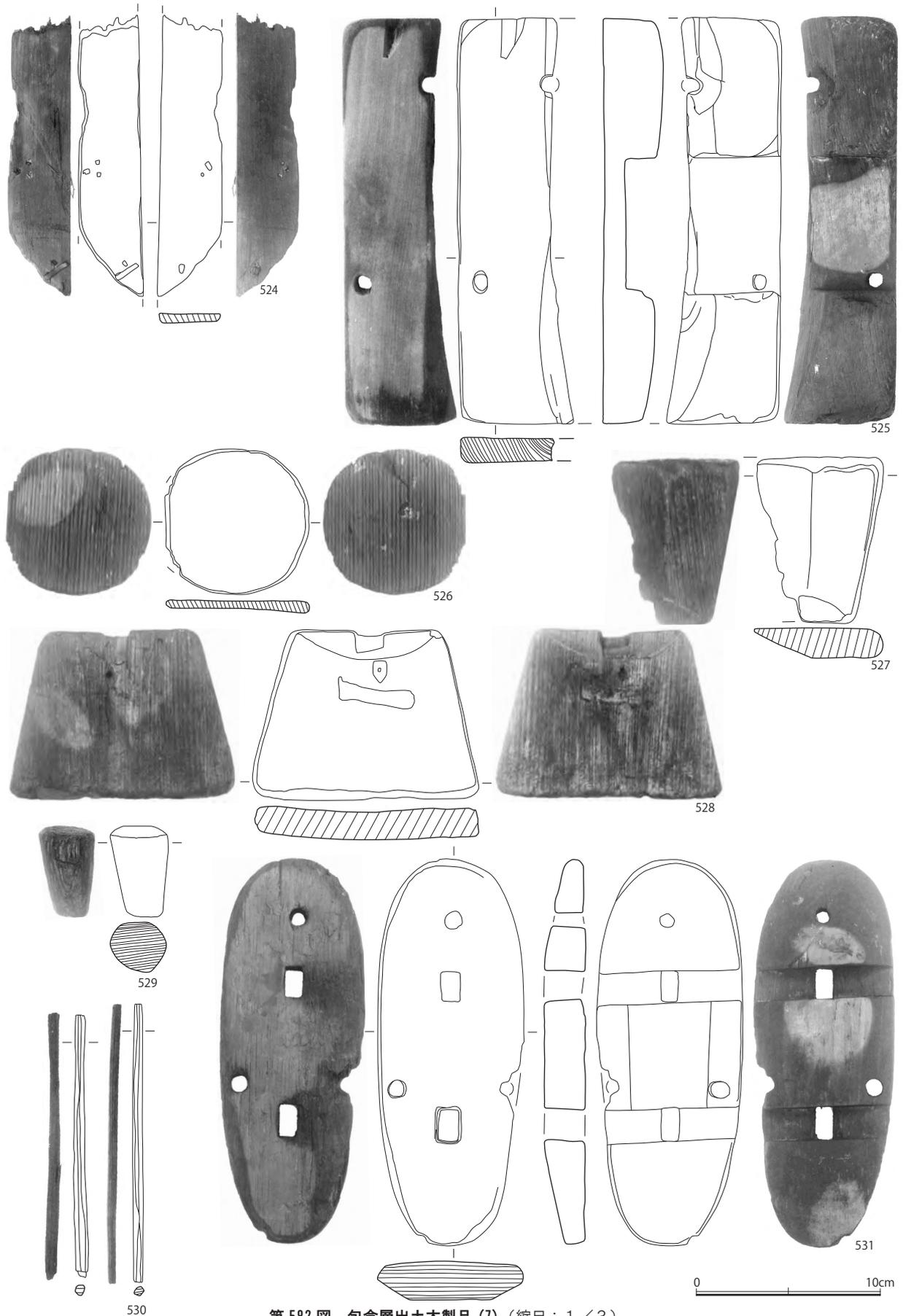
第579図 包含層出土木製品(4) (縮尺: 1/3)



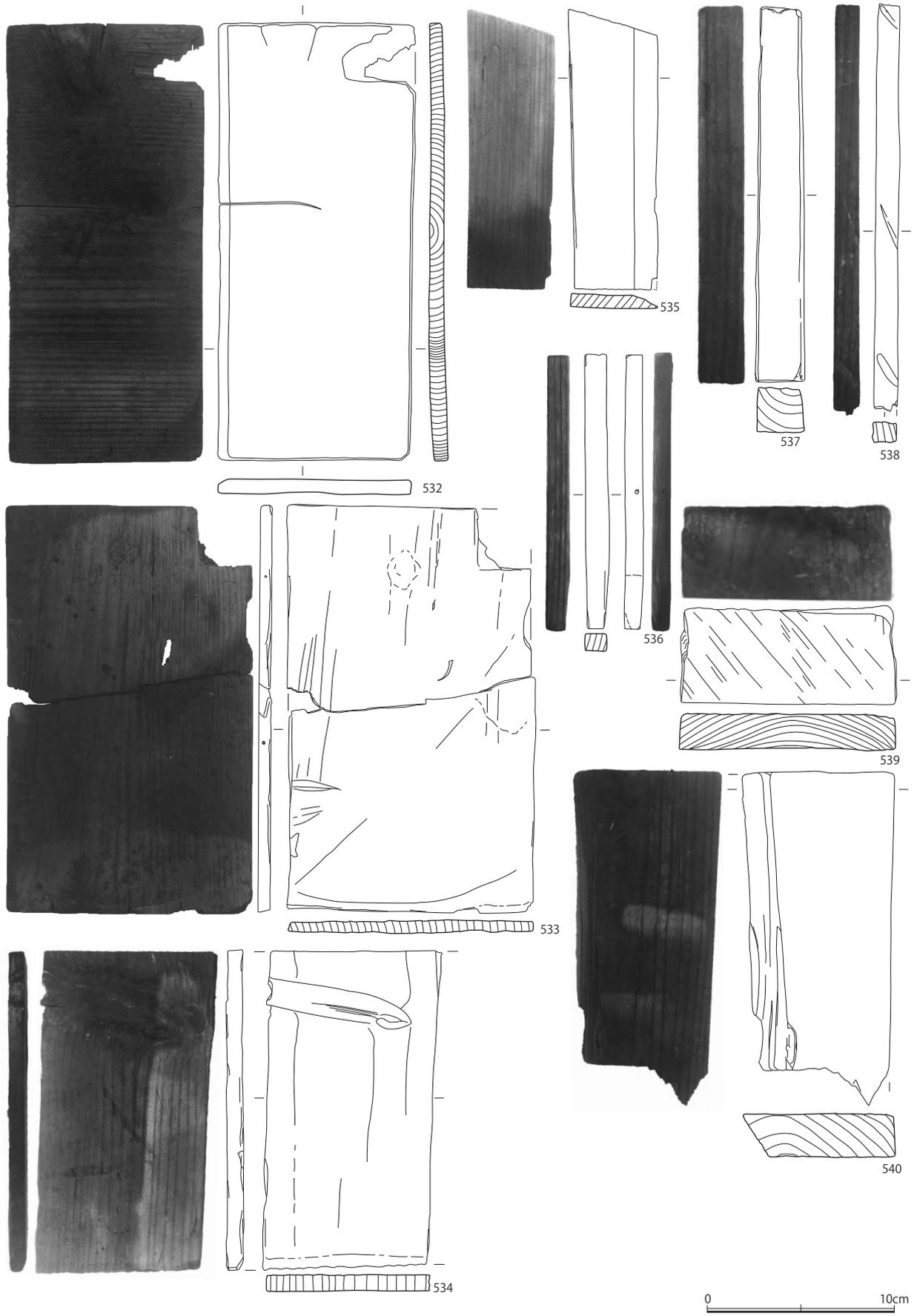
第 580 図 包含層出土木製品 (5) (縮尺：1 / 3)



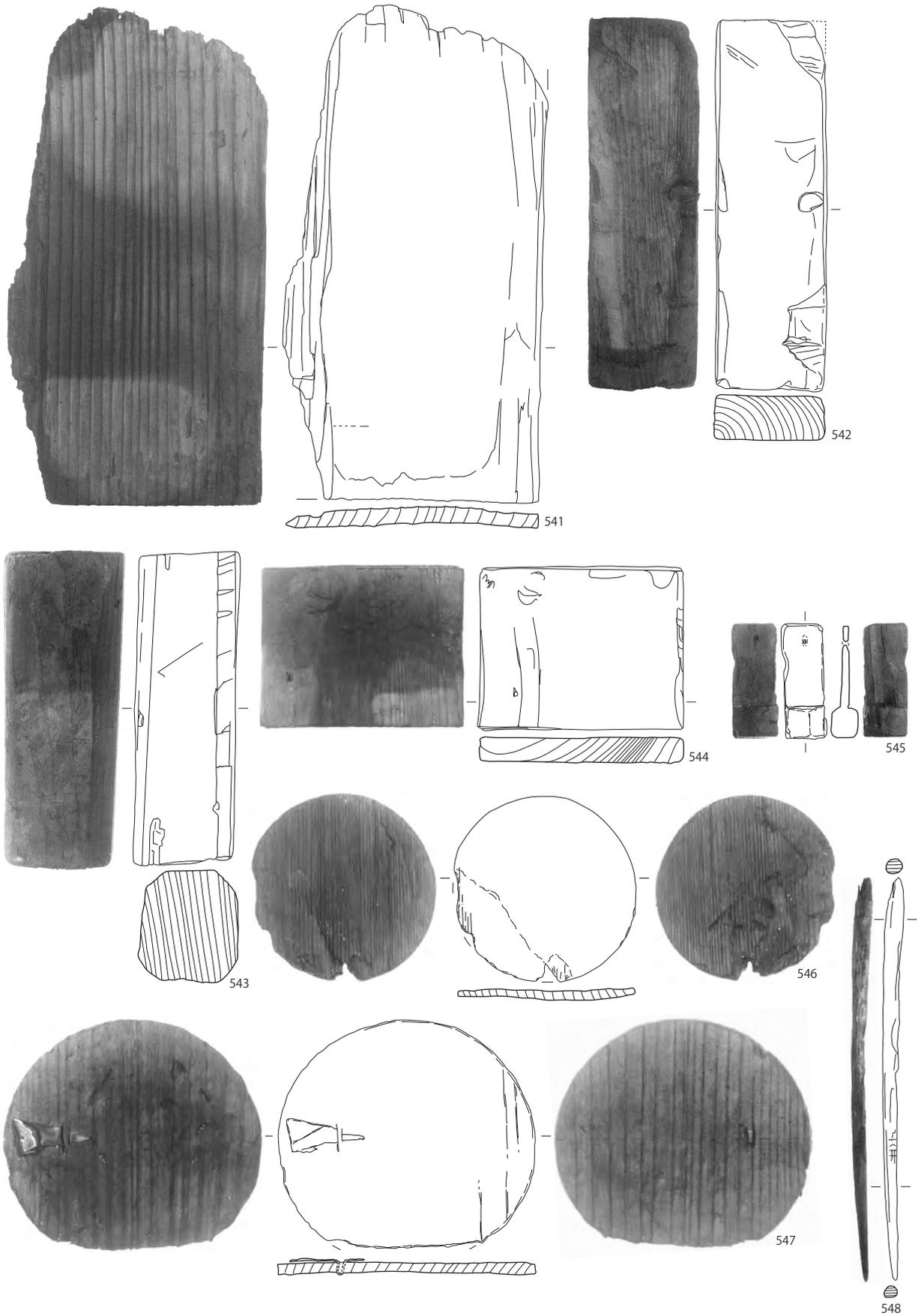
第581図 包含層出土木製品(6)(縮尺:1/3)



第 582 図 包含層出土木製品 (7) (縮尺: 1/3)

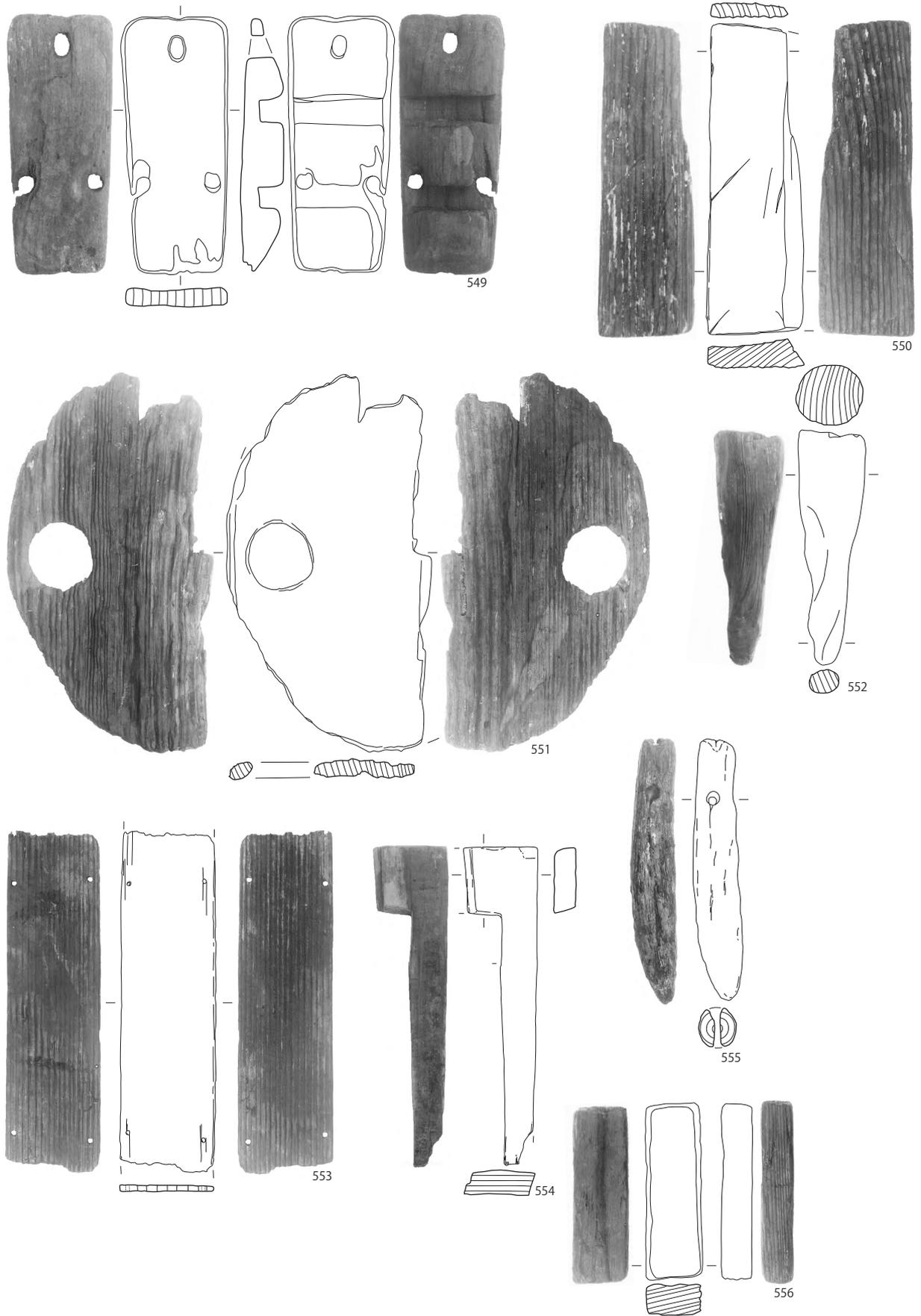


第 583 図 包含層出土木製品 (8) (縮尺 : 1 / 3)



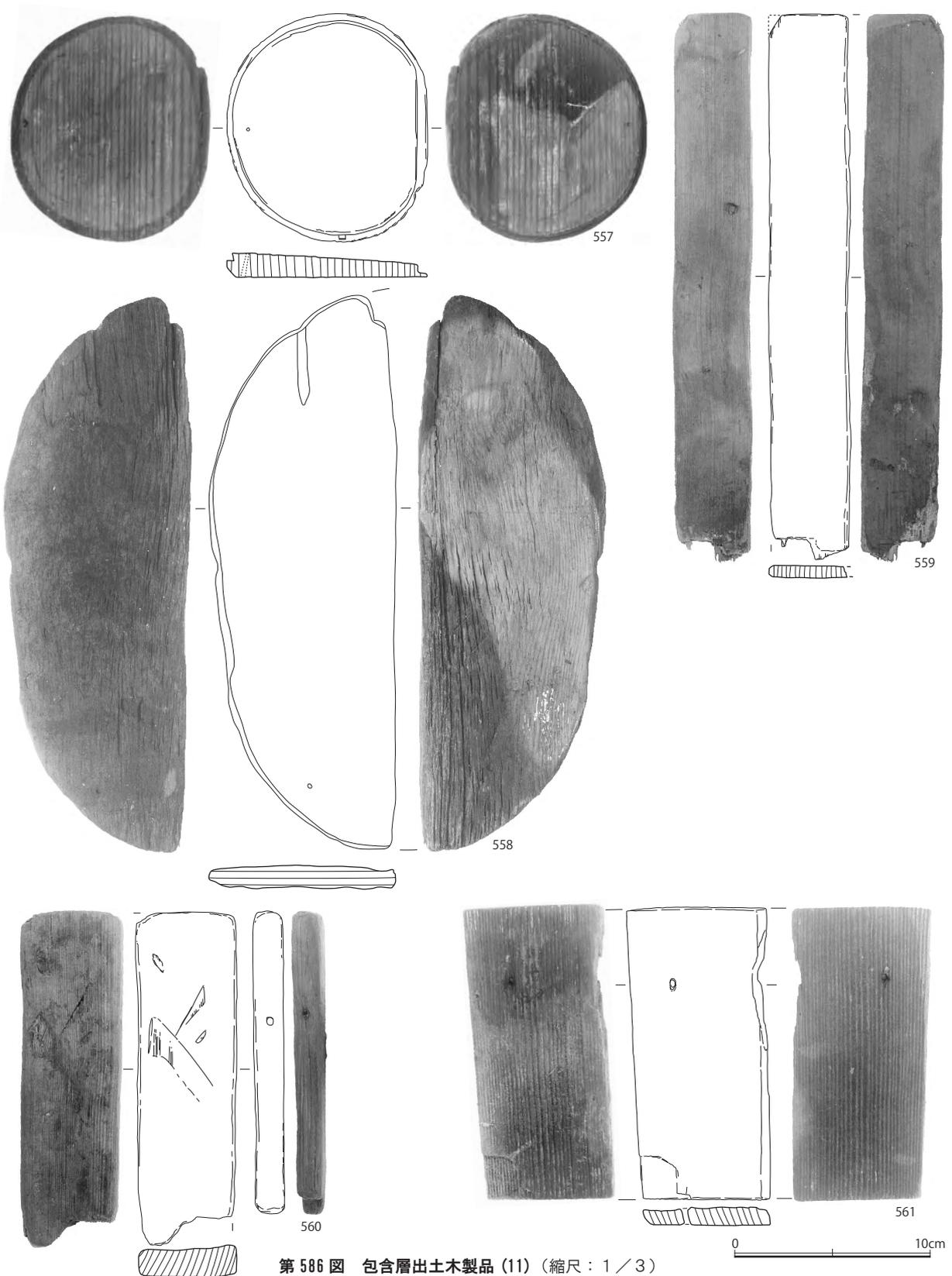
第 584 図 包含層出土木製品 (9) (縮尺: 1/3)

0 10cm

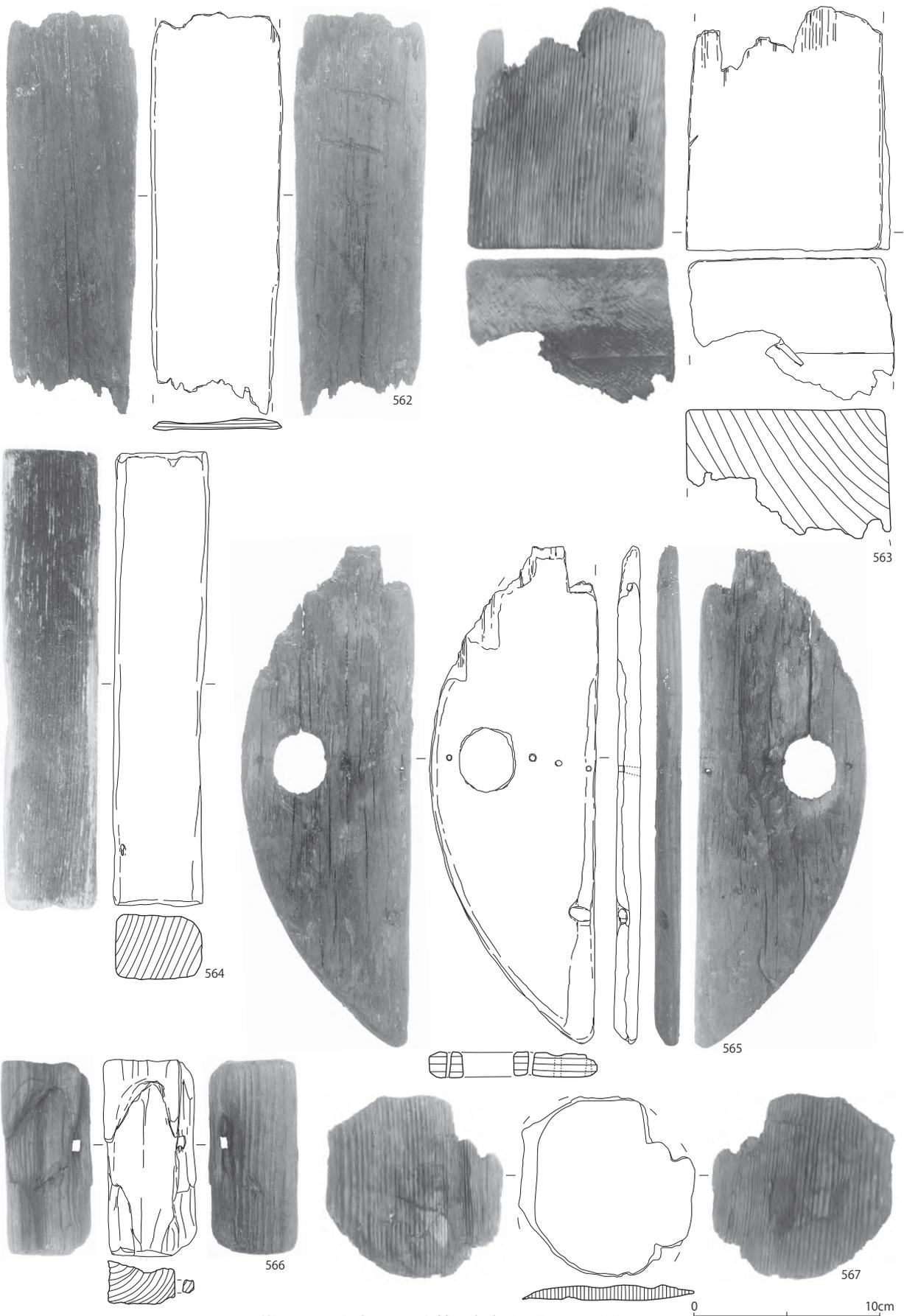


第 585 図 包含層出土木製品 (10) (縮尺 : 1 / 3)

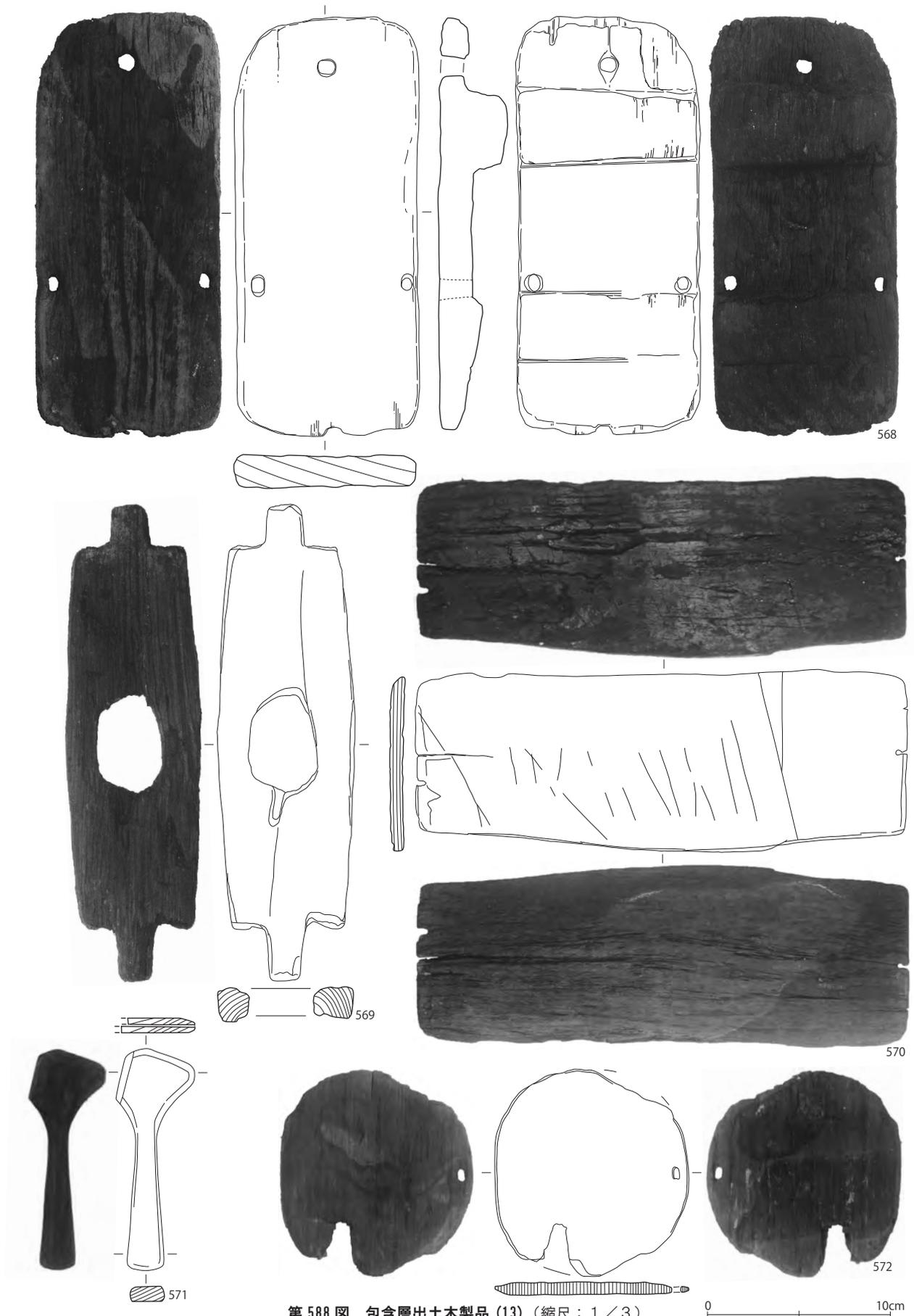
0 10cm



第 586 図 包含層出土木製品 (11) (縮尺 : 1 / 3)

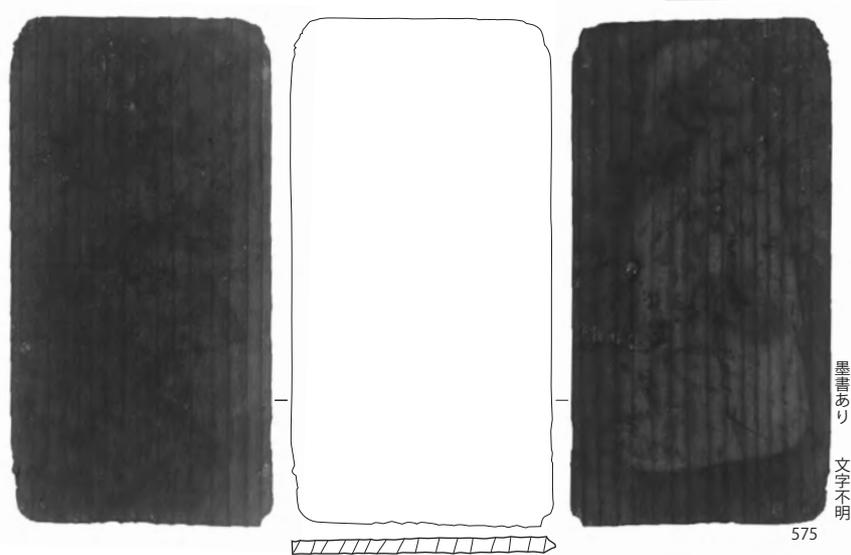
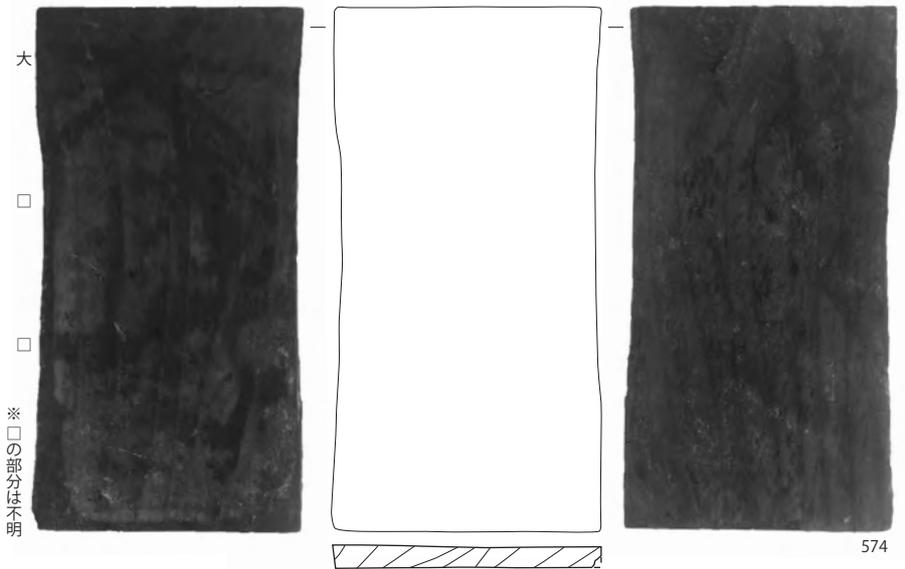
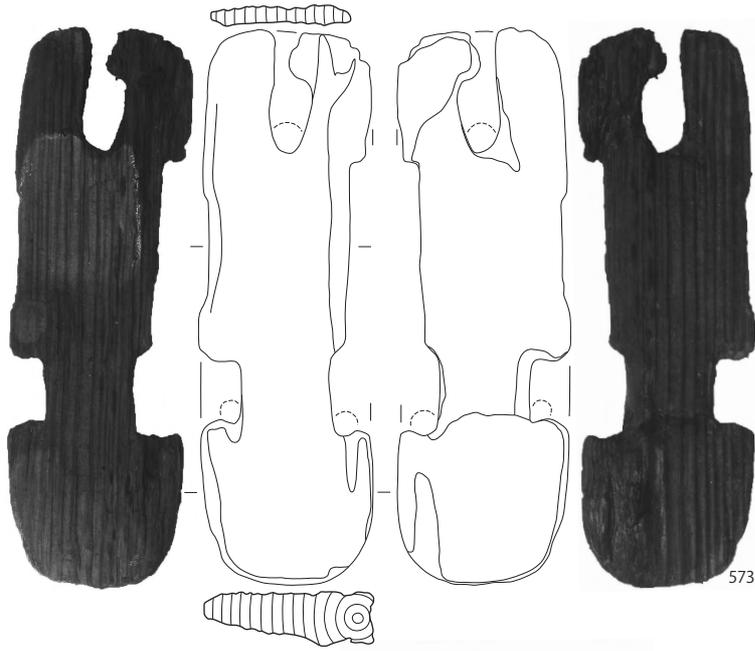


第587図 包含層出土木製品(12) (縮尺: 1/3)



第 588 図 包含層出土木製品 (13) (縮尺: 1/3)

0 10cm



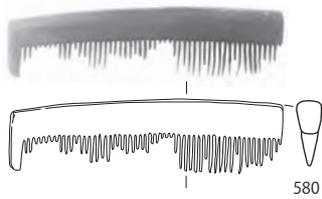
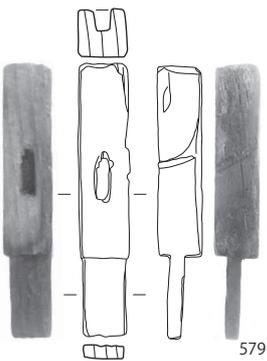
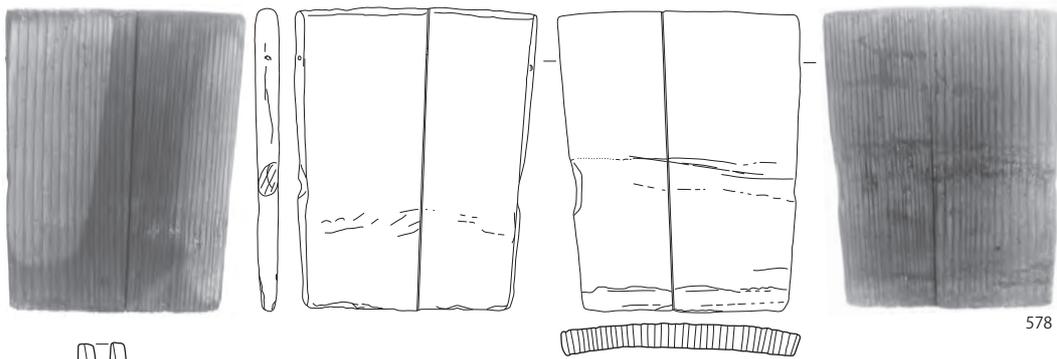
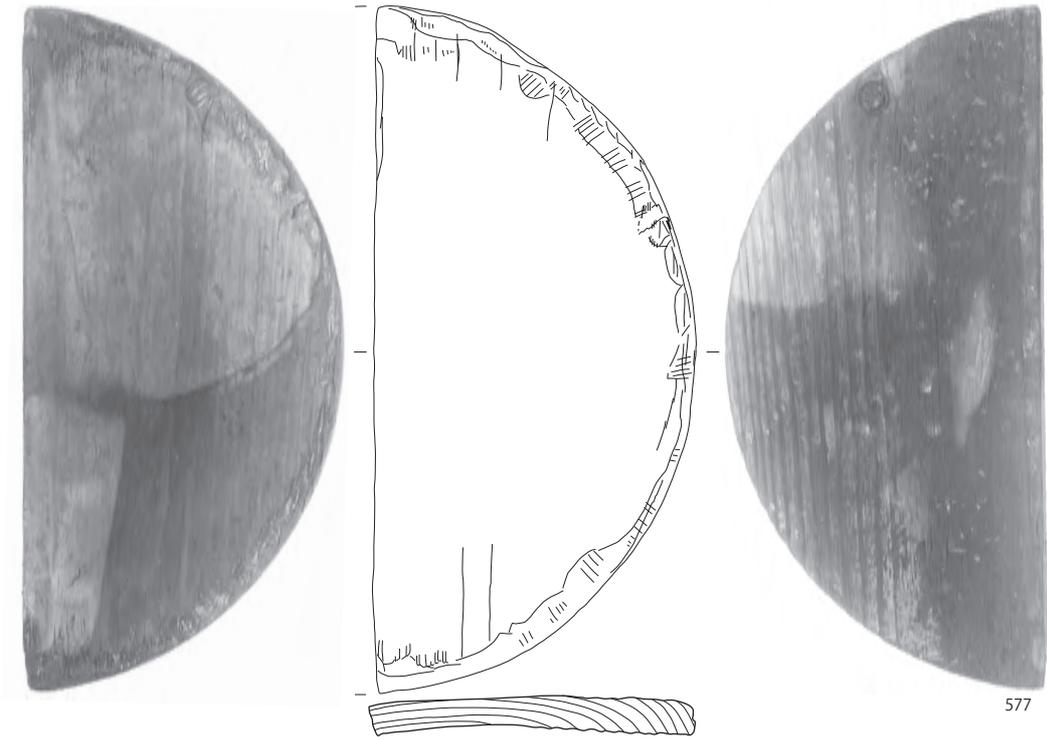
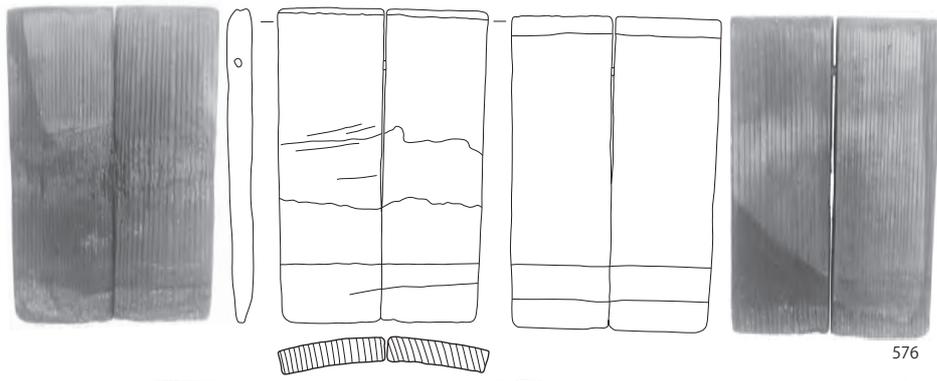
第589図 包含層出土木製品(14) (縮尺: 1/3)

0 10cm

釘孔が4箇所みとめられる。554は棒状の木製品である。555は棒状の木製品である。挿粉木の可能性が考えられる。556は棒状の木製品である。断面形状は方形である。557は曲物の底板である。側板を固定するための木釘が残存している。558は曲物・結物の蓋板または底板である。559～562は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。560は側面に穿孔が1箇所みとめられる。561にも穿孔が1箇所みとめられる。563は角柱状の木製品である。建築部材(柱)の一部と考えられる。564は角柱状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。穿孔が1箇所みとめられる。565は曲物または結物の蓋である。栓をするための孔以外に、把手を固定するための木釘用の小さな穿孔が4箇所みとめられる。566は板状の木製品である。建築部材などの破片の可能性はある。567は曲物の蓋板である。568は角型連歯下駄である。569は板状の木製品である。両端部は突起が作り出され、別材に差し込まれていたと考えられる。中央部には3～4cmの孔が穿たれている。570は板状の木製品である。建築部材廃棄時に切断された一部と考えられる。上下に釘孔が2箇所みとめられる。571は団扇の柄である。572は曲物の蓋板である。573は丸型削り下駄である。574は墨書のある板材である。「大口□」。575は墨書のある板材である。文字は判読不明である。

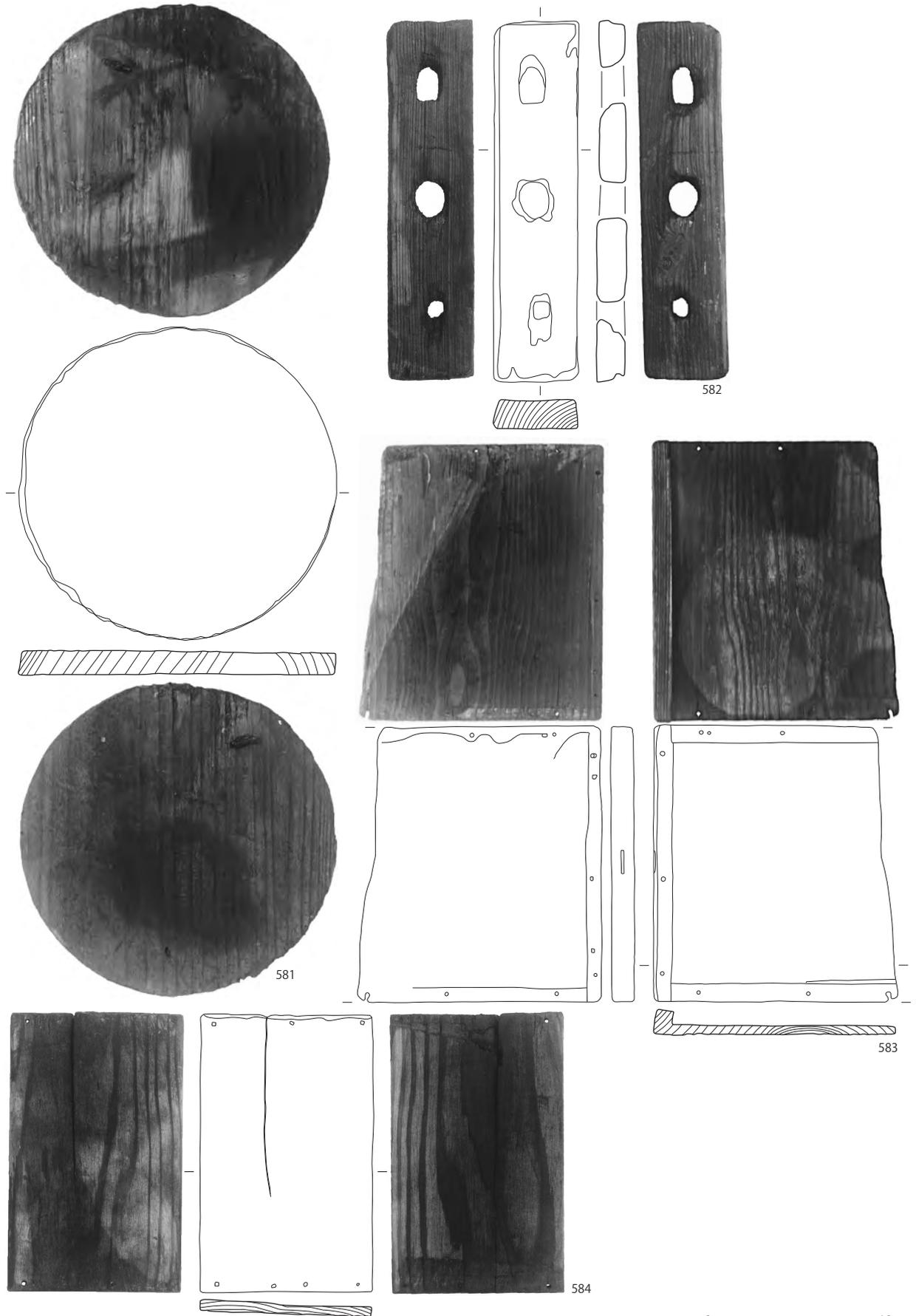
攪乱 (第590～594図)

576は結物桶の樽板である。2枚が木釘でつながった状態である。577は曲物または結物の底板である。578は結物桶の樽板である。2枚が木釘でつながった状態である。579は柄である。580は横櫛である。581は結物の底板である。582は建築部材と考えられる木製品である。3箇所に穿孔されている。583・584は折敷の底板である。583は側板固定用の釘孔が一辺に3箇所ある。585は角型陰卯下駄である。586・587は角型連歯下駄である。588は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。穿孔が1箇所みとめられる。589は篋または杓子である。590は板状の木製品である。建築部材の一部と考えられる。591は曲物・結物の蓋板または底板である。別材とつなぐための木釘が残存している。592は箸である。593は角型連歯下駄である。594は角型削り下駄である。595は角型連歯下駄である。596は曲物・結物の蓋板または底板である。



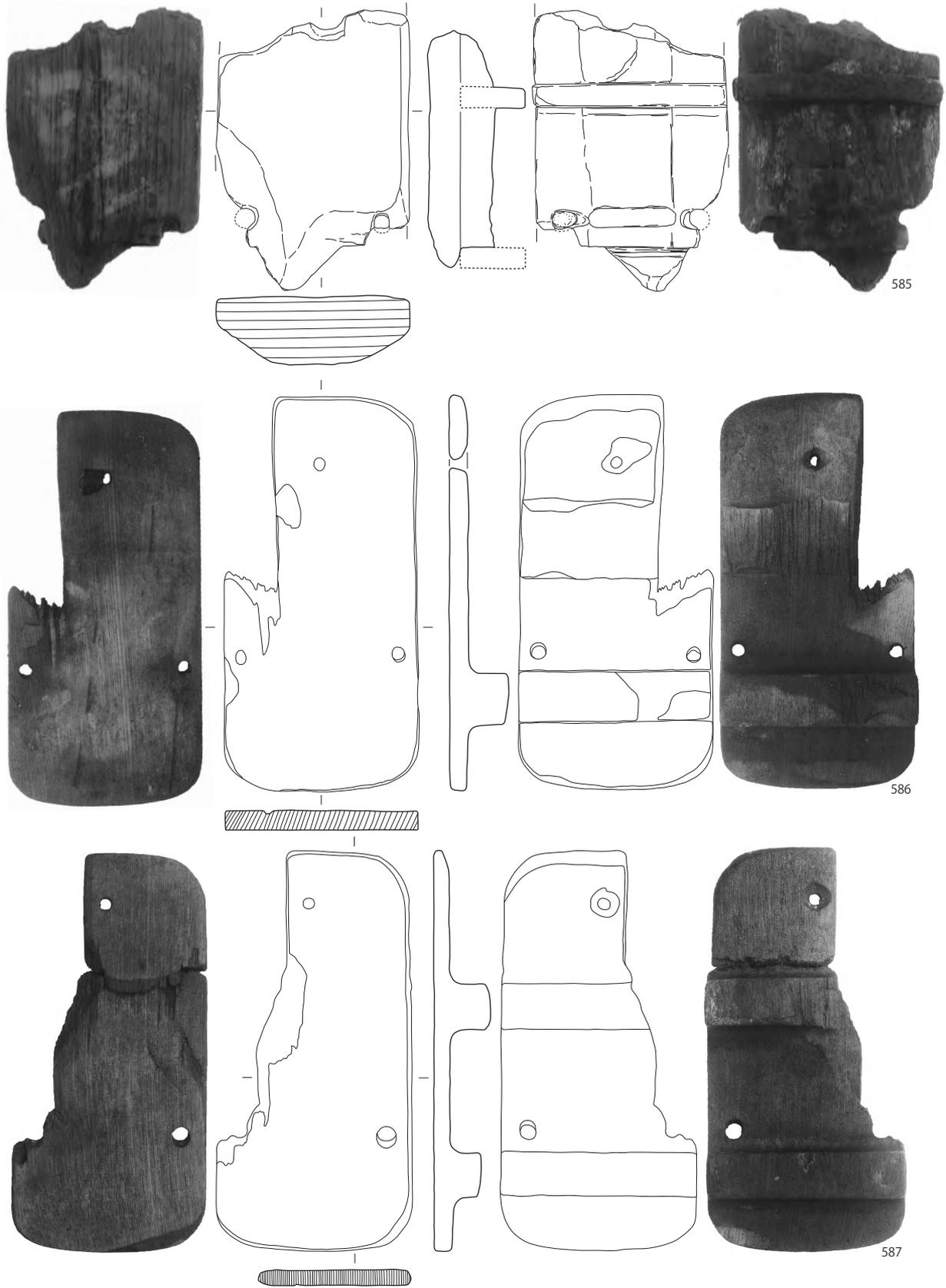
第590図 攪乱出土木製品(1) (縮尺: 1/3)

0 10cm



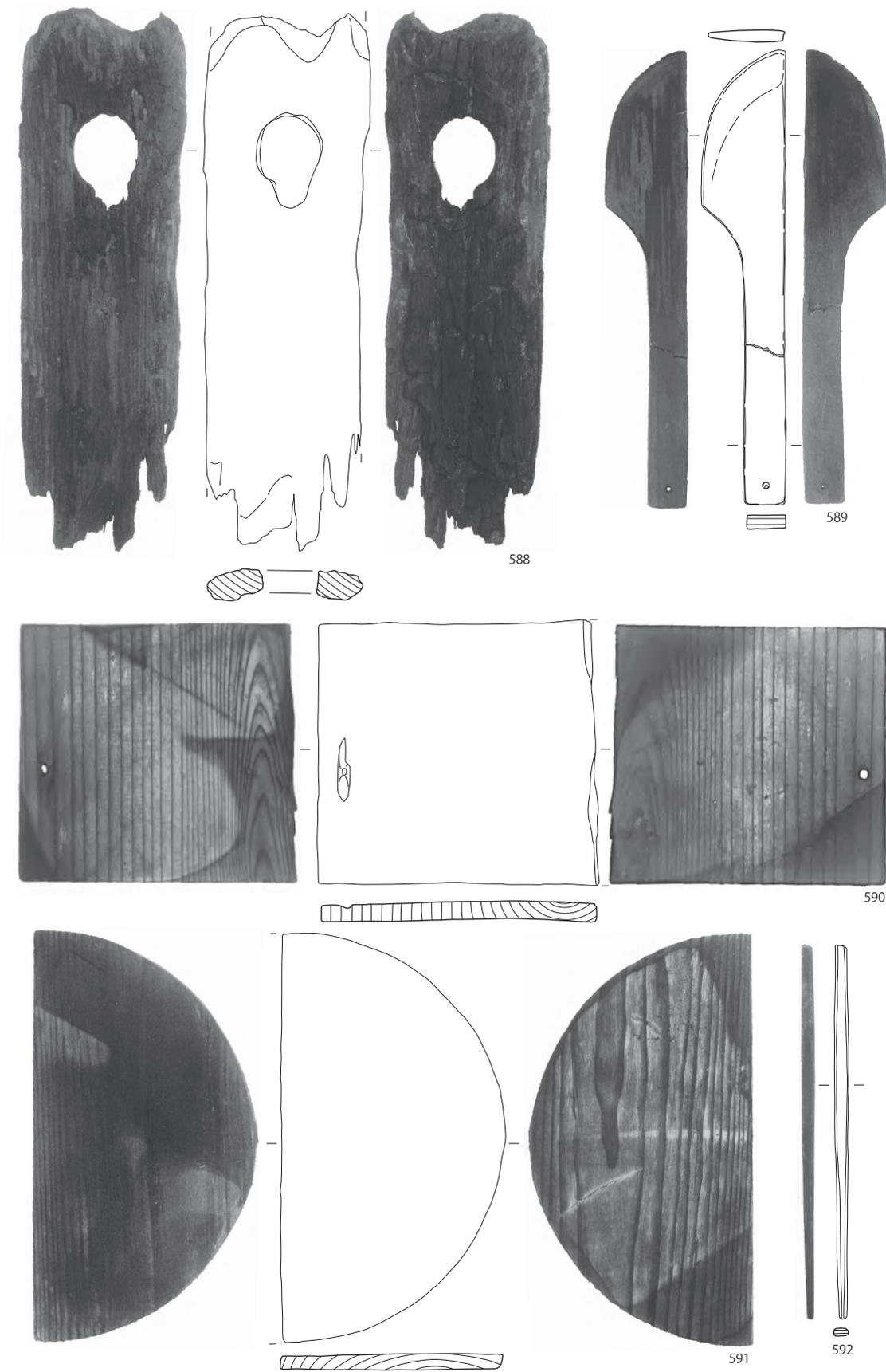
第 591 圖 攪乱出土木製品 (2) (縮尺 : 1 / 3)

0 10cm

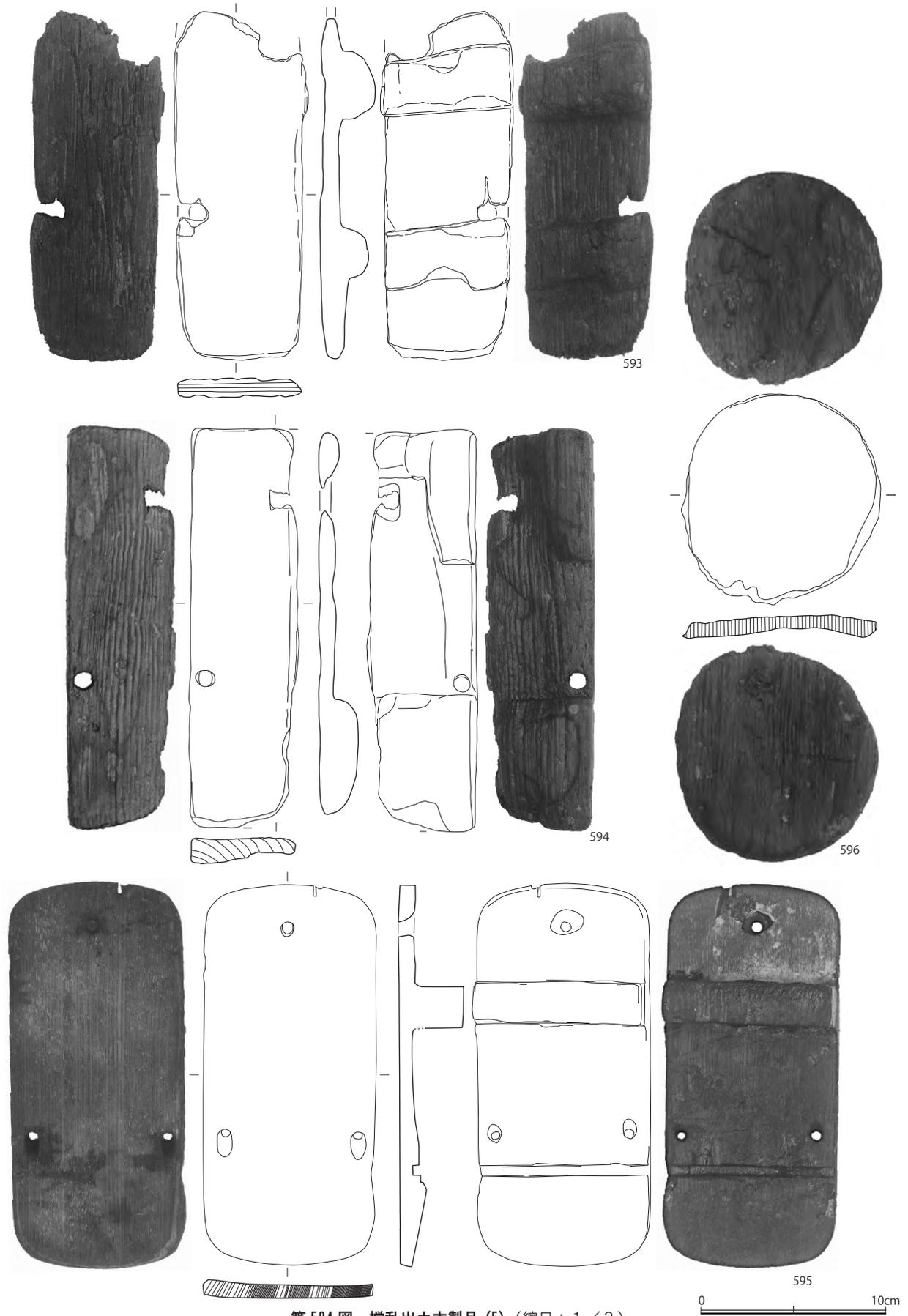


第 592 図 攪乱出土木製品 (3) (縮尺 : 1 / 3)

0 10cm



第 593 図 攪乱出土木製品 (4) (縮尺 : 1 / 3)



第 594 図 攪乱出土木製品 (5) (縮尺：1 / 3)

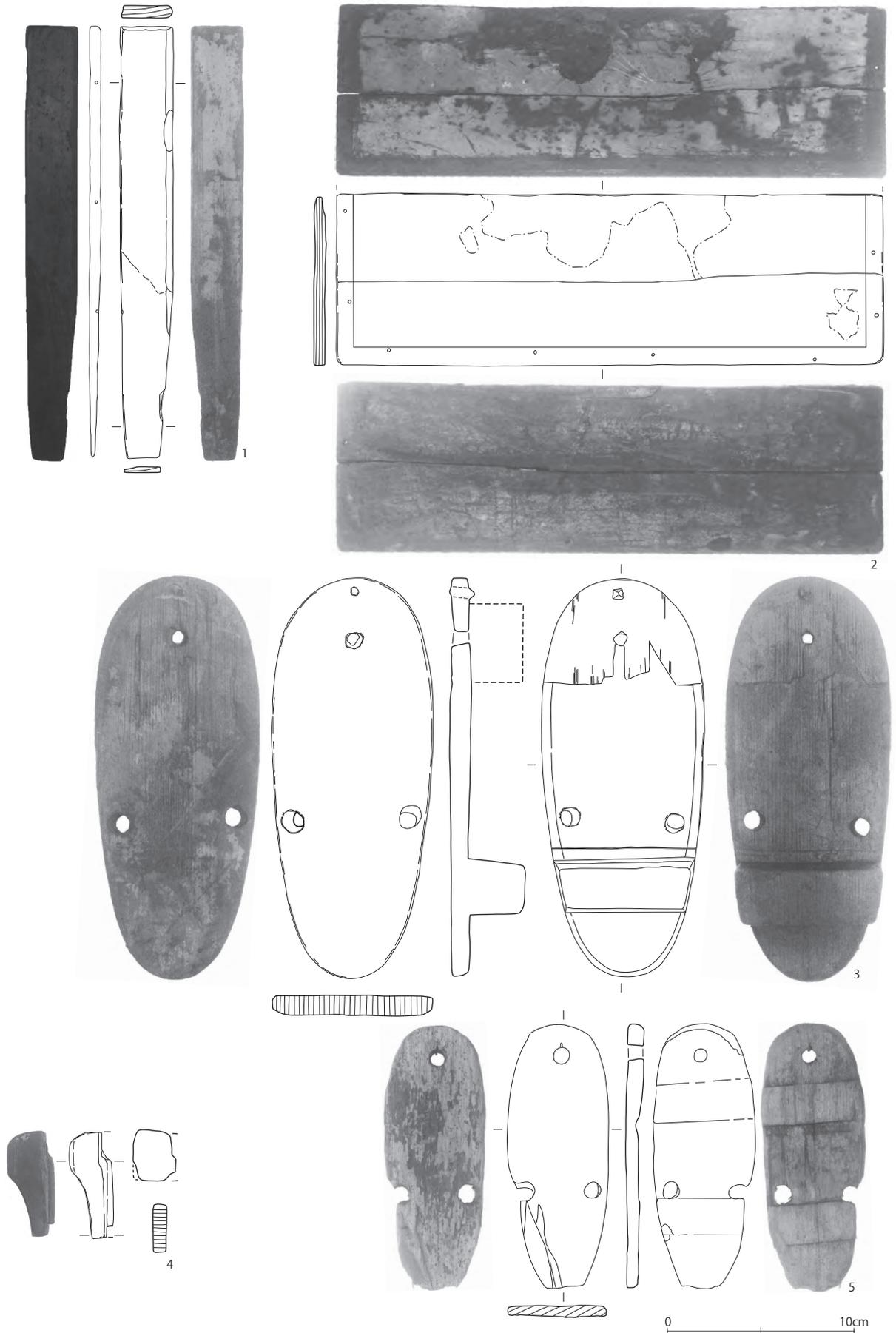
7. 漆製品

第3 遺構面

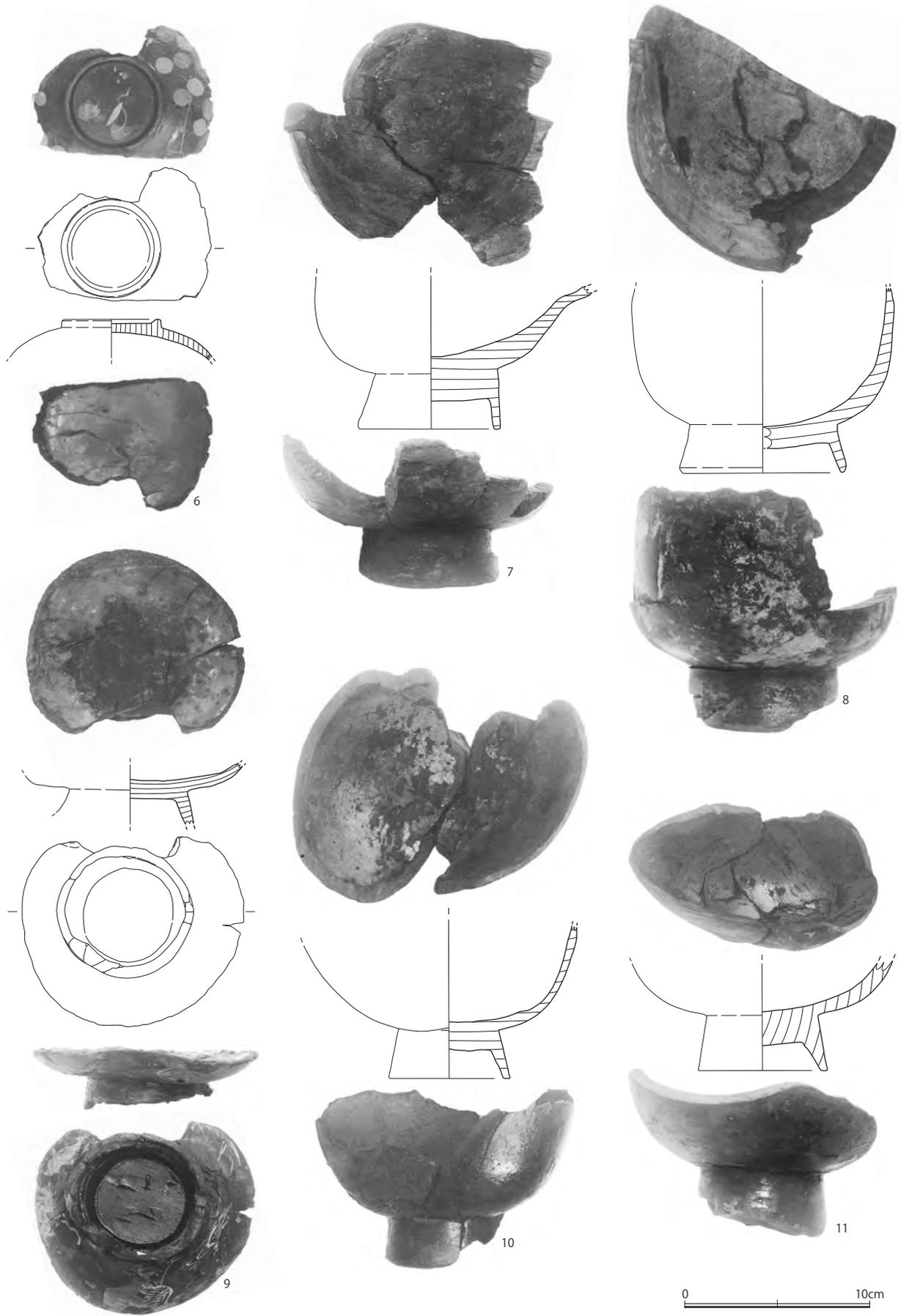
池状遺構（第595～602 図）

1は折敷の底板である。内外面とも黒色の漆が塗られている。側面に木釘が残存している。2は箱物の部材である。内外面とも黒色の漆が塗られ、内面に蒔絵により植物文が描かれている。3は丸型削り下駄である。黒色の漆が塗られている。4は折敷などの脚と思われるものの一部である。黒色の漆が塗られている。5は丸型連歯下駄である。一部に漆が残存している。6は漆器椀の蓋である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色と黄色の漆で植物文が描かれている。7は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。8は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。9は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で松竹梅文と鶴文が描かれている。10は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。11は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。12～15は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。16は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。17～19は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。20は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。高台内に文様が描かれている。21は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。22～24は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。25は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で梅花文が描かれている。26は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で雁文が描かれている。27は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で草花文が描かれている。28は漆器椀である。内面には黒色の漆の地に赤色の漆で鳥文、外面にも黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。29・30は横櫛である。30は黒色の漆の地に蒔絵により流水文が描かれている。31は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。32は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られていたと考えられるが、漆が残存しておらず不明である。33は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。内面は炭化し、炭化は高台の外側まで達している。34は漆器椀である。内面には赤色の漆が残存しているが、外面は不明である。

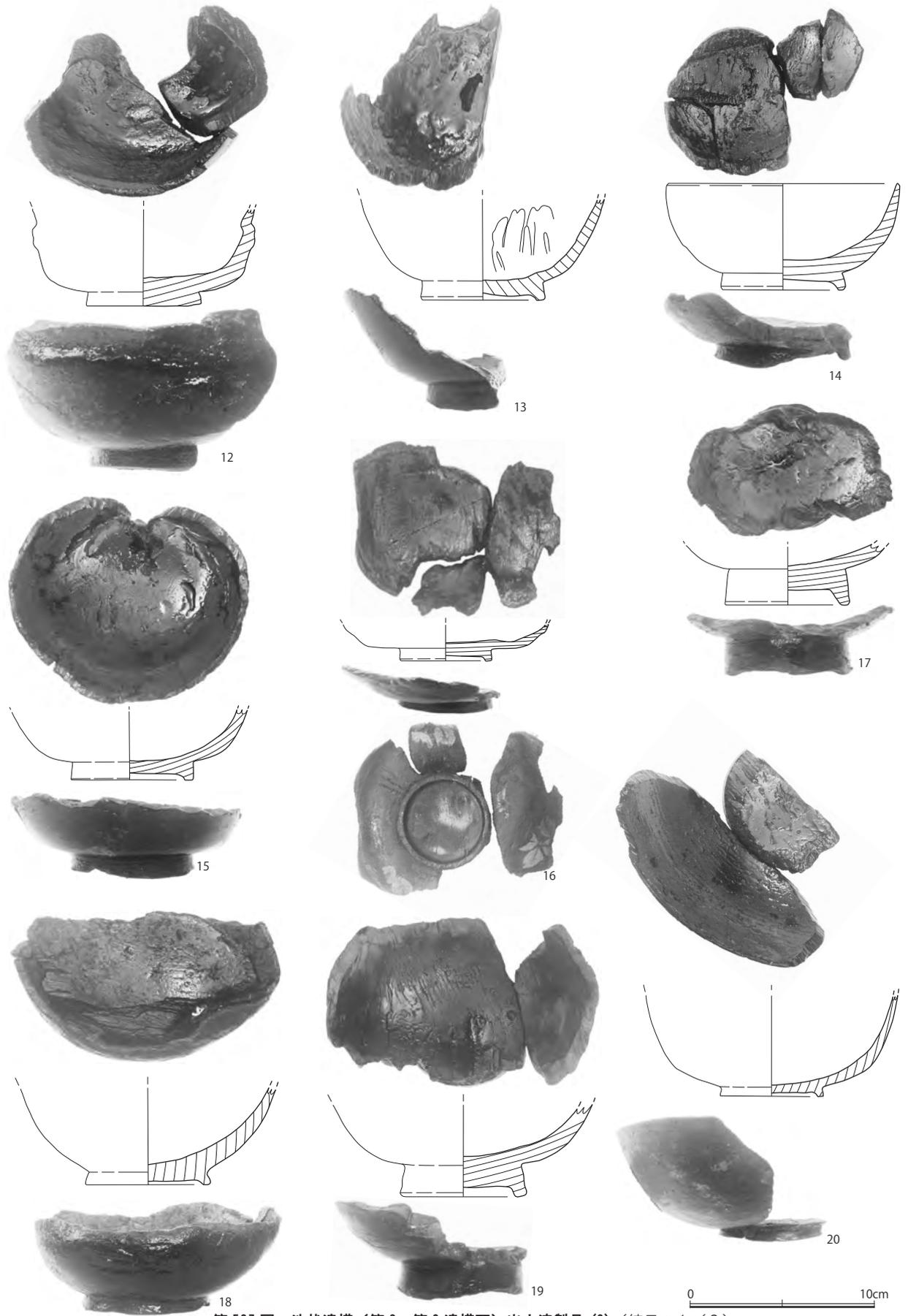
35・36は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。37は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。38は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。内面は炭化している。39は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。高台内に方形の刻みがみられる。40は漆器椀である。内外面とも赤色の漆が塗られ、外面には黒色の漆で鶴文と笹文が描かれている。41は漆器椀である。内外面とも赤色の漆が塗られ、外面には黒色の漆で家紋「丸ノ中右三ツ巴」が2方向に描かれている。42は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。43は漆



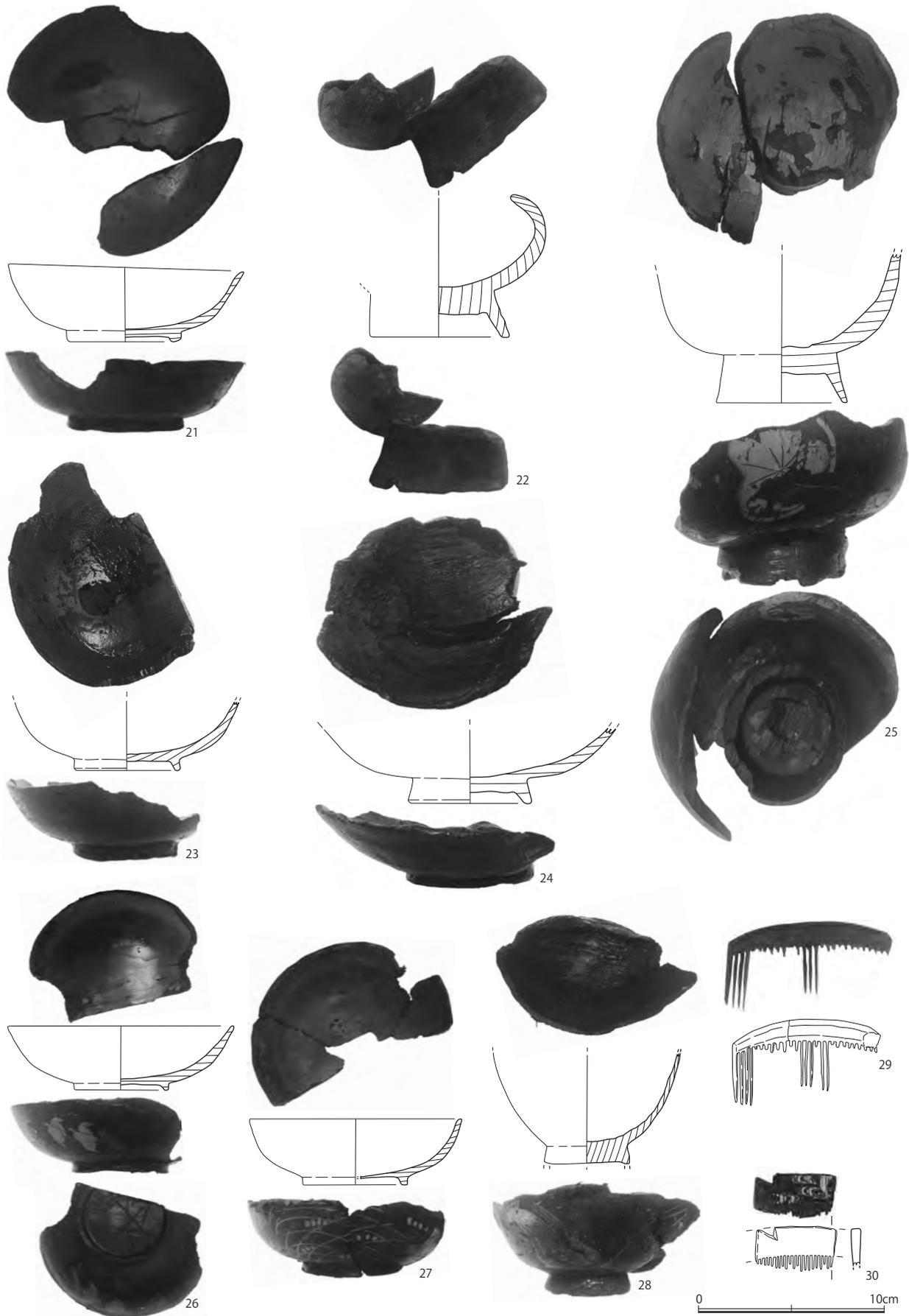
第595図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（1）（縮尺：1/3）



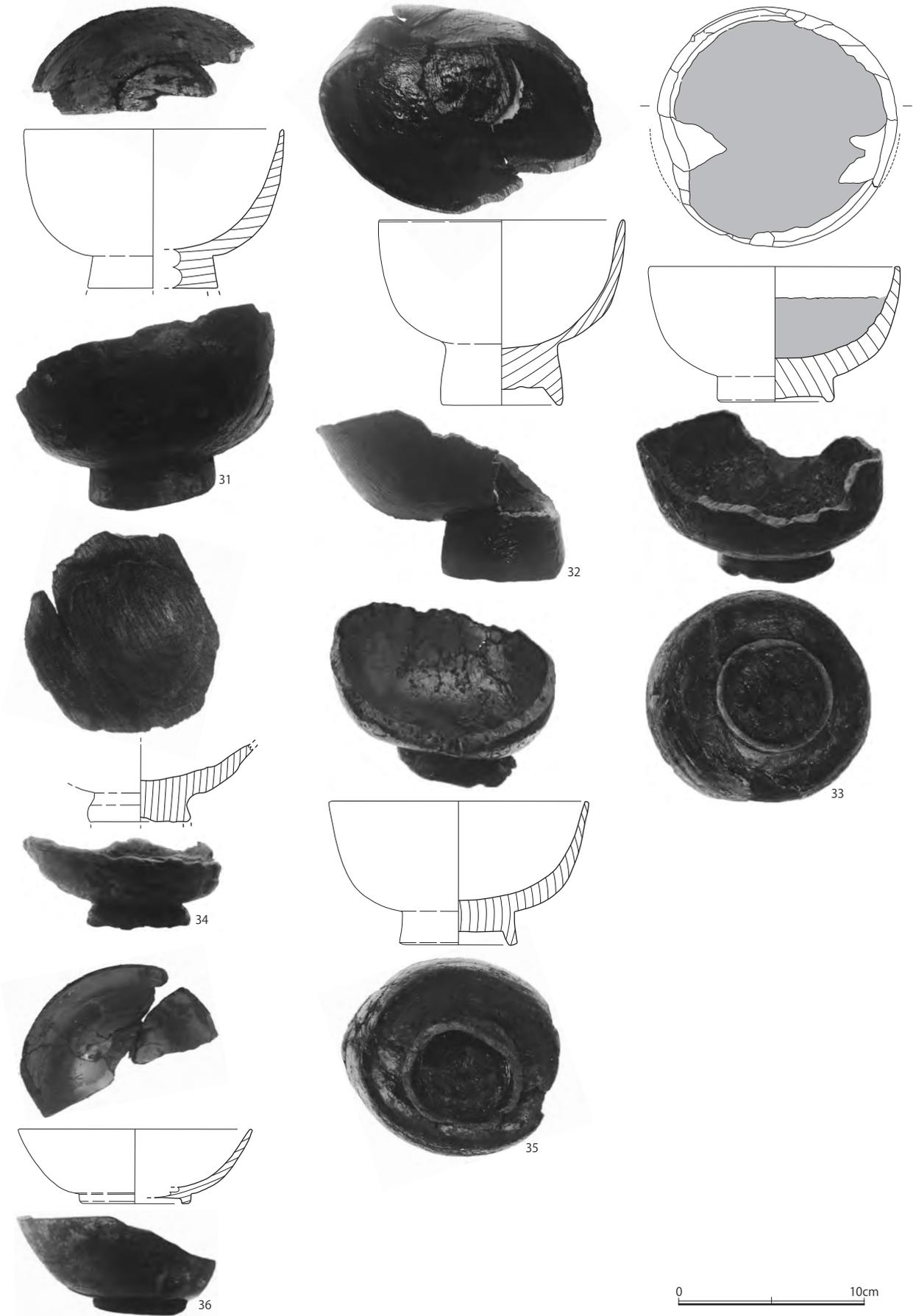
第596図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（2）（縮尺：1/3）



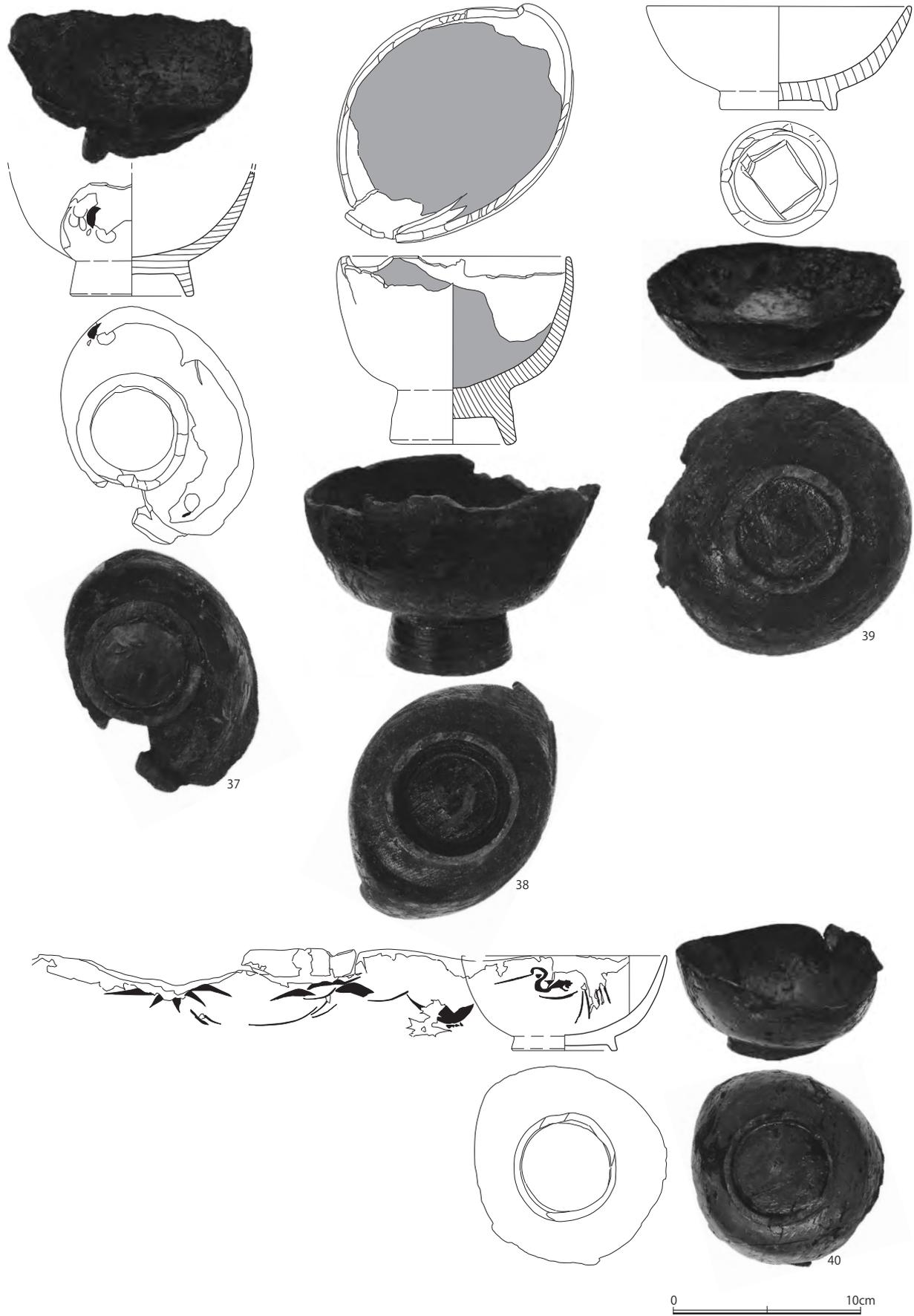
第597図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（3）（縮尺：1/3）



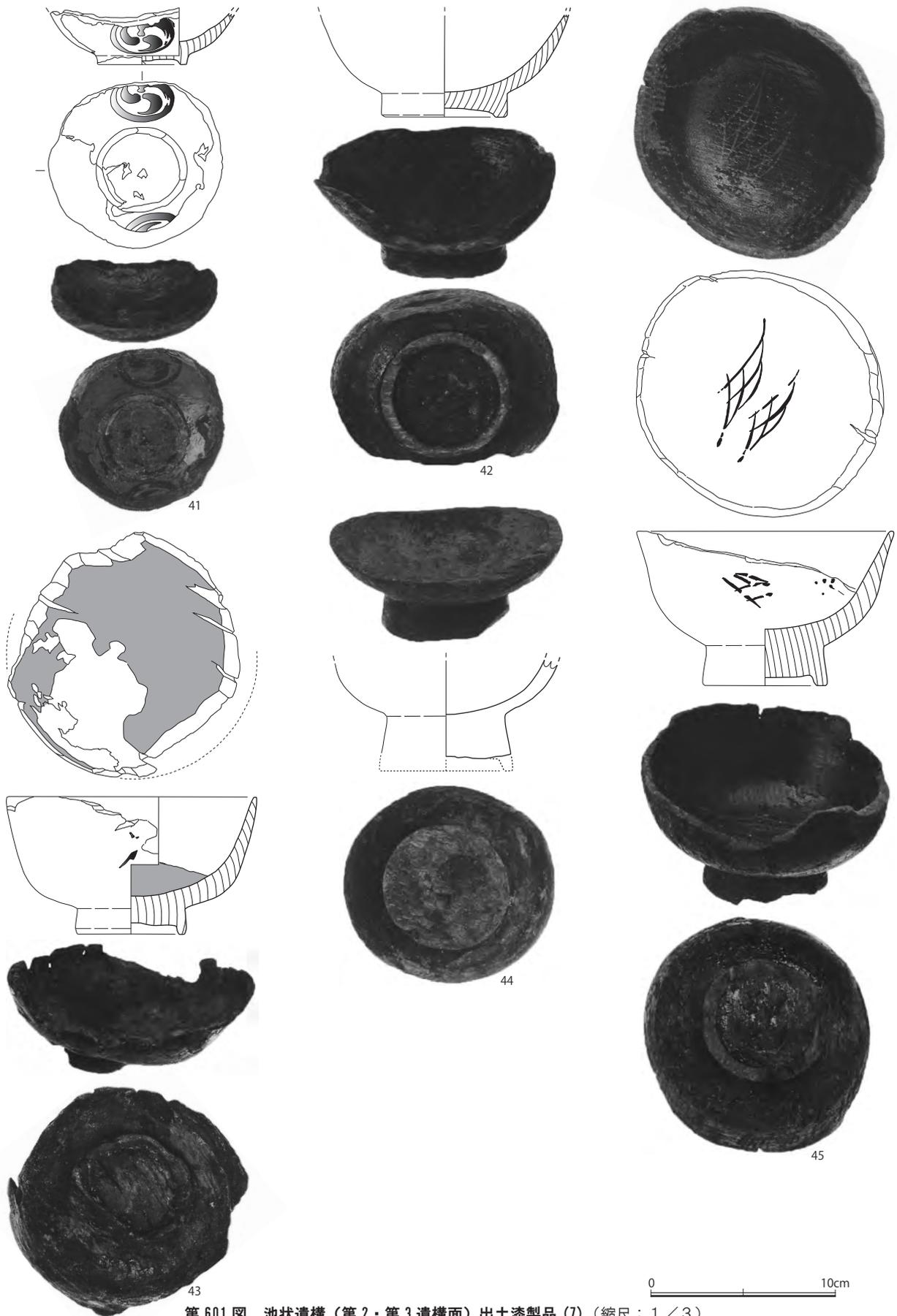
第598圖 池状遺構(第2・第3遺構面)出土漆製品(4)(縮尺:1/3)



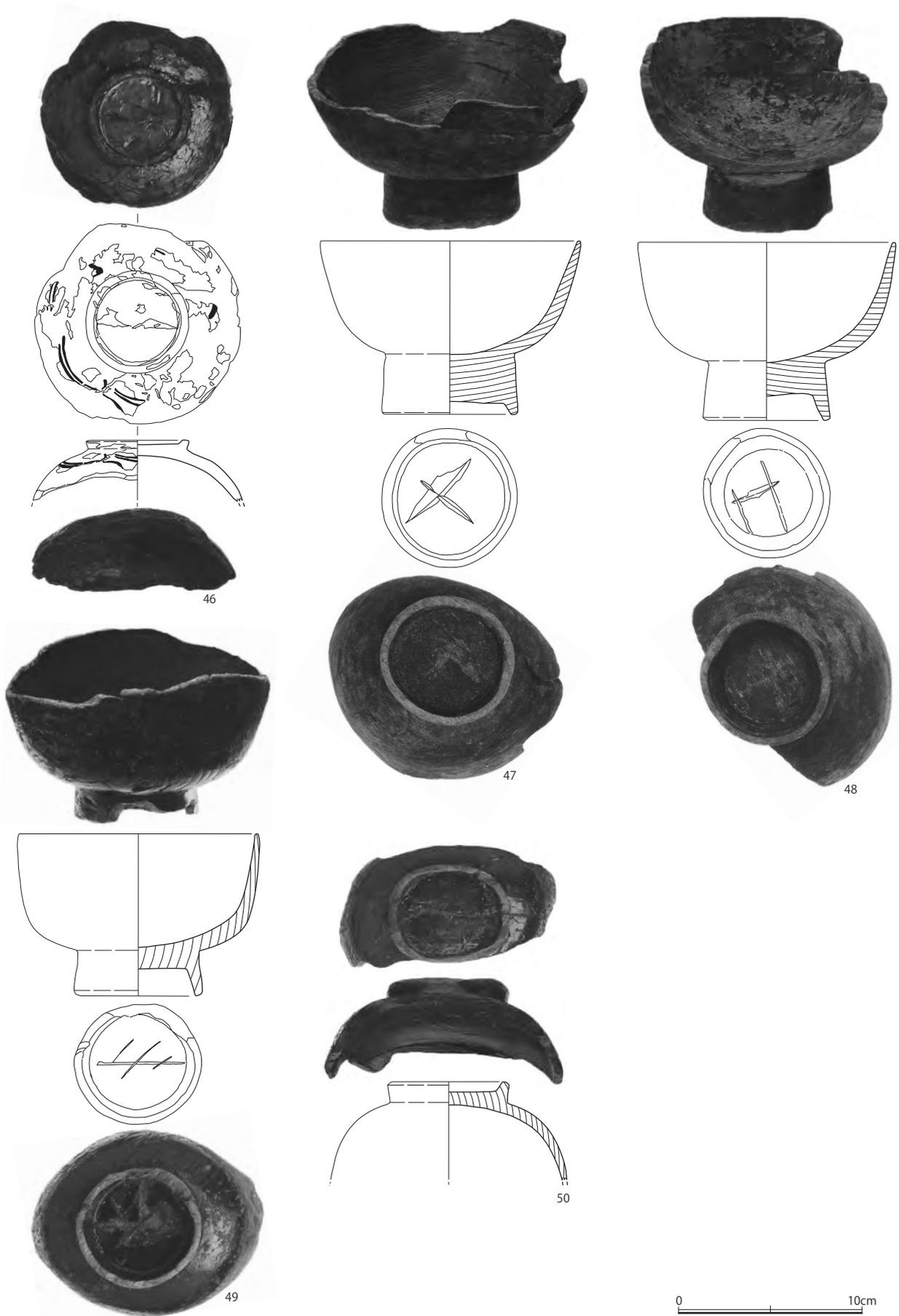
第599図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（5）（縮尺：1/3）



第600図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（6）（縮尺：1/3）



第601図 池状遺構（第2・第3遺構面）出土漆製品（7）（縮尺：1/3）



第 602 図 池状遺構（第 2・第 3 遺構面）出土漆製品（8）（縮尺：1/3）

器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。内面は炭化している。44は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。45は漆器椀である。内外面とも黒色の漆が塗られ、外面と見込には赤色の漆で文様が描かれている。46は漆器椀の蓋である。内外面とも赤色の漆が塗られ、外面には黒色の漆で文様が描かれている。47は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。高台内に十字状の刻みがみられる。48は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。高台内にキズがみられる。49は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。高台内に刻み目がみられる。50は漆器椀の蓋である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。

第2 遺構面

片山家屋敷地内

SK156 (第603図)

51は漆器椀の蓋である。内外面とも赤色の漆が塗られている。52は漆器椀である。内面には黒色の漆の後に赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。

SK186 (第604図)

53は漆器椀である。内外面とも黒色の漆の後に赤色の漆が塗られている。

SK187 (第605図)

54は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。

太田家屋敷地内

SK45 (第606図)

55は折敷の底板である。内外面とも黒色の漆が塗られている。内面の側板がつく部分と外面の脚がつく部分は白木のままである。

第1 遺構面

A 下層

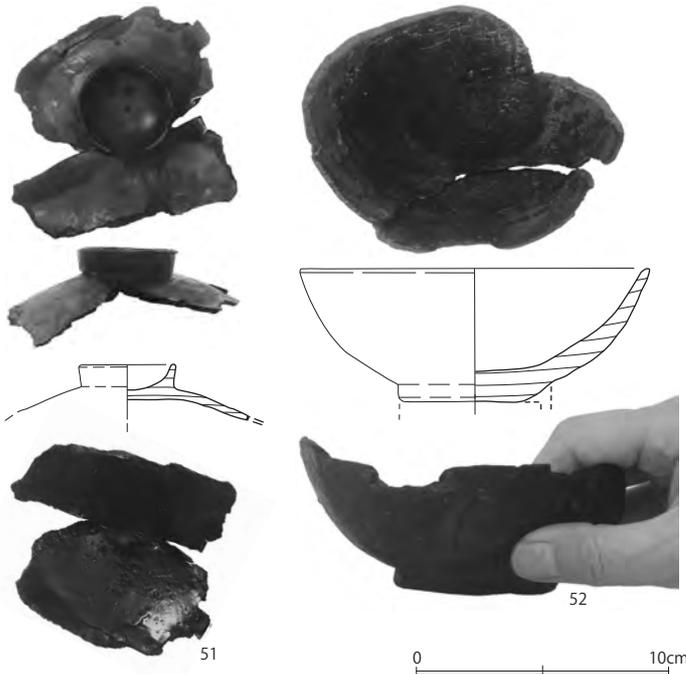
池状遺構 (第607・608図)

56・57は漆器椀である。内外面とも黒色の漆が塗られている。58は漆器椀である。内外面とも茶色の漆が塗られている。59は漆器椀の蓋である。内外面とも赤色の漆が塗られている。蒔絵により外面に丸文、内面に文字が描かれている。口縁端部にも金が施されている。60は折敷の底板である。側板を留めるための釘孔が2箇所残存している。内面に黒色の漆が塗られている。

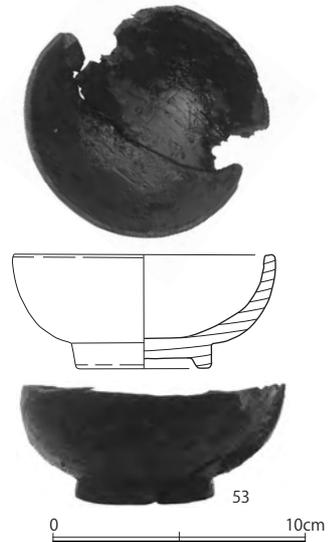
61は折敷の底板である。側板を留めるための釘孔が1辺に4箇所みとめられる。内面に黒色の漆が塗られている。62は箱物の蓋である。外面には黒色の漆の地に蒔絵により鶴文・亀文・流水文を描き、鶴文・亀文は赤色の漆で塗られている。内面は赤色の漆で塗られている。

石組み溝3 (第609図)

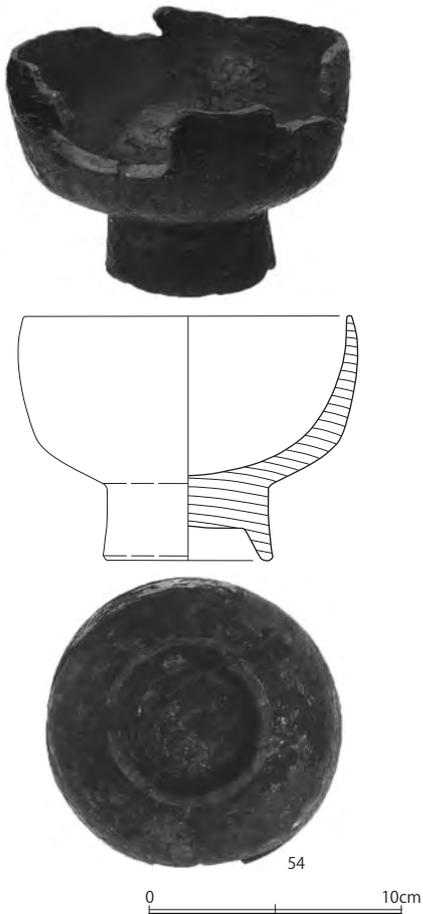
63は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。



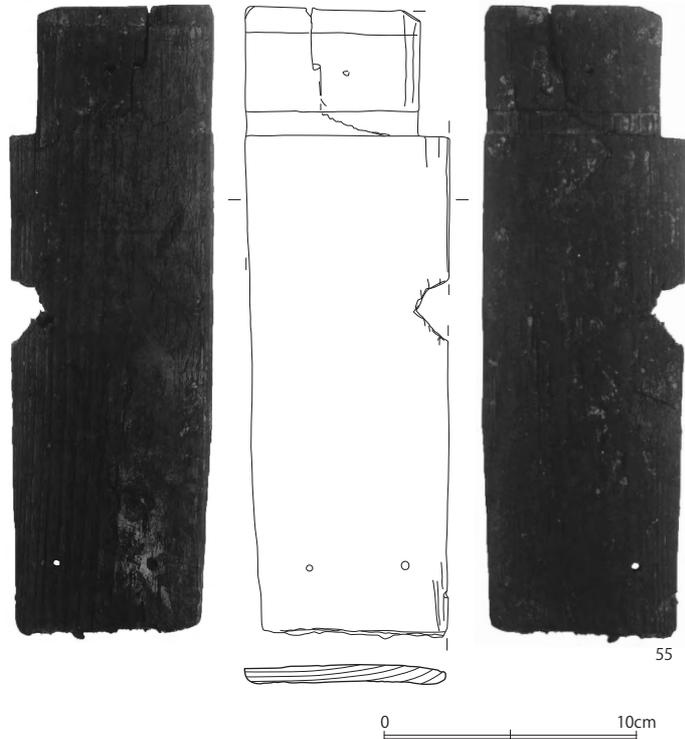
第603図 片山家屋敷地内 SK156 出土漆製品 (縮尺: 1/3)



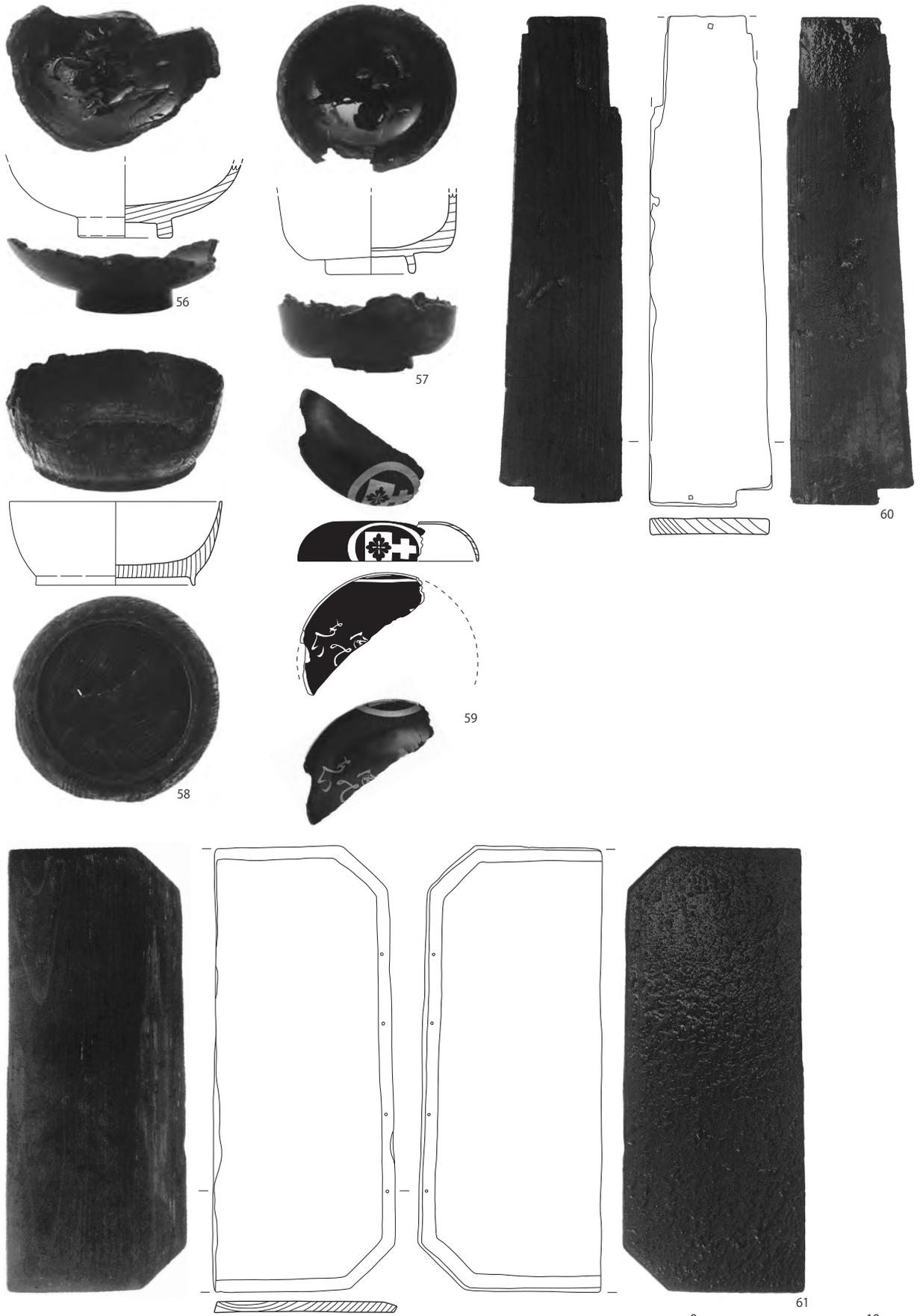
第604図 片山家屋敷地内 SK186 出土漆製品 (縮尺: 1/3)



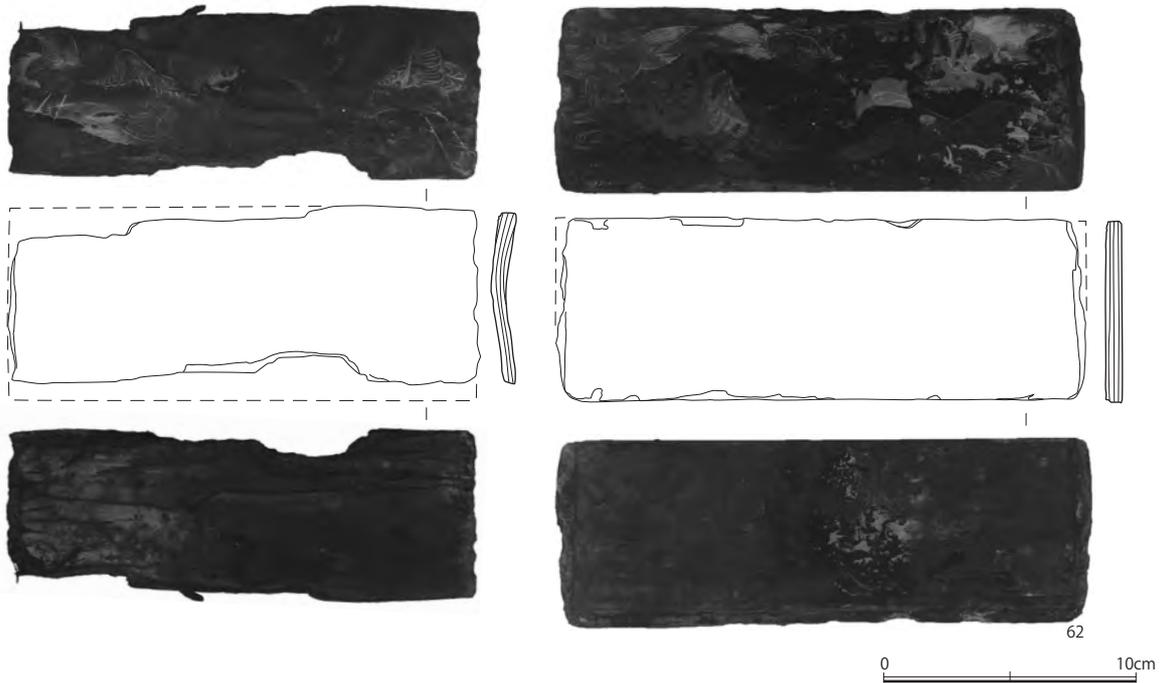
第605図 片山家屋敷地内 SK187 出土漆製品 (縮尺: 1/3)



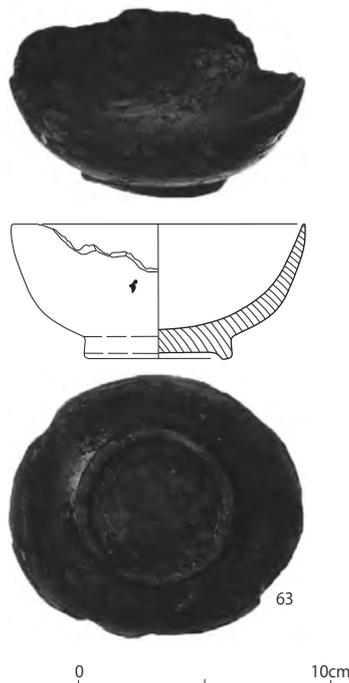
第606図 太田家屋敷地内 SK45 出土漆製品 (縮尺: 1/3)



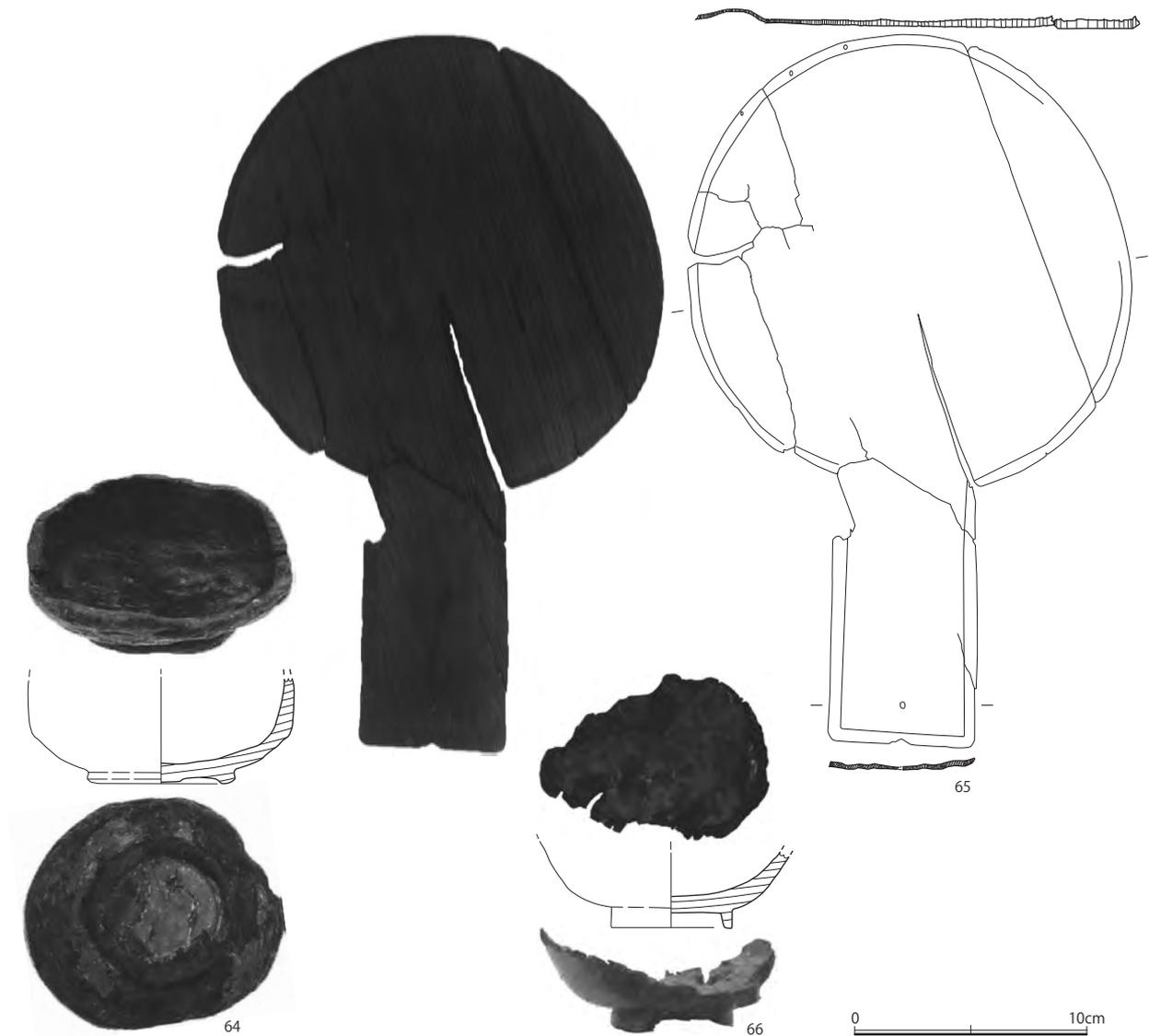
第607図 池状遺構（第1遺構面）出土漆製品（1）（縮尺：1/3）



第 608 図 池状遺構（第 1 遺構面）出土漆製品 (2) (縮尺：1 / 3)



第 609 図 石組み溝 3 出土漆製品
(縮尺：1 / 3)



第610図 石組み溝5出土漆製品（縮尺：1/3）

石組み溝5（第610図）

64は漆器碗である。外面には赤色の漆が塗られているが、剥離が著しい。内面の漆は剥離している。65は柄鏡箱の部材である。内外面とも赤彩が施されている。側板がつく部分は白木のままで、釘孔が2箇所みとめられ、木釘が2箇所残存している。柄の部分に墨書と穿孔が1箇所みられる。

66は漆器碗である。内外面とも黒色の漆の後に赤色の漆が塗られている。

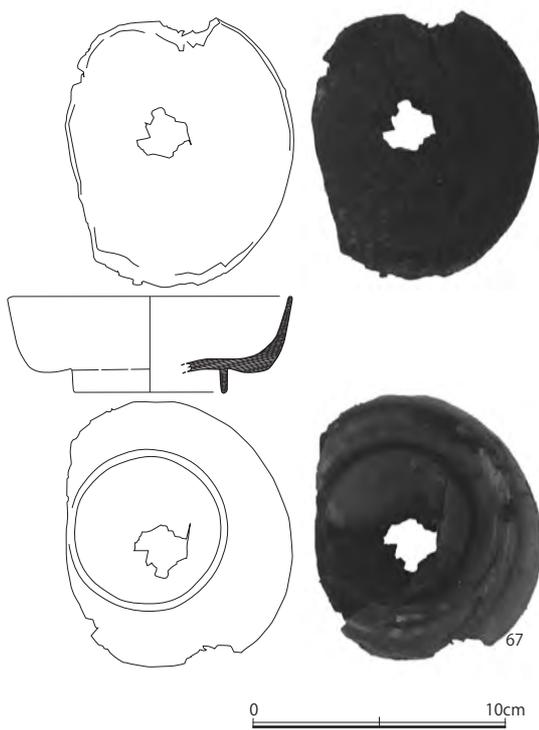
蜂須賀家屋敷地内

遺物溜り17（第611図）

67は漆器碗である。外面は赤色の漆が塗られているが、内面は漆膜が遺存していない。

包含層（第612～618図）

68は折敷などの側板である。釘孔の痕跡が4箇所みとめられる。赤色の漆が塗られている。69は

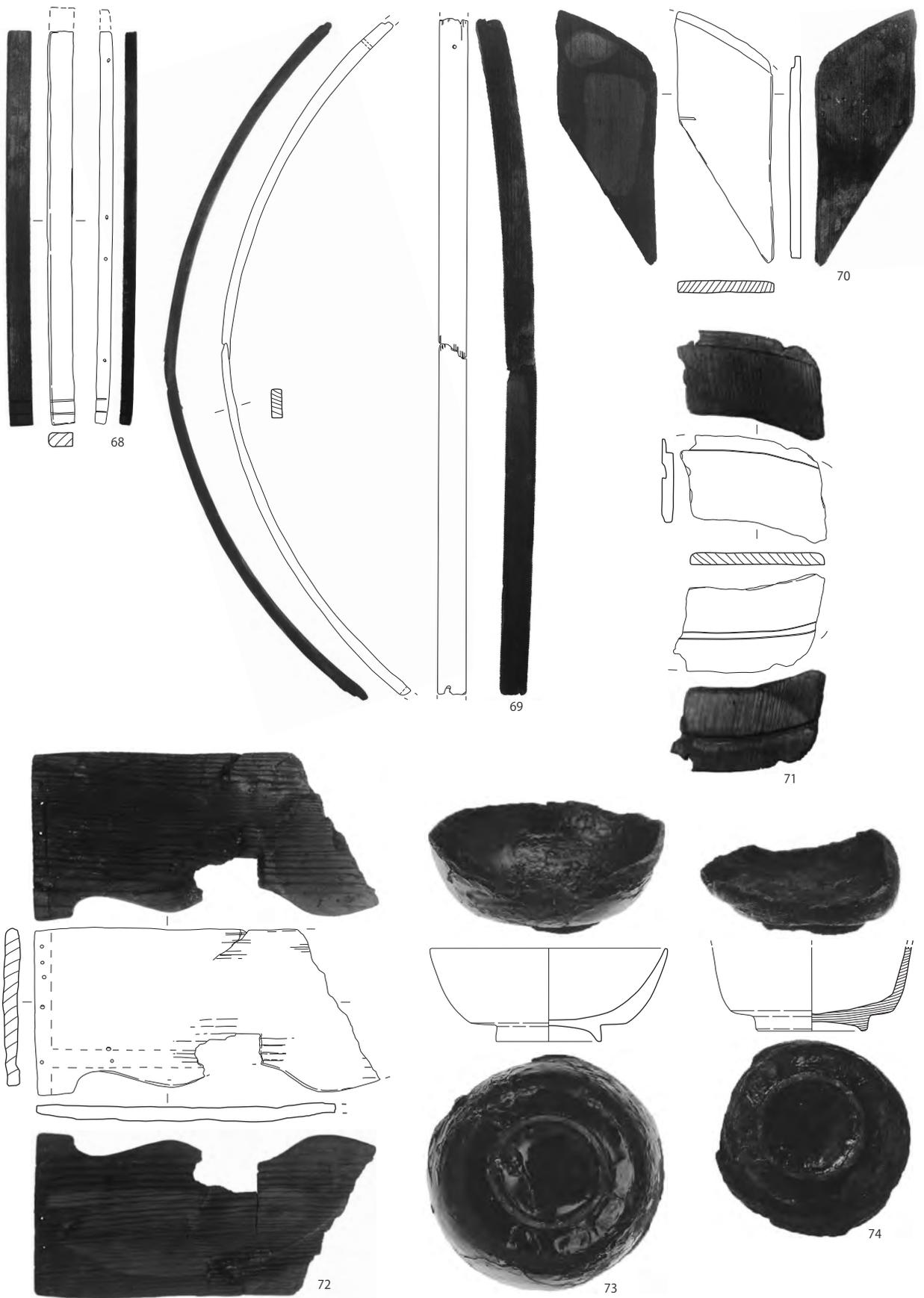


第611図 蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り17出土漆製品
(縮尺：1/3)

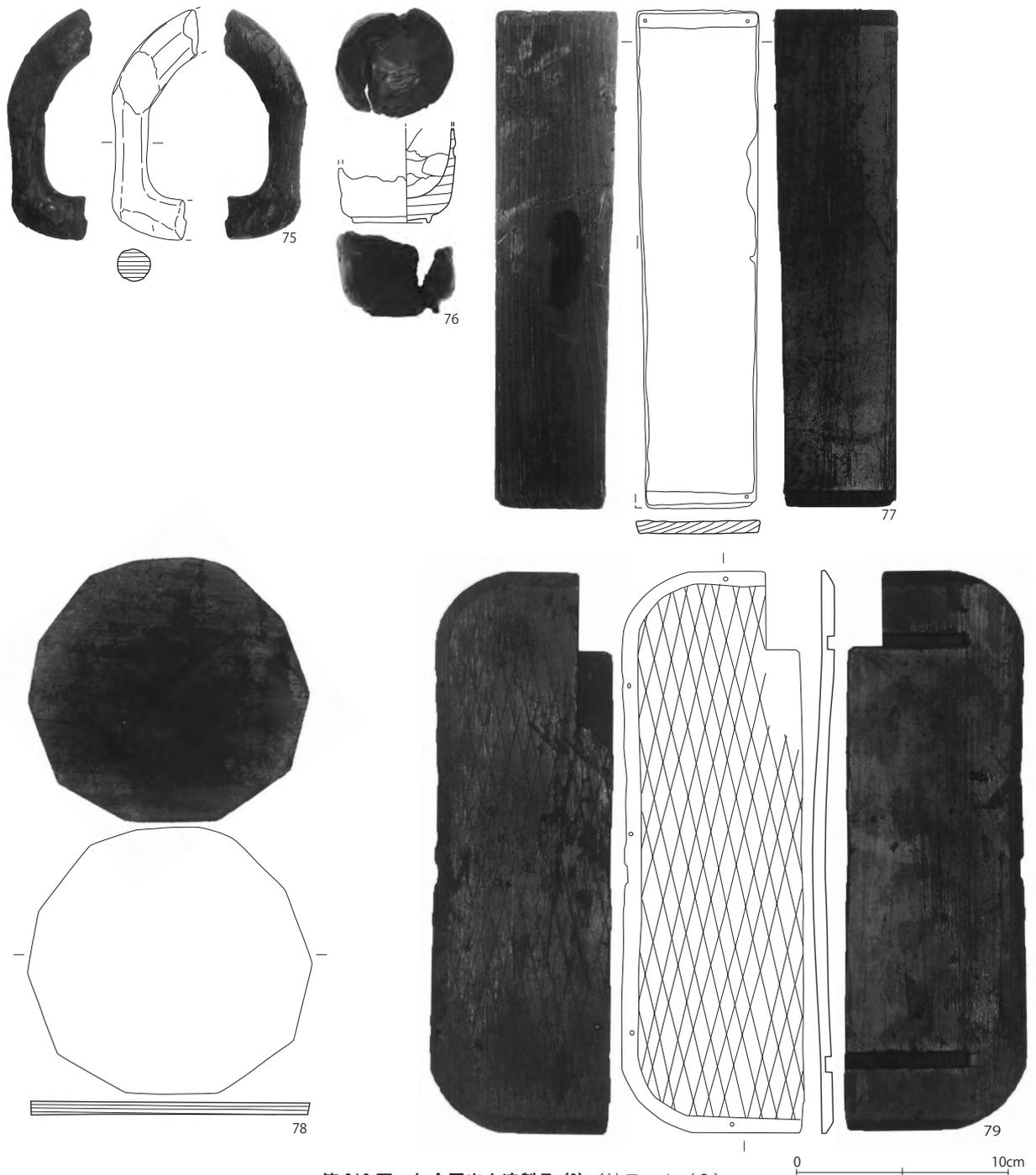
曲物の側板である。釘孔の痕跡が2箇所みとめられる。内面に赤色の漆が塗られているが、剥離が著しい。70・71は曲物の底板の一部である。漆は剥離しているが、内外面に赤色と黒色の漆の痕跡がわずかにみられる。72は文箱など箱物の底板の一部である。漆は剥離しているが、内外面に赤色と黒色の漆の痕跡がわずかにみられる。端部に釘孔が6箇所みとめられる。73は漆器椀である。内外面とも黒色の漆が塗られている。74は漆器椀である。内外面とも黒色の漆が塗られているが、見込の漆は剥離している。75は把手状の木製品である。黒色の漆が塗られている。76は漆器の小杯である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。77は箱物の底板の一部である。底面に黒色の漆が塗られており、端部に釘孔が3箇所みとめられる。78はやや歪な十二角形の板材である。片面に赤彩が施されている。箱物の部材と考えられる。79は折敷の底板である。1/3ほどが残存している。内面に赤彩が施され、斜格子状の刻み

目が付けられている。側板がつく部分は白木のままで、木釘が5箇所残存している。80は曲物の底板または蓋板である。1/4ほどが残存している。片面に赤彩が施されている。81は曲物の底板または蓋板である。1/4ほどが残存している。外面に赤彩の後に黒色の漆が塗られている。82は曲物の底板または蓋板である。3/4ほどが残存している。内外面とも茶色の漆が塗られている。83は折敷または重箱の底板である。内外面とも茶色の漆が塗られている。側板がつく部分は白木のままで、木釘が2箇所残存している。84は折敷の底板である。脚部も残存している。内面には赤彩の後に茶色の漆が塗られ、斜格子状の刻み目が付けられている。側板がつく部分は白木のままで、釘孔が3箇所みとめられ、木釘3箇所が残存している。85は漆塗りの板材である。箱物の側板と考えられる。内面に黒色の漆が塗られている。他の側板がつく部分は白木のままで、釘孔が7箇所みとめられ、木釘が7箇所残存している。86は漆塗りの板材である。箱物の部材と考えられる。内面に赤色の漆が塗られている。87は漆器椀である。内外面とも黒色の漆が塗られている。88は漆塗りの箱物の側板である。把手を通す孔と底板を留めるための釘孔が穿たれている。外面に黒色の漆が塗られている。89は漆塗りの箱物である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。側板と底板がつく部分は白木のままである。釘孔が底板に1箇所、側板に4箇所みとめられる。

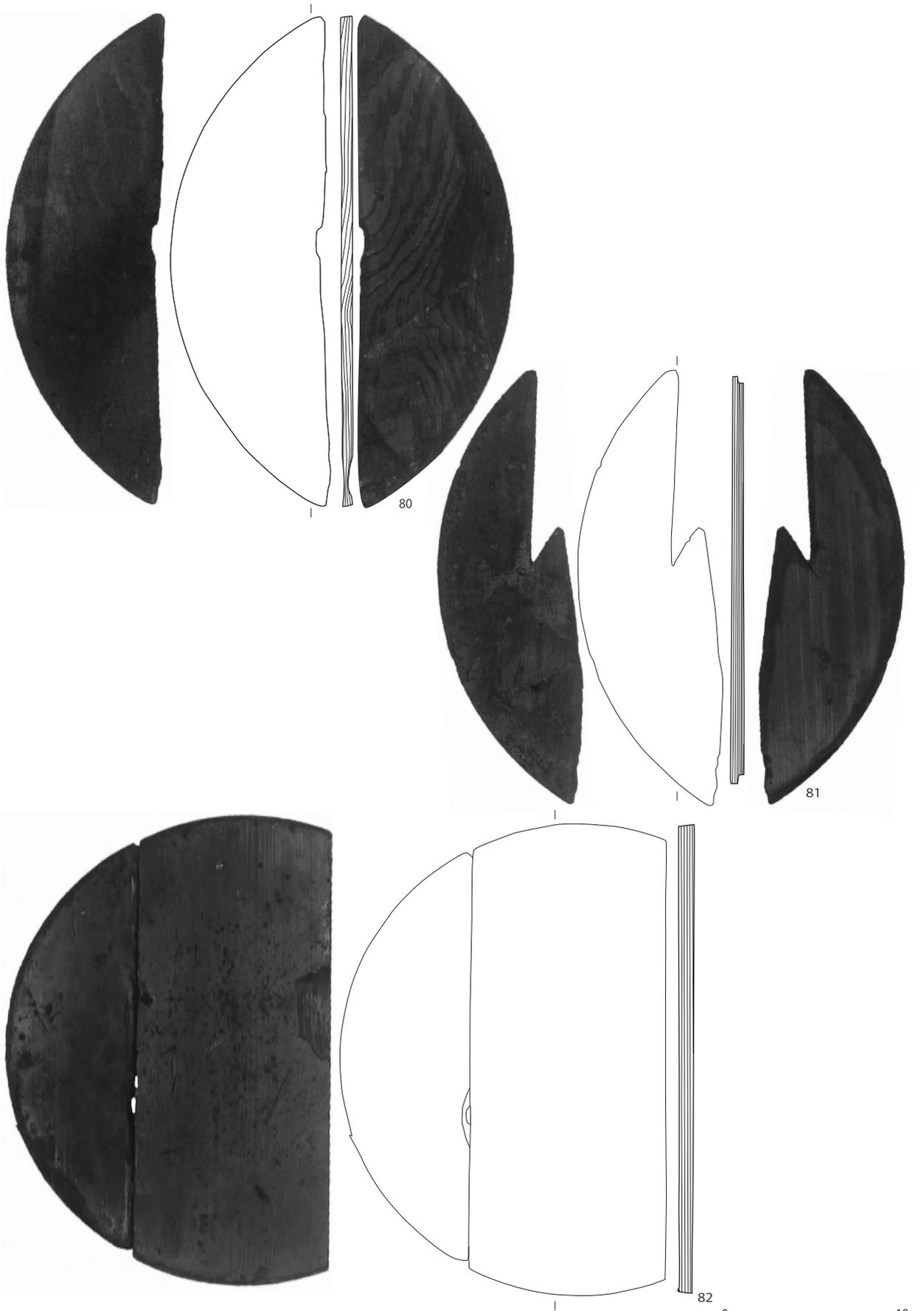
90は折敷の底板である。脚部が残存している。内外面とも黒色の漆が塗られている。側板と脚がつく部分は白木のままで、木釘が3箇所残存している。91は漆器椀の蓋である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。92は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆の地に赤色の漆で文様が描かれている。93は漆器椀である。内面には赤色の漆、外面には黒色の漆が塗られている。見込に黒色の漆が付着している。94は漆器椀である。内外面とも黒色の漆の後に赤色



第612図 包含層出土漆製品(1) (縮尺: 1/3)

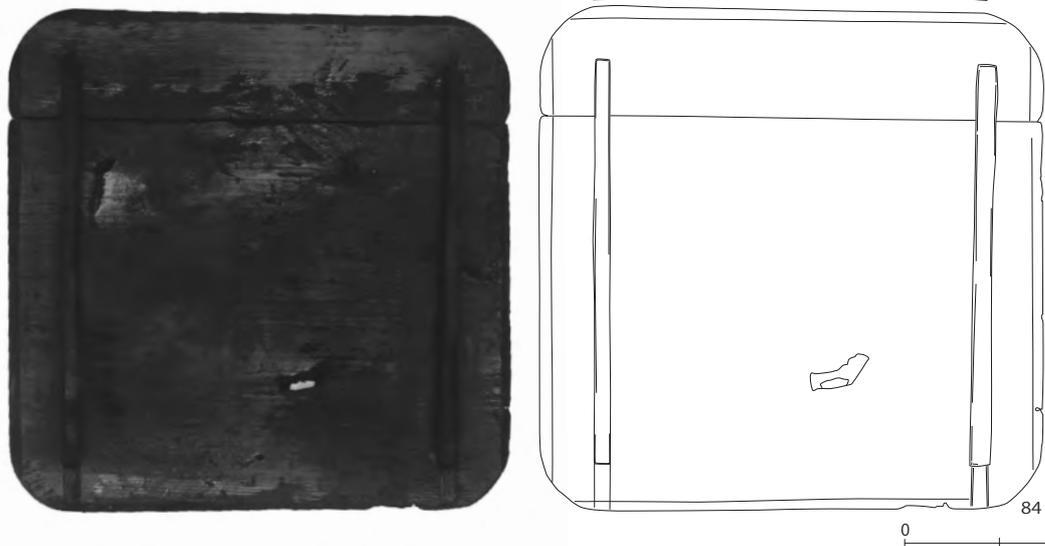
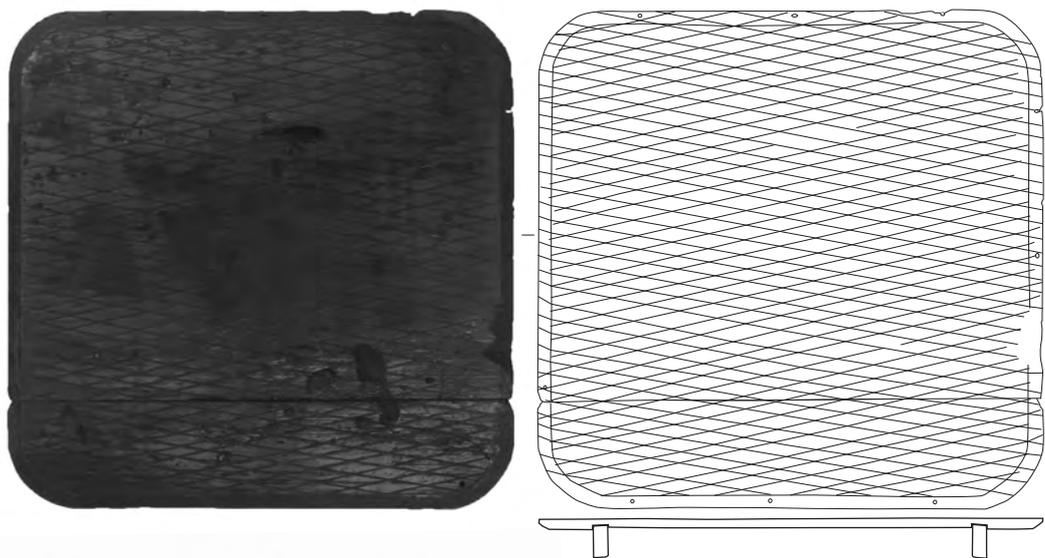
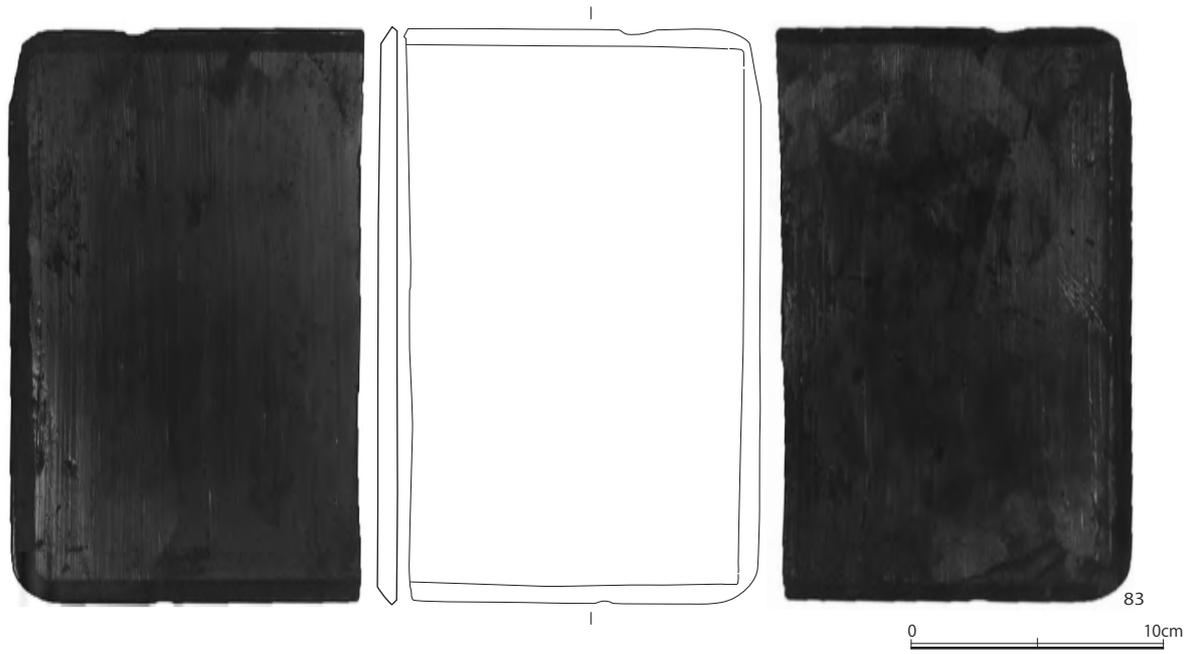


第 613 図 包含層出土漆製品 (2) (縮尺: 1 / 3)

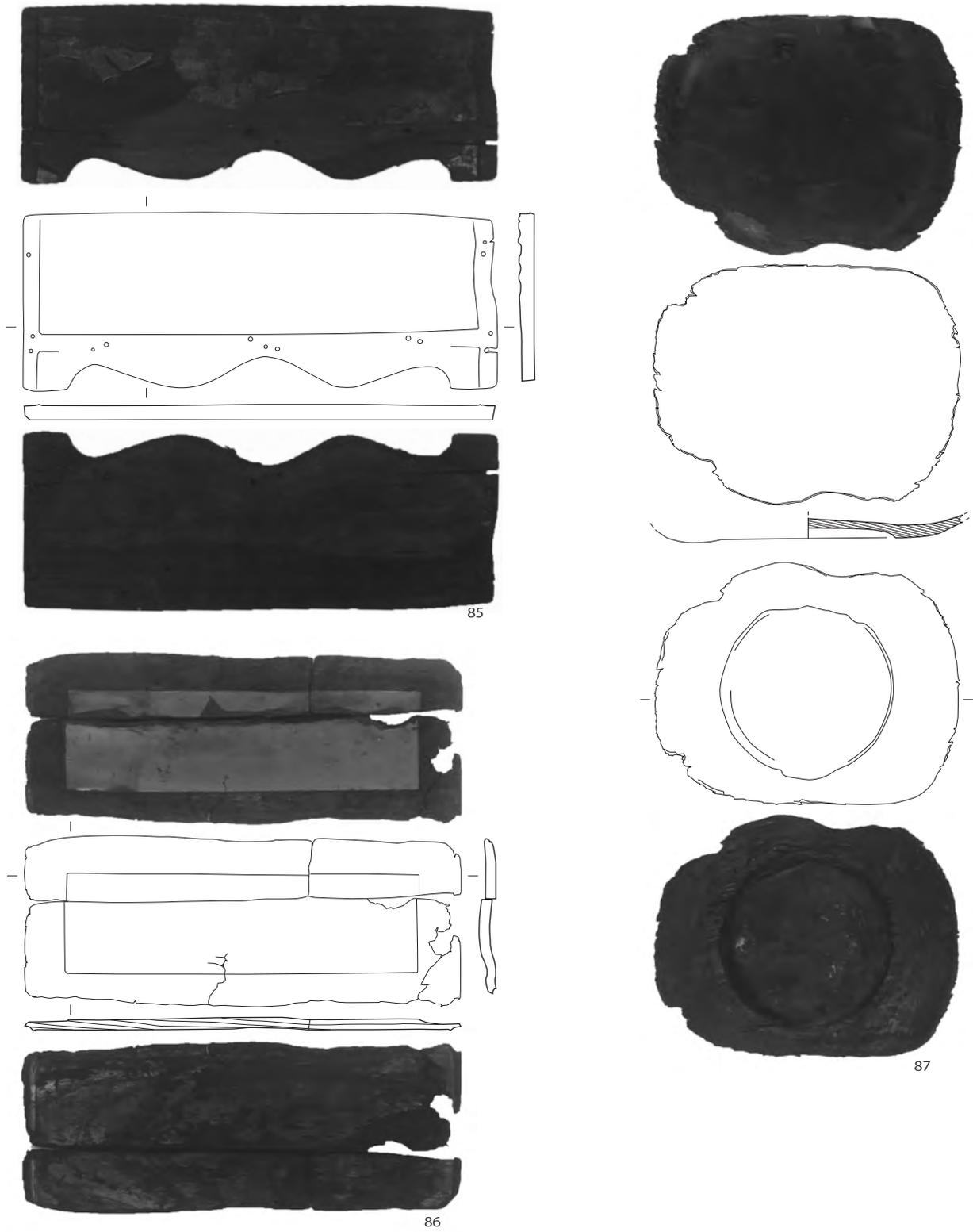


第614図 包含層出土漆製品(3) (縮尺: 1/3)

0 10cm

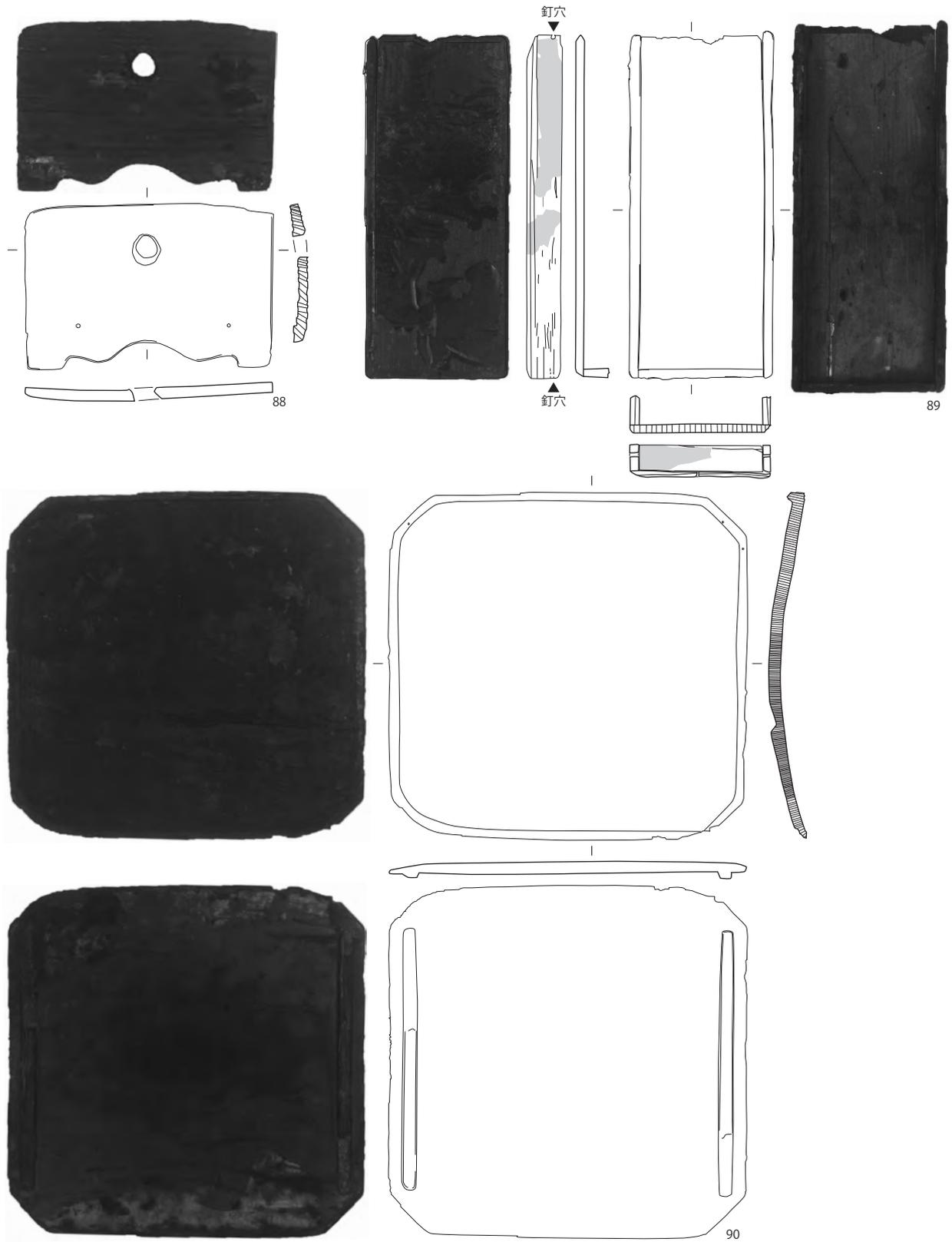


第 615 図 包含層出土漆製品 (4) (縮尺：1/3 84 縮尺：1/4)



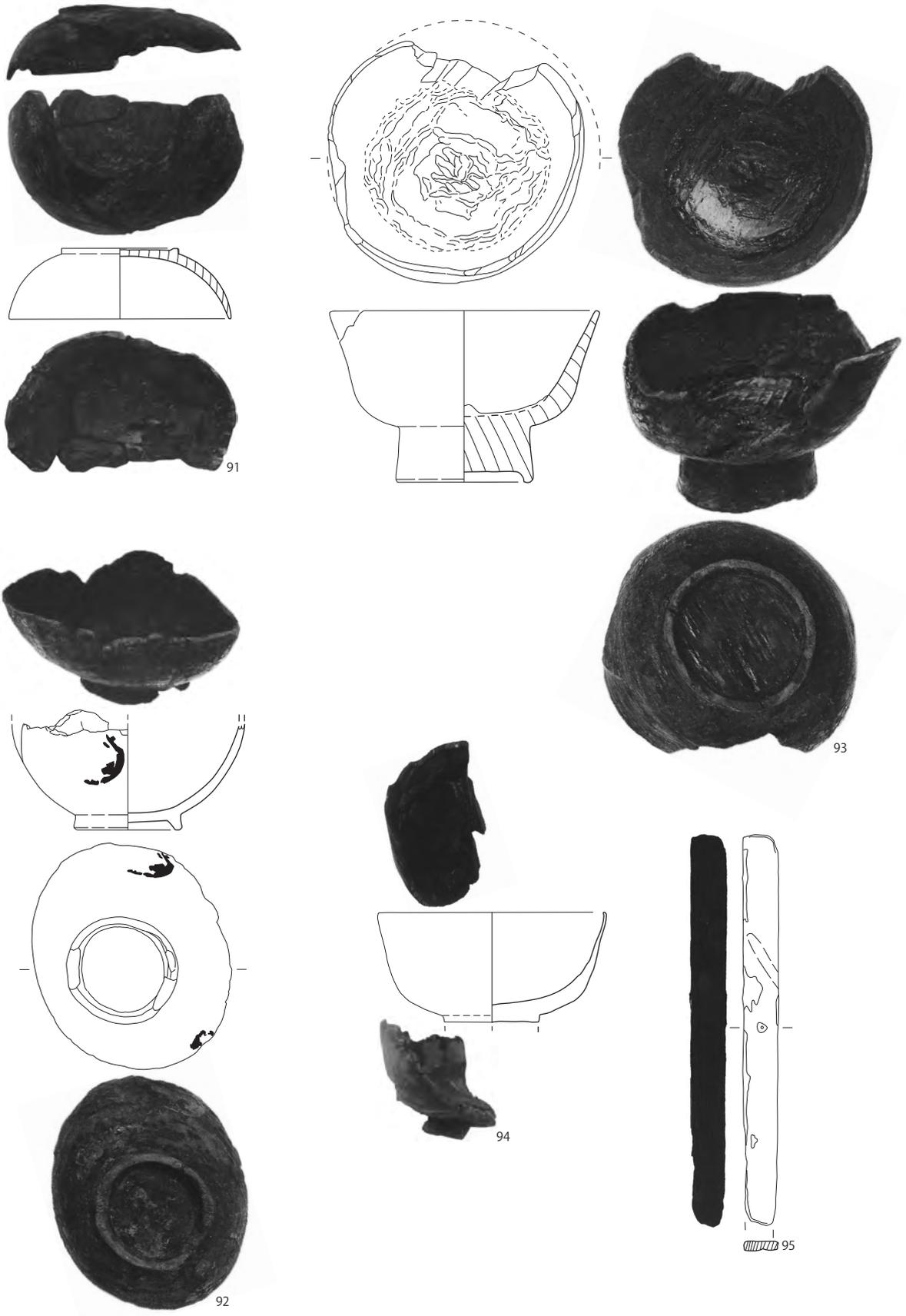
第616図 包含層出土漆製品(5) (縮尺: 1/3)

0 10cm

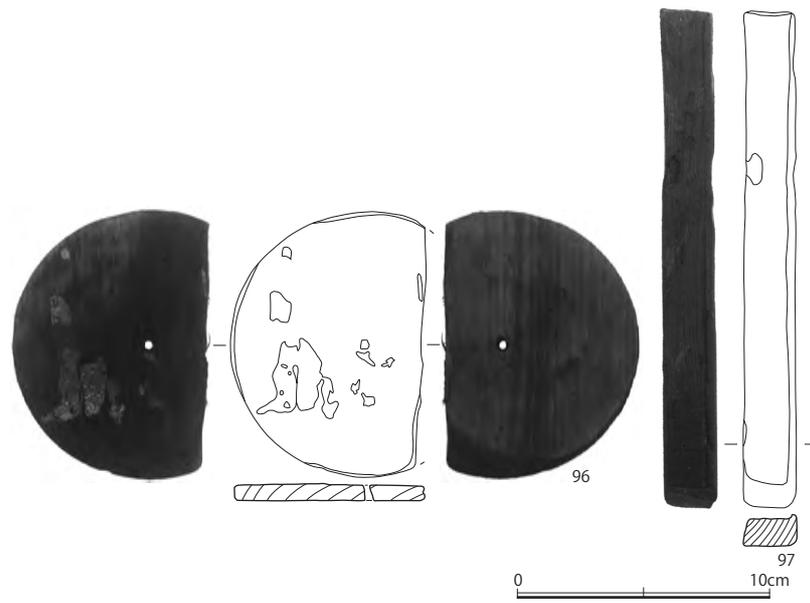


第 617 図 包含層出土漆製品 (6) (縮尺：1 / 3)

0 90 10cm



第618図 包含層出土漆製品(7)(縮尺:1/3)



第 619 図 攪乱出土漆製品 (縮尺：1 / 3)

の漆が塗られている。95 は板状の木製品である。所々に漆が残存している。折敷の底板の可能性が考えられる。

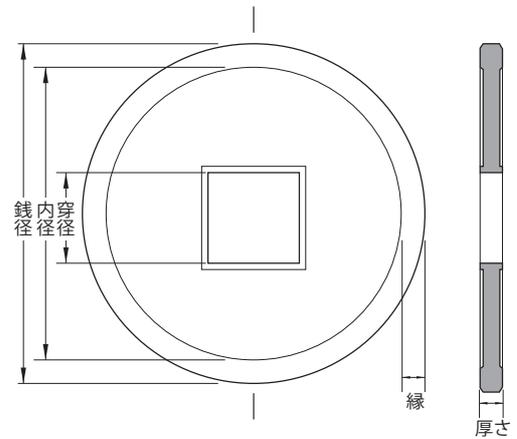
攪乱 (第 619 図)

96 は蓋板である。塗布されていた漆が一部残存している。中心部に穿孔がある。97 は棒状の木製品である。塗布されていた漆が数箇所に残存している。

(中原 計)

8. 銭貨

本調査地からは85点の銭貨が出土した(図版50～53、第1・2表)。銭種は、櫻木晋一(2007)、日本貨幣商協同組合(2014)を参考とした。寸法は、デジタルノギス(ミットヨ・CD67-S20PS)を用いて、第620図に示した5項目を計測した。重量は、音叉振動式はかり(新光電子・CG-150)を用いて計測した。材質は外見的特徴に加え、鉄か否かは磁石を用いて判定した。銭貨の内訳は銭種同定が可能であったものでは、寛永通寶が64点と最も多く、それに続いて雁首銭4点、永楽通寶2点、元豊通寶、聖宋元寶、元文一分判金、明治十年半銭銅貨、



第620図 銭貨の計測項目

昭和三年50銭銀貨が各1点である。寛永通寶は、「寶」字の特徴からス宝銭とも呼ばれる古寛永15点、背面に「文」字を有する文銭5点、「寶」字の特徴からハ宝銭とも呼ばれる新寛永32点、「通」字に特徴をもつマ頭通5点、詳細不明7点からなる。初鑄年代は、古寛永が寛永13(1636)年、文銭が寛文8(1668)年、新寛永が元禄10(1697)年である。永楽通寶の初鑄年代は、桃山時代の天正15(1587)年ごろである。元豊通寶は北宋由来の渡来銭で、初鑄年代は北宋の元豊元(1078)年と知られるが、本調査地例の場合は表面が著しく磨滅し、字が潰れている。鏹銭か。聖宋元寶は北宋由来の渡来銭で、初鑄年代は健中靖国元(1101)年である。元文一分判金の鑄造年代は、元文元(1736)年～文政元(1818)年と知られる。

(端野晋平)

参考文献

- 櫻木晋一 2007 「出土銭貨研究の成果と展望」『近世・近現代考古学入門』鈴木公雄ゼミナール編
慶應義塾大学出版会 pp. 101-118
- 日本貨幣商協同組合 2014 『日本貨幣カタログ 2014年版』

第1表 錢貨のデータ一覧表(1)

遺物 番号	出土遺構・層位	錢種	寸法(mm)					重量 (g)	材質	備考
			錢径	内径	穿径	厚さ	縁			
1	SD48	永楽通寶	24.8	20.7	5.9	1.2	1.9	3.23	銅	
2	池状遺構(第2・第3遺構面)	寛永通寶(新・文)	25.6	19.8	5.6	1.5	2.6	2.01	銅	
3	池状遺構(第2・第3遺構面)	寛永通寶(古)	24.5	19.8	5.5	1.1	2.4	3.06	銅	
4	池状遺構(第2・第3遺構面)	寛永通寶(新・文)	25	19.8	5.6	1.3	2.5	3.6	銅	
5	池状遺構(第2・第3遺構面)	文字判読不可	-22	?	?	1.6	?	1.79	銅	
6	池状遺構(第2・第3遺構面)	元豊通寶	23.9	17.5	6.8	1.1	3.7	2.74	銅	鋳銭か
7	池状遺構(第2・第3遺構面)	寛永通寶(古)	24.6	20	5.6	1.2	2.4	2.74	銅	
8	池状遺構(第2・第3遺構面)	文字判読不可	22.7	17.9	6	1	2	2.56	銅	
9	SK26	寛永通寶(新)	24.8	19.2	5.4	1.6	2.9	4.9	銅	
10	SK26	寛永通寶(古)	24.3	20	5.6	1.2	2.4	3.1	銅	
11	SK26	寛永通寶(新)	23.2	18.1	6.6	1	2.5	2.57	銅	
12	SD106	寛永通寶	24.4	19.3	5.7	1.3	2.9	2.55	銅	
13	SK156	寛永通寶(新)	22.9	18.5	6.5	0.9	1.9	2.05	銅	
14	SK156	寛永通寶(新)	24.7	19.6	6.6	1	2.2	2.27	銅	
15	SD157	寛永通寶(新)	24.4	18.3	6	1.1	2.7	2.03	銅	
16	SK98	寛永通寶(古)	24.8	19.6	5.5	1.4	2.7	4.07	銅	
17	SD182	寛永通寶?	23.1	18.3	6.1	1.5	2.1	3.08	銅	
18	SK44	寛永通寶(古)	23.6	19.3	5.2	1.1	2.8	2.74	銅	
19	SK179	寛永通寶(古)	24	18.8	5.4	1.2	2.7	2.94	銅	
20	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	寛永通寶	23.1	19.9	6.1	1.2	1.7	1.23	銅	
21	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	寛永通寶(新)	24.6	19	5.9	1.3	2.7	3.19	銅	
22	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	寛永通寶(新)	23.5	18.2	6.7	1.1	2.3	2.2	銅	
23	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	文字判読不可	23.3	17.1	5.5	1.2	2.9	2.35	銅	
24	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	寛永通寶(新・マ頭通)	23.6	19.7	6.4	1	2	2.19	銅	
25	池状遺構(第1遺構面)埋土最上層	寛永通寶(新)	23.6	18.1	6.1	0.9	2.4	1.39	銅	
26	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(新)	23.4	18.1	6.3	1.1	2.4	2.54	銅	
27	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(古)	24.5	19.8	5.5	1.2	2.4	3.13	銅	
28	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(新)	23.2	18.2	6.1	1	2.5	2.16	銅	
29	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(新)	22.1	17.5	6.1	0.9	2.6	1.74	銅	
30	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(新)	23.1	18.2	6	1.2	2.1	2.77	銅	
31	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(古)	23.7	18.5	5.3	1.6	2.5	4	銅	
32	池状遺構(第1遺構面)	寛永通寶(新)	24.6	18.9	5.6	1.4	2.7	3.37	銅	
33	石組み溝3	寛永通寶(新)	25	20	5.9	1.2	2.5	3	銅	
34	石組み溝3	雁首銭	18	15.5	5.1	5.6	3.8	2.28	銅	
35	石組み溝3	寛永通寶(新・文)	25.4	20	5.9	1.4	2.7	3.71	銅	
36	石組み溝3	寛永通寶(新・文)	25.2	20.3	5.6	1.3	2.4	3.71	銅	
37	石組み溝3	寛永通寶(新)	24.1	18.3	5.9	1.2	2.4	2.75	銅	
38	石組み溝3	寛永通寶(新)	24.8	19.9	6.5	1.2	2.2	2.98	銅	
39	石組み溝3	寛永通寶(新)	23.6	18.3	5.9	1.2	2.6	2.46	銅	
40	石組み溝3	寛永通寶(新・文)	25.2	19.7	5.6	1.4	2.6	3.84	銅	
41	石組み溝3	寛永通寶(古)	25.4	20	5.6	1.4	2.6	3.31	銅	
42	石組み溝3	寛永通寶(新・マ頭通)	24.5	18.8	5.9	1.1	2.9	2.8	銅	
43	石組み溝3	寛永通寶(新)	23.6	18.5	6.2	1.1	2.4	2.78	銅	
44	石組み溝3	寛永通寶(新)	24.8	19.8	5.5	1.3	2.6	3.35	銅	
45	石組み溝3	寛永通寶(古)	25.6	19.5	6.3	1	3.1	2.82	銅	
46	石組み溝3	寛永通寶(古)	24.4	19.4	5.6	1.4	2.5	3.63	銅	
47	石組み溝5	寛永通寶(新・マ頭通)	24	19.4	6.1	1.3	2.3	2.56	銅	
48	石組み溝5	寛永通寶(新)	22.6	17.9	6.5	0.9	2.2	1.94	銅	
49	SE25	寛永通寶(新・マ頭通)	24.2	19.1	6	1.2	2	3.28	銅	
50	SK73	寛永通寶	24.7	19.5	5.9	1.4	2.1	3.32	銅	

第2表 銭貨のデータ一覧表(2)

遺物 番号	出土遺構・層位	銭種	寸法(mm)					重量 (g)	材質	備考
			銭径	内径	穿径	厚さ	縁			
51	包含層	元文一分判金	—	—	—	1.5	—	3.27	金	長さ16.0mm×幅9.5mm
52	包含層	寛永通寶(新)	24.8	19.7	6.3	1.2	2.6	2.46	銅	
53	包含層	寛永通寶(新)	22.9	18.4	6.2	1.2	2.5	2.32	銅	
54	包含層	雁首銭	20.3	16.7	4.5	1.6	3.8	2.05	銅	
55	包含層	寛永通寶(新)	23.7	18.6	6.2	1.3	2.4	10.22	銅	3枚が付着して1組
55	包含層	文字判読不可	25.5	?	?	1.3	?		銅	
55	包含層	文字判読不可	23.4	17.8	6.3	1	2.2		銅	
56	包含層	寛永通寶(新)	23.3	18.3	6.4	0.9	2.1	2.24	銅	
57	包含層	寛永通寶(新)	23.9	19.2	6.4	1.2	2.1	2.47	銅	
58	包含層	永楽通寶	24.7	20.7	5.9	1.2	1.7	3.37	銅	
59	包含層	寛永通寶(新)	25.5	19.6	5.5	1.3	2.6	3.49	銅	
60	包含層	寛永通寶	22.8	18.6	6.6	1.2	2.1	1.36	銅	
61	包含層	雁首銭	19.8	?	4.6	2.8	?	2.72	銅	
62	包含層	寛永通寶(新・マ頭通)	24.2	19.2	5.5	1.3	2.5	2.55	銅	
63	包含層	寛永通寶(古)	25	18.9	5.2	1.3	2.7	3.4	銅	
64	包含層	寛永通寶(新)	22.5	18.9	6.7	1	2	1.75	銅	
65	包含層	文字判読不可	22.8	17.9	5.8	1.6	2.1	2.84	銅	
66	包含層	文字判読不可	25	17.5	5.4	1.9	3.7	2.72	銅	
67	攪乱	寛永通寶(古)	24.5	19.7	5.4	1.3	2.3	3.53	銅	
68	攪乱	寛永通寶(新)	23.8	18.7	6.1	1	2.9	2.57	銅	
69	攪乱	寛永通寶(新)	24.4	19.4	5.8	1.6	2.4	4.17	銅	
70	攪乱	寛永通寶(新)	22.8	17.5	5.8	1.2	2.3	2.47	銅	
71	攪乱	寛永通寶	23.3	18.6	6.1	1.1	1.9	2.46	銅	
72	攪乱	寛永通寶(新)	23.5	18.2	6	1.1	2.3	2.7	銅	
73	攪乱	寛永通寶(新)	23.3	18.2	6.2	1.1	2.1	2.71	銅	
74	攪乱	寛永通寶	-22.6	-17.6	6.2	1.3	2	2.37	銅	
75	攪乱	寛永通寶(古)	24.6	19.6	6.1	1.3	2.4	3.44	銅	
76	攪乱	聖宋元寶	24.3	18.8	6.1	0.9	3	2.37	銅	
77	攪乱	文字判読不可	-22.2	-17.4	4.6	0.9	2.6	1.03	銅	
78	攪乱	雁首銭	20.4	13.5	6.3	1.6	4.4	2.27	銅	
79	攪乱	寛永通寶	21.8	17.4	6.4	1	2.3	1.26	銅	
80	攪乱	文字判読不可	23.8	18.6	5.5	1.1	2.6	2.65	銅	
81	攪乱	寛永通寶(古)	22.9	18.6	6.9	1.1	2	2.66	銅	
82	攪乱	明治十年半銭銅貨	22.6	20.6	—	1.3	0.7	3.2	銅	
83	攪乱	昭和三年50銭銀貨	23.5	21.3	—	1.5	0.9	4.88	銀	

*()は復元値

第4節 動物遺存体・骨角製品

1. 概要

近年、江戸や大坂などの近世の都市遺跡の発掘調査が増加し、動物遺存体の出土が相次いでいる。徳島城下町跡も例外ではなく、これまでに新蔵町3丁目遺跡、徳島城下町跡中徳島町1丁目地点の発掘調査が行われており、武家屋敷跡から出土した動物遺存体が報告されている（富岡・沖田 2000、富岡 2004）。

新蔵遺跡国際交流プラザ地点からは、哺乳類、魚類、鳥類などの脊椎動物、骨角製品、軟体動物（貝類）、刺胞動物（サンゴ）の遺存体が出土した。調査区は、上級武家屋敷地にあたり、18世紀までは片山家、先山家、黒部家、安富家、太田家の屋敷地があり、19世紀には、片山家、先山家、黒部家、蜂須賀家となっている（詳細については第3章第2節参照）。出土した動物遺存体の多くは、調査区北西側の片山家屋敷地周辺から出土している。その中でも、片山家屋敷地内の池状遺構（第2・第3遺構面）、片山家と先山家・黒部家・太田家の屋敷境である石組溝3・5などからの出土が多く、敷地の裏手に出土が集中する。

2. 脊椎動物・骨角製品

脊椎動物遺存体と骨角製品が出土している遺構や遺物包含層は、伴出する陶磁器では17世紀から19世紀に比定される（第3表）。出土した脊椎動物遺存体は破片数にして412点にのぼり、そのうち種類と部位を同定したものは323点を数える（第4・9～11表）。哺乳類が206点と最も多く出土しており、魚類77点、鳥類29点、爬虫類10点、両生類1点と続く。また、簪や櫛などの骨角製品が12点出土している。これらは発掘中に肉眼で確認して採集したものばかりで、フルイを用いた土壌の水洗選別は行っていない。動物遺存体が保存状態に恵まれたのは、ゴミ穴として利用された土坑や落ち込み、屋敷地を区画する溝が湿潤な環境にあったためと考えられる。

なお、以下に記載する魚類の体長は、奈良文化財研究所蔵の現生骨格標本との比較によって推定した値である。

第3表 動物遺存体出土地点の時期

遺構・層位		時期
池状遺構（第1遺構面）		19C前葉～後葉
石組み溝5		19C前葉～後葉
石組み溝3		19C前葉～後葉
石組み溝8		19C前葉～後葉
遺物溜り4		19C中葉
遺物溜り10		19C中葉以降
遺物溜り15		19C中葉
SK26		18C後葉
SK41		18C後葉
SK42		18C後葉
SD48		18C前葉～後葉
SK103		18C後葉
SK156		18C前葉～中葉
SD157		18C後葉
池状遺構（第2・第3遺構面）		17C中葉～18C
SK186		17C中葉～18C
包含層	T. P. 45cmまで掘り下げ	19C前葉～後葉
	T. P. 45cm面	19C前葉～後葉
	T. P. 60～65cmまで掘り下げ	19C前葉～後葉
	石列検出	19C前葉～後葉
	T. P. 35～30cmまで掘り下げ	18C後半
	T. P. -30～-50cmまで掘り下げ	18C後半
	石組み溝3下層	17C中葉～18C
	石組み溝5下層	17C中葉～18C
	石組み溝8下層	17C中葉～18C
	T. P. -40cmまで掘り下げ	17C中葉～18C
	T. P. -50cm～の掘り下げ	17C中葉～18C
	T. P. -60～-20cmまで掘り下げ	17C～18C

第4表 脊椎動物遺存体の種名表

脊椎動物門 Vertebrata	カモ科 Anatidae
硬骨魚綱 Osteichthyes	カモ科の一種 Anatidae gen. et sp. indet.
ウナギ目 Anguilliformes	チドリ目 Charadriiformes
ハモ科 Muraenesocidae	チドリ目の一種 Charadriiformes fam., gen. et sp. indet.
ハモ属の一種 <i>Muraenesox</i> sp.	ツル目 Gruiformes
タラ目 Gadiformes	ツル科 Gruidae
タラ科 Gadidae	ツル科の一種 Gruidae gen. et sp. indet.
タラ科の一種 Gadidae gen. et sp. indet.	キジ目 Galliformes
ボラ目 Mugiliformes	キジ科 Phasianidae
ボラ科 Mugilidae	ニワトリ <i>Gullus domesticus</i>
ボラ科の一種 Mugilidae gen. et sp. indet.	キジ科の一種 Phasianidae gen. et sp. indet.
カサゴ目 Scorpaeniformes	フクロウ目 Strigiformes
コチ科 Platycephalidae	フクロウ科 Strigidae
コチ科の一種 Platycephalidae gen. et sp. indet.	フクロウ科の一種 Strigidae gen. et sp. indet.
スズキ目 Percidae	スズメ目 Passeriformes
スズキ科 Percichthyidae	カラス科 Corvidae
スズキ <i>Lateolabrax japonicus</i>	カラス属の一種 <i>corvus</i> sp.
ハタ科 Serranidae	哺乳綱 Mammalia
ハタ科の一種 Serranidae gen. et sp. indet.	霊長目 Primates
タイ科 Sparidae	オナガザル科 Cercopithecidae
マダイ <i>Pagrus major</i>	ニホンザル <i>Macaca fuscata</i>
キダイ <i>Dentex tumifrons</i>	食肉目 Carnivora
タイ科の一種 Sparidae gen. et sp. indet.	イヌ科 Canidae
ミシマオコゼ科 Uranoscopidae	イヌ <i>canis familiaris</i>
ミシマオコゼ科の一種 Uranoscopidae gen. et sp. indet.	ネコ科 Felidae
サバ科 Scombridae	ネコ <i>Felis catus</i>
カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i>	奇蹄目 Perissodactyla
カレイ目 Pleuronectiformes	ウマ科 Equidae
ヒラメ科 Bothidae	ウマ <i>Equus caballus</i>
ヒラメ <i>Paralichthys olivaceus</i>	偶蹄目 Artiodactyla
カレイ科 Pleuronectidae	イノシシ科 Suidae
カレイ科の一種 Pleuronectidae gen. et sp. Indet.	イノシシ/ブタ <i>Sus scrofa</i>
両生綱 Amphibia	ウシ科 Bovidae
無尾目 Anura	ウシ <i>Bos taurus</i>
無尾目の一種 Anura fam., gen. et sp. indet.	シカ科 Cervidae
爬虫綱 REPTILIA	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>
カメ目 Chlonia	ウサギ目 Lagomorpha
スッポン科 Trionychidae	ウサギ科 Leporidae
スッポン <i>Trionyx sinensis</i>	ノウサギ <i>Lepus brachyurus</i>
バタグールガメ科 Bataguridae	齧歯目 Rodentia
バタグールガメ科の一種 Bataguridae gen. et sp. indet.	ネズミ科 Muridae
鳥綱 Aves	ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.
カイツブリ目 Podicipediformes	
カイツブリ科 Podicipedidae	
カイツブリ科の一種 Podicipedidae gen. et sp. indet.	
コウノトリ目 Ciconiiformes	
コウノトリ科 Ciconiidae	
コウノトリ <i>Ciconia boyciana</i>	
カモ目 Anseriformes	

(1) 種類別の特徴

A 魚類

ハモ属 本属にはハモ、スズハモが含まれる。池状遺構（第3遺構面）から歯骨4点（左2右2）、前上顎骨-篩骨-鋤骨板、角骨（左）が1点ずつ、計6点が出土している。歯骨の左右1対は同一個体と考えられ、残りの歯骨（左）と角骨（左）は同一個体である。大きさは、いずれも体長100cm以上の大型個体ばかりである。

ボラ科 本科にはボラ、メナダなどが含まれる。SK186から主鰓蓋骨（左）が1点出土しており、体長40～50cmと推定される。

タラ科 池状遺構（第3遺構面）、SK156、遺物包含層から、それぞれ椎骨が1点ずつ出土している。大きさは、いずれも体長50cm以上の個体と推定される。

コチ科 本科にはコチ、ネズミゴチ、ワニゴチなどが含まれる。池状遺構（第3遺構面）から、歯骨2点（左1右1）、角舌骨（右）1点、計3点が出土している。池状遺構（第2遺構面）から、被熱して白色を呈する歯骨（右）が1点出土している。遺物包含層（19世紀後以降）から、歯骨（右）が1点のみ出土している。大きさは、いずれも体長40cm以上の大型個体ばかりである。

ハタ科 本科には、マハタ、キジハタ、クエなどの多種が含まれる。池状遺構（第3遺構面）から、主鰓蓋骨（左）が1点出土しており、体長40～50cm程度と推定される。

スズキ 池状遺構（第3遺構面）から、椎骨が2点、方骨（右）と主鰓蓋骨（右）が1点ずつ、計4点が出土しており、椎骨のうち1点は正中および垂直方向に切断されている。池状遺構（第3遺構面）から、椎骨が2点、歯骨（左）が1点、計3点が出土しており、いずれも被熱して白色を呈する。本種は成長とともに呼称が変わる出世魚であり、体長30cm程度までをセイゴ、60cm程度までをフッコ、それ以上はスズキと呼び習わす。出土資料は、フッコとスズキに相当するものばかりである。

キダイ 池状遺構（第3遺構面）から、上後頭骨1点が出土しており、体長20～30cmと推定される。

マダイ 池状遺構（第3遺構面）から前頭骨4点、上後頭骨、主上顎骨（左1右2）が3点ずつ、主鰓蓋骨（左1右1）2点、前上顎骨（左）、歯骨（右）、角骨（右）、舌顎骨（左）、前鰓蓋骨（左）、間鰓蓋骨（左）が1点ずつ、計18点が出土している。前頭骨のうち2点は、正中方向に真二つに切断された左側のみが出土している。上後頭骨の1点は、後部に2箇所、穿孔された痕跡が見られる。石組み溝5から前頭骨2点、上後頭骨1点、計3点が出土している。前頭骨のうち1点は、正中方向に真二つに切断された右側のみが出土している。上後頭骨のうち1点は、被熱して白色を呈する。大きさは、体長20～30cm程度のもが多く、大きな個体では60cm以上と推定される。

タイ科 本科には、種を同定したマダイ、キダイのほかに、チダイ、クロダイ、ヘダイなどが含まれる。池状遺構（第3遺構面）から前鰓蓋骨（左）、下鰓蓋骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。遺物包含層（19世紀）から椎骨1点が出土している。大きさは、いずれも20cm以上と推定される。

カツオ 池状遺構（第3遺構面）から歯骨（右）と椎骨が1点ずつ、計2点が出土している。池状遺構（第1遺構面）から椎骨が3点出土している。大きさは、体長40～50cm程度と推定される。

ミシマオコゼ属 本属にはミシマオコゼ、メガネウオが含まれる。池状遺構（第3遺構面）から、擬鎖骨2点（左1右1）が出土している。大きさは体長20cm～30cm程度と推定される。

カレイ科 本科にはマガレイ、アカガレイ、メイタガレイなど多種が含まれる。池状遺構（第2遺構面）から、椎骨1点が出土している。大きさは体長20～30cm程度と推定される。

ヒラメ SK156から、椎骨1点が出土しており、体長50～60cm程度と推定される。椎体中央部で正中および垂直方向に切断されている。

B 両生類

カエル類 遺物包含層から上腕骨（左）1点が出土している。大きさは、ウシガエルの現生骨格標本と同程度で、大型の個体と推測される。

C 爬虫類

スッポン SD48から、背甲の第6あるいは第7肋骨板（左）が1点出土している。大きさは、背甲骨板の全長約20cmの現生標本より、かなり大きな個体である。

バタグールガメ科 本科のなかでも、日本に在来する淡水産のイシガメあるいはクサガメが出土している。池状遺構（第1遺構面）から、腹甲板5点、背甲板4点、計9点が出土している。

D 鳥類

ツル科 本科にはタンチョウ、マナヅル、ナベヅルなどが含まれる。池状遺構（第3遺構面）から指骨（左）が1点、SK26から尺骨（右）が1点出土している。

コウノトリ科 本科にはナベコウ、コウノトリなどが含まれる。SK26から足根中足骨（左）が1点出土しており、近位端最大幅（Bp）21.6mmを測る。遺物包含層（19世紀）から、脛足根骨（右）が1点出土しており、遠位端最大幅16.6mmを測る。このほか遺物包含層（18～19世紀）から脛足根骨（右）が1点出土しているほか、本科に類似する足根中足骨（右）が1点出土しているが、骨端部が破損しており断定することが困難である。

ニワトリ 池状遺構（第3遺構面）から脛足根骨（左2右2）4点、大腿骨（左2右1）3点、足根中足骨（左1右1）2点、鳥口骨（右）、上腕骨（右）が1点ずつ、計11点が出土している。大腿骨（左）1点は近位端が切断されており、脛足根骨（左）1点は骨幹部前位に2箇所叩き切ろうとした痕跡が見られる。足根中足骨はいずれも距突起（蹴爪）が発達したオスである。遺物包含層（17世紀中～18世紀）から脛足根骨（左）が1点のみ出土しており、骨幹部が切断されている。SK156から鳥口骨（右）が1点、SK41から尺骨（左）が1点出土している。

キジ科 池状遺構（第3遺構面）から、大腿骨（左2）2点、足根中足骨（左）、橈骨（右）、脛足根骨（左）が1点ずつ、計5点が出土している。これらのうち、4点がキジのオスと同程度、1点がキジのオスより大きな個体である。SK156から脛足根骨（左）が1点、遺物溜まり15から尺骨（右）が1点出土しており、大きさはヤマドリのメスと同程度の個体である。

カモ科 池状遺構（第3遺構面）から尺骨（左1右3）4点、手根中手骨（左1右1）2点、鳥口骨（左）、上腕骨（左）、橈骨（右）、脛足根骨（右）が1点ずつ、計10点が出土している。手根中手骨（左）1点は骨幹部が、尺骨1点は遠位端が切断されている。手根中手骨（左）1点はヒシクイより大きくコハクチョウより小さな個体であり、それ以外はマガモ程度の大きさである。遺物包含層（17世紀中～18世紀）からヒシクイと同程度の大きさの上腕骨（右）が1点のみ出土しており、遠位部に多数の切傷が見られる。池状遺構（第2遺構面）から尺骨（右）1点、橈骨（左）、手根中手骨（左）が1点ずつ、

計3点が出土している。大きさはいずれもマガン程度の大きさであり、尺骨には骨幹部に多数の切傷が見られる。SK26から手根中手骨（左1右1）2点が出土しており、いずれもマガモ程度の大きさである。SK42から鳥口骨（右）、尺骨（左）が2点ずつ出土しており、いずれもマガモ程度の大きさである。遺物包含層（18～19世紀）から橈骨（右）1点、遺物包含層（19世紀）からヒドリガモ程度の大きさの尺骨（右）1点、遺物包含層からマガモ程度の大きさの尺骨（左）1点、池状遺構（第1遺構面）からマガモより大きくマガンより小さな上腕骨（右）1点が出土している。また、石組み溝5からホシハジロ程度の大きさの尺骨（右）1点が出土しており、本科のなかでも潜水して採餌を行う種類に類似する。

カイツブリ科? 本科には、カイツブリやハジロカイツブリなどが含まれる。遺物包含層（17世紀中～18世紀）から、近位端が切断された上腕骨（右）、尺骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。カイツブリ科に酷似するが、骨端部を欠くことから断定するのは困難である。

チドリ目 本科には、タマシギ科、チドリ科、シギ科などが含まれるが、出土資料はカモメ科やウミスズメ科とは異なる。池状遺構（第3遺構面）から、尺骨1点（右）が出土しており、大きさはハマシギと同程度で、Did3.4mmを測る。

フクロウ 池状遺構（第3遺構面）から胸骨、手根中手骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。手根中手骨は全長（GL）51.9mm、近位端最大幅（Bp）11.9mmを測る。

E 哺乳類

ニホンザル 石組み溝5から、大腿骨（左）が1点出土している。

ノウサギ 池状遺構（第3遺構面）から、同一個体の中足骨（右）4点、上腕骨（左1右1）2点、計6点が出土している。上腕骨は左側が遠位端最大幅10.4mm、右側が10.2mmを測る。SK156から上腕骨（左）が1点出土しており、全長（GL）85.5mm、近位端最大幅（Bp）13.2mm、遠位端最大幅（Bd）10.8mmを測る。SK26から脛骨（左）が1点出土しており、遠位端最大幅（Bd）14.5mmを測る。

イヌ 池状遺構（第3遺構面）から肩甲骨（左）、上腕骨（左）、橈骨（左）、尺骨（左）、中手骨（右）、大腿骨（右）が1点ずつ、計6点出土している。尺骨と橈骨は同一個体であり、尺骨は遠位端が、橈骨は近・遠位端ともに癒合していない若獣である。肩甲骨と上腕骨も同一個体の可能性があり、上腕骨は近位端が癒合していない。遺物包含層（17世紀中～18世紀）から、大腿骨（左）が1点出土している。石組み溝3から下顎骨（左）、橈骨（左）、大腿骨（左）、脛骨（左）が1点ずつ、計4点が出土している。脛骨は近位端が切断されており、下顎骨は不明瞭であるが角突起が切断されている可能性がある。石組み溝5から脛骨（左1右1）2点、上腕骨1点、大腿骨1点、計4点が出土している。脛骨は同一個体の左右一対であり、大腿骨もこれらと同一個体の可能性がある。SK156から、上腕骨（右）、大腿骨（右）が1点ずつ、計2点が出土している。大腿骨の近位端にネズミの咬痕が見られる。SK42から大腿骨（右）が1点のみ出土している。SD157から椎骨（環椎1、軸椎1）と橈骨（左）が2点ずつ、下顎骨（右）、中手骨または中足骨が1点ずつ、計6点が出土している。環椎は正中方向に切断された可能性がある。遺物包含層（18～19世紀）から、肩甲骨（右）が1点のみ出土している。池状遺構（第1遺構面）から、大腿骨（左1右1）2点、下顎骨（左）、肩甲骨（左）、橈骨（右）、尺骨（右）、踵骨（右）が1点ずつ、計7点が出土している。大腿骨（右）のうち1点は、遠位部に

叩き切ろうとした痕跡が見られ、下顎骨は関節突起が切断された可能性がある。遺物溜り 10 から椎骨、指骨が 12 点ずつ、中手骨または中足骨が 11 点、下顎骨（左 1 右 1）、橈骨（左 1 右 1）、寛骨（左 1 右 1）、大腿骨（左 1 右 1）、脛骨（左 1 右 1）、踵骨（左 1 右 1）が 2 点ずつ、上顎骨（左）、肩甲骨（右）、上腕骨（右）、尺骨（右）、距骨（右）、肋骨（左右不明）が 1 点ずつ、計 53 点が出土しており、すべて同一個体の可能性がある。下顎骨・四肢骨の計測値は第 5・7 表のとおりである。

ネコ 遺物包含層（17 世紀中～18 世紀）から、頭蓋骨が 1 点、橈骨（右）、尺骨（右）から 1 点ずつ、計 3 点が出土している。SK156 から大腿骨（右 3）、橈骨（左 1 右 2）が 3 点ずつ、上腕骨（左 1 右 1）、尺骨（左 1 右 1）、脛骨（左 1 右 1）が 2 点ずつ、下顎骨（右）、椎骨が 1 点ずつ、計 14 点が出土している。橈骨（右）、大腿骨（右）、脛骨（左）それぞれのうちの 1 点は、骨端部が癒合していない。脛骨（右）のうち 1 点は、近位部の内側に 2 条の切傷が見られる。SK26 から脛骨（左）、SK42 から下顎骨（左）、SD157 から下顎骨（左）が 1 点ずつ出土している。石組み溝 5 から上腕骨（左）、大腿骨（右）が 1 点ずつ、計 2 点が出土しており、大腿骨は近位端が切断されている。遺物包含層（19 世紀前～後）から、橈骨（右）が 1 点出土している。下顎骨の計測値は第 6 表のとおりである。

ウマ 池状遺構（第 3 遺構面）から、脛骨（右）が 1 点出土している。

ウシ 池状遺構（第 3 遺構面）から、顎骨から遊離した臼歯（左 8 右 7）15 点が出土している（第 9 表）。

イノシシ/ブタ 遺物包含層（19 世紀）から中手骨（右）、脛骨（左）、足根骨（左）が 1 点ずつ、計 3 点が出土している。池状遺構（第 1 遺構面）から上腕骨（左）2 点、橈骨 1 点、計 3 点が出土している。遺物溜り 4 から脛骨（右）、遺物溜り 10 から脛骨（左）が 1 点ずつ出土している。

ニホンジカ 池状遺構（第 3 遺構面）から肩甲骨（左 3 右 1）、橈骨（左 1 右 2）が 4 点ずつ、上腕骨（左 3）、尺骨（左 1 右 2）、大腿骨（左 2 右 1）が 3 点ずつ、中手骨（左 1 右 1）、中手骨あるいは中足骨（左右不明）が 2 点ずつ、椎骨、脛骨（右）、踵骨（左）、指骨（基節骨）が 1 点ずつ、計 25 点が出土している。上腕骨（左 2）、肩甲骨（左）、橈骨（左）、尺骨（左）、中手骨（右）、大腿骨（左）は切傷、叩き切った痕跡、肉を削いだような痕跡が見られる。肩甲骨（左 2）、上腕骨（左 2）、尺骨（右）、橈骨（右）、大腿骨（左）は、イヌの咬痕が見られる。上腕骨（左）、橈骨（右）、尺骨（右）は骨端部が癒合していない。橈骨（右）と尺骨（右）1 組と、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、中手骨、指骨 1 組は、同一個体と考えられる。遺物包含層（17～18 世紀）から、上腕骨（右）が 1 点、肩甲骨（右）が 1 点、SK156 から脛骨（右）が 1 点、SK42 から大腿骨（右）が 1 点出土している。遺物包含層（18 世紀後）から、指骨（基節骨、中節骨）が 2 点出土している。遺物包含層（18～19 世紀）から上腕骨（右）、中手骨（左）が 1 点ずつ、計 2 点が出土しており、中手骨には削った痕跡が見られる。池状遺構（第 1 遺構面）から脛骨（右 2）が 2 点、枝角と肩甲骨（左）、上腕骨（左）が 1 点ずつ、計 5 点が出土している。上腕骨は肉を削いだ痕跡が、脛骨のうち 1 点には叩き切った痕跡、さらに両方ともにイヌの咬痕が見られる。枝角は分枝部で切断されている。石組み溝 5 から、中足骨（右）が 1 点のみ出土している。遺物包含層（19 世紀）から、上腕骨（左 1 右 1）が 2 点、上顎第 2 あるいは第 3 後臼歯（左）と橈骨（左）が 1 点ずつ、計 4 点が出土している。遺物溜り 10 から脛骨（右）が 1 点のみ出土している。

ネズミ科 池状遺構（第 3 遺構面）から脛骨（左 1 右 2）が 3 点、大腿骨（右）が 2 点ずつ、上腕骨

(左)、尺骨(右)、寛骨(右)が1点ずつ、計8点が出土している。大腿骨2点の遠位端、上腕骨の近位端は癒合していない。遺物包含層(18～19世紀)から、椎骨(腰椎2)2点、大腿骨(左)1点、計3点が出土しており、大腿骨は遠位端が癒合していない。

第5表 イヌ下顎骨計測値

計測項目	計測点	斎藤 No.	No. 80	No. 108
下顎骨全長(1)	id-goc	1	130.8+	130.6+
下顎骨全長(2)	id-cm	2	-	124.6+
下顎枝高	kr-gov	7	-	-
下顎枝幅	Minimum	11	-	-
下顎体高(1)	M2 後部	16	25.2	35.0
下顎体高(2)	M1 中央	17	23.9	27.1
下顎体高(3)	P4M1 間	18	22.9	23.8
下顎体厚	M1 中央下方	25	11.5	23.0
咬筋窩深	-	-	9.1	7.7
推定体高			-	40.4

第6表 ネコ下顎骨計測値

計測項目	No. 157
1	57.8
2	54.2
3	52.7
4	48.79
5	18.5
6	L:6.3, B:2.9
7	6.5
8	23.5
9	10.2
10	8.3

第7表 イヌ四肢骨計測値

No.	遺構・層位	時期	部位	左右	GLP	SLC	SC	HS			
97	池状遺構(第3遺構面)	17中葉	肩甲骨	左	24.6	21.6		99.1+			
285	池状遺構(第1遺構面)東西ベルト	19前～後	肩甲骨	左	27.6						
64	3ラインベルト(攪乱含む)	18～19	肩甲骨	右	28						
346	遺物溜り10	19中葉以降	肩甲骨	右	28.3						
No.	遺構・層位	時期	部位	左右	GL	Bp	SD	Bd	DPA	SDO	推定体高
98	池状遺構(第3遺構面)	17中葉	上腕骨	左			11.2	27.0			
93	石組み溝5の下掘下	17中～18	上腕骨	右	150.5	27.8	11.3	30.6			46.8
345	遺物溜り10	19中葉以降	上腕骨	右				32.1			
7	石組み溝3の下掘下	17中～18	橈骨	左			11.3	21.8			
31	池状遺構(第3遺構面)	17中葉	橈骨	左	112.3						37.0
71	出土遺構不明	不明	橈骨	左	148.6						46.4
111	SD157	18後葉	橈骨	左				23.4			
112	SD157	18後葉	橈骨	左				23.4			
347	遺物溜り10	19中葉以降	橈骨	左			17.2	22.7			
244	遺物溜り10	19中葉以降	橈骨	右			18.0	12.7			
30	池状遺構(第3遺構面)	17中葉	尺骨	左	135.3						37.0
298	池状遺構(第1遺構面)	19前～後	尺骨	右					19.1	16.0	
8	石組み溝3の下掘下	17中～18	大腿骨	左			12.0	28.0			
77	T.P.-40cmまで掘下	17中～18	大腿骨	左			37.9				
94	石組み溝5の下掘下	17中～18	大腿骨	左			11.5	30.1			
242	遺物溜り10	19中葉以降	大腿骨	左	176.3	38.9	13.2	31.2			51.3
87	池状遺構(第3遺構面)	17中葉	大腿骨	右			34.6	12.9			
243	遺物溜り10	19中葉以降	大腿骨	右			13.1	30.4			
330	SK42	18後葉	大腿骨	右	151.7	34.5	12.0	27.7			43.5
9	石組み溝3の下掘下	17中～18	脛骨	左			12.1				
95	石組み溝5の下掘下	17中～18	脛骨	左	164.4			21.4			46.2
246	遺物溜り10	19中葉以降	脛骨	左			33.9				
303	石組み溝3の検出	19前～後	脛骨	左			27.7				
96	石組み溝5の下掘下	17中～18	脛骨	右				20.7			
247	遺物溜り10	19中葉以降	脛骨	右				23.6			
248	遺物溜り10	19中葉以降	踵骨	右	43.5						48.0
292	池状遺構(第1遺構面)	19前～後	踵骨	右				28.9			

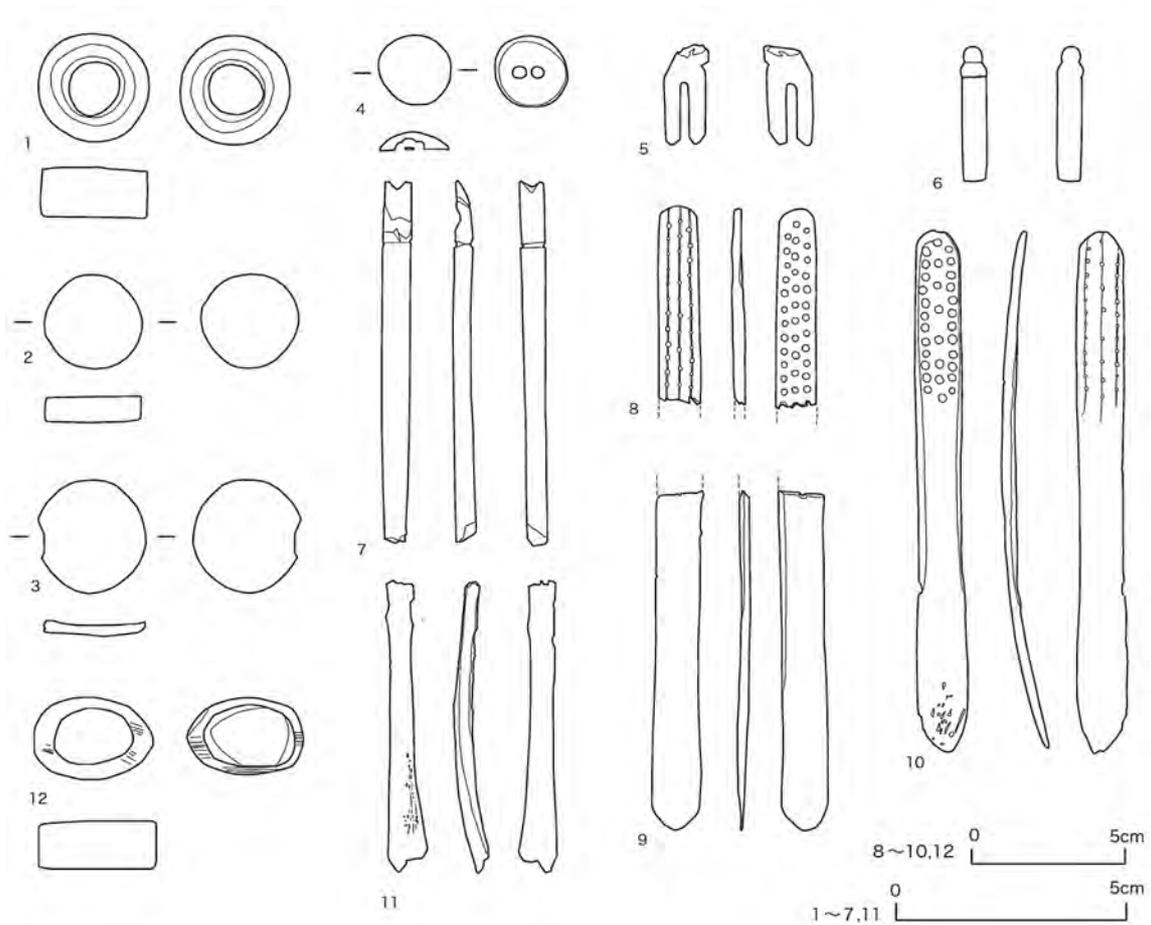
*計測項目はDriesch(1976)に倣い、体高はGLから西中川ほか(2008)に倣い推定した。

第8表 ウシの臼歯一覧と計測値

歯種	上顎						下顎				
	左			右			左		右		左
歯種	M3	M2	M1	M1	M2	M3	M2	M2	M2	M3	M3
歯冠長	25.1	21.0	22.7	20.8	27.1	28.3	25.1	24.4	25.8	36.9	36.0
歯冠幅	21.1	21.3	21.8	21.4	21.8	20.9	22.6	21.4	15.5	14.2	13.1

F 骨角製品

双六の駒 池状遺構（第3遺構面）から1点（第621図-1）、SK156から1点（第621図-2）、計2点が出土している。池状遺構の駒の平面形は正円を呈し、直径21.2mm、厚さ5.3mmを測る。全面を丁寧に研磨しており、文様は施していない。SK156の駒の平面形は正円を呈し、直径24.0mm、厚み11.8mm内外を測る。出土資料は筒状であるが、上下面に蓋をして使用するものと考えられる。部分的に黒色を呈し、被熱した可能性がある。素材は、いずれも鹿角と思われる。このほかに双六の駒と考えられるものが、SK156から1点出土している（第621図-3）。平面形は正円を呈し、直径23.4mm、厚さ2.1mm内外を測る。片面は丁寧に研磨しているが、反対の面は加工途中であるか、破損した状態である。上述の駒2点と比較して薄く、他の用途も考えられる。素材は、鹿角と思われる。



第621図 骨角製品

ボタン SK42 から1点が出土している（第621図-4）。直径15.2mmを測る円形を呈する。糸を通す穴を2箇所穿っており、最初にそれぞれ垂直方向に回転穿孔し、その途中で穿孔方向を変えて、それぞれの穴を連結させている。素材は、鹿角あるいは哺乳類の骨である。

簪 遺物包含層（17世紀中～18世紀）から1点が出土している（第621図-5）。残存部分は小さいが、基部よりやや下部で二又に分かれる形状である。素材は、鹿角あるいは哺乳類の骨である。また、簪と思われるものが、遺物包含層（19世紀）から2点出土している（第621図-6・7）。両方とも、基部と考えられる部分に装飾が施され、素材は大型哺乳類の骨と思われる。

櫛払い 池状遺構（第1遺構面）、SK26、石組み溝3、石組み溝5から1点ずつ、計4点が出土している。池状遺構の櫛払いは植毛台の部分のみで、横3列に直径2.4mm内外の円形の植毛穴が規則的に穿たれており、いずれも貫通している。植毛台の最大幅13.5mm、厚さ3.8mmを測る（第621図-8）。SK26の櫛払いは柄の部分のみで、全面が丁寧に研磨されており、最大幅14.1mm、厚さ3.6mmを測る（第621図-9）。石組み溝5の櫛払いはほぼ完存しており、全長約18cm、最大幅15.2mm、厚さ4.4mmを測る（第621図-10）。植毛台には、横3、縦14列の直径2.2mm内外の植毛穴が穿たれている。石組み溝3の櫛払いは柄の部分のみで、他の櫛払いに比べて細く、最大幅12.6mm、最小幅7.5mmを測る（第621図-11）。素材はいずれも大型哺乳類の骨であり、久保和士が形態によって分類したV類に相当する（久保1999）。

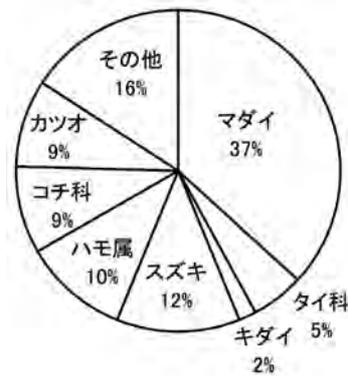
輪切り状骨 石組み溝3から1点が出土している（第621図-12）。製作途上の未成品や製作中に排出した廃材の可能性があるが、表面を研磨していることから製品とした。表面は丁寧に研磨しているが、切断面は鋸を挽いた痕跡が見られ、両端とも一方向からの切断である。

（2）徳島城下町跡の武家屋敷における動物利用

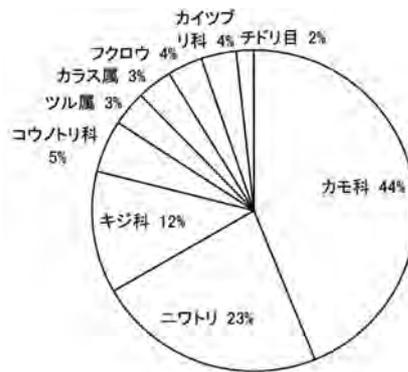
A 魚類の利用

魚類はマダイが最多の出土量を示し、魚類の37%を占める。マダイと同じタイ科に分類されるキダイ、種を同定できなかったタイ科をあわせると44%を占める。マダイに次いで出土量が多い順にスズキ、ハモ属、コチ科、カツオ、タイ科、タラ科、ミシマオコゼ科が続く（第622図）。マダイやスズキは骨が大きく、堅固であるため、イヌやネコなどの食害にあいにくく、発掘中にも肉眼で確認しやすい。徳島城下町跡では新蔵町3丁目、中徳島町1丁目の両地点と、マダイが最も多く出土していることが共通している。当遺跡から出土した魚類は出土量がそれほど多くなく、フルイを用いた水洗選別を行っていないことからサンプリングエラーが生じて、イワシ類などの小型魚、アジやサバナなどの中型魚といった微細な魚骨が見逃されている可能性がある。しかしながら、13種類の魚種を同定できたことは、海産物の利用が盛んであったことを示していよう。

3番目の出土量を示すハモ属は、大阪や京都の近世遺跡で頻繁に出土する。現代の大阪、京都では、ハモが夏の風物詩として天神祭や祇園祭に欠かせない食材となっており、徳島県北部の鳴門近海産のハモは美味と言われる。福山市草戸千軒町遺跡、岡山市岡山城跡、神戸市兵庫津遺跡、大阪市大坂城下町跡、堺市堺環濠都市遺跡といった本州の瀬戸内海から大阪湾沿岸にかけての中・近世遺跡でハモ属が出土しており、特に兵庫津、大坂、京都の三都市での出土が目立つ。徳島城下町跡ではハモ属が初出となるが、大阪湾、明石海峡を挟んだ兵庫津・大坂と同様に、ハモ属が好まれていたのであろう。



第 622 図 魚類組成 (N=57)



第 623 図 鳥類組成 (N=57)



第 624 図 哺乳類組成 (N=201)

出土している魚種の大部分は瀬戸内海で漁獲することができ、近海産のものが城下町に流通していたことが推測される。一方、タラ科、カツオ、キダイは瀬戸内海ではほとんど漁獲されない。特に、タラ科は日本海沿岸で漁獲されるため、北日本から搬入されたものと考えられる。カツオは黒潮に沿って回遊し、キダイは水深 150 ~ 200 m の大陸棚縁辺に生息することから、徳島県南部などの太平洋沿岸から搬入したものであろう。

調理の痕跡として、マダイの前頭骨に「兜割」が見られる。マダイの前頭骨を正中線に沿って真二つに切断しており、マダイの頭部から出汁をとったり、潮煮などの料理に利用したりしたと考えられる。スズキやヒラメの椎骨は、正中と直交方向に切断しており、胴部をぶつ切りにした切り身が利用されたのであろう。マダイ、スズキ、コチ科のなかには、被熱して灰色あるいは白色を呈するものが含まれている。これは焼き魚といった調理を示すものではなく、魚骨が竈や焚き火に投棄された後に、再び屋敷地内のゴミ穴に廃棄したためと考えられる^{註1)}。

B 鳥獣類の利用

鳥類はカモ科が最多の出土量を示し、鳥類の 42% を占める (第 623 図)。マガモ程度、それよりやや小さめのカモ類が大部分を占め、ガン類、ヒシクイ程度の個体も含まれる。ニワトリ、キジ科、コウノトリ科、カラス属、ツル科、フクロウ、カイツブリ科、チドリ目と続き、徳島城下町跡では種類が最も豊富に見られる。カモ科の出土した部位は翼部に相当する上腕骨、橈骨、尺骨、手根中手骨に集中しており、それらの部位には切傷や骨端部が切断された痕跡が見られ、解体され食用になったと考えられる。ニワトリは脚部に相当する大腿骨、脛足根骨が多く出土しており、カモ科とは対照的である。ニワトリもまた、それらの部位に切傷や切断された痕跡が見られ、解体されて食用になったのであろう。出土したニワトリは、いずれも骨端部が癒合した成鳥であり、現代のような若鶏は利用していない。蹴爪の発達したオスのニワトリの足根中足骨には、大きさに相違が見られることから、品種が異なるニワトリが含まれている可能性がある (写真図版 58-17・18)。ニワトリを含むキジ科も脚部の大腿骨、脛足根骨、足根中足骨が多く出土しているが、解体痕は見られない。コウノトリ科は、近畿地方の近世遺跡からの出土例が増加しており、近世には一般的に利用されていたと考えられる。ツル属は新蔵町 3 丁目遺跡でも出土しており、近世には鳥類の中で「鶴の庖丁」が第一とされ、徳島の武家ではしばしばその料理が賞味されている。『蜂須賀家文書』「享保十六年亥年正月朔日 覚書」

に鷹狩りの獲物として蜂須賀家が家臣にカモ、サギ、ツルを分配した記録が残っている^{註2)}。出土したツル科は、そのような鷹狩りの獲物が消費されたものであったのだろう。カラス属、フクロウ科は、現代の食習慣では食用種として考えにくいが薬用などの可能性もある。チドリ目には、食用となるチドリやシギの仲間が含まれている。カイツブリは食用とは考えにくい、『和漢三才図絵』に「肉味有」とあり、出土している上腕骨は切断されており、食用となった可能性がある。

哺乳類はイヌが最多の出土量を示し、哺乳類の44%を占める(第624図)。ニホンジカ、ネコ、ウシ、ネズミ科、ノウサギ、イノシシ、ニホンザル、ウマが続く。イヌは、19世紀中葉以降の遺物溜りから1個体分の骨格部位が53点出土しており、その出土量の半数以上を占める。池状遺構(第1遺構面)などから出土している大腿骨や脛骨には切断痕が見られ、解体されたことが明らかである。頭蓋骨、下顎骨、椎骨、肋骨、四肢骨など全身の骨格部位が含まれており、屋敷内で解体され、食用となった可能性がある。ニホンジカは四肢骨が大多数を占め、肩甲骨、上腕骨、橈骨などに解体痕が見られる。これらは解体された後に、四肢だけが部分的に屋敷に持ち込まれたと考えられる。17世紀中葉の大型廃棄土坑では、同一個体と思われる上腕骨、橈骨、尺骨、中手骨、指骨が出土しており、前肢1本を枝肉の単位とする搬入形態が窺える。このような廃棄方法は、大坂や京都でも見られる(丸山・松井2008など)。また、この大型廃棄土坑から出土しているニホンジカの四肢骨は、骨端部にイヌなどによる咬痕が見られる。一方、イノシシの出土量は少なく、19世紀の遺構だけで出土していることが特徴的である。イノシシと同定したものの中には、ブタを含んでいる可能性がある^{註3)}、出土資料に形態でブタと同定することは困難であった。ネコは近世遺跡から一般的に出土するが、その多くは食料となったか定かではない。本資料中の大腿骨、脛骨には、切傷、切断痕が見られることから、皮を利用する以外にも解体していることは明らかで、食用となったことを想定できる。また、イヌとネコは鷹狩り用の鷹餌となった可能性がある。徳川三代の鷹狩りの拠点となっていた葛西城址では、出土したイヌ、ネコが鷹餌であるとされている(金子1975)。新蔵町3丁目遺跡や徳島城下町跡中徳島町1丁目地点では、イヌやネコが鷹餌になった可能性が高いと考えられている。当遺跡でも鷹狩りの代表的な獲物であるツル科が出土している。当地が上級武士の屋敷跡であることから鷹狩りとの関連を想定することができるが、ワシ・タカ類の出土はなく、鷹が飼育されていたのか定かではない。ノウサギもまた狩猟対象となり、中世から美物として『尺素往来』や『庭訓往来』にとり上げられており、食用と考えて差し支えない。ニホンザルは中国、四国、九州地方の縄文時代後晩期の遺跡で多く見られる(本郷・藤田・松井2002)。『石山寺縁起絵巻』には、牛馬の厩舎にニホンザルが繋がれている情景が描かれ、本州各地に厩や牛舎に干した頭蓋骨や腕を祀る「厩猿」信仰が残る(柳田1969)。また、「猿頭霜」と呼ばれる猿の頭の黒焼きが近・現代でも薬用として売られる(廣瀬1979)。ウシやウマは17世紀中頃の大型廃棄土坑から出土しており、「厩猿」との関連は定かではない。

(3) ま と め

当調査で出土した動物遺存体は、蜂須賀家と片山家の屋敷境から出土しており、徳島城下町における上級武士の生活に関連するものである。魚類はマダイを中心に食用となるものばかりであり、瀬戸内海で漁獲できる魚種が大部分を占め、太平洋や日本海沿岸から持ち込まれた魚類が出土している。また、ハモ属やキダイの出土は、大坂城下町跡との共通性が見られることから、瀬戸内海東部沿岸に

おける魚類利用の特徴となる可能性がある。鳥類は、カモ科を主体に、ツル科やコウノトリ科といった大型鳥類などが含まれる。カモ科、ニワトリをはじめとして鳥類の多くは食用になったと考えられるが、フクロウやカイツブリ科といった食用かどうか定かではないものも含まれている。哺乳類はイヌやニホンジカが多く、イノシシあるいはブタ、ノウサギなどを含めて食用になったものと考えられる。

第9表 脊椎動物遺存体集計表(1)

時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	計	
17中葉	魚類	ハモ属	前上顎骨-篩骨-鋤骨版			1	1	
			歯骨	2	2		4	
			角骨	1			1	
		タラ科	椎骨			1	1	
		コチ科	歯骨	1	1		2	
			角舌骨		1		1	
		スズキ	椎骨			2	2	
			方骨		1		1	
				主鰓蓋骨		1		1
		ハタ科	主鰓蓋骨	1				1
		マダイ	上後頭骨				3	3
			前頭骨		1	3		4
			前上顎骨	1				1
			主上顎骨	1	2			3
			歯骨		1			1
			角骨		1			1
			前鰓蓋骨	1				1
			主鰓蓋骨	1	1			2
			間鰓蓋骨	1				1
			舌顎骨	1				1
	キダイ		上後頭骨			1	1	
	タイ科		前鰓蓋骨	1				1
		下鰓蓋骨		1			1	
	ミシマオコゼ科	擬鎖骨	1	1			2	
	カツオ	椎骨			1		1	
		歯骨		1			1	
	鳥類	カモ科	鳥口骨	1				1
			上腕骨		1			1
			橈骨		1			1
			尺骨	1	3			4
			手根中手骨	1	1			2
		脛足根骨		1			1	
ツル属		指骨	1				1	
キジ科		橈骨		1			1	
		大腿骨	2				2	
		脛足根骨	1				1	
	足根中足骨	1				1		
17中葉	鳥類	ニワトリ	鳥口骨			1	1	
			上腕骨			1	1	
			大腿骨	1	2		3	
			脛足根骨	2	2		4	
		足根中足骨	1	1		2		
		フクロウ	胸骨			1		1
			手根中手骨		1			1
		チドリ目	尺骨		1			1
		ノウサギ	上腕骨	1	1			2
			中足骨		4			4
	イヌ		肩甲骨	1				1
			上腕骨	1				1
			橈骨	1				1
			尺骨	1				1
			中手骨		1			1
			大腿骨		1			1
	ウマ		脛骨		1			1
	ウシ		遊離歯	8	7			15
	哺乳類		ニホンジカ	椎骨			1	1
				肩甲骨	3	1		
		上腕骨		3				3
		橈骨		1	3			4
		尺骨		1	2			3
		中手骨		1	1			2
		大腿骨		2	1			3
		脛骨			1			1
		踵骨		1				1
		中手骨/中足骨				2		2
		指骨	1				1	
		ネズミ科	上腕骨	1				1
			尺骨		1			1
			寛骨		1			1
大腿骨			2			2		
	脛骨	1	2			3		
17中～18	鳥類	ボラ科	主鰓蓋骨	1			1	
		スズキ	椎骨			2	2	
		歯骨	1			1		

第10表 脊椎動物遺存体集計表(2)

時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	計	
17中～18	魚類	カレイ科	椎骨			1	1	
		鳥類	カイツブリ科	上腕骨		1		1
				尺骨		1		1
			カモ科	上腕骨		1		1
		ニワトリ	脛足根骨	1			1	
	哺乳類	イヌ		下顎骨	1			1
				上腕骨		1		1
				橈骨	1			1
				大腿骨	3			3
			脛骨	2	1		3	
		ネコ		頭蓋骨			1	1
			橈骨		1		1	
		尺骨		1		1		
	ニホンジカ	上腕骨		1		1		
17～18	哺乳類	ニホンジカ	肩甲骨		1		1	
18前～中	魚類	タラ科	椎骨			1	1	
		マダイ?	椎骨			1	1	
		ヒラメ	椎骨			1	1	
	鳥類	ニワトリ	鳥口骨		1		1	
		キジ科	脛足根骨	1			1	
	哺乳類	イヌ		上腕骨		1		1
				大腿骨		1		1
	哺乳類	ノウサギ		上腕骨	1			1
				下顎骨		1		1
		ネコ		椎骨			1	1
			上腕骨	1	1		2	
			橈骨	1	2		3	
			尺骨	1	1		2	
			大腿骨		3		3	
	脛骨	1	1		2			
	ニホンジカ	脛骨		1		1		
18前～後	爬虫類	スッポン	背甲板	1			1	
18～19	鳥類	コウノトリ科	脛足根骨		1		1	
		カモ科	橈骨		1		1	
	哺乳類	イヌ		肩甲骨		1		1
				上腕骨		1		1
		ニホンジカ		中手骨	1			1
				椎骨			2	2
		大腿骨	1			1		
18後葉	魚類	コチ科	歯骨		1		1	
		コウノトリ科	足根中足骨	1			1	
	鳥類	ツル属	尺骨		1		1	
		カモ科		鳥口骨		1		1
				橈骨	1		1	2
				尺骨	1	1		2
				手根中手骨	2	1		3
		ニワトリ	尺骨	1			1	
カラス属	足根中足骨	1			1			

時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	計	
18後葉	哺乳類	ノウサギ		脛骨	1		1	
				下顎骨		1		1
		イヌ		椎骨			2	2
				橈骨	2			2
				大腿骨		1		1
				中手骨/中足骨			1	1
		ネコ		下顎骨	2			2
				脛骨	1			1
		ニホンジカ		指骨			2	2
				大腿骨		1		1
19前～後	魚類	タラ科	椎骨			1	1	
		マダイ		上後頭骨			1	1
				前頭骨			2	2
		タイ科	椎骨			1	1	
	カツオ	椎骨			3	3		
	両生類	カエル類	上腕骨	1			1	
	爬虫類	バタグールガメ科		背甲板			4	4
				腹甲板	2	3		5
	哺乳類	コウノトリ科		脛足根骨		1		1
				上腕骨		1		1
カモ科			尺骨	1	2		3	
			上腕骨		1		1	
			カラス属	上腕骨		1		1
哺乳類		ニホンザル		大腿骨	1			1
				下顎骨	1			1
		イヌ		椎骨			1	1
				肩甲骨	1			1
				橈骨		1		1
			尺骨		1		1	
			中手骨	1			1	
			寛骨	1			1	
			大腿骨	1	1		2	
			脛骨	1			1	
	踵骨		1		1			
哺乳類	ネコ		上腕骨	1			1	
			橈骨		1		1	
			大腿骨		1		1	
	イノシシ		上腕骨	2			2	
			橈骨	1			1	
			中手骨		1		1	
哺乳類	ニホンジカ		脛骨	1			1	
			足根骨	1			1	
			枝角			1	1	
			肩甲骨	1			1	
			遊離歯	1			1	
	上腕骨	2	1		3			
	橈骨	1			1			
	脛骨		2		2			
	中足骨		1		1			

第11表 脊椎動物遺存体集計表(3)

時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	計
19前～後	哺乳類	シカ科	中手骨		1		1
19中葉	鳥類	キジ科	尺骨		1		1
	哺乳類	イノシシ	脛骨		1		1
19中葉以降	哺乳類	イヌ	上顎骨	1			1
			下顎骨	1	1		2
			肋骨			1	1
			椎骨			12	12
			肩甲骨		1		1
			上腕骨		1		1
			橈骨	1	1		2
			尺骨		1		1

時期	大分類	小分類	部位	左	右	-	計
19中葉以降	哺乳類	イヌ	寛骨	1	1		2
			大腿骨	1	1		2
			脛骨	1	1		2
			踵骨	1	1		2
			距骨		1		1
			中手骨/中足骨			11	11
		指骨			12	12	
		イノシシ	脛足根骨	1			1
		ニホンジカ	脛骨		1		1
19後半以降	魚類	コチ科	歯骨		1		1

3. 軟体動物—貝類—

貝類は、21種類638点(破片は除く)出土した(第12・19～21表)。最も多く出土したのは、ハマグリであり、サザエ、アカニシ、ヤマトシジミ、アワビ属が続いている。それ以外の貝は1～数点のみの出土である。以下、比較的多く出土したものについて詳述する。

サザエ 第2遺構面と第3遺構面で多く出土しており、特に、池状遺構(第3遺構面)と石組み溝3からまとまった数が出土した。全体の出土点数は124点であり、最少個体数は106個体である。形状的には、すべて角のないものである。

それぞれの時期の殻高計測値の分布が第13・14表である。17～18世紀では、7cm以上のものから9cm以上のものまで同数である。18～19世紀のものは、6cm以上のものから8cm以上のものが多い、それ以上の大きさのものもあるが少ない。全体で見ると、7cm以上9cm未満のものが多いといえる。被熱の痕跡を持つものも多く、壺焼きなどの直接火にかけて調理される方法で消費されたと考えられる。

アカニシ 第1遺構面から第3遺構面のそれぞれで出土しており、全体で30個体である。中でも、池状遺構(第3遺構面)から20個体が出土している。殻高分布(第15表)では、3cm程度の小さな個体もみとめられるが、11cm以上の大型の個体が多い。

ヤマトシジミ 第1遺構面より上層からの出土がほとんどである。全体で60点出土し、最少個体数は34個体である。大きさは、6mm以上24mmまでみとめられるが、12～14mmのものが多い(第18表)。ほとんどの個体が殻皮まで残存しており、汁物等で消費されたと考えられる。

ハマグリ 第1遺構面から第3遺構面の各時期で出土しているが、石組み溝3、池状遺構(第3遺構面)からの出土が多い。全体で404点出土しており、最少個体数は227個体である。17～18世紀、18～19世紀のものそれぞれの殻長分布をみると、前者では最小が2～2.5cm、最大が8.5～9cmであり、後者では最小が2～2.5cm、最大が9～9.5cmである。両時期とも、3～3.5cmのものが最も多く、全体的に小型のものが多い(第16・17表)。

サザエと同様に、被熱の痕跡を持つものも多く、直火で焼かれて消費されたと考えられる。小型のものの中には、光沢が残るものもあり、汁物で消費されたものも含まれている。

第12表 軟体動物の種名表

軟体動物門 MOLLUSCA
 腹足綱 GASTROPODA
 古腹足目 Vetigastropoda
 ミミガイ科 Haliotidae
 アワビ属 *Haliotis* indet.
 サザエ科 Turbinidae
 サザエ *Turbo cornutus*
 ニシキウズガイ科 Trochidae
 クボガイ *Chlorostoma lischkei*
 パテイラ *Omphalius pfeifferi pfeifferi*
 盤足目 Discopoda
 タマガイ科 Naticidae
 ツメタガイ *Glosaulax didyma*
 新腹足目 Neogastropoda
 アケキガイ科 Muricidae
 アカニシ *Rapana venosa*
 イボニシ *Thais clavigera*
 エゾバイ科 Buccinidae
 バイガイ *Balytonia japonica*
 テングニシ科 Melongenidae
 テングニシ *Hemifusus tuba*
 二枚貝綱 BIVALVIA
 フネガイ目 Arcoida

フネガイ科 Arcidae
 アカガイ *Scapharca broughtonii*
 カキ目 Ostreoida
 イタボガキ科 Ostreidae
 マガキ *Crassostrea gigas*
 イワガキ *Crassostrea nippona*
 属・種不明 Gen.et.sp.indet.
 ウグイスガイ目 Pterioidea
 イタヤガイ科 Pectinidae
 イタヤガイ *Pecten albicans*
 サンカクガイ目 Trigonioidea
 イシガイ科 Unionidae
 ドブガイ? *Anodonta woodiana?*
 マルスダレガイ目 Veneroidea
 シジミ科 Corbiculidae
 マシジミ *Corbicula leana*
 マルスダレガイ科 Veneridae
 アサリ *Ruditapes philippinarum*
 ハマグリ *Meretrix lusoria*
 チョウセンハマグリ *Meretrix lamarckii*
 シオフキ *Mectra veneriformis*
 オキアサリ *Gomphina aequilatera*
 オキシジミ *Cyclina sinensis*

第13表 サザエの殻長 (17世紀)

殻高 (cm)	7~	8~	9~
個数	3	3	3

第14表 サザエの殻長 (18世紀)

殻高 (cm)	6~	7~	8~	9~	10~
個数	10	10	10	1	1

第15表 アカニシの殻長 (17世紀)

殻高 (cm)	3~	9~	10~	11~	12~	13~
個数	1	3	2	4	4	4

第16表 ハマグリ (17世紀)

殻長 (mm)	20.1~	25.1~	30.1~	35.1~	40.1~	45.1~	50.1~	55.1~	60.1~	65.1~	70.1~	75.1~	80.1~	85.1~	90.1~
左 (個)	1	13	14	8	9	6	1	1	1	3	0	1	0	0	2
右 (個)	0	5	18	9	9	5	1	1	3	1	2	1	0	2	0
合計	1	18	32	17	18	11	2	2	4	4	2	2	0	2	2

第17表 ハマグリ (18世紀)

殻長 (mm)	20.1~	25.1~	30.1~	35.1~	40.1~	45.1~	50.1~	55.1~	60.1~	65.1~	70.1~	75.1~	80.1~	85.1~	90.1~
左 (個)	1	13	14	8	9	6	1	1	1	3	0	1	0	0	2
右 (個)	0	5	18	9	9	5	1	1	3	1	2	1	0	2	0
合計	1	18	32	17	18	11	2	2	4	4	2	2	0	2	2

第18表 マシジミの殻長 (19世紀)

殻長 (mm)	6.1~	8.1~	10.1~	12.1~	14.1~	16.1~	18.1~	20.1~	22.1~	24.1~
個数	1	2	4	7	6	4	4	3	0	2

第19表 出土貝類集計表(1)

遺構	アワビ属	サザエ		クボガイ	パテイラ	ツメタガイ	アカニシ	イボニシ	パイガイ	テングニシ
		殻	蓋							
19世紀以降の包含層	1	6	7				1			
SK07										
石組み溝3		40	7	2			1			
石組み溝5		1								
池状遺構(第1遺構面)	1	12					2			
18~19世紀の包含層		9					3			
SD24										
SK26		1								
SK41										
SK156	1	5	1			2	2		1	
SD157										
17~18世紀の包含層	1	3		1	1			1		
池状遺構(第3遺構面)	3	17	7	1			20			1
SK187			8				1			

第20表 出土貝類集計表(2)

遺構	アカガイ		マガキ	イワガキ	イタボガキ科	イタヤガイ	ドブガイ?	ヤマトシジミ			アサリ				ハマグリ			
	左	右	?	?	?	右	?	左	左右	右	左	右	左	左右	右	?		
19世紀以降の包含層	1							25	2	27	1	8			4	2		
SK07																		
石組み溝3		1									1	119	1	106				
石組み溝5												2		2				
池状遺構(第1遺構面)					1		2	2	1	2		1		4				
18~19世紀の包含層			1									1		1				
SD24																		
SK26														2		2		
SK41					1													
SK156								1					12		15	3		
SD157													1					
17~18世紀の包含層													9		11	1		
池状遺構(第3遺構面)				1		1							35	2	44			
SK187													8	2	11			

第21表 出土貝類集計表(3)

遺構	チョウセンハマグリ				シオフキ	オキアサリ			オキシジミ		
	左	左右	右	?	左	左	左右	右	左	左右	右
19世紀以降の包含層	1				1				1		1
SK07											
石組み溝3				1	1	1	2	1		1	1
石組み溝5											
池状遺構(第1遺構面)	1										
18~19世紀の包含層											
SD24				1							
SK26											
SK41											
SK156	1		1								
SD157											
17~18世紀の包含層											
池状遺構(第3遺構面)	2	1	6		1			1	1		
SK187					1						

貝類については、徳島城下町遺跡では、中徳島町1丁目地点や新蔵町1丁目遺跡企業局総合管理センター地点・企業局総合管理事務所地点、中前川町2丁目遺跡、常三島遺跡機械工学科地点・総合科学部3号館地点で出土している(富岡・沖田2002、富岡2004)。中徳島町や新蔵町は上級武家屋敷地にあたり、中前川町と常三島は中・下級の武家屋敷地にあたる。これらの調査地点と貝種を比較すると、中・下級武家屋敷地からもアワビやアカガイのような高級貝種の出土がみられる。他の地点から出土した貝類については、数量や大きさの計測が行われていないため、今後はそれらを含めて比較することで、武家の階層ごとの違いが表れる可能性がある。

4. 刺胞動物－サンゴ

イシサンゴ目のサンゴが8点出土している。この種のサンゴは、徳島城下町遺跡では、中徳島町1丁目地点でも出土例がある（富岡 2004）。『和漢三才圖會』（寺島良安編 1712）では、雑石類の項目の中で「菊銘石」として扱われており、垢すりに用いたり、服用したりすることで諸淋（結石などの泌尿器系の病気）や悪瘡（できもの）に薬効があると記載されている。

付記

本節の執筆は、「1. 概要」を丸山真史・中原計が、「2. 脊椎動物・骨角製品」を丸山が、「3. 軟体動物－貝類－」・「4. 刺胞動物－サンゴ－」を中原が担当した。

註

1. 骨そのものが火を受けることで変色、変形が著しく生じ、焼き魚にしても骨全体は変色しない。
2. 根津寿夫氏（徳島城博物館）からのご教示。
3. 弥生時代にはイノシシが飼育されたブタが混在することが指摘されており（西本 1991）、また文献研究でも中・近世にはブタが飼育されたことが明らかになっている（渡部・松井 2002）。

参考文献

- 久保和士 1999 『動物と人間の考古学』久保和士遺稿集刊行会編集 真陽社
- 寺島良安編 1712 『和漢三才圖會』（和漢三才圖會刊行委員会 1970 『和漢三才圖會上・下』東京美術）
- 富岡直人・沖田絵麻 2000 「徳島県新蔵町3丁目遺跡出土動物遺存体」『新蔵町3丁目遺跡 徳島保健所地点』第1分冊本文編 徳島県教育委員会・（財）徳島県埋蔵文化財センター pp. 427-438
- 富岡直人 2004 「徳島城下町遺跡中徳島町1丁目地点動物遺存体分析」『徳島城下町遺跡 中徳島町1丁目地点』第1分冊本文編 徳島県教育委員会・（財）徳島県埋蔵文化財センター pp. 415-437
- 西本豊弘 1991 「弥生時代のブタについて」『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集 国立歴史民俗博物館 pp. 175-194
- 廣瀬鎮 1979 『猿』法政大学出版局
- 本郷一美・藤田正勝・松井章 2002 「古代遺跡から出土したニホンザルに基づく分布の変遷」“Asian Paleoprimatology” 京都大学霊長類研究所系統発生分野 pp. 1-12
- 丸山真史・松井章 2008 「動物遺存体について」『平安京左京三条二坊十町（堀河院）跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所 pp. 146-155
- 柳田国男 1969 「河童駒引考」『増補 山島民譚集』東洋文庫 137 関敬吾・大藤時彦編集 平凡社 pp. 5-81
- 渡部浩二・松井章 2002 「江戸時代の豚とその食用について－近代家畜肉食受容過程の観点から－」『食文化助成研究の報告』12 味の素食の文化センター pp. 81-88

（丸山真史・中原 計）

第4章 総括

第1節 調査区における屋敷境の変遷

1. 第3遺構面

17世紀中葉～18世紀前葉の屋敷境の形状は、1条の素掘り溝であり、東側の一部分のみ検出された。西側は19世紀の池および石組み溝により壊されている。溝は幅0.8m、深さ0.5mの断面U字形を呈し、南側の肩部に竹列を伴っている。竹列に関しては、上部構造は不明であるが、おそらくは柵状のものであったと考えられる。

この溝は絵図から想定された、安富家、片山家とそれらの南の太田家との境界にほぼ一致する。屋敷地の向きとの関連からみると、安富家と片山家については裏にあたり、太田家については北側面にあたる場所である。遅くとも17世紀末には安富、片山、太田の三家がこの地区に屋敷を構えていたことが絵図からわかっており、そのため、溝は17世紀後半には掘削されていたと考えられる。溝の埋土内からは遺物が出土しなかったが、18世紀中葉の井戸により壊されていたことから、埋没時期は18世紀前葉以前である。

2. 第2遺構面

18世紀中葉～18世紀末の屋敷境は1条の素掘り溝であり、17世紀の屋敷境溝よりも5mほど南にずれている。この溝は、安富家、太田家、片山家、黒部家、先山家の屋敷地の境となっている。溝は東西方向のもの幅が1.3m、深さは0.4m、南北方向のものは幅0.8m、深さ0.4mで、双方とも断面の形状はU字形を呈している。部分的に数回の掘り直しがみとめられる。屋敷地の向きからすると、東西方向の溝は安富家・片山家・黒部家の裏にあたり、太田家の北側面にあたる。南北方向の溝は安富家の西側面、片山家の東側面にあたるものと太田家の裏、黒部家の東側面にあたるものがある。

3. 第1遺構面

19世紀の屋敷境は1条の石組み溝であり、少なくとも3回の付け替えがあったことがうかがえる。付け替えごとに徐々に南に位置がずれている。溝の規模は、東西方向のものが幅1.2m、深さ0.76m、南北方向のものが幅0.8m、深さ0.76mである。石組み溝は、調査区の真ん中付近で、片山家屋敷地内の池とつながっている。池は、18世紀までは単独で存在していたが、19世紀に屋敷境溝とつながる形に作り直されている。また、屋敷境の位置も17世紀の屋敷境の位置に戻されている。

石組みの屋敷境溝は、片山家・黒部家・先山家の屋敷境に相当するが、片山家と蜂須賀家との間には溝状の屋敷境は存在していない。この両家の屋敷境に当たると思われる場所から、根石の置かれた直径20cmほどの柱穴がいくつか検出されている。これらのことから、両家の屋敷境は、板塀や柵列などが想定される。蜂須賀家側から片山家の池に直接流れ込む溝が作られているため、屋敷境の形状

に制限があったためと考えられる。屋敷地の向きとの関係は、東西方向が片山家、黒部家、先山家それぞれの裏にあたり、南北方向はそれぞれ片山家の西側面と黒部家の東側面、黒部家の西側面と先山家の東側面にあたっている。

第2節 他の調査区における屋敷境

1. 徳島地区

徳島地区の調査は、徳島県教育委員会、徳島県埋蔵文化財センター、徳島市教育委員会によって行われている。ここでは、新蔵遺跡周辺の調査から得られた成果について概略しておく。

新蔵遺跡周辺では、5箇所が発掘調査が行われ、そのうち屋敷境が検出されたのは2箇所である。新蔵町1丁目遺跡合同庁舎地点では、17世紀前半～18世紀後半までは板塀、18世紀後半～19世紀初頭が2条の素掘り溝とその間の土手、19世紀は板塀である（石尾編1998）。この屋敷境は、戸田家と佐渡家との境にあたる。もう1箇所の新蔵町1丁目遺跡企業局総合管理センター地点では、17世紀後半～18世紀初頭までが1条の素掘り溝、18世紀中葉以降が2列の石積みとなる（日下編1998）。この屋敷境は、佐渡家と折下家との境にあたる。

2. 常三島地区

常三島地区は、徳島城下町の中・下級武家屋敷地であり、徳島大学常三島団地内において、17次に及ぶ調査が行われている。調査成果は、一部報告が行われているが、大半は未報告である。ただし、屋敷境については、2006年に行われた四国城下町研究会において公表されている（四国城下町研究会2006）。また、それ以降も、立会調査や発掘調査において、屋敷境溝が確認されている。それらをあわせると、屋敷境溝が検出された調査は16地点に及ぶ。こうした屋敷境溝に関しては、今後の立会調査・発掘調査によって、さらに事例は増加すると思われる。

常三島地区における屋敷境は、17世紀から19世紀に至るまで、2条の素掘り溝に挟まれた掘り残し部分にあたることが指摘されている。道路に面しない部分の屋敷境には、2条の溝が掘られるという形態が基本である。その規模は18世紀になると大型化し、全幅が7m近くになる部分も確認されている。18世紀末以降、大型化した溝は埋没していき、再掘削されて溝として機能し続けるか、浅い溝やゴミ捨て穴にされる（橋本1998、北條2001・2006）。

第3節 新蔵遺跡における屋敷境とその意義

徳島城下町における屋敷境の変遷から、屋敷境溝の機能についての議論が行われている。特に、18世紀の屋敷境については、新蔵町1丁目遺跡や常三島遺跡において2条の溝とその間の掘り残し部分からなることが従来から指摘されてきており、歴史的な意義が与えられてきている（石尾2003、橋本1998、北條2001・2006）。しかし、本調査区からはそのような2条の溝は検出されなかった。本調

査区内に屋敷境が通ることは絵図との重ね合わせから推測され、その候補として考えられる溝の規模は幅1 m程度のものである。また、溝のすべてを削平するような後世の掘込みはみとめられなかった。そのため、本調査区においては、屋敷境は異なった形態であったと考えられ、徳島地区においては、勝浦康守氏による指摘があるように(勝浦 2003)、2条の溝は普遍的なものではなかったと考えられる。

そこで、新蔵遺跡において検出された屋敷境についてももう一度見直し、その機能を検討したい。まず、新蔵遺跡における屋敷境の変遷について確認すると、17～18世紀は1条の素掘り溝であり、17世紀のものには柵状の構造物が付随する。19世紀になると、1条の石組み溝と板塀(柵列)に変わる。ここで注目すべきことは、東西方向の屋敷境は17世紀から一貫して溝状であるのに対して、南北方向のものは溝から板塀(柵列)に変化することである。新蔵遺跡周辺の調査区において検出された屋敷境は、南北方向のみであり、それぞれ形態が変化することが確認されている。つまり、新蔵遺跡周辺においては、屋敷境の方向によって、あり方が異なることが指摘できる。

このようなことが起こる要因として、南北方向の屋敷境と東西方向の屋敷境との機能差が考えられる。新蔵遺跡で検出された東西方向の溝は、18世紀の絵図によると街区の真ん中、つまり屋敷地の裏手を通っている。この溝は、19世紀になり蜂須賀家が、安富家と太田家の屋敷地を統合する形で拝領したことにより、境が不要になった場合においても、他の場所の屋敷境を石組み溝として構築する段階で、東西につながるように同様に石組み溝として維持されている。また、石組み溝の状況から、水が東から西に流れるように造られていることも判明している。これらのことから、東西方向の屋敷境は、17世紀以降、新蔵遺跡周辺街区における主要排水路として機能していたと考えられる。

次に、南北方向の屋敷境については、新蔵町1丁目遺跡合同庁舎地点では18世紀後半に2条の溝となることが指摘されているが、新蔵遺跡および新蔵町1丁目遺跡企業局総合管理センター地点では1条の溝または2列の石積みである。つまり、様々な形態の屋敷境が混在していることが分かる。屋敷境も含めて、南北方向に設けられる溝は、この東西方向の溝へ水を流すためのいわば支流にあたる。そのため、場所を屋敷境に限定する必要はなく、時期や場所によって形態を変化させることが可能であったといえる。

以上のことから、新蔵遺跡の屋敷境に設けられる溝は、排水機能は有しているものの、18世紀に規模が大きくなることはなく、出水対策が取られていることはうかがえない。主要排水路である東西方向の溝の規模は0.8～1.3 mである。

新蔵遺跡周辺の状況からすると、排水路の設置は街区ごとに屋敷地割が異なることから、それぞれに適した計画で行われたと考えられる。また、主要排水路の設置は城下町成立時のものを踏襲する傾向にある。つまり、屋敷境に設けられる溝には、城下町成立当初の排水計画が反映している可能性が指摘できる。それを明らかにした上で、屋敷境の位置の変更、屋敷境全体の幅が変化することの意味を追求する必要がある。

第4節 近世以前の遺物の出土

これまで、徳島城下町が展開する吉野川河口デルタ地域の近世以前の状況を示す、考古学的な情報は皆無に近い状態であった。本調査において、17世紀の屋敷境溝掘削中に下層の砂層中から平安時

代の黒色土器と土師皿が出土した。この砂層については、調査終了前に堆積状況を確認するために1 mほど掘削したが、それよりも深く堆積していた。その確認作業中に、土師器や須恵器などの近世以前のもと思われる土器も少量であるが出土している。ただし、それらについては、いずれも小片のため、時期の特定には至っていない。

現状では、これらの遺物がどこからもたらされたものかを検討する材料に欠けており、今後の類例の増加に期待する必要がある。ただ、今回の調査で、城下町遺跡の下にそれ以前の状況の手がかりがあることが明らかとなった。それらを少しずつでも積み重ねていけば、吉野川河口デルタ地域の発達と開発の歴史を明らかにすることができる。

参考文献

- 石尾和仁編 1998『新蔵町1丁目遺跡 合同庁舎地点（旧知事公舎）』徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 石尾和仁 1999「屋敷境の2条の溝をめぐる一橋本報告に寄せて一」『徳島城下町通信創刊号』徳島城下町研究会
- 石尾和仁 2003『徳島城下町研究序説』徳島県教育印刷
- 石尾和仁 2006「徳島城下町における屋敷境の変遷と地鎮行為」『近世の屋敷境とその周辺』第7回四国城下町研究会発表要旨・資料集 四国城下町研究会
- 勝浦康守 2000「徳島城下町遺跡—旧動物園跡発掘調査」『四国・淡路の陶磁器—生産と流通 I』第2回徳島城下町研究会発表要旨
- 勝浦康守編 2003『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 13』徳島市教育委員会
- 勝浦康守 2006「徳島城下町の屋敷界」『近世の屋敷境とその周辺』第7回四国城下町研究会発表要旨・資料集 四国城下町研究会
- 勝浦康守 2008「徳島城下町」『季刊考古学』第103号 近世城郭と城下町 雄山閣
- 日下正剛編 1998『新蔵町1丁目遺跡 企業局総合管理センター（旧副知事公舎）地点』徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 久保脇美朗編 2004『徳島城下町遺跡 中徳島町1丁目地点』徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 四国城下町研究会 2006「全国の近世遺跡における屋敷境の検出例」『近世の屋敷境とその周辺』第7回四国城下町研究会発表要旨・資料集 四国城下町研究会
- 橋本達也 1998「江戸時代の城下町を発掘で探る—近世都市徳島の考古学的研究—」『川と人間』溪水社
- 橋本達也 1999「徳島城下町の構造」『京焼—消費地出土の様相—』'99 徳島城下町研究会発表要旨
- 北條芳隆 2001「土手や松は過大評価できない」『四国徳島城下町通信第7号』四国徳島城下町研究会
- 北條芳隆 2006「徳島城下町の屋敷境1—常三島地区—」『近世の屋敷境とその周辺』第7回四国城下町研究会発表要旨・資料集 四国城下町研究会

图 版

■土層断面



1.4 ラインベルト土層断面①



2.4 ラインベルト土層断面②



3.4 ラインベルト土層断面③



4.4 ラインベルト土層断面④



5.4 ラインベルト土層断面⑤



6.4 ラインベルト土層断面⑥



7.4 ラインベルト土層断面⑦



8.4 ラインベルト土層断面⑧



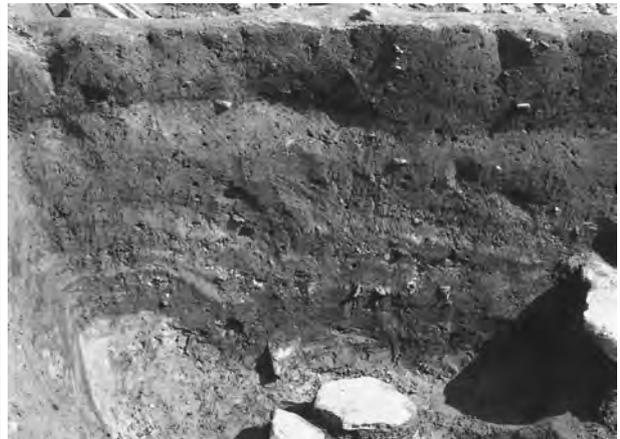
1.4 ラインベルト土層断面⑨



2.4 ラインベルト土層断面⑩



3.4 ラインベルト土層断面⑪



4.4 ラインベルト土層断面⑫



6.4 ラインベルト土層断面⑬



7.4 ラインベルト土層断面⑭



7.4 ラインベルト土層断面⑮



8.4 ラインベルト土層断面⑯



1.5 ラインベルト土層断面①



2.5 ラインベルト土層断面②



3.5 ラインベルト土層断面③



4.5 ラインベルト土層断面④



5.5 ラインベルト土層断面⑤



6.5 ラインベルト土層断面⑥



7.5 ラインベルト土層断面⑦



8.5 ラインベルト土層断面⑧



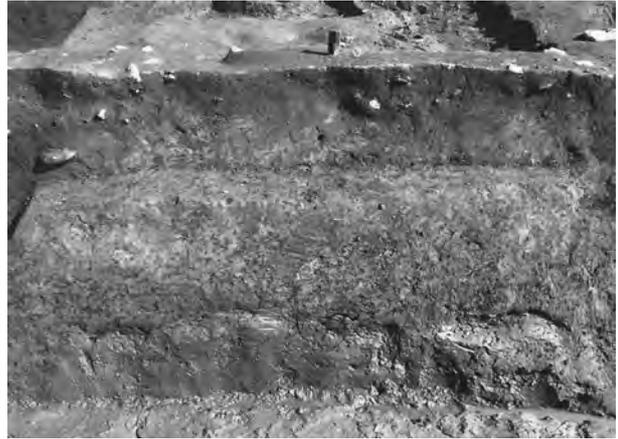
9.5 ラインベルト土層断面⑨



10.5 ラインベルト土層断面⑩



1.10 ラインベルト土層断面①



2.10 ラインベルト土層断面②



3.10 ラインベルト土層断面③



4.10 ラインベルト土層断面④



5.10 ラインベルト土層断面⑤



6.10 ラインベルト土層断面⑥



7.10 ラインベルト土層断面⑦

■第3遺構面 検出遺構



1. 池状遺構（第2・第3遺構面）北壁断面



2. 池状遺構（第2・第3遺構面）北壁断面



3. 池状遺構（第2・第3遺構面）北壁断面



1. SD185 検出状況及びび竹列



2. SD185 完掘状況



3. SD185 竹列



4. SD101 断面

■第2遺構面 検出遺構

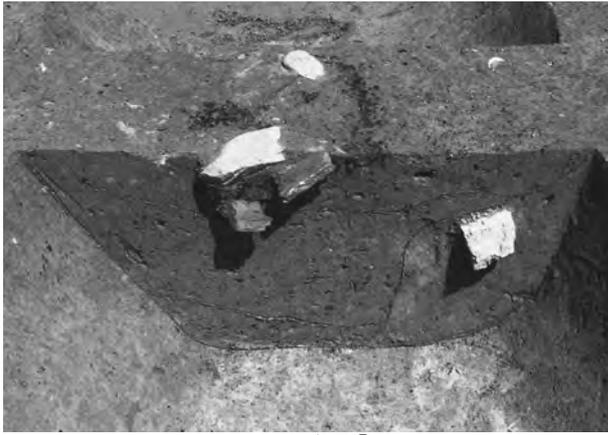


1. 第2遺構面完掘状況（全景）①

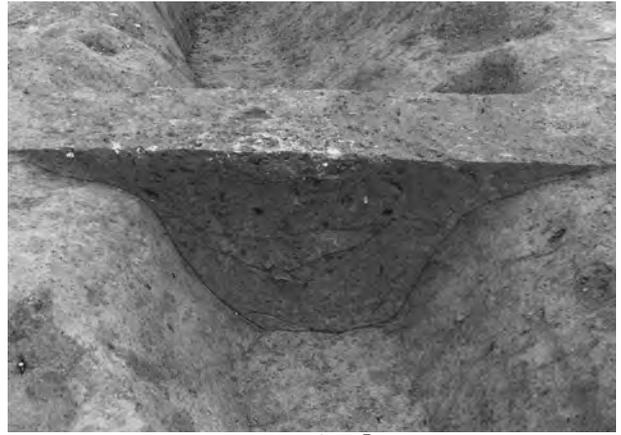


2. 第2遺構面完掘状況（全景）②

■第2遺構面 検出遺構 一屋敷境一



1. SD48 断面①



2. SD48 断面②



3. SD48 断面③



4. SD48 断面④



5. SD48 断面⑤



6. SD136 断面東



7. SD136 断面西



8. SD136 完掘状況



1. SD120 断面



2. SD120 完掘状况



3. SD158 (右) · SD159 (左) 断面



4. SD158 (左) · SD159 (右) 完掘状况



5. SD161 断面 a



6. SD161 断面 b-1



7. SD161 断面 b-2



8. SD161 断面 c



1. SD161 完掘状況



2. SD166 北 南北断面



3. SD166 北 東西断面①



4. SD166 北 東西断面②

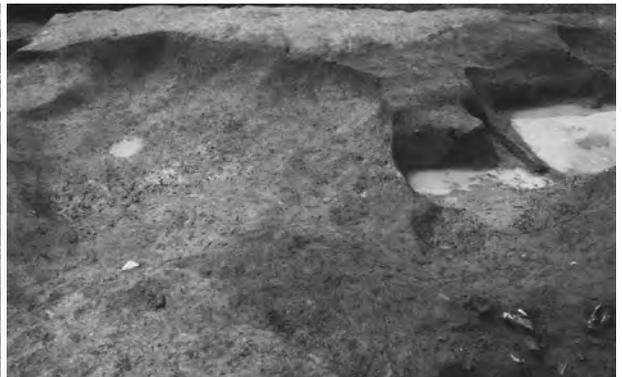


5. SD166 北掘り下げ状況

■第2遺構面 検出遺構 一片山家敷地内の遺構ー



6. SK26 断面



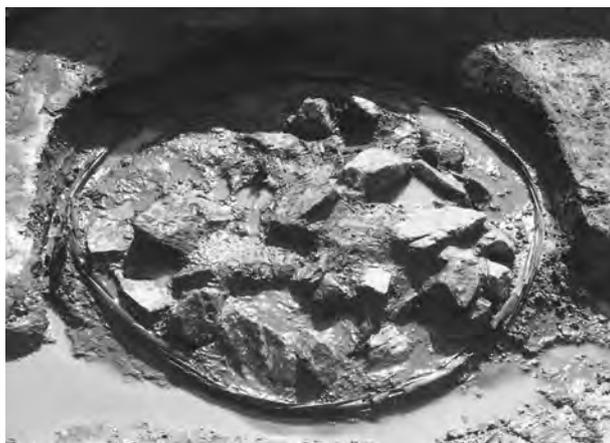
7. SK26 完掘状況



1. SD24 完掘状況



2. SK26 遺物出土状況 肥前系磁器染付芙蓉手花鳥文大皿



3. SE43 遺物出土状況



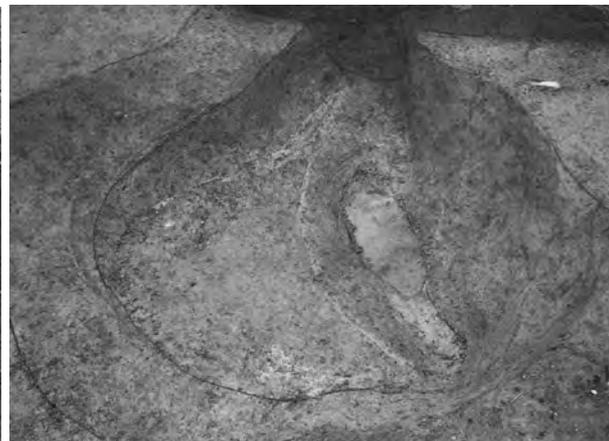
4. SK39 断面



5. SK39 完掘状況



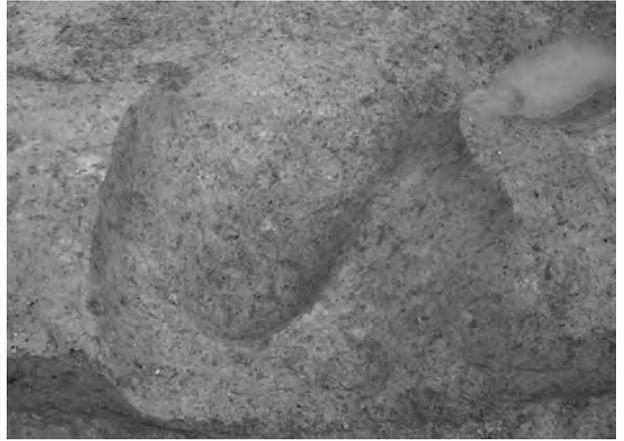
6. SK41 断面



7. SK41 完掘状況



1. SK42 断面



2. SK42 完掘状况



3. SK55 断面



4. SK55 完掘状况



5. SD91 断面



6. SD91 完掘状况



7. SD106 断面



1. SK132 石列出土状況



2. SK132 断面



3. SK107 礫検出状況



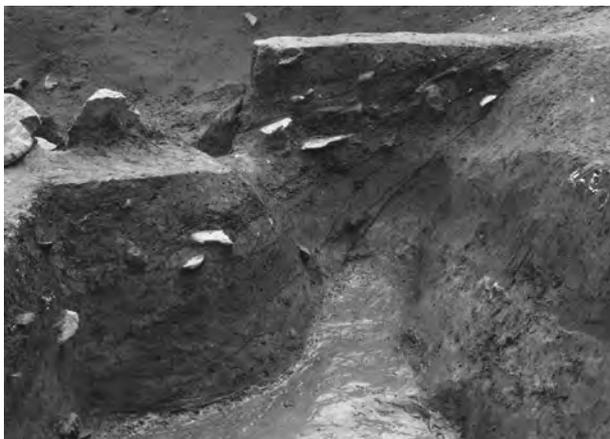
4. SK148 完掘状況



5. SK156 掘り下げ状況



6. SK156 東西断面



7. SK156 南北断面



8. SK156 完掘状況



1. SK164 断面①



2. SK164 断面②



3. SK164 完掘状况



4. SD166 南断面



5. SD166 南完掘状况



6. SK186 断面①



7. SK186 断面②

■第2遺構面 検出遺構 一安富家敷地内の遺構一



1. SK98 断面



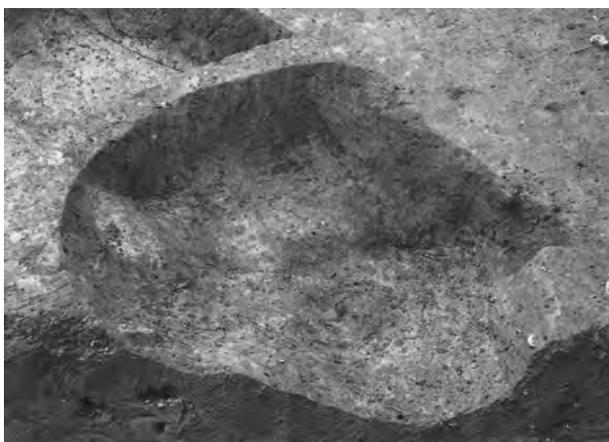
2. SK98 (右) SK110 (中) SK111 (左) 断面



3. SK109 完掘状況



4. SK110 完掘状況



5. SK111 完掘状況



6. SD182 東ベルト断面

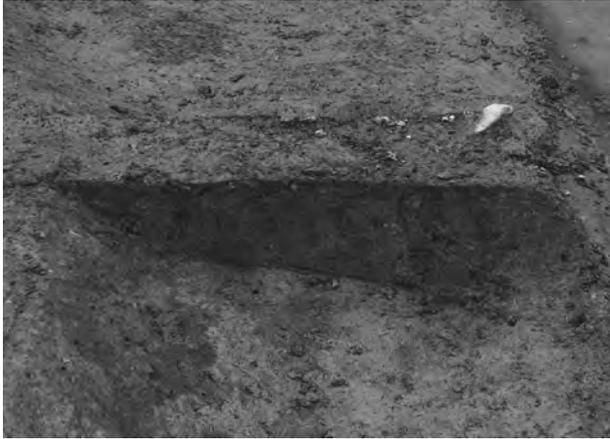


7. SD182 西ベルト断面



8. SD182 完掘状況

■第2遺構面 検出遺構 一太田家敷地内の遺構一



1. SK44 断面



2. SK44 完掘状況



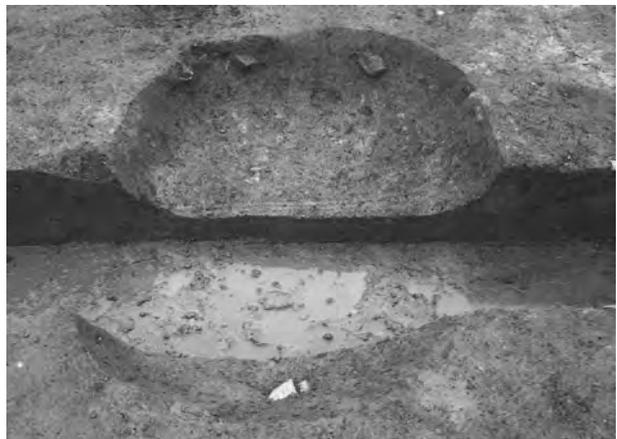
3. SK45 断面



4. SK45 完掘状況



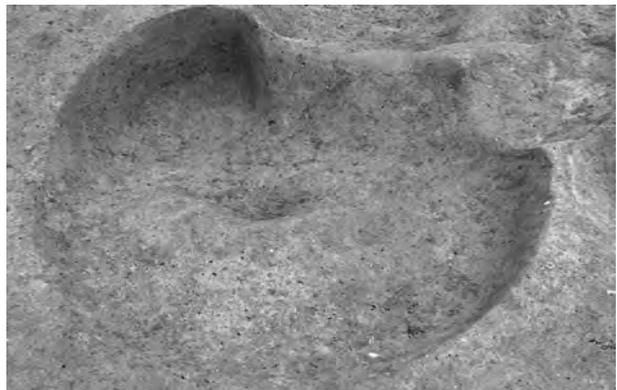
5. SK47 断面



6. SK47 完掘状況



7. SK51 断面



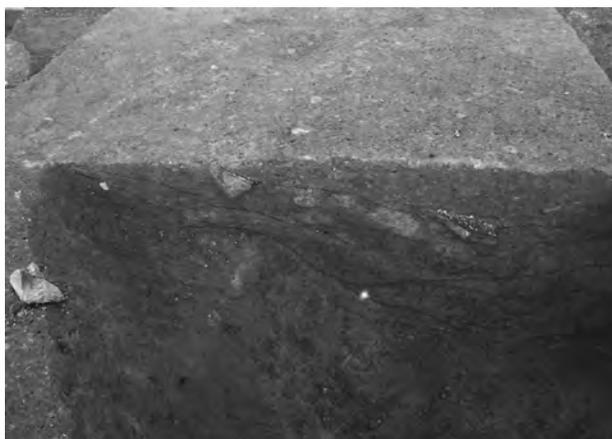
8. SK51 完掘状況



1. SK71 断面



2. SK71 完掘状况



3. SK78 断面①



4. SK78 断面③



5. SK78 断面②



6. SK78 断面④



7. SK78 完掘状况



8. SK79 断面



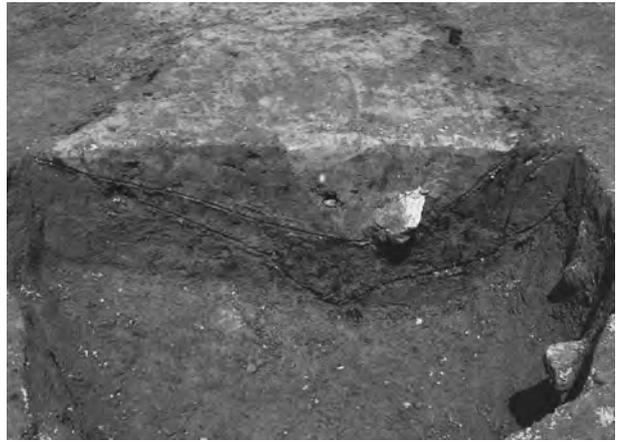
1. SK79 掘り下げ



2. SK79 遺物出土状況



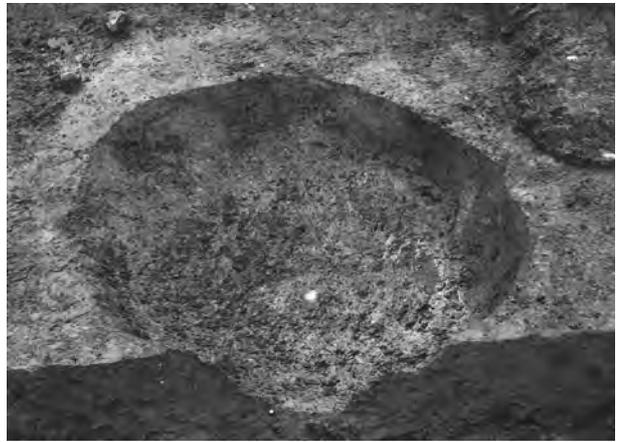
3. SK79 完掘状況



4. SK89 断面



5. SK80 断面



6. SK80 完掘状況



7. SK81 断面①



8. SK81 断面②



1. SK81 断面④



2. SK81 断面③



3. SK83 断面



4. SK83 礫出土状況①



5. SK83 礫出土状況②



6. SK104 断面



7. SD100 断面



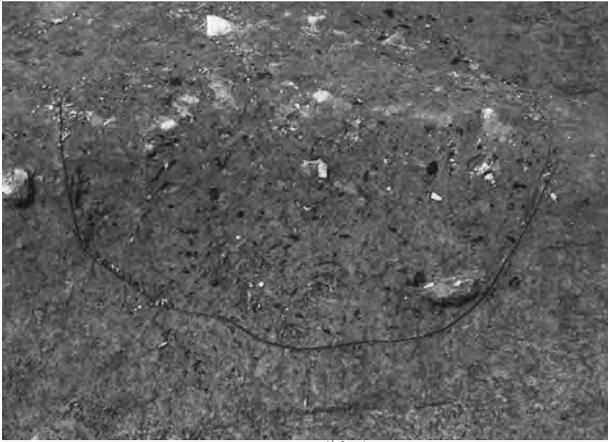
8. SD100 完掘状況



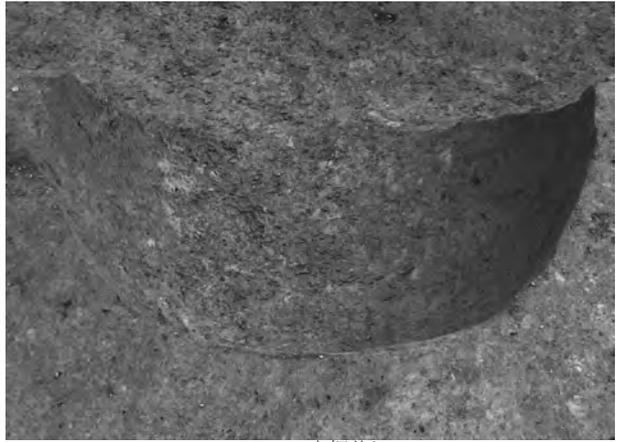
1. SK112 断面



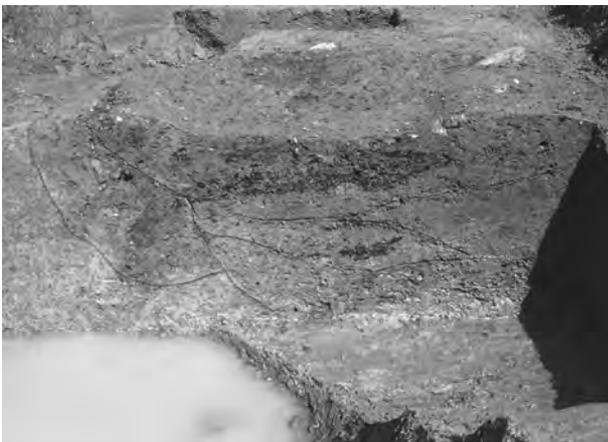
2. SK112 完掘状况



3. SK121 断面



4. SK121 完掘状况



5. SK167 断面



6. SK167 完掘状况



7. SK184 断面

■第1遺構面下層 検出遺構 一池状遺構一



1. 池状遺構（第1遺構面）埋土最上層検出状況



2. 池状遺構（第1遺構面）検出状況



1. 池状遺構（第1遺構面）掘り下げ状況



1. 池状遺構（第1遺構面） 石組み検出状況



2. 池状遺構（第1遺構面） 北側①



3. 池状遺構（第1遺構面） 北側②



4. 池状遺構（第1遺構面） 北側③



5. 池状遺構（第1遺構面） 北側④



1. 池状遺構（第1遺構面）石組み検出状況 北西



2. 池状遺構（第1遺構面）石組み検出状況 西側①



3. 池状遺構（第1遺構面）石組み検出状況 西側②



4. 池状遺構（第1遺構面）石組み検出状況 西側③



5. 池状遺構（第1遺構面）杭列3 南側①



6. 池状遺構（第1遺構面）杭列3 南側②



7. 池状遺構（第1遺構面）土留め杭列1 南側①



8. 池状遺構（第1遺構面）土留め杭列1 南側②



1. 池状遺構（第1遺構面）内中島検出状況



2. 池状遺構（第1遺構面）内中島検出状況 北側



3. 池状遺構（第1遺構面）内中島検出状況 東側



4. 池状遺構（第1遺構面）内中島検出状況 西側



5. 池状遺構（第1遺構面）内中島検出状況 南側



1. 池状遺構（第1遺構面） 東側と石組み溝1



2. 池状遺構（第1遺構面） 杭列 東側



3. 池状遺構（第1遺構面） 内中島・造り出しと石組み溝1



4. 造り出し 北側



5. 造り出し 西側



1. 造り出し 南側



2. 造り出し 南側下部



3. 造り出し北半分上部石組み撤去後 北側



4. 造り出し北半分上部石組み撤去後 西側



5. 造り出し内部掘り下げ粘土貼り状況



6. 造り出し内部掘り下げ粘土貼り状況 断面



7. 造り出し断ち割り南北断面



8. 造り出し断ち割り東西断面



1. 造り出し 北側下部



2. 造り出し最下部杭群検出状況



3. 造り出し北側最下部杭群検出状況①



4. 造り出し北側最下部杭群検出状況②

■第1遺構面下層 検出遺構 一石組み溝群一



5. 池状遺構（第1遺構面）及び石組み溝群検出状況



1. 石組み溝 1・2 検出状況



2. 石組み溝 1 北側石組み検出状況①



3. 石組み溝 1 北側石組み検出状況②



4. 石組み溝 1 北側石組み検出状況③



5. 石組み溝 1 北側石組み検出状況④



6. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑤



7. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑥



1. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑦



2. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑧



3. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑨



4. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑩



5. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑪



6. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑫



7. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑬



8. 石組み溝 1 北側石組み検出状況⑭



9. 石組み溝 1 南側石組み検出状況①



10. 石組み溝 1 南側石組み検出状況②



1. 石組み溝 1 南側石組み検出状況③



2. 石組み溝 1 南側石組み検出状況④



3. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑤



4. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑥



5. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑦



6. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑧



7. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑨



8. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑩



9. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑪



10. 石組み溝 1 南側石組み検出状況⑫



1. 石組み溝 1 断ち割り断面 1



2. 石組み溝 1 断ち割り断面 2



3. 石組み溝 1 断ち割り断面 3



4. 石組み溝 2 北側石組み検出状況①



5. 石組み溝 2 北側石組み検出状況②



6. 石組み溝 2 北側石組み検出状況③



7. 石組み溝 2 北側石組み検出状況④



8. 石組み溝 2 北側石組み検出状況⑤



9. 石組み溝 2 北側石組み検出状況⑥



10. 石組み溝 2 北側石組み検出状況⑦



1. 石組み溝 2 北側石組み検出状況⑧



2. 石組み溝 2 北側石組み検出状況⑨



3. 石組み溝 2 南側石組み検出状況①



4. 石組み溝 2 南側石組み検出状況②



5. 石組み溝 2 南側石組み検出状況③



6. 石組み溝 2 南側石組み検出状況④



7. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑤



8. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑥



9. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑦



10. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑧



1. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑨



2. 石組み溝 2 南側石組み検出状況⑩



3. 石組み溝 2 分岐部分北側石組み検出状況



4. 石組み溝 2 分岐部分南側石組み検出状況



5. 石組み溝 2 断ち割り断面 1



6. 石組み溝 2 断ち割り断面 2



7. 石組み溝 9 (遺物溜り 3) 遺物出土状況



8. 石組み溝 8 (遺物溜り 4) 遺物出土状況



1. 石組み溝 9 (遺物溜り 7・8) 遺物出土状況



2. 石組み溝 8 (遺物溜り 10) 石組み溝 9 (遺物溜り 7～9) 遺物出土状況



3. 石組み溝 9 (遺物溜り 9) 遺物出土状況



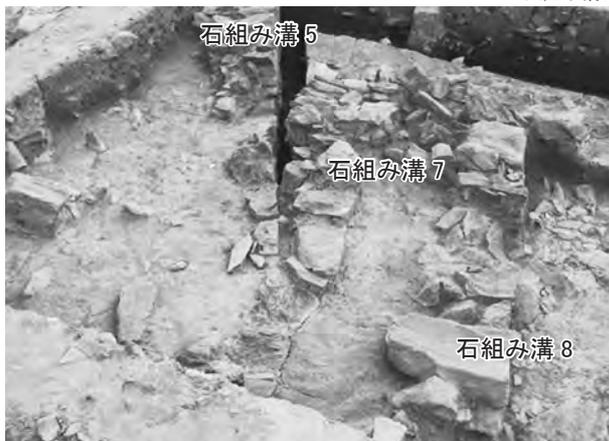
4. 石組み溝 8 (遺物溜り 10) 遺物出土状況



5. 石組み溝 3～9 検出状況



1. 石組み溝 3～9 検出状況



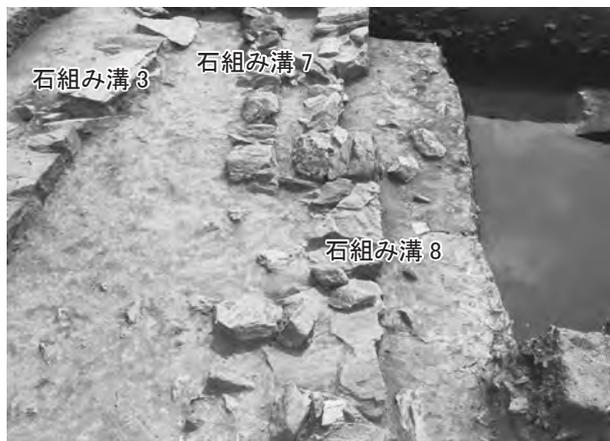
2. 石組み溝 5～8 検出状況



3. 石組み溝 5・7 検出状況



4. 石組み溝 3・7・8 検出状況①



5. 石組み溝 3・7・8 検出状況②



6. 石組み溝 3 検出状況 西から



7. 石組み溝 3 検出状況 南から



1. 石組み溝3 検出状況①



2. 石組み溝3 検出状況②



3. 石組み溝3 検出状況③



4. 石組み溝3 掘り下げ石組み検出状況① (崩落部)



5. 石組み溝3 掘り下げ石組み検出状況② (崩落部)



6. 石組み溝3 掘り下げ石組み検出状況③ (崩落部)



7. 石組み溝3 掘り下げ石組み検出状況④



8. 石組み溝3 掘り下げ石組み検出状況⑤



1. 石組み溝 4 石組み検出状況①



2. 石組み溝 4 石組み検出状況②



3. 石組み溝 4 石組み検出状況 (東側)



4. 石組み溝 4 石組み検出状況 (西側)



5. 石組み溝 5 石組み溝内掘り下げ検出状況①



6. 石組み溝 5 石組み溝内掘り下げ検出状況②



7. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ①



8. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ②



1. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ③



2. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ④



3. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ⑤



4. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ⑥及び播鉢出土状況



5. 石組み溝 5 石組み検出状況 (北側) ⑦



6. 石組み溝 5 石組み検出状況 (南側)



7. 石組み溝 6 石組み検出状況



8. 石組み溝 6 石組み検出状況 (東側)



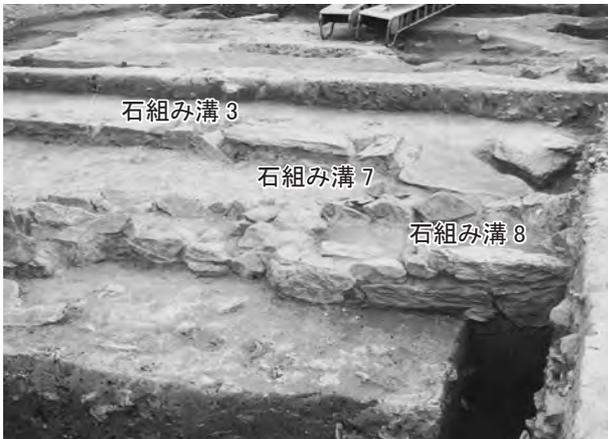
1. 石組み溝 6 石組み検出状況 (西側) ①



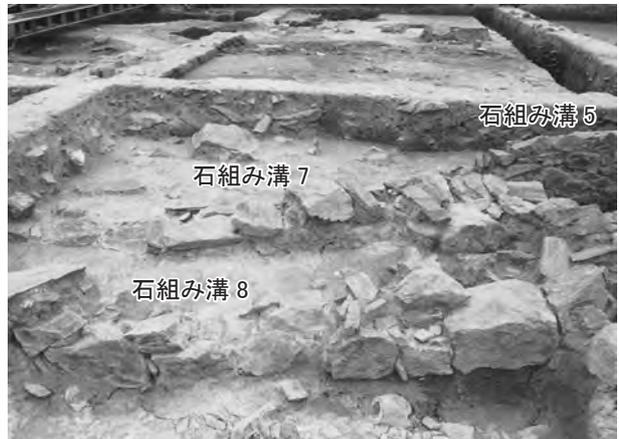
2. 石組み溝 6 石組み検出状況 (西側) ②



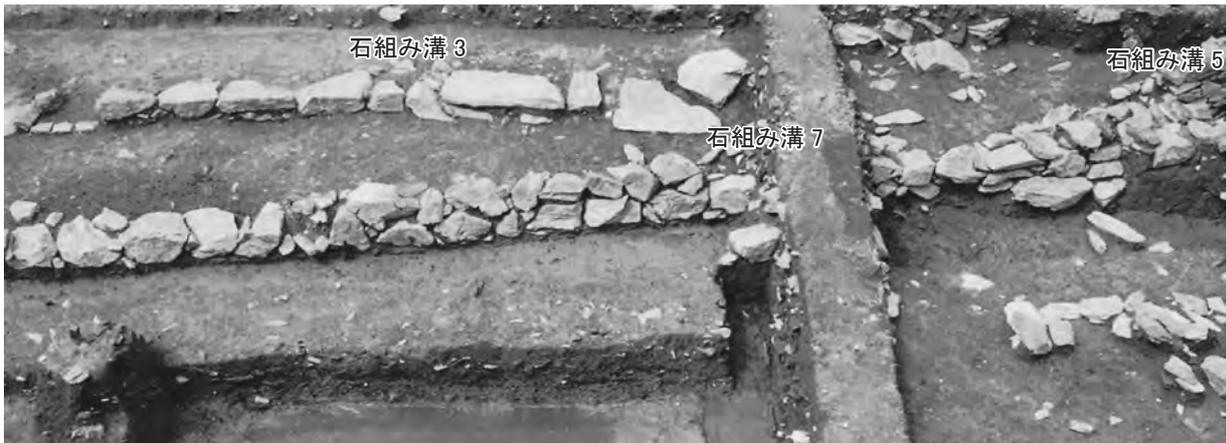
3. 石組み溝 3・5・7・8 検出状況



4. 石組み溝 3・7・8 検出状況



5. 石組み溝 5・7・8 検出状況



1. 石組み溝 7 石組み検出状況①



2. 石組み溝 7 石組み検出状況②



3. 石組み溝 7 石組み検出状況③



4. 石組み溝 7 石組み検出状況④



5. 石組み溝 7 石組み検出状況⑤



6. 石組み溝 8 検出状況



7. 石組み溝 3・7・8 検出状況



1. 石組み溝 8 検出状況 (南側) ①



2. 石組み溝 8 検出状況 (南側) ②



3. 石組み溝 9 石組み検出状況①



4. 石組み溝 9 石組み検出状況②



5. 石組み溝 9 石組み検出状況③



6. 石組み溝 9 石組み検出状況④

■第1遺構面下層 検出遺構 一蜂須賀家敷地内の遺構一



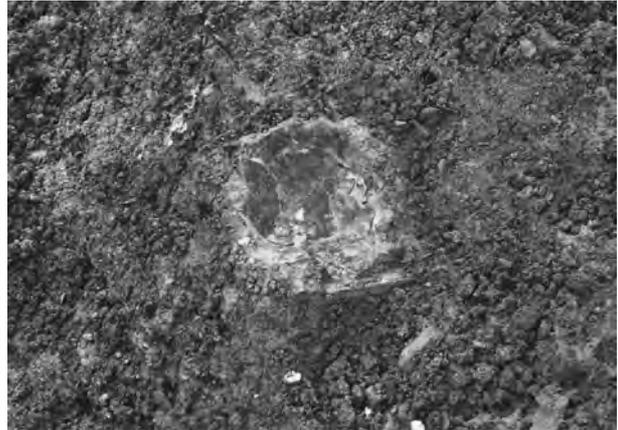
7. SX02 検出状況



8. SK10 検出状況



1. SK13 ~ 16・19 完掘状況



2. 遺物溜り 17 漆製品出土状況



3. 遺物溜り 17 木製品出土状況①



4. 遺物溜り 17 木製品出土状況②

■第1遺構面下層 検出遺構 一片山家敷地内の遺構■



5. SE25 断面



6. SE25 掘り下げ状況



7. SK28 断面



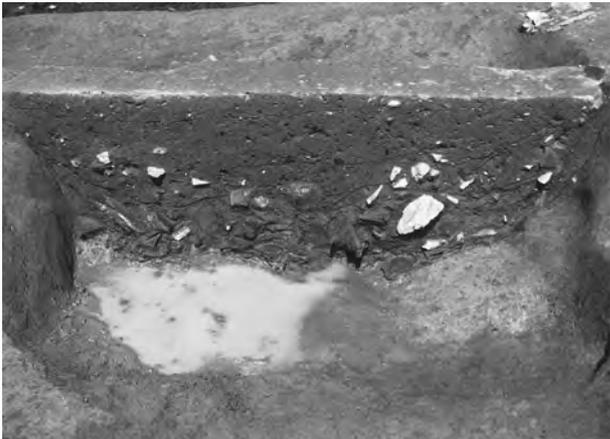
8. SK29 断面



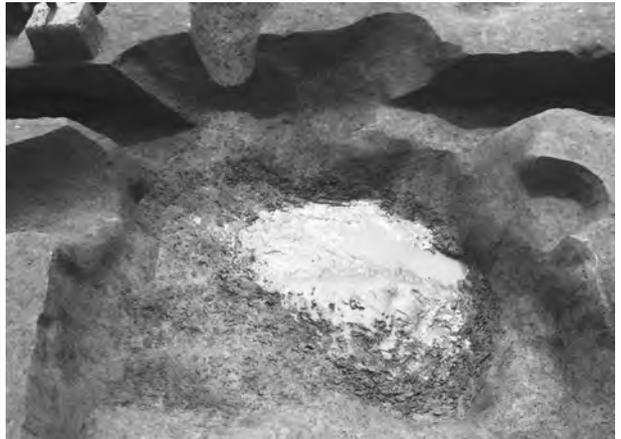
1. SK60 断面



2. SK60 完掘状况



3. SK73 断面



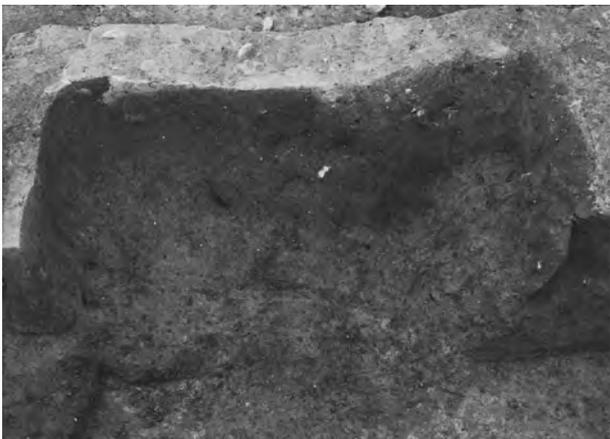
4. SK73 完掘状况



5. SK116 断面①



6. SK116 断面②



7. SK116 完掘状况



8. SK134 断面



1. SK135 断面



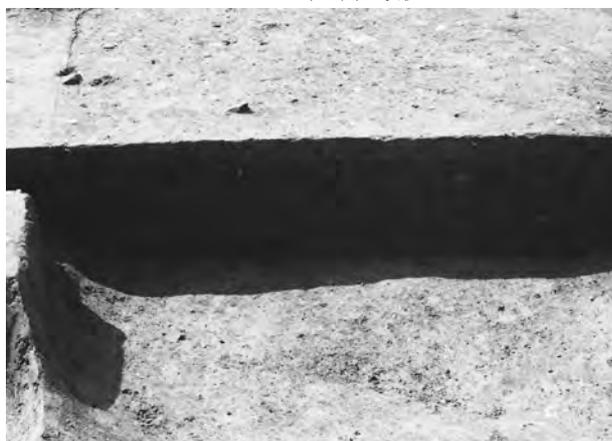
2. SK135 完掘状況



3. SK135 土師皿出土状況



4. SK135 漆製品出土状況



5. SK137 断面



6. SK137 完掘状況



7. SD22 遺物出土状況

■第1遺構面下層 検出遺構 一黒部家敷地内の遺構一



1. 遺物溜り16 遺物出土状況

■第1遺構面上層 検出遺構



2. 遺物溜り1 遺物出土状況



3. SP30 ~ 38 柱穴列 完掘状況

第 2 遺構面

■片山家屋敷地内 SK132



■片山家屋敷地内 SK156



■片山家屋敷地内 SD166



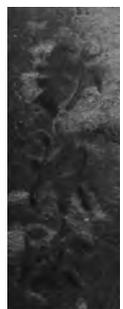
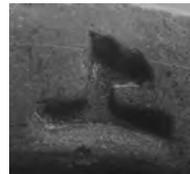
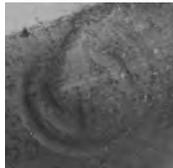
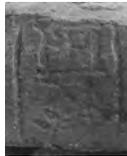
第 1 遺構面下層

■池状遺構 (第 1 遺構面) 埋土最上層



第 1 遺構面下層

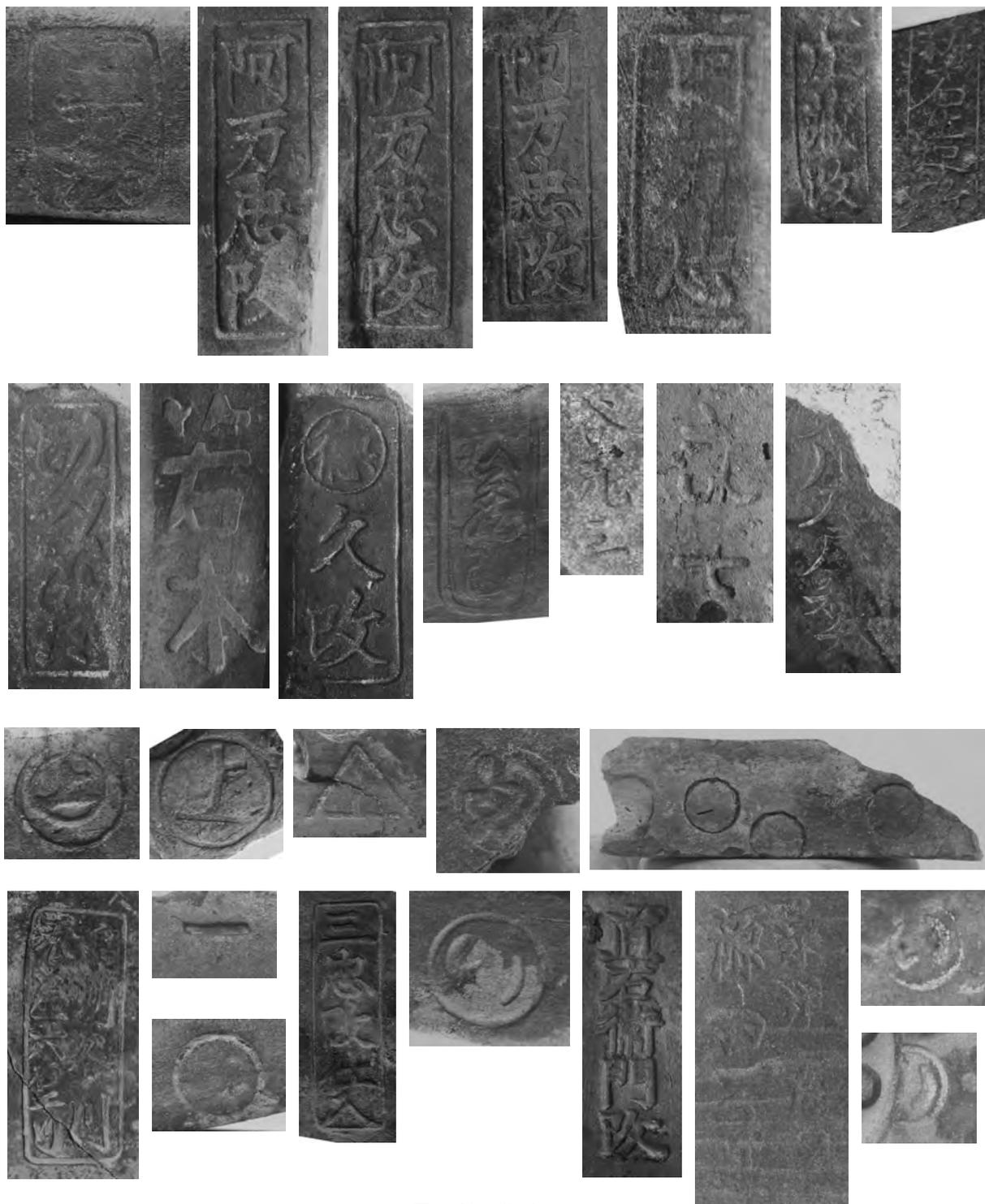
■池状遺構 (第 1 遺構面)



瓦 刻印部分 (1)

第1遺構面下層

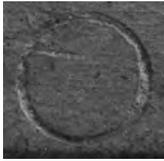
■池状遺構(第1遺構面)



瓦 刻印部分 (2)

第1遺構面下層

■石組み溝 5



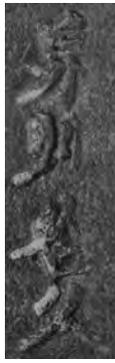
■石組み溝 8



■石組み溝 9



■蜂須賀家屋敷地内 SK16

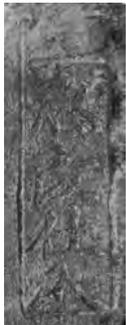


■蜂須賀家屋敷地内 遺物溜り 17



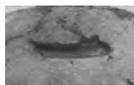
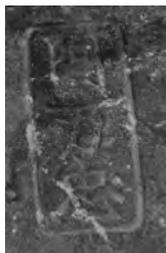
第1遺構面上層

■遺物溜り 1



包含層・その他

■包含層



■重機掘削後掘り下げ

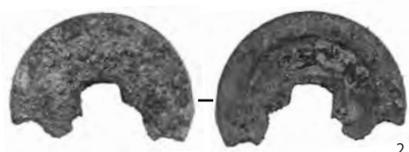


■攪乱





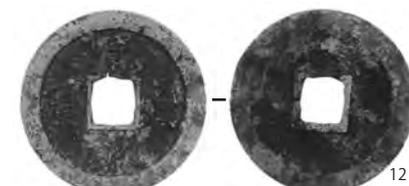
第2遺構面 屋敷境 SD48 出土



池状遺構（第2・第3遺構面）出土



第2遺構面 片山家屋敷地内 SK26 出土



第2遺構面 片山家屋敷地内 SD106 出土

第2遺構面 片山家屋敷地内 SK156 出土



第2遺構面 片山家屋敷地内 SD157 出土



第2遺構面 安富家屋敷地内 SK98 出土



第2遺構面 安富家屋敷地内 SD182 出土





18

第2遺構面 太田家屋敷地内 SK44 出土



19

第2遺構面 太田家屋敷地内 SK179 出土



20



21



22



23



24



25

第1遺構面下層 池状遺構(第1遺構面)埋土最上層 出土



26



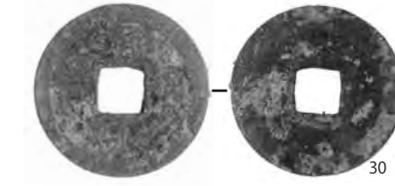
27



28



29



30

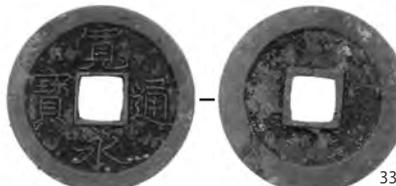


31

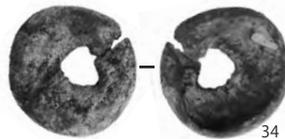


32

第1遺構面下層 池状遺構(第1遺構面) 出土



33



34



35



36



37

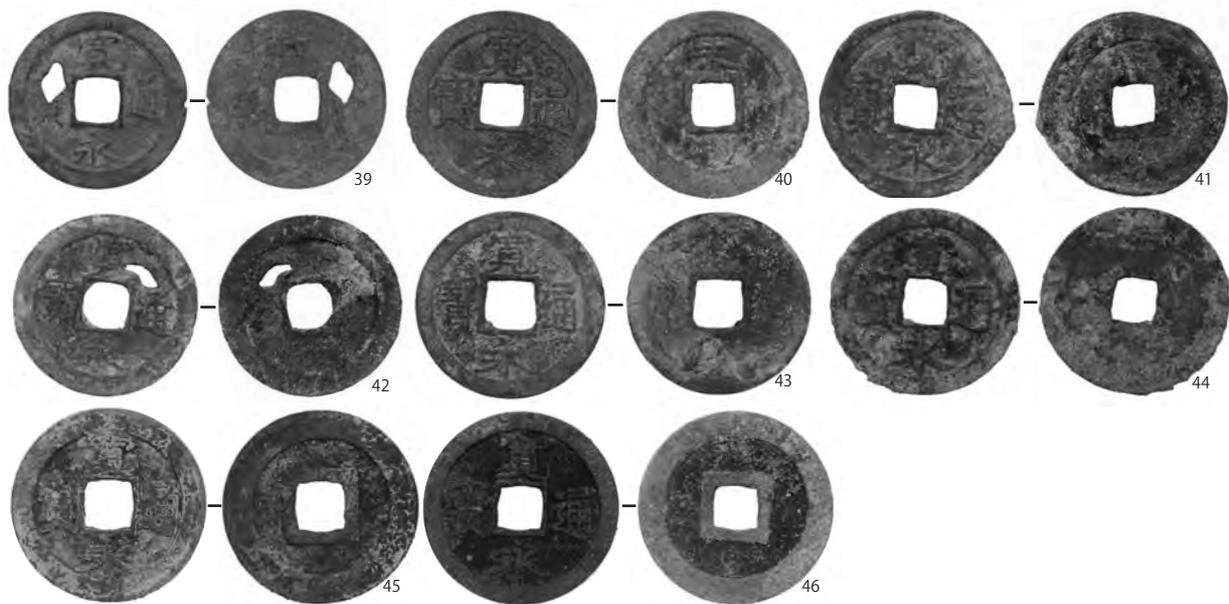


38

第1遺構面下層 石組み溝3 出土

銭貨(2) (縮尺: 1/1)





第1遺構面下層 石組み溝3 出土



第1遺構面下層 石組み溝5 出土



第1遺構面下層 片山家屋敷地内 SE25 出土



第1遺構面下層 片山家屋敷地内 SK73 出土



51



52

53



54



55

56



57

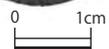
58

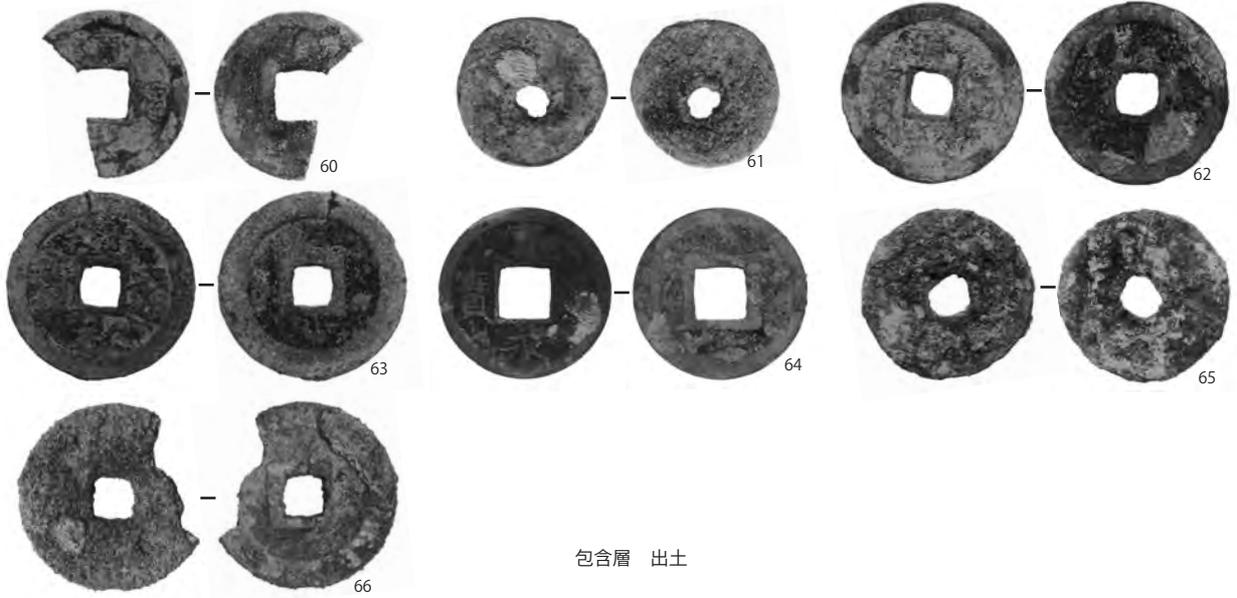


59

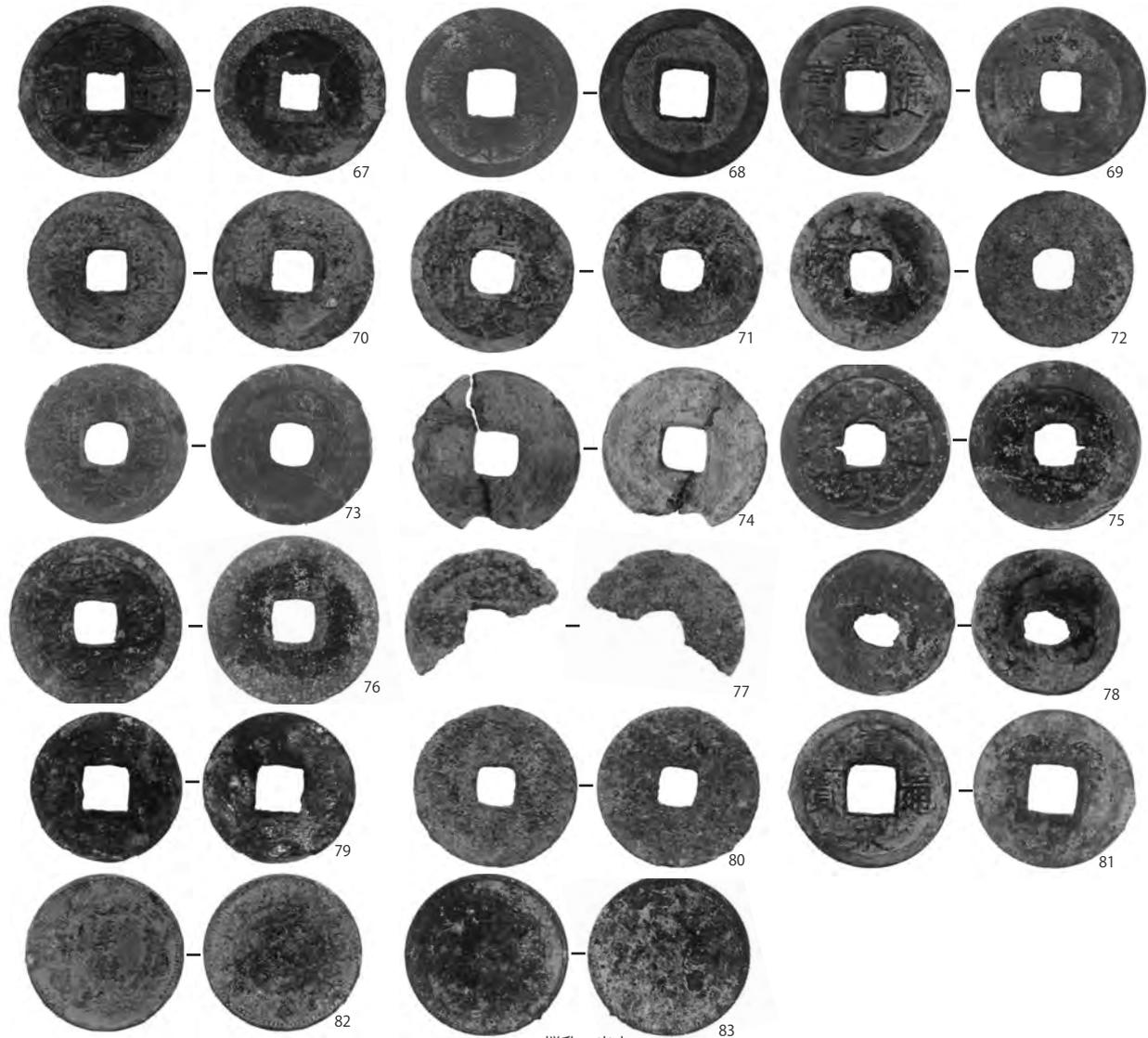
包含層 出土

銭貨(3) (縮尺: 1/1)





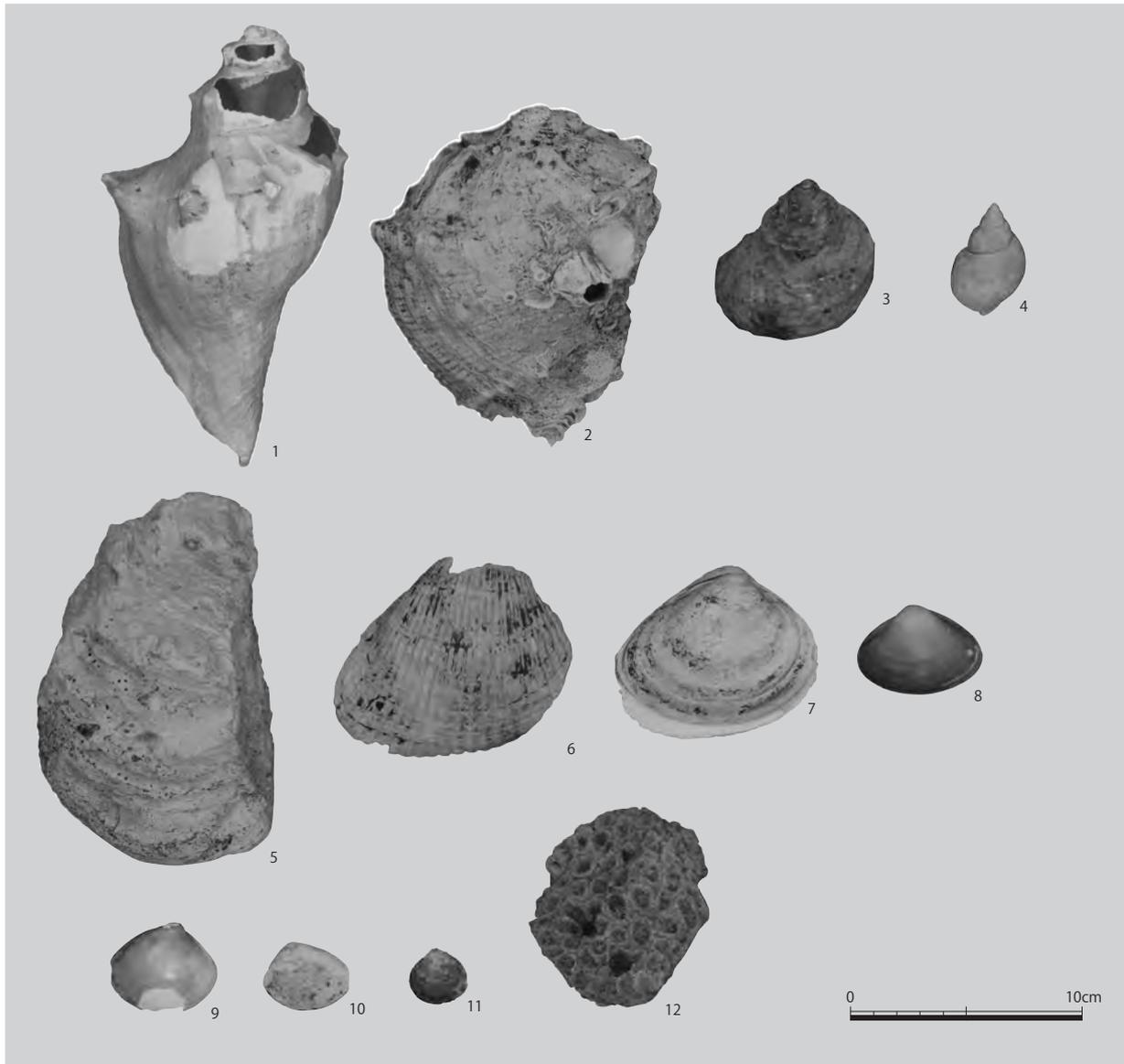
包含層 出土



攪乱 出土

錢貨 (4) (縮尺: 1/1)





貝類 (縮尺: 1/3)

1. テングニシ 2. アカニシ 3. サザエ 4. パイガイ 5. マガキ 6. アカガイ 7. チョウセンハマグリ 8. バカガイ
9. ハマグリ (右) 10. ハマグリ (左) 11. シジミ 12. サンゴ



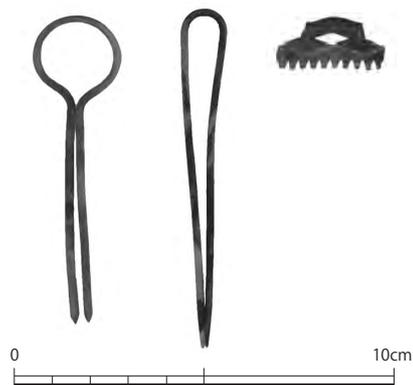
種子類 (縮尺: 1/1)

1. モモ 2. 不明 3. ヒョウタン 4. 不明 5. ウメ 6. 不明 7. ウリ科 8. マツ属 9,10. オニグルミ

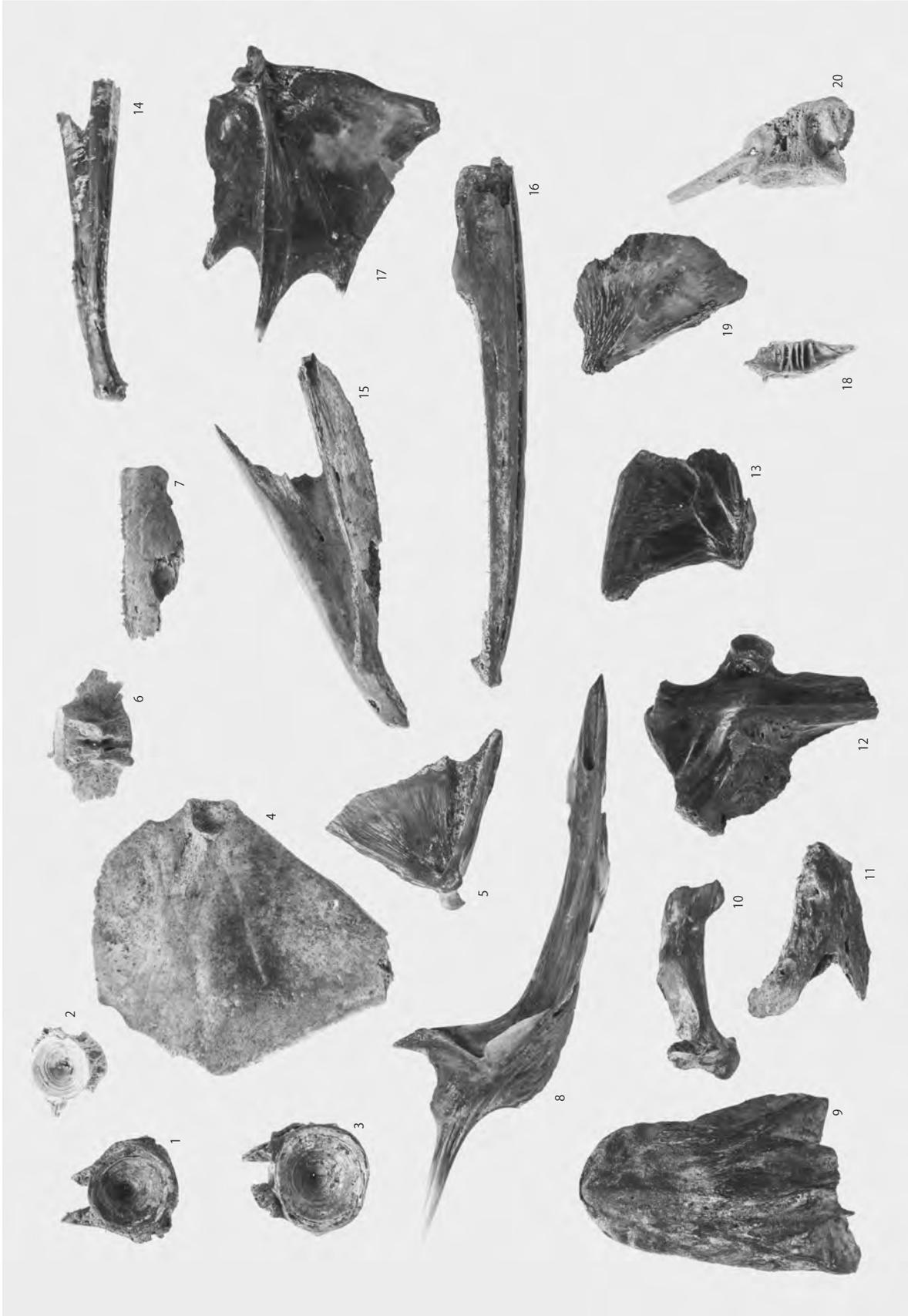


植物繊維製品 (縮尺: 1/3)

1~4. シュロ帯 5~8. シュロ縄 9. ササラ



不明製品 (縮尺: 1/2)



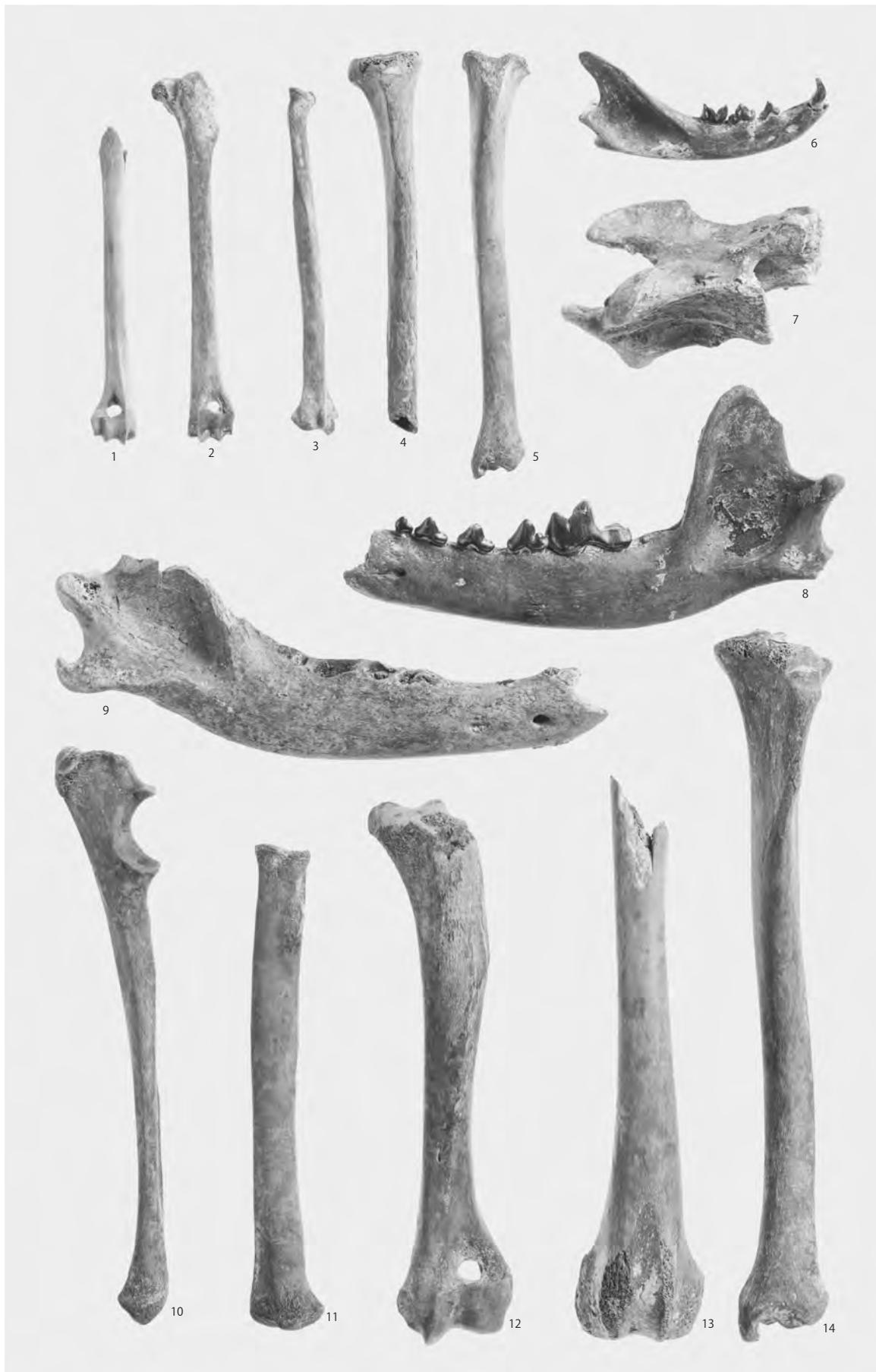
魚類

1, 2. タラ科 (椎骨) 3~5. スズキ (3. 椎骨4. 主腮蓋骨5. 方骨) 6, 7. カツオ (6. 椎骨7. 齒骨) 8. ミシマオコゼ科 (線鱗骨) 9~12. マダイ (9. 前頭骨10. 主上顎骨11. 齒骨12. 舌顎骨) 13. キタイ (上後頭骨) 14. コチ科 (齒骨) 15, 16. ハモ属 (15. 前上顎骨-篩骨-鋤骨板16. 齒骨) 17. ハタ科 (主腮蓋骨) 18. カレイ科 (椎骨) 19. ポラ科 (主腮蓋骨) 20. ヒラメ (椎骨)



鳥類

1. チドリ目 (尺骨) 2, 3. ツル科 (2. 指骨 3. 尺骨) 4, 5. フクロウ科 (4. 手根中手骨 5. 胸骨) 6~10. カモ科 (6, 7. 尺骨 8. 桡骨 9. 上腕骨 10. 手根中手骨)
 11. カラス属 (足根中足骨) 12, 13. カイツブリ科 (12. 上腕骨 13. 尺骨) 14, 15. キジ科 (14. 足根中足骨 15. 大腕骨) 16~18. ニワトリ (16. 大腕骨 17, 18. 足根中足骨)
 19, 20. コウノトリ科 (19. 脛足根骨 20. 足根中足骨)



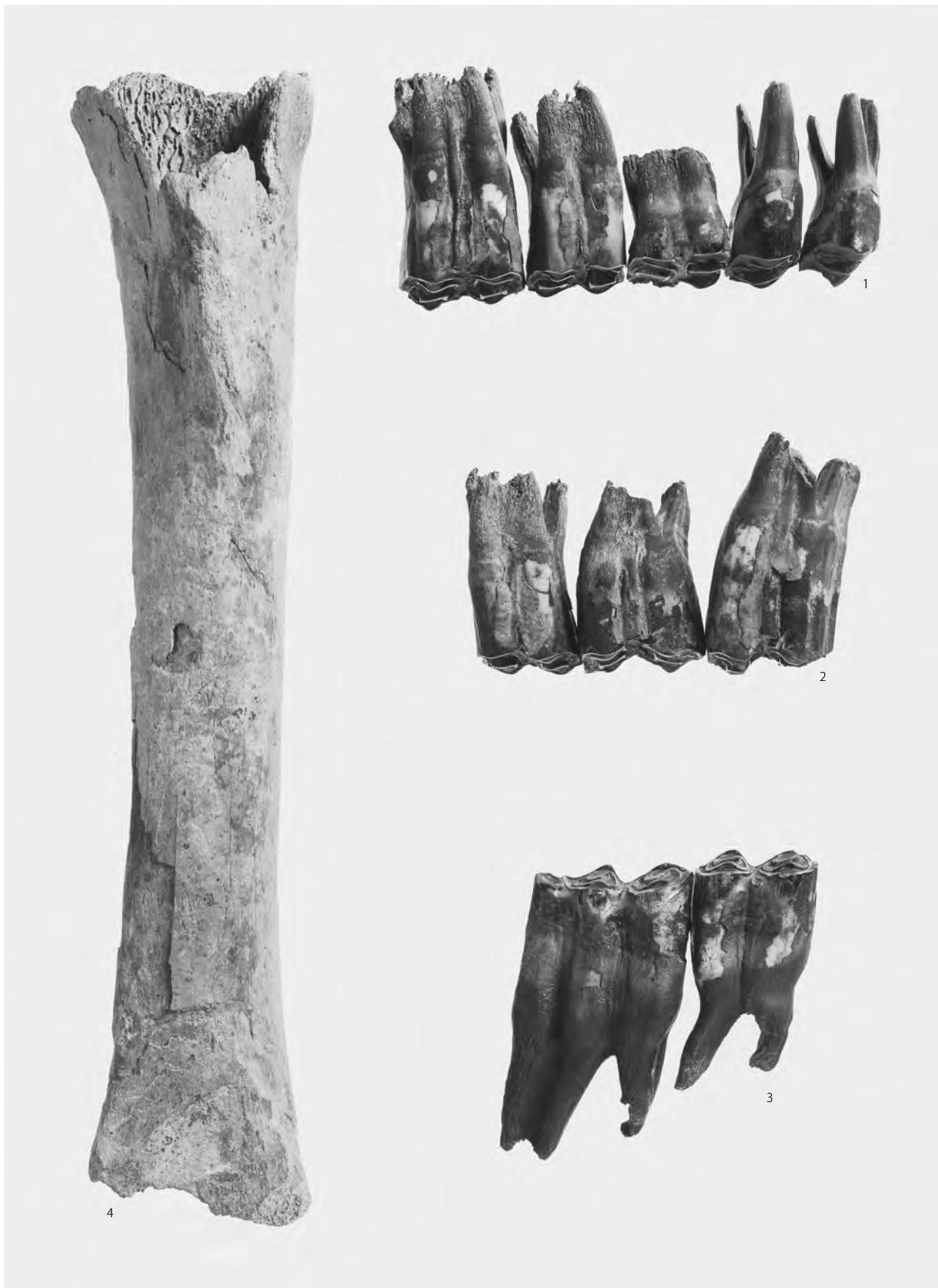
小型哺乳類

1, 2. ノウサギ(上腕骨) 3~6. ネコ (3. 橈骨4, 5. 脛骨6. 下顎骨) 7~14イヌ (7. 軸椎8, 9. 下顎骨10. 尺骨11. 橈骨12. 上腕骨13. 大腿骨14. 脛骨)



ニホンジカ

1. 肩甲骨 2. 上腕骨 3. 橈骨 4. 尺骨 5. 中手骨 6. 指骨 7. 大腿骨 8. 脛骨 9. 上腕骨 10. 尺骨 11. 橈骨 12. 中手骨 13. 椎骨



ウシ・ウマ

1～3. ウシ (1, 2. 上顎白歯 3. 下顎白歯) 4. ウマ (脛骨)



骨角製品

報告書抄録

ふりがな	しんくらいせき							
書名	新蔵遺跡							
副書名	地域・国際交流プラザ地点							
巻次								
シリーズ名	徳島大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第4巻							
編著者名	端野晋平・中原 計・安山かおり・丸山真史							
編集機関	徳島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒770-8503 徳島市蔵本町2丁目50-1 TEL 088 (633) 7236							
発行年月日	2015年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんくらいせき 新蔵遺跡	とくしまし 徳島市 しんくらいせき 新蔵町 2丁目	36201		34° 4' 11"	134° 33' 35"	20040421 ～ 20041108	1000 m ²	徳島大学地域・国際交流プラザ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
新蔵遺跡	近世城下町	江戸時代	池状遺構、石組み溝、溝、井戸、遺物溜り、土坑	陶磁器、土器、土製品、金属製品、ガラス製品、瓦、石製品、木・繊維製品、動植物遺存体			17世紀中葉から19世紀にかけての上級武家屋敷跡。4～5つの屋敷地を区切る境界溝を検出。	

2015年3月31日発行

徳島大学埋蔵文化財調査報告書 第4巻

新蔵遺跡

—地域・国際交流プラザ地点—

第Ⅱ分冊 一本文2・図版—

編集・発行 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室
徳島市蔵本町2丁目50-1 (088)633-7236

印刷 徳島印刷センター
徳島市問屋町165 (088)625-0135

ISBN 978-4-908223-00-6

